渡辺澄夫編

豊後国荘園公領史料集成七(上)

豊後国 大野荘・三重郷 野津院・井田郷 史料

別府大学史料叢書第一期

刊行 別府大学付属図書館

はしがき

第七巻大野・直入両郡も、史料の関係上（上）（下）二冊編成となった。（上）には大野郡大野荘・三重郷・野津院・井田郷の四所、（下）に大野郡緒方荘と直入郡諸荘郷を収録することとした。すっきりした郡別編成を採り得なかったことは遺憾であるが、史料偏在の現実を如何ともすることができなかった。

本書所収の「大野荘史料」は、かつて『九州荘園史料叢書』の一巻として公刊したものを土台とし（昭和三十七年、孔版）、これを増補した『荘園史料叢書』所収の『豊後国大野荘史料』（昭和五十四年、吉川弘文館刊）に、この度更に訂正増補を加えたものである。新版は史料総計三九八点で、新たに七十七点を追加したことになる。

三重郷・野津院・井田郷の三所の編年史料は、これまで企画されたものはなく、本書が嚆矢である。三者ともに国衙領であり、後れている国衙領研究の一助となるものと期待する。

本史料集刊行に当っても、各方面から多大の支援を辱うした。まず『豊後国大野荘史料』の出版社吉川弘文館から、本書刊行に対する寛大な配慮を得たことを特記し、謝意を表したい。口絵写真の「尼深妙惣配分状」（「志賀文書」）は、東京大学史料編纂所の許可を得て、同文書影写本の写真を掲載させて頂いた。また「神角寺金剛力士像」は、県立宇佐風土記丘歴史民俗資料館のカラーフィルムを貸与された。また金石文については、引き続き別府大学事務官白井昭一氏の示教を得、なお校正についても協力を与えられた。その他史料蒐集についても、三重町芦刈政治氏・朝地町伊藤酉美氏等の援助をえた。以上諸機関並びに諸氏に対して、深甚の謝意を表する。

最後ながら、本書刊行について種々の迷惑をかけつつある別府大学附属図書館、並びに佐伯印刷株式会社に対して、衷心から御礼を申上げたい。

平成四年五月三十日

編者誌

一　本巻は『豊後国荘園公領史料集成』の第七巻（上）として、大野郡「大野荘史料」三九八点（うち付録六・補遺一三）、「三重郷史料」一九四点（うち付録四・補遺一）、「野津院史料」一六八点（うち付録二・補遺一）、「井田郷史料」一三〇点（うち付録一）、総計八九〇点を収めた。

一　史料蒐集に当たっては、文書のみならず、記録・編著・系図・金石文等、参考しうるものは可能な限り網羅することにつとめた。『大分県史料』所載の文書は、原本校合を期したが、果たしえなかったものがある。

一　史料蒐集は、当該荘公の地名中心を原則としたが、該地域を本領とした地頭・御家人・国人衆等については、人名中心の編集法をも併用し、一層の完全を期した。

一　同一史料で二荘郷以上に関連あるものの内、必要と認めたもの以外は、初出（又は最も関係の深い）荘郷に本文を掲げ、他は史料標題と参照注を付し、本文を省略した。ただし重要史料は、関係部分のみを摘記した所もある。

一　一国全体に関する長文史料は、初出（又は最も関係の深い）荘郷に当該郡全体を摘出し、以下の荘郷には標題のみを掲げ、参照注を付した。全文は全巻末に「豊後総国史料」（仮称）を立て、これを収載するようにしたい。

一　一国平均役等で、特定荘郷に関するものは当該荘郷に掲げ、なお荘郷特定なき史料とともに、「豊後総国史料」に再録する予定。

一　頁数節減のため、長文史料は二段組とし、とくに検地帳類は活字を落とし小字とした。編者所蔵の臼杵藩領諸

荘郷検地帳（七六冊、県指定有形文化財）のうち、慶長二年（一五九七）検地帳は、尨大な冊数のため、標題・村名・村位・冊数等を掲げ、本文は遺憾ながら省略せざるをえなかった。

一　文書名は、原則として正文・案文・写等を区別したが、記録・編著によるものは、その区別を示さなかった。

一　文書名の下に、史料名・出典等を注記し、原本・現物の場合は所在地・所蔵者等を記入した。

一　頭注として文書内容の梗概、および重要な地名・人名等を摘記した。ただし二段組とした長文史料及び検地帳類については、これを省略せざるをえなかった。

一　各荘郷ごとに、付録として大字・小字表を加え、地名にはすべて読み仮名（及び現地読み）を付した。ただし荘園時代の厳密な境域画定は今後の課題であり、あくまで一応の参考として掲げたにすぎない。

一　原文には、句点（、）・並列点（・）を付し、異字・俗字・変体仮名等は、原則として正字・現行仮名に改めた。

一　巻末に、当該荘園の所在地及び関係地名等を示す地形図（五万分一、臼杵・佐伯・犬飼・三重町・熊田・久住・竹田・三田井）を付した。建設省国土地理院の恩恵を深謝する。

一　編者の用いた記号は、左の通りである。

□　欠字。□内文字は金石文の判読可能なもの。

〰　墨抹で、原字判読可能なものの左側に付した。

▨　墨抹で、原字不明のもの。

「　」　異筆・追筆・金石文の所在部位等を示す。

└　薄冊の丁折目、丁替り目。

墨合点。
朱合点。朱書。
糊放れ・礼紙等の別紙。
首欠。
尾欠。行間にあるものは中間欠。
欠部・誤記・誤脱等に対する編者の案、年月・地名・人名の傍注等。
異本・他本との校異。
文字の誤記・誤脱等。
原本の判読に疑問のあるもの。
編者の説明。

以上

目次

大野莊史料

一　豐後國風土記……（類聚三代格）……一
二　天長三年十一月三日　太政官符……一
三　長德參年十二月十三日　倭名類聚抄……三
四　（文治年中）　藤原賴房寄進狀寫……（上津八幡社神庫古書古記留所収文書）……三
五　宇佐宮假殿地判指圖……（宇佐八幡宮藏）……四
六　建久貳年三月十一日　深山八幡社神領坪付境注文案……（上津八幡社神庫古書古記留所収文書）……七
七　建久二年三月十一日　深山八幡社神領田畠坪付注文案……（同上）……九
八　大神系圖……（筑後太田吉藏本）……一〇
九　豐後大神氏系圖……（都甲文書）……一二
一〇　（建久八年カ）　豐後國圖田帳案斷簡……（到津文書）……一三
一一　承元二年戊辰潤四月十日　源石壹志讓狀案……（石志文書）……一三
一二　吾妻鏡……一三
一三　貞應貳年七月廿五日　備後法眼幸秀去文……（志賀文書）……一四
一四　貞應貳年十一月二日　藤原大友能直讓狀……（同上）……一四
一五　貞應貳年十一月二日　藤原大友能直讓狀案……（同上）……一五
一六　吾妻鏡……一六

一七　大友田原系圖……（入江文書）……一六
一八　貞應　三年四月廿四日　關東下知狀案……（志賀文書）……一七
一九　延應　貳年四月六日　尼深妙惣配分狀……（同　上）……一七
二〇　延應　貳年四月六日　尼深妙讓狀……（同　上）……一九
二一　延應　貳年四月六日　大野莊志賀村名々幷上家分田畠在家等中分注文……（同　上）……一九
二二　寛元　二年十二月四日　將軍藤原賴嗣下文案……（同　上）……二一
二三　建長　六年六月卅日　尼深妙置文……（同　上）……二三
二四　建長　七年六月廿三日　尼深妙書狀……（同　上）……二三
二五　正嘉　參年正月十五日　志賀能鄕讓狀……（同　上）……二三
二六　弘長　元年十一月廿日　上津八幡社神寶造替注文案……（上津八幡社文書）……二四
二七　弘長　貳年八月三日　沙彌明眞（大友能基）・藤原（大野）基直連署書狀……（志賀文書）……二五
二八　弘長　貳年八月六日　尼深妙讓狀……（同　上）……二五
二九　弘長　貳年八月廿九日　尼深妙證狀案……（同　上）……二六
三〇　弘長　貳年十一月八日　尼深妙置文……（同　上）……二六
三一　弘長　三年七月二日　志賀泰朝・尼深妙連署讓狀案……（同　上）……二七
三二　弘長　三年正月廿七日　尼深妙置文……（同　上）……二八
三三　文永　元年三月廿二日　將軍宗尊親王家政所下文……（同　上）……二八
三四　（文永元年）卯月十六日　明眞（大友能基）書狀……（同　上）……二九
三五　文永　二年二月十三日　尼深妙置文……（同　上）……三〇
三六　文永　貳年參月廿三日　尼深妙下文……（同　上）……三〇
三七　文永　八年三月五日　僧禪季契狀……（同　上）……三一
三八　文永　十二年五月十二日　豐後守護大友賴泰書下案……（同　上）……三一
三九　建治　二年閏三月十五日　僧禪季申狀案……（同　上）……三三

四 建治 二年四月 日 志賀泰朝陳狀案……（同 上）……三
四一 弘安 貳年卯月卅日 藤原（詫磨）長秀讓狀案……（詫摩文書）……四
四二 弘安 六年十二月十九日 采智房請文……（志賀文書）……三
四三 弘安 七年二月廿五日 成重請文……（同 上）……三
四四 弘安 捌年玖月 日 大友系圖……（野津本）……三
四五 弘安 八年九月晦日 豐後國圖田帳案……（平林本）……三
四六 弘安 十一年三月廿日 豐後國大田文案……（内閣文庫本）……四
四七 弘安 十一年四月廿五日 豐後守護大友親時書下……（志賀文書）……四
四八 弘安 十一月十三日 詫磨寂尊（時秀）讓狀案……（詫摩文書）……四
四九 五月廿二日 光忍書狀……（志賀文書）……四
五〇 田中後家書狀……（同 上）……四
五一 正應 五年五月十日 關東御教書……（同 上）……四
五二 正應 五年閏六月廿二日 六波羅施行狀……（同 上）……四
五三 （永仁二年カ） 十一月五日 藤原爲雄奉綸旨案……（天理図書館蔵三聖寺文書）……四
五四 永仁 五年七月廿二日 關東評定事書幷御教書案……（東寺百合文書）……四
五五 永仁 五年八月五日 僧禪季讓狀……（志賀文書）……四
五六 永仁 五年十月廿一日 植田朝綱代植田成綱請文……（同 上）……四
五七 正安 元年五月十日 志賀泰朝愁狀案……（同 上）……四
五八 正安 元年六月十一日 豐後守護大友賴泰書下……（同 上）……五
五九 正安 二年三月廿五日 大友貞親（カ）書下……（同 上）……五
六〇 正安 三年正月廿四日 藤原（詫磨）秀治和與狀……（同 上）……五
六一 正安 三年正月廿四日 藤原（詫磨）秀治契狀……（同 上）……五
六二 正安 參年十二月廿日 志賀泰朝讓狀……（同 上）……五

正安　参年十二月廿日　志賀阿法（泰朝）譲状……（同　上）……一四
正安　参年十二月廿日　志賀阿法（泰朝）譲状案……（同　上）……一五
正安　四年正月十六日　神角寺金剛力士像胎内木札銘……（神角寺蔵）……一五
正安　四年正月十六日　某置文案……（志賀文書）……一七
正安　四年八月十八日　鎮西（北條政顕）下知状……（同　上）……一八
嘉元　四季五月廿日　虎王丸（志賀朝郷）契状……（同　上）……一九
徳治　三年三月廿八日　大野荘中村年貢等結解状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……一九
延慶　貳年正月廿日　藤原（詫磨）貞重譲状案……（詫摩文書）……二三
延慶　三年十月六日　鎮西（北條政顕）下知状案……（志賀文書）……二三
延慶　三年十二月廿三日　沙彌願誓請文……（同　上）……二五
正和　元年十二月十六日　鎮西（北條政顕）下知状……（同　上）……二六
正和　三年五月廿八日　大野荘雑掌性法和與状……（同　上）……二六
正和　二月十六日　沙彌慈妙・雑掌性法・田所明源等連署書状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……二九
正和　三年六月八日　大野荘雑掌性法書下……（志賀文書）……三〇
正和　五年正月廿九日　大野荘志賀村南方中分惣堺越田堺注文……（同　上）……三〇
正和　五年正月［廿九日］　大野荘志賀村南方中分惣堺越田堺注文……（同　上）……三一
正和　五年二月二日　藤原又靍丸（一萬田宣元）和與状……（同　上）……三四
正和　六年正月十七日　大野荘志賀村中分屋敷注文案……（同　上）……三五
文保　二年八月廿六日　藤原又靍丸（一萬田宣元）起請文……（同　上）……三六
元應　二年三月廿四日　鎮西（北條随時）召文御教書……（同　上）……三六
元亨　元年十一月五日　藤原（志賀）貞泰譲状……（同　上）……三七
元亨　二年六月廿六日　鎮西（北條英時）御教書案……（同　上）……三八

公宝　元　亨　二年　六　月廿六日　鎮西北條英時御教書案……（同　上）……九八
公六　元　亨　二年　七　月　日　志賀貞泰重申状案……（同　上）……九九
公七　元　亨　二年　七　月　日　志賀貞泰重申状案……（同　上）……九九
公八　元　亨　二年　七　月廿七日　鎮西北條英時御教書案……（同　上）……一〇〇
公九　元　亨　貳年　八　月　六　日　詫磨直政請文……（同　上）……一〇〇
公〇　元　亨　二季十一月廿四日　志賀貞朝請文……（同　上）……一〇一
公一　元　亨　二年十一月廿六日　牧念照請文……（同　上）……一〇一
公三　元　亨　三　五月二十八日　西園寺實衡（カ）御教書……（田中繁三文書）……一〇三
公三　元　亨　四年　二　月　三　日　大野莊中村大護寺院主代如一田地相博状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……一〇三
公四　正　中　元年十一月　六　日　これいへ・しけいへ連署用途送状……（深山八幡社文書）……一〇三
公五　正　中　二年乙丑卯月　十　日　大原八坂神社燈籠（二基）銘……（大分の石造美術）……一〇三
公六　嘉　暦　三年　五　月　六　日　藤原貞高下知状……（深山八幡社文書）……一〇四
公七　元　徳　元年十一月　五　日　詫磨貞圓和與状……（志賀文書）……一〇四
公八　元　徳　二年　三　月　五　日　鎮西北條英時下知状……（同　上）……一〇五
公九　元　徳　貳年　三　月廿五日　志賀正玄貞朝寄進状……（同　上）……一〇六
一〇〇　元　徳　二年　五　月　廿　日　鎮西北條英時御教書案……（同　上）……一〇七
一〇一　元　徳　貳年　七　月十一日　志賀寂性貞泰譲状……（同　上）……一〇七
一〇三　元　徳　貳年　七　月十一日　志賀寂性貞泰譲状案……（同　上）……一〇八
一〇三　元　徳　二年十二月十六日　鎮西北條英時下知状……（同　上）……一〇九
一〇四　正　慶　元年壬申二月十三日　綿田岳川地藏堂板碑銘……（大分の石造美術）……一〇九
一〇五　元　徳　四年壬申七月　十　日　志賀圓淨朝郷田地渡状……（志賀文書）……一〇九
一〇六　正　慶　元年　九　月廿一日　大野莊志賀村北方堀池名論所注文……（田中繁三文書）……一一一

一〇七　（年未詳）十二月廿四日　新一（カ）奉書……（天理図書館蔵三聖寺文書）……九三
一〇八　正慶二季（マヽ）酉潤二月三日　志賀正玄朝貞置文……（志賀文書）……九三
一〇九　三聖寺領文書惣目錄……（天理図書館蔵三聖寺文書）……九五
一一〇　元弘三年十一月廿日　志賀寂性泰貞着到状……（志賀文書）……九八
一一一　元弘三年十一月　日　志賀寂性泰貞申状案……（同　上）……九八
一一二　建武元年五月一日　後醍醐天皇綸旨……（同　上）……九九
一一三　建武元年五月十三日　後醍醐天皇綸旨……（同　上）……九九
一一四　建武元年七月十日　圓通寺侍者某田畠等寄進状……（深山八幡社文書）……一〇〇
一一五　建武貳年乙亥三月　三日　志賀忠能寄進状……（志賀文書）……一〇〇
一一六　建武二年九月　日　泊寺院主代住房濫妨人交名注文……（同　上）……一〇一
一一七　建武二年九月　日　泊寺院主代明秀損物注文……（同　上）……一〇三
一一八　（建武二年）十二月十五日　後醍醐天皇綸旨……（同　上）……一〇三
一一九　二月十日　後醍醐天皇綸旨……（同　上）……一〇四
一二〇　建武三年八月卅日　源頼繼名字書出……（同　上）……一〇四
一二一　建武三年十一月廿八日　藤原近地景能軍忠状……（同　上）……一〇四
一二二　建武四年三月　日　志賀頼房軍忠状……（同　上）……一〇五
一二三　建武四年三月　日　志賀正玄忠能軍忠状……（同　上）……一〇七
一二四　建武四年七月廿一日　一萬田孔釋宣顯避状……（同　上）……一〇七
一二五　建武四年七月廿一日　一萬田孔釋宣顯寄進状……（同　上）……一〇八
一二六　建武四年十月七日　足利尊氏并御判御教書案及寺社國衙領家職事書案……（柞原八幡宮文書）……一〇九
一二七　五月卅日　志賀正玄忠能書状……（志賀文書）……一一〇
一二八　建武伍年戊寅九月五日　志賀正玄忠能寄進状……（同　上）……一一〇

一二九　建武　五年九月十三日　源頼治寄進状……（深山八幡社文書）……一一一
一三〇　建武　五年十月十六日　源志賀頼房軍忠状……（志賀文書）……一一二
一三一　暦應　貳己卯年三月三□　上尾塚八面石幢銘……（大分の石造美術）……一一三
一三二　康永　三月十一日　顯心請文……（志賀文書）……一一三
一三三　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一一五
一三四　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一一六
一三五　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲与田畠屋敷目録案……（同上）……一一七
一三六　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一一八
一三七　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一一九
一三八　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一一九
一三九　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一二〇
一四〇　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一二三
一四一　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一二三
一四二　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一二三
一四三　康永　元年八月三日　志賀正玄忠能譲状案……（同上）……一二三
一四四　康永　元年八月　日　源志賀頼房軍忠状……（同上）……一二三
一四五　康永　元年十一月卅日　志賀頼資譲状……（同上）……一二四
一四六　康永　元年十一月卅日　志賀頼資譲与田畠等坪付注文……（同上）……一二五
一四七　康永　二年三月廿九日　志賀頼房軍忠状……（同上）……一二六
一四八　志賀氏相傳系圖……（同上）……一二六
一四九　康永　三年八月六日　和郷用途請取状……（同上）……一二七

一五〇　康永四年四月廿六日　勝光寺院主職安堵状……（同　上）……一二七
一五一　貞和貳年五月九日　源大友氏泰寄進状案……（深山八幡社文書）……一二八
一五二　貞和二年五月十日　沙彌某等連署施行状……（同　上）……一二八
一五三　貞和二年五月　深山八幡社祝政信田地請取状案……（同　上）……一二九
一五四　　八月廿一日　某下知状案……（同　上）……一二九
一五五　貞和二年戊丙十二月五日　阿侃書状……（志賀文書）……一二九
一五六　貞和三年二月九日　土師川面墓地寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……一三〇
一五七　貞和三年二月九日　志賀圓淨朝郷譲状……（志賀文書）……一三〇
一五八　貞和三年二月九日　志賀圓淨朝郷譲状案……（同　上）……一三一
一五九　貞和四年正月十一日　源志賀賴房譲状……（同　上）……一三一
一六〇　貞和四年六月二日　大友氏泰知行預ケ状寫……（大友志賀系図）……一三一
一六一　貞和四年九月廿六日　散位源則益請文……（深山八幡社文書）……一三二
一六二　貞和六年二月十二日　大友氏泰知行預ケ状案……（志賀文書）……一三二
一六三　觀應元年庚寅八月廿三日　源志賀賴資譲状……（同　上）……一三三
一六四　文和三□甲午四□十九日　田中妙勝庵五輪塔銘……（大分の石造美術）……一三四
一六五　文和三甲午八　十六　神角寺墓地寶篋印塔銘……（同　上）……一三五
一六六　正平九年十二月七日　平行宗寄進状……（阿蘇家文書上）……一三五
一六七　正平十一年丙申二月十五日　小切畑五輪塔（二基）銘……（大分の石造美術）……一三六
一六八　正平十二年丁酉正月廿五日　阿蘇山衆徒内談引付寫……（西巖殿寺文書）……一三六
一六九　正平十二年十月　日　上津八幡社神寶造替注文案……（上津八幡社文書）……一三七
一七〇　延文四年十月廿日　藤原志賀氏房軍忠状……（志賀文書）……一三八
一七一　深山八幡社屏垣役所注文……（深山八幡社文書）……一三九

一七三　正平十七年壬寅正月十一日　一萬田玄釋貞能・直能連署寄進状……（同　上）……一四〇
一七三　正平十七年十二月十三日　菊池武光寄進状寫……（西巖殿寺文書）……一四〇
一七四　（正平十七年）十二月十三日　菊池武光書状寫……（阿蘇家文書下）……一四一
一七五　貞治二年卯月　日　志賀頼房軍忠状……（志賀文書）……一四一
一七六　貞治三年二月　日　大友氏時當知行所領等注進状案（大友文書）……一四二
一七七　貞治三甲辰年五月三日　醍醐寺寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……一四二
一七八　貞治二年十月　日　近地玄心目安案……（志賀文書）……一四三
一七九　應安三年庚戌七月廿五日　近地玄心譲状……（同　上）……一四六
一八〇　應安三年庚戌十一月□　神角寺五輪塔銘……（白井昭一調査記録）……一四六
一八一　建徳二季辛亥霜月十日　近地玄心譲状……（志賀文書）……一四七
一八二　建徳二季辛□十二月十六日　土師川面墓地寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……一四七
一八三　二月十一日　大友氏繼知行預ケ状……（志賀文書）……一四八
一八四　應安八年二月　日　田原氏能軍忠状……（入江文書）……一四八
一八五　二月廿四日　今川了俊貞世書状……（志賀文書）……一五一
一八六　永和元年八月十八日　十時木ノ下觀音堂寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……一五二
一八七　永和二年卯月九日　德尾南光庵寶篋印塔銘……（同　上）……一五二
一八八　永徳元年十一月廿日　賴清譲状案……（志賀文書）……一五三
一八九　永徳三年七月十八日　大友親世當知行所領等注進状案（大友文書）……一五四
一九〇　永得（マヽ）三年十月十六日　志賀氏房譲状……（志賀文書）……一五七
一九一　永徳二年□□□□　茶屋ノ辻五輪塔銘……（大分県金石年表）……一五七
一九二　しとく三ねん三月廿二日　いなハしやうにん譲状……（志賀文書）……一五八
一九二　九月三日　幸心雑人配分状……（同　上）……一五九

一九四　至徳　三（丙寅）年十一月吉日　上津八幡社裏参道鳥居銘……（渡辺澄夫調査記録）……一六〇
一九五　□（至）（徳）　二□丁□（卯）八月廿八日　宮生生木石幢銘……（大分県金石年表）……一六〇
一九六　至徳　二年丁卯十月廿六日　樋口寶篋印塔銘……（同　上）……一六一
一九七　至徳　四年丁卯十二月十三日　大護寺石鳥居額束銘……（大分の石造美術）……一六一
一九八　康応　元年己巳十一月十五日　大原八坂神社石鳥居額銘……（同　上）……一六一
一九九　永　五年　八　月十九日（六月）　志賀親昌譲状……（志賀文書）……一六三
二〇〇　応永九天玄黙大荒落林鐘十二日　周防國鑄錢司村八幡宮大般若經奥書……（荘園志料下）……一六三
二〇一　応　永　十三年　八　月十五日　一萬田貞政（カ）寄進状……（深山八幡社文書）……一六三
二〇二　応　永　十三丙戌十月　日　大恩寺奥院五輪塔銘……（白井昭一調査記録）……一六三
二〇三　三聖寺肝要支證目錄……（天理図書館蔵三聖寺文書）……一六四
二〇四　応　永　十七年庚寅七月十二日　悦山慶公（一萬田宣政）供養六地藏幢銘……（大分の石造美術）……一六六
二〇五　応　永　廿年巳（癸）十月　日　深山八幡社石鳥居額銘……（大分県金石年表）……一六七
二〇六　応　永　二十一年甲午三月十六日　池在サヤノ木寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……一六七
二〇七　応　永　廿一年甲（甲）午三月十六日　池在サヤノ木寶塔銘……（同　上）……一六八
二〇八　応　永　廿四年丁酉十二月十四日　神角寺五輪塔銘……（同　上）……一六九
二〇九　応　永　廿六年己亥十一月十五日　市萬田和田薬師堂寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……一六九
二一〇　応　永　廿六天十二月十三日　市萬田和田大日堂寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……一六九
二一一　応　永　三十二年乙巳五月十五日　宮生淀寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……一七〇
二一三　永　享　二庚戌歳八月廿四日　夏足石造地藏菩薩像銘……（同　上）……一七一
二一三　卯月十一日　大友持直書状……（志賀文書）……一七一
二一四　（永享五年カ）後七月廿日　大友持直知行預ケ状……（同　上）……一七一
二一五　八月廿九日　大友持直書状……（同　上）……一七二

二六　　九　月廿四日　あさくらのたんこ書状……（同　上）……一七三
二七　（永享八年頃カ）　六　月廿三日　備後守護代犬橋満泰書状……（同　上）……一七三
二八　　六　月廿五日　大友親綱起請文……（同　上）……一七三
二九　永　享　九年　八　月　七　日　室町将軍義教家御教書……（同　上）……一七四
二〇　「永　享」　八　月廿二日　大内持世添状……（同　上）……一七四
二一　永　享　十二年　二　月廿五日　室町将軍義教家御教書……（同　上）……一七五
二二　（永　享　十二年）三　月廿七日　志賀親賀請文案……（同　上）……一七五
二三　嘉　吉　元年辛酉二月十四日　神角寺寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……一七六
二四　嘉　吉　二季・二　月廿八日（彼岸中日）　夏足塔ノ平逆修塔銘……（同　上）……一七六
二五　嘉　吉　三年癸亥二月時正（三）　宮生井手ノ元寶篋印塔銘……（同　上）……一七六
二六　文　安　第□□四月　八　日　西ケ迫六地蔵幢銘……（白井昭一調査記録）……一七七
二七　文　安　二年　八　月十二日　古庄秀安・深田正隨連署坪付……（奥嶽文書）……一七七
二八　文　安　四年丁卯潤二月　三　日　中角六地蔵幢銘……（白井昭一調査記録）……一七八
二九　文　安　五季□□□□　市萬田戸崎六地蔵幢銘……（同　上）……一七九
三〇　寶　徳　××年壬申仲　冬　日　夏足荻迫寶塔銘……（大分県金石年表）……一八〇
三一　康　正　第二丙子七月　二　日　田中妙勝庵寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……一八〇
三二　康　正　三年丁丑二月廿五日　源志賀親明置文……（志賀文書）……一八一
三三　　六　月廿三日　直猶（カ）書状……（奥嶽文書）……一八三
三四　長　祿　元年丁丑十一月八日　圓通寺領重書現存目録并住持等連署紛失状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……一八三
三五　寛　正　三年壬午二月初七日　上津八幡社一ノ鳥居額銘……（大分県金石年表）……一八四
三六　（寛　正　六年カ）　卯　月廿三日　大友親繁感状寫……（大分志賀系図）……一八五
三七　（文　明　七年カ）　三　月廿七日　志賀親家申状……（志賀文書）……一八五

二三八　文明八年丙申九月二日　上尾塚安道市夫宅地内五輪塔（二基）銘……（大分県金石年表）……一八八
二三九　文明十二季庚子二月廿二日　郡山二段畠六地蔵幢銘……（同上）……一八八
二四〇　文明十七年乙巳十一月五日　沓懸隼人助給所坪付……（沓掛文書）……一八九
二四一　文明十八年丙午正月三日　神角寺五輪塔銘……（大分県金石年表）……一八九
二四二　八月十九日　能章知行預ケ状……（奥嶽文書）……一九〇
二四三　十一月卅日　大友親豊義右安堵状……（志賀文書）……一九〇
二四四　永正三年丙刁（マヽ）十月廿八日　神角寺寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……一九〇
二四五　永正六念巳（己）二月十二日　竹田市田部某邸内六地蔵幢銘……（同上）……一九一
二四六　十一月十日　大友親治一跡安堵状……（志賀文書）……一九一
二四七　三月十五日　大友親治書状……（同上）……一九二
二四八　六月廿二日　大友親治書状……（同上）……一九二
二四九　永正十一戊甲九月十一　神角寺寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……一九四
二五〇　永正十二乙亥卯月十七日　一萬田常泰願文……（深山八幡社文書）……一九四
二五一　（永正十三年）十月十六日　大友親安義鑑知行預ケ状……（志賀文書）……一九五
二五二　（永正十三年）十月十六日　大友親安義鑑知行預ケ状……（同上）……一九五
二五三　（永正十三年ヵ）十二月廿五日　大友親安義鑑知行預ケ状寫……（田北次彦文書）……一九六
二五四　二月廿三日　大友義長一跡安堵状……（志賀文書）……一九六
二五五　三月九日　大友義長書状……（同上）……一九六
二五六　永正十七天庚辰三月念三日　地蔵ノ本六地蔵幢銘……（大分県金石年表）……一九七
二五七　十一月五日　大友親敦義鑑義書状……（志賀文書）……一九七
二五八　十一月廿二日　大友親敦義鑑知行預ケ状……（田部修蒐集文書）……一九八

二五九　五月一日　志賀親守書状……（志賀文書）……一九八
二六〇　大永三年九月五日　志賀親守知行預ケ状案……（同　上）……一九九
二六一　大永四年甲申二月廿九日　□（大）保多田六地蔵幢銘……大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書……一九九
二六二　大永四年甲申五月十日　源一萬田鑑實（カ）寄進状……（深山八幡社文書）……一九九
二六三　大永四年甲申十月二日　梨小小川野磨崖碑銘……（白井昭一調査記録）……二〇〇
二六四　大永五天乙酉潤（十月）應鐘初二日　坪泉御靈八幡社六地蔵幢銘……（同　上）……二〇〇
二六五　大永六年丙戌卯月十六日　源一萬田鑑景・兵部大輔敦昌連署寄進状……（深山八幡社文書）……二〇一
二六六　大永六年丙戌十月一日　上尾塚中江寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……二〇一
二六七　深山八幡社舞殿建立料物支配状案……（深山八幡社文書）……二〇二
深山八幡社舞殿建立料物支配状案……（同　上）……二〇三
二六八　西蓮寺寶塔銘……（大分県金石年表七）……二〇四
二六九　大永七天丁亥二月十七日　大友義鑒感状……（一万田文書）……二〇四
二七〇　（大永七年）丁亥三月廿八日　一萬田鑑景知行預ケ状……（同　上）……二〇五
二七一　大永八年戊子十月十六日　竹田市田部某邸内寶篋印塔銘……（大分県金石年表六）……二〇五
二七二　大永八年戊子十一月十九日　板井迫天狗松逆修碑銘……（朝地町史）……二〇六
二七三　享祿五年壬辰仲春五日　大友義鑒知行預ケ状……（志賀文書）……二〇六
二七四　十一月廿三日　大友氏加判衆連署書状……（同　上）……二〇七
二七五　天文元年十二月十九日　市萬田和田墓地寶篋印塔銘……（大分県金石年表五）……二〇七
二七六　天文貳暦癸巳九月廿四日　大友義鑒感状……（上津八幡社文書）……二〇七
二七七　正月十五日　大友義鑒感状……（一万田文書）……二〇八
二七八　（天文三年）閏正月廿日　大友義鑒感状……（同　上）……二〇八
二七九　三月廿日　大友義鑒知行預ケ状……（志賀文書）……二〇九
二八〇　十二月十三日

二八一　（天　文　五年）　六　月十三日　大友義鑑名字状……（同　上）……二〇九
二八二　天　文　五年　六　月十三日　志賀親益加冠状……（同　上）……二〇九
二八三　八　月廿九日　大友義鑑知行預ケ状……（同　上）……二一〇
二八四　天　文　六年　二　月十三日　大友氏加判衆連署奉書……（同　上）……二一〇
二八五　天　文　八年己亥二月廿七日　杉園六地藏幢銘……（大分県金石年表七）……二一一
二八六　（天　文　八年頃）九月　七　日　大友氏加判衆連署奉書寫……（上津八幡社文書）……二一一
二八七　天　文　十一年壬寅五月一日　神角寺五輪塔銘……（大分県金石年表六）……二一三
二八八　三　月　五　日　大友義鑑書狀案……（志賀文書）……二一三
二八九　（天　文十三年）十二月十三日　大友義鑑知行預ケ状……（同　上）……二一三
二九〇　卯　月廿八日　志賀道擇（親益）知行預ケ状……（同　上）……二一四
二九一　天　文　十五年丙午二月十三日　神角寺寶篋印塔銘……（大分県金石年表六）……二一四
二九二　天　文　十八季己酉參月四日（七月）　梨小小川野六地藏幢銘……（大分県金石年表七）……二一四
二九三　天　文　拾八年己酉閏月廿八日　朝地城ノ久保六地藏幢銘……（同　上）……二一五
二九四　天　文　十九年（閏）二月廿一日　大友義鎮起請文……（志賀文書）……二一六
二九五　天　文　十九年　六　月　一　日　志賀親守一跡安堵状……（同　上）……二一六
二九六　（天　文　十九年）六　月廿八日　大友義鎮寄進状……（上津八幡社文書）……二一七
二九七　（天　文十九年）六　月廿八日　大友義鎮知行預ケ状……（志賀文書）……二一七
二九八　（天　文十九年）七　月十三日　大友義鎮感状……（一万田文書）……二一八
二九九　十　月廿八日　大友義鎮一跡安堵状……（志賀文書）……二一八
三〇〇　三　月廿五日　大友義鎮知行預ケ状……（同　上）……二一九
三〇一　（天　文廿一年頃）卯　月　四　日　一萬田鑑實知行預ケ状……（一万田文書）……二一九
三〇二　（天文廿一～二年頃）十　月十三日　大友義鎮名字状……（同　上）……二二〇
三〇三　天　文　廿四年乙卯九月十二日　栗栖寶篋印塔銘……（大分県金石年表七）……二二〇

二四　（弘　治　二年カ）六　月廿三日　大友義鎮知行預ケ状……（志賀文書）……二一〇
二五　弘　治　二年　八　月　二日　源大友義鎮寄進状……（森恵長文書）……二一一
二六　（弘　治　三年）十二月十三日　大友義鎮知行預ケ状……（志賀文書）……二一二
二七　永　禄　三年庚申二月廿六日　志賀親度知行坪付……（同　上）……二一三
二八　永　禄　三年庚申二月廿六日　栗林平良平寶篋印塔銘（三基）銘…（白井昭一調査記録）……二一三
二九　（永　禄　四年カ）十二月廿一日　大友義鎮感状……（一万田文書）……二一三
三〇　永　禄　五年壬戌八月十四日　神角寺寶篋印塔銘……（大分県金石年表六）……二一四
三一　六　月廿八日　戸次鑑連寄進状寫……（上津八幡社文書）……二一四
三二　永　禄　（九年）丙寅年二月　吉日　戸次道雪鑑連寄進金幣銘……（同　上）……二一五
三三　永　禄　九年丙寅潤八月（十）日　池在サヤノキ寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……二一五
三四　永　禄　（十二年）己巳年二月　五日　戸次道雪鑑連寄進鰐口銘……（上津八幡社所蔵）……二一六
三五　（永　禄　十二年）三　月廿七日　大友氏加判衆連署書状……（志賀文書）……二一六
三六　二　月十三日　大友宗麟義鎮名字状……（一万田文書）……二一七
三七　九　月　八　日　臼杵鑑速書状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……二一七
三八　九　月　八　日　臼杵鑑速書状……（同　上）……二一八
三九　九　月廿一日　大友宗麟義鎮一跡安堵状……（志賀文書）……二一九
三〇　十　月十三日　大友宗麟義鎮書状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……二一九
三一　大友興廢記……（大分県郷土史料集成）……二二〇
三二　（元　龜　參年カ）九　月　三　日　大野荘四ケ村請料渡状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……二二一
三三　天　正　元年癸酉拾月十三日　大野荘四ケ村請料渡状……（同　上）……二二二
三四　天　正　三年乙亥十二月五日　神角寺五輪塔銘……（大分県金石年表六）……二二二
三五　天　正　四年　卯　月十四日　大野荘四ケ村請料渡状……（天理図書館蔵三聖寺文書）……二二三

三二六　天正四年丙子卯月念八日　藤北寶篋印塔銘……（大分県史跡名勝天然記念物調査報告書）…三三
三二七　菊月四日　浦上宗鐵書狀……（天理図書館蔵三聖寺文書）……三三
三二八　三月二日　浦上宗鐵書狀……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三四
三二九　五月五日　浦上宗鐵書狀……（同　上）……三四
三三〇　（天正六年）二月十二日　大友氏加判衆連署書狀……（志賀文書）……三三五
三三一　天正六年戊寅二月廿六日　平井觀音堂板碑銘……（白井昭一調査記録）……三三六
三三三　（天正六年）卯月十五日　大友義統感狀……（一万田文書）……三三七
三三三　天正六年戊寅［　］　市萬田小畑板碑銘……（大分県金石年表二）……三三八
三三四　天正七年己卯七月廿七日　大野莊四ヶ村請料渡狀……（天理図書館蔵三聖寺文書）……三三八
三三五　（天正七年）八月廿一日　大友義統書狀……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三三九
三三六　（天正七年）八月廿六日　浦上宗鐵書狀……（同　上）……三三九
三三七　十一月一日　大友義統官途狀……（一万田文書）……三四〇
三三八　天正七年己卯十一月初七日　常忠寺寶篋印塔銘……（大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書）…三四〇
三三九　（天正八年カ）七月十八日　大友義統感狀……（一万田文書）……三四一
三四〇　七月廿六日　浦上宗鐵書狀案……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三四一
三四一　（天正八年カ）八月三日　大友義統感狀……（一万田文書）……三四二
三四二　（天正八年カ）十一月十八日　大友義統書狀……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三四二
三四三　天正八年十二月三日　大友義統袖判下村菅田名坪付……（志賀文書）……三四三
三四四　（天正八年カ）十二月十三日　大友義統知行預ケ狀……（同　上）……三四四
三四五　三月六日　大友義統官途狀……（一万田文書）……三四四
三四六　卯月九日　浦上道冊書狀……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三四四
三四七　十月十一日　大友義統感狀……（一万田文書）……三四五
三四八　十月廿五日　浦上道冊書狀……（尊経閣所蔵東福寺文書）……三四六

二四九　十一月晦日　浦上道冊書狀……（同　上）……二四六
二五〇　（天　正　九年）十二月十三日　大友義統感狀……（上津八幡社文書）……二四七
二五一　天　正　十年壬午四月　九　日　大友義統一字書出……（一万田文書）……二四八
二五二　二　月　九　日　酒井寺神傳藤北方臼迫分諸公事調注文……（伊東東馬文書）……二四八
二五三　「天　正　拾歲」十二月　晦　日　一萬田鎭實知行預ケ狀……（一万田文書）……二四九
二五四　（天正十一年カ）　九　月　六　日　大友義統一跡安堵狀……（志賀文書）……二四九
二五五　（天正十一年カ）　九　月十一日　大友府蘭鎭義書狀……（同　上）……二五〇
二五六　（天正十一年カ）　十　月廿三日　大友義統書狀……（森恵長文書）……二五〇
二五七　（天正十三年）壬八月　十　日　大友義統知行預ケ狀……（一万田文書）……二五一
二五八　自天正十三年九月十六日至天正十四年四月廿二日　上井覺兼日記……（大日本古記録）……二五一
二五九　（天　正　十五年）正月　三　日　豐臣秀吉直書寫……（志賀文書）……二五三
二六〇　（天　正　十五年）正月十七日　豐臣秀吉朱印狀寫……（同　上）……二五四
二六一　（天　正　十五年）正月廿八日　大友義統感狀……（田部修蒐集文書）……二五五
二六二　（天　正　十五年）正月廿八日　大友義統感狀……（一万田鹿蔵文書）……二五五
二六三　（天　正　十五年）二月　八　日　豐臣秀吉朱印狀寫……（志賀文書）……二五六
二六四　（天　正　十五年）二月廿六日　羽柴秀長書狀……（同　上）……二五六
二六五　（天　正　十五年）卯月廿九日　豐臣秀吉朱印狀……（同　上）……二五七
二六六　「天　正　十五年」五月十二日　宗有・統英連署知行預ケ狀……（一万田文書）……二五七
二六七　天　正　十五年　八月十三日　大友義統宛行知行坪付……（志賀四郎文書）……二五八
二六八　卯　月　五　日　豐臣秀吉朱印狀……（志賀文書）……二五八
二六九　七　月　一　日　大友吉統知行預ケ狀……（同　上）……二五九
二七〇　天　正　十九年　卯　月十四日　天正十六年參宮帳寫……（後藤作四郎文書）……二五九
二七一　天　正　廿年　二　月十一日　大友吉統條々事書……（大友文書）……二六〇

二三　文禄四乙未年卯月十五日　市萬田和田大日堂大日種子圓形碑銘（大分の石造美術）……二六三
二三　　卯月廿二日　大友中庵吉統感状（一万田文書）……二六三
二四　文禄五年三月十一日　豊臣秀吉朱印状（志賀文書）……二六三
二五　大友氏段錢・准田錢催促奉書書札禮（當家筆法之抄條々）……二六四
二六　慶長六年四月十六日　中川秀成知行方目錄案（中川家文書）……二六五
二七　慶長六年十一月七日　福島正則知行宛行状（志賀文書）……二六八
二八　慶長六年十一月七日　福島正則宛行知行方目錄（同上）……二六八
二九　慶長七年九月三日　小早川秀詮宛行知行方目錄（同上）……二六九

付録

一　豊後大神氏略系（都甲文書）……二七一
二　大野氏略系（上津八幡社蔵本）……二七三
三　大友志賀系圖（抄）（志賀連文書）……二七四
四　大友詫磨氏系圖（新撰事蹟通考本）……二八〇
五　大友一萬田家系譜（大友義一文書）……二八一
六　大野郡朝地町・大野町大字・小字一覽表……二八四

三重郷史料

一　豊後國風土記……二九五
二　天長三年十一月三日　太政官符（類聚三代格）……二九五
三　延喜式……二九五
四　倭名類聚抄……二九五
五　文治四年三月十日　大法師基覺譲状案（大友文書）……二九八

六　（文治年中）　宇佐宮假殿地判指圖……（宇佐神宮藏）……二九六
七　（建久八年カ）　豐後國圖田帳案斷簡……（到津文書）……二九七
八　文永　十年後五月十三日　大隅正八幡宮大神寶官使等重申狀案……（書陵部八幡宮關係文書）……二九七
九　文永　十二年□十月十日　市邊田八幡社舍利塔銘……（大分の石造美術）……二九八
一〇　建治　元年八月廿四日　某下文案……（大友文書）……二九九
一一　弘安　二年三月十一日　左衛門尉泰能奉書案……（同上）……二九九
一二　弘安　三年十一月廿七日　某下知狀案……（同上）……三〇〇
一三　弘安　七年歲次甲申七月十一日　吉祥寺木造大威德明王像胎內銘……（大分県文化財一覧）……三〇〇
一四　弘安　捌年玖月日　豐後國大田文案……（平林本）……三〇一
一五　弘安　八年九月晦日　豐後國圖田帳案……（內閣文庫本）……三〇一
一六　（永仁四）□次丙申□月日　內山蓮城寺寶塔銘……（大分の石造美術）……三〇一
一七　正安　二庚子年十一九　下赤嶺五輪塔銘……（同上）……三〇三
一八　文保　三年正月十四日　內山蓮城寺五輪塔銘……（大分県金石年表）……三〇三
一九　嘉曆　四年己巳正月十三日　僧素郁讓狀案……（大友文書）……三〇三
二〇　元德　三年十月十三日　沙彌信忍北條基時寄進狀案……（同上）……三〇三
二一　正慶　元年正月十一日　賀來社年中行事次第……（柞原八幡宮文書）……三〇四
二二　賀來社年中行事次第……（同上）……三〇五
二三　元弘　三年十一月十三日　後醍醐天皇綸旨案……（大友文書）……三〇六
二四　豐後國々宣案……（同上）……三〇七
二五　建武　元年十月十日　大覺寺性圓法親王令旨案……（同上）……三〇七
二六　建武　元年十二月四日　淺瀨五輪塔銘……（大分県金石年表）……三〇八
二七　建武　二年三月日　三聖寺嘉祥庵院主處英紛失狀案……（大友文書）……三〇八

六　建武三年八月二日　足利尊氏御判御教書案……（大友文書）……三一
元　建武三　九月六日　光嚴上皇院宣案……（同　上）……三一
一〇　同年　九月十三日　攝津右近將監某巻數返事案……（同　上）……三二
二　建武三年十月十四日　足利尊氏御判下文案……（同　上）……三二
三　豊後國志……三三
三　建武四年七月廿七日　稙田寂圓請文……（柞原八幡宮文書）……三三
四　建武四年十月七日　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案……（同　上）……三三
五　建武五年戊寅六月三日　大津留家五輪塔銘……（大分の石造美術）……三三
六　暦應二年庚辰二月時正中日　深田寶塔銘……（同　上）……三四
七　康永四年乙酉九月　日　市邊田八幡社寶塔銘……（同　上）……三四
八　三月一日　九州探題一色道猷氏範巻數返事案……（大友文書）……三五
九　三月十二日　九州探題一色道猷氏範巻數返事案……（同　上）……三五
一〇　貞和［三］年丙戌（戊）□月□　秋葉佐藤金平宅地内五輪塔銘……（大分県金石年表）……三五
四　貞和五年己丑十月二十八日　宇目大師庵寶塔銘……（大分県の文化財）……三六
四　文和二年五月十九日　大友氏時書下案……（大友文書）……三六
四　正平十一年七月　日　出羽宗房申狀……（志賀文書）……三六
四　延文四年二月五日　大友氏時書下案……（大友文書）……三七
四　（年未詳）二月十二日　平大友行宗書狀寫……（阿蘇家文書下）……三八
四　貞治三年二月　日　大友氏時當知行所領所職等注進狀案……（大友文書）……三八
四　貞治五年七月廿二日　大友氏繼知行預ケ狀案……（入江文書）……三八
四　正平（廿）□一丙午□月十五日　寶光寺五輪塔銘……（大分県金石年表）……三九

四九 正　平　廿五年庚戌卯月廿四日　法泉庵寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……三二九
五〇 建　徳　元年庚戌十月　十　日　西岸寺寶篋印塔銘……（同　上）……三三一
五一 應　安　六年卯月　四　日　今川義範感状寫……（薩藩旧記）……三三三
五二 應　安　六年癸丑卯月二十二日　松尾才田寶塔銘……（大分の石造美術）……三三三
五三 文　中　二年乙卯十一月十八日　内山蓮城寺寶塔銘……（同　上）……三三三
五四 文　中　三年乙卯十一月　日　内山淨運寺寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三三四
五五 天　授　二丙辰□月廿三日　内山淨運寺五輪塔銘……（大分の石造美術）……三三五
五六 康　暦　三辛酉年二月廿日　久田五輪塔銘……（同　上）……三三六
五七 嘉　慶　貳年戊辰三月　日　賀來社御行幸儀式次第……（柞原八幡宮文書）……三三六
五八 明　徳　二年癸酉十月廿二日　川邊寶塔銘……（大分の石造美術）……三三八
五九 應　永　八　七月十一日　家次奉書……（奥嶽文書）……三三九
六〇 應　永　廿三季歳次丙申四月八日　有智山蓮城寺鐘銘寫……（有田文書）……三三九
六一 應　永　廿七歳次庚子八月廿二日　源戸次直世寄進状……（柞原八幡宮文書）……三四〇
六二 應　永　三十年　三　月廿四日　中尾神目寺跡寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……三四一
六三 享　徳　三甲戌　六　月　七　日　惟賀書状寫……（柞原八幡宮文書）……三四一
六四 文　明　元年己丑十月念六日　川邊石造層塔銘……（大分県金石年表）……三四三
六五 文　明　九年丁酉仲春吉日　新藏院寶篋印塔銘……（同　上）……三四三
六六 文　明　九年丁酉仲春吉日　新藏院寶篋印塔銘……（同　上）……三四三
六七 文　明　十七年乙巳十一月十五日　沓懸隼人助給地坪付……（沓掛文書）……三四三
六八 （文明十七年カ）十一月十五日　林繁長打渡状……（上津八幡社文書）……三四三
六九 九　月廿七日　大友政親知行預ケ状……（沓掛文書）……三四四

七〇　延　徳　×歳(壬子)二月　吉　日　白谷寺屋敷寶篋印塔銘……（大分県三重町誌）……三三四
七一　延　徳　第四壬子十一月吉茂日　宇對瀬智福寺寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……三三五
七二　明　應　二天癸丑三月　十　日　的場六地藏幢銘……（同　上）……三三五
七三　明　應　二年癸丑閏卯月十五日　有田六地藏幢銘……（大分県三重町誌）……三三六
七四　明　應　三天(甲刁)三月十二日　圓福寺跡六地藏幢銘……（白井昭一調査記録）……三三六
七五　明　應　八　月　六　日　大友材親(義右)知行預ケ狀寫……（田北憲明文書）……三三七
七六　明　應　五　九　月　廿　日　大友親治(カ)知行預ケ狀寫……（衛藤国芳文書）……三三七
七七　明　應　五天丙辰年十月吉日　白泉寺寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……三三八
七八　明　應　五天丙辰小春吉日　白谷寺屋敷寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三三八
七九　十二月十九日　大友親治知行預ケ狀……（沓掛文書）……三三八
八〇　「明　應　七年戊午」七　月廿五日　齋藤繁利等四名連署打渡狀……（同　上）……三三九
八一　十二月十二日　某給地預ケ狀……（麻生文書）……三三九
八二　十二月十二日　某給地宛行狀……（同　上）……三四〇
八三　文　龜　辛酉七月廿三日　回春庵寶篋印塔銘……（大分県金石年表）……三四〇
八四　文　龜　辛酉小春吉日　宇對瀬智福寺寶篋印塔銘……（同　上）……三四一
八五　文　龜　元年辛酉十二月十三日　賀來社遷宮等次第記……（柞原八幡宮文書）……三四一
八六　永　正　元年甲子十月廿日　慈雲庵六地藏幢銘……（大分の石造美術）……三四三
八七　永　正　三年丙刁壬十一月四日　回春庵寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三四三
八八　永　正　四年丁卯二月廿八日　正龍寺方便法身尊像裏書……（正竜寺蔵）……三四四
八九　永　正　四年丁卯四月十六日　神山家六地藏幢銘……（大分の石造美術）……三四四
九〇　永　正　五年戊辰十一月廿八日　松谷六地藏幢銘……（白井昭一調査記録）……三四五

九一　永正（十年）龍集癸酉十一月十四日　下赤嶺地藏堂六地藏幢銘……（同　上）……二四五
九二　永正十年（十一月）関六天十一月吉日　神田進宅地内板碑銘……（大分県金石年表）……二四六
九三　永正拾貳天乙亥黃鐘　白泉寺六地藏幢銘……（白井昭一調査記録）……二四六
九四　（年未詳）十二月廿五日　三田井大神長武書狀……（奥嶽文書）……二四七
九五　（年未詳）十二月廿五日　三田井大神長武老臣連署書狀……（同　上）……二四七
九六　永正十二乙亥年十二月廿六日　三田井大神長武證狀……（同　上）……二四八
九七　永正［十］四丁丑天十月［十］日　鷲谷六地藏幢銘……（白井昭一調査記録）……二四九
九八　永正十六天卯己三月桃花日　內山蓮城寺六地藏幢銘……（大分の石造美術）……二四九
九九　永正十七年辰庚壬六月念三日　赤嶺地藏堂無縫塔銘……（同　上）……二五〇
一〇〇　永正十七天　赤嶺地藏堂寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……二五〇
一〇一　大永二年三［　］　下赤嶺板碑銘……（同　上）……二五一
一〇二　大永八天戊子二月吉日　中尾大樂寺跡六地藏幢銘……（大分の石造美術）……二五一
一〇三　（享祿元年）□一月廿三日　大友義鑒知行預ケ狀……（大友家文書録）……二五一
一〇四　（享祿元年）十一月廿三日　大友義鑒知行預ケ狀……（同　上）……二五二
一〇五　「享祿元年戊子」十一月廿三日　大友義鑒知行預ケ狀……（一万田文書）……二五二
一〇六　享祿元年「戊子」十二月三日　大友氏加判衆連署奉書……（同　上）……二五三
一〇七　享祿元年十二月三日　大友氏加判衆連署奉書……（野津（吉岡）氏文書）……二五三
一〇八　（享祿元年カ）十二月十三日　大友義鑒知行預ケ狀……（丹生文書）……二五四
一〇九　享祿二年二月六日　安房守某打渡狀……（大友家文書録）……二五四
一一〇　享祿二年己丑三月一日　一萬田與十郎給地坪付注文……（一万田文書）……二五五
一一一　享祿二年己丑　有智山蓮城寺新鑄鐘銘寫……（有田文書）……二五六

一三　享　祿　四天（辛卯）二月十一日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三五六
一三　享　祿　五　白　壬　辰　中津留押川板碑銘……（大分県金石年表八）……三五七
一四　天　文　貳稔关巳參春上旬吉日　中尾大日堂六地藏幢銘……（同　二）……三五七
一五　天　文　三年甲午四月廿六日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三五八
一六　天　文　五白丙申三月　上田原馬場六地藏幢銘……（同　上）……三五八
一七　天　文　九季（庚子）二　月　二　日　井迫石生笠塔婆銘……（大野郡三重町誌）……三五九
一八　二　月十三日　大友義鑑一字書出……（深田文書）……三六〇
一九　九　月十五日　大友義鑑書狀……（同　上）……三六〇
一一〇　九　月廿四日　入田親誠知行預ケ狀……（佐藤金夫文書）……三六一
一一一　天　文　十六年丁未二月五日　秋葉地藏院方碑銘……（大分県金石年表二）……三六一
一一二　（天文十九年）十二月十三日　大友義鎮知行預ケ狀……（岡部忠右衛門文書）……三六一
一一三　天　文　十九年十二月十三日　大友氏加判衆連署奉書……（同　上）……三六二
一一四　天　文　廿四年乙卯霜月十四日　内田高野墓地六地藏幢銘……（大分県金石年表五）……三六三
一一五　永　祿　三年（己未）十月　八幡大菩薩御緣起繪卷下奥書寫……（奈多八幡宮藏）……三六三
一一六　永　祿　四年辛酉三月十八日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三六四
一一七　永　祿　五戊　正　月□　宇目木浦内寶塔銘……（大分県金石年表八）……三六四
一一八　六　月廿三日　大友義鎮知行預ケ狀寫……（柳川藩政史料）……三六五
一一九　六　月廿八日　大友義鎮書狀……（岡部忠右衛門文書）……三六五
一二〇　（永祿六年カ）壬十二月十日　大友氏加判衆連署奉書……（佐藤玉藏文書）……三六六
一二一　永　祿　七白甲子三月吉日　中尾神目寺跡笠塔婆銘……（大分県三重町誌）……三六七
一二二　永　祿　八年乙丑二月彼岸　中尾神目寺跡方碑銘……（大分県金石年表二）……三六七
一二三　永　祿　八年（乙丑）九月　三　日　法泉庵寶篋印塔銘……（同　上）……三六八

一四四　永　祿　九寅丙天春三月吉日　宇目血内熊野神社棟札銘……（宇目町史）……三六八
一三五　永　祿　九天丙刁今日　小坂自源寺跡寶篋印塔銘……（大分県金石年表七）……三六九
一三六　永　祿　十年丁卯三月廿一日　下赤嶺明照院跡寶篋印塔銘……（同　二）……三七〇
一三七　永　祿　十天丁卯小春廿六日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（同　上）……三七〇
一三八　永　祿　十一天戊辰二月十五日　赤嶺權現堂供養碑銘……（同　三）……三七〇
一三九　（永祿）一五六九年一〇月一一日　パードレ・ベルショール・デ・フィゲレイドの豊後書翰……（イエズス会の通信）……三七一
一四〇　（永祿）十二年九月二日　中尾方碑銘……（大日本史料一〇ノ五）……三七二
一四一　永　祿　十三白庚午二月彼岸日　大友宗麟義鎮感状……（深田文書）……三七二
一四二　（元　龜　元年カ）　卯　月廿八日　大友宗麟義鎮知行預ケ状……（衛藤国芳文書）……三七三
一四三　（元　龜　二年カ）　三　月　二　日　中津留觀音堂寶篋印塔銘……（大分県金石年表八）……三七四
一四四　天　正　三年乙亥十月吉日　上田原寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三七四
一四五　天　正　四□丙子六月廿八日　佐伯宗天惟教書状……（薬師寺文書）……三七五
一四六　（天正　六年カ）　三　月　二　日　源大友義統安堵状……（大友家文書録）……三七五
一四七　天　正　六年　三　月　五　日　大友義統書状案……（伊東文書）……三七六
一四八　（天正　六年カ）　三　月廿八日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（白井昭一調査記録）……三七六
一四九　天　正　六天戊刁霜月十一日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（同　上）……三七七
一五〇　天　正　七己卯二月　日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（同　上）……三七七
一五一　天　正　七己卯十二月念□日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（同　上）……三七七
一五二　天　正　八庚辰三月　吉　日　宮尾世繼原墓地寶篋印塔銘……（大分県金石年表二）……三七八
一五三　天　正八年庚辰十一月　吉　日　石町寶篋印塔銘……（同　八）……三七九
一五三　（天正八・九年頃）二月廿九日　大友義統判物……（一万田文書）……三七九
一五四　天　正　[九]辛巳暦仲秋念九日　森迫六地藏幢銘……（大分県金石年表二）……三七九
一五五　天　正　九年辛巳霜月　六　日　市場多田隆邸内五輪塔銘……（同　三）……三八〇

一五六　天正九年辛巳十一月十日　市場岡本和邸内五輪塔銘……（大分県金石年表三）……三八一
一五七　（天正十二年）十二月廿四日　大友府蘭鎮義書状……（大友松野文書）……三八一
一五八　一五八五年八月六日（天正十三年七月廿三日）　臼杵よりの書翰……（一五八五年日本年報追加）……三八三
一五九　（天正十三年）壬八月朔日　大友府蘭鎮義書状……（大友松野文書）……三八五
一六〇　（天正十三年）壬八月三日　大友府蘭鎮義書状……（大友家文書録）……三八六
一六一　（天正十三年）壬八月十三日　大友府蘭鎮義書状……（西寒多神社文書）……三八七
一六二　自天正十四年八月廿二日至天正十四年十月十日　上井覺兼日記……（大日本古記録）……三八八
一六三　天正十四年十月　大友家文書録……（東京大学史料編纂所影写本）……三八九
一六四　（天正十四年）十一月八日　豊後國の破滅が始まった次第……（フロイス日本史）……三九〇
一六五　大友義統書状……（問注所文書）……三九一
一六六　（天正十五年カ）二月廿一日　朽網家滅亡記……（清水文書）……三九一
一六七　（天正十五年カ）三月一日　大友宗滴鎮義書状……（山田文書）……三九四
一六八　（天正十五年三月頃）　大友宗滴鎮義書状……（久保文書）……三九四
一六九　（天正十五年）三月十三日　大友家文書録……（東京大学史料編纂所影写本）……三九五
一七〇　（天正十五年三月）十五日　大友宗麟鎮義感状案……（佐伯文書）……三九五
一七一　（天正十五年三月）十五日　大友家文書録……（東京大学史料編纂所影写本）……三九六
一七二　（天正十五年）卯月廿七日　大友義統書状……（大友家文書録）……三九六
一七三　六月十六日　足立盛定書状……（清原宣雄所蔵文書）……三九七
一七四　八月七日　佐藤家次書状……（同上）……三九八
一七五　天正十六年戊子十月日　回春庵墓地寶篋印塔銘……（大分県金石年表二）……三九八
一七六　天正十六年戊[子]十一月二日　回春庵墓地墓碑銘……（同上）……三九九

一七　自天正十七年十二月廿七日至天正十九年五月八日　天正十六年參宮帳寫……（後藤作四郎文書）……三九九
一八　天正十九年辛卯八月吉日　豐後國檢地目錄案……（西寒多神社文書）……四〇〇
一九　天正二十年二月十一日　大友吉統條々事書……（大友文書）……四〇一
一〇　天正廿年壬辰八月卅日　中玉田羽田野家供養塔銘……（大分県金石年表二）……四〇二
一一　（文祿三年）二月八日　豐臣秀吉朱印狀……（中川家文書）……四〇三
一二　（文祿三年）二月十九日　長束正家書狀……（同　上）……四〇三
一三　文祿五丙申八月十八日　大辻山上八面碑銘……（大分県金石年表二）……四〇三
一四　文祿五年丙申八月十八日　大辻山上方碑（二基）銘……（同　上）……四〇四
一五　慶長貳年　大友氏段錢・准田錢催促奉書書札禮　豐後國大野郡三重鄉御檢地帳（廿四冊）寫（本文省略）……（當家筆法之抄條々）……四〇四
一六　（慶長五年）霜月十一日　（渡辺澄夫蔵本）……四〇五
一七　慶長六年四月十六日　中川秀成恩賞宛行狀……（深田文書）……四〇八
一八　元和五年正月廿二日　重岡キリシタン墓碑銘……（中川家文書）……四〇八
（大分の石造美術）……四〇九

付録

一　寛永十年頃　宇目梓山覺書……（中川家文書）……四一〇
二　深田姓家系世譜……（深田家文書）……四一四
三　渡邊氏系書艸案……（渡辺良司文書）……四一八
四　大野郡三重町・南海部郡宇目町大字・小字一覽表……四三一

野津鄉史料

一　豐後國風土記……四三三

二　天長　三年十二月　三日　太政官符……（類聚三代格）……四三三
三　延喜式……四三三
四　倭名類聚抄……四三三
五　（文治　年中）　宇佐宮假殿地判指圖……（宇佐八幡宮藏）……四三四
六　文永　三年大歲丁卯　卯月　八日　水地九重塔銘……（大分の石造美術）……四三四
七　弘安　八年乙酉　五月廿四日　備後尾吉田文明藏一石五輪塔銘……（同　上）……四三四
八　弘安　捌年　玖月　日　豐後國大田文案……（平　林　本）……四三五
九　弘安　八年　九月　晦日　豐後國圖田帳案……（内閣文庫本）……四三五
一〇　正應　第五壬辰二月廿五（マヽ）　細枝阿彌陀堂寶塔銘……（大分の石造美術）……四三五
一一　元德　二季庚午六月　廿日　宮原三浦某藏板碑銘……（同　上）……四三六
一二　元弘　三年　十月廿九日　城ノ平公園三連板碑銘……（同　上）……四三六
一三　建武　四年　三月五日　一色道猷氏範軍勢催促狀案……（野津（吉岡）氏文書）……四三七
一四　建武　四年　三月廿日　一色道猷氏範書下案……（同　上）……四三七
一五　建武　四年　十月七日　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案……（柞原八幡宮文書）……四三七
一六　建武　五年　正月　日　野津親久代惟親軍忠狀……（野津（吉岡）氏文書）……四三八
一七　康永　元　九　五日　備後尾寶塔銘……（大分の石造美術）……四三八
一八　貞治　三年　二月　二日　後光嚴天皇口宣案……（野津（吉岡）氏文書）……四三九
一九　應安　七年甲寅十月廿三日　備後尾寶塔銘……（大分の石造美術）……四三九
二〇　自永德　二年壬戌　三月廿一日　至永德　二年壬戌十月　生野原町石（三基）銘……（同　上）……四四〇
二一　永德　二年壬戌　十月廿七日　岩瀨極樂寺跡角塔婆銘……（同　上）……四四〇
二二　嘉慶　二年戊辰　三月　日　賀來社御行幸儀式次第……（柞原八幡宮文書）……四四一

三三　康　應　二年□□　芝尾阿彌陀三尊種子自然石碑銘……（大分の石造美術）……四四一
四四　明　德　三年　五月十六日　風瀨板碑銘……（同　上）……四四三
三五　應　永　二丁丑年　十月廿一日　黑土地藏堂寶篋印塔銘……（同　上）……四四三
三六（永　享　八年）三月九日　大內持世書狀……（田北一六文書）……四四三
三七　永　享　九年　八月七日　室町將軍義教家御教書……（志賀文書）……四四三
三八　文　安　六年己□四月廿六日　名塚寶塔銘……（大分の石造美術）……四四四
三九　卯月廿九日　大友政親知行預ケ狀……（若林文書）……四四四
四〇　三月五日　大友政親書狀寫……（同　上）……四四五
四一（文明十一・二年頃）十二月八日　大友氏加判衆連署奉書……（広田文書）……四四五
四二　三月廿日　大友政親知行預ケ狀……（小野文書）……四四六
四三　文　明　十六年辛辰三月廿四日　大友政親知行預ケ狀……（大友家文書録）……四四六
四四　文　明　十八年丙午九月廿六日　大友政親知行預ケ狀……（同　上）……四四七
四五　延　德　二壬子歲二年十一月一日　野津院西神野村神領坪付……（広田文書）……四四七
四六　明　應　六年三月十一日　大友氏加判衆連署奉書……（佐土原文書）……四四八
四七　明　應　六年七月十一日　野津院內佐土原兵庫助給所打渡坪付……（同　上）……四四九
四八（明應七年カ）十一月十八日　大友親治感狀……（同　上）……四四九
四九（文　龜　元年）十一月廿三日　大友親治感狀……（波津久文書）……四五〇
四〇　文　龜　元年辛酉十二月十三日　賀來社遷宮等次第記……（柞原八幡宮文書）……四五〇
四一　十二月十五日　大友親治知行預ケ狀……（佐土原文書）……四五一
四二　三月二日　大友親治書狀……（野津（吉岡）氏文書）……四五一
四三　五月八日　大友親治知行預ケ狀……（沓掛文書）……四五三
四四（文龜二年頃カ）六月九日　大友親治知行預ケ狀……（波津久文書）……四五三

四五三　九月十三日　大友義長受領状……（波津久文書）……四五三
四五四　十月十五日　大友義長感状……（同　上）……四五三
四五七　十月廿二日　大友義長書状……（同　上）……四五四
四五八　十一月七日　大友義長感状……（同　上）……四五四
四五九　永　正　二天乙丑九月吉日　名塚薬師堂板碑銘……（大分の石造美術）……四五五
四六〇　永　正　三年丙刁七月七日　宮原六地蔵幢銘……（大分県金石年表）……四五五
四六一　卯月卅日　大友氏加判衆連署奉書……（宮師文書）……四五六
四六二　（永正五年頃）　五月十日　大友氏加判衆連署奉書……（沓掛文書）……四五六
四六三　永　正　□（五）年戊辰八月十五日　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……四五七
四六四　永　正　六天己巳九月吉日　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘……（同　上）……四五七
四六五　正月廿九日　大友親安（義鑑）知行預ケ状……（田原滝蔵文書）……四五七
四六六　七月六日　大友親敦（義鑑）感状……（佐土原文書）……四五八
四七七　大　永　六年戊丙三月十一日　佐土原親忠・戸上親貞連署契状……（佐土原文書）……四五八
四六八　（大　永　六年）八月廿五日　大友義鑒感状……（同　上）……四五九
四六九　大　永　六年戊丙十一月十二日　佐土原親忠百姓中園納物次第注文……（同　上）……四六〇
四七〇　大　永　六年戊丙十一月十二日　佐土原親忠濟物次第注文……（同　上）……四六一
四七一　「大永七年井（ひのとの）」三月廿七日　大友義鑒感状……（同　上）……四六二
四七二　（大　永　七年）七月十日　大友義鑒感状……（波津久文書）……四六三
四七三　（大　永　七年）十一月廿七日　大友義鑒感状寫……（清田文書）……四六三
四七四　十一月廿三日　大友義鑒知行預ケ状……（大友家文書録）……四六四
四七五　享　祿　元年十二月三日　大友氏加判衆連署奉書……（野津（吉岡）氏文書）……四六四
四七六　（天　文　元年カ）十一月十日　大友義鑒一跡安堵状……（佐土原文書）……四六五

六七　（天　文　元年カ）十一月　十日　大友義鑒感状……（同　上）……四六五
六八　（天　文　元年カ）十二月　二日　大友義鑒感状……（波津久文書）……四六六
六九　十二月十三日　大友義鑒官途書出……（同　上）……四六六
七〇　十二月十三日　大友義鑒知行預ケ状……（大友家文書録）……四六七
七一　十二月廿一日　大友義鑒書状……（広田文書）……四六七
七二　（天　文　二年カ）卯　月　二日　大友義鑒感状……（波津久文書）……四六八
七三　（天　文　二年カ）卯　月　二日　大友義鑒感状……（佐土原文書）……四六八
七四　（天　文　二年カ）十二月十四日　大友義鑑感状……（同　上）……四六九
七五　（天　文　二年カ）十二月十四日　大友義鑑感状……（波津久文書）……四六九
七六　（天　文　三年カ）壬正月廿一日　大友義鑑感状……（佐土原文書）……四七〇
七七　（天　文　三年カ）壬正月廿八日　大友義鑑感状……（波津久文書）……四七〇
七八　卯　月十二日　大友義鑑知行預ケ状……（成簀堂文庫蔵田村文書）……四七一
七九　（天　文　三年）五月十一日　大友義鑑感状……（佐土原文書）……四七一
八〇　（年　未　詳）卯　月十三日　清田鑑綱安堵状……（沓掛文書）……四七二
八一　五月　九　日　大友義鑑一跡安堵状……（同　上）……四七二
八二　（天　文　三年）六月十一日　大友義鑑感状……（波津久文書）……四七三
八三　（天　文　七年カ）八月廿九日　清田鑑綱書状……（広田文書）……四七三
八四　天　文　十二年　九月廿六日　沓懸貞與田地賣渡状……（沓掛文書）……四七四
八五　（天文十六年カ）九月廿九日　雄城治景書状……（柞原八幡宮文書）……四七四
八六　天　文　十八　正　十六　大友家條々書札禮……（大友義一文書）……四七五
八七　天文十八年　つちのとのとり三月廿一日　野津院とめ田名三貫分坪付……（沓掛文書）……四七五
八八　つちのとのとりとし三月廿三日　野津院とめ田名三段坪付……（同　上）……四七六
八九　天　文　十九庚戌年二月十二日　寺小路城ヶ平公園無縫塔銘……（大分の石造美術）……四七七

九九　（天文廿一年頃）　九月十七日　大友義鎮判物……（成簀堂文庫蔵田村文書）……四七七
一〇〇　（天文廿一年頃）十二月十二日　大友義鎮判物……（同　上）……四七八
一〇一　七月二日　大友義鎮受領状……（沓掛文書）……四七八
一〇二　（弘治三年）七月十六日　大友義鎮感状……（波津久文書）……四七九
一〇三　正月十六日　大友義鎮官途状……（同　上）……四七九
一〇四　八月廿三日　大友義鎮判物……（若林文書）……四八〇
一〇五　永禄七年甲子九月十日　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……四八〇
一〇六　永禄七年甲子十月廿一日　福良木千光寺跡無縫塔銘……（同　上）……四八一
一〇七　「永禄十年」八月四日　大友宗麟鎮義感状……（佐土原文書）……四八一
一〇八　「永禄十年」十月十一日　大友宗麟鎮義感状……（同　上）……四八一
一〇九　（永禄十年）十一月十三日　大友宗麟鎮義跡目安堵状……（波津久文書）……四八二
一一〇　永禄十一年二月二十一日　福良木千光寺跡無縫塔銘……（大分の石造美術）……四八三
一一一　（永禄十二年）七月十三日　大友宗麟鎮義感状……（利光文書）……四八三
一一二　（永禄十二年カ）八月十一日　大友宗麟鎮義判物……（若林文書）……四八四
一一三　十二月廿八日　大友宗麟鎮義跡目安堵状……（利光文書）……四八四
一一四　（元龜元年頃カ）十二月十三日　大友宗麟鎮義知行預ケ状……（野津（吉岡）氏文書）……四八五
一一五　（元龜二年カ）三月二日　大友宗麟鎮義知行預ケ状……（大友家文書録）……四八五
一一六　（元龜二年カ）三月二日　大友宗麟鎮義知行預ケ状……（沓掛文書）……四八五
一一七　（元龜二年カ）三月二日　大友宗麟鎮義知行預ケ状……（同　上）……四八六
一一八　（元龜二年カ）三月六日　大友宗麟鎮義知行預ケ状……（利光文書）……四八六
一一九　元龜三年壬申卯月五日　細枝阿彌陀堂六地藏幢銘……（大分の石造美術）……四八七

一二　卯月六日　大友宗麟（義鎮）官途状……（波津久文書）……四八七
一三　十一月三日　奈多鑑基書状……（広田文書）……四八七
一四　天正二年閏十一月吉日　都原六地蔵幢銘……（大分の石造美術）……四八八
一四　二月十二日　大友義統跡目安堵状……（沓掛文書）……四八八
一五　二月廿日　宗印書状……（同　上）……四八八
一六　九月十六日　大友義統跡目安堵状……（大友家文書録）……四八九
一七　九月十六日　大友義統跡目安堵状……（同　上）……四八九
一八　（天正六年）卯月十五日　大友義統感状……（波津久文書）……四九〇
一九　（天正六年）卯月十五日　大友義統感状……（佐土原文書）……四九〇
一〇　（天正六年卯月十五日カ）　大友義統土持要害合戦頸并手負注文一見状……（同　上）……四九一
一三　（年未詳）十一月廿九日　清田鑑忠書状……（沓掛文書）……四九一
一三　（天正六年）十二月廿四日　清田鎮忠感状……（佐土原文書）……四九三
一三　（天正七年）六月廿日　大友義統安堵状写……（堀文書）……四九三
一四　（天正八・九年頃）正月廿二日　大友義統判物……（佐土原文書）……四九四
一五　二月十五日　大友義統書状……（杵原八幡宮文書）……四九四
一六　六月廿一日　大友義統感状……（佐土原文書）……四九五
一七　大友義統書状包紙……（野津（吉岡）氏文書）……四九五
一八　六月卅日　大友義統跡目安堵状……（利光文書）……四九六
一九　九月五日　大友義統判物……（波津久文書）……四九六
二〇　九月十二日　大友義統安堵状……（杵原八幡宮文書）……四九六
二三　十一月十五日　大友義統書状……（成簀堂文庫蔵田村文書）……四九七
二三　一五八一年（天正九年）　一五八一（天正九）年日本年報……（イエズス会の通信）……四九八

一三三　一五八一年（天正九年）……（同　上）……四九八
一三四　一五八二年（天正十年）……（同　上）……五〇一
一三五　一五八三年（天正十一年）……（同　上）……五〇二
一三六　（天正十二年頃）三月十日　大友義統名字状……（大友家文書録）……五〇三
一三七　（天正十三年）壬八月廿六日　大友義統一字状……（同　上）……五〇四
一三八　（天正十四年）正月十九日　大友義統名字状……（波津久文書）……五〇四
一三九　天正十四年正月十九日　大友義統名字書出……（同　上）……五〇四
一四〇　二月卅日　述世・述昌連署書状……（同　上）……五〇五
一四一　（天正十四年十月頃）　大友家文書錄……（東京大学史料編纂所影写本）……五〇五
一四二　（天正十四年カ）十一月六日　フロイス日本史……（豊後篇）……五〇六
一四三　（天正十四年カ）十一月廿五日　大友義統書状……（波津久文書）……五〇七
一四四　（天正十五年カ）正月十三日　大友義統感状……（沓掛文書）……五〇九
一四五　（天正十五年）正月廿八日　大友義統書状……（臼杵文書）……五一〇
一四六　天正十五年八月十三日　大友義統感状……（大友家文書録）……五一〇
一四七　天正十五年八月十三日　若林鎭興給所坪付……（若林文書）……五一一
一四八　天正十五年八月十三日　若林鎭興給所坪付……（同　上）……五一一
一四九　天正十五年九月十一日　若林鎭興給所坪付……（同　上）……五一三
一五〇　天正十五年丁亥拾月十日　若林鎭興野津院給所坪付……（同　上）……五一三
一五一　若林氏所領覺寫……（若林文書）……五一四
一五二　□日　大友義統判物……（大友家文書録）……五一八
一五三　（天正十六年カ）六月十三日　大友吉統書状……（五条文書）……五一八
一五四　（天正十八年）三月廿九日　豊臣秀吉朱印状……（野津（吉岡）氏文書）……五一九

一五五　（天　正十八年）九　月廿八日　野津院内廣田内右衛門尉領坪付……（廣田文書）……三五九
一五六　天　正　十八年　九　月廿八日　沓懸左馬助領坪付……（沓掛文書）……三六〇
一五七　天　正　十八年十一　月　卅　日　生善寺永存等連署納米請取状……（同　上）……三六一
一五八　天　正　二十年　二　月十一日　大友吉統條々事書……（大友文書）……三六二
一五九　豊後國諸侍着到帳寫……（武内本・中島本）……三六三
一六〇　文　祿　三年　正　月　九　日　由原山宮主坊拘分供田注文……（柞原八幡宮文書）……三六四
一六一　文　錄（ママ）　貳年　豊後國大野郡野津院御檢地帳寫……（渡辺澄夫蔵本）……三六五
一六二　（文　祿　四年頃）六　月十三日　大友能乘書状……（大友家文書録）……三六五
一六三　八　月廿三日　大友能乘書状……（佐土原文書）……三六三
一六四　三　月　三　日　大友中庵（吉統）一字書出……（臼杵文書）……三六四
一六五　慶　長　貳年　豊後大野郡野津院御檢地帳（十八冊）寫（本文省略）……（渡辺澄夫蔵本）……三六五

付　録

一　大友野津氏略系……（野津本大友系図）……三六七
二　大野郡野津町大字・小字一覽表……三六八

井田郷史料

一　豊後國風土記……三七七
二　天　長　三年十一月三日　太政官符……（類聚三代格）……三七七
三　倭名類聚抄……三七七
四　（文　治　年　中）　宇佐宮假殿地判指圖……（宇佐八幡宮蔵）……三七八
五　（建　久　八年カ）　豊後國圖田帳案斷簡……（到津文書）……三七八

六　弘安　捌年玖月　日　豊後國大田文案……（平林本）……三五八
七　弘安　八年九月晦日　豊後國圖田帳案……（内閣文庫本）……三五八
八　永仁　伍年丁酉十月十日　久原八幡社角塔婆銘……（犬飼町誌）……三五九
九　建武　元年二月二十一日　後醍醐天皇綸旨……（島津家文書一）……三五九
一〇　建武　元年二月二十一日　後醍醐天皇綸旨寫……（薩藩逸史）……三五九
一一　建武　四年十月七日　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案……（柞原八幡宮文書）……三六〇
一二　暦應　元年十二月廿七日　室町將軍尊氏家御教書寫……（薩藩旧記伊地知文書）……三六〇
一三　暦應　二年五月四日　沙彌正全大友泰能（カ）請文寫……（同　上）……三六一
一四　暦應　三年庚辰九月十五日　平尾社寶塔銘……（大分の石造美術）……三六一
一五　暦應　三年十二月五日　安富貞副書狀寫……（薩藩旧記伊地知文書）……三六二
一六　暦應　四年卯月廿二日　宗榮書狀寫……（同　上）……三六三
一七　暦應　四年潤四月二日　室町將軍尊氏家御教書寫……（同　上）……三六三
一八　暦應　五年二月六日　豊後守護代沙彌正全大友泰能（カ）請文寫……（同　上）……三六四
一九　康永　二年癸未五月廿日　高畑穴見墓地寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……三六四
二〇　貞和　三年丁亥十月九日　新殿大乘寺五輪塔銘……（大分の石造美術）……三六四
二一　貞和　四年二月九日　黒松阿蘇社寶塔銘……（犬飼町誌）……三六五
二二　貞和　五己丑年二月十二日　石五道板碑銘……（千歳村誌）……三六五
二三　觀應　三年七月廿七日　宇都宮蓮智奉書案……（島津家文書一）……三六六
二四　觀應　三年九月十六日　豊後守護代沙彌正全大友泰能（カ）請文案……（同　上）……三六六
二五　文和　二年六月六日　島津道鑒貞久知行宛行狀寫……（薩藩旧記伊地知文書）……三六六
二六　文和　三年甲午七月　日　虎御前寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……三六七
二七　文和　三年□月　日　塔ノ宮五輪塔銘……（大分県金石年表）……三六七

二六　　二月十二日　平大友行宗書状寫……（阿蘇家文書下）……三六七
二七　正平十一年丙申二月十五日　長壽庵五輪塔（二基）銘……（大分県金石年表一）……三六八
二八　延文元年八月六日　足利義詮安堵下文……（島津家文書一）……三六八
二九　正平十貳年丁酉十一月十五日　柴北熊野神社石鳥居銘……（大分の石造美術）……三六九
三〇　延文五年八月廿三日　新殿大乘寺五輪塔銘……（同　上）……三六九
三一　延文五年十一月一日　室町將軍義詮家御教書案……（島津家文書一）……三七〇
三二　延文六年卯月五日　宇治阿蘇惟村寄進状寫……（阿蘇家文書下）……三七〇
三三　康安元年辛丑七月十八日　尾ノ平治康庵板碑銘……（千歳村誌）……三七一
三四　（康安二年カ）二月十五日　大友氏時書状……（阿蘇家文書上）……三七一
三五　貞治貳年卯月十日　島津道鑑貞久譲状案……（島津家文書一）……三七二
三六　「貞治二年四月上旬」　島津氏所領注文寫……（薩藩旧記二七）……三七三
三七　正平十八年癸卯十一月廿八日　福生寺寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……三七五
三八　正平廿一□□月□　原田板碑銘……（大分県金石年表四）……三七五
三九　貞治五年丙午季二月初八鳥　大聖寺開山塔銘……（犬飼町誌）……三七六
四〇　貞治六年正月廿日　藤原吉弘氏輔寄進状……（柞原八幡宮文書）……三七六
四一　貞治六年未丁十月　日　黒松新飼寶塔銘……（犬飼町誌）……三七七
四二　建徳三年壬子三月　金倉寺寶篋印塔銘……（同　上）……三七七
四三　應安七年六月　日　島津伊久代本田泰光重申状……（藤野文書）……三七七
四四　永和四年八月廿八日　今川了俊貞世奉書案……（島津家文書一）……三七八
四五　康暦二年二月十三日　渡無瀬寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……三七九
四六　康暦第三二月拾六□　石井釋迦堂寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……三八〇
四七　永徳二年壬戌十月初七日　渡無瀬五輪塔銘……（大分の石造美術）……三八〇

至徳二年乙丑十一月廿九日　新殿大乗寺寶篋印塔銘……（大分の石造美術）……五八一
応永十年八月　日　井田郷由原御燈油料所坪付注文案…（柞原八幡宮文書）……五八一
応永十五年六月十五日　大友氏加判衆等連署奉書……（同　上）……五八四
応永二十年霜月十二日　戸成寶篋印塔（二基）銘……（千歳村誌）……五八五
応永二十年霜月十四日　九月廿六日　大友持直知行預ケ状……（若林文書）……五八五
（年未詳）　三月廿六日　大友著世知行預ケ状……（麻生照美文書）……五八五
永享五年五月廿五日　源大友親綱知行預ケ状寫……（阿蘇家文書下）……五八六
嘉吉二年卯月九日　一萬田惟久・長峯直郷連署打渡状…（麻生照美文書）……五八七
文安二年乙丑三月廿七日　九品寺跡六地蔵幢銘……（大分県金石年表五）……五八七
享徳二年癸酉霜月十五日　大聖寺寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……五八八
（長禄二年）二月三日　維明・維綱連署打渡状……（大友家文書録）……五八八
長禄三年己卯天二月初六日　大聖寺寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……五八八
長禄四年庚辰三月十一日　長敬寺六地蔵幢銘……（千歳村誌）……五八九
（年未詳）　五月八日　大友道清親繁知行預ケ状……（大友家文書録）……五八九
（年未詳）　七月廿四日　大友道清親繁書状……（同　上）……五八九
（年未詳）　八月廿九日　惟秀・照種連署打渡状……（同　上）……五九〇
文明二年庚寅仲春廿八日　堂山寶篋印塔銘……（犬飼町誌）……五九一
文明十二年庚子二月十二日　長壽庵五輪塔銘……（大分県金石年表二）……五九一
「長享元」九月十日　大友氏加判衆連署書状……（柞原八幡宮文書）……五九一
延徳二年庚戌七月十二日　尾ノ平寶塔銘……（千歳村誌）……五九二
明応貳年癸丑十月吉日　五郎丸板碑銘……（同　上）……五九二
明応五天□□□日　上畑地蔵堂木造地蔵菩薩像銘……（大分県金石年表）……五九二

七　「明　應　七年戊午」七月廿五日　齋藤繁利等四名連署打渡狀……（沓掛文書）……五九三
七一　明　應　七年）壬十月十八日　大友親治知行預ケ狀……（同　上）……五九三
七二　（明　應　七年）壬十月十八日　大友親治知行預ケ狀……（志賀文書）……五九四
七三　（年　未　詳）　七月廿三日　大友親□書狀寫……（阿蘇家文書下）……五九四
七四　「明　應　九年庚申」　十　月廿三日　榮成打渡狀……（沓掛文書）……五九五
七七　文　龜　元年辛酉十二月十三日　賀來社遷宮等次第記……（柞原八幡宮文書）……五九五
七八　文　龜　貳年ミつのへいん卯月十九日　井田鄉長峯名五郎丸隱田注文案……（沓掛文書）……五九八
七九　永　正　六巳年十一月吉日　平尾社石鳥居銘……（千歲村誌）……五九九
八〇　永　正　八年辛未三月　吉　日　沓懸之武井田鄉長峯名五郎丸知行分坪付……（沓掛文書）……六〇一
八一　大友義長一跡安堵狀……（同　上）……六〇二
八二　五　月　七　日　秀家書狀……（同　上）……六〇三
八三　八　月　二　日　大友義長官途狀……（同　上）……六〇三
八四　六　月十六日　大友親敦義鑑書狀……（三代文書）……六〇三
八五　十一月　四　日　石五道六地藏幢銘……（千歲村誌）……六〇四
八五　大　永　六年丙戌二月念四日　井田鄉田原名坪付……（五条文書）……六〇四
八六　天　文　三年甲午九月　六　日　山內庵供養碑銘……（大分県金石年表二）……六〇五
八七　天　文　第七戊戌年（七年）八月二日　下津尾熊野神社石鳥居銘……（同　五）……六〇五
八八　天　文　戊戌霜　月　吉　日　高添板碑（二基）銘……（千歲村誌）……六〇六
八九　天　文　八年己亥十月　大友義鑑知行預ケ狀……（五条文書）……六〇六
八九　五　月十九日　大友義鑑知行預ケ狀……（同　上）……六〇六
九〇　十　月十六日　大友義鑑知行預ケ狀……（志賀文書）……六〇七
九二　十二月十三日　井ノ元寶塔銘……（千歲村誌）……六〇七
九二　天　文　十一壬寅九月十四日

九四　天　文　十二年关卯二月吉日　神戸市菊池氏邸六地藏幢銘……（大分県金石年表六）……六〇八
九五　天　文　十二年　九　月廿六日　沓懸貞與居屋敷等賣渡狀……（沓掛文書）……六〇八
九六　天　文　十二季乙巳二月十五日　衛藤實通畠地渡狀……（同　上）……六〇九
九七　天　文　十七戊申年八月　一　日　聖寶庵墓碑銘……（犬飼町誌）……六一〇
九八　天　文　十有八年己酉三月吉祥日　髙津原六地藏幢銘……（同　上）……六一〇
九九　（天文十九年カ）三　月廿五日　大友義鎭知行預ケ狀……（五条文書）……六一一
一〇〇　（天文十九年）十二月十三日　大友義鎭知行預ケ狀……（岡部忠右衛門文書）……六一一
一〇一　天　文　十九年十二月十三日　大友氏加判衆連署奉書……（同　上）……六一三
一〇二　天　文　廿□年□月□日　大木板碑銘……（大分県金石年表二）……六一三
一〇三　天　文　廿四年乙卯八月　日　長壽庵後山墓地墓碑（二基）銘……（大分県金石年表五）……六一三
一〇四　一五五五年九月二〇日（弘治元年九月五日）　イルマン・ドワルテ・ダ・シルバの書翰……（イエズス会の通信）……六一三
一〇五　弘　治　三年丁巳二月廿七日　上ノ久保六地藏幢銘……（千歳村誌）……六一五
一〇六　永　祿　三白庚申二月吉□　干草場笠塔婆銘……（同　上）……六一五
一〇七　永　祿　乂季辛酉中春（三月）吉日　髙添六地藏幢銘……（坂口雅邦九州六地藏考）……六一五
一〇八　永　祿　四歳辛酉三月十二日（カ）　下平井笠塔婆銘……（千歳村誌）……六一六
一〇九　永　祿　四年辛酉三月廿八日　下墓原愛宕六地藏幢銘……（犬飼村誌）……六一六
一一〇　永　祿　四年辛酉十月　吉日　岡笠塔婆銘……（千歳村誌）……六一七
一一一　永　祿　十年　九　月　吉日　治康庵角塔婆銘……（同　上）……六一七
一一二　元　龜　三歳壬申十月初四日　舞田六地藏幢銘……（犬飼町誌）……六一七
一一三　天　正　四年　六月十五日　佐土原六地藏幢銘……（同　上）……六一八
一一四　一萬田（カ）鎭實知行預ケ狀……（伊東東馬文書）……六一八
一一五　六　月廿八日　大友義鎭判物……（岡部忠右衛門文書）……六一九

一二六　七月九日　大友義統知行預ケ状……（同　上）……六一九
一二七　（天正十四年十月頃）　大友家文書録……（東京大学史料編纂所影写本）……六二〇
一二八　（天正十四年）十一月廿五日　大友義統感状寫……（沓掛利三郎文書）……六二〇
一二九　フロイス日本史……（豊後篇）……六二一
一三〇　天正十四年□□　原五輪塔銘……（犬飼町誌）……六二四
一三一　（天正十五年頃カ）　若林氏所領覺寫……（若林文書）……六二四
一三二　天正十八年九月廿八日　沓懸左馬助領坪付……（沓掛文書）……六二四
一三三　天正十八年十一月卅日　生善寺永存等連署納米請取状……（同　上）……六二五
一三四　天正二十年二月十一日　大友吉統條々事書……（大友文書）……六二五
一三五　（天正二十年カ）　豊後國諸侍着到帳寫……（武本本・中島本）……六二六
一三六　（文祿二年カ）六月廿日　豊臣秀吉朱印状……（日向伊東文書）……六二七
一三七　文祿三年正月九日　由原山宮主坊拘分供田注文……（柞原八幡宮文書）……六二七
一三八　慶長六年四月十六日　中川秀成知行方目錄……（中川家文書）……六二七
一三九　慶長八天癸卯霜月八日　福生寺庚申塔銘……（大分県金石年表四）……六二八

付録

一　大野郡犬飼町・千歳村大字・小字一覧表……六二九

補遺

大野荘史料

一　應永廿一年八月廿五日　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘……（伊藤酉美調査記録）……六三五
二　應永廿九年七月十七日　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘……（同　上）……六三五
三　文安五季□□□□□□　市萬田戸崎地藏堂六地藏幢銘……（朝地町史）……六三六

四　□（龍カ）二年辛卯十一月廿一日　神角寺寶篋印塔銘……（朝地町史）……六三六
五　延應童集庚戌霜月念□　瀨口工藤半宅裏板碑銘……（同　上）……六三七
六　永　正　元年甲子七月　四　日　市萬田元兆楽寺跡墓地五輪塔銘……（伊藤酉美調査記録）……六三七
七　永　正　九年□申三月廿四日　志賀迫姫塚石碑銘……（朝地町史）……六三七
八　天　文　十五稔　志賀城跡五輪塔銘……（同　上）……六三八
九　天　文　十九庚戌七月　十　日　中江寶篋印塔銘……（同　上）……六三八
一〇　天　文　廿三年□　志賀雲城寺寶篋印塔銘……（同　上）……六三九
一一　天　文　廿四年　九　月廿五日　市萬田元兆楽寺跡墓地五輪塔銘……（波多野一郎調査記録）……六三九
一二　（天正十一年）　十　月十一日　大友義統感状……（大友家文書録）……六三九
一三　（天正十一年）　十　月十一日　大友義統感状……（同　上）……六四〇

三重郷史料

一　（天正　六年）　十二月十一日　大友義統跡目安堵状……（森迫文書）……六四〇

野津院史料

一　元　弘　三年□酉十二月十五日　長小野麿崖不動明王像銘……（野津町誌編集だより七）……六四一
△解　説……六四二
△あとがき……六六五
△図版目次
口　絵　尼深妙惣配分状・神角寺本堂・神角寺金剛力士像・内山蓮城寺寶塔・菅生石佛・水地九重塔・平尾社寶塔……（巻頭）
五万分一折込地形図……（巻末）

大野荘史料

郷四所里一十一
駅二所　烽一所
海石榴市　血田
網磯野

大宰府ノ奏状ニヨリ兵士ヲ廃シ選士衛卒ヲ置カシム

一　豊後國風土記

○荒木田久老考訂本
寧楽遺文下

大野郡、郷肆所里一、十一、驛貳所、烽壹所、
此郡所部悉皆原野也、因斯名曰大野郡、
海石榴市・血田並在郡南、
昔者、纒向日代宮御宇天皇、在球覃行宮、仍欲誅鼠石窟土蜘蛛、而詔群臣伐採海石榴樹、作椎爲兵、即簡猛卒授兵椎、以穿山排草、襲石室土蜘蛛、而悉誅殺、流血沒踝、其作椎之處曰海石榴市、亦流血之處曰血田也、
網磯野在郡西南、
同天皇行幸之時、此閉有土蜘蛛、名曰小竹鹿奥謂志努汗意拘・小竹鹿臣、此土蜘蛛二人擬爲御膳、作田獦、其獦人聲甚譁、天皇勅曰大囂謂阿那美須、因斯曰大囂野、今謂網磯野者訛也、

二　太政官符

○類聚三代格
新訂増補国史大系二五

太政官符
應廢兵士置選士衛卒事、

選士一千七百廿人分爲四番、〻別役卅日、年役惣九十日、
府四百人先依官符置、
九國二嶋一千三百廿人

右、得大宰府奏狀偁、兵士名備防禦、實是役夫、其窮困之體令人憂煩、屢下嚴勅禁制他役、時代既久曾无遵行、其故何者、兵士之賤无異奴僕、一人被點、一戶隨亡、軍毅主帳、校尉揀帥各爲虎狼、更相徵索、唯求苟不合、乘勢生疵、當有違闕、責庸倍多、唯利惟視、無憚憲章、因斯强士恥名、懦夫畏責、無告之人猶不得免、裸身蓬頭知用鎌銛、弱臂瘦肩何任彎弓、無粮而來、尋即逃去、寬其窮困、競習生常、依法爲罪、追捕滿獄、由役求食、甘之山野、他役難禁、率（オホム子）斯之漸也、臣等商量、解却兵士、停廢軍毅、更擇富饒遊手之兒、名曰選士、免庸兼賜中男三人、在番時給日粮一升五合鹽二夕□、護府之兵往還經□、供承之勞劇於在國、調庸並免賜俗丁二人、此閑民俗甚遠弓馬、但豐後國大野・直（ナホリ）入兩郡、出騎獵之兒、於兵爲要、向府之程單行五日、別須給俗丁四人均平勞逸、假令氣體强壯、衣冠整鮮、雖暴惡之吏、不能關屓擔之役、然則田園歸耒耜（耜）之夫、城府來弓馬之士、

○選士統領卌二人、
衛卒二百人条中略

以前、正二位行中納言兼右近衛大將春宮大夫良岑朝臣安世宣、奏　勅、依奏廢置、唯統領者准軍毅

府銓擬其人言上、即令兵部省補任、

天長三年十一月三日

豐後国大野・直入両郡ハ騎猟ノ児ヲ出シ良兵ヲ得

大野郡

田口・大野・緒方・三重郷

散位藤原頼房上津八幡社ニ田地ヲ寄進ス

三　倭名類聚抄

豊後國

大野郡

田口　大野　緒方　三重

四　藤原頼房寄進状寫

○上津八幡社神庫古書古記留所収文書　大分県史料一三

寄進　八幡、

豊後國大野郡宮貞

國一（マヽ）所國司田地三段井尻五月五日九月九日神事□（免）

右願者、爲天長地久・御願圓滿・心中御願成就滿足也、仍寄進之状如件、

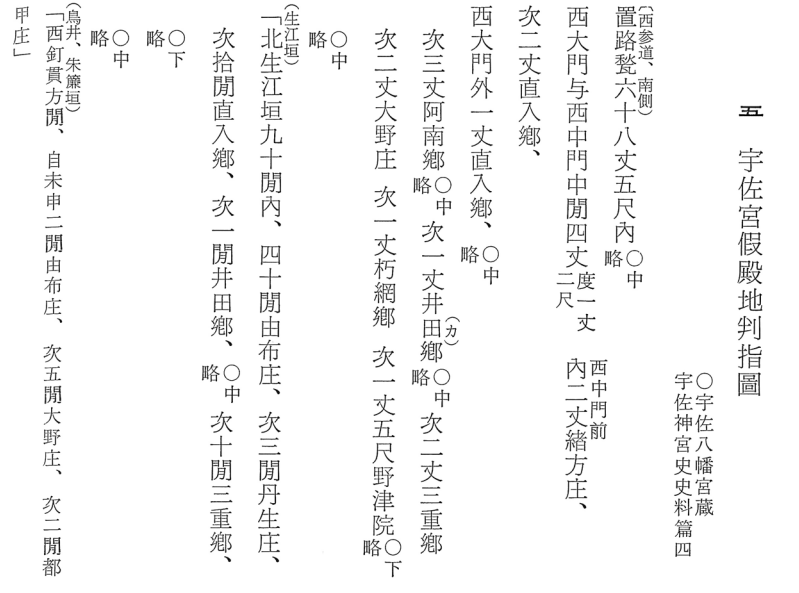
長徳參年十二月十三日

三位（マヽ）藤原頼房

○以下六・七号マデ検討ヲ要ス。

五　宇佐宮假殿地判指圖

○宇佐八幡宮藏
宇佐神宮史史料篇四



○中略

（南門南側外、簾垣ニ沿ヒ）「自南樓西脇、迄テ未申角、釘貫三十五間内、脇廿間

朽網郷、次十間佐伯庄、次五間佐賀郷、但柱一本立過之間、當時者、卅七間也、」

○中略

（北大門西側廻廊ノ北側ニ沿ヒ）「自北大門西脇、迄テ戌亥角、垣屋「廿八間」（加筆）（カ）脇「六（加筆）間笠和郷、次十間大野庄、次八間玖珠郡」　次二間

朝見郷、「次二間佐伯庄」（加筆）

○中略

（北大門廻廊南側）「北大門与北中門西内□間中門□□御、（マヽ）

六丈　大野庄　三丈　玖珠郡

□（輿）宿甃十八丈八尺内四丈三尺　武藏郷　三丈六尺

伊美庄

六尺　山香郷　一丈三尺　平丸保

○中略

大野荘

（西大門南側ニ廻廊アリ、東側ニ）「自西大門脇、迄テ未申角、　垣屋八間、　脇四間由布院、次五間三重郷、」

○中略

（経所ノ東側ニ）「玉垣三間　三重郷、」

○中略

（東北角ヨリ北ノ廻廊ニ続ク）「□（自）北中門東脇、迄テ丑寅角、玉垣九間脇六間（カ）□□

次三間三□（重郷カ）、」

○中略

（西廻廊）「

七尺五寸九間南樓脇一間、日田庄次一間八坂庄、次一間大神庄、

西廻廊拾間

七尺　一間次四間阿南郷庄、次三間井田郷、」

○中略

（加筆）「二内殿一宇三間各八尺

妻二間各七尺　」

（加筆）「東一間」大佐井（カ）郷、

（加筆）「西一閧　直入郷、」

○中略

（一外殿、相ノ間横書）（加筆）「内外殿」樋「合七尺」

○中略

（一殿向拝前）「一殿御前甃五丈六尺内

一丈一尺　津守庄、

一丈一尺　緒方庄、

三丈　三重郷、

四尺　臼杵庄、」

（一殿西側北方ニ北辰殿アリ、ソノ外殿内部）「外殿一宇

閧同前

但内外共ニ

（カ）緒方庄、」

○中略

（三ノ御殿外殿）（加筆）「外殿一宇三閧各八尺

妻二閧各七尺」

（加筆）「一閧」日田庄、

（加筆）「中一閧」□（丹カ）生庄、

（同）「西一閧」朽網郷、」

○中略

（三御殿向拝前）「三殿御前甃五丈二尺内

一丈三尺五寸　日田庄、

一丈三尺五寸　丹生庄、

一丈一尺五寸　朽網郷、

一丈一尺五寸　臼杵庄、」

（跋語）「件地判指圖者、

太大工

貞遠文治・國貞貞應・爲貞建長・貞行弘安等所持之

古本也、而虫喰令破損之閧、貞世新寫之、」

○右ハモト田原某氏所蔵本。宇佐神宮ニ寄進、平成二年国指定重要文化財トナル。此ニハ、大野・直入郡関係部分ヲ抄出ス。

六　深山八幡社神領坪付境注文案

○上津八幡社神庫古書古記留所収文書
大分県史料一三

大野泰基深山八幡社ノ料田神田等ノ坪付境榜示ヲ注ス

田口名

上村一万田

「深山宮神領幷坪付境等之事、上津大宮司安基(大野泰)ヨリ深山宮祝職江下知書一通、建久二年ヨリ嘉永五子年(マヽ)ヨリ六百六十二年ニナル、」

八幡　豊後國大野庄鎭守　深山料田・神田等坪付境方至ノ(榜示カ)置文注文事、

右田地者、散在シテ名〻内ニアリ、

一所　中村　田口名　二月神事免

一町　田益　霜月神事免

一所　上村　一萬田　多和後

此内半領家

七段小内　壹段御供田

貳段小流田　椋瀬前

壹段袴田前　二月神事免

一所　上村　田村名内

地頭一圓

壹段小　坂部東迫　三月三日神事免

一所　井尻　宮佐田名内

地頭一圓

三段　五月五日・九月九日神事免

上村　田村名

宮佐田名

袴田名

鷹匠園
和田園
春日
切木

大野安基

一所　尾崎前袴田名内
地頭一圓
貳段　八月彼(岸)擧放生會神事免

一所内　白地等之事、
宮迫　半分領家、名越之神事免

一宮原　領家一圓七夕神事免

一鷹匠園　半分領家燈油免

一和田園　同前　祝居所

一春日　同前

一所切木六段半内麥地貳段
野地四段半　神領

一惣堺犬なきより森塚の東の中の尾をふるの屋しろのあとをかきり、まめを迫大道を水守園をかきり、北は神領

一惣之堺ハ和田の前河をくたり河をかきり、もとの犬なきをさかう、

一神畠のはうし(榜示)、宮原の馬場の上、星の木の前ニ炭うめて是有、

一國司米の外ニかてう(加徴)米をめさるゝによて、社領を別ニ注ス、依仰置文注文、如件、

建久貳年三月十一日

大宮司大野(泰)安基　在判
小野祝所　在判

深山祝殿

七　深山八幡社神領田畠坪付注文案

〇上津八幡社神庫古書古記留所収文書
大分県史料一三

豊後大野庄鎮守深山料田神畠等坪付境方(傍示)至置文注文事、

右田畠地者、散在シテ名ゝ内ニアリ、

一所上村　田村名内

一段小　坂部東迫　三月三日神事免

一所井尻　宮佐田名内

三反　五月五日　九月九日神事免

一惣堺　自餘略之、

堺犬なきより森つかの東のおをふるのやしろのあとをかきる、まめを迫大道を水守薗かきりて、

北は神領、

一惣之堺ハ、

北にわたのまゑ河をくたり、河をかきてもとの犬なきをさかふ、

神畠のほうし、宮原のはゝの上、ほしの木の前ニすゝうめてあり、

國司
米の外ニかてう米をめさるゝによて、しやりやうを別ニ注す、依仰置(マヽ)注文如件、

建久二年三月十一日　　大宮司大野安基(泰)　在判

深山八幡社料田畠ノ坪付境榜示ヲ注ス

上村　田村名

宮佐田名

大野安基

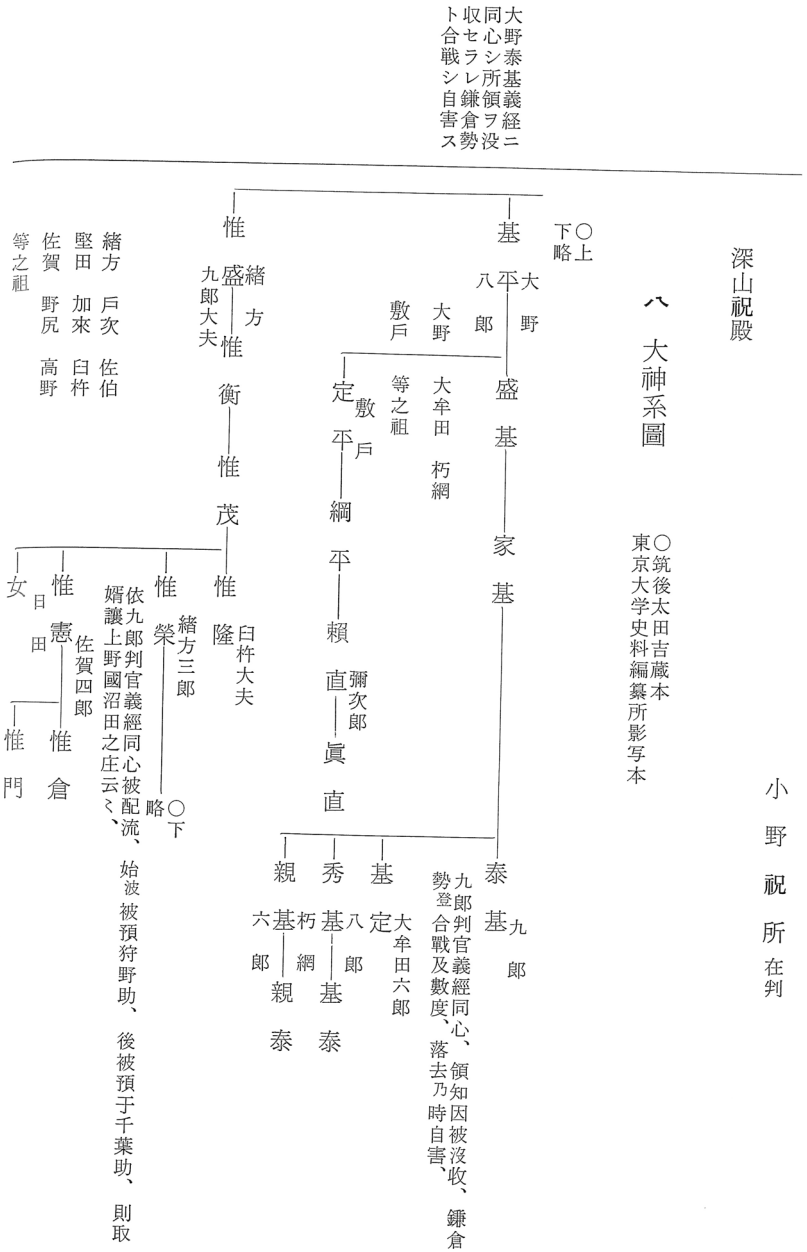
大野荘

深山祝殿

小野祝所在判

八　大神系圖

○筑後太田吉藏本
東京大学史料編纂所影写本



○上下略

- 大野基平
  - 盛基
    - 家基
      - 泰基　九郎依謀反無實之讒言自害畢、
      - 基定　朽網六郎
      - 秀基
        - 親基
          - 泰親
    - 定平
    - 綱平
    - 頼平
    - 頼直
    - 眞直
  - （自）柏杵惟盛
    - 惟衡
      - 惟用
        - 惟隆
        - 惟榮　緒方三郎
          - 惟村　野尻二郎
          - 惟友　直入三郎
          - 惟重　高野四郎
        - 惟憲　佐賀四郎

大野泰基謀反無実ノ讒言ニヨリ自害ス

○前号系図ト若干ノ異同アリ。

10　豊後國圖田帳案斷簡

〇到津文書
大分県史料一

姫嶋浦三丁　預所同地頭　件浦者海中之嶋也、本自非寺領、爲海人等之栖細庭許也云々、
櫛來浦十五丁　宇佐宮領　辨濟使　地頭宮沙汰
田伊太原浦十五丁　宇佐宮領　辨濟使地頭宇佐宮前祝太六大夫宮兼
一速見郡田代九百七十五丁餘
八坂郷二百餘丁　彌勒寺領　預所　地頭
竈門郷百餘丁　彌勒寺領　預所慶禪　地頭　漆嶋定房
朝見郷八十餘丁　宇佐宮領　辨濟使宇佐邦輔　地頭宮沙汰
石垣郷百五十餘丁宇佐宮領　辨濟使神官榮定　地頭宮沙汰
山香郷二百餘丁　彌勒寺領　預所同　地頭三人云々、
由布郷六十餘丁　彌勒寺領　預所同　地頭
一直入郡田代百六十餘丁　一大分郡田代千三百八十餘丁
一海部郡田代七百七十餘丁　一大野郡田代九百十餘丁
此内緒方郷三百餘丁
宇佐宮領二百四十餘丁

大野郡
緒方郷三百余町

一日田郡田代五百六十餘丁　一玖珠郡田代三百十餘丁

○建久八年ノモノナルベシ。

二　源石志壹譲状案

○石志文書
平戸松浦家資料所収

譲與　石志次郎源潔石志村土毛大枌内小野相知嶺南(カ)野田畠等事、

副渡本公驗親父靜西譲状　鎌倉殿御下文・本家藤内殿(天野遠景)御庄施行次第證文等事、

○四至坪付中略

右件田畠者、源壹之先祖相傳私領也、然以十郎源名爲嫡男雖可相別、未譲與以前既死去了、仍依無極慈愛、以石志次郎源潔爲嫡子、至于子々孫々無異論可領掌、豊後國大野九郎(泰基)謀叛之時、壹令豊後上尅、次第證文於者譲渡了、今又重譲状尤明白也、敢不可有後々將來妨状、如件、

承元二年戊辰潤四月十日　源　登　在判　源(石志)　壹　在判

石志壱肥前国石志村内田畠ヲ嫡子潔ニ譲ル

豊後大野九郎(泰基)ノ謀叛ニ出陣セシ時譲ルモ今重ネテ譲ル

三　吾妻鏡

(承元二年十二月)
○十八日癸未、晴、正五位下行掃部頭藤原朝臣親能法師法名寂忍卒、年六十六、于時在京、

中原親能京都ニ於テ卒ス

○廿六日辛卯、霰飛、今日掃部入道卒去事、有其告、去十三日五條大宮新造屋移徙、同十八日於件亭執終云々、

一三　備後法眼幸秀去文

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國安岐郷内諸田名事、本領主基貞・基秀等契約次第、先度令申候了、而以後日令寄附岩益御領之由、蒙仰候之條、無謂候之上、幸秀所領事、任本知行、可安堵之由、賜關東御下文候之閒、旁以雖可申異儀候、依難背御命候、去進候、爲一圓御領、可有御知行候、且御子息二王殿（志賀能郷）御事、不存疎畧候之閒、如此計申候、先日讓進候爲七ケ所之類領、後日者、可被思食宛候、仍狀如件、

貞應貳年七月廿五日　　幸秀（備後法眼）（花押）

一四　藤原大友能直讓狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

讓與、

所領豊後國内安岐郷横城山院主職、幷勝津留號高國符□（夷・長）小野・諸田名地頭職等事、

副渡　文書等、

右件所領所職等者、或自本領主等之手、讓得之、或有由緒、能直無相違所令領掌之來也、仍末子童

安岐郷諸田名ヲ大友能直ニ去リ渡ス
岩益御領
關東御下文ヲ賜ハル
七ケ所ノ類領

安岐郷横城山院主職以下ヲ末子仁王丸（能郷）ニ讓ル

関東御公事ハ嫡子親秀惣領トシテ支配スベシ違背セバ嫡子進退領掌スベシ

名仁王丸(志賀能經)仁、限永代、相副證文等、所讓渡也、但如此雖令分讓之、於關東御公事者、隨所領之大小、依得分之多少、嫡子大炊助親秀爲惣領、可令支配也、各隨嫡子之命、深可相思也、若於令違背嫡子之命者、件所領田畠等、嫡子可令進退領掌也、又無違背之儀者、任讓狀、無相違可令領知之狀、如件、

貞應貳年十一月二日　　前豐前守藤原朝臣(大友能直)（花押）

一五　藤原大友能直讓狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

大友能直豊後国大野荘地頭職相模国大友郷地頭郷司職ヲ妻平氏(深妙)ニ讓ル

「能直(端裏書)朝臣讓狀案文關東安堵案文」

讓與、

所領貳箇所事、

壹所　豐後國內大野莊地頭職

壹所　相模國大友鄉地頭鄉司職

副渡　關東御下文・親父掃部頭(中原親能)入道讓狀以下具書等、

右件所領等、賜關東御下文、年來之閒無相違所領掌之來也、而女房平氏(深妙)、爲數子母堂之上、依爲年來之夫婦、相副證文等、限永年所讓渡也、早任讓狀、無相違可令領掌也、敢不可有他妨、仍爲後日之證文、讓狀如件、

関東御下文親父中原親能ノ讓狀以下具書ヲ副渡ス

大野荘

貞應貳年十一月二日　　前豐前守藤原朝臣（大友能直）在判

一六　吾妻鏡

（貞応二年十一月）○廿七日乙丑、○中略　今日豐前守從五位下藤原朝臣能直於京都卒、年五十二、當時鎭西事、一方奉行之、有不慮事之時、子息次郎親秀相繼可致沙汰之由、蒙兼日仰云々、

一七　大友田原系圖

○入江文書
大分県史料一〇

能直―号大友、一法師、法名能連（蓮）、文治四年十一月十七日○下略
　　任左近將監、從五位上、
　　母大友四郎大夫經家女、

高倉院御宇承安二年壬辰誕生、廿五歲而建久七年丙辰豐後國下向、號大友豐前々司、左近將監矣、後堀河院御宇貞應二年甲午三月廿七日行年五十二歲、於大野藤北卒、

能直者源頼朝之實子也、母者大友經家之女、始爲頼朝之妾、後又使於掃部頭齋院次官藤原（後改中原於藤原姓）親能而嫁之也、能直幼而被養育親能畢、○下略

○卒年ヲ「貞応二年甲午三月廿七日」トスルハ、十二月ノ誤リ。源頼朝ノ実子トシ、大野藤北ニ於イテ卒ス、トスルモ誤リナリ。尚『大日本史料』五ノ二、「大友能直卒ス」ノ条参照。

大友能直京都ニ卒ス

尼深妙ニ相模国大友郷豊後国大野荘両地頭職ヲ安堵ス

尼深妙相模国大友郷豊後国大野荘両地頭職ヲ諸子ニ配分ス

嫡男親秀分

次男詫磨能秀分

一万田景直分

八郎志賀能郷分

一八　關東下知狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

可早以前豊前守能直（大友）朝臣後家尼（深妙）、爲相模國大友郷司地頭、并豊後國大野庄地頭職事、

右人、任譲狀、爲彼職、守同知行之例、可致沙汰之狀、任仰（マヽ）下知如件、

貞應三年四月廿三日

前陸奥守平（北条義時）　在御判

一九　尼深妙惣配分狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

所領配分事、

嫡男大炊助（大友親秀）入道分

相模國大友郷地頭郷司職

次男宅萬（詫磨能秀）別當分

豊後國大野庄内志賀村半分地頭職　在別注文、

大和太郎（一万田景直）兵衛尉分

同庄内上村半分地頭職　在別注文、

八郎（志賀能郷）分

九郎豊前能基分
女子犬御前分
女子美濃局分
帯刀時直後家分
能直ノ遺言
均分ノ状

同庄内志賀村半分地頭職　在別注文、
(豊前能基)
九郎入道分
同庄内下村地頭職　但故豊前ヶ司(大友能直)墓堂寄附院主職也、
女子犬御前分
同庄内中村地頭職
女子美濃局分
同庄内上村半分地頭職　在別注文、
帯刀(時直)左衛門尉後家分　數子在之、
同庄中村内保多田名

右、件所領等者、故豊前ヶ司能直朝臣賜代ヶ　将軍家御下文、無相違所知行來也、而尼深妙得亡夫能直之譲、賜　将軍家御下文、所令領掌也、依之任能直之遺言、爲孚數子等、如此所配分也、然者任均分之状、無依違可令領掌也、但　關東御公事被仰下時者、守嫡男大炊助(大友親秀)入道之支配、隨所領多少、可致其沙汰也、仍爲後日證文惣配分状、如件、

延應貳年四月六日　　尼深妙（花押）

二〇　尼深妙譲状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領田畠山野等事、

在豊後國大野庄内志賀村半分地頭職、

副渡　名々田畠在家注文幷□(惣カ)譲状目錄、

右、當庄者、尼深妙得亡夫故豊前々司能直朝臣之譲、任彼状、賜　將軍家御下文、無相違所令領掌也、而分譲當庄於男女子息等之内、於志賀村半分地頭職者、所譲與八男信寂(志賀能郷)也、任注文之旨、更無後代之妨、可令領知、但於　關東御公事者、隨所領田數、守嫡子大炊助入道之支配、可致沙汰也、仍爲後日證文、譲状如件、

延應貳年四月六日　　尼深妙（花押）

尼深妙大野荘志賀村半分地頭職ヲ八男信寂（能郷）ニ譲ル

二一　大野荘志賀村名々幷上家分田畠在家等中分注文

〇志賀文書
熊本県史料中世二

注渡、

在豊後國大野庄内志賀村名々幷上家分田畠在家等中分事、

一、大方名田數漆町半　本在家伍家

尼深妙大野荘志賀村ヲ中分シ名名並ニ上家分田畠在家等ノ注文ヲ八男能郷ニ渡ス

大方名

泉名
近地名
朝倉名
御用作
上家分在家

一、泉名田數貳町參反半　本在家貳家
一、近地名田數參町參反大　本在家貳家
一、朝倉名田數伍町壹反參佰歩　本在家參家
一、御用作田貳町伍反内漆反　桑原伍反　赤瀧
　壹町參反久木此内壹町者酒井寺經兗所寄附也、
一、上家分在家田畠等

壹所　大窪五郎　田壹町　薗壹町伍反
壹所　羽月　田肆反參百歩　薗壹町伍反
壹所　大森五郎　田捌反　薗壹町伍反
壹所　上別當　田參反　薗壹反
壹所　仲五郎　田伍反大　薗陸反
壹所　米次郎入道　田无　薗參反
壹所　公文　田伍反　薗壹反但半分定、

大方分

壹所　田村次郎跡　田壹町肆反　薗參反
壹所　鷹匠跡　田壹町　薗貳反
壹所　笠四郎跡　田玖反　薗貳反

壹所　石佛　　田參反少（マヽ）　薗伍反
壹所　佐多　　田漆反小　薗貳反
壹所　檜物跡　田漆反大　薗參反
壹所　清五　　田陸反　　薗參反
壹所　泉柚木　田陸反大　薗貳反

已上田數參拾町伍反

地頭給並ニ公文定使・散仕給

右、於當村者、次男能秀（詫磨）與八男信寂（志賀能郷）半分宛、所分與也、然者、所分讓信寂之名ゝ、幷上家分田畠在家等之注文壹方如此、地頭給幷公文・定使・散仕給等、同以各半分宛、可募之、但內免分酒井寺陸口經田貳町在之、同兩方壹町宛所定置也、於彼料田者、以地頭給內、可令引募之也、此外於目錄免佛神田等者、任先例、兩方可致其沙汰也、兼又名ゝ境次第、且舊跡有限、早依先例、任注文之旨、無相違可令知行之狀、如件、

延應貳年四月六日　　尼深妙（花押）

三　將軍藤原頼嗣下文案

〇志賀文書
熊本県史料中世二

（藤原頼嗣）
御判

下　（志賀）藤原能郷法師（法名信寂）

將軍頼嗣大野荘志賀村半分地頭職ヲ志賀能郷ニ

安堵ス

可令早領知豊後國大野庄内志賀村田畠山野半分地頭職事、

右、任母尼深妙延應二年四月六日譲状（公事子細載之）、爲彼職守先例、可致沙汰之状、所仰如件、以下、

寛元二年十二月四日

詫磨能秀分志賀村上家分ノ内庄田カ田六反屋敷一所ヲ志賀能郷ニ与フ

二三　尼深妙置文

○志賀文書
熊本県史料中世二

志賀村ノ境ニ関スル詫磨氏トノ争ニツキ能郷ヲ論ス

志賀村の上けふんの内、庄田か田六反、やしき壹所をハ、たくまの別當（能秀）□、先日わけつくるといえとも、信寂房（志賀能郷）之かたの便宜たるによて、信寂房にさ□（たカ）しつくるところ也、しかれハこのむねにまかせて、いらんあるへからさる状、如件、

建長六年六月卅日　　（尼深妙）（花　押）

能郷ハ一向深妙ノミヲ頼ム

二四　尼深妙書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

かつハ御心えのために、たくま（能秀）殿のもとへ、つかハし候ふミのあん、かきてまいらせ候、しかのむらのさかひのあひたの事、たくま殿よりも、やう〳〵に申させ給て候へとも、まことにそれよりおほせられて候ことく、御へんハ一かう、これはかりをたのませ給たる事にて候へハ、名ゝ上けふん等のしたい、さきのせうもんのむねニたかうましく候、かつハたくま殿へ、返事ニもこの

よしを申て候也、たゝしゐてのひ（井手）、たきくていの物（薪カ〳〵カ）なと、たくま殿（樋）のかたよりとらせ候ハんをハ、わつらひなくとらせたてまつらせ給へく候、おほかたハ、するまてもあいたかひに思あいて、上の御くうし（公事）なとの事をも、たくま殿ニ申あハせてをハしまし候へく候そ、せんなき下らうともの申候ハん事ニつきて、中なとあしくをハしまし候ハん事ハ、ないけ（内外）ともにあしく候也、くハしくハほうにん申候へく候、あなかしく、〳〵、

建長七年六月廿三日　　大たによし（谷）（花押）（深妙）

しんしやく（志賀能郷）の御房

京都大谷ヨリ

二五　志賀能郷譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

大野荘志賀村及ビ備後法眼幸秀譲与ノ所領ヲ嫡子泰朝ニ譲ル

信寂（能郷）所労ノ身ニテ上京ス

ゆつりわたす大のゝ庄内しかの□弁ひこ（備後法眼幸秀）のほうけんかうしうかさん□ところ〳〵の事、右件村者、しんしやく（信寂）かさは（風早）ややのあ□よりのゆつりを給り候て、ちきやう□候ところ也、仍ちやくしくら（嫡子蔵人）泰朝□（に、永代を）かきりてゆつりわたし候了、よつ□申をき候ところハ、しんしやくかみしよ（身所労）□身にて候あひた、京上もし候へハ、わと□ゆつりたてまつり候也、もしこれよりのち□にて候へハとて、いかなるゆつりありといふと□ともかく（カ）申とも、一かうにもちゐ給候ましく□てわのかうのとのにも、このやうの事□せられまいらせさせ給へし、仍こに□（ちのカ）ために、ゆつり状如件、

正嘉參年正月十五日

沙（弥信寂）
（志賀能郷）

二六　上津八幡社神寶造替注文案

〇上津八幡社文書
大分県史料一三

豊後國大野庄中村上津殿之御神寶三十三年ニ壹度かへまいらせ候色々の事、

一御ふくのきぬ　一きちやうのにしき
一御とちやうのきぬ　一そは障子させは
一御す三げん　同へりきぬ
一御はち三十二　御さら二百四十ミな朱
一御しとねのにしき
一御かけばん三十二せん
一御うハふき幷ニ御へいがきハ六年ニ壹度ツヽ、
一しるしの御はこ一がう、同かな物

右、注文如件、

弘長元年十一月廿日

地頭代景綱　在判

上津八幡社御神宝三十三年毎造替ノ注文ヲ記ス

地頭代景綱

沙弥明眞（大友能基）等下村泊寺院主職ヲ禅季ニ譲ル

尼深妙志賀村半分地頭職ヲ孫子泰朝ニ譲ル

名田内一所ヲ禅季ニ譲ル

二七　沙彌明眞（大友能基）・藤原（大野）基直連署書状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

大野庄下村内於泊寺院主職者、可爲帥公（志賀禅季）之沙汰、但云彼寺之勤行、云地頭之祈禱、任先例可致其沙汰之状、如件、

弘長貳年八月三日

沙彌明眞（大友能基）（花押）
藤原基直（大野）（花押）

二八　尼深妙譲状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　所領事、

在豊後國大野庄内志賀村半分地頭職、

右當庄者、得亡夫豊前々司能直之譲、任彼状賜　将軍家御下文、尼深妙無相違所令領掌也、而分譲當庄於男女子息孫子等之内、於志賀村半分者、所譲與孫子太郎（志賀）泰朝也、更不可有向後之妨、但此内名田壹所者、所思宛同孫子帥房禅季舎弟泰朝也、彼状在別紙、雖然於惣領者、可爲泰朝之沙汰、仍爲後日證文、譲状如件、

弘長貳年八月六日

尼深妙（花押）

二九　尼深妙證状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

大のゝ太郎(基直)、しかの太郎(泰朝)、大ともにやしき一所つゝ給ハりて、かまくらのやとなとにもし候はんと申候ときに、大のゝ太郎にハ、あら八かたやしき、志かの太郎にハ、くわす次郎かあとのたやしきを、あてたひて候也、かやうにハはからひて候とも、それの御めいにたかひ候はんときハ、いかようにも御はからひにてあるへく候、あなかしこ、

弘長貳年八月廿九日　　尼深妙　在御判

大友式部大夫(頼泰)殿

大野基直・志賀泰朝ニ大友郷内ノ屋敷ヲ譲ルモ命ニ違フ時ハ惣領ノ計イトス

大友郷伊藤三郎跡屋敷一所田一町六反ヲ志賀泰朝ニ譲ル大友頼泰ノ命ニ従フベシ

三〇　尼深妙置文

○志賀文書
熊本県史料中世二

大友の伊藤三郎かあとのやしき壹所、ならひに田壹町六反をハ、しかの太郎(泰朝)に思あつるところ也、しきふの大夫(大友頼泰)のめいにあいしたかひて、ちきやうすへき状、如件、

弘長貳年十一月八日　　尼深妙（花押）

三一　志賀泰朝・尼深妙連署譲状案

志賀村内近地名並ニ筑紫尾寺ヲ孫子禅季ニ譲ル

禅季ヲ深妙及ビ能直ノ孝養報恩ノタメ法師ニナシ風早墓堂ニ置ク

泰朝ノ要望ニヨリ朝倉名ト交換ス

譲與、

豊後國大野庄志賀村内近地名地頭職幷同村内筑紫尾寺事、

右於彼名彼寺者、限永代、所譲與孫子帥房禪季也、更不可有向後之妨、仍付件名寺於田畠山野料田幷門田門畠正用作等者、聊毛不違、日來可爲禪季之沙汰也、但於　關東御公事大番役等者、任名本公田員數、守惣領之配分、可致其沙汰、加様所分事、禪季之父(志賀能郷)信寂房、雖可相計之、爲所勞者之上、當時彌無正躰之閒、且禪季をハ、尼幷故殿(大友能直)か孝養報恩をもせさせんかため二、とりわき法師ニ成て、風早の墓堂ニ令置之閒、如此相計者也、但先ニハ朝倉名を禪季雖譲與之、太郎泰朝强歎申之閒、立替彼兩所譲與禪季者也、加様ニハ雖所分、信寂房一期之閒者、相隨彼命、可致其沙汰也、仍爲後日證文、譲状如件、

弘長三年七月二日

尼深妙　在判

(志賀)藤原泰朝　在判

大野荘

三　尼深妙置文

○志賀文書
熊本県史料中世二

酒井寺経免岩益用内一町ニ替ヘ上家分庄田ノ田屋敷ヲ充テシム

岩益用五町ノウチ各二町五反

志賀村半分地頭職ヲ志賀泰朝ニ安堵ス

酒井寺經免事、志賀村兩方に壹町あてさためをくうち、信寂房（志賀能郷）のかたの分ニハ、岩益用内壹町をもてたつへき歟のよし、さたありといへとも、かきりある地頭用作のうちを料田になさん事ハ、地頭のため、するもわつらはしく候ぬへけれハ、たくま殿かたの法乗房か經免のことく、信寂房之方ニも、上家分のうちをもて、經免ニハたてらるへき也、しかれハ、庄田の田やしきハもとより、信寂房の分たるへきよし、たくま殿にも申をきたる事にて候しかハ、くたんの庄田をもて、酒井寺の經免にハたてられ候て、岩益用伍町にをいてハ、もとつほをたかへす、兩方貳町伍反あてニさたあるへき也、仍さためをくところ如件、

弘長三年正月廿七日　　尼深妙（花押）

三　将軍宗尊親王家政所下文

○志賀文書
熊本県史料中世二

将軍家政所下　藤原（志賀）泰朝、

可令早領知豊後國大野庄内志賀村半分地頭職除舎弟分事、

右、任祖母尼深妙（前豊前守能直後家）弘長二年八月六日譲状、可令領掌之状、所仰如件、以下、

文永元年三月廿日　　知家事清原

令左衛門少尉藤原
別當相模守平朝臣（北条政村）（花押）
武藏守平朝臣（北条長時）（花押）

三四　明眞大友能基書狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

関東下文ヲ成サレシヲ告ゲ深妙ニ之ヲ譲状ト共ニ送ル

（端裏書）「御教御房御文
關東あんとの御下文の事」

成安堵御下文候、進候、爲御不審、入尼（深妙）御前・大友（頼泰）殿見參候也、加様無相違成候事、可然御事候、尼御前御世之後、令申給候御事者、無量御久事共にて候ハんするに、尼御前存世之時、如此成候事、自他悦入候、兼又尼御前之御譲状、御下文につけ具て進候、此御譲状に付てなりたる御安堵にて候時に、今者これそ御邊の御證文にて候ハんする所候、委細之旨光忍房可申候、恐々謹言、

（文永元年）卯月十六日　　明眞（大友能基）（花押）

進上　志賀太郎（泰朝）殿

三五　尼深妙置文

○志賀文書
熊本県史料中世二

ふこのくに大のゝ庄のむら〳〵の事、
ことのゝゆいこんにまかせて、又二らうに（大友能直）、むねとゆつるへかりしかとも、さきたちぬるうへハ、しんしやくハうあに（志賀能郷）（兄）ゝてもあれハ、そうをゆつるへけれとも、いたわり（労）の物にてあるあひた、男女の子ともに、めん〳〵にわかちゆつるところなり、たゝしあいつくへき子もなく、又上の御ためにもふちうの事あらん時ハ、たま〳〵やすとも（志賀泰朝）あまかとりわきふひん（不愍）におもふあいた、さやうのともからのあとをハ、申給てちきやうし、あまならひに（尼）ことのゝ（故殿）、けうやう（孝養）をもすへきなり、よてのちのために、しやうくたんのことし、

文永二年二月十三日　　深　妙（花押）

三六　尼深妙下文

○志賀文書
熊本県史料中世二

下
豊後國大野庄下村内泊寺院主職事、
右、任明眞房（大友能基）之譲、禪季阿闍梨早可令寺務、仍彼寺領田畠山野泉屋敷田畠等、悉領知之、限永代可

大野荘村々ハ能直ノ遺言ニヨリ又二郎朝直ニ譲ルベキ所夭死ニツキ能郷ニ譲ル筈ナリ

能郷所労ノ間諸子ニ譲ル子ナク又不忠ノ時ハ泰朝知行スベシ

明真房（能基）ノ譲ニ任セ禅季ヲシテ泊寺院主職ヲ沙汰セシム

相傳領掌、專修　將軍家御祈禱、殊可祈一門無爲者也、爲斷向後違亂、所成下(々、)之如件、

文永貳年參月廿三日　　尼深妙（花押）

禪季一期ノ後ハ近地名地頭職ヲ志賀泰朝子息ニ譲ル事ヲ約ス

三七　僧禪季契狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

近地名地頭職事、故風早禪尼(深妙)より譲給候し時、禪季一期之後者、敢不可譲別人、志賀太郎(泰朝)子息出來ハ、弟子にもし、養子にもして可譲之由、眼前ニ仰を蒙て候しかハ、深其旨を相存て候也、一切他人ニハゆつるましく候、若あらさるはからひをして候とも、またく不可成證文候、但禪季ため不忠向背出來之時ハ、不可依祖母(深妙)遺言、他人にも可申付候也、そのやうを御存知候へく候、又禪季身として、此契狀をたかへ候ハんために、非分もとめ、とかを申出候ハん事ハ、人きゝ顯然候ハんすれハ、其をハ不可有御用候、仍爲後日、契狀如件、

文永八年三月五日　　僧禪季（花押）

蒙古人用心番ハ

三八　豊後守護大友頼泰書下案

○志賀文書
熊本県史料中世二

「是(端書)ハ大友殿御下知案也」

蒙古人用心番、就惣名志賀太郎(泰朝)、可被勤仕由事、可存其旨候、仍執達如件、

惣領志賀泰朝ニ就キ勤仕スベシ

文永十二年　五月十二日　　前出羽守（大友頼泰）　在判

三九　僧禪季申狀案　○志賀文書　熊本県史料中世二

禅季惣領守護所（大友頼泰）ノ催ニヨリ異国用心以下ノ所役ヲ勤仕セシコトヲ訴フ

大野庄志賀半村南方内近地名地頭僧禪季言上、

欲早停止志賀太郎泰朝半村惣領催促、預惣領守護所御催、令勤仕異國用心已下所役子細事、

副進、

一通　守護所御下知狀案

大番以下田率所課ハ泰朝支配

件名地頭職者、爲風早禪尼御計、割分彼半村内、禪季所相傳也、爰於大番以下田卒（率カ）所課者、守泰朝支配、令勤仕事不及子細、至于異國防禦重事者、直宛禪季之身、預惣領守護所御催、欲令勤仕、其故者、忠失之次第、兼雖難存知、若致分限大功之時者、且預　關東御注進、且爲顯其名於御引付也、但禪季在京之跡、尪弱之代官屬泰朝、可被止惣領守護所各別御催之由、出乞索狀歟、此條禪季一切所存（不脱カ）知也、至于異國用心事、預惣領守護所御催、爲抽忠功、仍粗言上如件、

分限大功アラバ関東ニ注進シ名ヲ引付ニ顯ハスベシ

建治二年閏三月十五日　　僧禪季　在判

四　志賀泰朝陳状案

志賀泰朝陳答シ濫訴ヲ停メラレンコトヲ請フ

「志賀阿闍梨御房」（異筆）

「是ハ泰朝か陳状案也」　「建治二泰朝」（裏書）

藤原泰朝（志賀）謹辨申、

爲舍弟近地阿闍梨禪季構今案、且違證文風早禪尼讓狀、且擬背惣領泰朝可勤別役由、致濫訴無謂事、

副進、

一通　風早禪尼（深妙）讓狀案弘長二年八月六日

一通　禪季所進守護所御下知狀案五月十二日付文永十二年

禪季訴狀云、近地名地頭職者、爲風早禪尼御計、割分彼半村內、禪季所相傳也、爰於大番已下田卒（率）所課者、守泰朝支配令勤事、不及子細、至于異國訪禦（マヽ）重事者、直宛禪季之身、預守護所御催、欲令勤仕云々、取詮此條存外之濫訴也、志賀半村號南方者、泰朝所領也、而風早禪尼當村內近地名事、雖宛給于禪季、於惣領者、可爲泰朝沙汰之旨、讓狀明鏡之上、如被仰合者、禪季實子出來者、當名相傳事不及子細、無實子者、可讓與于泰朝子息云々、仍年來大小御公事、付泰朝之支配令勤仕來之條、至于禪季所進之蒙古人用心御下知狀炳焉也、何背禪尼讓狀幷惣領守護所御下知狀乎、爰禪季挾私曲、或讓渡當名於他人戸次太郎子息、或可勤各別御公事之旨令申之條、已違禪尼之狀等畢、脇名相離事

風早禪尼深妙ノ讓狀及ビ仰セ言

禪季近地名ヲ戸次太郎子息ニ讓ラントス

脇名

他人和与

詫磨長秀嫡子泰長ニ所領ヲ譲ル

志賀村堀池名

者、廣博之仁猶以被痛申者歟、況於恁弱泰朝乎、尤所賢察也、且守御廻文、自去後三月二日、以舎弟朝秀、爲要害警固、雖差進香椎宮中、至禪季者、稱致訴訟之由、打留當役之閑、泰朝一身之計略、不合期之條、難堪之次第也、所詮證文等嚴重之上者、不可及別子細歟、早且付泰朝之支配、令勤仕御公事等、且止他人和與之儀、任禪尼遺言、可致當名沙汰之由、欲被仰下矣、仍披陳言上如件、

建治二年四月　日

四一　藤原詫磨長秀譲状案

〇詫摩文書
大分県史料一二

譲與　相傳所領幷所職等事、

ちやくし泰長分

一、豐後國大野庄内志賀村ほりけ(堀池)の名地頭職幷うき田上家分田畠及公文職事、

一、肥後國神藏庄内千見名地頭職事、

一、同庄内石乃名地頭職幷一庄圖師職事、

一、同庄内弘納名地頭職但除女子、幷舎弟分

一、同庄内十禪師神主職事、

一、同庄内惣別當職事、

一、門内鳥栖田地屋敷但女子等分除之、

一、あきたの郡内惣社名宮敷地以下地頭職、

右件所領等地頭職幷職(所脱カ)等、長秀相傳乃所領也、祖父大友豊前々司能直、親父詫摩(マヽ)別當能秀代々將軍家御下文を給て、知行さを(相違)いなし、しかるをなかひて又能秀(長)之ゆつりを得て、をなしくあんとの御下文を給候て、令知行者也、關東御公事於ほ(マヽ)者、所領のふんけんにしたかひて、のこりの子息をあひもよをして、きんしせしむへき狀、如件、

弘安貳年卯月卅日　　藤原長秀(詫磨)　在判

四三　采智房請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

(端裏書)「(采智房請文)」

泊寺給證文貳通内、壹通尼御前(深妙)給讓狀、壹通木工助(田中)殿泉屋敷御去狀等正文、請取候了、但券渡用途事、大谷惣門之屋地引懸、爲貳拾貫(貫脱)可進證文之由、江左近入道被仰之旨蒙仰、彼地本直錢拾貳文候、其上家造候閒、十五貫文相當候者、令進候了、仍殘五貫文候歟、其分者、可被仰正員之狀如件、

弘安六年十二月十九日　　采智（花押）

泊寺証文二通ヲ請取ル大谷惣門ノ屋地

泊寺証文二通ヲ田中殿ニ渡シ代銭三十貫文ヲ請取リ京ニ送ル

四三　成重請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

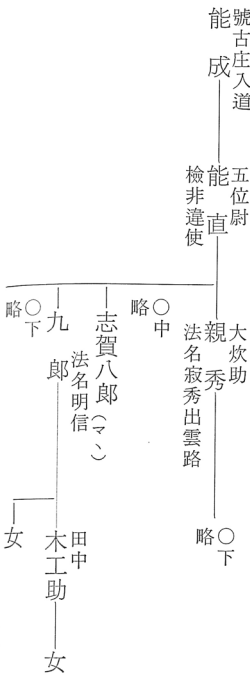
故風早尼御前泊寺御譲状、幷木工助(田中)殿泉和與御状、慥預知了、つくしへ持下候て、田中殿より代銭卅貫文御沙汰候者、彼御證文二通ハ、田中殿へ付渡まいらせて、御用途をハ、たしかに京へさたし進候へく候、若用途御無沙汰候者、此御證文等、たしかに返上すへく候、ゆめ〳〵しとけなき事有ましく候、仍爲後請状如件、

弘安七年二月廿五日　　成　重（花押）

田中木工助

四四　大友系圖

○野津本大友系図
国立歴史民俗博物館研究報告五



○田中木工助ハ明信（明真房・能職）ノ子ナルコト、明カナリ。田中木工助ハ大野基直（二七・二九号）ト同一人物ナリ。

四五　豊後國大田文案

○平林本鎌倉遺文一五七〇〇号

豊後国大田文ヲ注進ス

御注進状案豊後國田文事
弘安八年十月十六日豊後於府中
脚力　菊正　在判
豊後國中神社佛寺權門勢家庄薗國領公田及領家・領所（「預」）・地・辨濟使（頭脱）等交名事、
注進合田代六千七百廿八町餘捌箇郡
○中略
弘安八年九月晦日　　沙彌道忍（大友頼泰）裏ー
謹上　信濃判官入道（二階堂行忠）殿

一　豊後國直人等注申、
當國八郡　國崎　速見　直入　大分　海部　大野　日田　球珠
一　田數幷領主等事
○国崎郡以下中略

大野荘

大野荘
中村
下村
上村
志賀村

一　大野郡八百七拾町内

大野庄參百町

領家　三聖寺

地頭
中村七拾六町　地頭戸次太郎重頼（ママ）

下村百町内

六拾玖町九段小　大野太郎基直跡同女子改藤原氏、

貳拾二町壹段三百歩　大野太郎基直妹藤原氏

五町六段三百歩　同氏女妹善修理亮廣（衞カ）妻、今死去、

子息鶴丸

貳町貳段　助阿闍梨良慶

上村五拾壹町内

貳拾五町五段　横尾尼跡御所女房按察御局

貳拾五町五段　大和太郎兵衞入道連慶跡同孫鶴丸

志賀村七拾參町内

參拾六町五段　詫摩別當能秀丶時秀　本ノマヽ、次郎カ

詫摩

同新三郎資秀、同四郎太郎泰長法名寂尊、各分領不分明、

參拾參町壹段小　志賀太郎泰朝法師法名阿法　嫡子藏人大郎（ママ）貞朝、貞親烏帽子云云、

国領三重郷

国領野津院

国領井田郷

緒方荘

税所

小野幸直

參町參段　大輔阿闍梨禪秀（季）、阿法余弟（舎カ）

國領
三重郷百捌拾町

地頭　新（日カ）陸奥守殿（秋カ）（秋田泰盛カ）

國領
野津院六拾町

地頭　野津五郎賴（宗ノ誤）末宇有憚法師法名阿一

井田郷捌拾町五段　イ五十町

地頭　相模三郎入道殿（北条資時）女子

緒方庄貳百捌拾町

宇佐宮領

地頭　大友兵庫頭入道殿（頼泰）

○日田郡
以下中略

都合庄郷五十八箇所

田數六千八百七十參町

右、田代分限、領主相傳本御下文有無、未尋究、粗如此、子細之旨、重令注進言上之狀如件、

税所

弘安捌年玖月　日

小野朝臣幸直　在判

四六　豊後國圖田帳案

○内閣文庫本
鎌倉遺文一五七〇一号

豊後国図田帳ヲ上申ス

大野荘
中村
下村

豊後國圖田帳

弘安八年十月十六日自國府被立脚力早、豊後國田代之事、國中寺社佛神領等幷權門勢家莊園領・公田領家・領所（マヽ）・地頭・弁濟使等交名之事、

○中略

弘安八年九月晦日　　沙彌道忍（大友頼泰）　裏判

謹上　信濃判官入道（二階堂行忠）殿

豊後國直入等記申、

當國八箇郡分　國崎・速見・直入・大野・海部・大分・日田・玖珠田數領主等之事、

○国東郡以下中略

大野郡八百七拾丁他本云九百拾餘丁、太郎親繼

大野莊三百丁他本云三百三拾餘丁、領家三聖寺

中村七拾六丁　地頭職戸次三郎重頼

下村百町内六拾九町九段小　大野太郎基直女子相續

二拾一町一段三百歩　基直妹相續

五町一段三百歩　同氏女善修理亮廣衡妻

三町一段　輔阿闍梨良慶、死去後子息鶴丸

上村

上村五十一町内二十五町五段　横尾局跡御所女房按察御局

二十五丁五段　大和太郎兵衛入道孫鶴丸(マヽ)連慶撿挍

志賀村

志賀村七拾三丁内三拾六丁五段　託摩(マヽ)別當能秀・同次郎時秀法名寂尊・同新三郎資秀・同四郎太郎

泰長配分

三重郷

三拾三丁一段小　志賀太郎泰朝法名阿法嫡子藏人太郎貞朝、貞親烏帽子(マヽ)繼云、

国領野津院

三重郷百八十丁　新田(秋カ)陸奥守(秋田泰盛カ)殿

國領野津院六拾丁　地頭職野津五郎賴宗法名阿一

井田郷

井田郷八拾丁五段　地頭職相模三郎(北条資時カ)入道殿女子

緒方荘

緒方荘二百八拾丁　地頭職大友兵庫入道殿

〇日田郡以下中略

都合田代六千八百七拾三町

(大友頼泰)沙彌道忍　在判

四七　豊後守護大友親時書下

○志賀文書
熊本県史料中世二

風早東西阿弥陀堂時衆ノ訴ニ対シ志賀泰朝ニ左右ヲ申サシム

風早東西阿彌陀堂時衆等申、背風早禪尼(深妙)置文、被對捍被相節由事、今月廿日奉行所奉書案、幷訴狀具書如此、所申無相違者、任置文、可被致沙汰、若又有子細者、早可令明申給、仍執達如件、

弘安十一年三月廿日　　因幡守(大友親時)（花押）

志賀村一方地頭太郎(志賀泰朝)入道殿

詫磨時秀大野荘板井迫名宮迫名以下ヲ熊鶴丸ニ譲ル

四八　詫磨寂尊時秀譲状案

○詫摩文書
大分県史料一二

(端裏書)「いまきひてよりさたしけへの譲狀案文」(ときひてカ)

又、とりのす(鳥栖)に、たいちやうちきやうすへし(田一町)、如件、在判

譲與　くまつるくわさに(熊鶴冠者)

ふこのくにをゝのゝ庄内いたいさ(豊後国大野)(板井迫)この名田やしきら・同ミやさ(宮迫)この名・同上家ふんのやしきたらも、神藏庄内十せんし(十禅師)のいたゝのやしき所職等内、七ハわりのやしき職等なり、與安の名内田壹町、しとのやしろ(志登社)にた四丁、件(マヽ)

右件所ゝハ、將軍家御下文給候て、ちとうしきさ(地頭職相違)をいなく、ちきやうするところ也、しかるを、く

まつるに、ゆつりあたふところ件、(マヽ)

弘安十一年四月廿五日　　(詫磨時秀)沙彌寂尊　判

船津へ下ル日ヲ問フ

泊寺ノ事ニツキ預所方ヨリ申事アルニヨリ見参シ談合シタシ

泉寺ニツキ田中殿モ見参ニ入リタシ

四九　光忍書狀(紙折)

○志賀文書
熊本県史料中世二

いくかの日、(船津)ふなつへハ御くたり候ハんするやらん、この事さたまり候なハ、人夫の事事(衍)もよういし仕候へく候、

自西方、重泊寺の事につけ候て、預所のもとより、わつらハしき文の候を、けさんに入候て、申合まいらせ候て、返事申候へく候、又光忍もまいり候て、申合まいらせ候へく候へとも、泉寺の事も御定候ハんために、田中殿も御けさんにいるへきよし、申せとおほせの候、方〻につけ候て、いらせをしまし(ハ脱カ)候ハヽ、しかるへく候、あなかしく、

十一月十三日　　光　忍（花押）

阿闍梨御房

吾　田中後家書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端裏書）「田中後家状泊寺事」

なを〳〵かやうのさた、そうとし候にても□給候へ、まいりかよいてあらハせ給候ハん事ハ、なに事か候へきに、かように申され候、もとよりをんをかふらせ給て候ける、そのよしを申させ給候へ、

泊寺ニツキ領家方ヨリ訴訟戸次貞直

五月六日御文、廿二日ニくハしくうけ給候ぬ、さしたる事候ハぬほとに、一向申さす候事、こゝろよりほかにおほえて候つるに、この御文よろこひおほえて候、さてハとまり（泊）のあんとの事ハ、りやうけかたより、そせういてきたり候て、六はらにてそちん（訴陳）におよひて候事も、いまたさたまらす候へハ、あんとを申候ハんとて、しゆうそのきよしやうを申候へハ、へつき（戸次）のまこ（貞直カ）太郎殿かたより、さゝへられ候ほとに、いまたきよ状をも給候はす候、御心へのために、そちん（訴陳）のあんまい（案）らせ候、爾後御あきらめあるへき事をハ、のこして候、御あきらめもあるへく候、又とまり（泊）のあんと申、心へられすとおほせられて候事、まことに心へす候、とまりの事ハ、たうちきやうせぬほとの事の候ハん時ハ、もとのせにをもかへし候ハん、それかない候ハすハ、せにゝあたり候ハんほと、ちか（近）ちをもさたせられんとおほせられて候、これよりハ わつらひいてきたりて、むつかしく候ハン時ハ、もとのせにを給候て、さりのき候ハんと申て候、このしやうとんを、せうもんとおほせられ候

泊寺ヲ当知行セザル場合ハ本銭ヲ返ス

不可能ノ場合ハ近地名ヲ渡ス

田中後家ノ申分

やらん、たうちきやうせぬほとの事の候はさらんにハ、なんのゆへにか、あたいをもかへされまいらせ候へき、おほかた心へられす候、あなかしく、

五月廿二日

封

（田）
た中より

そつのあ□（さ）りの御房御返事
（舳阿闍梨禅季）

志賀村ヲ中分セシム

検注相論ニツキ志賀泰朝御下知違背ニヨリ地頭職ヲ召シ置カル

少弐盛経ニ仰ス

五一　關東御教書

○志賀文書
熊本県史料中世二

三聖寺領豊後國大野庄雑掌與志賀村半分南方地頭大友豊前八郎太郎入道（志賀泰朝）阿法相論検注事、阿法依御下知違背之咎、雖被召置地頭職、無罪科之由、所陳申依有子細、所返給也、早且相觸寺家、且仰筑後前司盛經（少弐）、守一庄平均之例、任両方申請之旨、可令下地中分之状、依仰執達如件、

正應五年五月十日　　陸奥守（北条宣時）（花押）

相模守（北条貞時）（花押）

越後守（北条兼時）殿

丹波守（北条盛房）殿

六波羅探題

大野荘

五二　六波羅施行状　○志賀文書　熊本県史料中世二

六波羅探題少弐盛経ニ下地中分ノ命ヲ施行ス

三聖寺領豊後國大野庄雑掌與志賀村半分南方地頭大友豊前八郎太郎(志賀泰朝)入道阿法相論摸注事、今年五月十日關東御教書如此、早任被仰下之旨、可被中分下地候、仍執達如件、

正應五年閏六月廿二日　　丹波守(北条盛房)(花押)
　　越後守(北条兼時)(花押)

大宰少貳(少弐盛経)殿

五三　藤原爲雄奉綸旨案　○天理図書館蔵三聖寺文書　東京大学史料編纂所影写本

頼雅律師ノ濫訴ヲ棄却ス

(端裏書)「綸旨案　大野庄賴雅律師濫訴永被棄置由事」

三聖寺領豊後國大野庄内志賀・上両村幷木中門腋地等事、永被棄置賴雅律師之沙汰候了、此上者、向後不可及御沙汰之由、天氣所候也、仍執達如件、

(永仁二年カ)十一月五日　　右中將爲雄(藤原)

道然上人御房

○年未詳。『公卿補任』永仁三年（一二九五）条ニヨレバ、藤原為雄ノ中将タルハ永仁二年三月廿七日ニ右中

将蔵人頭ニ任ジ、同三年六月廿三日従三位右衛門督トナル。彼ガ綸旨ノ奉者トナルハ蔵人頭補任以後ナルベク、本文書ハ同年十一月ノモノナラン。

吾　關東評定事書幷御教書案

〇東寺百合文書京
鎌倉遺文一九四一六号

自關東被送六波羅御事書法

一　可停止越訴事、

〇中略

一　質券賣買地事、

右、以所領、我入流質券、或令賣買之條、御家人等侘傺之基也、於向後者、可從停止、至以前沽却之分者、本主可令領掌、但或成給御下文・下知状、或知行過廿箇年者、不論公私之領、今更不可有相違、若背制符、有致濫妨之輩者、可被處罪科矣、

次非御家人・凡下輩質券買得地事、雖過年紀、賣主可令知行、

一　利錢出擧事、

右、甲乙之輩要用之時、不顧煩費、依令負累、富有之仁專其利潤、窮困之族彌及侘傺歟、自今以後、不及成敗、縦帯下知状、不辨償之由、雖有訴申事、非沙汰之限矣、次入質物於庫倉事、不能禁制、

大野荘

質券売買地ヲ停止シ本主ヲシテ領掌セシム

御下文御下知状ヲ給ハリ或ハ二十箇年過グル者

非御家人・凡下

利銭出挙ハ沙汰ニ及バス

関東御教書案

下村泊寺院主職
兼地頭職ヲ舎兄
志賀泰朝ニ譲ル
養父明真房ヨリ
譲得
大野基直後家尼
善阿ニ売ル
関東御徳政
当作毛ヲ中ニ置
クベシ
脚気所労ニヨリ
死門ニ及ブニツ
キ譲ル

關東御教書、御使山城大學允同八月十五日京著、

越訴幷質券賣買地、利錢出擧事、〻書一通遣之、守此旨、可被致沙汰之狀、依仰執達如件、

永仁五年七月廿二日

陸奥守　在御判
宣時
相模守　在御判
貞時

上野前司殿宗宣

相模右近大夫將監殿宗方

三五　僧禪季譲狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

奉譲渡舍兄志賀太郎入道（泰朝）殿豊後國大野庄下村泊寺院主兼地頭職事、

右件寺者、自祖母深妙・養父明眞房（大友能基）手之○譲得之、知行領掌無相違、而依有直用、去弘安六年之比、相逢大野太郎基直後家尼善阿、賣渡直錢肆百五拾貫文畢、爰　關東御徳政諸國平均之法出來之閒、依令致其沙汰、前司退出之刻、賣地等事、關東御教書到著之程者、可置當作毛於中之由、自上總守（北条実政）殿被仰出之閒、存其旨之處、依脚氣所勞更發、既及死門之閒、限永代所譲進也、無他妨可令知行給之狀、如件、

永仁五年八月五日

僧禪季（花押）

泊寺ヲ志賀泰朝ニ交付セシヲ上申ス

笠和郷富成名勢久世宇屋敷塩浜ヲ本名ヨリ押領セラル　志賀村中分以後ハ無力トナル

五六　植田朝綱代大神成綱請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

大野庄下村内泊寺事、任　關東御教書御事書之旨、可沙汰付之由、預御書下候之間、令相向彼所候、相觸論人田中後家候之處、無別子細、被去退候之間、任去十五日御書下、令沙汰付本主候了、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

永仁五年十月廿一日　　植田三郎朝綱代子息大神成綱（植田）請文（花押）

五七　志賀泰朝愁狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

笠和郷（大分郡）富成名内勢久世宇屋敷鹽濱事、風早殿（尼深妙）御讓以後、數十年當知行無相違候之處、本年四月廿四日、自本名號有御書下、苅取作麥、被押領候之條、歎存候、其上志賀村中分之後者、彌罷成無力候之間、別御計をも可罷蒙之旨、相存候之處、今又本知行分、被召上候之條、殊愁歎候、且最少地候、尤預御愍憐、令安堵候者、所仰候、以此旨、可有申御沙汰様候覽、恐惶謹言、

正安元年
五月十日　　沙彌阿法（志賀泰朝）　在判

進上　家中入道殿

五八　豊後守護大友頼泰書下（折紙）　○志賀文書　熊本県史料中世二

志賀太郎（泰朝）入道申、給所笠和郷（大分郡）富成名内屋敷鹽濱、自本郷令濫妨由事、如申者、不便、可安堵之旨、可令下知給之状、如件、

正安元年六月十一日　（大友頼泰）（花押）

左近大夫殿

志賀泰朝ノ訴ニヨリ笠和郷本郷ノ濫妨ヲ停止セシム

五九　大友貞親（カ）書下　○志賀文書　熊本県史料中世二

豊前八郎太郎（志賀泰朝）入道阿法代頼秀申、大野太郎基直後家尼善阿抑留大野庄下村内泊寺本證文等由事、如頼秀申者、當寺院主職兼地頭職者、帥阿闍梨禪季相傳之所領也、而以去弘安六季沽却善阿畢、爰質券賣買地事、本主可令領知之由、被下關東御事書之閒、致其沙汰之處、賣地等事、關東御教書到來之程者、可置當作毛於中之由、被成博（多）□御施行之閒、爲其儀之處、禪季依所勞他界之時、讓與于阿法畢、阿法依申子細、仰御使吉藤三郎、可沙汰付之由、被成守護所御下知之閒、阿法如元雖令知行之、善阿所抑留本證文貳通（大友能基）本主明眞讓養子禪季狀也、凡當寺分早田貳段作稻員數五十九把事、任博多御施行等、苅置于中、兩方付合封、相待上裁之處、善阿未斷以前、竊切破庫倉運取畢、爭可遁押取狼籍（藉）之罪科

泊寺ニ関スル志賀泰朝ト田中後家トノ相論ヲ裁ス

弘安六年禅季コレヲ善阿ニ売ル

永仁徳政令

禅季死去ノ時泰朝ニ譲ル

善阿本証文二通ヲ抑留ス

善阿未断以前作毛ヲ運ビ取ル

禅季ハ武家被官ニシテ京都奉公

越訴

太田親宗ト在国司行念トノ吉久名相論

託磨秀治ト志賀泰朝トノ志賀村

哉、早云證文、云作稻、欲糺給云云、依之宛于善阿、雖被下三箇度奉書、善阿無音之閒、宛于守護代、被下重召符之處、如所執進之善阿代忍秀請文者、禪季爲武家被管之身、乍令相傳此所、致京都奉公之條、阿法承伏之狀炳焉候、禪季縱雖令存生、被聞食子細之日者、定可被收公之歟、而阿法擬掠領彼跡當知行所々餘、寄事於御德政、致濫妨狼籍云々、賴秀重申云、京都奉公條承伏何事哉、禪季爲學文、時々雖令上洛、卽於當寺令死去畢、善阿何可掠申哉、次如同請文者、越訴事被定法之上者、被聞食彼子細、欲蒙御成敗、不然者、預御注進歟、兩樣付一方、可蒙御裁許之由、相存候云々、賴秀重申云、善阿今更立歸于本訴、難申上裁之條、爭可遁罪科哉、且太田藏人三郎親宗與在國司入道行念相論吉久名證文等事、行念雖抑留之、可令糺返之由、被成下知畢、不可求例於外歟、早依御事書、任傍例、可令糺返彼證文幷作稻等之由、欲被仰下云々者、當寺事、任御事書、被打渡下地於阿法之上者、限本證文善阿難抑留歟、早可被沙汰于阿法也、次作稻事、阿法始中終申子細之處、善阿不能陳答之條、勿論歟、同可被糺返之狀、如件、

正安二年三月廿五日　　散位（大友貞親カ）（花押）

豐後國守護代殿

六〇　藤原託磨秀治和與狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

和與、

領家佃ニ関スル相論ヲ和与ス
中分ノ時南方佃ヲ北方田数ニ引キ籠ム
中江田壱段
権現堂弐反半

和与ニヨリ板井迫名分領家佃六反半ノ内三反半ヲ去リ進ズ
泰長ト祐秀相論佃三町六段ニ対スル成敗
泰長ト祐秀和与ノ場合

大友豊前八郎太郎入道（志賀泰朝）阿法與詫磨又三郎秀治相論、豊後國大野庄志賀村領家佃事、

右相論事、當村中分之時、以南方佃引籠北方田敷、令分知行之由、就阿法訴申、雖番訴陳、所詮相亙依不可有不和之儀、令和與之處也、件佃秀治分六段半内、於中江田壹段・權現堂貳段半者、所去與阿法方也、但同村佃内三丁六段半分一丁八段事、詫磨新三郎祐秀與同四郎大郎（マヽ）泰長相論之、將又以坪付阿法與祐秀相論之、然者、彼相論御成敗之時、任別紙契狀、可有其沙汰也、仍和與之狀、如件、

正安三年正月廿四日　　藤原（詫磨）秀治（花押）

六一　藤原詫磨秀治契狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

御さた候板井迫名分領家佃中江田・權現堂六段半之内、於三段半者、任和與之狀去進候、殘三段者、秀治可知行候也、向後更不可有子細候、但泰長與祐秀相論候佃參町六段を、北方面ゝ之地頭、同分ニあひわけて可知行之由、御成敗候ハん時者、自分六段に相當候半分三段與和與知行三段、此外ハいろい候ましく候、もし泰長一向可知行にもなり候ハヽ、如此和與申て候とも、いま三段をも去まいらせ候へく候、將又泰長・祐秀令和與時者、田敷不足の分ハ、同心ニさたをいたすへく候、仍爲後日契狀、如件、

正安三年正月廿四日　　藤原（詫磨）秀治（花押）

相伝所領ヲ嫡子貞朝ニ譲ル

志賀村

上家分在家田畠

下村泊寺院主職兼地頭職

笠和郷富成名

筑前国三奈木荘勲功地

譲與、

相傳所領田畠山野等事、

一、在豊後國大野庄志賀村南方大方名・同泉名、幷勳功賞地頭職

一、上家分在家田畠等

壹所大森屋敷

壹所山口屋敷

壹所石佛屋敷

壹所通山屋敷

壹所河内山屋敷

一、同庄下村内泊寺院主職　兼地頭職

一、笠和郷富成名内勢久世宇屋敷　在鹽濱、

一、筑前國三奈木庄勳功地半分　朝倉四郎給分

右、件於所領等者、得祖母風早深妙譲相傳之、但於三奈木庄内阿法知行分者、依異國合戰之忠、宛給之畢、仍旁以知行無相違、然者、於今者、相副　將軍家御下知幷次第證文目錄、所譲渡嫡子貞朝

大野荘

也、但苫宇屋敷者、貞朝爲別□一期之程者、可思宛之、其外男女以□公家・關東御公事番役以下事者、□宜令支配、若有合戰之時者、催具□之時者、可令配分、雖然不可有別簱、又□廣（マヽ）大屋敷等者、一期之後者、可付嫡家□狀畢、可存其旨、次朝倉名事、猶子□（朝倉朝親）相具志天可知行之由、雖讓之、於山野者□、若又朝（朝倉）親有離別儀之時者、同彼□退領掌、御公事以下合戰事以同前、□々於無違背之儀者、觸事不可有□、（志賀貞泰）袈裟鶴丸者子とも思、若黨とも思天、不□もあるへし、於不背命者、敢以不可有向□讓狀仁毛如此趣ヲ載畢、然者相共仁深相□可令領掌、仍爲後代證驗讓狀、如件、

正安參年十二月廿日　（志賀泰朝）沙彌阿法（花押）□

苫宇屋敷　別旗アルベカラズ

朝倉名ハ猶子朝倉朝親ニ相具シ（女子諸王）知行　袈裟鶴丸（貞泰）

相伝所領ヲ嫡子貞朝ニ譲ル

安岐郷諸田名地頭職　同小俣畑地頭職　同松武名地頭職　北浦部長小野村

六三　志賀阿法泰朝譲狀

○志賀文書　熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領等事、

一、豊後國安岐郷內諸田名地頭職

一、同小俣畑地頭職

一、同郷松武名地頭職

一、同國北浦部長小野村等

右、件於所領等者、或得豊前國司能直(大友)朝臣讓、或自備後僧都幸秀之手、阿法相傳之間、知行無相違、然者、於今者、相副次第證文手繼、所讓渡嫡子貞朝也、向後無相違、可令領掌、仍爲後代證驗讓狀、如件、

正安參年十二月廿日　　沙彌阿法(志賀泰朝)（花押）

六四　志賀阿法泰朝讓狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

讓與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠等幷勳功賞事、

一所　泉名内大窪屋敷　在田畠等
一所　羽月屋敷　在田畠等
一所　朝倉名内唉迫屋敷　在田畠等
一所　津留屋敷　在田畠等
一所　定蓮房居屋敷　付大竹屋敷田畠
一、安岐郷内菊善屋敷　在田畠等
一、筑前國三奈木庄内勳功地半分　彌五郎兵衛入道給分

右、件所領等者、所讓與末子袈裟鶴丸(志賀貞泰)也、於次第證文等者、依爲類驗、所副渡嫡子貞朝也、公家關

相伝所領ヲ末子袈裟鶴丸（貞泰）ニ譲ル
泉名
朝倉名
安岐郷菊善屋敷
三奈木荘勲功地
公家関東御公事

番役以下惣領ノ手ニ付シ別旗アルベカラズ

東御公事番役以下合戰事、可付惣領之手、不可有別旗、蒙勳功之時者、當配分可令知行、不可背嫡子之命、縱雖有可沙汰事、無左右不可及上訴、何度も可懇望也、於不背此儀者、觸事又惣領不可致違亂、雖載如此子細、嫡子又於不被用者、可及上訴者也、然者、相共仁深相思、向後無相違、可令進退領掌、仍讓狀如件、

正安參年十二月廿日　　(志賀泰朝)沙彌阿法　在判

神角寺二王造立結縁者交名ヲ記ス

良慶　阿法

藤原重頼

六五　神角寺金剛力士像胎内木札銘

○神角寺蔵
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

「(表)　異筆「初莊嚴記也」

大日本鎭西豐州大野庄神角寺二王御結縁事　次第不同、

本家領家　地頭藤原信量　預所僧心源　加賀法眼樂快

(大友親秀八子)助阿闍梨良慶　沙彌法阿　(志賀泰朝)沙彌阿法　藤原量道　沙彌寂信

藤原重(吉次)頼　藤原重遠　沙彌光忍　氏重友　橘高實幷女大施主

幸慶　明印　忍秀　正忍　圓證　忍意　義範　實道

大仲臣未(末)長　廣(カ)藏　子助俊　良秀　源誓　賴秀　道勝

增快　賴高　玄海　祐覺　勸請　覺弁　幸快　覺算

千鶴　熊鶴　岩若　靑鶴　禪昭　重繼　定忍　重覺

享保十二年修覆ス

大旦主中川久忠

願主東之坊宥善

北方坊賢隆

近地名文書ヲ質トシテ日吉上分用途ヲ借ル

虎王装束料

（裏面）「奉中興莊嚴二王善神意趣之事、

一（梵字）（梵字）二王者、雲慶作、鎮護國家之善神也、大旦主中川內膳正久忠公御子孫（マヽ）槃榮、時願主當山住職東之坊大阿闍梨（マヽ）宥善、北方坊同賢隆敬修焉、于時享保十二籠二丁未天

三月吉祥日　大佛師法橋山本左門」

○右結緣者中、加賀法眼楽快ハ七三号、藤原（戸次）重頼ハ四五・四六号（弘安図田帳案）ノ中村地頭職、光忍ハ四九号ニ見ユ。年次未詳ナルモ志賀阿法（泰朝）ノ生存中ナル故、シバラクコヽニ収ム。

六六　某置文案

○志賀文書
熊本県史料中世二

こしやうくわん（禪季）房ちか地のもんそまいらせをき候て、かりまいらせて候日吉の上ふんようとう（用途）の事四十二貫〻〻の事、うけ給り候ぬ、月ことに一貫へちに五十つゝのりふんをめして、とら王（志賀朝郷）候へハ、いそき〳〵させたせさせ候へく候、又をなしくとらわうかしやうそくのれうに、十貫文かりまいらせ候、これも

虎王請ケ返スベシ

虎王背カバ不孝

志賀村領家佃相論ヲ和与セシム

ちか地のもんそにとりて候、一とにいつれもたしかに〳〵さたしかへしまいらせ候へく候、もしよるよ中めしやくいかなる事候とも、大事のもんそにて候へハ、さためてとらわうけ申候ハむすらん、このよしをおほせ事候て、ようとうみしむなくまいらせて候ハヽ、ちか地のもんそをハ、とら王にたしかにうけとらせられ候へく候、いさゝかもみしむけたい候ハヽ、しやうくわん房の「もん

そにまかせて、ちか地をハ、なかくしんたいち行せられまいらせ候へく候、これを□王そむき候ハヽ、なかくふけうのふんにて候へく候、

正安四年正月十六日　　□ハん

六七　鎮西北條政顯下知状

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前八郎太郎入道阿法與詫磨又三郎秀治相論、豊後國大野庄志賀村領家佃事、

右、就訴陳状、欲有其沙汰之處、去年正月廿四日兩方出和與状畢、此上不及異儀、早任彼状、相互可令領掌者、依仰下知如件、

正安四年八月十八日

掃部助平（花押）

六八　虎王丸志賀朝郷契状

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村内近地名地頭職事、故入道(志賀泰朝カ)殿御状、幷青觀(禅季)御房契状以下證文等、儲給候畢、凡當名事、如故風早殿(尼深妙)御遺言者、青觀(禅季)于時一期之後者、不可譲于別人、志賀太郎(泰朝)之子出來者、弟子にもし、養子にもして、可譲之田、眼前仁蒙仰之旨、文永八季三月五日禪季之契状顯然也、隨而任彼御遺言、以虎王丸(志賀朝郷)于時彌次爲猶子譲與之由、正應五年十月十五日契状分明也、依之故入道殿の仰候しことくハ、虎王又不可譲于別人、若無實子者、太郎之子共の中に、爲猶子譲與、便宜事をハ、可被扶持之由、度〻承候しかハ、聊も其旨不可違候上、如此御哀憐をかふり候へハ、所仰候、若背此等之子細、不慮之計仕候ハん時ハ、於當名者、惣領可爲御進退候、仍契状如件、

嘉元四季五月廿日　　虎王丸(志賀朝郷)（花押）

実子ナキ時ハ近地名ヲ太郎ノ子ニ譲ルコトヲ約ス

大野荘中村惣方徳治弐年ノ年貢済物ヲ注進ス

六九　大野荘中村年貢等結解状

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

三聖寺御領豊後國大野御庄中村惣方
注進　徳治貳年御年貢以下色〻濟物等結解状、
合
大野荘

御米

一御米百八十九石四斗四舛三合六勺内　加御佃米定、

二十五石　徳治二年九月廿日送文内進上之、

八十石　同年十一月十日送文内進上之、

六十五石六斗一升八合　徳治三年二月十日送文内進上之、

一石二斗五升　御糯七斗五升代

十七石五斗七升六合五勺六才六丁（マヽ）　加御佃米定　河成分

田付綿

一田付綿五百六十九両一分五朱内

百十両　徳治二年六月十一日送文内進上之、

三百二十両　同年九月廿日送文内進上之、

五十両　同年十一月十日送文内進上之、

三十九両一分五朱　代銭四貫七百三十五文　徳治三年二月十日送文内進上之、

五十両　河成元田二町分

雑枚布

一雑枚布百十三端二丈七尺五寸内

二十端　徳治二年九月廿日送文内進上之、

三十五端　同年十一月十日送文内進上之、

四十八端二丈七尺五寸　徳治三年二月十日送文内進上之、

十端　河成元田二町分

甘葛
地子麦

桑

一米煎代銭九貫九百九文内

八貫九百九文　徳治三年二月十日送文内進上之、

一貫文　河成元田二町分

一甘葛二升四合　料田七町二段分　徳治三年二月十日送文内進上之、

一地子麦九十七石二斗四升五合三勺内

十八石五斗四升代銭十五貫四百五十文　徳治二年六月五日送文内進上之、
貫別一石二斗宛

大麦四十四石五斗二升七合　徳治二年六月十一日送文内進上之、

小麦十一石二斗三合　同前

十三石二斗代銭十一貫文　同前
貫別一石二斗宛

八石二升五合三勺代大豆八石二升　徳治二年十一月十日送文内進上之、
五合三勺

一石　代小豆一石　同前

七斗五升　納豆代　徳治三年二月十日送文内進上之、

一桑千二十三本内　但五本號梶取給畠内、

定桑千十八本　分絹三十四内　但桑二本不足、

絹十一　徳治二年六月五日送文内進上之、

絹二十一内（マヽ）祿皃二見絹十九　同年九月廿日送文内進上之、

絹二　同年十一月十日送文内進上之、

大野荘

一荏二十六斤内　　德治二年十一月十日送文内進上之、
　六斤　　德治三年二月十日送文内進上之、
　二十斤
一太糸百六十兩内　　德治二年六月十一日送文内進上之、
　百十兩　　同年九月廿日送文内進上之、
　五十九兩　　同送文内進上之、
一門布二十六端
一在家役銭十八貫八百文内　　任被仰下之旨、博多番用途志賀預所方仁德治二年七月廿六日下行畢、
　十一貫六百文　　德治三年二月十日送文内進上之、
　七貫二百文　　德治二年十一月十日送文内進上之、
一胡麻三斗四合二勺　　德治二年九月廿日送文内進上之、
一野地幷作大豆五石六斗四升二合　同送文内進上之、
一差縄二十六方　　德治三年二月十日送文内進上之、
一葛粉一斗三升
右、注進如件、

德治三年三月廿八日　　田所僧明源（花押）
　　預所代沙彌顯西（花押）

荏
太糸
門布
在家役銭
胡麻
野地幷作大豆
差縄
葛粉
田所僧明源
預所代沙弥顯西

嫡子幸一丸ニ相伝所領所職ヲ譲ル

志賀村板井迫名
宮迫名上家分
鎮守若宮八幡宮
大宮司職

朝倉名ニ対スル相論ヲ裁シ志賀貞朝ニ付セシム

七九　藤原（詫磨）貞重譲状案

○詫磨文書
大分県史料一二

譲與　相傳所領所職等事、

嫡子幸一丸所、

豊後國大野庄志賀村板井迫・宮迫兩名上家分、幷鎮守若宮八幡宮大宮司職、肥後國神藏庄與安・石丸名内田地貳町、鳥栖内田地壹町、十禪師宮一大夫屋敷所職等、同七祝屋敷所職、筑前國志登社田地等、

右、件所領者、關東御下文次第證文相副、幸一丸限永代、所譲與也、關東御公事等者、隨分限、可令勤仕、仍譲狀如件、

延慶貳年正月廿日　　（詫磨）藤原貞重（マヽ）判在

加一見了、　（詫磨頼秀）寂意判在

八一　鎮西北條政顯下知狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲狀押領之旨、申付不實於貞朝之條、不可遁罪科、且不可背嫡子之命、縱雖可沙汰事、不可及上訴、何度母可懇望、背命者、可爲嫡子進退之由、載同狀之上者、可被付當名云〻、爰如隆秀所進

訴人隆秀

論人貞朝代貞氏

諸王朝倉朝親ニ相具シ共ニ知行スベシ

貞朝謀書ノ事実ナシ

貞朝氏女分領押領ノ実ナシ

隆秀誠文ニ背キ謀訴ニ及ブ

当名ハ貞朝ニ付スベシ

無年號（忠賀泰朝）月日阿法狀者、讓事者又四郎仁讓候之上、御一期相違候麼志久候、讓狀者、又四郎分・諸王分二通仁志天候也、四郎入道殿云〻、如貞氏所進正安三年十二月廿日阿法讓狀者、相傳所領朝倉名事、所讓狀諸王（與）也、但朝倉四郎子息朝親仁相具志天、相共可知行、若有離別儀之時者、惣領貞朝可進退〻也、不可背嫡子之命、縱雖有可沙汰事、無左右不可及上訴、何度母可懇望也、背惣領命之時者、可爲嫡子進退云〻者、阿法遺領面〻配分之閒、朝倉名者、讓與朝親畢、氏女分領者、貞朝押領之由、隆秀雖訴之、如阿法讓狀案者、女子相具朝親、相共可知行之旨、載之、而彼狀貞朝構出謀作之由、依訴申、召出引付之座、令披見之處、阿法續目判形貞朝令謀書之旨、隆秀同雖申之、比校朝親所帶同日阿法讓狀之處、判形手跡無相違歟、是一、加之、相具氏女可知行之條、載朝親所得狀畢、當名之外、貞朝押領氏女分領之由、隆秀訴申之趣、不足指南、是二、就中雖有可沙汰事、無左右不可及上訴、何度母可懇望之旨、所見也、背誠文致謀訴之上者、任讓狀可被付當名於嫡子貞朝之旨、貞氏申之處、番各別訴陳之由、隆秀雖稱之、當名則夫婦共可知行之條、讓狀分明也、不遁誠文歟、是三、然者於當名者、任阿法讓狀之旨、可被付貞朝之由、貞氏所申非無其謂、子細見于狀左矣、自餘略之、

以前條〻、依仰下知如件、

延慶三年十月六日

前上總介平朝臣（北条政顕）　在判

朝倉名ノ下地ヲ志賀貞朝ニ打渡ス

合御使牧念照所労ニヨリ代官平三入道蓮光ヲ遣ス

朝倉朝親住宅在家ヲ焼キ預所方ニ移住ス

（端裏書）「□來小三郎入道請文　延慶四二十」

志賀太郎貞朝申、豊後國大野庄志賀村内朝倉名事、去十一月廿日御教書副狀、同廿七日到來、謹拜見仕候畢、

抑任被仰下之旨、欲罷向當（朝倉名）名候之處、相勞候之閒、平愈之時可罷越之由令申候之處、如訴人申。者、延引可爲難治者也、合御使牧三郎入道念照入部之上、一方御使者雖非正員、不可有相違者歟、急速可差遣代官之旨、頻令申候之閒、任訴人之所望、差遣代官平三入道蓮光候之處、使節入部以前、豊前又四郎朝親令退出宿所、令移任同名内預所方候、於任宅者、無跡形候、至在家者、燒拂候畢、仍相尋子細於朝親候之處、不存知之由、以使者返答之閒、打渡件跡於貞朝候之由、蓮光令申候、此等之子細、合御使念照定令注進候歟、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

延慶三年十二月廿三日　　沙彌願誓　請文

進上　御奉行所

志賀貞朝ト詫磨祐秀トノ志賀村南方黒井崎田地三反ニ対スル相論ヲ裁ス

領家佃ハ南北七町二反
南方三町六反
領家地頭折中シテ一町八反トス

祐秀佃ハ平井名内

南北惣田數七十三町
南方三十六町五反地頭分十八町

七三　鎮西北條政顕下知狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人太郎貞朝(志賀)代泰親(志賀)與詫磨新三郎祐秀代秀政相論兩條、

豊後國大野庄志賀村南方黒井崎田地參段事、

右、訴陳之趣子細雖多、所詮如貞朝申者、當村南方地頭職者、亡父阿法(志賀泰朝)得祖母風早禪尼深妙大友豊前々司能直後家之讓、給關東御下文知行之處、依領家之濫訴被中分下地之刻、阿法分領南方、雖被召闕所、申披子細返給之、准傍郷中分之條、正應御下知嚴重也、爰領家佃者、南北七町貳段之閒、南方參町陸段之條、備進之狀等分明也、而領家地頭就折中之儀、半分壹町八段者、爲地頭方阿法分之處、北方中分之折節、阿法在鎌倉時、伺闕所之隙、彼壹町八段内、以黒井崎三段、祐秀押領云々、如祐秀申者、當村地頭職者、自祐秀曾祖父大友豊前々司(ママ)能並朝臣後家風早禪尼深妙之手、祖父詫磨別當能秀幷舍弟信寂(志賀能郷)貞朝祖父各雖讓得等分、於佃者、自往古爲領家進止地之閒、不載讓狀之處、南北各參町陸段之由、貞朝構申之條、無所見之上、祐秀佃者依爲平井名内、且依雜掌和與狀、且任關東御下知狀、中分知行無相違、爰號黒井崎田地者、上家分内梶取田是也、件梶取田七段・同屋敷者、自深妙之手、能秀讓得畢云々者、當村南方地頭職者、貞朝亡父阿法之所領也、而去正應五年之比、地頭領家令中分之閒、就彼狀被成關東御下知畢、南北惣田數七十參町内、南方三十六町五段、其内地頭分十八町貳段半、領家分同前也、同佃參町六段内、半分壹町八段地頭分也、而壹町八段内、黒井崎參段、北

預所楽快書状

楽快ハ貞朝ト所務相論中

正応五年十二月中分状ニ黒井崎参段トアリ

梶取田ハ黒井崎ト異ル

黒井崎知行九箇年ニシテ年記ヲ過ギズ貞朝ヲシテ領知セシム

方地頭祐秀押領之由、訴申之處、所載祐秀所帶之中分狀梶取田七段内、參段者、則黑井崎異也、隨而預所樂快兩通書狀分明也、於爲南方中分内者、爭樂快可出狀哉之由雖陳之、云祐秀所帶延應貳季四月六日深妙之讓狀、云同日坪付、黑井崎名字無之、而以樂快之狀、爲梶取田異名黑井崎之旨、同雖號之、樂快與貞朝當村所務相論之最中也、依爲敵方非往古證文、得祐秀之語始而書出之由、貞朝難申之趣非無子細、是一、次如正應五年五月十日關東御教書者、三聖寺領豐後國大野庄雜掌與志賀村半分南方地頭大友豐前八郎太郎入道阿法(泰朝)相論掠注事、阿法依御下知違背之咎、雖被召置地頭職、無罪科之由、所陳申依有子細、所返給也、早且相觸寺家、且仰筑後前司盛經(少弐)、守一庄平均之例、任兩方申請、可中分云々、仍同年十二月廿三日兩方出中分狀幷坪付畢、如彼坪付者、黑井崎參段云々、就關東御下知、兩方中分之時、坪付分明也、輒難奇破(マヽ)、就中地頭・領家田數無增減(マヽ)之由、貞朝所申不背理致歟、是二、次堀池名地頭泰長(託磨)法師法名道圓與祐秀、於三番引付、梶取田事相論之閒、一具之由雖申之、梶取田依爲各別、號非一具返渡畢、非黑井崎異名之條、令露顯者也、是三、次彼黑井崎田地知行年記過二十餘年由事、如祐秀追進陳狀者、去永仁年中以來、梶取田七段當知行畢、梶取田則爲黑井崎異名之由、雖申之、梶取田非黑井崎異名之旨、載先段畢、隨而正應五年中分以後、永仁二年祐秀乍致訴訟、在國之閒、貞朝爲山城治部入道々盛奉行、正應四年九月五日申付還御教書畢、正文顯然也、至當年爲九箇年之閒、不過年記之條勿論也、是四、然則、於黑井崎田地參段者、任文永元年三月廿二日安堵御下文・正應五年五月十日中分御教書・同年十二月廿三日預所連署中分坪付之狀、停止祐秀押領、可令貞朝領知、次押領以後得分物事、年々分遂結懈(マヽ)、可令糺返焉、

梶取薗麦地弐段外畠地荒野

同村内梶取薗麥地貳段外畠地荒野等、越堺貞朝致押領由事、

右、兩方申狀子細雖多、所詮祐秀則彼薗内畠地荒野等者、於梶取薗屋敷付、任本主之譲狀等、可領知之條、無異儀之處、貞朝押領之由訴之、貞朝亦如本主譲狀幷中分狀者、梶取薗一宇・麥地二段次郎丸云〻、於二段外荒野等者、無異論知行之處、始而載陳狀條、奸謀之旨陳之者、如正應二年三月十五日北方祐秀分中分狀者、在家十八箇所内、於十六箇所者、差定四至堺畢、至二箇所者、壹宇長迫麥地七段、壹宇梶取薗麥地貳段云〻、然者、彼二宇不差堺之間、限件麥地貳段之條、無異儀歟、隨而如祐秀備進之繪圖者、彼屋敷近邊二箇所者、領家知行之由書銘畢、任關東御下知、令中分之間、知行經廿餘年畢、今更難奇破（マヽ）彼狀之間、於梶取薗麥地二段之外荒野畠地等者、任中分狀、云貞朝、云預所、知行不可有相違矣、

以前兩條、依仰下知如件、

正和元年十二月十六日

前上總介平朝臣（北条政顕）（花押）

中分後二十年ノ年記ヲ過グ貞朝預所知行スベシ

○本文書、二箇所ノ紙継目ゴトニ裏花押アリ。

一四　大野荘雑掌性法和與狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

（附箋）「大野荘雑掌性法和與狀」

正応五年ノ坪分中分ヲ改メ一円中分トナス

坪分ニヨリ相論出来

堺ヲ南北ニ立ツ

雑掌沙弥性法

田所明源

志賀朝郷ト近地名内畠地ヲ相博ス

和與、

三聖寺領豊後國大野庄志賀村南方太方・泉・朝倉參箇名幷筑紫尾寺但當寺者先中分定事、

右當村者、去正應五年被成下　關東御下知、雖被折中下地、依爲坪分相論出來之閒、雖番于訴陳、且爲止向後之異論、且任一庄之例、以和與之儀、所分直也、然者田畠付神社佛寺屋敷在家山野以下、無所殘、立堺於南北令折中之西依者領家方、東依者地頭方、相分于兩方、亙爲一圓可領掌也、公家武家御公事、共以不可懸之、仍所和與之狀、如件、

正和三年五月廿八日

雑掌沙彌性法（花押）

（裏書）「佐衛門尉（花押）」

散　位（花押）」

七五　沙彌慈妙・雑掌性法・田所明源等連署書狀

〇天理図書館藏三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

（端裏書）「□（慈）妙　性法　明源等連署狀」

當村近地名地頭志賀次郎朝郷畠地相博事、任被仰下之旨、遂其節候畢、仍彼狀同書替狀案進覽之候、以此旨可有御披露候哉、恐惶謹言、

（張紙）「建長二年」二月十六日

田所明源（花押）

沙彌性法（花押）

沙彌慈妙（花押）

進上　三聖寺侍者御中

○張紙ノ「建長二年」ハ誤リナルベシ。「沙彌性法」ニヨリコヽニ掲グ。

六六　大野荘雑掌性法書下

○志賀文書
熊本県史料中世二

三聖寺領豊後國大野庄志賀村内南方事、就分直下地、日來進止之土民可相分兩方領家、地頭、然者、於去今貳箇年年貢以下濟物等未進者、相互領主加催促、任員數、以年中可令責渡也矣、仍狀如件、

正和三年六月八日　　雑掌沙彌性法（花押）

七七　大野荘志賀村南方中分惣堺越田堺注文

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端裏書）
「志賀村南方中分惣堺越田堺注文東西兩方」

豊後國大野庄志賀村南方分直折中處、東方田地越惣堺、令散在于西方分四至堺事、

合、但新田分

大畠　二反半　東西北限西方荒野幷野畠
一所　南限道

丸山　三百歩　東西南限西方野畠
一所　北限筑紫尾寺田地

分直中分ニヨリ土民ヲ相分ス

二カ年年貢濟物未進ハ領主催促ヲ加ヘ年内ニ渡ス

志賀村分直折中ニヨリ東方（地頭方）田地ノ惣堺ヲ越ヘ西方（領家方）ニ散在スルモノ

大畠
丸山
筑紫尾寺

高尾田尻
石田

竹脇

庄田屋敷
板井迫堺土根

西方（領家方）
田地ノ惣堺ヲ越
ヘ東方（地頭方）
ニ散在スルモノ

高尾田尻
一所　一反　東北限溝河　西限高尾田元田在古杭、
南限西方野畠
石田
一所　一反　東南限東方新田尻溝　西限同方新田
同所
一所　一反二ケ所合内
一ケ所　東限東方新田　西限満行迫元田下乃新田在古杭、
南北限西方荒野
一ケ所　東南西限西方野畠
北限東方新田
竹脇
一所　二反　東限西方荒野幷石田堺
西南限大森荒野野畠岸
北限大森高尾田荒野
但尾畠乃下乃二世町ハ依爲西方荒野内除之、
庄田屋敷
一所　麥地六段　東限河　西限河幷板居迫堺土根
南限河　北限板居迫堺土根

右、四至如斯、若有注漏坪者、後日可治定之状、如件、

正和五年正月廿九日　　雜掌沙彌性法（花押）

六　大野莊志賀村南方中分惣堺越田堺注文

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村南方分直折中處、西方田地越惣堺、令散在于東方分四至堺事、

合

一、元田分　但出田分者、注載中分狀閙略之、

赤滝
平井名田地
勢五田
大白口
居去　堀池名
平井名狐迫田
中江田
権現堂
久木
桑原田（樋口）
酒井寺経田
桑原田
菅牟田
平井名政所薗
新田分

赤瀧
一所　五反　東西限東方野畠　南限同方斤（新）田在古杭、北限北方田地
一所　三反　東限谷河幷平井名田地　谷　西限勢五田地縄手　南限。河　北限西屋敷南岸
大白口
一所　五反　東限谷河　西限白口新田　南限同新田幷東方野畠　北限河

（継目裏花押）

居去
一所　一反大　南限板居迫名田　西限堀池名田　南限河　北限平井名狐迫田
中江田
一所　四反　東限河　西限土根　東南堀池荒野堺　北限板井迫田地縄手
權現堂
一所　二反半　東限權現堂荒野畠地　西限同野畠荒野　北限權現堂屋敷付田地在古杭、南限本中分新堺在古杭、
久木
一所　六反半東依、上二俣一切中ス、又自道下溝兩方　東限平井名野畠荒野同名田地　西限新堺在古杭、南限同名田地野畠荒野　北限新堺在古杭、同名野畠及自道上中スノ北ノ溝
桑原田號樋口
一所　四反　東限河　西限板居迫野畠岸　南限同野畠　北限酒井寺經田
桑原田
一所　一反　東限酒井寺經田　西限近地田地　南限板居迫野地　北限河

（継目裏花押）

菅牟田
一所　六反　東限平井名田地　西限板居迫名田地　南限河　北限平井名政所薗縄手
一、新田分

犬畠

栃山

小白口

神妙迫

桜木穴温前

久良田西迫

地獄

黒井崎

払谷

犬畠
一所　二反半　東限白口元田　西限同斤田
南限東方野畠　北限白口元田

同所
一所　三反　東限白口元田　西限東方今斤開在古杭、
南限同方野畠　北限河

栃山
一所　一反大　東限東方野畠　西限同方斤田
南北限同方野畠

小白口
一所　一反　東限谷河　西限北方田地幷東方野畠
南限河　北限東方野畠岸

神妙迫
一所　三百歩　東限東方荒野　西限同野畠岸
南限同野畠　北限同斤田在古杭、

櫻木穴温前
一所　十四歩　四ケ所合内

二ケ所　四方堺東方畠地

（継目裏花押）

二ケ所　東南限北方田地、西北限谷河

久良田西迫
一所　二反　東南西限東方野畠岸
北限同方元田在古杭、

地獄但南迫
一所　小　東限西方越田斤□畠地岸
南北限東方荒野□畠

同所穴温前
一所　小　東限東方越田斤田□(在古)杭、
西南北限東方野□

黒井崎
一所　六十歩　東西限東方野畠　南限同方斤田
北限北方田地

拂谷
一所　大　五十六合内

四十所者、自谷河南在之、東西北限□
南限東□

一ケ所者、自河北在之、東西南□(限)河　北限□方荒野

大谷
一所　大　東西限谷河　南北限東方野畠荒□

永早山
一所　大　東限東方斤田　西南北限同方野□

（継目裏花押）

高尾下
一所　半　東限溝西□限同方野畠　北限中通一反百□

岩下
一所　半廿ト　東西北限東方□(并平井)　南限河谷

右、四至如斯、若有注漏坪□(者)、後日可治定之状、如件、

正和五年正月□(廿九日)　□地頭代泰親（花押）

大谷　藤原又鶴丸志賀貞朝トノ筑紫尾寺院主職ニ対スル相論ヲ和与ス

永早山

高尾下

岩下

地頭代泰親　公事ハ惣領貞朝ノ催促ニ従フ

七九　藤原又鶴丸一萬田宣元和與状

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村内筑紫寺院(尾脱)主職事、又鶴丸相傳之處、志賀太郎貞朝違亂之閒、就訴申、爲北野備前房賴慶奉行、雖被究訴陳、以和談之儀、永所止訴訟也、爰當村内近地名事、依貞朝之訴訟、近地次郎朝郷雖番訴陳、當名自朝郷之手、又鶴丸傳領之閒、就令口入、貞朝對又鶴丸、止訴訟之由、被出状之上者、相互不可有異儀者也、但於御公事者、任代々譲状、隨惣領貞朝之催促、可令勤仕、仍爲止向後之違亂、契状如件、

20　大野荘志賀村中分屋敷注文案

○志賀文書
熊本県史料中世二

依豊後國大野庄志賀村南方分直中分志賀次郎（貞泰）殿御分屋敷等事、

一所　津留半分　本ハ領家方
一所　大竹半分　同前
一所　定蓮房屋敷半分　同前
一所　大窪半分　同前
一所　惣領御分内、柿木薗依畠地不足加之、

一、自地頭方、被成領家方屋敷等事、

一所　唉迫屋敷半分　本ハ地頭方
一所　羽月屋敷半分　同前
一所　同永迫屋敷半分　同前
一所　高尾田屋敷半分　同前

右、委細見中分状、次田地分注文在別紙、仍状如件、

正和六年正月十七日　　惣村地頭代泰親（志賀カ）　在判

分直中分ニヨル
志賀貞泰分屋敷
本ハ領家方
津留半分
大竹半分
定蓮房屋敷半分
大窪半分
柿木薗
地頭方ヨリ領家
方ニ渡ス屋敷
本ハ地頭方
唉迫屋敷半分
羽月屋敷半分
永迫屋敷半分
高尾田屋敷半分
惣村地頭代泰親

八一　藤原又鬘丸宛一萬田宣元起請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

□御ため二あたは□二候ハん人にあへて同心二□く候、又いさゝかとかくうけ給ハる事候ハヽ、つけ申候□(へくカ)候、いまはひとつ二なりまいらせ候うへハ、何事二つけ候ても、を□(ろ)かに思まいらせ候ましく候、もし□の□(こ)(てう)いつはり申候ハヽ、に□(ほ)んよしうのかみほとけの御はち□(を)、まかりかふり候へく候、仍状如件、

文保二年八月廿六日　　藤原又鬘丸（一万田宣元）（花押）

八二　鎮西北條随時召文御教書

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄雑掌性法申、狼藉事、申状副具書如此、就關東御教書、所有其沙汰也、召具交名人等、不日可被参決也、仍執達如件、

元應二年三月廿四日　　前遠江守（北条随時）（花押）

志賀次郎（貞泰）殿

一味同心ヲ誓約ス　承ル事ハ小事モ告ゲ申ス

大野荘雑掌性法ノ訴ニヨリ狼藉交名人ヲ召具シ参決セシム

相伝所領ヲ熊毗
畔丸ニ譲ル

泉名内大窪屋敷

羽月屋敷

朝倉名内咲迫屋
敷

津留屋敷

定蓮房居屋敷

大竹屋敷

安岐郷内菊善屋
敷

三奈木荘勲功地

八三　藤原志賀貞泰譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠等幷勳功賞事、

一所　泉名内大窪屋敷　在田畠等

一所　羽月屋敷　在田畠等

一所　朝倉名内咲迫屋敷　在田畠等

一所　津留屋敷　在田畠等

一所　定蓮房居屋敷　付大竹屋敷田畠

一、安岐郷内菊善屋敷　在田畠等

一、筑前國三奈木庄内勳功地半分　彌五郎兵衛入道給分

右、件所領等者、依爲重代相傳所領、依親父阿法（志賀泰朝）之手、貞泰所被譲與也、而熊毗畔丸仁此於所領等者、限永年譲與物也、公家關東御公事等者、隨所領分眼（マヽ）、可令勤仕也、仍爲後代證據、譲状如件、

元亨元年十一月五日　　藤原貞泰（志賀）（花押）

八四　鎮西北條英時御教書案　○志賀文書　熊本県史料中世二

豊前藏人次郎貞泰(志賀)申、筑前國三奈木庄内勳功地、幷豊後國大野庄志賀村内田畠屋敷等事、申狀具書如此、早云知行實否、云支申仁有無、可被注申也、仍執達如件、

元亨二年六月廿六日　　修理亮(北条英時)　御判

大友左近大夫將監(貞宗)殿

志賀貞泰ノ訴ニヨリ豊後守護大友貞宗ヲシテ知行実否支エ申ス仁ノ有無ヲ注進セシム

八五　鎮西北條英時御教書案　○志賀文書　熊本県史料中世二

豊前藏人次郎貞泰(志賀)申、筑前國三奈木庄内勳功地、幷豊後國大野庄志賀村内田畠屋敷等事、申狀具書如此、早云知行實否、云支申仁有無、載起請之詞、可被注申也、仍執達如件、

元亨二年六月廿六日　　修理亮(北条英時)　御判

志賀太郎(貞朝)殿

同ジク志賀貞朝ヲシテ注進セシム

志賀貞朝左右ヲ申サヾルニヨリ重ネテ沙汰セラレンコトヲ請フ

同ジク守護大友貞宗ヲシテ沙汰セシメラレンコトヲ請フ

八六　志賀貞泰重申狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

豐前藏人次郎貞泰(志賀)重言上、

欲仰于志賀太郎貞朝貞泰舍兄、雖被尋當□(知行実カ)否、不申左右上者、被經急速御沙汰、預御□(注進)、豐後國大野庄志賀村南方内大窪・津留以□(下屋)敷田畠等地頭職、幷勳功地筑前國三奈木□(庄内)田畠屋敷等所職等安堵事、

副進、

一通　御教書案

右、巨細言上先畢、然早被經急速御沙汰、爲預□(御)注進、重言上如件、

元亨二年七月　日

八七　志賀貞泰重申狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

豐前藏人次郎貞泰(志賀)重言上、

欲仰于大友方、雖被尋當知行實否、不被申左右上者、被經急速御沙汰、預御注進、豐後國大野庄志賀村内大窪・津留以下屋敷田畠等地頭職、幷勳功地筑前國三奈木庄内田畠屋敷等安堵事、

副進、

一通　御教書案

右、巨細言上先畢、然早被經急速御沙汰、爲預御注進、重言上如件、

元亨二年七月　日

八八　鎭西北條英時御教書案

○志賀文書
増補訂正編年大友史料四

豊前藏人次郎貞泰(志賀)申、筑前國三奈木庄内、幷豊後國志賀村内田畠屋敷等事、重申狀如此、云知行實否、云支申仁有無、可注申之旨、先度被仰了、□(来)月廿日以前、可被申左右候、仍執達如件、

元亨二年七月廿七日　　修理亮(北条英時)　在判

大友左近大夫將監(貞宗)殿

八九　詫磨直政請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人次郎貞泰(志賀)申、筑前國三奈木庄内勳功地、幷豊後國大野庄志賀村内田畠屋敷等安堵御下文事、去六月廿六日御教書謹承候畢、當知行段、無子細候、次支申仁有無、未承及候、若此之條爲令申候者、可罷蒙　八幡大菩薩御罰之候、以此之旨、可有御披露候、恐惶謹言、

重ネテ大友貞宗ヲシテ注進セシム

詫磨直政当知行ノ段並ニ支エ申ス仁無キコトヲ注進ス

九〇　志賀貞朝請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人次郎(志賀)貞泰申、筑前國三奈木庄内勳功地半分、幷豊前國大野庄志賀村内田畠屋敷等事、今年六月廿六日博多御教書九月廿日到來、及去十月十一日御教書案・同使節御催促狀、今月廿三日謹拜見仕候畢、此事、彼所々亡父(志賀泰朝)阿法雖計宛末子貞泰于時袈裟靈丸候、專隨惣領貞朝之所令、可知行之由、貞泰所得之狀分明之上、不載地頭職號候之閒、不可望申各別安堵御下文候歟、以此之旨、可有御披露候、恐惶謹言、

元亨二季十一月廿四日　　(志賀)藤原貞朝（裏花押）

志賀貞朝請文ヲ出ス

志賀泰朝譲狀ニハ惣領ノ命ニ隨フベキコト及ビ地頭職ノ号ナシ

九一　牧念照請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人次郎(志賀)貞泰申、筑前國三奈木庄内、幷豊後國志賀村内田畠屋敷等事、去十月十一日御教書副重訴狀、今月廿一日到來、謹拜見仕候畢、任被仰下之旨、卽以翌日相觸志賀太郎貞朝候之處、廿四日請文一通令進覽之候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

元亨二年十一月廿六日　　沙彌念照(牧)請文（裏花押）

大野莊

御教書ニヨリ志賀貞朝ニ披露シ請文ヲ進覽ス

六三　西園寺實衡（カ）御教書

○田中繁三文書
京都大学文学部日本史研究室蔵

三聖寺□侶等申、豊後國大野□宇佐宮假殿造營料譴責□、綸旨副具書如此、子細見于狀候之由、
（西園寺実衡カ）
右大將殿可申旨候也、恐々謹言、
元亨三
五月二十八日　　沙彌靜悟
（六波羅南大仏維貞）
謹上　陸奥守殿

大野荘宇佐宮仮殿造営料譴責ニツキ綸旨ヲ伝フ

六四　大野荘中村大護寺院主代如一田地相博狀

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

（端裏書）
「被寄進于志賀村内酒井寺田事」
（裏打紙端裏書）
「建長　七まい
元亨七
天正　」

相博、
豊後國大野庄中村大護寺號酒井寺料田堀池名内井尻壹段事、

右田地在所、依爲志賀村預所外擧際、爲預所便所之間、同庄平井名内峯本田地壹段仁可相博之旨、

堀池名内田地ト平井名内田地トヲ相博ス

志賀村預所外擧

依被申、所令相博件井尻田地壹段也、向後守此状、無後日之煩、可被領知之状、如件、

元亨四年二月三日　　大護寺院主代如一（花押）

九四　これいへ・しけいへ連署用途送状案

○深山八幡社文書
大分県史料一三

右の用途、勝(且)ミ送進状、如件、

正中元年十一月六日　　給主代しけいへ　在判

深山祝殿　　給主代これいへ　在判

九五　大原八坂神社石燈籠（二基）銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字大原

「正中二年乙丑卯月十日
大工淨忍　諸□(人)□
願主沙彌道(道)□(直)敬白」

「(竿部)正中貳年乙丑卯月十日
獻燈　願主沙彌道(他一基竿部)□(直)敬白」

○「大分県金石年表」ハ前者ノミヲ掲グ。〔　〕内ハ同書。

際トシテ預所便所

用途ヲ分納ス

沙弥道直石灯籠二基ヲ献灯ス

九六　藤原貞高下知状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

□(大野)庄鎮守上村深山　八幡宮祝政信申、宮迫屋敷内□(號開田麻畠)事、

□状者、當社祝屋敷宮迫畠地内也、而祖父弘業之□給多和之平四郎之妻女之閒、出作之、弘業死去之刻、讓□職於女子政信母堂畢、爰以彼畠號多和屋敷内、給主等□之閒、母堂乍含鬱訴罷過畢、所詮件畠爲宮迫内□異儀上者、任先規欲被付社家云云取要、此條爲被召□、多和當給主清次郎度々雖被成書下、不存知、舊□稱不及明申、不請取之云云、然者今年嘉暦三四月五日□檢見之處、號開田畠者、宮迫地頭方最中之條顯然之閒、□付社家也者、早神役以下、守先例、可令勤仕之状、□(下)知如件、

嘉暦三年五月六日　　藤原貞高（花押）

九七　詫磨貞圓和與状

○志賀文書
熊本県史料中世二

□(和)與、

詫磨彦次郎入道貞圓與志賀藏人入道正玄(貞朝)相論、豐□□大野庄志賀村領家佃權現堂貳段半・赤迫壹段此者中江田一反替事、

志賀村領家佃三反半ニ対スル相論ヲ和与ス

深山八幡社祝政信ノ訴ニヨリ開田麻畠ヲ社家ニ付セシム

右、當村佃事、阿法與秀治□（改名）重相論之刻、爲無向背之儀、令和與、契約子細、正安三年正月廿四日兩□（方和）與狀分明也、然今又眞（貞）圓與正玄相論之閒、非無其煩、所詮爲斷向後異論、以和與之儀、彼論所權現堂貳段半内壹段半四十五歩北依者、眞圓可令知行、殘三百十五歩幷赤迫壹段者、正玄可被知行、此上者、云先日和與分中江田四段、云今被□分、眞圓知行不可有後代永異論、守此狀、相□（互）可令知行、但南方佃不足事、對于餘名有御沙汰時者、可致同心沙汰候、仍和與狀如件、

元德元年十一月五日　　沙彌（詫磨）眞圓（花押）

（裏書）「爲後證、奉行人所加判也、

元德二年三月五日

左衛門尉忠尙（花押）

左衛門尉久義（花押）」

奉行人加判ス

鎭西探題詫磨真円ト志賀正玄ノ上申ニヨリ和与ヲ命ズ

六　鎭西北條英時下知狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

詫磨彦次郎　法師法名眞圓與志□（貞藏人カ）法師法名正玄相論、豊後國大野□（庄志賀村）領家佃權現堂二段半・赤（迫壹段此者中江田一反替事カ）□

右、就訴陳狀、欲有其沙汰之處、□（去年十一月カ）五日和與訖、如□（志賀貞朝）正玄狀者、當村佃事、□（正安）三年正月廿四日和與狀分明也、而今□非無其煩、爲斷向後異論、ミ所權□（現堂弐段）半内、一段半四十五歩

北依者、眞圓可知行、□（残三百十）□□五歩南依、幷赤迫一段中江田替者、正玄可知行□□方田數不足分者、任契狀可致沙汰、□子細同前者、此上不及異儀、亙守□□□沙矣者、依仰下知如件、

元徳二年三月五日　　修理亮平□（北条英時）

九九　志賀正玄貞朝寄進狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

奉寄進所領等事、

在

一所　豊後國大野庄下村泊寺院主職兼地頭職田畠山野等

一所　同庄志賀村筑紫尾寺院主職兼地頭職田畠山野等

一所　大方名中尾寺號長福寺院主職田畠等

一所　同岩屋寺院主職田畠山野等

此兩所者、爲比丘尼玄觀房・玄明房之道具、存生之間者、自御寺御計上新天、可令引給者也矣、

右、件寺領等者、代々無相違、正玄（貞朝）所令知行也、而於今者、盡未來際、奉寄進于法壽寺號通玄山釋迦如來者也、然者、云天長地久之御祈禱、云家門繁昌之祈禱、專被勤行之、將又、爲被訪先祖幷正玄之菩提、如此所令寄進也、若不慮壇（マヽ）那法藏丸・無量壽丸、致其煩之時者、可被申行于罪科、仍奉寄進

志賀貞朝所領ヲ通玄山法寿寺ニ寄進ス

泊寺

筑紫尾寺

大方名中尾寺

同岩屋寺

法藏丸無量寿丸

ノ煩ヲ停ム

志賀貞泰ノ重訴状ニヨリ住吉神主ヲシテ当知行実否等ヲ注進セシム

相伝所領ヲ嫡子熊毗砂房丸ニ譲ル

泉名内大窪屋敷

状、如件、

元徳貳年三月廿五日　　（志賀貞朝）沙彌正玄（花押）

100　鎮西（北條英時）御教書案

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人次郎入道（志賀貞泰）寂性申筑前國三奈木庄内勳功之地、幷豊後國志賀村内田畠屋敷安堵事、重訴状如此、大友近江入道（貞宗）背度々催促、云當知行實否、云支申仁有無、不注進云々、尋問實否、載起請之詞、可被注申、仍執達如件、

元徳二年五月廿日　　（北条英時）修理亮　御判

住吉神主殿

101　志賀寂性貞泰譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠等地頭職幷勳功賞事、

副渡　親父志賀大郎藏人（泰朝）入道（マヽ）譲状一通、

壹所　泉名内大窪屋敷　在田畠等

大野荘

羽月屋敷

朝倉名内咲迫屋敷

定蓮房居屋敷

大竹屋敷

三奈木荘勲功地

津留屋敷本領家方ハ女子くろ御前

本地頭方ハ徳毗眇房丸

相伝所領ヲ徳毗眇房丸ニ譲ル

大方名内上津留屋敷

安岐郷内菊善屋敷

壹所　羽月屋敷　在田畠等

壹所　朝倉名内咲迫屋敷　在田畠等

壹所　定蓮房居屋敷　付大竹屋敷在田畠等

一、筑前國三奈木庄内勲功地　彌五郎兵衛入道給分

右、件所領等者、得親父志賀大(マヽ)郎藏人入道阿法譲状、寂性(志賀貞泰)無相違所令知行也、而於彼所領等者、所譲與嫡子熊毗眇房丸仁限永年也、於　公家關東御公事番役以下合戰事者、隨所領分限、可令勤仕也、又津留屋敷本領家方者、所譲與女子くろ御前也、同屋敷本地頭方者、所譲與徳毗眇房丸仁也、女子之分者、一期閉所譲與也、一期後者可令進退、又件所領等内羽月・咲迫者、志賀大(マヽ)郎忠能（本名貞朝）與領所折中時、二ヶ所者分於領家方畢、津留屋敷・大竹屋敷半分者、一向寂性所令知行也、然者面々仁任譲状、相互仁深相思天、向後も無相違、可令進退領掌也、仍譲状如件、

元徳貳年七月十一日

沙彌寂性(志賀貞泰)（花押）

一〇三　志賀寂性貞泰譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領豊後國大野庄志賀村南方屋敷田畠等在家地頭職事、

一所　大方名内上津留屋敷（普カ）　在田畠等　本地頭方

一所　同國安岐郷内菊寄屋敷　在田畠等

亡父阿法譲状ハ嫡子熊毗砂房丸ニ渡ス

宇佐宮仮殿造営用途并新造御所用途ニ関スル志賀貞朝卜同朝郷トノ相論ヲ裁ス

朝郷宇佐宮仮殿用途ハ勘渡ス新造御所用途ハ分限ノ弁ヲ致ス

右、件所領二ケ所者、得親父志賀大郎(ママ)藏人入道阿法(泰朝)譲状、寂性(志賀貞泰)無相違所令知行領掌也、而所譲與末子德毗砂房丸仁限永代也、於亡父阿法譲状者、嫡子熊毗砂房仁所副渡也、於　公家關東御公事番役以下合戰事者、嫡子と相共可令勤仕、蒙勳功時者、各別仁可申給也、但雖如此譲、有不慮之外事時者、件所領嫡子可令領知、又於無相違事者、任譲状可令領知行、相構〻〻相共ニ深相思天、向後無相違、可令知行領掌也、仍爲後代、譲状如件、

元德貳年七月十二日　一〻

(志賀貞泰)沙彌寂性　判

一〇三　鎮西北條英時下知状

○志賀文書
熊本県史料中世二

志賀藏人太郎貞朝法師(法名正玄)代玄法申、宇佐宮假殿造營用途以下并新造御所用途等事、右用途等、就惣領大友近江入道(貞宗)具簡訴訟、以壹倍正玄致其辨訖、而豊後國大野庄志賀村南方内近地名地頭次郎入道(志賀朝郷)圓淨、爲正玄庶子之處、背催促不致其辨之上者、以壹倍可被糺返之旨、正玄就訴申之、尋下之刻、於宇佐宮假殿用途者、令勘渡正玄訖、遂結解有未濟者、不日可致沙汰、至新造御所用途者、可致分限辨之旨、圓淨進請文訖、此上不及子細、任承伏可致其沙汰者、依仰下知如件、

元德二年十二月十六日

修理亮平(北条英時)朝臣（花押）

一〇四　綿田岳川地藏堂板碑銘

○大分の石造美術
大野郡朝地町大字綿田、岳川地藏堂

（墨書）
「
右志者六十六部
□（本）地法身　如法經書寫之時
□□（法界）塔婆　□（所）奉造立如件、
（梵字タラーク）
□□（大日）如來　正慶元年壬申二月十三日僧正之（元）敬、白
三摩耶形　乃至法界平等
利益、殊結緣衆二世恙（悉）地圓滿也、」

○「　」内ハ多田限豊秋『九州の石塔下』ニヨル。

一〇五　志賀圓淨朝郷田地渡狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

奉引渡、
豊後國大野庄志賀村近地名内田地四段事、
右、宇佐宮南樓幷假殿料物及新造御所用途・筥崎加燈用途已下、自惣領（志賀正玄）被辨之、及上訴（カ）御給御下知候之間、當名内長田四反、於自明年癸酉五ケ年所奉引渡也、但年記内用途候者辨之、於田地者、可返

六十六部如法経書写ノ時板碑ヲ造立ス

宇佐宮南楼並ニ仮殿料物以下用途ノタメ近地名内田地四段ヲ五ケ年間渡ス

年記内ニ用途アラバ弁ズ

志賀村北方堀池名内地頭押領ノ田地ヲ注ス

下羽妻薗
堤田
柿迫屋敷
ツヽロ田
萩迫
雨堤高城堺
ハイ迫屋敷

給候、仍狀如件、

元徳四年壬申七月十日

（志賀朝郷）沙彌圓淨（花押）

一〇六　大野荘志賀村北方堀池名論所注文

○田中繁三文書
京都大学文学部日本史研究室蔵

（端裏書）「堀池名論所避狀」

豊後國大野庄志賀村北方堀池名地頭背中分令押領所々注文

合

一所下羽妻薗　作畠内小計　是者去渡領家方畢、
一所同薗内　七十歩計但此内仁竹林有之、　是者本堺無相違、
一所堤田小ナフテリイ『ハ』　田地小計　是者折中畢、立南北堺、西依領家方、東依地頭方
一所柿迫屋敷付　田地三十歩計　是者十歩計也、仍立直堺去渡領家方畢、
一所堤田西マタ東畠下　田地二十四歩計　是者如元可爲溝之由定□畢、
一所ツヽロ田東堺　田地六歩計　是者本堺無相違者也、
一所萩迫　畠地四十歩計　是者本堺無相違者也、
一所雨堤高城堺　野地一町五段計内　作二段内町堀六十歩計殘荒野　是者去渡領家方畢、
一所ハイ迫屋敷付□屋原後　田地十五歩計　是者本堺無相違者也、

大野荘

中迫屋敷
中薗道両方
重ネテ押領坪々
瀬田
柿迫
馬籠
東落水
櫛戸
登迫
堀池名地頭代有直
預所代沙弥道円

一所同屋敷付アサハタケ　五十歩計　是者本堺無相違者也、
一所中迫屋敷付　田地五歩計　是者去渡領家方畢、
一所中薗道両方　畠地二十歩計　是者本堺無相違者也、

一、重押領坪々注文

一所瀬田東堺　麥地上二十歩計　是者去渡領家方畢、
一所柿迫上　畠二段小計　是者去渡領家方畢、
一所馬籠　野畠荒野一町五段計　是者去渡領家方畢、
一所東落水　野畠一段計　是者去渡領家方畢、
一所堤田東俣　田地三十歩計　是者依本作人起請文被付地頭方畢、
一所櫛戸　田地小計　是者自地頭方訴之、但自河□□坪□□殘之閼立南北堺、西依領家□東依地頭方
一所丁（マヽ）いス　畠小計　是者去渡領家方畢、
一所登迫　屋敷小計　是者自地頭方訴之、但直堺之上者同前

右所々者、依有御沙汰、雖相番訴陳、以和與之儀、或去渡之、或無相違、本堺者、如元所定如件、

正慶元年九月廿一日　堀池名地頭代有直（花押）
預所代沙彌道圓（花押）

上村南方論所ニ対スル相論ヲ止ム

志賀村通玄山法寿寺檀那承知スベキ条々
下村泊寺田畠林木薗竹
筑紫尾寺
法寿寺寺地林木

一〇七　新一（カ）奉書

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

（大野荘カ）上村南方論所内池佐惠與征矢木堺（下地壹町斗云々）事、地頭以和與之儀、彼論所を可令折中之由、依申之、直北尼公對于地頭不可及相論之由、申子細候ハヽ、更不可依其口入、所詮御邊在京之時、任被仰下之旨、致嚴密之沙汰、可被存公平之儀之由、（年未詳）十二月廿四日　被候也仰下候也、恐々謹言、

新一（カ）（花押）

進上　志賀村六郎左衛門入道殿

一〇八　志賀正玄貞朝置文

○志賀文書
熊本県史料中世二

重定置

一、豊後國大野庄志賀村通玄山法壽寺、至彌勒下生長老檀那可承知條々等事、

一、同庄下村泊田畠、幷林木薗竹一圓、爲法壽寺之所領、可加泊寺修理、兼致於當寺興行也、又同庄筑紫尾寺事、先日定畢、

一、法壽寺之寺地林木四至堺事、東限谷、北限水上堺、西限上尾立、至于水上堺、南限前垣古木櫻木（已上）、

大野荘

長老職

修理造営

法寿寺開山檀那正玄

要翁（弁円）

一、長老職之事者、先日付于演侍者定畢、但雖爲演侍者之計、背開山素意、不可讓于餘僧、或犯戒之僧、若無器量之弟子者、請大明國師之門徒、可令住寺也、

一、子々孫々崇佛法、重僧衆、可祈先祖之菩提、保末孫之餘榮者也、將又、寺地幷林木堺等、不可致違亂、至于此旨違背之輩者、爲正玄之子孫、不可知行所領也、

一、修理造榮（マヽ）等事者、請助成可修理者也、何修理之事、可受檀那支配、至于內者、中尾大森可致奔走者也、依爲冠弱之寺免、所置定如斯、若背此條〻之旨者、於我代々子〻孫々、可蒙御本尊泊寺、亦當寺之大伽藍之照罰者也、爲內者者、大小可守茲旨也、

一、右條々、至彌勒（マヽ）出世、不可違失、仍爲後日、所定置如件、

正慶二季癸酉（マヽ）潤二月三日　　正玄（志賀貞朝）（花押）

法壽寺開山檀那菩薩戒弟子正玄大旦（マヽ）舩置文明〻如此、千却萬却令法久住故也、背此旨住持幷僧宗（マヽ）、可蒙三寶照罰矣、

要翁（東福寺弁円）　比丘（マヽ）　玄綱

同正慶貳年己酉潤二月三日　　謹誌之、

○正慶二年ハ癸酉ナリ。志賀正玄（貞朝）ハ、建武元年頃ヨリ忠能ト自称ス（一一二・一一五号）。

三聖寺領文書惣目錄

〇天理図書館藏三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

（端裏書）
「三聖寺目錄」

（花押）

三聖寺領以下文書惣目錄

合

一合　眼上

一結五卷　大野庄三ヶ村志賀、中、下、地頭和與中分狀
并關東御下知及年貢未進請文等、在小目
錄、

一結　關東御教書并六波羅施行
（北条時宗）　（北条貞時）
法光寺殿最勝園寺殿御書等已上三聖寺御祈
禱所事、
此外最勝園寺殿當御代并別駕御狀等
當寺領等安堵事、

二通　關東御教書并六波羅施行　十月十日　正和五
入唐錦袋　在小

大野莊

可爲關東御祈禱所由事、

一結　肥後國守富庄内榎津國廳本札西倉等
（時宗室、貞時母）
吉田殿并潮音院殿御寄進狀等在小目錄
入唐錦袋

一結　道然上人與奪狀并潮音院殿安堵御書
長井
掃部頭入道殿御文系圖等已上寺務相承
事在小目錄
入筋袋、

一結　安堵院宣等長崎入道圓玉（カ）狀等事書具書

（繼目裏花押）

關東御方之御文等　已上賴雅律師謀書
露顯御禮（カ）事　在小目錄、

一結　大秦　壽昌院　御寄進文書　入筋袋、在小目
錄、
（三聖寺開山滋照）
寶覺禪師　勅號院宣正和三年七月五日

一通　西薗差圖并吉田殿御文一通・同田地注文
竹田八反事、

一結　關東御下知狀　嘉曆二年
二月十六日　并六波羅御施
行御使等請文以上正文

一通　心原長老大野庄下志賀兩村寺社免田管領去狀等 正和二年八月廿六日在反報案、(返)

一結三通　吉田殿御置文御自筆

(北条貞時)最勝園寺殿御自筆御書

潮音院御自筆御書

二通　近江國伊庭庄安樂寺御寄進狀

一結　關東御下知弁門徒事書二卷 圓通寺福昌院等事、

一結　宗覺流文書 大野庄事 在小目錄、

一結　大野庄村〻分漏地頭和與狀弁六波羅下知狀等 在小目錄、

一結　時國狀弁山階左符(府)實雄公 被進吉田殿和字御文等

一結　鎭西探題(北条政顕)總州御返狀一通

彈正左衞門尉返狀一通

一結　東福寺開山(弁円)御文 大野庄下中村事、

同教音上人性圓僧都狀等 圓滿院

一結　院宣四通 時國下中村相論 安堵院宣 賴雅律師事等、

潮音院殿御文又院宣案一通 上村事 當壽所由事、 門腋地事、

(継目裏花押)

一結　關東御教書弁六波羅・博多御施行等宮(カ)寄庄與中村相博停止事、及志賀村地頭阿法中分等事、

一結　大野庄建久九年實檢目錄送文等 入唐錦袋、

一結　九條殿堀川殿以下人〻狀八通 大野沙汰事、

一結三通　下村地頭請文書狀案

一卷　願文 定成朝臣清書 東福寺開山一週忌御佛事

一結　綸旨西園寺消息六波羅施行以下 在小目錄、

宇佐宮假殿役催促停止事、

(抹消跡アリ)一通　關東公文〇奉書 正和五年九月廿八日 所守富榎津以下梶取職事 入錦袋、

一結二通　小袋殿長野入道御文等 寺務安堵事、

一合　眼中

一結　大野庄文書正文　源禪寄進狀等　在小目錄、

一結　宗覺法眼返狀幷時國狀等中村事　在小目錄、

一結　定阿　阿觀　源禪等狀　雜〻閧不及目錄、

一結　時國入道流文書久壽紛失狀等事　在目錄、

一結　問狀綸旨幷源禪同母堂及時國等狀　在小目錄、

一結　綸旨幷人〻御狀等、

正應四年御沙汰文書也、　中村事　在小目錄、

（継目裏花押）

一結　源禪狀幷代官定阿請取等文書紛失由事　在小目錄、

一結　同人狀等中下村相傳子細載之、在小目錄、

一結　東福寺開山御文幷經任卿和字狀等同、

一結三卷　一條大殿御消息幷猷豪狀十地上人御文等同、

一結　花山院殿御文以下　五通

一合　眼下

大野庄志賀下　中地頭和與中分狀幷地頭擧狀及取帳目錄等、

一合　目

一結　山城國大赤目田畠相傳文書幷院宣等　在小目錄、

一結　法性寺所〻地本券等　入櫨繪柿袋、

一合　城

一結　京都散在地券幷本願刑部入道寄進狀　在小目錄、

（追筆）「一通」　右馬寮長者宣　嘉曆二年十二月廿一日」

一結六通　鹽小路西洞院地本券　此內一通相博狀案　在小目錄、

此外又六通在之、

一卷四通　堀河地券

一通　京都散在地子分注文　嘉元〻年十二月　日　地頭乙法師注進、

一結　九條鳥羽稻荷以下散在田地注文所役帳等、

一結　大和大路相博狀以下

一一〇　志賀寂性貞泰着到状

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國豊前藏人次郎入道寂性、以今月十日令參洛候、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、
（右中将某）
（花押）

元弘三年十一月廿日　　（志賀貞泰）沙彌寂性　上

進上　御奉行所

志賀貞泰後醍醐天皇方ニ着到ス

一一一　志賀寂性貞泰申状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊前藏人（志賀）次郎入道寂性貞泰法師法名寂性謹言上、

欲早被經御　奏聞、被成下安堵　綸旨、備將來龜鏡、豊後國大野庄内志賀村南方田畠屋敷荒野勳功地半分等。并筑前國三奈木庄内田畠屋敷山野。等地頭職事、

副進

一　關東御下文　於正文者、（志賀貞朝）舍兄正玄相傳之、

一　亡父阿法（貞宗）讓狀　于時泰朝讓狀

一　大友近江入道被成下御教書案　所領兼知行所見

志賀村及ビ三奈木荘等地頭職ニ対スル安堵ノ綸旨ヲ請フ

一〻　詫磨彦二郎入道（于時直政）請文子細同前、

右、於所領等者、（寂性）得。亡父阿法（泰朝）譲状、當知行于今無相違地也、而朝早任定法、被經御奏聞、被成下給安堵　綸旨、爲備將來之明證、恐〻言上、如件、

元弘三年十一月　日

一二三　後醍醐天皇綸旨

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村半分南方、幷下村泊寺院主職・地頭職、同國笠和郷富成名内勢久世宇屋敷鹽濱、筑前國三奈木庄内田畠屋敷山野等、志賀藏人太郎（貞朝）忠能法師（法名正玄）當知行不可有相違者、

天氣如此、悉之、以状、

建武元年五月一日　　式部大丞（花押）

志賀忠能ニ志賀村半分以下所領安堵ノ綸旨ヲ賜フ

一二四　後醍醐天皇綸旨

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村南方内泉名大窪屋敷田畠・羽月屋敷、朝倉名内吠迫屋敷・津留屋敷・定蓮房屋敷、付大竹屋敷、幷田畠荒野、（筑前國三奈木庄）。等地頭職、豊前藏人次郎入道（志賀貞泰）寂性當知行不可有相違者、

天氣如此、悉之、以状、

志賀貞泰ニ本領安堵ノ綸旨ヲ賜フ

建武元年五月十三日　　式部大丞（花押）

一二四　圓通寺侍者某田畠等寄進状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

寄進　圓通寺領豊後國大野庄内上村鎭守深山八幡宮畠地事、

合漆段陸拾歩者、

右畠者、彼社之祝政信爲往古神領之由、頻訴申之間、宮原畠地四段・切木麥地壹段・荒野貳段陸拾歩、任建久置文、重所寄進之状、如件、

建武元年七月十日　　侍　者（花押）

祝政信ノ訴ニヨリ田地七反六十歩ヲ深山八幡宮ニ寄進ス

建久置文ニ任セ寄進ス

一二五　志賀忠能寄進状

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端書）「使中尾　家廣」

寄進、

法壽寺々中菜園、并山林東西南北堺等之事、佛殿之前門前雙杉両方在、縦場之末大櫻木至爲堺、西村子園之南之岸端雙杉爲堺、西之隅岩在、自岩上大榎爲堺、峯筋北江通越堀雙松在、經塚之峯少平處在、雙松之木西木垂限、經塚之峯之圓山之間小鼻（マヽ）在、自小鼻透北小路在、小路之西圓山之西面路

法寿寺々中菜園山林等ヲ寄進ス

端雙松限、木垂水上堺大櫻之木在、同峯筋東江連高岸在限、岸透南立岩在、岩下小田在、田之北之岸端下松原之湯屋之溪限溝、自溝上畠在、畠地隅龍王之森在、森之上岸之上畠地透西門前之場、限永代、法壽寺寄進畢、至我子〻孫〻、不可有違亂之儀者也、及于末代致緩怠內者、可罷蒙本尊幷若宮八幡大菩薩御罰云〻、仍爲後日、證狀如件、

建武貳年乙亥三月三日　　藏人忠能（志賀貞朝）（花押）

一一六　泊寺院主代住房濫妨人交名注文

○志賀文書
熊本県史料中世二

泊寺院主代住房濫妨人ヲ注進ス

藤北
野津
吉野
小河　板井
衛藤
堀　大石

注進、

去八月廿七日打入泊寺院主代住房濫妨人交名事、

藤北四郎入道　同　四郎太郎
同　四郎次郎　野津式部大夫入道
吉野治部左衛門入道　同　新兵衛
小河孫次郎　板井八郎左衛門入道
衛藤兵衛入道　同　衛藤六
板井新兵衛　□郎
堀源左衛門入道　大石□郎左衛門入道

平野

曽我

泊寺院主代明秀損物ヲ注進ス

大野荘

平野七郎入道　同　讃岐房

同　孫八□　川□□夫房

同　八郎入道　同　九郎入道

圖書入道　十郎兵衛入道

曾我□塚二郎入道　同大郎□郎

同　六郎□郎

此外郎從□交□不知□、且所注進也矣、

右、交名注□如件、

建武二年九月　日

一一七　泊寺院主代明秀損物注文

○志賀文書
熊本県史料中世二

注進、

院主代明秀損物等注文、

一、用途六貫餘　一、小袖二

一、衣二　一、大帷二

一、裏付袴一　一、帷二

一、太刀一　　一、刀二
一、平鉾一　　一、馬一疋　鞍皆具
一、牛二頭　　一、銅手取一
一、湯瓶一　　一、天目盆二
一、塗茶器五　　一、垸十具

此外、資材雑具等略之、
右、損物等注文如件、
久末申状　建武二年九月　日

二六　後醍醐天皇綸旨

○志賀文書
熊本県史料中世二

足利尊氏・直義等、有反逆之企聞、所被追討也、大友志賀藏人太郎能長發向鎌倉、可致軍忠者、
天氣如此、悉之、以状、
（建武二年）十二月十五日　　（吉田宗房）右中將（花押）

足利尊氏直義兄弟追討ノタメ志賀能長ヲ召ス

志賀正友ヲ召ス

大友近地頼広ノ名字ヲ与フ

玖珠城合戦以下ノ軍忠ヲ上申ス弟朝広討死

一一九　後醍醐天皇綸旨　○志賀文書　熊本県史料中世二

志賀藏人太郎入道正友（能長）、相加官軍、可致軍忠者、
天氣如此、悉之、以状、
二月十日　大膳大夫（花押）

一二〇　源頼繼名字書出　○志賀文書　熊本県史料中世二

大友近地孫次郎頼廣
建武三年八月卅日　源頼繼（花押）

一二一　藤原近地景能軍忠状　○志賀文書　熊本県史料中世二

□（大友）近地孫二郎景能豊後國玖珠城合戰軍忠條〻、
□（右）、建武三年三月廿七日合戰之時、舍弟□朝廣討死訖、同九月十四日合戰之時、自身被疵、左足顆、其外數ケ度、遂□（合戰カ）捨身命抽軍忠候之條、明白也、迄于十月十二日城沒落期、致警固上、矢目

菊池武敏発起ニツキ肥後ニ発向在津ス

京都発向以下ノ軍忠ヲ上申シ一見状ヲ請フ

近江国伊岐代宮城攻山城八幡合戦

惣領名代大友貞載結城親光ト組打ツ京都唐橋烏丸

菊□（池）掃部助（武敏）發起之間、大將肥後（一色頼行）御向之時、御共申令在津候、以此□（旨、不日カ）可有御披露候、恐惶謹言、

建武三年十一月廿八日　　藤原（近地）景能上（裏花押）

進上　御奉行所

（證判）「承了、」　（一色頼行）（花押）」

一三　志賀頼房軍忠状

○志賀文書
熊本県史料中世二

御一見状□□□□□嶋津兵部允爲凶徒、馳參洞院□□□□閏、去建武二年十二月廿一日、行合美濃□□□口御方軍勢等、各擬令退治之刻、生虜兵部□若黨刑部左衛門尉景定畢、則自惣領御方被召渡公方畢、

一、建武三年正月二日、於近江國伊岐代宮城、抽軍功、追落凶徒畢、

一、同八日、追落八幡凶徒、進大渡橋上、先陣軍勢踏落橋、流于河之時、頼房旗差後藤大郎（マヽ）實氏同落入河畢、

一、同九日、追落橋上、先陣頼房（志賀）被射貫左股之條、當手皆存知之上、將軍家執事幷嶋津四郎左衛門尉見知畢、

一、同十一日、惣領御名代近江左近將監（大友貞載）、打組大田大夫判官親光（結城）之時、於京都唐橋烏丸、頼房分取頸

一、入細河卿殿見參之上、一萬田孫太郎・詫磨彦太郎・豐東彦六入道以下數輩見知畢、

四条河原合戦

一、同十六日、家人中條左衛門次郎貞幸、令分取之條、朽細(網)次郎・首藤三郎次郎見知畢、

一、同廿七日、於四條河原、賴房自身致太刀打合戰、被切右頂上、家人岩戸六郎次郎政長被切右股之條、詫磨彦太郎・朽細(網)二郎(マヽ)見知畢、

一、同晦日、於四條河原、親類野津孫次郎能憲、被射貫右腰之條、詫磨彦太郎・朽細(網)次郎(マヽ)見知畢、

摂津国打出豊嶋上山合戦鎮西下向御共

一、經丹波路、到兵庫嶋、二月十日・十一日摂津國打出・豊嶋・上山合戰、勵忠功、致鎭西御下向御共畢、

豊後国玖珠城合戦

一、將軍(足利尊氏)家御座大宰府之時、三月十一日、凶徒近江次郎貞順(大友)・因幡兵庫助入道士寂(入田)已下、楯籠豊後國玖珠城、擬打入府中之刻、守護代以下當家一族御扶持人等、大略馳參宰府、國中無人之時、賴房于時能長同十一日馳越高國府、依揚御簇、地頭御家人等有御方志之輩、屬賴房之閒、令警固府中、着到已下就令注進于宰府、預御教書畢、府中于今無爲之條、奉爲惣領、爲當國、賴房忠功爲拔群哉、隨而發向玖珠城、屬一色右馬助入道(賴行)殿、可追討凶徒之由、三月廿日賜御教書、馳向彼之城、八ケ月閒抽晝夜攻戰、責落賊徒畢、至功之篇、委所帶一色範氏(一色禪門)一見狀也、

以前條々、軍忠如此、早且賜御一見狀、備末代武略之支證、且預御注進、浴勳功之賞、欲開弓箭眉目矣、仍目安如件、

建武四年三月　日

「承候(證判)畢、　沙彌（花押）」

○本文書、二箇所ノ紙継目ゴトニ裏花押アリ。

京都所々合戦以下ノ軍忠ヲ注進シ一見状ヲ請フ

将軍九州下向ノ時ハ京都ニ留マル

叡山今路越ニ発向

千束峯合戦

西塔南中尾攻

近地名地頭職ヲ志賀円浄ニ避リ

一三三　志賀正玄(忠能)軍忠状　○志賀文書　熊本県史料中世二

目安、

大友一族志賀太郎藏人入道正玄(忠能)申、賜御一見状、備軍忠支證、預御注進、欲浴勳功賞事、

建武三年正月十日、爲惣領御共、參御方、致京都所々合戰、將軍家御下向之時、依老躰病躰、罷留京都、洛中邊土仁隱身奉待、付將軍家御上洛、最前馳參、依老病自身者不退祇候東寺、以代官又五郎泰則已下、同六月五日、發向叡山今路越、抽軍忠、同八日、向西塔麓、同十三日・十四日、致千束峯合戰、同十八日、責上西塔南中尾、同十九日、泰則被射貫頭之間、奉行人小田原四郎左衞門入道・佐保兵衞入道、遂實檢、記勘文之上、小田原六郎入道・豐東彥六入道見及之畢、早賜御一見狀、備武略之支證、預御注進、欲浴恩澤矣、仍目安如件、

建武四年三月　日

「承候畢(證判)、沙彌(花押)」

一三四　一萬田孔釋宣顯避状　○志賀文書　熊本県史料中世二

豊後國大野庄志賀村南方近地名地頭職事、

与フ円浄子息宣元ニ譲ル

泊寺地頭職院主職ヲ法寿寺ニ寄進ス

右、以去正和元年六月廿九日、相副次第證文等、志賀次郎朝郷今者法名圓淨譲與當名於子息童名又鶴丸之今者宣元畢、當知行之處、背譲狀、致押妨之間、番訴陳畢、圓淨謀陳依爲非據、去正慶元年十二月廿五日宣元預御下知畢、仍令當知行之處、圓淨悔先非、被致種々懇望之間、以別儀孔釋相計之、以彼名內田畠屋敷注文有別帋、所避與圓淨之也、聊向後不可有違背儀、於御公事以下者、守惣領宣元（志賀）支配、可被勤仕者也、若背此狀、相互致違亂時者、經上裁、當名於一方仁可令知行也、仍爲後日狀、如件、

建武四年七月廿一日　　沙彌孔釋（一万田宣顕）（花押）

一三五　一萬田孔釋宣顯寄進狀

○志賀文書　熊本県史料中世二

寄進、

豊後國大野庄泊寺之地頭職・院主職田數等、悉以寄進于法壽寺、可有知行者也、但以院主職之貳段田、可爲寺役修理分、住寺仁可被存知此旨也、聊向後不可有違背儀、於御公事以下者、守惣領宣元（志賀）支配、可被勤仕者也、若背此狀、相互致違亂時者、經上裁、當名於一方仁可令知行也、仍爲後日狀、如件、

建武四年七月廿一日　　沙彌孔釋（一万田宣顕）（花押）

○孔釋初名ハ宣景、後宣顕ト改ム。

一三六　足利尊氏御判御教書及寺社國衙領幷領家職事書案

追加法ヲ交付シ厳密ニ沙汰セシム

動乱中大将守護人軍勢ニ預ケシ寺社国衙領ヲ雑掌ニ交付セシム

預人交名・所領在所ヲ注進スベシ

（端裏書）「御教書幷事書　　建武四年」

寺社國衙領幷領家地頭職等事、豊後・肥前・日向事書一通遣之、早守彼状、致厳蜜（マヽ）沙汰、載起請之詞、可注進子細也、若令遅怠者、任被□（定置カ）之法、可有其咎之状、如件、

建武四年十月七日　　御判（足利尊氏）

大友孫太郎（氏泰）殿

一寺社國衙幷領家職事　建武四、十、七、評、

動亂之閒、諸國大將守護人、就便宜預置軍勢云々、於今者、可沙汰居雑掌之旨、被定下之處、不遵行之由、有其訴、甚招罪過歟、所詮任御教書・奉書幷引付施行、不日悉付渡下地、云預人交名、云所領在所、可注進之、若尚令遅引者、於守護人者、改易所職、至大將幷軍兵者、或被處其咎、或雖有勳功、不可宛行恩賞矣、

次武家事、子細同前、

雲浄寺ヲ寄進ス

泊寺地頭職院主職ヲ法寿寺ニ寄進ス

一三七　志賀正玄忠能書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

雲浄寺寄進状認進候、竹木をもうゑおかれ候て、未來まで、彼堂可令修造給候、恐々謹言、

五月卅日　　正玄（志賀忠能）（花押）

玄守庵主禪師

○正玄花押ハ次号（志賀忠能）ト若干異ル。

一三八　志賀正玄忠能寄進状

○志賀文書
熊本県史料中世二

寄進、

豊後國大野庄泊寺之地頭職・院主職田數等、悉以

寄進于法壽寺、可有知行者也、但以院主職之貳段田、可爲寺役修理分、住持仁可被存知此旨也、聊

於子孫、不可成違亂也、仍爲後證寄進状、如件、

建武伍年戊寅九月五日　　正玄（志賀忠能）（花押）

深山八幡宮ニ筑後肥前ノ所領ヲ寄進ス

筑後国小泉並ニ畑城合戦ノ軍忠ヲ上申シ証判ヲ請フ

一二九　源頼治寄進状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

□鎮守深山八幡宮奉寄進所領之閒事、

合貳段定　一筑後國山北四郎入道跡ノ内田地□
一肥前國神崎庄野中光丸政三郎跡ノ内田一反

右所〻者、頼治爲勳功賞所宛給（マヽ）、而閒依有所願、深山八幡大菩薩限永代、所奉寄進如件、

建武五年九月十三日　　源　頼治（花押）

一三〇　源志賀頼房軍忠状

○志賀文書
熊本県史料中世二

筑後國凶徒等依蜂起、大将（一色範氏）御發向之閒、大友志賀藏人太郎頼房令御共、同國小泉幷畑城御合戦之時、差進代官、屬于大将今河殿御手、致山攻軍忠之刻、中閒後藤四郎令討死候畢、此等子細、御勘文顯然也、然早欲爲後證賜御判候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

建武五年十月十六日　　源（志賀）頼房

進上　御奉行所

「承了（證判）、（花押）」

一三　上尾塚八面石幢銘

○大分の石造美術
大野郡朝地町大字上尾塚字早尾原

「(第一面)(梵字バン)　浄土三部経一石一字」
(第五面)「□奉讀誦法華經三十三部、
(梵字キリーク)□□光明眞言万三千暦應貳己卯三月三□
一奉書寫法華經七部、」

○左廻リニ梵字(金剛界大日)(バン、イー、ベイ、不明、(地蔵)キリーク、(毘沙門天)バク、(弥陀)カーン、(釈加)バイ、(不動)(薬師)ヲ刻ス。大分県指定有形文化財。
梵字ノ読解ハ白井昭一氏ノ示教ニヨル。

浄土三部経一石一字石幢ヲ造立ス

先師棟西堂
三聖寺長老性海和尚
勝光寺

一三　顯心請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

以上

□事、先師棟西堂自筆□寺家文書を渡給候し時、同下村□吹擧をもて、三聖寺長老性海和尚の□下給候て、顯心多年彼寺住持として、□老師三聖寺住院候て、退□(院)後下向候て、勝光寺ニ御渡之時分、不慮□ニ訴候て、先師ニうたへ申候之間、一旦堪氣(マヽ)□申候き、其謂ハふるきいはいの文字も□と書直て候、此かと計を罪科に申立候、さしたる非

子細候哉、仍志賀殿・藤北殿□食候て、不便之由にて、老師ニ御口入□通露顕候て、被免許已了、□(然)而存生之間、無煩候、末後まておい(すカ)ちく仕候し事、無其隠候、而を圓寂之時分ハ不及□きかせ給候ハぬ病氣候之間、法眷□西堂の使者と申候て、下村殿方ニ□遣候ける之由承候、老師更ニ無存□老師悔返、別人ニ寺家事□いかてか志賀殿・藤北殿御方ニ、如此の子細を申されてハ候へき、謀書之段、御高察□たとい譲分明候とも、七十以前平生□(不)沙汰もあるへく候へ、既ニ八十の員ニ及候て、病床ニ平伏候、殊老耄至極之間、前後□覺の時分、文書を書あたへられ候へき事、□あるへく候哉、所詮、志賀殿・藤北殿、御口入□ハ、彼□跡のためにてこそ候へ、たゝ對面計候事ハ、いかゝ可有御口入候哉、

京都門徒中連署事、愚僧赦(赦)免以前事、□在家出家代々重書、手次上の安堵まで□候て後ハ、就是非、不可有子細候歟之處、如此押領之條、不及覺悟候、

□(在)京之間、寺物京進申さるゝ由、かすめ申候、此條□(無)跡方事候、在京十六年之間百九十貫五□(十)文のほせ候て、請取以下悉堪(勘)渡申候事、□其隠候、惣請取を可給候時分、被取亂候間、□句可承之由申候之時分、不慮ニ寺を罷退候之□、不及是□(非)候、是又不運之至候、

□(勝光)寺退出之時分、常住物抑留之由申立られ候、これ又あと方なき事に候、常住家具に□(つ)るてハ、一物もとらす候、其外一粒一錢にても、□をよくりう申さす候、藤北殿領内ニ、□て多年かよひ候し間、茶具足□の家具等所持仕候、用々につるて、彼小庵の□へを、勝

寺物ヲ京進ス

勝光寺退出ノ時常住物ヲ抑留ス

光寺へ取寄候之閒、彼寺のき候時、□具□を隨身仕候了、是又身のさして□奸曲候哉、□鉢三寶も御照覽候へ、勝光寺常住物□にては、塵介（マヽ）ほとも不抑留申候、尚以御不審□候ハヽ、以誓文可申上候、

□賀（志）殿・藤北殿屓（贔屓）之由申され候、是又何の篇目をもて、我ら御ひいきも候へき哉、且可有御了簡候哉、

□堂物抑留之由、掠申候、於勝光寺本より詞□（祠堂カ）物一粒一錢もなく候、愚僧私の二親のために、□致用意候物候し、是又わたくし物にて候之閒、□（他カ）人の御綺あるへからす候哉、□師堪氣ふかく候ハヽ、愚身ニ給て候重書以下、□や責返され候ハて候へき、且ハ堪氣赫（勅）免之□まゝけんたるへく候、

我ゝ末後（マヽ）之時分、不有合之由、定可訴申候、身を所へたゝり候之閒、連ゝ出入仕候、看病候き、圓寂時之事ハ、此方へも不告候、其上其□節ハ、僧達如此强訴を、あいたくミ候ける候閒、□人を不入候、雖然中陰之閒、我ゝ□宿□以下召具候、宮仕奔走仕候き、□返候へハ、法眷も方ゝ退散候し□我□罷歸候了、

□陣に參候事、當檀那戶次殿久御在陣之□參候、其外奉行所ニ參候事、あと方なき事に候、□師病氣極候時分ハ、かやうの不得心の所存□候てか、人とも出入をとゝめ候、湯水をもまいらセ□て、ほしころし申候へきやうに候し閒、其子細を□中ニ而、躰なきよしを愚身申て候つる、□語も候ハす、起居も叶ハれす候し閒、彼病中事きハまらす候、ハしめのほとハ、用談をハ、わ

勝光寺祠堂物ナシ

当檀那戶次殿

れ〳〵書付られ候し事共、いまハ我〻を、かくのことく□(うカ)たへ申候ハんために候、末後ニおよ(マヽ)てハ、硯筆をもとりかくし候之事、且ハ近所人〳〵皆〻存知□候之間、無益事ニ候へとも、あまりに〳〵不得心狀をさらけ候之閒、如此子細申上候、返〻恐入候、□可被御免候哉、以此旨可預御披露候、恐惶謹言、

三月十一日　　顯心（花押）

御奉行所　進之候、

一三三　志賀正玄忠能譲狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺・同國笠和郷勢久世宇居屋敷幷鹽濱・筑前國三奈木庄恩賞地以下所〻地頭職事、

右所領等者、相副代〻相傳證文等、限永代、所譲渡于嫡子賴房也、然則無他妨、可領知之、但於泊寺者、寄進于法壽寺閒、任置文旨、永不可成違亂、將又、孫子普賢丸雖分譲所領、於御公事者、賴房爲惣領、可令支配者也、仍譲狀如件、

康永元年八月三日　　沙彌正玄（志賀忠能）

相伝所領ヲ嫡子賴房ニ譲ル

孫子普賢丸ニ譲ル所領ノ公事ハ惣領賴房支配

相伝所領ヲ孫子普賢丸ニ譲ル

坪井
岩戸入道
下菰宇
水上
小蜂原

一三四　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、
　相傳所領豊後國大野庄志賀村南方
壹所　坪井　在田畠、
壹所　岩戸入道給　在田畠、
壹所　下菰宇　在田畠、
壹所　水上　在田畠、
壹所　小蜂原　在田畠、

右、所領等地頭職者、限永代、所譲與于孫子(氏房)普賢丸也、於御公事者、隨惣領賴房支配、可勤仕之、若違背嫡子賴房之命者、可爲嫡子之進退、不然者、無相違可令知行、仍譲状如件、

康永元年八月三日　　(志賀忠能)沙彌正玄

○本文書、紙継目ニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

孫子普賢丸ニ田畠屋敷ヲ注シ渡ス　坪井屋敷

小蜂原屋敷　佐々加尾

水上　竹脇

穴湯前

下菰尾

注渡　豊後國大野庄志賀村南方

壹所　坪井屋敷

元田四段　出田一反大　新田一反大　石丸源次郎跡

元田三段　出田三百歩　新田八十歩　同人跡

新田壹段　五ヶ所合

壹所　小蜂原屋敷　佐ミ加尾

元田貳反　出田二反半

壹反水上　又半湯屋谷　號竹脇、佐ミ加尾貳段小　新田

壹所　水上　穴湯前

元田三反半　出田三反半　新田半五十五歩　六ヶ所合

壹所　下菰尾

壹段三百歩

新田三段

大野荘

壹所　火付尾　岩戸分

參反　淵脇　壹段　岩屋寺下

壹反　船子田　新田壹反

右、田畠屋敷等者、普賢丸（氏房）可知行之、任領家地頭中分状等、目錄如件、

康永元年八月三日　　沙彌正玄（志賀忠能）

○本文書、二箇所ノ紙継目ゴトニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

一三六　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領事、

在豐後國大野庄志賀村南方大方名內、

壹所　炭元壹段　前地頭代作

壹所　楸壹段　岩增用

右田地者、雖爲少分、女房依爲數子之母儀、所譲與之也、無他妨可令知行、於御公事者、隨賴房支配、可勤仕之、一期之後者、可譲渡于普賢丸（氏房）也、仍譲状如件、

康永元年八月三日　　沙彌正玄（志賀忠能）

火付尾
淵脇　岩屋寺下
船子田
領家地頭中分状

相伝所領ヲ女房ニ譲ル

炭元
楸　岩增用

一期ノ後ハ普賢丸ニ譲ル

○本文書、紙継目ニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

一三七　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與相傳所領事、

在豊後國大野庄志賀村南方大方名内、

壹所　元壹段　大坪口依之次初付之、

壹所　壹段　天神下

右田地者、所譲與于女子觀音御前也、無他妨、可令知行、於御公事者、隨惣領賴房支配、可勤仕之、一期之後者、可被付于賴房方也、仍譲状如件、

康永元年八月三日　　（志賀忠能）沙彌正玄

相伝所領ヲ女子觀音御前ニ譲ル

大坪

天神下

一期ノ後ハ賴房ニ付ス

一三八　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領事、

在豊後國大野庄志賀村南方大方名内、

壹所　本田貳段　大竹加治跡

相伝所領ヲ女子地蔵御前ニ譲ル

大竹加治跡

右田地者、所譲與于女子地藏御前也、無他妨、可知行之、於御公事者、隨惣領賴房支配、可勤仕之、一期之後者、可被付于賴房方也、仍譲狀如件、

康永元年八月三日　　（志賀忠能）沙彌正玄

○本文書、紙継目ニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

一三九　志賀正玄（忠能）譲狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領豊後國大野庄志賀村南方大方名内、

壹所　中尾屋敷　長福寺敷地　地壹町二反

壹所　元田壹段小　枝垂柳　尻依

壹所　元田壹段　久良町　西依

壹所　新田赤迫　阿蓮跡

壹所　新田石原　西池作　田數中分狀ニ見、

右屋敷田畠等者、所譲渡于女子比丘尼玄觀・玄明房兩人也、於御公事者、可隨賴房之支配、一期之後者、奉寄附于長福寺、爲比丘尼居所、可致佛法興隆也、若不然者、可爲賴房之進退也、仍譲狀如件、

康永元年八月三日　　（志賀忠能）沙彌正玄

一期ノ後ハ賴房ニ付ス

相伝所領ヲ女子玄観玄明房ニ譲ル

中尾屋敷

枝垂柳

久良町

赤迫

石原

一期ノ後ハ長福寺ニ寄附シ比丘尼ノ居所トスベシ

○本文書、紙継目ニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

一四〇　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領事、
在豊後國大野庄志賀村南方大方名內、
壹所　大坪　口依貳段
右田地者、所譲與于女子吉祥御前也、無他妨可知行之、於御公事者、隨賴房支配、可勤仕之、一期之後者、可被付惣領賴房方也、仍譲状如件、

○本文書、年月日差出書ヲ闕ク。紙継目ニ志賀正玄ノ裏花押アリ。

一四一　志賀正玄忠能譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與　相傳所領事、
在豊後國大野庄志賀村南方大方名內、
壹所　元貳段　船子田　阿蓮房跡　初付之、
右田地者、所譲與于女子薬師御前也、無他妨、可知行之、於御公事者、隨惣領賴房支配、可勤仕

相伝所領ヲ女子吉祥御前ニ譲ル
大坪
一期ノ後ハ惣領賴房ニ付ス
相伝所領ヲ女子薬師御前ニ譲ル
船子田
一期ノ後ハ賴房

方ニ付ス

也、一期之後者、可被付于賴房方也、仍讓狀如件、

康永元年八月三日　　（志賀忠能）沙彌正玄

一四三　志賀正玄忠能讓狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ東殿ニ譲ル

讓與、

相傳所領、

在豊後國大野庄志賀村南方內、

壹所　深町周防房作

右田地者、依年來慇懃之好、所讓與于東殿也、無他妨、可令知行、於御公事者、隨賴房支配、可勤仕之、一期後（之脱）可讓與于賴房也、仍讓狀如件、

康永元年八月三日　　（志賀忠能）沙彌正玄（花押）

一期ノ後ハ賴房ニ付ス

一四四　志賀正玄忠能讓狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ東殿ニ譲ル

讓與　相傳所領事、

在豊後國大野庄志賀村南方內、

壹所　深町貳段　周防房作

右田地者、依年來慇懃之好、所讓與于東殿也、無他妨可令知行、於御公事者、隨賴房支配、可勤仕之、一期後、可讓與于賴房也、仍讓狀如件、

康永元年八月三日　　沙彌正玄（志賀忠能）（花押）

○前号文書ト同内容ナルモ少異アリ。

深町

一期ノ後ハ賴房ニ付ス

一四四　源志賀賴房軍忠狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

大友志賀藏人太郎賴房、自去建武五年八月、致在津警周（固）之刻、筑後國凶徒等蜂起、九月十一日御發向之間、一族等雖不令參上、賴房一人參御共、同國瀨高庄御座之間、致不退警周（固）之上、同十月、少寒水山、幷畑城合戰之時、屬大將今河六郎殿御手、抽軍忠之間、預御一見狀訖、云警周（マヽ）、云奉公、所〻軍忠拔群之上者、成給御判、可捧後證候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

康永元年八月　日　　源（志賀）賴房

進上　御奉行所

「（證判）承了、（花押）」

筑後国瀨高荘ノ警固及ビ少寒水山並ニ畑城合戰ノ軍忠ヲ上申シ証判ヲ請フ

一四五　志賀頼資譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

ゆつりあたふしよりやうの事、ふんこのくに大のゝしやうしかのむらの内、ミなミかたのさいけ田畠、ならひにくんこうのしやうの事、

合　やしきのつほつけこれ（あり）、

右しよりやうハ、よりすけよし（能長）なかよりこのかた、ちうたいさうてんのしよりやうなり、しかるにいまお（今鬼房）にはうのほかハ、なんし女子ニつけてもこなきあひた、一ゑん又しうに、しゝそん〳〵まてゆつりわたすところなり、たゝし女子とあるあひた、こけ一このほとハちきようして、かいしやくをすへし、一このゝち子いてきたらん時ハ、ゆつりわたすへきなり、もしこなくて、しそんたゑん時ハ、とくやし（徳夜叉房）やはうにゆつるへし、しよのきやうたいハ、そうりやうのふちをくわへへきなり、くけくわんとうの御くうしらにおいてハ、せんれいにまかせて、そのさたをいたすへきなり、よてゆつり状如件、

康永元年十一月卅日

頼資（志賀）（花押）

所領ヲ一円又しうニ譲ル

後家一期ノ程ハ知行スベシ子出来セバ譲ルベシ子無クバ徳夜叉房ニ譲ルベシ

所領ヲ今鬼房ニ譲リ坪付注文ヲ渡ス

泉名内大窪屋敷
岩下屋敷
大方名津留屋敷
大竹屋敷
筑前国三奈木荘

ゆつりわたすしよりやう等田畠等つほつけ、

一所　いつミ（泉）みやう（名）の内、大くほのやしき、あり田畠等、いわし（岩下）たのやしき、よこはたけつしたてさこのやしき、おの田三たんハ大つほの内なり、

一所　大かた名内、つるのやしき、在田畠等、地頭方

一所　同つるのやしき、田畠等、領家方

一所　大たけのやしき、田畠等

一所　ちやうれんかにしのやしき

一、ちくせんのくにミなき（三奈木）の庄内、くんこうの地ハんふん、彌五郎兵衛入道給分貳丁五反

右、件所領等、よりすけさうてんの領也、次第せうもんをさうてんして、ゑいたいをかきりて、いまをには（今鬼房）うちきやうすへきなり、よてつほつけくたんのことし、

康永元年十一月卅日　　賴資（志賀）（花押）

肥後国鞍嶽山及ビ菊池城合戦ノ軍忠ヲ上申ス

備前介宗頼証判ヲ与フ

軍忠目安

一四七　志賀賴房軍忠狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

目安、

志賀藏人太郎賴房軍忠事、今月廿五日肥後國於鞍嶽山、先陣致合戰、若黨進左衛門三郎威光左ノカヒ被射疵、中閒後藤六打死、同廿七日菊池城合戰之時、若黨中條勘解由左衛門尉右ノ足被射疵之條、御勘文之狀明白也、仍目安之狀如件、

康永二年三月廿九日

（證判）「承候了、」

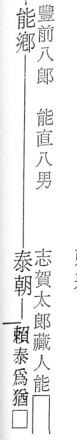
備前介宗賴（花押）」

一四八　志賀氏相傳系圖

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端裏書）「軍忠目安」

系圖



志賀太郎蔵人。泰朝嫡子
法名正玄
忠能 ―― 能長 ―― 忠能嫡子 同蔵人太夫 後頼房
今軍忠之仁也、

能直子孫雖有數輩、得譲者、親秀（大友）・能秀（詫磨）・基能（能基カ）・能郷（志賀）四人也、

志賀殿沙汰ノ風早供料用途五貫文ヲ受取ル

一四九　和郷用途請取状

○志賀文書
熊本県史料中世二

風早供料用途事、
合伍貫文者、
右、志賀殿爲御沙汰、所請取候、如件、
康永三年八月六日　　和郷（花押）

僧師棟ヲ勝光寺院主職トナス

一五〇　勝光寺院主職安堵状

○志賀文書
熊本県史料中世二

三聖寺領豊後國大野庄下村内勝光寺院主職事、
僧師棟
右、任師匠玄慶譲與状之旨、令執務、專興隆、可全管領之状、下知如件、

師匠玄慶ノ譲リ

康永四年四月廿六日　　侍者円俊（花押）

住　持（花押）

宮佐田名田村名内田地ヲ深山八幡宮ニ寄進ス

衛藤某ヲシテ寄進田地ヲ深山八幡宮社家ニ沙汰シ付ケシム

一五一　源大友氏泰寄進状案

○深山八幡社文書
大分県史料一三

豊後國大野庄宮佐田名内田地參段・田村名内田地壹段小、已上四段小事、任舊規、所令寄附深山八幡宮也、仍寄進狀如件、

貞和貳年五月九□（日）　　式部丞源（大友氏泰）朝臣　御判

一五二　沙彌某等連署施行狀

○深山八幡社文書
大分県史料一三

大野庄宮佐田名内田地參□（反・田）村名内田地壹段小、以上四段小□（事）、所被寄進深山八幡宮也、□注文封裏遣之、小田原四郎左衛□（門入道）相共、可被沙汰付社家之由、□、仍執達如件、

貞和二年五月十日　　左兵衛□

沙　彌□

衛藤左衛門入道殿

一五三　深山八幡社祝政信田地請取状案

〇深山八幡社文書
大分県史料一三

寄進田地ヲ両使ヨリ請ケ取ル

（端裏書）「政信請文案」

豊後國大野庄宮佐田□（名内田地参カ）□段井尻・田村名内田地□（壱段小已上カ）□四段小事、任御寄進状並□（社記カ）、自使節小田原四郎左衛門入道・衛藤左衛門入道殿、被打渡□（候カ）間、所請取候如件、

貞和二年五月　　深山祝散位□（政信請文カ）□□

深山八幡宮造営用途

一五四　某下知状案

〇深山八幡社文書
大分県史料一三

豊後國大野庄上村深山祝正（政）信申、當社造替用途事、請文披露之處、往古爲當村役之旨、令出帯支證□（候）、仍先日支配未進分、督責渡之、可被執進請取□御遷宮行

勝光寺領半分地頭方ヲ預ク

一五五　阿侃書状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

勝光寺領半分地頭方事、兩方爲令宥申、預置候者也、雖然、當所跡風情候之閒、旁難治之子細候、檀那御方一族之閒候、御方又共以御檀那候上者、宜様ニ御口入候て、御沙汰落居之程ハ、被預置候

大野荘

て、寺用僧食等も、御計候者、尤本望候、事々期後信候、恐々謹言、

八月廿一日　　阿侃（花押）

謹上　崇祥寺方丈

一五六　土師川面墓地寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字土師、川面墓地

願主

貞和二年丙戌十二月五日

道舜

一結講（ママ）々々　敬白、

一五七　志賀圓淨朝郷譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村内近地名地頭職事、

右所領者、圓淨叔父（帥）阿闍梨禪季（今者得風早禪尼深妙之譲、知行無相違地也、仍以甥圓淨爲猶子、被譲與當名畢、爰圓淨孫子良鶴丸、限永代、相副次第證文所譲與也、但於御公事以下者、任名本公

願主道舜等石塔ヲ造立ス

近地名地頭職ヲ孫子良鶴丸ニ譲ル

円淨叔父禪季ノ養子トナリ譲得

田員數、守惣領配分、可致其沙汰也、仍爲後代證文、讓狀如件、

貞和三年二月九日　　沙彌圓淨（志賀朝郷）（花押）

一五八　志賀圓淨朝郷讓狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

讓與、

相傳所領豐後國大野庄志賀村內近地名地頭職事、

右所領者、圓淨叔父（神）輔阿闍梨禪季今者青觀得風早禪尼深妙之讓、知行無相違地也、仍以甥圓淨爲嫡子、被讓與當名畢、爰先年一萬田孫太郎左衛門尉宣顯（一万田宣顯）子息雖讓與又鶴丸今者左衛門太郎宣元、去貞和二年十一月十二日、於京都、養父圓淨・親父孔尺先立二親、於不知行他界畢、仍爲本主上、圓淨當知行之閒、孫子良鶴丸限永代、相副次第證文所讓與也、若後日不知行仁、宣元之女子等號讓有、雖子細申、不可有御沙汰限候者也、仍爲後日證文、讓狀如件、

貞和三年二月九日　　沙彌圓淨（志賀朝郷）　在判

一五九　源志賀賴房讓狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

讓與、

大野莊

近地名地頭職ヲ孫子良鶴丸ニ讓ル

一万田宣顯ノ子又鶴丸（宣元）ヲ養子トシテ讓ルモ早世

宣元ノ女子等子細ヲ申スト雖モ沙汰ノ限リニ非ズ

相伝所領ヲ嫡子

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺・同國笠和郷勢久世宇屋敷幷鹽濱・同國山香庄内船尾・筑前國三奈木庄恩賞地以下所々地頭職等事、

右所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所譲渡于嫡子一法師丸（志賀氏房）也、無他妨可領知之、於自餘男子女子者、一法師丸相計可扶持也、仍譲状如件、

貞和四年正月十一日　　源（志賀）頼房（花押）

一法師丸（氏房）ニ譲ル

自余男子女子ハ一法師丸扶持スベシ（嫡子単独相続ノ最初）

一六〇　大友氏泰知行預ケ状寫

○大友志賀系図
東京大学史料編纂所謄写本

豊後國日出庄四分壹戸次（朝直）筑前次郎跡（マヽ）事、所預置也、上裁落居之程、可致沙汰、仍執達如件、

貞和四年六月二日　　式部丞（大友氏泰）判

志賀藏人太郎殿

○「跡」ヲ割注トセルハ、本文大字ノ誤リナルベシ。

戸次朝直跡日出荘四分一ヲ預ク

一六一　散位源則益請文

○深山八幡社文書
大分県史料一三

（端裏書）
「□田原左衛門大夫請文」

深山　八幡宮御寄進田村名内田地壹反小事、坂部東迫。任被仰旨、令打渡當作毛下地於祝政宣候畢、以此

深山八幡宮寄進田村名内田地作

毛下地ヲ祝政宣ニ打渡ス

旨、可有御披露候、恐惶謹言、

貞和四年九月廿六日　　散位源則益　請文

一六二　大友氏泰知行預ケ状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

詫磨氏凶徒与同ニツキ堀池名田畠屋敷ヲ志賀頼房ニ預ク

「同慈院殿預状案文」（端裏書）

豊後國大野庄志賀村内堀池名田畠屋敷等事、詫磨千見左近将監與同凶徒之上者、所被預置彼地也、領主參御方之時者、如元可返付候、仍執達如件、

貞和六年二月十二日　　式部丞（大友氏泰）　在判

志賀藏人太郎（頼房）殿

一六三　源志賀頼資譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

相伝所領ヲ千徳丸ニ譲ル

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方在家田畠等并勳功賞事、

一所　泉名内大窪屋敷　在田畠等、

泉名大窪屋敷

一所　羽月屋敷　在田畠等、

羽月屋敷

朝倉名内咲迫屋敷
津留屋敷
定蓮房屋敷
大竹屋敷
安岐郷菊善屋敷
三奈木荘

一所　朝倉名内咲迫屋敷　在田畠等、
一所　津留屋敷　在田畠等、
一所　定蓮房屋敷　付大片(竹カ)屋敷田畠、
一所　安岐郷内菊善屋敷　在田畠等、
一、筑前國三奈木庄内勳功地半分　孫五郎(弥カ)兵衛入道給分
右、件所領者、依爲重代相傳、賴資子息千德丸(志賀親明)、限永代所讓與也、公家關東御公事等者、隨所領分限、可令勤仕也、仍爲後代證據、讓狀如件、

觀應元年庚寅八月廿三日　　源賴資(志賀)（花押）

一六四　田中妙勝庵五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字田中

「文和三□甲午(地輪)
四□十九日

□倫知客(唯)」

○同所ニ「法祐禪尼」「康正第二丙子七月二日」在銘ノ宝篋印塔々身アリト。年・月ノ欠字ハ「白井昭一調査記録」ニヨリ補フ。

一六五　神角寺墓地寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡朝地町大字鳥田字神角寺北ノ坊跡北西

（基礎部）
「文和三年甲午八十六子（応護）
尅
開山□□應日上人」

○同墓地ニハ「応安三年」「応永二十四年」「嘉吉元年」「天文十五年」「永禄五年」等ノ墓石残欠ガアリ、下方荒地ニモ「永正三年」「永正十一年」等ノ残欠ガ散乱スルトイフ。

開山応護応日上人

一六六　平行宗寄進状

○阿蘇家文書上　大日本古文書

阿蘇御嶽大明神ニ大野荘内田村宮貞羽歩桑原上下名等地頭職ヲ寄進ス

寄進、

阿蘇御嶽大明神豊後國大野庄内田村・宮貞・羽歩・桑原上下等名々地頭職事、

右、彼所々者、依爲累代家領、爲天下泰平・家門繁昌、所令奉寄也、仍寄進状如件、

正平九年十二月七日　　兵部大輔平行宗（花押）

○花押下部焼失

尼覚証沙弥浄覚逆修ノタメ造立ス

毎月大般若経転読ノ規式

一六七　小切畑五輪塔(二基)銘

○大分の石造美術　大野郡大野町大字長畑、小切畑

「(永輪)正平十一年丙申二月十五日
尼覺證
存生時造立之、」
「(永輪)正平十一年丙申二月十五日
沙彌淨覺
存生時造立之、」

○両者ニ金剛界四仏ノ種子（梵字ウーン、タラーク、キリーク、アク）ヲ刻ス（「白井昭一調査記録」）。

一六八　阿蘇山衆徒内談引付寫

○西巌殿寺文書　大日本古文書

○上略

正平十二年丁酉正月廿五日内談云、

毎月大般若經轉讀規式事、

一、式日者、可爲毎月朔日事、

檀那ハ菊池武光
祈所ハ大野荘戸
次頼時跡

一、結衆中不參輩者、不可有財施支配儀事、
一、公方御祈禱、山上雜掌交衆者、可用代(官)管、於自由之不參者堅令制禁、
右、檀那則當國ニ司菊池肥後守武光、祈所則豊州大野庄戸次丹後守頼時跡也、然則致祈禱之精誠、讃靈神法味、依衆徒之効驗、爲成檀越之願、依衆儀所定如件、

弁昭判
覺尊同
永珎同
了義同
義幸同
增弁同
了清同

（紙継目）

一六九　上津八幡社神寶造替注文案

〇上津八幡社文書
大分県史料一三

三十三年造替ノ時ノ替物

豊後國大野庄鎮守　上津社造營時替物
以上百貫四百文内、
大野荘

阿志野　直北

五十貫貳百文　領家御分　阿志野
五十貫貳百文　地頭御分　直北　北方　南方

一御こし

一御はち　かけばん　御とちやう　御す
御しとね　にしき　きちやうのふん

是者、三十三年ニ造替候間、今年沙汰有へく候、さい〳〵注文略之、

正平十二年十月　日

（奥書）「元應元年二月九日ヨリ始之云々、」

一七〇　藤原志賀氏房軍忠状

○志賀文書
熊本県史料中世二

志賀彌太郎氏房軍忠事、

一、去年十二月筑後宮（懐良親王）狹間（大分郡）襲來之時、依爲親父藏人太郎賴房當病、氏房自最前馳參赤松御陣處、宮勢退散之間、迄于玖珠八町辻、致忠節訖、

一、今年三月筑後宮、幷菊池武光以下凶徒、當國打入之刻、賴房城墎寄來之間、既十餘ケ日々夜致合戰之處、彼逆徒引退、高崎城罷向之間、塞所々通路、廻方使、抽忠勤訖、

一、御敵高崎陣引歸之時、於當國九重山、致散々合戰、若黨中尾兵衛三郎氏平（切疵九ケ所）、中間藤次

筑後宮狹間襲来ノ時赤松陣ニ馳セ參ジ玖珠八町辻マデ忠節ヲ致ス
敵賴房ノ城ニ寄来リ高崎城ニ向フ
高崎陣ヲ引キ退クノ時九重山ニ

肥後発向並ニ三船城攻隈庄甲佐陣ノ忠節

被射疵ヶ所訖、三

去六月廿七日肥後御發向之間、自最初致御共、三船城攻之時、若黨中尾小三郎賴平被射右腕、幷進平五盛見被射右頬訖、同隈庄、幷甲佐御陣所〻致忠節之旨、且預御注進、且賜御證判、欲備後證候、以此旨、可有御披露候、恐惶謹言、

延文四年十月廿日　　藤原(志賀)氏房上（裏花押）

進上　御奉行所

「承了、(證判)　(大友氏時)(花押)」

一七　深山八幡社屏垣役所注文

○深山八幡社文書　大分県史料一三

豊後國大野庄深山八幡宮屏垣役所事、

七尺閒五十六閒内　柱口五寸・長八尺五寸・梁口四寸厚二寸五分・長四尺五寸・小柱口四寸・長八尺五寸

半分廿八閒内

十四閒　北方地頭御分

十四閒　南方地頭御分

殘廿八閒内

十四閒　直北名

北方地頭分

南方地頭分

直北名

大野荘

阿志野名

十四閒　阿志野名

右、注文如件、

一三　一萬田玄釋貞能・直能連署寄進状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

上毛郡下毛郡内ノ田地ヲ寄進ス

奉寄、

豊後國大野庄深山　八幡宮奉進田地事、

豊前國　上毛郡石丸名内　四之坪　二反　依北
下毛郡妙法寺之村内　一反　土穴

右田地者、爲八月御祭禮奉寄進所也、殊玄釋（マヽ）・直能子ゝ孫ゝ至于（マヽ）、心中所願成就圓滿、仍寄進状如件、

正平十七年壬寅正月十一日

右京亮直能（花押）
（一万田貞能）
沙彌玄釋（秋）（花押）

○「大友一萬田系図」ニヨレバ、貞能ノ法名ハ玄秋トアリ。尚右京亮直能ナル人物ハ所見ナシ。

一三　菊池武光寄進状寫

○西巖殿寺文書
大日本古文書

大野荘下村ノ替リ

先年以大野庄下村内雖寄進、本主依參御方、返付之間、爲彼替所令寄進也矣、

阿蘇御嶽社ニ豊後直入郷柏原村ヲ寄進ス

奉寄進　阿蘇御嶽、
豊後國直入郷柏原村事、

右、爲惣天長地久御願圓滿、別當家安穩、子孫繁榮、爲每月大般若轉讀料足、所寄進如件、

正平十七年十二月十三日

肥後守（菊池）武光　花押

大野荘下村内ノ田地ノ代リニ直入郷柏原村ヲ寄進ス

一七四　菊池武光書狀寫

○阿蘇家文書下
大日本古文書

爲每月大般若轉讀料足、先年以大野庄下村内、雖令寄進　御嶽候、本主參御方候之間返付之候了、仍爲彼替、奉寄直入郷柏原村候、彼勤行無退轉之樣、被仰付當山衆徒候者、本望候、恐々謹言、

（正平十七年）十二月十三日

肥後守（菊池）武光　花押

謹上　阿蘇大宮司殿

志賀頼房高崎城ニ參住シ子氏房大野荘鳥屋城ニ菊池武光ノ通路

一七五　志賀頼房軍忠狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

志賀藏人賴房當病之間、雖不叶起居、自去年（貞治元年カ）□八月參任高崎城、私候大將御陣、致日夜警固（祗カ）之上、差遣子息彌太郎氏房於豐後國大野庄鳥屋城、打塞凶徒武光（菊池）本國之通路、致不退合戰之間、

ヲ打塞グ合戦以下ノ軍忠ヲ注進シ証判ヲ請フ

連々軍忠雖不遑注進、

貞治元年十一月十日合戦之時、

武光一族鬼塚左衛門次郎討取之上、氏房親類大窪孫三郎・若黨中尾兵衛三郎・左近太郎被疵畢、

同十一日

分捕頸一、不知名字、若黨進又五郎・窪助次郎、中閒後藤次・六郎次郎・彦五郎・源内、被疵訖、

同廿九日

若黨泉右衛門太郎高清討死、若黨古見孫三郎・中閒六郎次郎・源八・七郎次郎、被疵畢、

同二年潤正月廿五日

若黨進平五盛見討死、若黨後藤太實房・中尾兵衛三郎氏平、被疵畢、

以前條々、大概如斯、此外不可勝計、合戦未落居、劇務之砌、日數相隔者、依可有公私不審、先粗所令注進也、早預御證判、爲備後規、言上如件、

貞治二年卯月　日　（大友氏時）「承了、」（證判）　刑部大輔（花押）

大友氏時証判

一七六　大友氏時當知行所領所職等注進狀案

〇大友文書
大分県史料二六

大友氏時所領所職等ヲ注進ス

注進

（大友）氏時當知行散在所領所職等事、

豊後国守護職
在国司職
検非違所総追捕使職　税所職
直入郷　緒方荘
荏隈郷　笠和郷

高国府村

相模國大友郷（足下郡）付延清名
上野國利根庄（利根郡）號土井出庄
伊勢國塔世御厨（安濃郡）北方
豊後國守護職
同検非違所惣追捕使職
同國直入郷（直入郡）付田野阿蘇野
同國荏隈郷（大分郡）
同國山香郷（速見郡）司職同名田一王丸名
同國丹生庄（同上）
同國草地庄（国東郡）
同國朝見郷寶満寺（同上）
同國田原別府半分（国東郡）付岡次松半分
同國都甲庄半分（国東郡）
同國六郎丸名（同上）
同國安岐郷内成久村（同上）
同國日田庄竹田別府半分（日田郡）
同國高國府村（大分郡）

同國三浦長坂郷（三浦郡）
美濃國中村庄（可児郡）
越後國紙屋庄（蒲原郡）
同在國司職
同税所職
同國緒方庄（大野郡）
同國笠和郷（同上）
同國佐賀關内關宮（海部郡）付臼杵佐伯兩庄
同國下郡郷（大分郡）號判田
同國鶴見村（速見郡）
同國光吉村（大分郡）
同國狭間半村（大分郡）
同國阿南庄甲斐田村（大分郡）
同國武藏郷重藤久吉兩名（国東郡）
同國吉松名（同上）
同國長野村（玖珠郡）
同國八坂下庄若富名（速見郡）

大野荘

同國大野庄上村半分（大野郡）　同國球珠郡横尾新庄
同國由布院並柳・酒久里・塚原以下所々（速見郡）　同國高田庄（大分郡）
同國三重郷（大野郡）　同國佐賀郷（海部郡）
同國大佐井郷（同上）　同國小佐井郷（同上）
筑前國香椎社付諸郷（粕屋郡）　同國大墓村
同國怡土庄（怡土・志摩郡）　同庄志摩方（志摩郡）
筑後國守護職　同國鷹尾別府（山門郡）
同國生葉庄（生葉郡）　同國三潴庄半分（三潴郡）
肥後國隈牟田庄預所職付千原森崎（益城郡）　同國光永吉納新開
同國下須島（天草郡）　同國合志庄（合志郡）
同國千田庄付重富・永富（山鹿郡）　同國山本庄（山本郡）
同國健軍社領（飽託郡）　豊前國山鹿西郷（仲津郡）
鎌倉龜谷地壹町　先祖墓所宿所地等
京都佐女牛大和大路屋地六ケ所
同大谷地貳所　先祖墓所宿所地等

右、注進如件、

（正平十九年）貞治三年二月　日

一七七　醍醐寺寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字酒井寺

貞治三甲辰五月三日

○基礎部ヲ改造シテ手水鉢ニ利用ス。当寺ハモト「大護寺」ト号ス（一九七号参照）。

一七八　近地玄心目安案

○志賀文書
熊本県史料中世二

目安、

近地次郎藏人入道沙彌玄心謹申、

右子細者、子息藏人二郎宗房、去貞治元年十月十日鳥屋城合戰之時、依打死仕候、度々雖申入候、未及恩賞之御沙汰之候條、歎存候、然而、適近地名内地頭方半分、一萬田左衛門太郎宣元女子乃津岩屋七郎次郎入道妻女所當知行仕候也、然而、乍令彼所領知行、此閒之合戰、惣領志賀殿付手不致合戰上者、云由緒、申藏人二郎打死、彼近地名半分七郎二郎入道妻女於知行分者、宛給藏人次郎打死恩賞、彌爲致軍陳之忠勤、恐々目安言上、如件、

貞治二年十月日

子息宗房鳥屋城合戰ノ時討死ス
近地名地頭方半分ハ一万田宣元女子当知行
近地名半分ハ宗房打死ノ恩賞ニ宛賜ハルベシ

一七九　近地玄心譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

□(譲与)、
□(豊後国大野庄志)賀村内近地名地頭職事、
玄心重代相傳所領也、但子息藏人二郎(宗房)、於鳥屋城令打死之間、息女愛鶴女嫡子依爲、孫子鬼二郎丸仁、相副次第證文、所譲與也、於御公事以下者、守惣領宛配之旨、可勤仕也、仍譲状如件、

應安三年庚戌七月廿五日　　沙彌玄心(近地)（花押）

(裏書)「このゆつり状一見了、　沙彌（花押）」

孫子鬼二郎丸ニ近地名地頭職ヲ譲ル

鑒密示寂ス

一八〇　神角寺五輪塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

(地輪)「應安三年庚戌」
「前住第□世
金剛佛子鑒(密)鑒」
「十一月□(逝)去、」

近地名地頭職ヲ譲ル

【六一】　近地玄心譲状

○志賀文書　熊本県史料中世二

譲與、

豊後國大野庄志賀村内近地名地頭職事、

玄心重代相傳所領也、但子息藏人二郎（宗房）、於鳥屋城令打死之間、息女愛鶴女嫡子依爲、孫子鬼二郎丸仁、相副次第證文、限永代、所譲與也、於御公事以下者、守惣領宛配之旨、可勤仕也、仍譲状如件、

建徳二季（応安四）辛亥霜月十日　　沙彌（近地）玄心（花押）

道法妙法逆修墓ヲ造立ス

【六二】　土師川面墓地寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡大野町大字土師、川面墓地

「（墨書）建徳二季辛□十二月十六日　大願主尼妙法道法敬白」

○他ニ一基アリ。夫婦ノ逆修塔ナラン。

一八三　大友氏繼知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

平井幷堀池事、預申候、可有御沙汰候、恐々謹言、

二月十一日　　氏(大友)繼（花押）

志賀新藏人殿

一八四　田原氏能軍忠状

○入江文書
大分県史料一〇

田原下野權守氏能申所々軍忠事、

一、去應安四年六月廿六日、致治部少輔(今川義範)殿御共、自備後國尾路津令乘船、同七月二日夜、最前取上豊後國高崎城之處、菊池武光之若黨平賀新左衛門尉、構要害於氏能分領國東郷之閒、同廿三日夜、差遣手物等、追落彼城、平賀彦次郎以下凶徒三人討捕之條、禮部(今川義範)御見知之上者、不可有御不審者哉、同八月六日、伊倉宮幷菊池武光以下凶徒等、寄來當城之閒、踏一方役所中尾、迄于翌年正月二日、百餘度合戰、每度親類若黨以下數輩被疵、勵日夜軍忠、至于今、殘置親類手物等於當城、抽隨分至功之次第、大將御見知之上者、不能巨細言上者也、

一、同三日武光以下凶徒退散高崎陣、打上太宰府之閒、同三月廿六日、馳參筑前國高宮御陣、同四

平井・堀池両名ヲ預ク

菊池勢以下南軍トノ合戦ノ軍忠ヲ注進シ証判ヲ請フ

菊池武光若党ノ城ヲ攻ム

伊倉宮

菊池武光高崎陣

ヲ退キ大宰府ニ出ツ

肥前国横大路城

綾部村　佐野陣

城山　日隈陣

肥前国高来郡凶徒蜂起ノ時ノ軍忠

山田荘内山田・野井城

菊池武政・同武安

肥前国本折城合戦

野老隈陣

惣領大友親世

筋一揆・松一揆

豊後国大野城ヲ攻ム

月八日宰府御進發之時、令御共於佐野御陣、致忠節畢、

一、同廿二日、爲肥前國横大路敵城向要害、中賀野左近將監殿幷惣領大友手輩相共、打越同國綾部村、取誘向城、同廿八日歸參佐野御陣、至于同八月十二日宰府凶徒沒落之期、於御手勵忠功、自當御陣御移城山之時、致御共、其後爲手分、屬右衛門佐(少弐賴泰カ)殿御手、於日隈御陣、兩年令堪忍、致忠節畢、

一、肥前國高來郡凶徒蜂起之閒、山名少輔次郎殿爲大將、被差遣御勢之時、依被仰下之旨、於分領同郡山田庄內、取誘山田・野井兩城、差置親類木付左近將監以下手物數輩、度々凶徒寄來之時、每度抽戰功、諸方御勢仕之時、無懈怠致忠節、禮部御發向之後者、屬彼御手、抽至忠之條、山名少輔次郎殿見知畢、

一、同六年二月十四日夜、菊池次郎武政・同肥前守武安以下凶徒、馳越筑後河大豆津瀨、打寄肥前國本折城、及合戰之閒、爲後攻自高上御陣、右衛門佐殿御發向綾部村之時、雖被仰下、諸軍勢等悉依令辭退、任被仰出之旨、致金吾(右衛門佐)御共、其後於野老隈御陣、抽忠節之刻、彼城既依及難儀、爲兵粮助成、御手人々幷惣領大友(親世)手輩相共、差遣親類若黨等、廻種々計略、致粮米以下合力、勵至忠訖、

一、菊池赤星筑前入道以下凶徒等、楯籠同國田手寺之閒、同六月十日夜、筋一揆・松一揆人々幷豊後勢相共、被致夜討之時、以手物等令合力、抽戰忠、若黨三人被疵之條、御手人々見知畢、

一、肥前國千栗凶徒退散之後、於同國宮津御陣致忠勤之處、爲豊後國大野敵城退治、惣領大友親世

差向一族若黨等、及合戰之閒、氏能可馳越之由、親世就令申、同九月八日、馳越當國、於大野城數日抽戰忠、於直入以下所々、廻計策、致忠節之次第、惣領名代見知畢、

一、豐後國球珠郡小田太和（マヽ）守以下輩謀叛之閒、同十一月十三日、大友親世名代相共、馳向同郡高勝寺敵城、同十七日致散々合戰、追籠凶徒等於城內之時、親類若黨數十人被疵、手者一人令討死訖、其後宇都宮如法寺若狹介氏信、幷惣領大友手輩相共、取構同郡內古後城蹈之閒、以氏能親類手物等令合力、連日致野伏合戰、迄于今、於郡內抽忠節之次第、惣領注進之上者、不能巨細言上者也、

一、同七年正月廿三日、城井（宇都宮正綱）常陸前司入道依謀叛、彈正少弼（今川氏兼）殿御發向之閒、不廻時日馳參致城井御陣、致夙夜忠勤、諸方御勢仕幷連日野伏合戰以下、每度勵戰忠、親類若黨數輩被疵之次第、大將霜臺（今川氏兼）度々預御注進者也、同八月廿七日、凶徒取上豐後國山香（速見郡）鄉花嶽、依及難儀、同九月三日馳越彼境、同六日攻上當城、致數剋合戰、親類以下五十餘人被疵、追落彼城、同十三日歸參城井御陣、迄于高畑城沒落之期、致忠節之條、霜臺御見知畢、

一、同十月一日、致霜臺御共、馳參筑後國八町嶋御陣、於河鰭渡瀨口要害以下、致日夜警固、同十一月十日夜、爲御先勢、治部少輔殿御渡筑後河安度瀨之時、屬彼御手、打入石垣城、同十二日追落同國皆尾山凶徒、同十五日御手人々相共、打寄黑木北河內、同十六日至于黑木城衆降參之期、勵忠節訖、

一、同廿五日、惣領大友親世名代參河大藏少輔義匡幷周防因幡守・大村讃岐入道相共、爲御先勢、

直入以下所々ニテ忠節ヲ致ス
球珠郡小田大和守謀叛
高勝寺城
宇都宮如法寺若狹守氏信
古後城
城井常陸前司入道謀叛
山香鄉花嶽
高畑城沒落
筑後八町嶋
河鰭渡瀨口
石垣城
皆尾山　黑木城

肥後国小島村
目野陣　千田山
本

依打越肥後國小島村、翌日彼敵城令没落之間、同十二月七日、打寄同國目野陣、追拂千田・山本以下所々凶徒等、同十五日、金吾・禮部御著同國岩原之間、則馳參彼御陣、迄于今令在陣、諸方御勢仕以下、勵至忠畢、

以前、軍忠之次第、且預京都御注進、且賜御證判、爲備後代龜鏡、粗言上如件、

應安八年二月　日

今川了俊証判ヲ加フ

「承了（證判）、（今川了俊）（花押）」

○本文書、二箇所ノ紙継目ゴトニ今川了俊ノ裏花押アリ。

一六五　今川了俊貞世書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

官途ヲ挙申ス

御無官之間、擧申京都候也、可有御心得候、

御方ニ參ルヲ賀ス

御方御參、返々目出候、凡御一家事、今度者隨分取立申候分候之間、殊面々御事、御遲參無心元候

吉弘禪門注シ申ス

處、自去年取分被致忠節候之由、吉弘禪門（一曇カ）被注申候、目出候、向後者別而可憑申候也、惣領御方

公方ノ為

事、吉弘禪門御同心ニ、能々可被扶持申候也、更不可有私御儀候、爲公方候之間、相構々々不可有御等閑候、一城御持候之由承候、御忠節之至喜入候、是非取鎭候者、一道可申沙汰候、恐々謹言、

二月廿四日　　了俊（今川）（花押）

志賀太郎（賴房）殿

一八六　十時木ノ下觀音堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字十時字木ノ下

宝篋印塔ヲ造立ス

「敬白、
蓮性・道□(蔵)・法・道現(マヽ)・道禪・道香」
「聖□(礼)・良照・琴圓・聖□・□□・道□・沙彌□□」
「比丘元正
永和元年八月十八日」
○「大分県金石年表」ト人名ニ異同アリ。

宝篋印塔ヲ造立ス

一八七　徳尾南光庵寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野町大字小倉木、徳尾

(基礎部四面ノ両側)
「淨心禪門・玄阿禪尼・忍□禪門・景忍」
「了忍・法生・玄全・道心」
「道法・榮貞・貞□・道永」
「本阿・玄種・榮吉・玄□」
「了性・道門・善明・良□」

「了善・道一・□□・藤阿」

「　法阿禪尼

皆永和二(丙辰)年卯月九日各敬白、」

「玄□禪門

□□　景法　大工玄正」

○人名読解ニ若干異説アリ。

一六　賴清譲状案

○志賀文書
熊本県史料中世二

笠和郷富成名

筑後国三潴荘

大野荘夏足名

下部ヲ添ヘテ譲ル

ゆつりあたふる所ミ御おんの事、

一所　笠和郷内とひなり(富成)十五貫分

一所　つなかうら

一所　河原

一所　筑國(後脱カ)ミぬま(三潴)の庄　七町五反

一所　大野庄内夏足名

右、所ミ御恩しりやう、下部をあいそへて、ちやく女あくりニ、ゆつりあたふる所也、他のさまたけあるへからす、仍爲後日譲状、如件、

大野荘

永德元年十一月廿日　　賴清在判

○大友文書
大分県史料二六

一八九　大友親世當知行所領所職等注進狀案

大友親世所領所職等ヲ注進ス

豊後国守護職
在国司職
検非違使総追捕使職　税所職
直入郷　緒方荘

朽網郷半分

（大友）親世當知行國〻散在所領所職等事、

相模國大友庄（足下郡）　同國三浦長坂郷（三浦郡）

上野國利根庄（利根郡）　越後國紙屋庄（蒲原郡）

美濃國仲村庄（可児郡）　伊勢國塔世御厨北方（安濃郡）

豊後國守護職　同國在國司職

同検非違使總追補（ママ）使職　同税所職

同國直入郷（直入郡）　同國緒方庄（大野郡）

同國荏隈郷（大分郡）　同國笠和郷（同上）

同國朽網郷半分（直入郡）　同國内梨子畑（大分郡）

同國山香郷（速見郡）　同郷立石村（同上）付鬼丸名

同國臼杵庄（海部郡）　同國丹生庄（同上）

同國佐賀郷（同上）付佐賀關并一尺屋　同國下郡郷（大分郡）號判田

同國寶満寺（速見郡）　同國野田村（同上）

大野荘上村半分
同荘堀池名

同國鶴見村（同上）
同國田原別符半分（同上）
同國六郎丸（同上）
同國阿南庄甲斐田村（大分郡）
同國永野村（玖珠郡）
同國高田庄（同上）
同國安岐郷成久村（同上）
同國八坂本庄若富名（速見郡）
同國玖珠郡綾垣村
同國日田郡竹田別符半分
同庄　堀池名（同上）
同國光吉村（大分郡）
同國小仲名
同國八坂下庄歳田村（速見郡）
同國柴山村（海部郡）
同國須々原要害所　異國警固
筑後國三潴庄半分（三潴郡）

同國草地庄（国東郡）
同國狹間村半分北方（大分郡）
同國都甲庄半分（国東郡）
同國泉名
同國隆國符村（大分郡）
同國武藏郷重藤名付久吉名（国東郡）
同郷吉松名（同上）
同國由布院並柳・酒久里・塚原・荒金・天閒・荒木・山崎・石松・貞恒（同上）
同國横尾新庄（同上）
同國大野庄上村半分（大野郡）
同國大佐井郷（海部郡）
同國戸次庄切畑名（同上）
同國丹生津留村（大分郡）
同國駄原村（大分郡）
筑前國香椎社領付諸郷（箱屋郡）
同國怡土庄（怡土・志摩郡）
同國鷹尾別符（山門郡）

同國岩方村
同國千田庄（山鹿郡）
同國山本庄（山本郡）
同國合志庄（合志郡）
菊池武光兄弟幷庶子跡各半分
同國伊倉庄（玉名郡）同前北方
同國高木東西（佐賀郡カ）同前
日向國守護職
豐前國山鹿西鄉（仲津郡）
肥前國財部村
京都佐女牛大和大路屋地六ケ所

以上

右、注文如件、
永德三年（弘和三年）七月十八日
（裏書）「爲後證所封裏也、
丹後守判」

肥後國隈牟田庄（益城郡）
同國光永吉納新開
同國健軍庄（飽託郡）
同國下須嶋（天草郡）
同國關入道跡生葉庄替地
肥前國佐留志村（杵島郡）同前
同國伊佐早郡内宇木小次郎長野跡宗像八郎同前
同國宮崎庄（宮崎郡）
同國光成名八町
鎌倉龜谷藤谷敷地一所
同大谷地二ケ所曩祖宿所地

○三箇所ノ紙継目裏ニ「判」トアリ。

一五〇　志賀氏房譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺・同國笠和郷勢久世宇屋敷幷鹽濱・同國山香庄内船尾・筑前國三奈木庄恩賞地以下所〻地頭職等事、

右所領等者、相副代〻相傳證文等、限永代、所譲與于嫡子鶴壽丸(志賀親理)也、無他妨可領知之、於自餘男子女子者、鶴壽丸相計、可扶持也、仍譲狀如件、

永得(徳)三年十月十六日　　氏(志賀)房（花押）

所領ヲ嫡子鶴寿丸ニ譲ル

自余男子女子ハ鶴寿丸扶持スベシ

一五一　茶屋ノ辻五輪塔銘

○大分県金石年表
大野郡大野町大字北園字茶屋辻

「永徳(墨書)二
二□二□(月)□」

志賀村大窪ノ内
岩下ノ居屋敷ヲ
譲ル
親父頼資ヨリ譲
得
御房タルニヨリ
当知行シ難シ
しおうりはうニ
永代譲ル

一九三　いなハしやうにん譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

ゆつりわたす、しかのむら大くほのうちいわしたのいやしきの事、

右のしよりやうハ、よりすけ(頼資)ちうふたさうてんのしよりやうなり(マヽ)、しかるに(い脱)、身らにむけて、したいしようものさうてん(ん脱)して、ゆつりゑるといへとも、せいしんのこなし(子)、わか身御房たるよて(に脱)、たうちきやうしかたし、しかりといへとも、そうりやうしかのれいそうより、いわしたのいやしき一所、よりすけ御せんのためにとて、あて給ところなり、しかれハ、しおうりはうに、ゑいたいゆつりわたすところなり、さおいなくちきやうして、おちよりすけのとふらいおいたすへきなり、

一、大くほのしよやう(り脱)、わか身によしなり(女子)といへとも、したしやうもん(い脱)さうてんして、ゑいたい(い脱)ゆつりゑるといゑとも、御房たるあいた、たうちやうしかた(き脱)し、さりとハいへとも、さうてんのもんよし(マヽ)においてハ、しおうりはうゆつりわたすところなり、しんのとき(せ脱)ハ、そうりやう志賀とて(マヽ)をのこかけ(ん)その御ふちにあつかるへきなり、よてゆり状(つ脱)如件、

しとく三ねん三月廿二日　　いひた太郎

いなハしやうにん（花押）

雑人ヲ配分ス

早宇原

一九三　幸心雑人配分状

○志賀文書
熊本県史料中世二

幸心□雑人配分事、

先腹子（ママ）五人

男三人大塚入道譲得之、　女三人闇木女房譲得之、

女二人早宇原女房譲得、後日ニ一人ハ大石女房ニ遣之云々、　女三人大石女房譲得之、此内一人ハ早宇原ヨリ相續之、

男三人助三郎譲之、

以上五人ハ一腹兄弟云々、

當腹子三人

男一人おとゝ房　喝食　譲之、　男一人孫房　熊鶴　譲之、

乙太郎無譲之、

以上三人同腹兄弟云々、

此外ニ女下部一人、後家所ニ在之、喝食母也、

九月三日　　資□（花押）

大野荘

一九四　上津八幡社裏参道石鳥居銘

○渡辺澄夫調査記録
大野郡大野町大字片島、上津八幡社

「菱形（額束）山」
「至徳（右柱）三丙寅十一月吉日」
「大願主藤原朝臣親世（大友）謹白（左柱）」

結衆等石幢ヲ造立ス

大願主大友親世

一九五　宮生生木石幢銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字宮生字生木

奉造立爲□　□之人々現□□□□
□□也、□□（至徳）二□（年）丁□（卯）八月廿八日講元結衆各々
敬白、

○日名子氏ハ竿石ノミトシ、「六地蔵塔竿石」ト命名ス。白井氏ノ研究ニヨレバ、鎌倉～南北朝期ノ六地蔵幢ハ、全国的ニ見テ三例ノ報告アルニ過ギズ、大分県下ノ最古例ハ、応永六年（一三九九）在銘ノモノ（大分市）ナリ。本件ヲ至徳四年（一三八七）ノ「六地蔵塔」トスルハ、尚検討ヲ要スルモノアリトシ、石幢トセリ。今白井説ニ従フ。

一九六　樋口寶篋印塔銘　○大分県金石年表　大野郡朝地町大字下野字樋口

「至徳二年丁卯十月廿六日」

一九七　大護寺石鳥居額束銘　○大分の石造美術　大野郡大野町大字酒井寺

「(表)大　護　寺」
「(裏面)願主〔守〕率次
至徳四年丁卯
十二月十三日
石工行一」

○〔　〕内ハ編者調査。現寺名ハ「醍醐寺」ナリ。

一九八　大原八坂神社石鳥居額銘　○大分の石造美術　大野郡大野町大字大原、八坂神社

「(表面)祇園八幡宮」

大野荘

大護寺石鳥居ヲ造立ス

石鳥居ヲ造立ス

（裏面）「康應元年己巳十一月十五日　願主次守、大工□（了）觀　」

一九九　志賀親昌譲状

○志賀文書
熊本県史料中世二

譲與、

相傳所領豊後國大野庄志賀村南方・同庄下村泊寺・同國笠和郷勢久世宇屋敷幷鹽濱・同國山香庄内船尾・筑前國三奈木庄恩賞地以下所所地頭職等事、

右所領等者、相副代々相傳證文等、限永代、所譲與于嫡子松一丸（志賀親家）也、無他妨可領知之、於自餘男子女子者、松一丸相計、可扶持也、仍譲状如件、

應永五年八月十九日　　親（志賀）昌（花押）

二〇〇　周防國鑄錢司村八幡宮大般若經奥書

○荘園志料下

（奥書）「豊後州大野荘志賀村内壽泉庵置之、于時應永九天玄黓（壬）大荒落（巳）林鐘（六月）十二日、聖倫施聖擇、」

○応永九年ハ壬午ナリ。

所領ヲ嫡子松一丸ニ譲ル

自余ノ男子女子ハ松一丸扶持スベシ

大野荘志賀村内寿泉庵

二〇一　一萬田貞政（カ）寄進状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

上毛郡下毛郡内ノ地ヲ深山八幡宮ニ寄進ス

（裏打紙端裏書）
「市萬田三河守寄進状」

寄進、

豊前國上毛郡石丸名内四坪田地貳段・同下毛郡妙法寺名之内土穴田地壹段之事、

右、豊後國大野庄鎮守所奉寄附（マヽ）深山八幡宮也、仍寄進之状如件、

応永十三年八月十五日　　三河守（一萬田貞政カ）（花押）

二〇二　大恩寺奥院五輪塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字板井迫、大恩寺奥の院

（地輪墨書）
「淨玄□

應永十三丙戌十月日」

二〇三　三聖寺肝要支證目錄

○天理図書館藏三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

「三聖寺肝要支證目錄（端裏書）」……（継目裏花押）……

東麓山三聖護國禪寺領諸庄園目錄

一覺空開山讓狀　一通
一當寺行蓮讓狀相傳系圖　一通
一當寺諸山列御教書　一通
一當寺條亦規式　一通根本覺空書置　二通
一開山禪寺號院宣　二通
一大野庄四箇村年貢京定員數狀　田所淨滿判　一通
一掃部助時憲寄進狀幷覺意讓狀　二通
一聖一國師御教書就中下村　一通三枚

……（継目裏花押）……

一當寺爲關東御祈禱所狀　一通四枚
一愛染堂佛具目錄開山御判幷胡摩佛具　二通
一大和國今窪系圖　一結
一玄海大姉置文　一通五枚
一萬壽寺開山御教書　一通
一同寺開山相論訟（訟）狀　一通
一豐後國大野庄粉（マヽ）失狀中下村其外祈　一通
一北古路迹指圖　一通
一就中下村狀聖一國師御自筆　一通
一當寺領御教書　畠山法名道端　一通
一法性寺大路玄海二橋寄進狀幷御教書　二通
一大野庄領主相傳次第綸旨院宣寄進狀　拾通
一寶篋院殿（足利義詮）御判寺領狼藉禁制　一通
一左馬權頭高時（北条）判　一通

……（継目裏花押）……

一三閒四面施入狀心海　一通
一當寺敷地指圖　一通

一京都地丈數圖幷散在地目錄　一枚

一寶篋院殿御判竹田沒官領　一通

一萬壽寺相傳狀幷詔(訟)狀　二通

一高時(北条)判　一通

一觀音經二千可讀狀等持院殿(足利尊氏)御判　一通

一當寺南門幷悲田院所支證　一通

一鹿苑院主寶山折帋　一通

一當寺禁制狀寶篋院殿錦小路殿(足利直義)　四通

一院宣赤目紛失狀　二通

一北大堀支證　一通

一福昌寺于三聖寺引渡御判鹿苑院殿(足利義滿)　一通

一同寺紛失狀　一卷

（継目裏花押）

一行蓮拾五箇所寄進狀　一通

一祈願所御判錦小路殿　一通

一洛中地御敎書赤松方　二通

一大和國今窪庄支證錦小路殿御判　拾五通

一越前國白崎村支證寶篋院殿御判　拾一通

一肥後國守富庄內四箇名支證等持院殿御判錦小路殿御判　拾四通

（継目裏花押）

一妙光院差圖　一枚

一左兵衛督源朝臣判大野庄禁制　一通

（マヽ）

一大野庄渡殘御敎書　度亦在之、

一同庄領主相傳系圖　四通

一安堵御判　三通

一惣安堵等持院殿元弘以來　一通

（継目裏花押）

一一橋支證　一結

一萬壽寺重書渡請取字名祖麟　一通

大野莊

一万田宣政
義慶
道賀
元量

願主比丘為入
比丘昌繁
慶密

三〇四　悦山慶公（一萬田宣政カ）供養六地蔵幢銘

○大分の石造美術
大野郡朝地町大字池田字館

「沒故悦山慶公大禪定門
二　義慶（貞政）
三　道賀（善）
五　元量（貞郷）（豊）
應永十七年庚寅七月十二日
四　願主比丘爲入
六　比丘昌繁
金剛佛子慶密」

○大分県指定有形文化財。「　」内ハ「大友一萬田家系譜」ニヨル。悦山慶公ヲ一萬田宣政カト推定セルハ、「大友一萬田氏系図」（新撰事蹟通考所載）ニ、義慶等ノ父ヲ宣政トスルニ拠ル。尚久多羅木儀一郎著『一萬田由緒考』参照。

二〇五　深山八幡社石鳥居額銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字市萬田、深山八幡社

石鳥居ヲ造立ス

「(表)八　幡　宮」
「(裏)應永廿年癸巳十月日」

二〇六　池在サヤノ木寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字池田字池在、サヤノ木

宝篋印塔ヲ造立ス

「□□□門　導□居士
道清禪門　導通居士
□□　導崇居士
□□　徳宝禪門
□□　導珠居士
衛門太郎　導徳居士
□右衛門三郎　導芳居士
□□□　導心居士
□衛太郎　導雲居士

大野荘

大野荘

初□前　　導衆居士
（以下墨書）
□□五郎　　導一居士

□

「□□居士　　大工具泰
導善禪門　　應永二十一年甲午三月十六日大願主　妙　□　能金居士
導□居士　　永了居士導善居士
永□居士

○下段ハ上段ニ続ク。便宜二段トセリ。

三〇七　池在サヤノ木寶塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字池田字池在、サヤノ木

「（梵字ウーン）」
「　（梵字タラーク）
于時應永廿一年甲午三月十六日
□□守行□
丹後守行方（次）
沙彌善金　」

宝塔ヲ造立ス

「（梵字キリーク）」

○一面梵字欠損ス。〔　〕内ハ『朝地町史』ニヨリ注ス。

二〇八　神角寺五輪塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（地輪）
「前住第四世
權少僧都□□和尚
應永廿四年丁酉十二月十四日」

前住ノ五輪塔ヲ造立ス

二〇九　市萬田和田藥師堂寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字市萬田字和田、藥師堂

（基礎部ノミ）
「逆修權少僧都承密、應永廿六年己亥十一月十五日」

承密逆修ノタメ石塔ヲ造立ス

二一〇　市萬田和田大日堂寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字市萬田字和田

「梵字バイ」
「梵字タラーク」

大野荘

「梵字キリーク」
「妙法蓮華經伍千部　奉讀誦　（梵字アク）　逆修
　權少僧都承密
應永廿六天（季）十二月十三日　」
○〔　〕内ハ『大分の石造美術』ニヨル。同書ハ「二月十三日」トセリ。

逆修ノタメ石塔ヲ造立ス

三一　宮生淀寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字宮生字淀

祐永上坐等宝篋印塔ヲ造立ス

（基礎部）
「于時應永三十二年乙巳五月十五日敬白、祐永上坐・元香上坐・×（マヽ）圓禪門・妙秀禪門・道意禪門・正□禪尼・道金禪門・道觀禪門・道法禪門・道□禪門・妙金禪尼・道×禪門・道之禪門・明心禪尼・道本禪門・道□禪門・□在禪門・妙意禪尼・□□禪尼・是祐禪門・是香禪尼・正□禪尼・道行禪門・寶珎禪門・有□禪尼・明音禪尼・香金禪門・□香禪門・見有禪尼・正知禪尼・道□禪門・妙義禪尼・正善禪尼・□有禪尼・道見禪門・明香禪尼・□心禪門・道□禪門・妙□禪尼・道泉禪門・□□禪尼・妙玉禪門・大工□□禪門・妙秀禪尼・元藤禪門・元幸禪尼・妙慧禪尼・妙金禪門、　」

道恵地蔵菩薩像ヲ造立ス

志賀村人足

大野荘中村内山野ヲ志賀親賀ニ預ク

二二三　夏足石造地藏菩薩像銘　○大分県金石年表　大野郡大野町大字夏足字大渡

永享二庚戌歳八月廿四日、願主道惠敬白、

二二三　大友持直書狀　○志賀文書　熊本県史料中世二

志賀民部(親賀)大輔方預申候寺領志賀村人足之事、無相違被仰付候者、可然候、仍彼狀爲御披見進之候、恐々謹言、

卯月十一日　　持直(大友)（花押）

□新左衛門尉殿

二二四　大友持直知行預ケ狀　○志賀文書　熊本県史料中世二

大野庄中村内山野事、預申候、可被領知候、恐々謹言、

後七月廿日(永享五年カ)　　持直(大友)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

二五　大友持直書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

大野庄志賀村内寺家分代官職事、可致口入候、可有執沙汰候、於有限寺納物者、無退轉可有收納候、不可有無沙汰之儀候、恐々謹言、

八月廿九日　　持直（大友）（花押）

志賀民部大輔（親賀）殿

志賀村内寺家分代官職ヲ口入ス

二六　あさくらのたんこ書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

（大友親綱）
（花押）

一所　たなかいち十三けん（田中市カ）（間カ）

かしまのゑつちうほんきうにて候、御申候て、くたし給候ハヽ、目出候、恐々謹言、

九月廿四日

あさくらのたんこ

くたミ殿

田中市十三間

一ケ条ヲ沙汰セバ名字地半分ヲ返付ス

一ケ条ヲ沙汰セバ名字地半分ヲ返付ス

二七　備後守護代犬橋滿泰書狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

一ケ條出羽(大友親隆)方へ申子細候、此時被致忠節候者、本末肝要候、然者御名字之地、先半分可被返付候、就中疑心事、努〻不可有怖畏之儀候、若此條僞候者、日本國諸神、殊八幡大菩薩、可有御照覽候、早〻御了簡候者、被爲目出候、恐〻謹言、

(永享八年頃カ)六月廿三日　　滿泰(犬橋)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

二八　大友親綱起請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

彼一ケ條事、沙汰候者、名字地半分先可返付候、次疑心一段不可有怖畏候、若此條僞候者、日本國大小神祇、殊八幡大菩薩可有御照覽候、恐〻謹言、

六月廿五日　　親綱(大友)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

二二九　室町將軍義教家御教書

○志賀文書
熊本県史料中世二

豊後南郡ニ進発シ奔走セルヲ賞ス

令進發豊後國南郡、致奔走旨、大内修理(持世)大夫注進到來、尤以神妙、向後彌可被抽忠節由、所被仰下也、仍執達如件、

永享九年八月七日　　右京大夫(細川持之)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

二三〇　大内持世添状

○志賀文書
熊本県史料中世二

御感御教書ヲ成サレシヲ告ゲ請文ヲ出サシム

今度國中錯亂之時、御奔走之通、令注進候、仍被成御感御教書候、御面目之至目出候、早々請文可認給候、毎々重而可申候、恐々謹言、

八月廿二日　「永享」(異筆)　　持世(大内)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

三二　室町将軍義教家御教書

○志賀文書
熊本県史料中世二

少弐嘉頼ヲ免ジ大友親著持直親繁ヲ討伐セシム

嘉頼(少弐)事、大内修理(持世)大夫頻執申閒、被免訖、而於道瑛(大友親著)・持直(大友)・親重(大友)其外殘黨等者、尋究落所、不廻時日、可被加治罰之由、所被仰下也、仍執達如件、

永享十二年二月廿五日　　右京大夫(細川持之)（花押）

志賀民部(親賀)大輔殿

三三　志賀親賀請文案

○志賀文書
熊本県史料中世二

少弐赦免大友親著以下討伐ニツキ請文ヲ出ス

就少貳嘉頼御赦免事、去月廿五日御教書下著候、畏頂戴仕候、抑道瑛(大友親著)・持直(大友)・親重(大友)以下之殘黨等、御治罰之由、被仰下候、任　上意之旨、可致忠節候、一切不可有緩怠之儀候、以此旨、預御披露候者、畏入候、恐惶謹言、

（永享十二年）三月廿七日　　民部大輔(志賀)親賀　請文

進上　御奉行所

権大僧都慶智ノタメ造立ス

逆修ノタメ石塔ヲ建ツ

明慶逆修ノタメ石塔ヲ造立ス

三三　神角寺寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（基礎部）
「嘉吉元年辛酉二月十四日
權大僧都慶智
護持弟子各某甲　」

○北ノ坊跡西北ニアリ。

三四　夏足塔ノ平逆修塔銘

○大分県金石年表
大野郡大野町大字夏足字原、塔ノ平

逆修道敬禪門・馥正芳上人・信明□上人・省久眷上人・道乘善人・道緣善人・善性善人・道實善人・見貞善人・正通禪尼・妙高禪尼・道西禪門、逆修現在功德主預修七分全德□□□□嘉吉二季二月廿八日、願主敬白、大工太郎四郎、

三五　宮生井手ノ元寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字宮生字立迫、井手ノ元

奉造寶篋印塔婆、預修明慶大德、嘉吉三年癸亥二月時正、

三六　西ケ迫六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡大野町大字宮迫字西ケ迫

先考ノタメ六地
藏幢ヲ建ツ

□□□地藏菩薩　右志趣者、
□先考豊光禪門追悼之誠、亦願以此功德聚
□者人人增福長壽□者、各各拔苦得樂者也、
□文安第□(三)□(乙)四月八日孝子平□(法名)道觀
道音敬白、
(丑)

○〔　〕内ハ『大分県金石年表』ニヨル。

三七　古庄秀安・深田正隨連署坪付(折紙)

○奥嶽文書
大分県史料一三

小河内
一所ゑさりまち六反
一所たけの下六段

大野内
藤北　一所ふちきた(藤北)内たかさこ

大野荘

一所てら田三反

皆文安二年八月十二日　深田加賀入道正隨（花押）
古庄三河守秀安（花押）

おくたけ又四郎殿
（折返奥ウハ書）「おくたけ又四郎殿」

三八　中角六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡大野町大字矢田、中角

「聖祐妙聖　道□妙中妙勝
道春　道金　□□道念妙□
□□妙珎道清　「妙□道□妙□」
道金妙金　□□心
□□妙金
右逆修　檀那各〻志者　□秀妙覺
善根之願主沙門祖講（□）大工右近三郎　□明□□
道泉妙秀　敬　□□妙西　」
道圓妙正道金妙珎（□）文安四年丁卯潤二月三日　白　「□□□□

逆修ノタメ六地藏幢ヲ造立ス

□□□□
□□妙高
道珎妙心
□住妙珎

淨□永祐
道高妙金
道德妙泉
道高妙永

□□□□豐□」

「道□□□
□□□□

六地蔵幢ヲ造立ス

道□妙法
□道妙生
法泉法祐

(□)
道□妙智
妙法宗心
道中妙鑒(□)
□□□法
□□□金　」

○下段ハ上段ニ続ク。〔　〕内ハ『大分県金石年表』ニヨリ傍注ス。

三九　市萬田戸崎六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字市萬田字戸崎、地蔵堂

(墨書)
「□□各々□

大野荘

道心禪門　妙心禪尼
道香禪門　妙貞禪尼
善金禪門　妙忍禪尼
□□禪門　□□□□

「
文安五季□
□
」

三三〇　夏足荻迫寶塔銘

○大分県金石年表
大野郡大野町大字夏足字荻迫

逆修妙隣禪尼、寶德〻年壬申仲冬日、

妙隣逆修ノタメ宝塔ヲ造立ス

三三一　田中妙勝庵寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡大野町大字田中字妙勝庵

（基礎部）
「法祐禪尼
康正第二丙子七月二日」

法祐禪尼ノタメ造立ス

白仁名

笠和郷富成名世久勢宇村

山香郷船尾

直入郷中津野村

深町用作

直入郷本職ハ志賀氏房拝領大野荘泊寺

緒方荘宇多枝名

安岐郷内諸田村

居屋敷竭□宮算上□□口入之閒、白仁名混□□所相替也、白仁名知行時者、態地同前

□知行□

一所　笠和郷富成名内世久勢□(宇)村、在家二閒・鹽屋二閒之事、

一所　山香郷船尾三町餘之事、

一所　直入郷内中津野村之事、愚弟四郎氏繁爲配分雖宛行、若閣惣領、有致各別奉公事者、彼地事可改者也、

一所　深町用作五段事、二段ハ四郎母ゑ、三段國符妹爲女子分、雖計宛、彼兩人一期之後者、可改易之、若四郎混配分可有申子細歟、不可承引也、

一所　直入郷本職事、爲勲功賞、曾祖父日向守(志賀)氏房拝領云々、何も全奉公、無他妨可知行也、

一所　大野庄泊寺之事、是又爲代々當家計、所成敗也、可存知者也、

一所　緒方庄宇多枝名内井崎、其外散在地白谷云、

一所　安岐郷内諸田村之事、

爲代々志賀家配分、所知行也、雖然、近年俣見石見守(親氏)在彼地、競望云、仍致長々在符歎(マヽ)申閒、違　上聞所令拝領也、仍彼地等之事、信州一期之後、子共中雖被申與、忽惣領有緩怠之

子細者、可改替也、

一　千代若丸幷弟丸事、其身器用不器用不云、成水魚思、可致憐愍也、

今度就藝州發向、大方所申置也、巨細之旨、重而可書遣候、

康正三年丁丑二月廿五日　　源親明（志賀）（花押）

志賀龜鶴丸（親賀）殿

芸州発向ニツキ申シ置ク

大野荘藤北ニ百姓一人ヲ預ク

○本文書、紙継目ニ志賀親明ノ裏花押アリ。

二三三　直猶（カ）書状（紙折）

○奥嶽文書
大分県史料一三

大野庄之内藤北ニ、百姓一人預申候、つほつけ事ハ、重而能〻たつね候て、申候へく候、その閧相そく候程、先折帋進之候、恐〻謹言、

六月廿三日　　直（カ）猶（花押）

奥嶽又四郎殿

二三四　圓通寺領重書現存目錄幷住持等連署紛失狀

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

（端裏書）「圓通寺領目錄」

合

一所　山城國深草內散在梶原田

一所　同國三栖內田地

一所　同國深草幷稻荷散在玄海大師寄進分

一所　同國山城內里田畠

一所　七條南頰室町東頰地

一所　楊梅町西頰屋地

一所　新熊野之寶藏院敷地幷龍雲菴田地

一所　土地堂田

一所　豐後國大野庄內上村幷丹後國二ケ保　吉田保
伊與國山口庄

一所　敷地山林有繪圖、

豐後国大野荘上村

円通寺住持等文書焼失ニヨリ紛失状ヲ立ツ

判物調度証文焼失

立申　紛失狀之事、

一、等持院殿（足利尊氏）以來代々安堵之御判物五通同管領施行

一、山城國久世郡冨野鄉內吉冨庄調度證文等悉燒失畢、

右彼所々、自往古爲三聖寺開山塔圓通寺領、于今無相違地也、而享德三年十二月四日夜回祿、彼御判物幷調度證文等燒失畢、近隣無其隱上者、若捧彼證文等輩者、可被處盜之罪科者也、然者早任

傍例、下賜御證判、備末代龜鏡、全寺領、彌致御祈禱之精誠者也、仍紛失狀如件、

長祿元年丁丑十一月八日

住持聖龍(カ)（花押）
三聖寺令諸（花押）
東福寺元佐（花押）
常樂菴爲學（花押）
正印菴祖默（花押）
天護菴令吳（花押）
寶洛菴一慶（花押）

藤原善忠上津八幡社ノ鳥居ヲ建立ス

三三五　上津八幡社一ノ鳥居額銘

○大分県金石年表
大野郡大野町大字片島、上津八幡社

(表)「八幡宮山(ナシ)」
(裏)「□願主藤原朝臣沙彌善忠敬白、
(大)大工麻生兼(光)元
(十)寛正三年壬午二月初七日　」

○「　」内ハ河野清実「式内大社西寒多大神の史蹟」（昭和四年）ニヨル。

三三六　大友親繁感状寫

○大友志賀系図
東京大学史料編纂所謄写本

去ル高良山別所城、菊池肥前守差寄候處、可然時節合力候而(カ)、爲安爲始敵數輩被討取候、粉骨之至、無比類候、殊御手人、碎(ミカ)手、被疵之由承候、辛勞之至候、如何樣以面御高名之段、賀可申候、恐々謹言、

(寛正六年カ)
卯月廿三日　　親(大友)繁　判

志賀太郎(親家)殿

○「志賀系図」ニハ「寛正六乙酉年大友親繁賜書曰」トアリ。

高良山別所城ニ於ケル菊池軍来攻ノ時ノ軍功ヲ賞ス

三三七　志賀親家申狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

(万寿)まんしゆ寺より申され候條々、拜見□

一、なおり(直入郷)のかう兩しよく(職)の事、□のところに、しゆつしおうあ(応安カ)□まつもと(松本)かつせんおんしやう(合戦恩賞)として給おき候、就中まつもとふ(夫)丸の事、同七年(応安)きのへとら年より(永和)ゑいわ四ねんつちのへむま年としん(康暦元)□五年の閒ハ、けたいなくりやう□としてめしつかゑ候了、雖然、かうりやくくわん年つちのとのひつし年のとし、きむれ(騎群)の城をめされ候以後、けんたん(検断職)しよく

直入郷両職ノコト

松本合戦恩賞トシテ給ハル

松本夫丸

騎群城ヲ召サル

万寿寺ヨリノ条々

志賀氏房

万寿寺僧臨監主ニ松本名庄主ヲ給フ

直入郷代官職ハ三十年ニ及ブ一所懸命ノ地

田原筑前守謀叛

おハ、右つ□□□□□□そうろふ日向守氏房(志賀)わたくし□□□□□□あつけおき候、それより両やく人として、同前に人そくをめしつかゑ候、

一、おうゑい六年つちのとの(申)大内義弘□□□□□□とき、まんしゆ寺(僧)より、りんかんそと申そう、きやう都ひきやくとしてのほりて候、則御使をつけ候てくたり候、そのきよかんニ、いつれニても候へ、庄主をのそミ候ハヽ、寺家に被仰付可給由、上ゑ候ける閒、まつもと名をのそミ申候程ニ、そのまゝに庄主を給候、そのしふん直入郷内寺家三ケ所之事、一ゑん御めんと申うけ候之閒、□□申候たんハ、すてに當郷御代くわんしよくの事、三十ケ年ニおよひさをいなく候、いつれのさい所ハめしはなされ候とゆう共、當郷りやうしよくの事、一所けんめいの地にて候よし、あわの守なけき申候といゑとも、上聞ニたつせす候、つかゑ田原筑前守むほんにつゑて、彼内者山下又九郎・ミしろ(三代)のすわうと申物、あそ□□ミ野あくたう仁等をあいかたらい候て、し□ち(とカ)名之内しやはた(ほ)の城をとり、けんきやう仕候處ニ、いくほとなくちくせんの守ほつらく候、さ候閒、寺りやうさか田のむら地下人等、城しゆに同意仕候、以外之子細ニ候、彼地下仁等、何もめしとりまいらせへきよし、被仰出候といゑとも、あわの守申候段ハ、まつもと名の事、りんかんそニ寺家せいはいの事、おほせつけられ候うゑわ(に)、かれらニ被仰付候する事、かんようたるへく候よしを、申あけられ候ほとに、そのとききこしめしわけられ候て、せん〳〵のことく上意をうけ候あひた、さか田の地下仁のこらすからめとり、ちうしんを申候の閒、いつれおもさたをいたすへきよし、被仰出候之閒、まんしゆ寺より一同ニなけき申候といゑとも、御せうゑんなく

候ニよて、おのこてをうしなゐ、度々あわの守を一ゑニたのむよし申候之間、そのとき申こいゆるしおかれ候、いまにかれらかしそんある事に候、

大友親綱等小国ヨリ朽網山野城ニ移ル

一、ゑいきよう十二年羽州上様御代より、又両しよくあいともニ、せんきのことく成敗仕候、そのとき松本庄主けんようつうくわん時代より、りやうしよくふんとして、二人つゝめしつかゐ候ところに、嘉吉二年みつのへ年、親綱・羽州さま御両殿、小國よりくたミ山の城ニ御うち出候、當國の事いつれもてき地の事にて候、ことに入田・一萬田御てきの事ニ候之間、いつかたよりも人そくまいらす候ほとに、まつもと名のふ丸を、羽州さまへ民部大輔か所よりまいらせ候、それよりゆのいんたゝかい河の御陣、くすつのむれの城らつきよ以後までも、めしつかい候しよう、つうくわん庄主之時、れん〳〵高田上さまへわひ事申候間、民部大夫か所ゑ返給候間、いつれともめしつかふへきよし民部大夫申候處ニ、庄主しきりニわひ事申候間、一人の事おハ返て候、自然重陣時者、二人ともニめしつかふへきよし、さいさん申さため候了、同さか田の村・たけ田三分二の事、これまたせん〳〵のことく、せつ〳〵ニしたかい候て、いまにめしつかゐ候了、

由布院戦河合戦玖珠郡角牟礼城

一、かい物の事、りやうやくふんとして、前ゝよりあきないにつけかわせ候へとも、御両殿御買物候之間、これさゑきよ〳〵ねんより、一度のふんハ申つけす候、

松本・坂田・竹田ニ代官ヲ置ク事

一、まつもと・さかた・たけ田三ケ所ニ、代くわんをさためおき候よし申され候、これ又くほう事候とき、さいそくのために、内者ニ申付候、寺家りやうをまん所りやうふんとして、おんふに不仕候、直入郷内いつれもせん〳〵ニあいかわり候て、不申付候、雖然、上意をうけ候するまゝ、

大野荘

可致成敗候、以此旨御取合、預御披露候ハヽ、可目出候、恐惶謹言、
（文明七年カ）三月廿七日　　（志賀）親　家（花押）
本庄伊賀（繁）守殿
久保大炊（親）助殿
文明七年きのとの日つし申上候、

○傍註（　）内仮名ハ『大日本史料』第八編ニヨリ注ス。

二三八　上尾塚安道市夫宅地内五輪塔（二基）銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字上尾塚字小野、安道市夫宅地内

（墨書）「奉造立石塔一基、□信男、文明八年丙申九月二日敬白、」
（墨書）「奉造立石塔□□預（修）□□信男、文明□（八）□□二日敬白、」

二三九　郡山二段畠六地蔵幢銘

○大分県金石年表
大野郡大野町大字郡山、二段畠

謹奉安置六道能化六地蔵薩埵、殊者十王薩埵、逆修善根檀那道海・秀清各々壽位、殊者現世安穏後生善所、故芒文明十二季庚子二月廿二日施主敬白、大工藤原氏道監、

預修ノタメ石塔ヲ造立ス

逆修ノタメ六地蔵幢ヲ造立ス

上村ミやまその
上村かうかさこ

権少僧都弘遍ノタメ五輪塔ヲ造立ス

二四〇　沓懸隼人助給所坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

拾貫分坪付事、

一所四段　上村ミやまその
一所八段　上村かうかさこ
一所参段小　上村四郎ひやうへ作（にし方なかその）

以上

文明十七年乙巳十一月五日

沓懸隼人助殿

林新左衛門尉
繁長（花押）

二四一　神角寺五輪塔銘

○大分県金石年表
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（地輪ノミ）
「権少僧都弘遍尊位
文明十八年丙午正月三日」

○北ノ坊跡西北ニ在リトイフ。

志賀村弐拾貫分ノ地ヲ預ク

没官セシ直入郷両職二百貫分ヲ恩附ス

二四二　能章知行預ケ状

○奥嶽文書
大分県史料一三

大野庄志賀村之内貳拾貫分之事、預置候、可有知行候、依忠節可顯志候、恐々謹言、

八月十九日　　能　章（花押）

工藤八郎三郎殿

二四三　大友親豊義右安堵状

○志賀文書
熊本県史料中世二

直入郷両職之事、以前被伏貳百貫分、恩附候、今度云忠賞、云先例、已後不可有相違之儀候、恐々謹言、

十一月卅日　　親（大友義右・材親）豊（花押）

志賀藏人（親毎）佐殿

二四四　神角寺寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺北ノ坊跡北西

（基礎部）「永正三年丙刁

法印権大僧都弘□
□ノタメ造立ス

道宣六地蔵幢ヲ
造立ス

親父道雄（親毎）
ノ一跡ヲ安堵ス

法印権大僧都弘□
十月廿八日　」

二四五　竹田市田部某邸内六地蔵幢銘

○白井昭一調査記録、竹田市大字会々字鏡、田部某邸内

「（梵字ウーン）」
「（梵字タラーク）」
「（梵字キリーク）　永正六念（マヽ）己巳二月十二日本願道宣敬白」
「（梵字アク）」

○モト朝地町大字池田字館ニアリシモノト云フ。

二四六　大友親治一跡安堵状

○志賀文書
熊本県史料中世二

親父藏人入道（志賀親毎）道雄一跡之事、任相續之旨、不可有領掌相違候、恐々謹言、

十一月十日　　親治（大友）（花押）

志賀太郎（親益）殿

「（墨引）」（奥切封）

二四七　大友親治書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端裏ウハ書）
「老衆〻中」

（切封）
「（墨引）」

親治

又毎〻かようの儀につゐて、直納と申事、不可然候、如此申出候上ハ、任前〻旨、役人より外ニ、とかくの儀曲事たるへく候、

世帯不弁ニヨリ二ケ月飢餓ス

諸郷荘点役国中平均ニ破ル

准田段銭

近年諸役人結解勘定ナシ

直入郷諸給人点役免許ヲ申ス人ノ交名ヲ注進スベシ

決定以後ハ訴事取リ上ゲズ

世帯不弁ニ候上ハ、飢餓ニのそみ候事、前代未聞、不及申候、これハ我〻か恥辱と可申候哉、各いるかせと申へく候哉、失面目たる子細候、さ候閒、諸郷庄點役事、國中平均ニやふり候よし、及度〻雖申候、于今無其實候、曲事候、一向年寄中いるかせに候閒、世帯以下の事、このまゝ捨置れ候ハんするも、なに〳〵と被申合候ハんするも、爲父子、兎角申かたく候、われらニかきり候ハす、國のせんたうを持候ものハ、前代より准田段錢ニてこそ、國の補ひをも仕けに候へ、近年ハ諸役人、けつけかんちやうなとゝ申計も候ハす候へハ、役人のふとくしんをも、諸給人のあうりやうをも、不及分別候、たま〳〵いま程、志賀内者、在符のよし申候へハ、かたく被申聞候は、直入郷諸給人、點役免許のよし申候ハんする仁の、交名をしるし候て注進候は、そのうへニて、しか〳〵と申付へく候閒、一たひ分別をもて申さためて以後ハ、たれ〳〵とかくわひ事候とも、取上候て承ましく候、老中の事ハ不及申候、きんしゆさい〳〵の者として、とかくわ

れ〳〵か耳に入候ハヽ、所せん、取上候ハんする其身ニ、まつ〳〵ふちんをさせ候へく候、直入ニかきらす、諸郷庄此むね同前たるへく候、雖然萬壽寺〻領、勝光寺領事ハ、免許たるへく候、此外ようつ給とやらんを立候仁なとハ、分別入へく候哉、可被得其心候、恐〻謹言、

三月十五日　　親（大友）治（花押）

老衆〻中

二四八　大友親治書狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

就棧敷之儀、前日田尻和泉守進之候處、委細承候、重〻爲可申、齋藤十郎左衛門尉進之候、旨趣定可達候、恐〻謹言、

六月廿二日　　親（大友）治（花押）

志賀兵部少輔殿

二四九　神角寺寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（基礎部）「奉刻彫石塔一宇之事

右志趣者、

大野荘

法印權大僧都舩畔
大和尚
永正十一甲戌九月十一遺弟
敬白」

○北ノ坊跡ノ西北ニアリト。基礎部ノミヲ存ス。

二五〇　一萬田常泰願文

○深山八幡社文書
大分県史料一三

願文田地一反號小平田拜進之事、

右願者、被受六郎源治直仁男子ヲ、息災延命・弓箭勝利・七難卽滅・七福卽生・十二時中・心底快樂・万病悉除・君命相叶・武運長久・子孫繁昌、爲怨敵消滅吉祥也、

永正十二乙亥卯月十七日　常泰（一萬田）（花押）

神主新右兵衛尉殿

二五一　大友親安義鑑知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

今度隱謀人成敗之刻、對國家忠儀感悦候、仍緒方庄内千田百貫分、大野庄内板井迫縫殿助參拾五貫跡

立願ノタメ田地一反ヲ寄進ス

軍忠ニヨリ知行ヲ預ク

大野荘　同直北名

分、直北名之内小田原跡龍徳丸貳拾貫分、同平井與十郎跡肆拾五貫分之内貳拾貫分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（永正十三年）
十月十六日　　（大友義鑑）親　安（花押）

志賀左近大夫殿

二五三　大友親安義鑑知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

今度隠謀人成敗之刻、父子忠儀感悦候、仍直入郷葎原名之内小田原治部少輔跡之内五拾貫分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（永正十三年）
十月十六日　　（大友義鑑）親　安（花押）

（親益カ）
志賀十郎殿

（奥切封）
「（墨引）」

二五三　大友親安義鑑知行預ケ状寫

○田北次彦文書
大分県史料一三

爲今度忠儀、大野庄埴田雅樂助跡之内五貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（永正十三年カ）
十二月廿五日　　（大友義鑑）親　安（花押影）

直入郷葎原名五十貫分ヲ預ク

大野荘埴田氏跡五貫分ヲ預ク

田北平左衛門尉殿

二五四　大友義長一跡安堵状

○志賀文書
熊本県史料中世二

親父親毎（志賀）一跡事、任相續旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

二月廿三日　　義長（大友）（花押）

志賀十郎（親益）殿

○親毎一跡安堵状ヲ、親治・義長両人ガ別々ニ発給セル事情・背景ハ未詳。検討ヲ要ス（二四六号参照）。

二五五　大友義長書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

一跡之事、至息兵部少輔（親守カ）、御相續之通承候、令存知候、雖然、次郎若輩之儀候間、國家用所之時者、諸篇老躰可被添御心事、肝要候、併憑存候、恐々謹言、

三月九日　　義長（大友）（花押）

志賀安房守（親益）殿

親父親毎ノ一跡ヲ安堵ス

息親守ニ対スル一跡安堵ヲ告ゲ親守ヲ扶ケシム

二五六　地藏ノ本六地藏幢銘

〇大分県金石年表
大野郡犬飼町大字栗ケ畑字地藏ノ本

「南贍部州大日本國(マヽ)開西道豊後州大野庄□山名之内、於栗畑村心信旦那奉欽造立六地藏大菩薩之尊形一宇、右志旨者、於預修七分全功悳主道珎・妙光一列同心講衆信男信女等、各〻現當二世之成就願望矣、仍法界群生平等利益故也、皆永正十七天庚辰三月念三日、大願主沓(懸)□加賀守法名月周・宗圓・妙珎信女等襲言、」

大野莊□山名

沓懸加賀守

二五七　大友親敦(義鑑)書狀

〇志賀文書
熊本県史料中世二

爲前日同名大藏少輔使、吉御心底之趣、以神名預入魂候、雖于今不始子細候、彌賴敷存候、爲此等儀可申、臼杵仁五郎進之候、仍至境目、殘黨可相動樣及風聞候、雖不可有差事候、自然時者、不移時日馳向、被遂對治候者、一段可爲忠儀候、內〻不可有由斷候、恐〻謹言、

十一月五日　　親敦(大友義鑑)（花押）

志賀民部大輔(親守)殿

起請文ヲモツテ異心ナキ旨ヲ入魂セシヲ謝シ残党討伐ニ協力セシム

二五八　大友親敦義鑑知行預ケ状

○田部修蒐集文書
大分県史料一三

朽網兵庫頭(親満)企逆心以来、雖忠儀顕然候、依無闕所、不顕其志候、然者後藤右京亮先給分、丹生庄之内貳拾貫・大野庄之内五貫分之事、預遣之候、可有知行候、恐々謹言、

十一月廿二日　　親敦(大友義鑑)（花押）

齋藤兵部少輔殿

朽網親満鎮定ノ恩賞地ヲ預ク

「(墨引)(端裏切封)」

二五九　志賀親守書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

預御懇札之、快然候、連々拙者以雖可申入之、不知案内之故無沙汰候、仍至坂折名二拾貫御給之由承候、尤目出候、就夫渡状之儀、則明其意候、然者弓壹張・中紙三束、送給候、祝著之至候、必以使者可申述候、恐々謹言、

五月一日　　親守(志賀)（花押）

○宛所ヲ闕ク。

坂折名二十貫ヲ給ハルヲ賀ス

居屋敷ヲ預ク大友親敦扶持ノ時ハ返却スベシ

二六〇　志賀親守知行預ケ状案

○志賀文書　熊本県史料中世二

直入郷葎原之内前原、幷志賀之内臺、爲居屋敷預申候、自然從（大友親敦）屋形様、重而御扶持候時者、彼兩所可返給候、恐々謹言、

大永三年
九月五日　　（志賀）親守

次郎九郎殿

道西・妙金逆修ノタメ六地蔵幢ヲ建立ス

二六一　保多田六地藏幢銘

○大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書　大野郡大野町大字郡山字保多田

「逆修道西禪定門・妙金禪定尼
于□□（大）永四年甲申二月廿九日願主□（敬）白」

田地ヲ今宮殿ニ寄進ス

二六二　源一萬田鑑實（カ）寄進狀

○深山八幡社文書　大分県史料一三

奉寄附今宮殿田地之事赤迫谷幷鶴田、
右願者、爲武運長久・子孫繁昌・皆令滿足也、仍寄進狀如件、

大野荘

大永四年甲申五月十日　（一萬田鑑実カ）源兵部大輔（花押）

二六三　梨小小川野磨崖碑銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字梨小字小川野

（梵字キリーク）（阿弥陀如来坐像）
（梵字カ）（地蔵菩薩立像）
（梵字キリーク）（阿弥陀如来坐像）
大永四年甲申十月二日
□年四十年道西禪門
道由禪門二□

二六四　坪泉御靈八幡社六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字坪泉、御靈八幡社境内

（幢身）「于時大永五天乙酉
（十月）潤應鐘初二日、
本願住持比丘祖說
幷結緣道俗男女

道西禪門
道由禪門

本願住持祖說並ニ結緣者建立ス

○「大分県金石年表」五ハ石幢トセリ。

二六五　源一萬田鑑景・兵部大輔敦昌連署寄進状

○深山八幡社文書
大分県史料一三

「（包紙ウハ書）
「　　一萬田」

寄進　深山八幡宮

豊後國大野郡近地之内永多田地一段十二月　御神事免、

右願者、爲天長地久・御願圓滿・心中所願滿足也、仍而寄進之状、如件、

大永六年丙戌卯月十六日

兵部大輔敦昌（花押）
（一萬田）
源　鑑　景（花押）

二六六　上尾塚中江寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字上尾塚字中江

志賀村近地名内ノ田地ヲ寄進ス

宝篋印塔ヲ造立ス

「（基礎部墨書）
「□□□□資助故咒玆成佛生天者也、
大永六年丙戌□□□□」

二六七　深山八幡社舞殿建立料物支配状案

○深山八幡社文書
大分県史料一三

豊饒殿御分くりの木廿貫分ふか山舞殿上葺
かや五駄・はし（りカ）一まい・屋中竹二本・たるき竹三本・しもと一束・なハ五はう、來十月ほんそうあるへく候、

十月一日　　ふか山神主

たいの分（たい五貫文・古屋一貫分・まかりその五貫分、同前□キツフヲ認申候、まかりその五貫分、衞藤ゝ七殿）
一段分かや一駄・なハ一はう（切符カ）、來十月ほんそう有へく候、六郎左衞門
一段分かや一駄・屋中竹一本・たるき竹二本・なハ二はう、來十月ほんそう有へく候、しやううん庵
一段分かや一駄・屋中竹一本・たるき竹二本・なハ二はう、來十月ほんそう有へく候、衞藤九郎兵衞殿
かや一駄・なハ二はう・たるき竹、御中閒仁三郎
かや一駄・なハ二はう・しもと、うりか迫
かや二駄・なハ二はう・屋中竹二本、衞藤仁左衞門

ふか山宮舞殿上ふき之事、
かや二駄・はし（りカ）一まい・たるき竹三本・なハ二はう・しもと一束、來十月ほんそう有へく候、

御領切志目　同前ニキツフ（切符カ）ニ書也、

深山八幡舞殿上葺料物ヲ支配シ奔走セシム

たいの分

御領切志目

きり志目

二六八　深山八幡社舞殿建立料物支配状案

○深山八幡社文書
大分県史料一三

舞殿建立ノ竹木ヲ支配シ奔走セシム

□　舞殿こんりう之事

□(な)かさ一ちやう一尺、せい五寸、よほう(四方貫)ぬき二閒、木一ちやう、ひろさ四すん、あつさ二寸、かや竹、その外ハつねのことし、十月中ニ本(奔走)そうあるへく候、

八月　　ふか山宮神主

角屋敷分

はしら一本、なかさ一ちやう一尺、せい五すん、よほうぬき二閒木一丁、いたいのくきひろさ四寸、あつさ二寸、いたいのくき本そうあるへく候、

八月

八段田分

はり一しゆ、なかさ三ひろ二尺、たかさ六すん、あつさ□(五カ)寸五分、木つけ一、十月中ニ本そうあるへく候、かやたけその、

外ハつねのことく、こま〳〵不及□

大野荘

八月
おきのさこ分
なかさき名分

なかさき名

（花押カ）

寿叟徳永菩提ノタメ建立ス

芸州ニオケル軍忠ヲ賞ス

二六九　西蓮寺寶塔銘

○大分県金石年表七
大野郡朝地町大字朝地字和原、西蓮寺

（塔身）「壽叟徳永
大永七天丁亥二月十七日逝去」

二七〇　大友義鑒感状

○一万田文書
大分県史料九

去十二至藝州、佐東之内日地嶋津取之刻、遂防戦被疵之由、同被官一人被疵之段、忠儀感心候、必追而可賀申候、恐々謹言、

丁（大永七年）
亥三月廿八日　　（大友）義鑒（花押）

一萬田與十郎殿

起生薗以下ヲ預ク

屋形ヨリ扶助アラバ返スベシ

花渓紹芳大禅定尼ノタメ石塔ヲ建ツ

二七一　一萬田鑑景知行預ケ状

〇一万田文書
大分県史料九

きしやう（起生薗）その五段・きりしめ一段小・進田屋敷田二段たか原田ニ有、高長門守屋敷預進之候、（大友義鑑）御屋形様より御扶助被蒙候者、彼在所儀、返可有候、其内者、可有御領知候、恐々謹言、

十月十六日　　（一萬田）鑑景（花押）

（一萬田）與十郎殿　　進之候、

二七二　竹田市田部某邸内寶篋印塔銘

〇大分県金石年表六
竹田市大字会々字鏡、田部某邸内

欽奉造立石塔一軀、爲
花渓紹芳大禪定尼、
大永八年戊子十一月十九日殂矣、
孝子敬白、

〇モト大野郡朝地町大字池田字井上ニアリシモノトイフ（日名子太郎「大分県金石年表其六」昭和八年）。尚大字池田字館、谷窪所在ノ六地蔵幢ニ「花渓紹芳大禪定尼　淑靈」ノ刻銘アリ。但シ紀年ナシ。

逆修ノタメ碑ヲ建ツ

安岐郷・国東郷ノ地ヲ預ク

朔日ノ椀飯ノ儀ニツキ来信ニ答フ

二七三　板井迫天狗松逆修碑銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字板井迫字石田、天狗松

逆修善根主淨永善男子・妙祐善女・七分全得妙圓、
旹享祿五年壬辰仲春五日善根主誌之、

二七四　大友義鑒知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

安岐郷諸田之内壹町七段、國東郷之内三町三段分坪付在別紙之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十一月廿三日　　義鑒（花押）（大友）

志賀民部（親守）大輔殿

二七五　大友氏加判衆連署書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

就朔日御椀飯之儀、示預之次第、遂披露候處、親守（志賀）其外諸給人在陣之條、例年之様仁者、難被及覺悟候、御賀例之閒、御前計三獻之御肴取調、可有進上候、誘之事者、御臺所衆江被仰付之由候、可被其意事肝要候、巨細猶彼使者可被達候、恐々謹言、（得脱カ）

天文元年
十二月十九日

（田口）親　忠（花押）
（山下）長　就（花押）
（入田）親　廉（花押）

志賀民部（親守）大輔殿

二七六　市萬田和田墓地寶篋印塔銘

○大分県金石年表五
大野郡朝地町大字市萬田字和田墓地

（基礎部）
「奉刻撻五輪［壹］基、
爲權律師圓尊頓證
大菩提也、
于時天［文］貳曆癸巳九月廿四日」

二七七　大友義鑑感状

○上津八幡社文書
大分県史料一二

就今度肥後國發向、一萬田三河守令同陳、長〻軍勞感悦候、彌可勵忠貞事、肝要候、必追而一段可賀申候、恐〻謹言、

正月十五日

（大友）義　鑑（花押）

大野荘

権律師円尊大菩提ノタメ造立ス

肥後国発向ノ軍労ヲ賞ス

大野大宮司殿

二七八　大友義鑑感状（切紙）

〇一万田文書
大分県史料九

至今度肥州各出張之刻、従最前、一萬田左近藏人以同陣、長〻軍勞之儀、感悦候、必追而一段可賀申候、恐〻謹言、

閏正月廿日（天文三年）　義　鑑」

（包紙ウハ書）
「一萬田與十郎殿

肥州出張ノ軍労ヲ賞ス

二七九　大友義鑑感状

〇一万田文書
大分県史料九

就今度肥後發向、從最前在陣、軍勞感悦候、彌可被勵忠儀事、憑存候、必追而一段可賀申候、恐〻謹言、

三月廿日　義（大友）鑑（花押）

一萬田與十郎殿

肥後国発向ノ軍労ヲ賞ス

井田郷等ノ代所トシテ直入郷葎原名内五十貫分ヲ預ク

二八〇　大友義鑑知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

井田郷之内四拾貳貫分・小川名之内八貫分、爲代所、直入郷葎原名之内、志賀宮内(マヽ)太輔跡五拾貫分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十二月十三日　　義(大友)　鑑（花押）

志賀民部(親守)(マヽ)太輔殿

名字ヲ与フ

二八一　大友義鑑名字状

○志賀文書
熊本県史料中世二

御名字之事承候、以別紙認進之候、恐々謹言、

六月十三日(天文五年)　　義(大友)　鑑（花押）

志賀太郎(親益)殿

名字ヲ与ヘ源親

二八二　志賀親益加冠状

○志賀文書
熊本県史料中世二

加冠　名字事

益ト名乗ラシム

天文五年六月十三日　源親益（志賀）

○以上二通ハ「志賀氏系圖」親毎（道雄）―親益（道擇）―親守（道輝）ノ系譜（二七八頁）ト矛盾アリ。親益ノ子親守ハ、大永三年（一五二三）九月五日「志賀親守知行預ケ状案」（「志賀文書」二六〇号）ヲ発給ス。天文五年（一五三六）ニ親益ノ加冠ハ父子錯倒ノ感アリ。「志賀系圖」ハ、文書ト合致セザル所多シ。検討ヲ要ス。

志賀親守ニ筑後国内十町分ヲ預ク

二八三　大友義鑑知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

筑後國之内拾町分坪付在別紙事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

八月廿九日　義鑑（大友）（花押）

志賀民部大輔（親守）殿

筑後国竹野郡東郷水田内津久見鑑清先給十町分ヲ志賀親守ニ打渡サシム

二八四　大友氏加判衆連署奉書

○志賀文書
熊本県史料中世二

筑後國竹野郡東郷水田之内、津久見左馬助（鑑清）先給拾町分坪付在別紙事、被宛行志賀民部太輔（親守）（マヽ）訖、任　御判之旨、至彼代官、嚴重可被打渡之由、依仰執達如件、

天文六年二月十三日　丹後守（入田親廉）（花押）

（山下長就）和泉守（花押）
（田北親員）大和守（花押）

三原和泉守（種栄）殿
豊饒美作入道（永源）殿

二八五　杉園六地藏幢銘

〇大分県金石年表七
大野郡大野町大字杉園字平

沙婆世界南閻浮提大日本國豊後州大野庄下村之領内二木名之内茜平居住平朝臣足立盛俊、今月今日伏惟逆修主花山淨椿信男・秀月妙□信女壽位、豫修現在之勝因、欲證當來之妙果、由是顯六道能化地藏菩薩並閻魔大王之尊像於石塔面、欽奉造立之、殊謹集現前之僧衆以□供養□□□現世安穩後生善所以道受樂亦得聞法既聞法已離諸障礙者也、

寔天文八年己亥二月廿七日逆修□善

足立盛俊六地藏幢ヲ造立ス
花山淨椿秀月妙□ノ逆修壽位ノタメ

二八六　大友氏加判衆連署奉書寫

〇上津八幡社文書
大分県史料一三

當庄神主

如前々屬石川・三代之兩家、自餘之社人者、可隨其下知、至後代、不可及嫌疑之沙汰之由、被仰出

当庄神主ハ石川三代両家ニ属シ自余ノ神人ハソ

訖、可得其意之段、依仰執達如件、
（天文八年頃）
九月七日

丹後守（入田親廉）（花押影）
大和守（田北親員）（花押影）
和泉守（山下長就）（花押影）
右衛門尉（臼杵鑑続）（花押影）
若狭守（雄城治景）（花押影）

大野庄両政所殿

○臼杵鑑続ノ官途右衛門尉ハ、天文九年七月廿八日以後「安房守」トナル。本文書ハソレ以前ノモノナリ。

二八七　神角寺五輪塔銘

○大分県金石年表六
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（地輪）
「□□□□□□□□之事、爲權大僧都法印祐永追善、依之尊靈五智開明月常住而□□□躰性□□□加□
自在者哉、□□□施主寺内安全全□繁昌、乃至法界平ホ同利益、
于時天文十一年壬寅五月一日孝弟敬白、」

ノ下知ニ随フベシ

大野荘両政所

権大僧都法印祐永追善ノタメ造立ス

二八八　大友義鑑書狀案

○志賀文書
熊本県史料中世二

高野山西生院与阿十穀ノ下着勧進ヲ告ゲ肥後国中衆分領ヲシテ馳走セシム

高野山西生院與阿十穀、爲分國中一人一錢勸進、下著候、然者、肥後國中衆分領之儀、平均馳走候樣、御入魂肝要候、恐々謹言、

三月五日　　義鑑（大友）判

志賀安房守（親守）殿

右本書高野山西生院有之、

○大友義鑑ノ肥後守護職補任ハ、天文十二年五月七日ナリ。

二八九　大友義鑑知行預ケ狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

肥後国中ニ五十町分ヲ預ク

於肥後國中五拾町分坪付在別紙事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（天文十三年）十二月十三日　　義鑑（大友）（花押）

志賀安房守（親守）殿

二五〇　志賀道擇親益知行預ケ状　○志賀文書　熊本県史料中世二

就内々題目、初中後被添心候、剰抛一身、被顯必底之趣、永々難有忘却候、仍菅田名越中薗内新開幷杉園、相加三貫分、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

卯月廿八日　　道擇（志賀親益）（花押）

朝倉筑後入道殿

忠節ニヨリ菅田名ノ地ヲ預ク

二五一　神角寺寶篋印塔銘　○大分県金石年表六　大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

「（基礎部）奉刻彫石塔一宇之事、
法印權大僧都乘泉大和尚
天文十五年丙午二月十三日遷化敬白」

乘泉大和尚ノタメ石塔ヲ造立ス

二五二　梨小小川野六地藏幢銘　○大分県金石年表七　大野郡朝地町大字梨小字小川野

道全妙祐逆修ノ
逆修道全禪定門信男・妙祐禪定尼信女、

于時天文十八季己酉參月四日施主敬白、道正(マヽ、下同)婦夫・宗源婦夫・道永婦夫・同妙正初三郎婦夫・與三左衞門婦夫・次郎左衞門婦夫・藤兵衞婦夫・□五婦夫・又五郎婦夫・次郎右衞門婦夫・□次郎二人・□□□二人・次三郎二人・□□太郎右衞門二人・太郎三郎二人・三郎右衞門二人・□右衞門二人・三郎祖母□□太郎二人・□□□婦夫・太郎三郎婦夫・文左衞門婦夫・新十郎二人・□良□左衞門□三郎藤九郎爲次郎□

□婦夫・彌四郎□□郎婦夫・又□郎・彌二郎・新三郎母・左衞門二郎・藤十郎・□左衞門・□太郎妻・小迫祖父左衞門□郎□・市助六女・三郎女・源太郎

二九三　朝地城ノ久保六地藏幢銘

○大分県金石年表七
大野郡朝地町大字栗林字柳井、城ノ久保

六地藏幢ヲ造立ス

欽(マヽ)莘造立能化地藏菩薩、各々以功力□□現受無比樂後生爲善處、次敬中曰、伏以早生死折破輪廻根源廣開甘露門、無上大法輪轉亡魂今日功德主乃至法界□等利益故也、花林道泉禪定門・春花妙永禪定尼・春中妙高禪尼・月鏡淨泉禪定門・涼月道秀禪定門、逆修並本願大檀那玉泉院宥鏡、于時天文拾八年己酉閏(閏)七月廿八日、西光寺□□昌泉禪定門・性連禪定門・□□道本雲仲道□善久□柳法心禪定門・□界□心道□道春道泉禪定門・道金禪定門・常金禪門・道祐禪門・道金禪定門・妙秀禪尼・妙珎禪定尼・妙圓禪尼・道□禪門・道清禪門・道圓禪門・道本禪門・□□禪定門・妙心禪尼・道心禪定門・道清禪定門・富□知藏禪師・道泉禪定門・常念禪定門・宗參道□禪定門・松岩道

現禪定門・月□道泉禪定門・明□道金禪定門・金景道清禪定門・淨金禪定門・道吾禪門、

二九四　大友義鎮起請文

○志賀文書
熊本県史料中世二

今度慮外之儀、無是非候、然者、別而可被顯心底之由候、乍勿論、順儀之思案祝着候、彌忠儀憑存候、對其方、永〻不可有等閑之段、以寶印裏申候、若此旨僞候者、梵天帝釋・四大天王、惣而日本國中大小神祇、別而由原八幡大菩薩・松坂若宮兩八幡大菩薩・祇薗牛頭天王・關六所權現・天滿大自在天神御罰、可罷蒙者也、仍起請文如件、

天文十九年二月廿一日　　義(大友)鎮（花押）

志賀民部(親度)(マヽ)太輔殿

志賀安房守(親守)殿

二階崩レノ変ニツキ貞心ヲ顕ハセシヲ賞シ等閑ナキヲ誓フ

二九五　志賀親守一跡安堵狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

親父一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違儀候、恐〻謹言、

天文十九年六月一日　　親(志賀)守（花押）

朝倉玄幡(マヽ)允殿

親父一跡ヲ安堵ス

二九六　大友義鎮寄進状

○上津八幡社文書
大分県史料一三

（包紙）「大友義鎮」

御寄進状　　壹通
大友家二十二代之孫也、
」

（端裏切封）「（墨引）」

就立願之儀、至上津八幡宮、小平田之内、田地五段令寄進候、可被得其意候、恐々謹言、

（天文十九年）六月廿八日　　（大友）義鎮（花押）

（大野鎮基）三代佐渡守殿

立願ニツキ上津八幡宮ニ小平田内田地五段ヲ寄進ス

入田親実菊池義武誅伐ノ賞トシテ入田十二名内三拾貫分ヲ預ク

二九七　大友義鎮知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

就今度入田信濃守（親実）悪行顕然、加退治候之刻、以無二心底、従最前預馳走候之故、遂誅伐候、本望候、然処、至肥後國、（菊池）義武現形之條、打續在陳軍勞御忠貞、誠感悦無極候、爲其賞、入田拾貳名之内三拾貫分坪付在別紙事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（天文十九年）六月廿八日　　（大友）義鎮（花押）

志賀安房守(親守)殿

二九八　大友義鎮感状

〇一万田文書
大分県史料九

菊池義武退治ノ軍労ヲ賞ス

「一萬田勘解由允殿　義　鎮」(包紙ウハ書)

就今度義武(菊池)退治、一萬田次郎以同心令在陳、軍勞感悦候、彌可被勵忠貞事、肝要候、必追而一段可賀申候、恐々謹言、

七月十三日(天文十九年)　義鎮(大友)(花押)

一萬田勘解由允殿

志賀親守ノ一跡ヲ親度ニ安堵ス

二九九　大友義鎮一跡安堵状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

親父安房守(志賀)親守一跡事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

十月廿八日　義鎮(大友)(花押)

志賀民部太輔(親度)(マヽ)殿

肥後国玉名郡菊池郡ノ地ヲ預ク

三〇〇　大友義鎮知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

肥後國玉名郡之内前原九町・同郡之内龜甲貳町、同郡之内下築地伍町、菊地郡之内近見三町、守富・阿多香内拾壹町分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

三月廿五日　　義（大友）鎮（花押）

志賀民部（親度）（マヽ）太輔殿

不退辛労ニツキ知生薗五貫分ヲ預ク

三〇一　一萬田鑑實知行預ケ状

○一万田文書
大分県史料九

不退可有辛勞之由候之閒、知生薗五貫分之事、預進之候、約諾於相違者、不可有曲候、恐々謹言、

（天文廿一年頃）卯月四日　　鑑實（一萬田）（花押）

十郎四郎殿

進之候、

○二七一号文書ニハ「きしやうその」トアリ。

三〇三　大友義鎮名字状　○一万田文書　大分県史料九

名字之事、以別紙認遣之候、恐々謹言、

（天文廿一―二年頃）十二月十三日　義鎮（大友）（花押）

一萬田十郎四郎殿

三〇三　栗栖寶篋印塔銘　○大分県金石年表七　大野郡朝地町大字栗林字栗栖

（基礎部）「奉爲造立□當示寂大月□禪師歸眞□華□金

岩天文廿四年乙卯九月十二日　」

三〇四　大友義鎮知行預ケ状　○志賀文書　熊本県史料中世二

今度隱謀人成敗之刻、別而被顯心底候、感悦候、仍於國中三拾貫分坪付在別紙事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（弘治二年カ）六月廿三日　義鎮（大友）（花押）

名字ヲ与フ

大月□禅師ノタメ造立ス

隱謀人成敗ノ刻ノ忠ヲ賞シ恩賞地ヲ預ク

三〇五　源大友義鎮寄進状

○森恵長文書
大野郡朝地町大字板井迫

入田次倉名之内、賀來太郎跡拾五貫分之事、寄附候、然者萬雜諸點役ホ、可免許候、彌每事寺務不可有油斷之状、仍如件、

弘治二年八月二日　　源(大友)義鎮（花押）

○大恩寺宛ナルベシ。

入田次倉名内賀來太郎跡十五貫分ヲ寄附ス

三〇六　大友義鎮知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

今度秋月文種逆心故、豊前・筑前・肥前亂忩之條、彼惡黨退治之儀申付候處、別而依被勵粉骨、右三ケ國無程屬案中候、忠貞無比類候、仍爲其賞、於豊筑百五拾町分坪付在別紙之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（弘治三年）
十二月十三日　　義(大友)鎮（花押）

志賀民(親度)(マヽ)部太輔殿

秋月文種退治ノ賞トシテ豊筑百五拾町分ヲ預ク

三〇七　志賀親度知行坪付

○志賀文書
熊本県史料中世二

志賀民部太輔（親度）（マヽ）坪付

筑前國上座郡之内
一所　三拾町　石成
同國同郡之内
一所　拾貳町　久重村
同國同郡之内
一所　三町　立野村
同國同郡之内
一所　四拾町　三奈木
同國同郡之内
一所　拾貳町　玉虫右同所
同國同郡之内
一所　八町　しのた村右同所
同國同郡之内
一所　五町五段　くわうたい村右同所
豊前國京都之内　山田安藝守跡
一所　四拾町　稲光

以上百五十町

志賀親度ニ恩賞地ノ坪付ヲ注シ渡ス

大友氏加判衆裏封ヲ加フ

（以下裏花押）
「（臼杵鑑速）（花押）」
（吉岡長増）（花押）
（吉弘鎮理）（花押）
（田北鑑生）（花押）

○前号文書ト同日ノモノナルベシ。

三〇八　栗林平良平寶篋印塔（三基）銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字栗林字古中熊、平良平

「（第一基）□花□妙信禪定尼靈
時永祿三年庚申二月廿六日敬白」
「（第二基、基礎亡失）□月泉妙源禪定尼」
皆永祿三年庚申二月廿六」
「（第三基、蓋・相輪亡失）□月禪□」
永祿三年庚申二月廿六日」

○三基トモニ、塔身金剛界四仏種子ノキリーク面ニ陰刻ス。

三〇九　大友義鎮感状

○一万田文書
大分県史料九

（包書ウハ書）「一萬田治部少輔殿　　義鎮」

十月廿六於門司平城口防戰之砌、被疵、同僕從一人被疵之段、忠貞感悦候、必追而可賀申候、恐々

門司平城口防戰

花□妙信禪定尼

月泉妙源禪定尼

（朱印「花押」）

ノ忠貞ヲ賞ス

謹言、
（永禄四年カ）十二月廿一日　（大友）義鎮（花押）
一萬田治部少輔殿

法印宥遍逆修ノタメ造立ス

三一〇　神角寺寶篋印塔銘

○大分県金石年表六
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（基礎部）「永祿五年壬戌
法印宥遍逆修
八月十四日」

立願ニツキ上津八幡宮ニ田地三段ヲ寄進ス

三一一　戸次鑑連寄進状寫

○上津八幡社文書
大野郡大野町大字片島、上津八幡社

就立願之儀、至上津八幡宮、田地三段坪付在別紙、令寄進候、可被得其意候、恐々謹言、
六月廿八日　戸次伯耆守鑑速（花押影）（連ノ誤）
大野大宮司
三代右衛門尉殿

上津八幡宮ニ金幣ヲ寄進ス

雲仲宗音ノタメ造立ス

三二　戸次道雪鑑連寄進金幣銘

○上津八幡社所蔵　大分県史料一三

「奉寄進
永祿丙寅(九年)二月吉日
上津八幡太神
願主戸次入道道雪(鑑連)再拝
大野荘」

三三　池在サヤノキ寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録　大野郡朝地町大字池田字池在、サヤノキ

「欽奉造立石塔一基(基礎部)
雲仲宗音禪定門
永祿九年丙辰潤八月十日
孝子敬白」

大野荘

三一四　戸次道雪鑑連寄進鰐口銘

○上津八幡社所蔵
大野郡大野町大字片島、上津八幡社

鰐口ヲ寄進ス

（表）「豊州大野郡上津八幡大神
于時永祿己巳（十二年）年二月五日　」
（裏）「願主戸次道雪（鑑連）敬白、
祭禮奉行由布惟久　」

祭礼奉行由布惟久

三一五　大友氏加判衆連署書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

竜造寺隆信誅伐ニツキ検使二人ヲ差遣スヲ告ゲ談合ノ上馳走セシム

龍造寺山城守（隆信）事、先年依佗言深重、被成御赦免候之處、毎々一雅意之企、殊今度松浦（肥前）表錯亂以來、逆心顯然之條、御誅伐之儀、至所々堅被加御下知候、然者爲御檢使、成大寺（豪栄）・森越前入道（宗智）被差遣候之條、各被申談、別而馳走可爲御祝著之段、以　御書并御條々被仰出候、被得其意、聊不可油斷（マヽ）之儀候、委細右兩人江被仰含候、恐々謹言、

（永禄十二年）三月廿七日

（田原）親賢（花押）
（朽網）鑑康（花押）
（白杵）鑑速（花押）

麥生民部太輔殿（鑑光（マヽ））

（志賀）親　度（花押）
（佐伯）惟　教（花押）

三一六　大友宗麟義鎮名字状

〇一万田文書
大分県史料九

名字之事、以別紙認進之候、恐々謹言、

二月十三日

一萬田孫九郎殿

（大友義鎮）宗　麟（花押）

一万田孫九郎ニ名字ヲ与フ

三一七　臼杵鑑速書状

〇天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

「（墨引）」（切封）

被任御佳例、御祈禱之巻數幷扇子二柄、至三玄齋（宗麟）・義統被差遣之趣、令披露候處、御祝着之段、直被仰遣候、尤珍重候、隨而於私配帙（マヽ）殊扇子十柄拜受、御丁寧之儀畏入存候、猶御兩使江申候條、書面不詳候、恐惶謹言、

九月八日

大野荘

（臼杵）鑑　速（花押）

巻数扇子ヲ宗麟義統ニ披露セシヲ告ゲ扇子ヲ贈ラレシヲ謝ス

三聖寺参　尊答衣鉢侍者禪師

○包紙ウハ書ヲ省略ス。大友義鎮ノ「三玄齋」署名ノ花押（8）ハ永禄七年～元亀三年（『大分県史料』花押編年一覧）ナリ。然ルニ本文書ニハ、「三玄齋・義統」トアリ、天正年間ト推定サルヽ節アルモ、花押類型ニヨリ、便宜コヽニ収ム。芥川竜男編著『お茶の水図書館成簣堂文庫武家文書の研究と目録』上（お茶の水図書館発行）「田村文書」一七九・一八〇号文書参照。

三八　臼杵鑑速書状

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

大友宗麟大野荘四ケ村ヲ三万疋ノ請料ニテ請負フ

「（切封）（墨引）」

追而御寺領四ケ村（大野荘）之事、爲請地對三玄齋（宗麟）可被差遣由、先年以毛利兵部少輔、始中終雖被仰遣候、宗麟有存慮、于今無領掌之處、重〻以御兩使被仰越之趣、令披露之處、强而御口能之條、被任年三萬疋之請料、至勤首座・慶首座被渡遣候、向後彌不可有緩旨候、爲御存知候、隨而於私（カ）掩貳端（片宮）拜受、御懇切之儀、欣悦無極候、猶口上申候條、閣筆候、恐惶謹言、

九月八日　　鑑（臼杵）速（花押）

三聖寺参　衣鉢閣下

「（包紙ウハ書）
三聖寺參尊答衣鉢侍者禪師　鑑速」

臼杵越中守

志賀親次ニ親父親度一跡ヲ安堵ス

大野荘四ケ村請料三万疋ヲ進ズ

三一九　大友宗麟義鎮一跡安堵状　○志賀文書　熊本県史料中世二

親父民部(ママ)太輔親度一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

九月廿一日　　宗麟(大友義鎮)（花押）

志賀太郎(親次)殿

○三五四・三五五号文書参照。本文書ハ花押ニヨリ、永禄七年（一五六四）～元亀三年（一五七二）ゴロノモノト推定ス。三五四・三五五号文書ハ天正十一年（一五八三）乃至翌年ノモノ。志賀太郎（親次）ニ宗麟・義統ノ二度ノ一跡安堵アルハ如何ナル事情カ。検討ヲ要ス、

三二〇　大友宗麟義鎮書状　○天理図書館蔵三聖寺文書　東京大学史料編纂所影写本

（端裏切封）「（墨引）」

大野庄四ケ村請料之事、任申談之旨、三萬疋銀進之候、於向後茂、彌不可有油斷之儀候之趣、猶毛利大炊入道・首藤甚介入道可申候、恐々謹言、

十月十三日　　宗麟(大友義鎮)（花押）

（張紙）「大友宗麟」

三聖寺

三聖寺ノ領地四百貫文
万寿寺・同慈寺ヨリ収納
吉岡宗歓ノ侍佐藤八郎兵衛船奉行トシテ年貢ヲ運送ス
讃岐国塩飽ノ海賊押寄ス
大法師一人出現シ海賊ヲ退ク
三聖寺ノ二王ニ矢当ル

三一　大友興廃記

○大分県郷土史料集成　戦記篇上

東福寺萬壽寺建立之事附二王軍之事、

○上略去程に、豊後國に東福寺の三聖寺より領（大野荘ナラン）する地、四百貫文あり。萬壽寺幷に神護山同慈寺、此兩寺より年々是を取納す。義鎭公、六人の老中より年貢運送の船奉行を相添へ、毎年爲登（ノボセ）らるゝ。或年、吉岡宗觀（歓）の侍、佐藤八郎兵衛と云ふ者、船奉行として十六端の船にて上洛の時、船中にて一の不思議あり。府内の沖を出し、四國路を過るに、讃岐國汐分（塩飽）七浦の海賊ども起て、此舟を奪取んと思ひ船數を催し集め、矢比に推寄せ、散々に射掛る。○中略多勢なれば、防ぎ兼ね難儀に及ぶ所に、豊後にて乘たるとも覺へぬ、大の法師一人出現して、十六端の帆柱を取て、常の者の扇の手まさぐりの如くにて、海賊の懸る熊手を、ひしぐ〳〵と打折て、射懸る矢をば中にて打落す。近付船をば船腹（フナハラ）を衝破りければ、海賊の奴原、多分潮に漂て失ぬ。其より殘る海賊は、悉く引て浦々へ歸りぬ。軍終て、此法師忽然として見えざりき。船中の者共、是は如何樣、佛神三寶の助ぞと歡びあへり。年貢米は、難なく東福寺・三聖寺に納る。始より船に乘らざる大の法師、船中にて軍し、手柄を盡し、運を開たる事ども、三聖寺にて披露せしかば、寺中にて奇異の思ひをなし、一山是を不審するに、三聖寺の二王に、あまた矢を射立て置たり。矢符（シルシ）を見るに、讃州汐分のなにがし誰がしとあり。又、船に射込たる矢符（シルシ）に少しも違はず。其より二王の軍し給ふと知て、奇特の思ひをなしてけ

り。○中略拠其頃は、海遠く乗船は、三聖寺二王の判を取て乗る由聞ゆ。○下略

○本書江戸時代撰ノ野史ナルモ（寛永十二年勢州人杉谷宗重撰）、参考ノタメコヽニ掲グ。

元亀三年分大野荘四カ村請料三百貫文ヲ銀子ニテ渡ス

天正元年分大野荘四ケ村請料六貫目ヲ渡ス

三三　大野荘四ケ村請料渡状

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

大野四カ村御請料之事、
合参百貫文定但以銀子陸貫玖百文渡之、
右、爲元龜參年壬申之歳分、慥攸渡申如件、
九月三日　　毛利大炊助　鎮元（花押）
　　首藤甚介入道　玄祐（花押）
三聖寺上使
憩首座
勤首座參

三三三　大野荘四ケ村請料渡状

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

大野庄四ケ村御請料之事
合銀子六貫目定

大野荘

右之前、皆濟慥渡申狀、如件、
天正元年癸酉拾月十三日　毛野大炊入道　宗祝（花押）
首藤甚介入道　玄祐（花押）

三聖寺參

三三四　神角寺五輪塔銘

○大分県金石年表六　大野郡朝地町大字鳥田字神角寺

（地輪）「奉刻彫石塔一宇之事、權少僧都乘蓮尊位、
天正三年乙亥十二月五日孝資敬白、」

権少僧都乘蓮ノタメ五輪塔ヲ造立ス

天正三年分大野荘四ケ村請料銀子六貫目ヲ渡ス

三三五　大野荘四ケ村請料渡狀

○天理図書館蔵三聖寺文書　東京大学史料編纂所影写本

大野庄之內四ケ村請料之事、
合參百貫文定銀子ニ〆六貫目
右前、爲天正三年乙亥分、慥渡申所如件、
于時天正四年卯月十四日　首藤甚介入道　玄祐（花押）
毛利備前入道　宗祝（花押）

蘭庭妙香禅定尼ノタメ宝篋印塔ヲ建ツ

三三六　藤北寶篋印塔銘

○大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書
大野郡大野町大字藤北字藤北

「爲蘭庭妙香禪定尼也、
皆天正四年丙子卯月念八日之志、」

大野荘請料ノ納入ヲ告ゲ袷表ヲ贈ラレシヲ謝ス

三三七　浦上宗鐵書狀

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

就大野四ケ村御請料之儀、以御兩使被差下候之條、於爰許相應之儀、不存心踈候、如尊意相調候條、千秋萬歳候、倍於向後不可存緩踈候、仍袷表一端拜領、過分至極候、御丁寧之至忝存候、委曲御兩使可有御演說候、可得尊意候、恐惶謹言、

菊月四日　　（浦上）宗　鐵（花押）

三聖寺　參　尊答

（包紙ウハ書）「

浦上左京入道

三聖寺　參　尊答　　宗　鐵」

三八　浦上宗鐵書狀

〇尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

猶〻夜伯軒一通之案書、請取候、心得申候、復〻雖可令申候、御使者如御存知、客來相續候之閒、大かた申候、〳〵、倫都寺事心得申候、不可有御氣仕候、〳〵、

御飯寺已來無音罷過候、心外無極令存候之處、貴札罷成、御返事候之事、不及是非候、仍倫都寺事、先日度〻被尋候、其刻申候ハ、彼題目之事、被　仰出旨候之條、能〻申伺以面上可申渡之由申候之處、其以後不蒙仰候、さて如貴寺被參候哉、餘之聊爾之御覺悟候、當時休庵(大友宗麟)様御繁多之子細御座候而、遲滯迄候、いつとなく御在寺、更〻不可然存事候、何時も御在庄候て、可被請御下知事、專一事候、其趣御入魂專一候、事〻期來音之時、可得貴意候、恐惶謹言、

三月二日　　宗(浦上)　鐵（花押）

「(奥ウハ書)　(切封)　(墨引)　浦左入

松月軒　參　貴報　　宗　鐵」

帰寺已来無音

大友宗麟繁多ニテ遲滞

在荘シテ下知

三九　浦上宗鐵書狀

〇尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

猶〻貴札忝存候、聽而〳〵出頭之覺悟候間、旁其折節可得貴意候、兼又隱劦之返事申入候、

乍恐能〻被仰達可給候、存憑候、事〻期拜顔之時候、

如貴札、昨日者御來臨遂拜顔候て、累日之本望此事候、仍今日御出頭之儀、可然存候、愚老事、以支度只今可罷出覺悟候、早〻參上專要と存候、殊明日可被成皈寺候哉、尤存候、殿中御隙ハ早〻明申へく候閒、可御心安候、將亦昨日親虎(田原)ハ御坐候哉、紹忍(田原親賢)御皈宅之刻ハ、御出庄可目出候、後樣以參上、旁可得尊意候、恐惶謹言、

五月五日　　(浦上)宗鐵（花押）

(奥ウハ書)「　(切封)(墨引)　浦上左京入道

松月軒　參　貴報　　宗　鐵」

田原親虎
田原親賢歸宅ノ刻出莊アルベシ

三三〇　大友氏加判衆連署書狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

就日州表行之儀、爲可被仰談、眞光寺壽元法印被雇進之候、此節別而御入魂、可爲御祝着之段、以ケ條直被仰遣之趣、委細右寺可有演說候、恐〻謹言、

(天正六年)二月十二日

(志賀親守)道　輝（花押）
(朽網鑑康)宗　歷（花押）
(田北)鎭　周（花押）
(吉岡)鑑　興（花押）

日州表行ニツキ仰談ズルタメ眞光寺壽元ヲ雇進ズ
志賀親守加判衆

（田原親賢）紹　忍（花押）
（佐伯惟教）宗　天（花押）

阿蘇殿　御宿所
（奥ウハ書）

佐伯紀伊入道
田原近江入道
吉岡越中守
田北相模守
朽網三河入道
志賀安房入道
道　輝」

阿蘇殿　御宿所

三三　平井觀音堂板碑銘

○白井昭一調査記録
大野郡朝地町大字下野字平井、観音堂

大日本國豊後州大野庄平井名之内、爰有僧俗男女奉待一座三□之庚申、爲伸其供養、石塔一碁造立者、佛身法身如虚空、一念無漏之月、照生死長夜、塔婆自在而絶敲撰、此

彌勒寺　□孝貞
瑞松寺同納所　三宮□三郎夫婦
梵策藏主　柿木又左衛門夫婦
□喜藏主　山崎内清三

大野荘平井名庚申待ノ僧俗男女板碑ヲ造立ス

<東>儀眠密室現身受安穩功力念願成就、　光淳　同所德房

□生到□□蓮臺見十方佛身開悟不二　慶□　小太郎

□有情非情輩、乃至甘露法味　源孝次　□助十郎

□莊嚴平等利益者也、　平宗□夫婦　妙泉禪定尼

天正六年戊寅二月廿六日　平實繼夫婦　大工山崎三郎兵衛尉

權大僧都法印宥兄書之施主敬□　大神實長　本願榮藏□

○銘文上方ニ梵字アリ。下半部欠失スルモ「ウーン」ト推定ス。

三三　大友義統感狀

○一万田文書
大分県史料九

（包紙ウハ書）
「一萬田次介殿　義　統」

土持要害落去之刻、自身分捕之由、粉骨之儀候、彌馳走肝要候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天正六年）
卯月十五日　義（大友）統（花押）

一萬田次介殿

土持要害落去ノ時ノ軍功ヲ賞ス

三三三　市萬田小畑板碑銘

○大分県金石年表二
大野郡朝地町大字市萬田字尾平、小畑

爲□山善春禪定門也、
干時天正六年戊(戊)寅□

□山善春禅定門ノタメ板碑ヲ造立ス

三三四　大野荘四ケ村請料渡状

○天理図書館蔵三聖寺文書
東京大学史料編纂所影写本

四ケ村御請料
一銀子　六貫目當納四貫目定、不足貳貫目
右、渡申請如件、
天正七年己卯七月廿七日
三聖寺内
憩首座

今村主馬入道
紹越（花押）
古庄右近入道
一閑（花押）

大野荘四ケ村請料四貫目ヲ渡ス

三三五　大友義統書状

〇尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

宝勝院題目ニツキ四ケ村請料ノ滞ルヲ謝シ爾後ヲ約ス

（端裏切封）「（墨引）」

（大野庄）四ケ村請料之事、就寶勝院題目之儀、相滞候哉、於自今以後者、猶以至當院可被添御心之由候條、任約諾之旨、三萬疋運送候、向後聊不可有相違候之趣、委細古庄右近入道・今村主馬入道可申候、恐惶謹言、

（天正七年）八月廿一日　　義統（大友）（花押）

三聖寺　尊答

三三六　浦上宗鐵書状

〇尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

巻数以下ヲ披露ス

宝勝院題目ニヨリ遅滞セル四ケ村請料ヲ沙汰ス

（端裏切封）「（墨引）」

御祈禱之巻數幷扇子貳本兩金・片色一端黃練、御進上之趣、具令披露候、御祝着之段、以直書被仰出候、珍重候、仍就四ケ村（大野庄）御請料之儀、度々言上候、近年依寶勝院題目相滞候處、至彼院彌以可有（不脱カ）御別儀之由、既以誓紙御申之上者、云御約諾之辻、今年天正七年之御請料三萬疋分、銀子六貫目運送之儀、被仰付候、於自今以後茂、不可有御相違之旨、從私茂能々相心得可令申之候、委細文波座

元可有御演說之條、令省略候、可得尊意候、恐惶謹言、

（天正七年）八月廿六日　　宗（浦上）鐵（花押）

三聖寺　參　尊答　衣鉢閣下

一万田左吉允ニ市進ノ官途ヲ与フ

心源道径ノタメ造立ス

三三七　大友義統官途狀

〇一万田文書　大分県史料九

市進望之由、可存知候、恐々謹言、

十一月一日　　義（大友）統（花押）

一萬田左吉允殿

三三八　常忠寺寶篋印塔銘

〇大分県史蹟名勝天然記念物調査報告書　大野郡大野町大字藤北字常忠寺

「爲前彈正忠心源道徑定□

寔天正七年己卯十一月初七日□」

三三九　大友義統感状

〇一万田文書
大分県史料九

安岐切寄取懸防戦ノ軍労ヲ賞ス

（包紙ウハ書）
「一萬田左吉入道殿　　義　統」

前十四至安岐（国東郡）切寄取懸防戦之刻、其方依碎手、被疵之由候、忠貞之次第感悦候、必取鎮可賀申候、
爲存知候、恐々謹言、
（天正八年カ）七月十八日　　義（大友）統（花押）

一萬田左吉入道殿

三四〇　浦上宗鐵書狀案

〇尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

（包紙ウハ書）
「三聖寺　參　尊答　衣鉢閣下　　浦上左京入道　宗　鐵」
（端裏切封）
「（墨引）」

追而、爲御佳例、扇子拾柄拜受、過分之至候、旁期來音之時候矣、

去年愚息九兵衛尉令在京候之處、每年被添御心之由、忝過分至極候、其以後者依遼遠申後候、背本意候、仍被仰談候請料之事、去年至勤首座、打渡被申候之條、定而可爲寺納候哉、於委細者、以別

四ケ村請料ハ去

年勤首座ニ渡ス

紙令申候之閒、書載不具候、殊晒布一端拜領候、御懇情畏存候、旁倫都寺可有演說候、恐惶謹言、

七月廿六日　　宗鐵（浦上）

三聖寺　參　尊答　侍者禪師

三四一　大友義統感狀

○一万田文書
大分県史料九

安岐郷切寄一戰ノ刻ノ軍労ヲ賞ス

「一萬田左吉入道殿（包紙ウハ書）　義　統」

前於十四　安岐郷切寄一戰之刻、依碎手、被疵之由、粉骨之次第感入候、彌可勵馳走事、簡要候、必取鎭一段可賀申候、恐々謹言、

八月三日（天正八年カ）　義統（大友）（花押）

一萬田左吉入道殿

三四二　大友義統書狀

○尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

分国中乱忩ニツキ大野荘四ケ村請料ノ遅滞スルヲ告ゲ万疋ヲ送ル

（大野庄）四ケ村請料之儀、嚴重雖可申付候、分國中亂忩、爲可加下知、既令發足候之條、于今相滯候、先以萬疋銀子差上候、於委細者、古潤西堂可有演說候、仍縮五端送給候、御丁寧之至祝著候、猶浦上長門入道可申候、恐惶謹言、

三四三　大友義統袖判下村菅田名坪付

○志賀文書
熊本県史料中世二

（天正八年）十一月十八日　義統（大友）（花押）

三聖寺　衣鉢閣下

大友義統大野荘下村菅田名ヲ志賀親孝ニ預ケ坪付ヲ与フ

十時
樋口
大坪
御薗
越中薗
景木

（大野庄）下村菅田名坪付

一所　上畠屋敷
一所　十時
一所　樋口
一所　大坪
一所　御薗
一所　越中薗
一所　景木

已上

天正八年十二月三日

志賀民部（親孝）大輔殿

（大友義統）（花押）

三四四　大友義統知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

爲大野庄四ケ村役職代所、下村菅田名之内染屋分・豊尾分・花木分・佐伯通分・小横枕分・柳迫分・茜分・染原分・上座分・炎尾分・久珠地淵脇分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（天正八年カ）十二月十三日　　義統（大友）（花押）

志賀民部（親孝）（マヽ）太輔殿

大野荘四ケ村役職代所トシテ下村菅田名内ノ地ヲ預ク

三四五　大友義統官途状

○一万田文書
大分県史料九

宮内少輔望之由、可存知候、恐々謹言、

三月六日　　義統（大友）（花押）

一萬田市進殿

宮内少輔ノ官途ヲ与フ

三四六　浦上道册書状

○尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

義統一昨夕出京

先日者、尊禮過分至極候、然者義統（大友）事、一昨夕被致出京候、最以参上雖可得尊意候、於爰許茂不得

寸暇、心外無極候、御氣分茂彌被得御快氣之由、千秋萬歳候、義統旅宿可預御尋事、可目出候、澤侍者ニも明日わたりハ、御見舞可然存候、先剋　藤宰相殿迄、遂參扣尋申て候、尊翁も卒度御見舞專一と存候、必以參扣可得貴意候之間、先令省略候、恐惶頓首、

卯月九日　　道冊（浦上）（花押）

（奥ウハ書）「　（切封）（墨引）　浦上長門入道

松月軒　　道冊」

參　侍者御中

三四七　大友義統感狀

〇一万田文書
大分県史料九

（包紙ウハ書）「一萬田市進殿　　義統」

去月廿四下毛郡之内、閒田切寄打崩之刻、分捕高名、殊前八、宇佐郡佐野切寄挫之砌、被疵粉骨之次第、旁以忠儀無比類候、必追而一段、可賀之候、恐々謹言、

十月十一日　　義統（大友）（花押）

一萬田市進殿

下毛郡閒田切寄宇佐郡佐野切寄ノ軍忠ヲ賞ス

三四八　浦上道册書状

○尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

猶〻其許田舎之御事候閒、一入御徒然奉察候、殊拙老氣分被成御尋候、忝令存候、老病之故候哉、不本服之條、無興仕候、種〻養生半候、必可得快氣候條、旁以可得貴意候、已上、

尊書具令拜見候、其以後雖令申入候、當病依不然〻忘前後躰候、曾而非心疎候、其許被明御隙、早速御出庄奉待候、義統(大友)様茂今日從濱脇　御出府之由、被仰下候、此時者定而四五日中、可爲御皈館候哉、爰元依様子者、必可申入候、　上使寺澤越中守殿も、急度御上洛之由申候、參謁奉期拜顔之時候、恐惶謹言、

十月廿五日　　道(浦上)　册（花押）

「（奥ウハ書）　（切封）（墨引）　浦上長門入道

松月軒　參　尊答　　道　册」

出荘ヲ待ツ
義統モ浜脇ヨリ出府

三四九　浦上道册書状

○尊経閣所蔵東福寺文書
東京都目黒区駒場四

猶〻到明寺領帳面御披見候而、御仰天之由承候、尤至極候、拙者事茂、彼寺領不知案内之事候條、驚存候、先〻御在寺候而、様子被御覧及、以其上御申專一令存候、兎〻病躰故、以參

到明寺領帳面披見シ仰天ス

上御晦(ママ、請)不申候事、心外千萬ニ候、愚宿へ可被成御來臨事者、中〻尾籠之儀候、明春早〻遂
拜顏、可得尊意候、已上、

尊書令拜見候、仍今日到明寺江御座候哉、珍重候、臼杵右京亮方、別而可被仰談事、無申迄候、殊
今明到明寺領帳面、懸御目候、度〻如令申候、彼方角一圓不知案內之儀候條、不及才覺候、能〻鎭
定御談合候て、時宜可然樣御調達所希候、年內ハ無餘日候條、明春早〻可有御出庄之由候、存其旨
候、御晦請不申候事、千萬口惜候、御用之儀御座候者、何時も以御飛脚可蒙仰、聊不可存心疎候、
萬端奉期來信之時候、恐惶謹言、

十一月晦日　　(浦上)道　冊(花押)

(奥ウハ書)「　(切封)(墨引)　浦上長門入道

松月軒　參　尊答　　道　冊」

○浦上氏ト三聖寺トノ往復文書八通、異事ナキニヨリ省略ス。

三五〇　大友義統感狀

○上津八幡社文書
大分県史料一三

(端裏切封)「(墨引)」

今度至彥表、長〻在陣、軍勞之儀感入候、必取鎭、一稜可賀之候、恐〻謹言、

(天正九年)十二月十三日　　(大友)義　統(花押)

彥山ニオケル軍勞ヲ賞ス

到明寺領帳面ヲ御目ニ懸ク

明春早々出莊

大野大宮司殿

三五一　大友義統一字書出

〇一万田文書
大分県史料九

一字之事、統綱遣之候、恐々謹言、

二月九日　　義（大友）統（花押）

一萬田與九郎殿

一字ヲ与ヘ統綱ト名乗ラシム

三五二　酒井寺神傳藤北方臼迫分諸公事調注文

〇伊東東馬文書
大分県史料一三

酒井寺神（カ）傳藤北方臼迫分諸公事調之事、

一所田地四段・畠地壹町、米壹石

納所貳貫文・麥地子壹石五斗・大豆壹石貳斗、毎月加用十五日、陳夫一人たちかへり有、

正月圓鏡壹重・五月竹子一束・八朔小薦一枚・拾貳月つえ木一束・たゝみ一（や脱カ）ちう・納苧貳目

天正十年壬午四月九日

油布新藏人佐
連辰（花押）
阿南典兵衛尉
惟周（花押）

酒井寺神伝藤北方臼迫分諸公事

藤松二郎九
連久（花押）
油布官内丞
惟定（花押）

矢田名内口屋敷ヲ預ク

三五三　一萬田鎭實知行預ケ状

〇一万田文書
大分県史料九

矢田名之内口屋敷壹段、預進之候、可有御知行候、殊蜷尻之事、下作預申候、可被得其意候、恐々謹言、

十二月晦日　　鎭實（一万田）（花押）

（異筆）「天正拾歳」
（一萬田左吉允）
市進殿

親父親孝一跡ヲ安堵ス

三五四　大友義統一跡安堵状

〇志賀文書
熊本県史料中世二

親父民部太（マヽ）輔親孝一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、爲御存知候、恐々謹言、

（天正十一年カ）
九月六日　　義　統（大友）（花押）

志賀太郎（親次）殿

三五五　大友府蘭義鎮書状

○志賀文書
熊本県史料中世二

就太郎(志賀親次)續目之儀、道輝(志賀親守)・親孝(志賀)同前承候之條、至義統令入魂、判形調進之候、爲御存知候、猶重〻可申候、恐〻謹言、

九月十一日(天正十一年カ)　府蘭(大友義鎮)（花押）

志賀民部太輔(親孝)(マヽ)殿
志賀安房(親守)入道殿

太郎続目ニツキ義統ヲシテ判形ヲ調進セシム

三五六　大友義統書状

○森恵長文書
大野郡朝地町大字板井迫

就今度鹽法師母(義乗)祈禱之儀、大恩寺・圓福寺兩法印、別而被勵精誠事、祝着珍重候、從道輝(志賀親守)能〻相心得可被申候、爲御存知候、猶石垣大藏少輔可申候、恐〻謹言、

十月廿三日(天正十一年カ)　義統(大友)（花押）

志賀伊勢入道殿

塩法師母祈禱ニ大恩寺円福寺両法印ノ精誠ヲ励ムヲ賞ス

三五七　大友義統知行預ケ状

〇一万田文書
大分県史料九

軍労ニヨリ筑後国上妻郡内ノ地ヲ預ク

（包紙ウハ書）
「一萬田宮内少輔殿　　義　統」

近年於所〻軍勞之次第、令承知感入候、仍筑後國上妻郡下廣河之内、前津十町、同所之内稻持四町八反分之事、預置候、可有知行候、恐〻謹言、

（天正十三年）
壬八月十日　　義（大友）　統（朱印）

一萬田宮内（市進）少輔殿

豊後南郡衆島津氏ニ降ヲ請フ新納忠元大友義統ノ将入田義実ノ薩軍ニ応ジ緩木城ニ楯籠ルヲ注進ス

三五八　上井覺兼日記

〇上井覚兼日記上
大日本古記録

（天正十三年九月）
一、十六日、〇中略豊州南郡（大野・直入両郡）よりも五六人、阿蘇傳ニ被申上衆有之、〇下略

（十月）
一、十四日、〇中略新納武州（忠元）より昨日書狀到來候、豊後南郡入田方窄〻候て、五六ケ年已前、又大友（義統）殿被召直候、併領知等如本に無之候故、此度此方へ申入、可散意霧企候處、豊後より被取懸候故、ゆる（緩）木と云城取構、入田方一類六千程楯籠之由、坂梨（肥後阿蘇郡）より註進仕由也、一定此儀にて候ハヽ、御發足も可有候、先〻諸方へ、續之義可被觸之旨候て、廻文被認候也、〇下略

（天正十四年二月）
一、五日、〇中略從高知尾（日向国西臼杵郡三田井親武）、甲斐長門入道宗攝處より使書遣候、卽使僧へ見參申候、山臥也、書面

志賀道輝勘気ニテ入田義実ニ一味セント言フ

入田義実ノ使堀某来ル

志賀親孝義統ノ召仕一之対ヲ盗ミ勘気ヲ蒙ル

菅迫ニ籠居シ入田ト一味

豊後国衆ハ区々ニシテ正躰ナシ

豊後国中絵図写ヲ持参

覚兼志賀道益ニ書状ニ遣ス

入田義実・志賀道益起請文ヲ以テ盟約違背ナキヲ誓フ

三田井親武ノ使者志賀道益・入田義実ノ書ヲ持来ル

者、○中略次ニ豊後之志賀道輝（親守）、頃勘氣にて、迦住城遠方へ隱住候、然者入田方（義実）同前にて、無異儀由共也、○下略

一、十六日、○中略入田宗和（義実）より使者、堀名字之方被來候、其案内者ニ、高知尾役人衆より、田那邊主水正被指添候、趣者、志賀道益（親孝）と申ハ、道輝（親守）之息にて候、彼人頃義統被召仕候一之對を盜取、格護被申候、就夫慮外之由候て勘氣候閒、菅迫と云處ニ籠居之躰候、然者入田方と一味之由候、當春中御行於有之者、豊後之事可屬御案利事、程有閒敷由也、不限右之仁、國衆儀（衍カ）ミ區ミ罷成、無正躰之由也、卽使者ニ見參申、御酒寄合候、閑談共也、豊國中繪圖寫被持來、爰彼之爲躰なと、委口能也、拙者書狀道益へ遣候て可然之由、兩使被申候條、卽認遣候也、其趣、雖未申馴候、令啓候、仍去年已來、入田宗和、到當邦被仰合子細共候、然處、頃御一致之段承覃、肝心令存候、各如御存知、豊薩和平之事、京都御媒介（織田信長・近衛前久）故候、然ニ舊冬以降、從大友殿（義統）對當家違目歷然候、殊更、於縣（東臼杵郡）表度ミ執懸被成候、此上者返答之防戰、不可有異議候、其節御入魂所仰候由申候也、○中略入田方使堀方へ、織筋一遣候、○下略

一、廿日（三月）、○中略次ニ一昨日、從高知尾書狀到來候、入田方（義実）・志賀道擇（道益＝親孝ノ誤カ）兩所（親益）之書狀被持せ候、各此方へ無別儀由也、道擇ハ神載にて、高知尾役人衆迄、彌別義有閒敷旨之書狀也、此由態可申候へ共、能仕合之由申候て、中書（島津家久）へ申上候也、

一、廿七日、○中略高知尾より飛脚使僧來候、志賀道擇（道益カ）へ、先日入田傳（義実）ニ書狀遣候、其返書、入田より高知尾迄被遣候を、持來候也、趣者、未通之處、書狀進之候、祝着候、彌入田方へ相談以、御

當家へ別儀有間敷由也、入田殿よりも書狀到來候趣、志賀殿へ之書狀、卽相屆候、其返札被持せ之由也、幷當邦へ別儀於(衍カ)彌有間敷由也、道擇へハ、此方之返札にて候閒、不及申候、入田殿へハ返書申候、有(或)方之返札悃請取候、又ハ向後可申承事、愀易有ましき由共申候也、

三田井親武志賀入田ヲ赴援セントシ上井覺兼ニ番衆派遣ヲ請フ

一、十一(四月)日、○中略鎌(鎌田政近)雲州より使預候趣、從高知尾(三田井親武)書狀、此方江被遣候飛脚足痛候儘、急用にて歟候ハん、持せ預由也、雲州への書狀も、爲披見とてもたせ也、志賀(親益)・入田(義実)御當方へ被申入候事、無紛之故、一國衆同志を以、近ゝ可抽談合相語候、然者、兩所より見次賴之由候、先以高知尾(まカ)にて番衆(御イ)指遣候ハヽ、別而之加勢たるへき由也、卽返書可申候へ共、中書(島津家久)へ卒度得御意、返事可仕候、然者、飛脚其方へ被留候て可然之由、雲州へ申候也、

三田井親武重ネテ番衆派遣ヲ請フ

一、廿二日、○中略佐土原より、高知尾よりの書狀御持せ被成候ハん持(てカ)來候、卽披見候、先日迄註進、去十八日、志賀(親益)・入田(義実)へ、豐衆同意以可取懸儀(ノ儀カ)之候、然者高知尾衆ハ、彼方へ卽刻可馳續候、高知尾へ、此方より番衆可指籠之由也、

○本書直接大野莊ニ關連スルモノニ非ザルモ、志賀氏ノ動向ヲ示ス重要ナル史料ニツキ特ニ掲グ。

三五九　豐臣秀吉直書寫

○志賀文書
熊本県史料中世二

千石秀久等ノ敗戰ニ拘ラズ岡城ヲ堅持セルヲ賞ス

今度千石(秀久)權兵衛尉依不屈動、不慮無是非次第ニ候、然處其城堅固ニ相踏候旨、忠儀神妙候、先勢追ゝ被差遣候、頓而被出御馬、嶋津事、可被刎首之段、不可移時日之條、彌丈夫覺悟專一候也、

（天正十五年）正月三日　（豊臣秀吉）御直判

志賀太郎（親次）とのへ

首可被刎事、

程有閒敷、

岡城ヲ堅持セルヲ賞シ自ラノ出陳ヲ告ゲ守備ヲ固メシム

兵粮玉薬ヲ差籠ムベシ

三六〇　豊臣秀吉朱印状寫

○志賀文書
熊本県史料中世二

態染筆候、其城堅固相抱候段、尤以神妙思食候、今月廿日・廿五日、羽柴（秀長）八郎初爲先勢、追〻被差遣御人數候、殿下（豊臣秀吉）二月末・三月始、至于豊前表可被成御動座事、八幡大菩薩非僞候、今廿日・卅日之□（間カ）、丈夫ニ可相抱候、此刻無二之覺悟、誠忠儀不淺候、彼逆徒等可被刎首事、案之內候、各可被成御褒美候閒、城中之者とも申聞、成勇、彌堅固可相踏候、兵粮玉薬之事、被仰付候閒、定可差籠候、猶追〻可申聞候也、

（天正十五年）正月十七日　（豊臣秀吉）御朱印

志賀太郎（親次）とのへ

三六一　大友義統感状（紙折）

〇田部修蒐集文書
大分県史料一三

今度薩摩之惡黨國中へ令現形、既至庄内亂入候之處、從最前遂籠城、用心方普請等之儀、無緩之由、乍案中感悦候、彌夜白以堪忍、毎事無油斷奉公肝要候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天正十五年）
正月廿八日　　義（大友）統（花押）

一萬田筑前守殿

（折返奥ウハ書）
「一萬田筑前守殿」

薩摩勢荘内乱入ノ際ノ籠城用心方普請等ノ軍労ヲ賞ス

三六二　大友義統感状（紙折）

〇一万田鹿蔵文書
大分県史料九

今度薩摩之惡黨國中へ令現形、既至庄内亂入候之處、從最前遂籠城、用心方普請等之儀、無緩之由候、乍案中感入候、彌夜白以堪忍、毎事無油斷奉公肝要候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天正十五年）
正月廿八日　　義（大友）統（花押）

一萬田新介殿

（折返奥ウハ書）
「一萬田新介殿」

薩摩勢荘内乱入ノ際ノ籠城用心方普請等ノ軍労ヲ賞ス

三六三　豊臣秀吉朱印状寫

○志賀文書
熊本県史料中世二

舊冬十二月、於駄原畑（直入郡）・篠原目、兩度遂一戰、討捕首之注文幷書狀披見候、碎手無比類働、別而感悦之至候、爲御先勢、去月廿五日、羽柴備前少將（宇喜多秀家）打立候、羽柴中納言（秀長）其外追〻被差遣候、殿下來月朔日被御出馬之條、彼逆徒可被刎首事、不可有程候、成其意、卒爾之行等無用候、猶黒田勘解由（孝高）可申候也、

（天正十五年）
二月八日　御朱印（豊臣秀吉）

志賀太郎（親次）とのへ

駄原畑篠原目等ニ於ケル軍功ヲ賞ス
先勢打立ツ
秀吉来月朔日出馬

三六四　羽柴秀長書狀

○志賀文書
熊本県史料中世二

（端裏切封）
「（墨引）」

猶以早速可及行之條、其時可申候、猶藤堂（高虎）申聞候、以上、

書狀今日廿六日ニ、周防於永興寺披見候、誠今度者、以覺悟無比類粉骨、對殿下（豊臣秀吉）樣忠儀不淺候、五・三日中ニ、豊前到小倉、可爲著陣候之間、其內堅固行專用候、關白殿忠節之通、以彌言上可仕候、猶休庵（大友宗麟）江申遣候、謹言、

周防永興寺ニテ書狀披見
豊前小倉到着

（天正十五年）
二月廿六日　　（親次）志賀太郎殿

（包紙ウハ書）「志賀太郎殿　　秀　長」

三六五　豊臣秀吉朱印状（紙折）

○志賀文書
熊本県史料中世二

對木下半介書狀通、於薩州和泉城、聞召候、此表遠路候之條、直ニ日向面へ可罷越候、當口被任御存分候條、頓日州口可被作入相候條、被成御對面、此中忠儀等事、可被成御褒美候也、

（天正十五年）
卯月廿九日　　（豊臣秀吉）（朱印）

（親次）志賀太郎とのへ

（包紙ウハ書）「しか太郎とのへ」

肥後口戰勝ノ旨ヲ告ゲ日向面ニ向フヲ報ズ

豊薩合戰ノ忠勤ヲ賞シ鍛冶屋五反小ヲ預ク

三六六　宗有・統英連署知行預ケ状

○一万田文書
大分県史料九

就今度不慮之弓箭、對宗有親子、別而被添御心候之次第、誠感悦無極候、然者大田之内、鍛冶屋五段小之事、預進之候、當時者、本領等安堵、雖不定之砌候、先以顯志計候、恐々謹言、

（異筆）「天正十五年」
五月十二日　　統　英（花押）

大野荘

宮内入道殿

宗有（花押）

三六七　大友義統宛行知行坪付

○志賀四郎文書
大分県史料一三

（端裏ウハ書）
「志賀湖左衛門尉殿」

（大友義統）
（花押）

坪付

大野庄之内
一所千貫　四ケ村
一所四拾貫　下田北
已上

天正十五年八月十三日

（親次改親善）
志賀湖左衛門尉殿

志賀親善ニ大野荘等千四拾貫ノ知行ヲ与フ

三六八　豊臣秀吉朱印状（折紙）

○志賀文書
熊本県史料中世二

日向巣鷹ヲ進上

去年日向巣鷹令馳走、可致進上爲届、豊後迄上著旨、達上聞候、當年茂母鷹羽うら相見由候、其方

セシヲ賞シ当年モ馳走セシム

相越名次申談、巣鷹見立進上仕候也、喜悦可思召候、猶本田若狭守可申候也、

卯月五日　（豊臣秀吉）（朱印）

（親次改親善）志賀小左衛門尉とのへ

（包紙ウハ書）「志賀小左衛門尉とのへ」

志賀親善ノ懇忠ヲ賞シ恩地賞ヲ預ク

久住名　坂田

入田

三六九　大友吉統知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

先書如申候、今度（志賀）親善無比類懇忠、彌感悦無極候、一稜雖可顯其志候、闕地依無之、先以久住名（直入郡）之内五拾貫分、坂田（同）之内廿七貫分、入田（同）之内廿五貫分之事、預進之候、可有知行候、爲御存知候、恐々謹言、

七月一日　（大友義統）吉　統（花押）

志賀虎左衛門（親善）尉（マヽ）殿

三七〇　天正十六年参宮帳寫

○後藤作四郎文書
大分県史料二五

○上略

天正十九年卯月十四日

豊後北浦邊國東郡田村庄永松（ながまつ）内藏頭殿　四人

同新衛門殿

同大分郡（おいたのかう）　賀來（かくの）之庄　賀來形（ママ）部大輔殿一人
同大野郡　藤北村　阿南（あなミ）善左衛門殿一人
同天邊（あまへのかう）郡　佐賀　上野　成新殿　二人
同北浦邊いミの庄善三郎殿一人

○下略

大野郡藤北村ノ阿南善左衛門参宮ス

三七一　大友吉統條々事書

○大友文書
大分県史料二六

條々

一、禁中御事、倍、可有崇敬事、

付、昇　殿、當家覺之條、以時分、可被上位事、

一、關白（秀吉）樣　御厚恩之次第、永々、不可有忘却事、

付、京家之調、可相屆行、可爲國家長久之基事、

一、賀來社（祚原八幡）、無怠慢、可被加修理事、

付、關宮造營、雖心懸、近年、不得寸隙、押移之條、義述（大友）可有歳覺事、

賀来社修理

關宮造営

万寿寺ヲ再興

一、依弓箭、諸寺家破却、非本意、然者、蔣山（万寿寺）、付遣相應之領地、以再興、立能直（大友）之牌、其外、可被相定先祖之菩提所事、

国中諸侍ヲ鶴崎ニ移ス

藏納所ニ国東郷配当スルヲ停止ス

南郡衆欠退跡目入田宗和

宿老・聞次・飯番・右筆

文書・日記・太刀

一、國中諸侍、爲可召置一所、既到津留(鶴崎)崎、罷移上者、普譜等、彌可被申付事、

一、當時京都爲賂、各領地借置事、誠心外、以外、以時分、代所可遣事、

付、藏納所、同國東郷配當、堅可有停止之事、

一、諸沙汰、雜務以下、如先例、宿老之扱勿論、以好緣者、雖企內訴、不可有許容事、

一、以關懸、短慮之出言、可爲永代之嘲事、

付、賞罰之二、能々可有分別事、

一、南郡(大野・直入)國之者、闕退之跡目、到當忠之衆、充行訖、仍不忠之子孫、就中、日田親永、田原宗龜(親宏)、入田宗和(義実)、一筋目、永不可育置事、

一、到隣國衆中、不可有隔心事、

一、宿老、聞次、飯番、右筆、其外諸役者、義述以分別、可被申付事、

付、集會等、依不同、調延引之條、向後者、加判衆、聞次、多人數不可然事、

一、於侍者、鄉庄、雖爲無足之者、無差別、可被加憐愍事、

付、數代之侍、於無器量者、不可有加恩、但奉公之摸者、無相違、可被申付事、

一、文書、日記、幷重代之太刀、刀以下、堅固、可有格護事、

付、幡、同竿、可誘置事、

一、從往古、雖爲國之衆、近邊江移妻子、可有馳走之段、申之條、況近習通之衆、可准國之者之由、企所望共、不可有同心事、

奉公衆
国中批判
酒ヲ慎ムベシ
宥朝逆修ノタメ円形碑ヲ建ツ

一、或新參、或雖爲無故人、令奉公、於正路之心底顯然者、似合之役等被申付、可召仕事、
一、他郡之趣、殊國中批判等、湛々被立聞、可有得心、於公事題目者、何ケ度茂、被比(マヽ)申表、無後悔、可有成敗事、
一、召仕女衆、法式之儀不新、自然於犯用之輩者、男女共、可被處嚴科事、
一、於武邊者、不及稽(マヽ)古儀、弓馬之道、心懸不可有緩、殊諸藝連々、可被嗜事、
一、吉統愛酒、後悔深重、於義述者、下戸一篇可然、雖然、公儀遊慰之砌者、可有會釋事、
一、當家立柄、代々之置書、歷々在之條、可被守其旨事、
一、近年之置目、被得其意、於背政道者、雖爲懸目人、可有其沙汰事、
付、何篇油斷故、每々惡逆出來、自他以不珍之條、可被得其意之事、
以上

天正廿年二月十一日　　吉統(大友義統)（花押）
義述(大友)〔參〕まいる

○〔　〕内ハ『増補訂正編年大友史料』二八ニヨリ注ス。

三七三　市萬田和田大日堂大日種子圓形碑銘

○大分の石造美術
大野郡朝地町大字市萬田字和田

文祿四乙未年卯月十五日

「（梵字（バン））」

權大僧都法印宥朝和尚逆修、

三七三　大友中庵吉統感狀

〇一万田文書
大分県史料九

今度宗像掃部助爲使罷下、凌遠國辛勞之段、感心無極候、此節如此馳走之次第、以來不可有失念候、此由、到掃部助父子茂申遣候、爲存知候、恐々謹言、

卯月廿二日　　中庵（大友吉統）（花押）

一萬田茂介殿

（附箋）「中庵公ハ（カ）大友宗麟公代」

三七四　豊臣秀吉朱印狀（紙折）

〇志賀文書
熊本県史料中世二

遠国マデ送ルヲ謝ス

豊後國以日田郡（大肥）太井庄内、千石令扶助畢、可全領知候也、

文祿五年　三月十一日　（豊臣秀吉）（朱印）

志賀小左衛門（親善）殿

（包紙ウハ書）「志賀□」

日田郡大肥荘内千石ヲ宛行フ

三七五　大友氏段銭・准田段銭催促奉書書札禮

○当家筆法之抄条々
増補訂正編年大友史料三一

五三郷庄御段銭・御准田銭御催促奉書、八月一日の日付ニ、御嘉例ニ公文所にて御右筆衆、何茂罷出調申、宿老へ公文所持參候て、判形被申請、方々へ被付候、奉書紙ニ書申候、

當庄御准田銭、一反別何十文通之事、如例年當毛加點札、寺社諸給人、不云古今免許、稠（キビシク）以催促、來十月中可被遂勘定之由、被仰出候、被得其意、聊不可有緩之儀候、恐々、八月一日、緒方庄政所殿、宿老いくたりも候へ連署、

右員數之事、緒方庄御准田銭一反別七十文通、政所へ連署、荏隈郷准田九十文通檢使連署　丹生庄同七十文通政所へ、　大野庄同七十文通　檢使へ、　都甲庄同五十文通　檢使へ、　直入郷同七十文通　政所へ、　笠和郷同八十文通　檢使へ、　三重郷御反銭五十文通　兩政所へ、　宇目村御反銭百文通　政所へ、　山香郷御准田銭七十文通幷一揆錢　兩政所へ、　臼杵庄幷津久見村御准田銭七十文通　檢使へ、　是ハ政所以調進納候ハ、　政所へ連署被遣候、　檢使にて調候ハ、檢使被着郡候之間、檢使何かしと宛候、檢使ハ兩人にて候、仕付たる衆、をよそさたまり申候、

奉書ノ書キ様

緒方荘政所

荏隈郷　丹生荘
大野荘　都甲荘
直入郷
笠和郷　三重郷
宇目村
山香郷　臼杵荘
津久見村

三七六　中川秀成知行方目録案

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

（表紙）「豊後國之内　御知行目録　中川（秀成）修理亮」

御知行方目錄

一五千四百八拾三石貳斗三升　豊後國直入郡　朽網郷
一五百貳拾四石四斗九升　同　和泉郷
一千五百貳拾四石壹斗四升　同　木原郷
一九百七拾壹石四斗六升　同　三宅之郷
一六百六拾五石四斗五升　同　長田之郷
一百四拾七石六斗　直入郡　逸物郷
一參百六拾三石五斗三升　同　（志土知）しとち郷
一千八百九拾七石壹斗八升　同　ゑなか郷
一貳百六拾九石貳斗　同　（添毛津留）すいかつる郷
一千百四拾石九斗壹升　同　（白丹）しらにの郷

大野荘

一五百五拾壹石貳升　同　（禰疑）ねき野郷
一千四百六拾四石四斗五升　同　中尾郷
一五百五拾六石五斗四升　同　松本之郷
一參百貳拾四石貳升　同　岩瀬村
一七百六拾石六斗　同　はに田之郷
一千拾七石壹斗五升　同　飛田之郷
一四百五拾石七斗三升　同　竹田町
一貳百拾四石貳斗八升　直入郡　拜田原郷
一千參拾六石九斗五升　同　吉田之郷
一七百參拾九石四斗六升　同　矢藏之郷
一五百參拾九石六斗四升　同　大田之郷
一千六拾參石壹斗五升　同　門田の郷
一參百四拾五石貳斗四升　同　（田井）たいの郷
一參百七拾八石八斗貳升　同　折原之郷
一四百六拾八石三斗貳升　同　野方郷
一九百參拾四石八斗三升　同　九重郷
一千八百七拾貳石六斗壹升　同　柏原郷

一千四拾石七斗九升　同　松本郷
一千八百五拾石壹斗六升　同　葎原郷
一參百八拾壹石五斗三升　直入田北之内　今市村
一四千百四拾石六斗貳合　大野郡　宇目郷
一千八百五拾四石四斗貳升　同　（宇田）うた枝名
一千九拾石九斗九升六合　同　目のをた
一千八百四拾六石五斗　同　小川名
一九百參拾三石六斗二合　同　（をかた）をつ郷
一四百七拾七石八斗六升　同　かたかせ村
一參千九百貳拾七石六斗一升　同　川東名
一參千九拾九石四斗三升八合　同　自在名
一四百九拾壹石四斗八升　同　（方）大かた名（通）とをり山郷
一五百九拾壹石八斗六升四合　同　（耳志野）みゝしの名
一五百七拾七石六斗九升三合　同　（奥）おく畑高寺　板屋村
一四百七石五斗六升七合　大野郡　犬山名
一參百九拾壹石貳斗壹升　同　（夏足）なたせ村
一貳千四百九拾五石七斗九升　同　一万田郷

一貳百九拾貳石壹斗二升一合　同　宮崎名
一千百貳拾貳石壹斗九升五合　同　（酒井寺）さかいし村
一貳千百九拾貳石三斗八升　同　平井郷
一六百參拾七石四斗三升　同　（泉）いつミ郷
一七百六拾七石四斗八升　同　（阿志野）あしの郷
一四百拾五石四斗三升　同　（保多）ほた田村
一參百拾貳石七斗六升六合　同　かちまた村
一五百貳拾五石七斗四升九合　同　大里名
一八百貳拾六石四斗九升五合　同　菅田村
一參千貳百貳拾五石五斗九升三合　大野　井（田）た村
一貳百貳拾四石六斗三合　同　高むれ郷
一參千八百九石七斗四升八合　同　藤北名
一百五石　大分郡　今鶴村
外三百五拾九石貳斗二升　地震くづれ
一貳百參拾八石九斗内　拾八石七斗九升四合　同　花鶴村一圓　中鶴村内　萩原村
外六百五石三斗五升　同
合六万六千石者、

右、如本知被進之候、御仕置等可被仰付候、重而　御朱印申請可進之候、以上、

慶長六年
四月十六日

加藤喜左衛門　正次在判
大久保十兵衛　長成(安)か在判
彦坂小刑部　元正在判
片桐市正　且元在判

中川修理亮(秀成)殿　参

付墨九枚

三七七　福島正則知行宛行状（折紙）

○志賀文書
熊本県史料中世二

相渡知行方之事、都合千石餘遣之畢、全可令領知者也、仍如件、

慶長六年
十一月七日　　左衛門大夫（福島正則）（花押）

志賀小左衛門（親善）殿

福島正則志賀親善ニ千石ヲ宛行フ

三七八　福島正則宛行知行方目録

○志賀文書
熊本県史料中世二

安藝・備後之内を以遣知行方目錄之事、

備後国奴可（ぬか）郡

一、高四百貳拾壹石七斗貳升　しほはら村
　物成百六拾八石六斗八升七合

安芸国豊田（とよた）郡

一、高四百五拾八石五斗八升　上北かた村之内
　物成貳百八拾四石七斗七升八合

奴可（ぬか）郡

一、高百貳拾參石五斗四升　こくし村
　物成五拾五石五斗九升一合

物成合五百九石五升六合

慶長六年

十一月七日　　（福島正則）左衛門大夫（花押）

志賀小左衛門（親善）尉殿

小早川秀詮九百五十石ヲ志賀親善ニ宛行フ

三七九　小早川秀詮宛行知行方目錄

○志賀文書
熊本県史料中世二

知行方目錄

一、貳百四拾三石六斗貳升　美作久米北條郡福田村之内

一、四百貳拾石　同郡山手村之内

一、百四拾石　備前赤坂郡東中村之内

一、百四拾六石三斗八升　同和氣郡三石村之内

合九百五拾石

右、令扶助訖、全可領知者也、

慶長七年

九月三日　　（小早川）秀詮（藍印）

大野荘

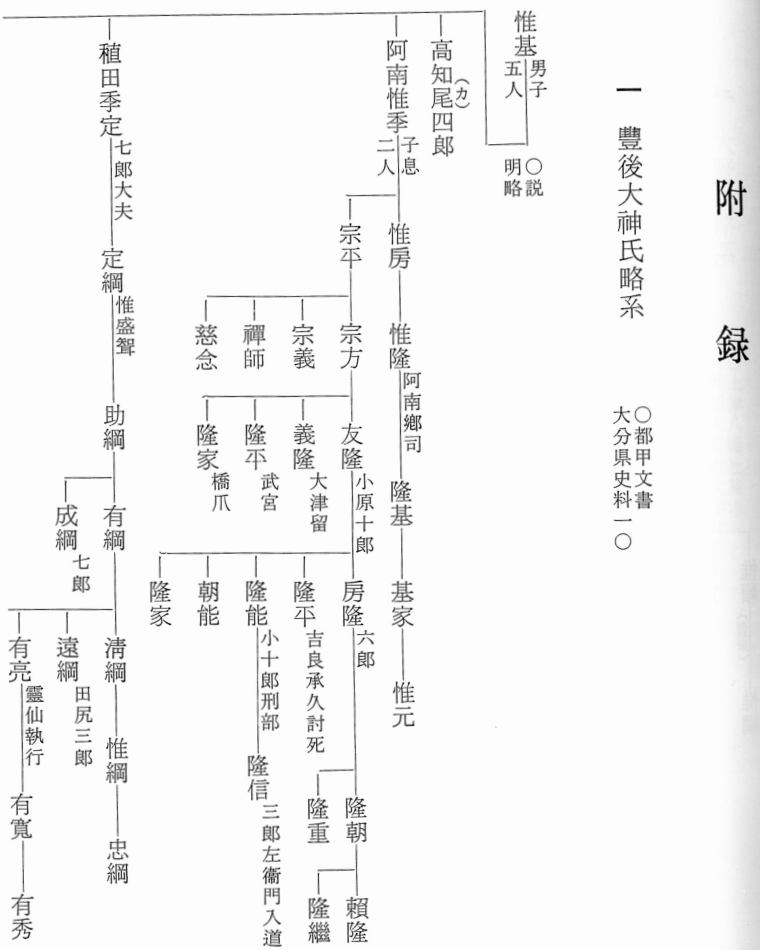
大野荘

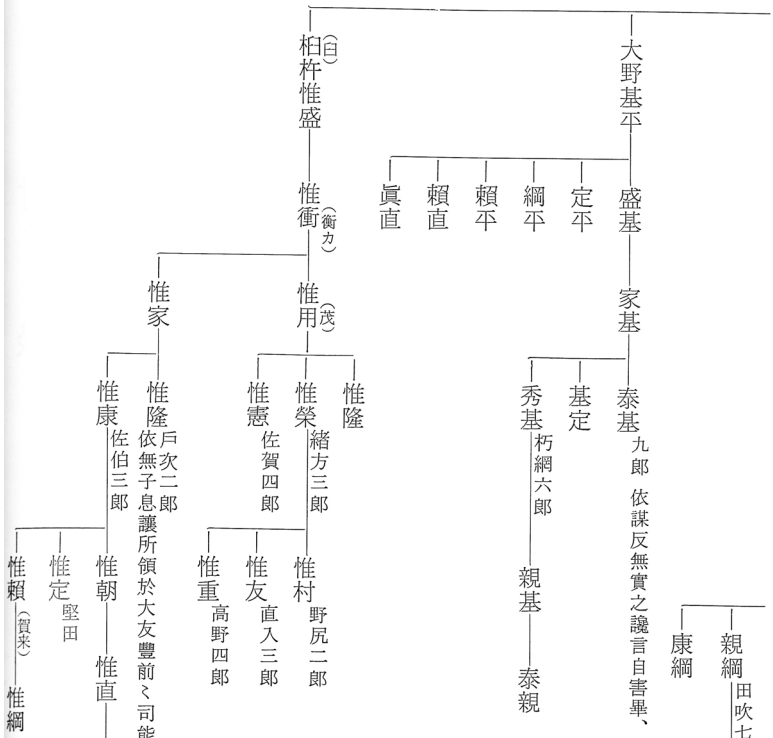
志賀小左衛門尉(親善)とのへ

附録

一　豊後大神氏略系

○都甲文書
大分県史料一〇




大野基平
盛基
家基
泰基 九郎 依謀反無實之讒言自害畢、
基定
秀基 朽網六郎
親基
泰親
定平
綱平
賴平
賴直
眞直
柏杵(目)惟盛
惟衡(衡カ)
惟用(茂)
惟隆
惟榮 緒方三郎
惟村 野尻二郎
惟友 直入三郎
惟重 高野四郎
惟憲 佐賀四郎
惟家
惟隆 戸次二郎 依無子息譲所領於大友豊前ゝ司能直畢、
惟康 佐伯三郎
惟朝
惟直
惟久
惟定 堅田
惟賴(賀来)
惟綱
康綱
親綱 田吹七郎
諸綱
重綱

○関係部分ノミヲ抄出ス。

二　大野氏略系

○上津八幡社蔵本
大野郡大野町大字片島

惟基
- 榮基（八男）
  - 盛基　次郎
    - 家基
      - 泰基　九郎　神角寺有墓所
        - 能基
        - 泰定
        - 秀基
        - 親基　朽網次郎左衛門尉
          - 基泰
      - 基定　稱基尚、承元六年卯（マヽ）月五日大友能直公大野八幡宮御參詣、任先例大宮司職可相續旨有上意、而卽賜一字改直基、
        - 秀基
          - 保基　丹後守
            - 時基　肥前守
              - 親基　加賀守
                - 宗基
      - 賢基　大膳亮
        - 勅基（マヽ）　左京進
          - 基繼　長門守
            - 貞基
              - 著基　號左衛門尉、宇佐氏公宗之子而貞基之養子也、
                - 尙基　右京進
                - 繩基
                - 隆基
      - 繁基
        - 親基
          - 右基
            - 治基
              - 長基
                - 鑑基
                - 鎭基　大野石見守
                - 統基
                - 延基
      - 公基　號三代鶴若丸、吉田官ニ成改主計頭、地頭庄屋之時號三代加兵衛尉、妻矢田組九內娘、寬文十庚戌年五月廿三日七十才卒、
        - 大野與左衛門　妻ハ公基ノ娘也、

三　大友志賀系圖（抄）

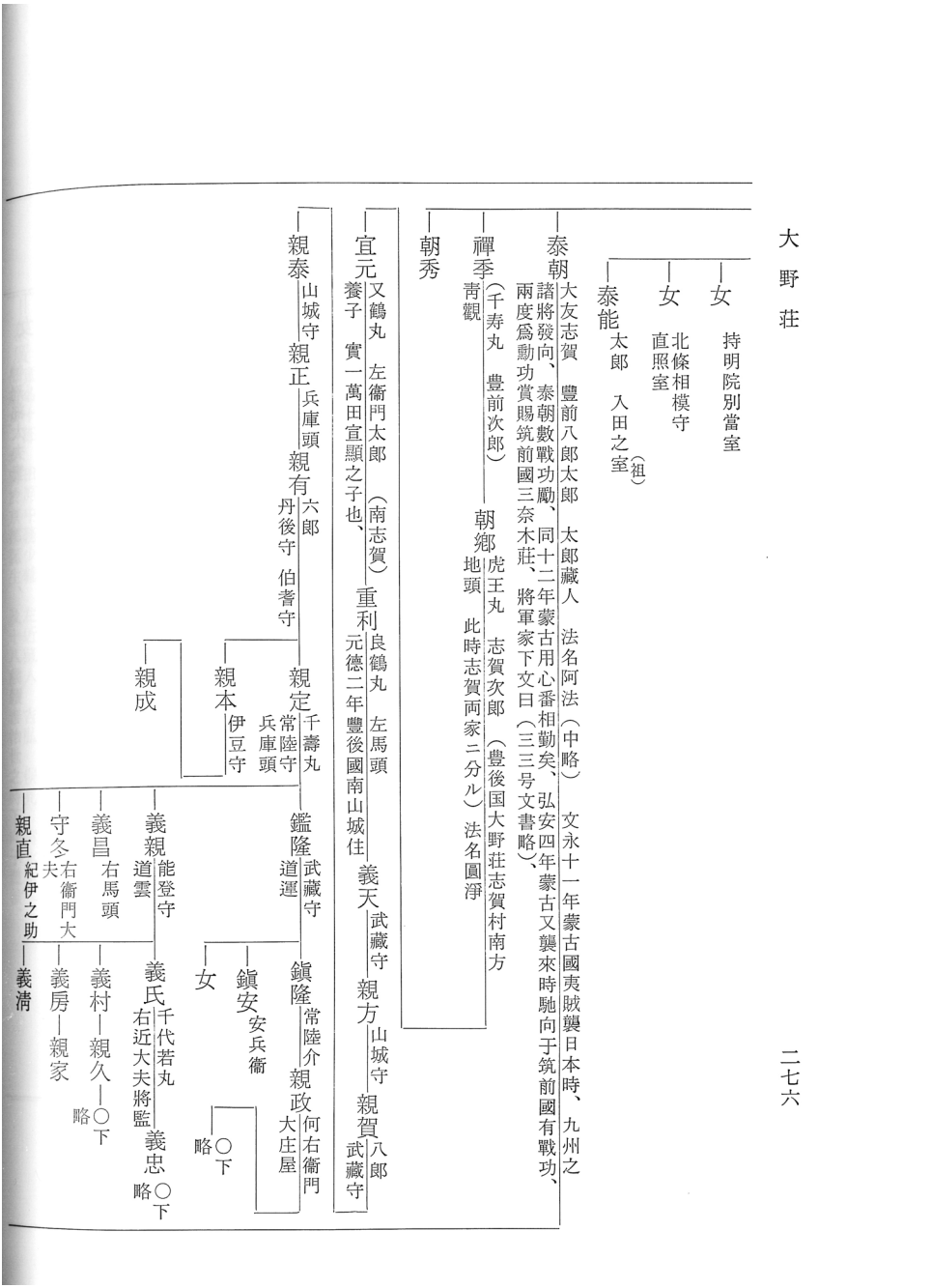
○熊本市志賀連文書
東京大学史料編纂所謄写本

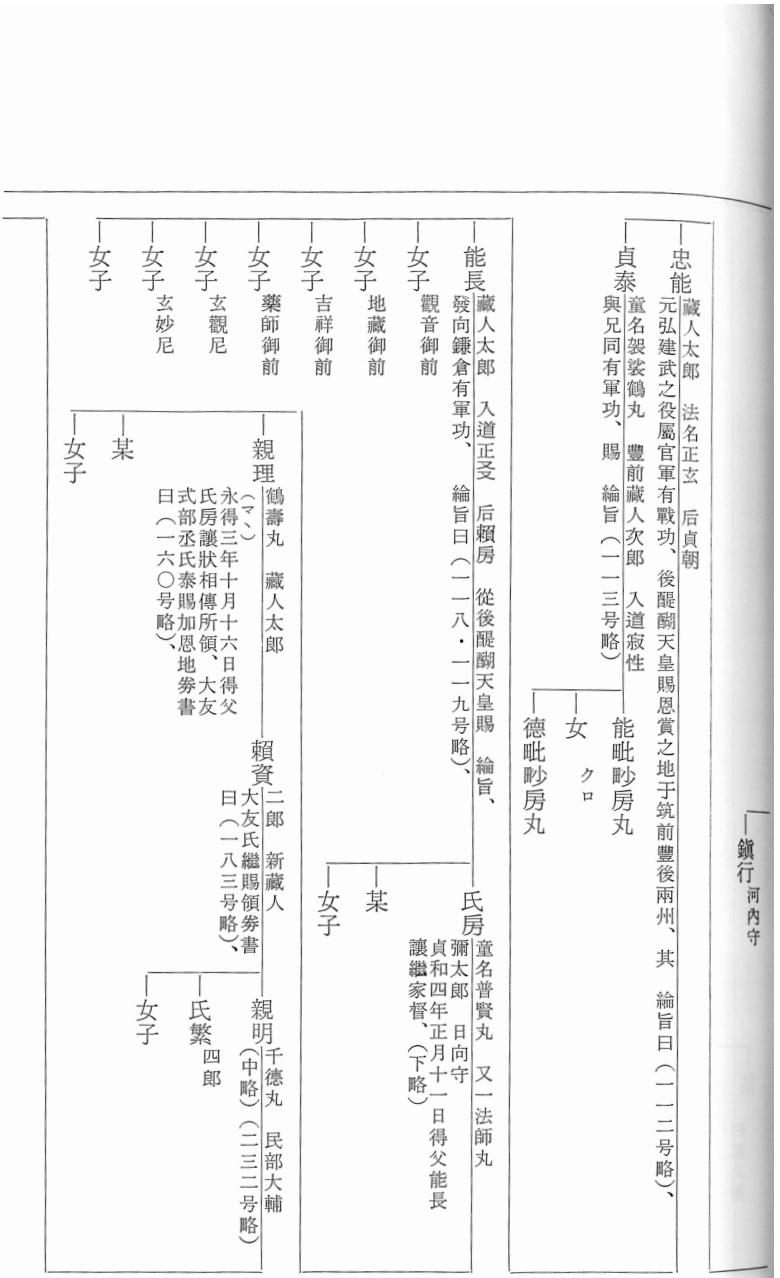
能直
- 親秀　宇利根次郎　大炊助　豊後守　藤原朝臣　從五位下
  母畠山四郎入道女　風早禪尼深妙
  - 能秀　詫磨別當　肥後守　母親秀同、
    詫磨　板井迫　平井　扇等ノ祖
    - 時直　帶刀左衞門尉　母親秀同　久保　德永祖
      - 有直　四郎　母白拍子　筑後元吉祖
        - 親直　五郎　左近將監
          - 時景　一萬田太郎　兵衞尉　后景直　大和守　爲豊前國城
            井大和壹岐前司景房養子　住于豊後大野郡鳥屋城、
          - 禪能　山僧少輔
          - 秀直　鷹尾七郎　遁世入道號三寶房
          - 能郷　宇二王丸　大友志賀　豊前八郎　法名信寂
            志賀大祖　母親秀同、
            貞應二年十一月二日從大友能直朝臣、賜分所領、豊後國築岡城居之、是以初
            而志賀家造立矣、其分知證書曰、（一四号・一九号文書略、但抄文、）
          - 朝直　又次郎　早世
            母親秀同、
          - 能職　（基）九郎入道　豊前ゝ司　筑井左衞門養子
            - 泰廣　童名十郎　田原中務少輔　左近藏人　田原　生石　田口
              母遊女　泰廣於京都誕生、及十八歳賴泰治世之時下向于豊後、　吉弘　俣見　富永祖

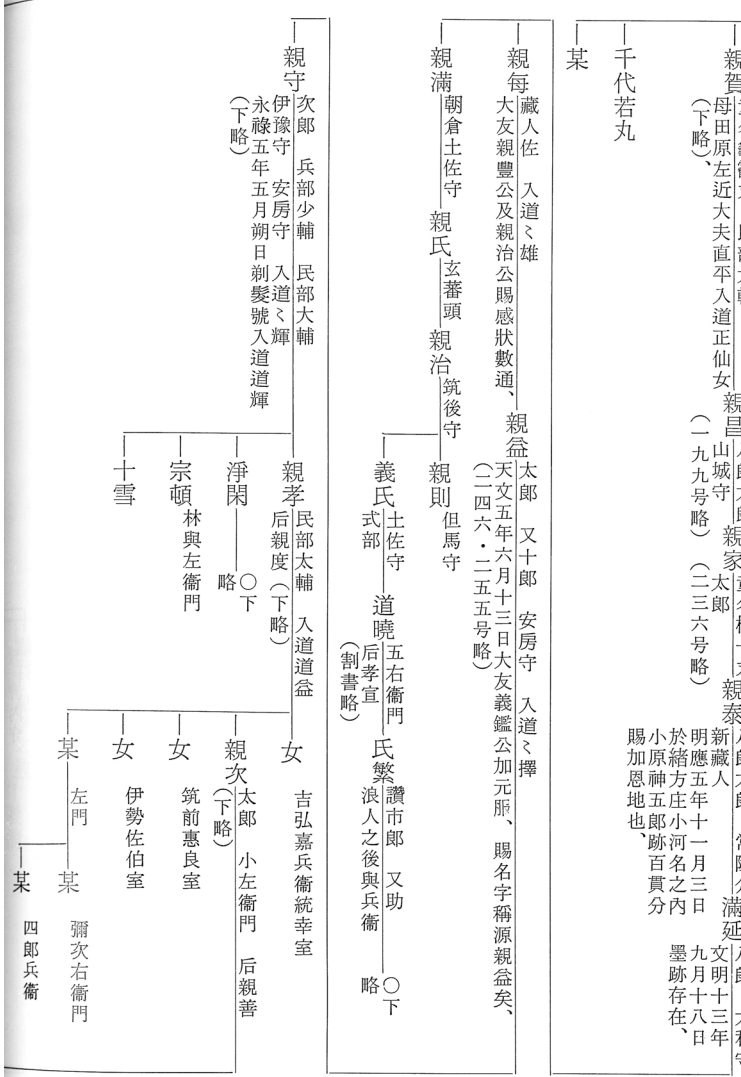
女 善刑部太夫妻
女 名越越後守室
女 将軍御所 玖珠女房 山上中將貞親室

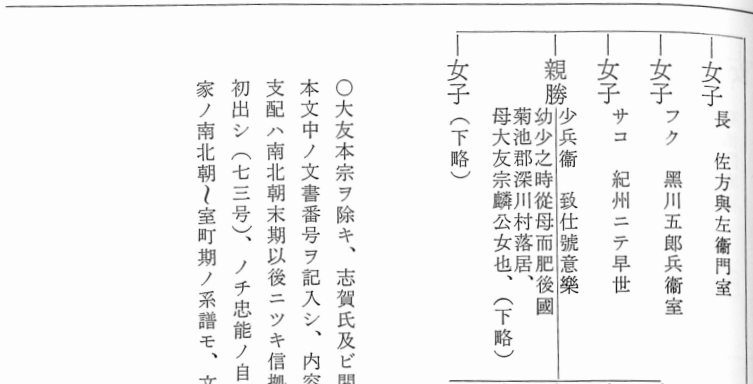
頼泰 童名藥師丸 従五位（下） 大炊助 式部大輔 丹後守 出羽守 兵庫頭
- 重秀 戸次二郎 左衛門尉
- 能泰 野津原三郎 藏人修理亮
- 直重 挾閑大炊四郎
- 頼宗 野津五郎
- 親重 大炊六郎 木付祖
- 親泰 田北兵衛
- 良慶 權僧都
- 親盛 九郎
  - 女 （後脱）嵯峨法皇后（齋宮母）
  - 女 伯殿幷中將二人母

親時 左近將監 藏人 因幡守 従五位下
- 貞親 従四位上 新藏人 左近將監 刑部少輔 出羽守
- 秀直 入田兵庫助
- 貞宗 近江守 法名具簡
- 師親 近江藏人
- 女 嶋津上總介貞久室
- 女
  - 季貞 千熊丸 出羽次郎
    - 宗雄 愛壽丸 孫次郎
      - 宗房 千壽丸 孫三郎


女　持明院別當室
女　北條相模守　直照室
泰能太郎　入田之室（祖）
泰朝大友志賀　豊前八郎太郎　太郎藏人　法名阿法（中略）　文永十一年蒙古國夷賊襲日本時、九州之諸將發向、泰朝數戰功勵、同十二年蒙古用心番相勤矣、弘安四年蒙古又襲來時馳向于筑前國有戰功、兩度爲勳功賞賜筑前國三奈木荘、將軍家下文曰（三三号文書略）、
禪季（千寿丸　豊前次郎）　青觀
朝秀
朝郷虎王丸　志賀次郎　（豊後国大野荘志賀村南方地頭　此時志賀両家ニ分ル）　法名圓淨
宜元又鶴丸　左衛門太郎　（南志賀）　養子　實一萬田宣顯之子也、
重利良鶴丸　左馬頭　元徳二年豊後國南山城住
義天武藏守
親方山城守
親賀八郎　武藏守
親泰山城守
親正兵庫頭
親有六郎　丹後守　伯耆守
親定千壽丸　常陸守　兵庫頭
親本伊豆守
親成
義親能登守　道雲
義昌右馬頭
義村—親久—〇下略
守冬右衛門大夫
義房—親家
義氏千代若丸　右近大夫將監
義忠〇下略
鑑隆武藏守　道運
鎭隆常陸介
親政何右衛門大庄屋
鎭安安兵衛
女
〇下略
親直紀伊之助—義清


忠能　藏人太郎　法名正玄　后貞朝
元弘建武之役屬官軍有戰功、後醍醐天皇賜恩賞之地于筑前豐後兩州、其　綸旨曰（一一二号略）、
貞泰　童名袈裟鶴丸　豐前藏人次郎　入道寂性
與兄同有軍功、賜　綸旨（一一三号略）
能毗畔房丸
女　クロ
德毗畔房丸
能長　藏人太郎　入道正爻　后賴房　從後醍醐天皇賜　綸旨、
發向鎌倉有軍功、　綸旨曰（一一八・一一九号略）、
氏房　童名普賢丸　又一法師丸
彌太郎　日向守
貞和四年正月十一日得父能長
讓繼家督、（下略）
某
女子
女子　觀音御前
女子　地藏御前
女子　吉祥御前
女子　藥師御前
女子　玄觀尼
女子　玄妙尼
女子
親理　鶴壽丸　藏人太郎
賴資　二郎　新藏人
大友氏繼賜領券書曰（一八三号略）、
永得三年（マヽ）十月十六日得父氏房讓狀相傳所領、大友式部丞氏泰賜加恩地券書曰（一六〇号略）、
親明　千德丸　民部大輔
（中略）（二三二号略）
氏繁　四郎
女子
某
女子

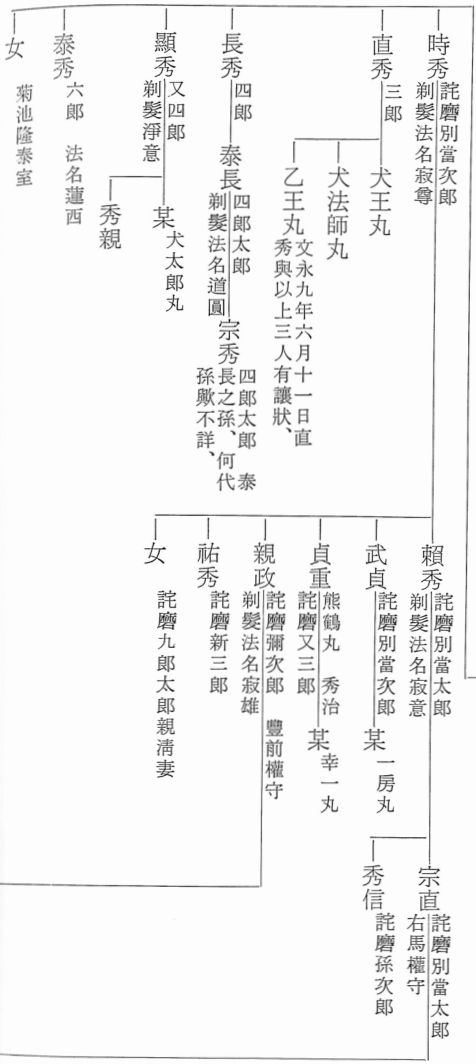

親賀 童名龜鬘丸 民部大輔
母田原左近大夫直平入道正仙女
（下略）、
親昌 八郎太郎 山城守 （一九九号略）
親家 童名松一丸 太郎 （二三六号略）
親泰 八郎太郎 常陸介 満延 八郎 大和守
新藏人 文明十三年 九月十八日 墨跡存在、
明應五年十一月三日 於緒方庄小河名之内 小原神五郎跡百貫分 賜加恩地也、
千代若丸
某
親每 藏人佐 入道ㇾ雄
大友親豊公及親治公賜感狀數通、
親益 太郎 又十郎 安房守 入道ㇾ擇
天文五年六月十三日大友義鑑公加元服、賜名字稱源親益矣、
（二四六・二五五号略）
親滿 朝倉土佐守
親氏 玄蕃頭
親治 筑後守
親則 但馬守
義氏 土佐守 式部
道曉 五右衛門 后孝宣 （割書略）
氏繁 讚市郎 又助 浪人之後與兵衛 ―〇下略
親守 次郎 兵部少輔 民部大輔
伊豫守 安房守 入道ㇾ輝
永祿五年五月朔日剃髮號入道道輝
（下略）
親孝 民部太輔 入道道益 后親度（下略）
淨閑 ―〇下略
宗頓 林與左衛門
十雪
女 吉弘嘉兵衛統幸室
親次 太郎 小左衛門 后親善 （下略）
女 筑前惠良室
女 伊勢佐伯室
某 左門 某 彌次右衛門
某 四郎兵衛

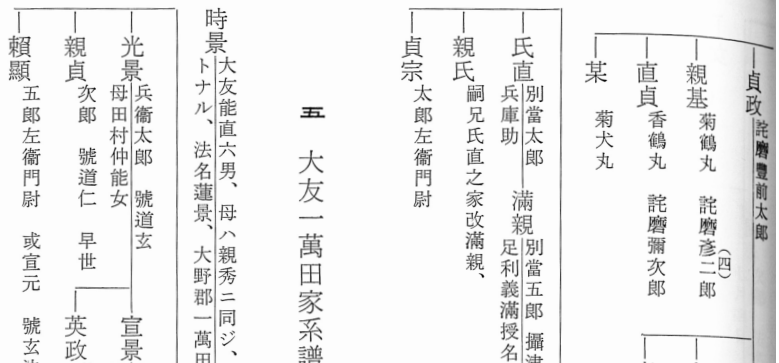


○大友本宗ヲ除キ、志賀氏及ビ関係部分ノミヲ抄出シ、割書事蹟ハ率ネ省略ス。系図中ニ引写セル文書ハ、本文中ノ文書番号ヲ記入シ、内容ヲ省略セリ。本系図中、初代能郷ガ岡城ヲ築キテ居ルトスルハ、直入郷ノ支配ハ南北朝末期以後ニツキ信拠ノ限リニ非ズ。志賀忠能ノ割書ニ「后貞朝」トアルハ、古文書ニハ貞朝ガ初出シ（七三号）、ノチ忠能ノ自署見ユル事実ニヨレバ（一一二・一一五号）、逆ノ関係トナル。又志賀惣領家ノ南北朝～室町期ノ系譜モ、文書ト合致セザル所アリ。検討ヲ要スル所多キモ参考ノタメ掲グ。

四　大友詫磨氏系圖

○新撰事蹟通考本
增補訂正編年大友史料三二

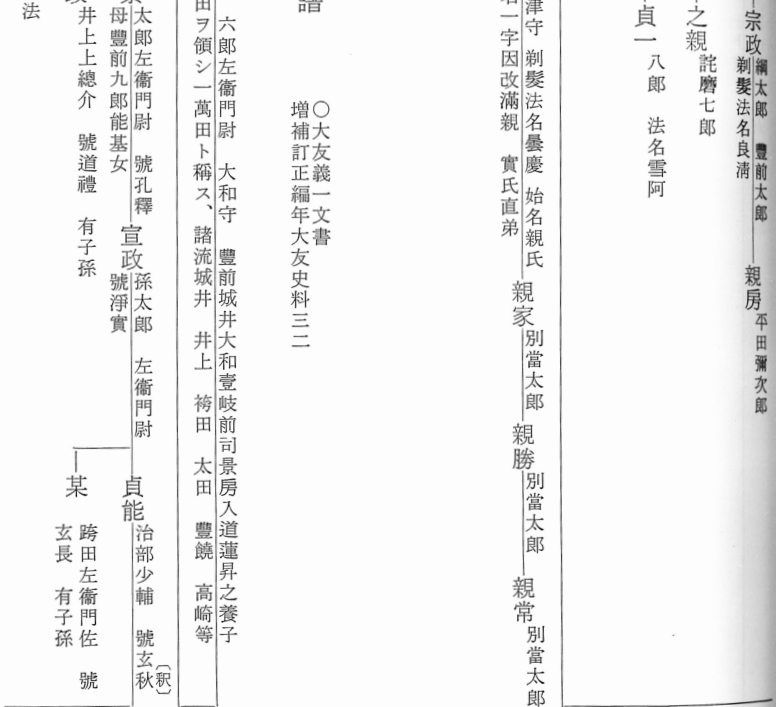


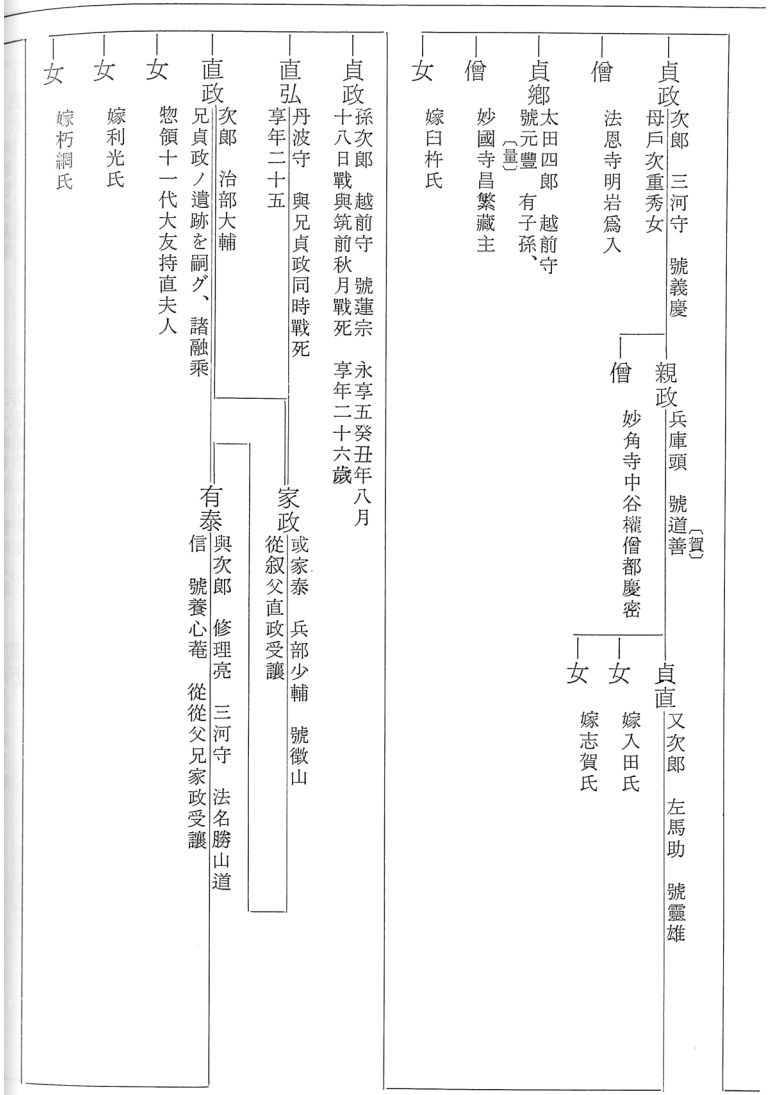


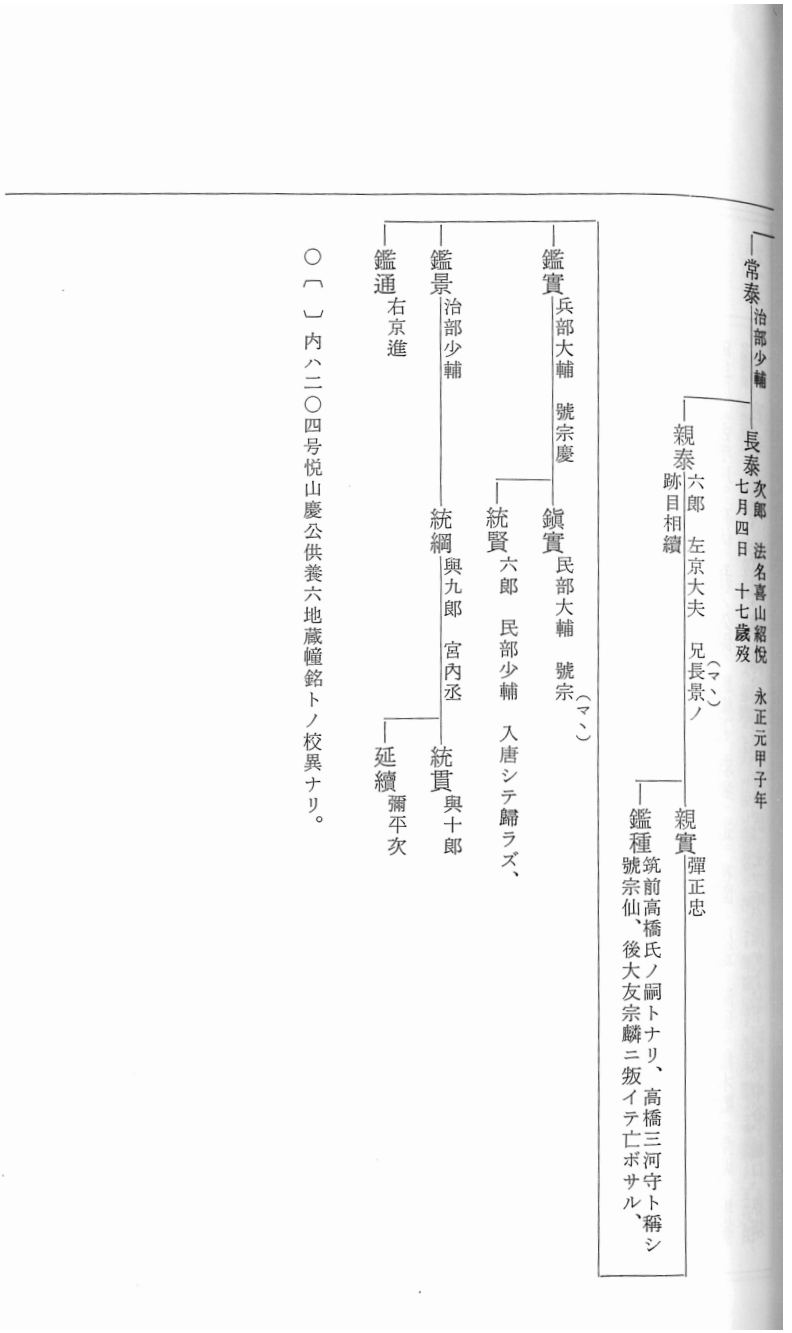
五　大友一萬田家系譜

○大友義一文書
増補訂正編年大友史料三二

時景 大友能直六男、母ハ親秀ニ同ジ、六郎左衛門尉 大和守 豐前城井大和壹岐前司景房入道蓮昇之養子トナル、法名蓮景、大野郡一萬田ヲ領シ一萬田ト稱ス、諸流城井 井上 袴田 太田 豐饒 高崎等




貞政 次郎 三河守 號義慶
母戸次重秀女
僧 法恩寺明岩爲入
貞郷 太田四郎 越前守
號元豊 有子孫、
〔量〕
僧 妙國寺昌繁藏主
女 嫁臼杵氏
僧 妙角寺中谷權僧都慶密
親政 兵庫頭 號道善〔賀〕
女 嫁入田氏
女 嫁志賀氏
貞直 又次郎 左馬助 號靈雄
貞政 孫次郎 越前守 號蓮宗 永享五癸丑年八月十八日戰與筑前秋月戰死 享年二十六歲
直弘 丹波守 與兄貞政同時戰死 享年二十五
家政 或家泰 兵部少輔 號徹山 從叙父直政受讓
直政 次郎 治部大輔 兄貞政ノ遺跡ヲ嗣グ、諸融乘 惣領十一代大友持直夫人
有泰 與次郎 修理亮 三河守 法名勝山道信 號養心菴 從父兄家政受讓
女 嫁利光氏
女 嫁朽網氏
女



○〔 〕内ハ二〇四号悦山慶公供養六地蔵幢銘トノ校異ナリ。

六　大野郡朝地町・大野町大字・小字一覧表

朝地町

大字	小字
朝地	井の頭、鳥越、古家、清目、三反田、柳井原、寺田、和原、出ル羽、大園、大又、吐合、仲井迫、庄田、長谷、
坪泉	長久保、栗木、正原、草木、正田、小井手、東、大西、
板井迫	萩迫、真竹、妙見、毛後屋、名免利、尾平、台、大戸、石田、蔵元、椋ノ木、永リ田、早尾、小平田、
池田	谷ノ久保、七崩、館、井ノ上、小ノ迫、瀬口、向瀬口、古殿、馬場、真光院、サヤノ木、高野ケ鶴、池在、田尾崎、的井、城之久保、一ノ谷、斑台、石ケ原、古畑、若林、葛手、深町、田村、田ノ平、渡来、
市萬田	明園、尾峯、官迫、袴田、高畑、小畑、小群、尾平、松平、斑瀬、古市、市、城、滝ノ上、畏原、和田鶴、西平、和田、宮迫久保、広瀬、堀田、桐木、大坪、
下野	狐迫、姉井迫、東、下牛ケ迫、井上久保、平井、峯元、日掛、本田、三反田、前、胡麻町、登迫、田良原、古手川、高伏、井ノ久保、馬場下、羽妻、迫、花園、灰迫、津留、榎木町、桑原、堀家、広岡、宮ノ下、久保、一町田、歳ノ神、生木原、井ノ尻、七ツ毛、滝ケ下、下河原、中谷、樋口、界畑、

上尾塚

蝙蝠、津淵、向野、大久保、平原、郷鳴、井ノ向、別辻、清水、早原、牛ケ城、立野、二反田、鮫木、奥畑、十分、上津留、藤原、簾、宇土、西ノ谷、雨堤、山口平、長迫、上ノ久保、大形、瑞光、普光寺、下ケ城、榎鶴、山ノ谷、風呂ノ前、下初久、竜飼、小田ケ鶴、小野山、上小野、下小野、小野田、瀬ノ口、鳥甲、河平、穴田、須九郎地、廻ス、土取、平蔵ケ迫、高城、場口、堤谷、毛不谷、福市坊、山ノ内、田々良、銭盞、丸尾、高尾山、塩岩、柚ノ木、庵ノ前、通り山、菖蒲ケ迫、下地獄、上地獄、畑、内ケ畑、神ノ久保、下用作、上用作、上瀬子、向瀬子、高尾田、園田、瀬子、田尾、尾森、三本松、市ケ原、大塚、坪池、小西、萱原、鏡田、芥、赤嶽、庫田、野仲、丸山、平田、日向、萱久保、広瀬、仲江、

志賀

妙見、桑迫、廻ス、後口、八原、村崎、仲野尾、上ノ段、小仲尾、池ノ元、大坪、前田、志賀、水上、栗木、田水上、宇筒、黒土甲、仁田野、永泉寺、笹川、堀手、高尾、菅、戸ノ元、桐木、甲、

（以下十二小字、昭和三十一年二月一日緒方町ニ編入）

小迫、中津留、野中田、灰迫、宇土、天神前、下津留、原山、川平、小久保、岩井田、虎ケ迫、

宮生

若宮、倉原、山田、生木、生木原、宮迫、石井、高後、東、寺川、横尾、長迫、豆尾迫、深田、谷、小敷岩、鍋田、目羽津、道祖神、三崎野、半田、古屋迫、殿ケ迫、七百、真菰、尾峯、日平、仲野迫、芝返、市木、大西、甲、小木迫、尾平、川水、小野、井手ノ元、立迫、根無、代間、大野、池ノ内、足原、炭穴、帯田、谷瓜生、淀、瓜生、小又、九折、桐木、倉元、火振、

綿田

徳野原、辻浦、草深、丸見、野添、矢所、柴川、引地、陰ノ木、太田、出羽、宮生、俵積、尾平、宮田、綿田、四坊、尾迫、王幸、三宅山、三宅、吐合、辻、嵩添、後田、砂田、政所、嶽ノ河、

綿田　瀬口、岡迫、沓掛、高群、見鳥山、幸徳、鼻繰、篠原、緩石、

栗林　亀ケ嶽、立野、古中熊、古中熊窪、田代、四方水、比良平、尾迫、親所、谷、下山、月出、年ノ神、枝折、弥蔵窪、花ノ木、福地、目一、丸山、塚田、郷野、郷野上、表窪、田所、桑迫、小門、年出、竜石、吸、破迫、嶋崎、北園、寺山、荒平、本臼木、馬場原、鏡石、馬場原上、柳井、深井、岡倉谷、火迫、岡倉、山堂、高辻、堂園、南、林、平久保、村上、糸棚、

鳥田　栗ノ木、羽原田、片志屋、白石、池ノ久保、七曲リ、下弓木、中弓木、仁田尾、尻無川、古園、登尾、雨川、中庭、向田、鳶巣、高平尻、高平、竹ノ原、山道ケ鼻、田代窪、原ノ谷、下河内、上河内、羽原、待ケ久保、城山、屋敷、久保、獺、牧山、八庫、畑、茅場、風呂ノ迫、内山、神角、神角寺、竹ノ下、払谷、高畑、東西小野、庫敷、上弓木、橋川、

梨小　向久保、土橋、男嶽平、戸ノ口、奥志屋、宮園、月迫、八本椚、温見、栗林迫、大台、中無田、一里木、明ケ谷、大無田向、大無田、谷、三代、柿ノ木津留、水無河原、小迫、年ノ神、引地原、舟池、風ノ木迫、畠、梨原、小無田、六郎木、引地、釜割浦、釜割、長畑、上馬背戸、内河野、辻、三成、東、当見塚、向畑、小豆迫、

神堤　（以下、昭和三十二年二月一日直入郡直入町ニ編入）
町中南、町下東、西ノソノ、谷、人頭、梨ノ木、山ノ後、菅ノ迫、下五百畑、尾迫、一貫畑、葛手、亀ケ嵩、帯迫、長久保、川地、キサノワキ、堀ノ元、池ノ元、尾水、片草、走場、町中西、町下北、矢部谷、屑路、苧迫口、浦久保、神鉢、シノビ山、桑久保、順出、兎戸、

田中

横枕、永田、田中町、辰頭、竜ノ王、戸切、羽入原、城、小園、犬北、城ノ後、屋敷、合殿、橋話、大迫、山丸、若宮、二ノ若宮、栗ノ木、岡久保、姥が藪、泉、五本松、米山、藤浪、河内、畑、泉一、泉二、日平、水ノ久保、正光寺、妙勝庵、土取、大久保、知少、大溝、時末、千仏、佐在、門畑、花立、北ノ又、七夕、

藤北

恩下、中原、向坊、鹿ばみ、郷地、山田、勝光寺、木原山、木原、尾崎、烏帽子嶽、丸山、常忠寺、舟小野、田良原、榎田、石畳、横尾、池田、田神上、坪井、香梅迫、浅ケ迫、府手、平原、久保田、横田、高畑、西方寺、小ケ倉、落水、丸尾、井ノ久保、白家、椋ノ木、福土、四郎ケ谷、井野、七ツ木、尾久保、河内、表田、戸ノ上、田良原、田良原辻、二ノ研石、研石、城浦、横峯、地吉、

宮迫

松尾、風呂ケ迫、水ケ田尾、宮原、宮尾、柿添、宮迫原、宮迫、折戸、沖代、岩ノ上、森園、花立、川原田、犬山、西ケ迫、辻、宮田、宮本、宮本原、

酒井寺

東平、迫、辻平、小塚、片平、中嶋、馬場、湯屋、下道山、上道山、稗田、中園、姥ケ畑、中山、歓玉来、冷太郎、田平、鳥屋畑、小園、立道、ミイハタ、野井川、中稗田、稗田上、上浦、下稗田、堀平、堀、堀前、舟橋、古枝、尾崎、囲、百合平、ウブノカウチ、迫戸、権現谷、近戸、クラガリ、段中、出の口、大石、エゲ山、堀田、高城、沙原、田先、平野寺、油典、北園、

屋原

三段、栗の木、祇園原、友高、五段田、上津留、赤迫、古市、五反、京津留、明布田、南、三寺原、

屋原　中原、京出、中原平、追分、柏迫、王の原、二反田、丸尾、佐伯原、大又、羽入、三反田、素桶、亀別頭、東見、代の原、

桑原　向園、迫の原、福乗寺、丸田、加茂田、古屋田、村木、椋ノ木、向坂、堀切、後田、羽部、尾の上、尾崎、向川原、平田、雲園、宮園、灰迫、神森、井手ゲ迫、神石、坂本、講川、向野、土家、日向師、代間、鍛冶原、加原、馬場、

北園　竹の脇、ダリマ、平原、塚の元、内畑、神の山、下山、ソノダ、中の坪、一ノ谷、白石、宇蔵嶽、矢所、地蔵本、尾迫、間弓手、枇杷ノ首、中須、上ノカゴ、長畑、大立町、向原、白水、南鍋、尾峰、梅園、中園、杉園、竹ノ内、岩ノ上、宮の前、表平、井尻、一町田、小迫、古屋、北園、高尾、ウソ谷、川船、鹿込、御手洗、大平、ウソ山、大谷、七曲、

大原　京田、上力、樋平、津留、田舛、鳥越、尾立、柚之迫、妙見、丸塚、向八舛場、本田、後田の口、平田、年出、横井、尾崎、田代上、踊場、野頭、岩崎、前田、小鳥、迫ノ原、迫、五反田、小柳、祇園原、広峰、住吉、京出、木伏頭、神松、落水、神松前、野入、虎ケ迫向、虎ケ迫、雉子ケ迫、二本木、近中、代、七崩田、北又、上津留、柿迫、北平、日の出、小園、田代尻、中切、天神、前迫、坂東、馬場、水洗、窪、松平、地蔵、

片島　竹の迫、新屋、向田、松ノ木平、井ノ平、久保、浦、平屋迫、蛇ケ迫、平向、原口、太田久保、太田、井の尻、北原、ツル、太平、井野、田尾、柚ノ木平、坂口、立石、下田尾、塔ノ下、シボウ、池口、屋久保、道下、箕久保、向原、下ノ原、綿打、西ケ迫原、西ケ迫、尾崎、片島、杉園、塚田、

山の口、地福寺平、西、小屋園、宮田、宮田平、桑迫、ケンキユウ、仏原、宮地、宮地前、前平、山井川、寺山、西ノ上、上津、大谷、赤迫、

田代

白水、下ノ原、長田、沢水、石の元、大塚、今峠、天道、藤十原、瓜ケ迫久保、天神下、岡山、矢所、田代畑、後谷、藤原、又井、井ノ向、井才田、柿ノ内、カジヤ、柳井迫、榎木道、耳取、尾無、与田、中尾、西ノ久保、鳥井平、塚の原、下リ迫、馬渡リ、折口、唐節、足田、枳の木、佐土平、塚の元、百合ケ迫、後平、辻の原、庵の平、津留、神川原、前津留、田代、亀の首、岩崎、瀬戸口、向原、向田、下町、岸ノ下、桑畑、原、尾崎、小柳、高畑、西平、高土町、谷の平、向井久保、杉先、代の原、宇田子、古屋、杉園久保、南平、大中間、上ノ原、申ケ迫、大平、井ノ元、久手ケ迫、杉園、上久保、タカ山、上古屋、杉山下、神ノ原、三角、石仏下、裏山、カラン、岩下、樋掛、

中原

大ノ原、大道畑、小鹿、中切、宮田、井の迫、田口原、北浦、飛渡、津室迫、寺畑、池迫、塔ノ久保、ヲバネ、豊年平、代の原、鎌の戸、下代ノ原、駒方、太郎田、神ノ前、井手口、松原、下ノ田、皷田、松ノ木原、温頭、谷、長迫、松山の辻、猫ケ迫、水痘ノ木、津留尻、荒井、星ノ木、石原、菅の谷、多々良、万勝庵、平釘、玉ノ元、井ノ迫、茅場平、矢射渡、浦山、矢野、太平、上リ切、稲尻、舟久手、一町田、餅手、台、尾久保、広瀬、横縄手、板取久保、稲干、冬手原、岩ノ上、迫頭、竜前、後久保、

小倉木

太田、神ノ田、外田、津留、堤ノ下、野洗、松が平、迫、白石、奥畑、小野、蔵木、道ノ上、中園、原、上井川、副土、高畑、井ノ尻、久保田、古園、中尾下、田々良後、谷ノ向、尾井手、前田、

小倉木

浦山、一ノ谷、三佐吾、日向、南、上竹、原、久ケ迫、上ノ迫、宇ト木迫、福伝、山ノ下、西、志つ屋、下羽手、下ノ辻、下津留山、八所、東平、平山、戸ノ上、代間、押ケ迫、由永、門ノ久保、中津留、長小野、尾迫、菅口、上羽手、奥山、高手、上ノ原、田尾、高岩、高ノ水、東六地蔵、中尾、中畑、田々良、山足、大川内、長迫、年の神、長ハイ、一里木、志屋川、時水、代、六地蔵、井ノ久保、佐淵、表、柿ノ木畑、前後、下ノ原、荒平、沈ダ、尾形、

矢田

沈ダ、原山、天道、高畑、村中、待、狐迫、浦久保、中の原、北平、山久保、前久保、下久保、深野、峠平、前平、中久保、田尾、大久保、谷、高野、竹ノ中、奥小屋、久保谷、松葉、原、本源、山下、尾崎、川平、忍迫、津留、尾迫、矢野、平原、前田上、前田、年の神、戸甲、中矢田、上平、引地、浦田、長谷、妙見、上谷、小矢田、田代、川向、奥谷、向谷、下向、松山平、原口、岩上、小矢元、大地、岩下、上竹、合片、下合片、尾久保、北平、向原、滝ノ上、

夏足

新飼、折口、上津留、中津留、門、中ノ迫、桑ツル、町堀、谷川、古天神、為久保、水落、高尾、久保、久保上、軍場、平原、近道、花操、長畑、神平、三徳、迫久保、桑迫、吐合、城、久保堂、林、荻迫、内川、ビワ、尾北、原、原口、大平、木香原、六反、増原、滝ノ上、古殿、日向、水取、下福田、福田、堀、水取谷、大久保、津出、中ウソ、狐迫、川原、上川原、白水、下、戸下、春日、茶屋元、一井迫、合場、崩岩、壁田、平田、芹田、足原、七里、前田、代木、長迫、大渡、上大渡、津留、

両家

瀬ノ口、大平、中山、平野、永正寺、登立、土パミ、浦、久保、前田、古宮、新田、沢水、小久保、

小倉山、浦谷、向尾迫、岩下、武田ケ迫、山神、長瀬、浦久保、向山、

郡山	五反田、島、保多田、山ノ頭、高平、長谷、下原、下平、宇土、天神ノ木、東、南、出口、尻無、米田、染屋畑、森園、西川内、小迫、地扇、土塚、念仏原、西平、上リ木、尾迫、宮田、小原、石仏、沢迫、尾木迫、須多平、木ノ下、滝ケ下、尾迫原、石末、西、沖の原、天神原、原の畑、郷屋、堀内、房瀬ケ平、横枕、井ノ元、臼迫、御霊、庵全寺、淀、前田、石先、久保、岩井迫、塔ノ久保、釜戸、向い淀、後平、浦谷、植木ゲ下、北、神ノ木、北ノ谷、北山、大平、山ノ口、山伏塚、大久保、大平辻、津留牧、大畑、丸山、
十時	迫河内、柚ノ木、向林、楠地、宮の下、西の原、柳井迫、東鶴、蔬ケ口、小原、大久保、南原、右山、新原、地福寺、古川、井の迫、中ノ坪、迫の谷、木ノ下、西、高山、小野、前野、上井ノ迫、白岩、小谷、権現前、権前迫、代、大迫、十時、松ケ迫、花の木、芭蕉、カン子平、葛、松平、田ノ迫、岡倉、松山、羽広、瀬口、後、上畑、迫、上畑山、影ノ木、水ケ田尾、後山、井ノ元、坂口、鳥越、折小野、池ノ窪、石田、障子ケ岳、大曽、カン子尾、西平、上小板木、下小板木、山田、谷、丸畑、高尾辻、迫ノ谷、白岩、
杉園	尾迫、奥、折戸、宮前、土ハナ、染原、向平、上中原、久保田、井ノ尻、下原、山ノ下、神原、大坪、井ノ平、杉園、樋畑、谷又、戸ノ上、染屋、雨堤、才ケ迫、神ノ下、穴井谷、トナセ、ヒカケ、下三木、エゴ、西畑、上三木、長田、中原、大原、荻迫原、中ノ原、荻迫、芝尾、穴井原、穴井、大谷、平、後平、鳥越、西又、
代三五	東泉山、三五、前久保、東泉、上のツル、四手ノ山、扇松、神ノ田、八ノ久保、代、前田、向ツル、

代三五　内河野、二反田、メウト石、

後田　山の獺、山口、広戸、岡、久保尻、獺野、夫婦石、前久保、前谷、鏡、仁内畑、仁内畑奥、一本松、王子、向山、ヒサゴ、北川地、ヒカケ、津留、萩田尾、井ノ尻、大平、桑迫、尾上、義丁場、由ケ咲、下ノ久保、川屋道、トビ川、川屋道上、下も、中屋敷、中道、切畑、古峯、風呂の前、法土、鉢ノ久保、上ノ山、荒平、狐神、下荒平、年後、浦、下鶴、向平、荒平上、黒井、風土、黒井谷、大久保、岡の前、岡の浦、岡の谷、梅の谷、原ノ下、中ノ切、下ノ原、神ノ木、六歩ノ一、北ノ畑、赤岩、牧上、小牧、佐那木、一里木、江吾、刈野、安面、牧原、寺、八斗畑、大工川、義丁、高円庵、中原、小園、一千庵原、一千庵、馬渡、挟馬、牧山、牧ノ辻、摺墨、馬門、高無礼前、尾迫前、高無礼、五斗蒔、七百谷、白石、引草場、仏田、成小野、中岩、椎ノ木、川屋平、原、鳥越、向、向田、下ノ原下、四歩一、浦舞、荻尾、西鶴、東鶴、イバ久保、下ノ久保、上ノ原、長迫、高平、トチノ木、島ノ原、戸利ケ迫、栗ノ木、奥ノ原、大坪、上ノ平、向茜、茜、小茜、ウド、

沢田　小切、長平、角石、市ノ坂、前、井ノ頭、白岩、竹の下、辻、川内、古田、高畦、尾迫、白岩、向田、川原、葛、天川、折戸、杉尾、日方道、庵の木、松山、原の辻、表山、地吉、仁田ノ平、由ケ迫、大平、天堤、古道、谷、大内、日焼、直野、尺八下、松川内、由原、中尾、馬ノ瀬、白石、尾崎平、境谷、クロボロ、大峠、水ケ平、木浦内、柳屋、尺八、焼竹、高畑、麦藪、原向、原奥、代ノ園、大畑、古田、境目、

安藤　茅原、松尾、岩下、麦尾、由ノ元、横道、池田、石の元、見尾、峯松、若ヤブ、元山、下山、下田、

ソラ、椿、平田、藪下、倉田尾、河淵、大道、前、仁田尾、桂ケ迫、田ノ迫、岩ノ迫、西平、城ケ平、北平、赤道、茅場平、トクシロ、横山、淵の元、中塚、畦割、天ケ尾、仁田ノ迫、山口、大平、上明、丸尾、地吉、合代、工藤木、下平、四又、小松、石原、九十分、引地、藤ノ原、奥畑、藪園、中尾、尾仁田、松平、堀田、神ノ迫、東、久保、横山、ニカイ、芥神、畦畑、山田、新屋地、ミツクリ、大下も、原、六四郎、迫口、ムクノキ、神割、鳥越、土山、河内、桜山、北久保、中原、新田、立畑、平床、カゲ平、田代、山口、郷屋、十毛、

中土師

向田、中向田、片神、下和田、田中、北田、出水ノ元、赤道、界野、要日畑、松ケ平、観音嵩、横山、石段、焼嵩、尺八、下向田、木ノ下、栗ノ木、駄ノ平、丸田、麦尾、下ノ園、平原、神ノ元、辰石、西川、スダノ木、井ノ久保、大迫、庵ケ迫、台、顕蔵、長久保、柳井迫、大久保、梨ノ久保、柏園、赤谷、官木、前田、善納寺、茅原、岩杉、折戸、風呂ノ迫、迫、仲山、藤畑、天川、沖田、小名川、七歩、神ノ木、唯郎、尾久保、三分一、年ノ神、石倉、表、土取、福土、拝迫、

小切畑

石倉、河内、池田、長寿庵、井平、鷺、山川、源道寺、桑ツル、竜王山、七反田、少里、原ノ久保、六反田、谷門、仏ノ辻、竹ノ後、上原、

三重郷史料

一　豊後國風土記

○「大野荘史料」第一号ニ大野郡条ヲ収ム。本文省略。

二　太政官符　○類聚三代格　新訂増補国史大系二五

○天長三年十一月三日。「大野荘史料」二号ニ収ム。本文省略。

三　延喜式

（兵部省）
「豊後國驛馬小野十疋、荒田、石井、直入、三重、丹生、高坂、長湯、由布各五疋、傳馬日田、球珠（クス）、大野、大分、速見各五疋、海部、」

四　倭名類聚抄

大野郡
田口　大野　緒方　三重

三重郷

駅馬小野駅十疋
三重駅五疋

三重郷

五　大法師基覺譲状案

○大友文書
大分県史料二六

一通　本主基覺譲覺秀状
譲與　三重郷内山寺院主職事、
禪修房覺秀所、
右當寺院主職者、基覺重代相傳所也、然閒嫡弟覺秀仁、限永代所譲與也、但基覺以前祖師代〻譲状等可副渡之處、基覺上洛之時、恐風波盗賊難、預置玉田太郎之處、宿所炎上刻、所預置之證文等號燒失抑留之輩、基覺沒後仁、若稱有證文彼寺仁成煩者、申行盗人、更不可叙用、仍爲後日譲状、如件、
文治四年三月十日　　大法師基覺判

三重郷内山寺院主職ヲ嫡弟覺秀ニ譲ル

玉田太郎ニ預置キシ証文焼失ス此証文アリト称シ煩ヲ成ス者ハ盗人ニ申行フ

六　宇佐宮假殿地判指圖

○宇佐神宮蔵
宇佐神宮史史料編四

三重郷宇佐宮仮殿造営一国平均役ヲ勤仕ス

○文治年中。大野・直入両郡関係部分ヲ「大野荘史料」五号ニ抄出。本文省略。三重郷ニ対スル一国平均役ノ支配多シ。

七　豊後國圖田帳案斷簡

○到津文書
大分県史料一

○建久八年ノモノナラン。「大野荘史料」一〇号ニ収ム。本文省略。

八　大隅正八幡宮大神寶官使等重申狀案

○書陵部八幡宮関係文書
大分県史料三〇

正八幡宮大神寶官使幷催使等重言上、

爲豊後國高田庄地頭代左衛門尉盛實、背奉行所數ケ度御書下、不及參決、又不承伏神寶役、于置入部御使等、剩昨日十二日申尅引率數多人勢、打擲蹂躙火長小使以下御使等、殆令及半死半生條、罪科已令重疊上者、早且被下檢見御使、且欲預炳誡御成敗事、

副進、

四通　奉行所御書下案

件條、彼盛實以下名主等、背　宣旨・關東御教書、難濟當役之餘、去五月十六日取籠火長小使等、及打擲蹂躙令張(カ)行狼籍畢、子細先日具所令言上也、而尋究狼籍眞僞、且爲問答自由之對捍次第、今月五日重入部當庄、問答子細之日、如盛實返答者、不可依　宣旨・御教書・奉行所催促、可隨正員下知之閒、一切不可承引云々、參決之條同所遁避也、而入部之後雖經八ケ日、不及一宿雜事、其上

高田荘地頭代盛実ノ官使等ニ対スル狼籍ノ実検使ヲ下シ成敗セラレンコトヲ請フ

宣旨・御教書・奉行所催促ニ従ハズ正員ノ下知ニヨル

折節降雨大洪水之閒、路次之往反不合期、仍方〻之御使等、擬及餓死之處、剩昨日（十二日申時）率數多人勢、打擲蹂躙火長小使以下　御使等畢、凡今度之狼籍之躰令超過于以前者也、早不日欲被下檢見御使、於　盛實者、已違　勅謀叛之仁也、其故者、乍留跡於　王土、令飯責　宣旨御使等、剩令打擲蹂躙之條、違　勅之咎難遁者也、又乍爲地頭代之身、違背　關東御教書・同御使等之條、匿謀叛結構之儀哉、宣旨・御教書嚴重之閒、造　宇佐宮役雖先〻遁來、始自當國一宮賀來社、其外神社佛寺領、皆以令勤之者也、就中高田庄者、　宇佐宮本役所也、更不可遁申、又以權門之號不可遁避、其故者　守殿御領其外三重・國東鄉等所致其明也、忝御領權門之所〻如此、何況於　高田庄哉、是併盛實以下名主等結構也、無懲繩（ママ）之御沙汰者、傍輩頗不見懲者歟、所詮且不日被下檢見御使、且欲預　關東御注進、仍重言上如件、

文永十年後五月十三日

使者ヲ飯責シ打擲蹂躙

一宮賀来社以下仏神領皆勤仕ス

守殿御領其外三重・国東郷モ勤仕ス

九　市邊田八幡社舍利塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字赤嶺

舍利塔一基ヲ建立ス

（右面）「敬白、奉造立舍利塔一基」、
（正面）「文永十二年（ナシ）乙（七）亥十月十日
（彌陀像）
（左面）「爲□□林坊□□敬白、」

10　某下文案　〇大友文書　大分県史料二六

在判

下　可令早任覺仁譲状、爲舍弟覺智豊後國三重郷内山寺院主職事、

右、任文永十一年四月日覺仁譲状、覺知（マヽ）可爲彼職之状、如件、

建治元年八月廿四日

覚任譲状ニ任セ内山院主職ヲ安堵ス

11　左衛門尉泰能奉書案　〇大友文書　大分県史料二六

一通　在判

（裏書）「判」

豊後國三重郷殺生事、堅所有制禁也、其内ゝ山寺領敷地、爲奉行人可被加制止、云地頭幷代官、云名主住民等、若有違犯之儀者、速可被注進事由、限永代更不可有怠慢之状、依仰執達如件、

弘安二年三月十一日　　左衛門尉泰能奉

内山院主御房

三重郷殺生ヲ制禁シ内山寺領敷地内ノ違犯ノ儀アラバ注進セシム

一三　某下知状案

○大友文書
大分県史料二六

一通　下知状

豊後國三重郷内山蓮城寺院主覺智申御堂造營事副本堂差圖如此、子細見状、早且任先例、且爲興法、村〻令合力、人夫以下事、任覺知申請、可致其沙汰之由、可被下知之状、如件、

弘安三年十一月廿七日　　判

三重郷人〻中

覚智申状ニ任セ内山寺本堂造営ニ合力セシム

広福寺ヲ建立ス

一三　吉祥寺木造大威徳明王像胎内銘

○大分県文化財一覧
大野郡三重町大字松尾吉祥寺

（牛座胎内墨書名）
「右奉立豊後州三重郷廣福寺志者、爲
天長地久、別者當□（地頭）□□者當山佛法興隆廣□□□
至□□□□□□（日）也、
弘安七年歳次甲申七月十一日□□□□□
大檀那願主兼院主□□□□□
小知識□□院主遍昭□□□□

○〔　〕内ハ『大分県三重町誌総集編』ニ拠ル。大分県指定有形文化財。

一四　豊後國大田文案

○平林本
鎌倉遺文一五七〇〇号

○弘安捌年玖月　日。大野郡（直入郡欠）条ヲ、「大野荘史料」四五号ニ抄出ス。「国領三重郷百捌拾町　地頭新(秋)(田脱)陸奥守殿」トアル「新。田陸奥守」ハ「秋。田陸奥守」ノ誤写ニシテ、「秋田泰盛」ナラン（渡辺「国領大野郡三重郷地頭「新田陸奥守殿」について」（『増訂豊後大友氏の研究』第一法規出版、昭和五十六年十月）参照。

国領三重郷地頭秋田陸奥守殿

一五　豊後國圖田帳案

○内閣文庫本
鎌倉遺文一五七〇一号

○弘安八年九月晦日。大野郡・直入郡条ヲ「大野荘史料」四六号ニ収ム。本文省略。中ニ「三重郷百八十丁新(秋)田陸守奥殿」アリ。

三重郷地頭秋田陸奥守殿

一六　内山蓮城寺寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字内山蓮城寺

（塔身）
（永仁四）□（歳次）丙申□次□月日　僧覺智　大佛師
立ス

僧覚智宝塔ヲ造立ス

三重郷

○宝塔二基、大分県指定有形文化財。炭焼小五郎夫妻ノ墓ト伝フ。銘文ハ向ッテ右塔ニアリ。四方仏ノ種子（梵字バイ、（カ）ヤー、キリーク、（カ）バ）ヲ刻ス。望月有善氏ハ弘安末頃ノ作カト推定スル。「」内ハ『三重町誌総集編』。尚同書ニハ、年紀ノ右側ニ「為□」ノ行ヲ加フ。覚智ハ一〇・十二号文書ノ「覚智」ト同一人物ナラン。

五輪塔ヲ造立ス

一七　下赤嶺五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字赤嶺字下赤嶺

（地輪）正安二庚子十一九、
（梵字アー）
禪尼念阿正法
敬白、
○五輪塔ノ四方門ノ種子ヲ刻ス。

五輪塔ヲ造立ス

一八　内山蓮城寺五輪塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字内山蓮城寺

文保三年正月十四日酉尅、
○コノ塔身ヲ用ヒ、三界万霊塔ノ台石トセリ。

一通　僧素郁譲處英于時號禪心房狀

奉譲　豊後國三重郷内山寺又者號蓮城寺院主職・同免田山野等事、

右當寺者、素郁童名彦乙丸重代相傳所職也、爰彼寺者、以淨行持律僧侶爲院主、代々被致御祈禱精誠之處、覺實爲非分具妻之身、伺彦乙丸幼少之隙掠給之閒、就訴申之、以去嘉歷貳年四月廿八日彦乙丸預御下知畢、爰禪心上人爲素郁師匠芳契不淺之閒、當職安堵事、併御合力之故也、仍難奉謝彼御恩之閒、相副代々御下知以下次第證文等、限永代所譲進彼職於禪心聖人也、且被致興行之御沙汰、且可令抽御祈禱之忠勤給者也、仍爲後代證文、親父道信被加證判畢、然者無他妨可有御知行也、仍譲進之狀、如件、

嘉暦四年己巳正月十三日　　僧　素　郁　判

沙彌道信　判

〇「興行」ノ文字ノ裏付近ニ「判」ノ継目裏封アリ。

彦乙丸幼少ノ隙ヲ伺イ覚実具妻ノ身トシテ奪取ス

素郁ノ師禅心合力ス

禅心上人ニ譲ル

二〇　沙彌信忍北條基時寄進狀案　〇大友文書　大分県史料二六

一通　極樂寺相州禪門寄進狀

三重郷

禅心上人ニ寄進ス

豊後國三重郷門田村内山寺（號蓮城寺）事、任素郁嘉暦四正月十三日譲状、知行不可有相違、爰彼寺者爲日羅上人建立往古之寺也、然閒爲禪院限未來際、可令致勤行也、仍所奉寄進禪心上人之状、如件、

元徳三年十月十三日　　（北条基時）沙彌信忍　判

二　賀來社年中行事次第

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（包紙ウハ書）「正慶元年正月十一日　年中行事次第」

○首欠。二月・三月・四月・六月～十二月ヲ略ス。

「国衙役」「国衙沙汰郷々役」アリ。

五月

五日

五月會

神輿三基　御机六本　神馬十疋（唐鞍置之、上三疋下七疋）
御行幸差葉六本　御鉾十二本　陰御鉾一本（在龍頭幡十二流、長御前十二人金銅鈴十二）
陣道　鎰取
在廳神官供僧供奉、

濱御殿壹宇三閒四面（七尺間梁壹丈三尺柱口六寸、白木造、萱葺當國笠和郷并阿南庄役、毎年造替之、

笠和郷役
阿南庄役

佐賀郷役

生石村役

三重郷役

三重郷　佐賀郷
大佐井　小佐井
直入郷　国東郷

馬場埜諸郷役國衙沙汰、

國廳壹宇六閒佐賀郷役、毎年造替之、

宮廳壹宇六閒賀來庄生石村役、毎年造替之、同内三間、宮師分

大宮司屋形壹宇三閒同生石村役、

御供備進料田壹丁、在賀來庄、

在廳神官饗膳當國三重郷役、

神官供僧酒肴千與丸役、

舞樂　競馬十番十烈　前弓

刑躰　歩流鏑馬七番　田殖已上國衙役、

流鏑馬六騎一番三重郷　二番佐賀郷　三番阿南庄
四番大佐井小佐井　五番直入郷　六番國東郷

○六月以下略

正慶元年正月十一日　（花押）

三　賀來社年中行事次第

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○年次前号ト略同時代カ。首紙継目ヨリ欠。首部略。以下ハ五月ノ五月会ノモノナリ。

由致懇望之閧、矣兎(マヽ)許之處、願蓮押退大宮司屋形在所搆棧數故、依無居所、難神事執務者也矣、

御供備進料田一町、在賀來庄、

在廳神官饗膳當國三重鄉役

神官供僧酒肴千與名役(丸脱カ)

舞樂　競馬十番　十烈　前弓

刑躰　歩流鏑馬七番　田植已上國衙役

流鏑馬六騎　一番　三重鄉　二番　佐賀鄉　三番　阿南庄
四番　大佐井　五番　直入鄉　六番　國東鄉
小佐井

佐賀鄉流鏑馬事、先年佐賀四郎惟憲知行當鄉之時、依惟憲之觸穢、一旦令誂當社辨宮守(官)房之處、惟憲窄籠之後者、依非分之詫際之閧、令神事陵遲者也、彼佐賀鄉者、相模守殿御領、給主安東平右衛門入道蓮聖、

○六月以下略。

中・尾欠。

三　後醍醐天皇綸旨案

○大友文書
大分県史料二六

三重郷役

国衙役
三重郷　佐賀郷
大佐井　小佐井
直入郷　国東郷
佐賀惟憲窄籠
給主安東蓮聖

蓮城寺当知行ヲ安堵ス

一通　綸旨
檢交了、
豊後國三重鄉蓮城寺帶文書令相傳云々、當知行不可有相違、全寺用僧衆等令安堵、可抽丹誠之旨、
天氣如此、悉之、以狀、

蓮城寺長老

二四　豊後國々宣案

○大友文書
大分県史料二六

一通　國司左大辨三位家在（菅原）卿施行建武元年三月七日狀云、

豊後國三重郷蓮城寺號内山寺住持處英申、當寺免田等事、任去年元弘三十一月十三日　綸旨、當知行不可有相違、全寺用僧衆等令安堵、可抽丹誠之由、國宣所候也、

○以下記サズ。

二五　大覺寺性圓法親王令旨案

○大友文書
大分県史料二六

豊後國蓮城寺號内山寺文書事、

一通　令旨

豊後國三重郷内蓮城寺號内山院主職事、任元弘三年　綸旨（後醍醐天皇）、管領不可有相違者、

大覺寺宮（性円法親王）御氣色如此、仍執達如件、

建武元年十月十日　　金剛乗院法印判

豊後国司菅原在登綸旨ニ任セ免田等ヲ処英ニ安堵ス

大覚寺性円法親王禅心ニ安堵ス

禪心上人御房

二六　淺瀬五輪塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字浅瀬字江戸内

五輪塔ヲ造立ス

建武元年十二月四日

○基礎ノミヲ存ス。

二七　三聖寺嘉祥庵院主處英紛失状案

○大友文書
大分県史料二六

建武二年正月廿二日五条西洞院ノ火災ニヨリ文書焼失セルニヨリ紛失状ヲ立テ証判ヲ請フ

新券案

三聖寺嘉祥庵院主處英謹言上、

就去正月廿二日五條西洞院炎上、所持文書内少〻紛失上者、任傍例先日爲洞院左衛門督家御奉行、屬正親町新判官章英、召出進上具書文書案有御廻覽、下賜諸官御證判、欲備後代龜鏡、處英相傳領筑後國三池北郷内、帝尺(マヽ)寺・桶(マヽ)田・野志・野尾井・長坂四ケ村半分田畠在家、幷同寺乃門田・坂本田・新開田以下山野江河等地頭職、豐後國三重郷蓮城寺號山内文書等事、

豐後國蓮城寺號山内文書事、

○以下二二号・二三号・四号・九号・一〇号・一一号・一七号・一九号・二四号文書案。本文省略。

右、處英相傳帝釋寺・蓮城寺、同所領免田畠以下公驗之　綸旨幷關東・鎭西御下知等、去正月廿二

公験文書ヲ進上スルニヨリ綸旨ヲ下サル公所ノ案文ト比校アリタシ

建武政府諸官加署ス

門徒宿老加署ス

日五條西洞院炎上之時、多以雖令紛失、猶正文少〻所相殘也、仍云紛失之段、云證狀案文、注進言上目錄大略如此、彼文書等者爲諸國平均之法、爲洞院左衛門督家御奉行、被下安堵　綸旨於諸國寺院之閒、屬正親町新判官章英之手、爲下賜安堵之　綸旨閒、處英進上件公驗文書等之處、達　天聽、去〻年既被降　綸旨畢、彼文書案悉可有公所之上者、早任傍例有御比校、先日御沙汰之具書預諸官御署判、爲新券欲備万代之龜鏡、仍不耐懇歎（歎カ）、恐〻勒在狀、注進言上如件、

建武二年三月　日

○「鎮西御下知等、去正月」ノ裏アタリニ、「判」ノ継目裏封オヨビ「正親町太夫判官章有封之」ノ裏書アリ。

件綸旨以下證文等燒失無相違、仍爲後證門徒宿老所加署也、

如意庵主
沙門師泉　判
沙門師岳　判
沙門重明　判
龍門寺西堂
沙門師列　判
福昌寺西堂
桑門師潤　判
勝福寺西堂
沙門道琳　判
夏雲和尚
円通寺住持師悅　判
虎關和尚
三聖住持師錬　判

件寺領等文書紛失事、兩寺方丈以下證判分明之上、依被望申加愚署而已、

三重郷

正親町大夫判官章有
左衛門權少尉中原朝臣 判
同新判官章英
右衛門權少尉中原朝臣 判

件文書紛失事、傍輩署判分明之閒、並愚署耳、

高倉大夫判官章明
左衛門權少尉中原朝臣 判

彼文書紛失事、傍輩證判分明之閒、加愚署而已、

新判官章宣
右衛門權少尉中原朝臣 判

件文書紛失事、面〻證判炳焉之閒、並愚署而已、

博士大夫判官章香
右衛門大尉尾張介中原朝臣 判
同新大夫判官章世
左衛門權少尉中原朝臣 判

件文書紛失事、傍輩證判分明之閒、所加愚署也而已、

大夫判官章方
左衛門大尉中原朝臣 判
新判官章顯
少判事兼左衛門少尉中原朝臣 判

件文書紛失事、傍輩證判分明之閒、加愚署耳、

瀨田大夫判官章兼
修理左宮城判官主計權助兼左衛門少尉中原朝臣 判

彼文書紛失事、面〻證判分明之閒、並愚署耳、

豊前大夫判官明清
少判事兼明法博士左衛門大尉豊前守坂上大宿禰 判
新判官明景
右衛門少尉坂上 判

件文書紛失事、傍輩證判分明閒、所加署也、

佐渡大夫判官秀清
防鴨河判官佐渡守兼左衛門少尉中原朝臣 判

三聖寺文書紛失、面々證判分明之閒、並署耳、

近衛判官職政
明法博士兼左衛門權少尉左京大進中原朝臣 判

二六 足利尊氏御判御教書案

〇大友文書
大分県史料二六

（異筆）「處英禪師」
將軍家御教書案 奉行人攝津右近將監（親秀）
祈禱事、可令致精誠之状、如件、

（足利尊氏）御判

建武三年八月二日

蓮城寺長老（處英）

内山寺長老ヲシテ祈禱ヲ致サシム

二七 光嚴上皇院宣案

〇大友文書
大分県史料二六

院宣案
御祈禱事、殊致丹誠、可奉祈天下泰平者、依

新院御氣色、執達如件、

建武三
九月六日

大藏卿
雅仲

祈禱ヲ致サシム

蓮城寺長老上人御房

三〇　攝津右近將監某卷數返事案

○大友文書
大分県史料二六

同御返事案
御祈禱卷數一枝、令披露候畢、恐々謹言、
同年　九月十三日　　攝津右近將監　判

三一　足利尊氏御判下文案

○大友文書
大分県史料二六

同安堵御下文案　奉行人源民部大夫
元弘以來被收公當寺領幷當知行地事、如元不可有相違之狀、如件、
建武三年十月十四日　　御　判
蓮城寺長老

三二　豐後國志

市邊田八幡祠在三重郷下赤峯村、建武三年乙亥、佐伯某討肝付衆重於日州、不利、因祈高知尾神、遂大克、感其有驗、歸後、則立祠此也、

巻数ヲ披露ス

元弘以来収公ノ寺領当知行地ヲ安堵ス

佐伯某高知尾神ヲ祈リテ勝利ヲ得祠ヲ建ツ

三重郷役五月会料物ヲ催促スルヲ請ク

三三　稙田寂圓請文

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（端裏書）「こくしのうけふミ、（大野郡）三重郷役の事」

依三重郷役五月會料物事、當郷地頭代請文如此候、此上者、生石濱（笠和郷）御放生會以下御神事、無爲可令執行給候哉、於郷役者　嚴蜜（マヽ）守先例、可致催促候、仍請文如件、

建武四年七月廿七日　　沙彌（稙田）寂圓（花押）

○端裏書ニ「こくしのうけふミ」トアルハ、守護代ノ誤ナラン。

三四　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○建武四年十月七日。「大野荘史料」一二六号ニ収ム。本文省略。「建武式目」追加第一条、及ビ同法施行ニ関スル尊氏御教書案ナリ。

三五　大津留家五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字市場

（永輪）「建武五年戊寅六月三（四）日」

○水輪ノミヲ存ス。「　」内ハ『大分県金石年表』。

三六　深田寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字深田

「（塔身）曆應三年庚辰二月時正中日
爲現當二世所願成就、
造立□□良圓敬白」

○相輪欠失。塔身ニ金剛界四仏ノ種子（梵字ウーン、タラーク、キリーク、アク）ヲ刻ス。

三七　市邊田八幡社寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字下赤嶺

「□□乃至
□□□（利）□益」
康永四乙酉九月　日
願主僧眷仲

○「　」内ハ多田隈豊秋『九州の石塔下』ニヨリ補フ。塔身ニ金剛界四仏ノ種子（梵字ウーン、タラーク、キリーク、アク）ヲ刻ス。

良円宝塔ヲ造立ス

宝塔ヲ造立ス

祈祷巻数ヲ謝ス

祈祷巻数ヲ謝ス

五輪塔ヲ造立ス

三八　九州探題一色道猷氏範巻数返事案　○大友文書　大分県史料二六

一色殿御返事案

祈禱巻數一枝給候畢、精誠之至、悦入存候、恐々謹言、

三月一日　　（一色範氏）道猷　御判

處英院主禪師御返事

三九　九州探題一色道猷氏範巻数返事案　○大友文書　大分県史料二六

同

御祈禱巻數一枝給候畢、爲悦候、恐々謹言、

三月十二日　　（一色範氏）道猷　御判

蓮城寺長老御返事

四〇　秋葉佐藤金平宅地内五輪塔銘　○大分県金石年表　大野郡三重町大字秋葉、羽飛佐藤金平宅地内

貞和□年丙戌(戌)□月□沙弥義圓

○塔身ノミヲ存ス。

四一　宇目大師庵寶塔銘　○大分県の文化財　南海部郡宇目町大字塩見園

貞和五年己丑十月二十八日

○ホゾ同形同大ノモノ二基アリ。左側ノ一基ニ銘アリ。県指定有形文化財。

四二　大友氏時書下案　○大友文書　大分県史料二六

豊後國三重郷内蓮城寺（号内山）院主職事、任去元弘三年十一月十三日　綸旨以下代々證状等、令領掌、可被專天下泰平御祈禱、仍執達如件、

文和二年五月十九日　（大友氏時）刑部大輔　御判

處英禪師

蓮城寺院主職ヲ安堵ス

四三　出羽宗房申状　○志賀文書　熊本県史料中世二

（端裏書）「□方上殿」

出羽孫三郎宗房申、豊後國入田郷半分并球珠郡大隈上下村事、

帆足通種ヲ退ケ菊池氏ニ口入アリ入田郷半分大隈上下村ヲ安堵サレンコトヲ請フ

三重郷上村豊前国朽網某跡ヲ給ハルトノコト

□□□（右両所カ）者、就故（大友義鑑）羽川延慶御譲、祖父孫二郎□（泰員）、亡父彌二郎宗雄、相傳之條、無御不審、爰□（入田）卑分、土佐守泰顯掠領之閒、去々年擬令入部之處、世上動亂之閒、暫可閣、其閒、先預給當國三重郷上村内幷豊前國朽網孫二郎跡等之由、承之閒、無力閣之畢、而彼兩所共相□（遖カ）之上、相傳本領經不知行年序之條、爭無御哀憐哉、然者可去渡之由、欲預御口入、次大隈上下村者、迄于去年十月、宗房知行無異論之處、帆足安藝權守通種、自菊地方（マヽ）稱預給、所令押妨也、且被退通種、且菊池肥後守方仁有御口入、爲全所務、目安如件、

正平十一年（延文二）七月　日

四　大友氏時書下案

○大友文書
大分県史料二六

蓮城寺院主職ヲ安堵シ天下大平ノ祈禱ヲ行ハシム

豊後國三重郷内蓮城寺（号内山）院主職事、任證狀等其沙汰畢、早如元令領掌之、可被專天下泰平之御祈禱、仍執達如件、

延文四年二月五日

（大友氏時）刑部大輔　在判

處英禪師

三重郷相違セバ井田郷ヲ代トシテ知行セシム

四五　平大友行宗書狀寫　○阿蘇家文書下　大日本古文書

豐後國三重郷事、若令相違候者、以井田郷爲彼代、可有御知行候、恐々謹言、

（年未詳）二月十二日　（平・大友）行　宗（花押）

惠良筑後守殿（惟澄）

上包　謹上　惠良筑後守殿　兵部大輔行宗

散在所領所職等ヲ注進ス

四六　大友氏時當知行所領所職等注進狀案　○大友文書　大分県史史二六

○貞治三年二月日。「大野荘史料」一七六号ニ収ム。本文省略。中ニ「同國三重郷」アリ。

日出荘半分東方ノ替トシテ三重郷下村内下畑地頭職ヲ預ク

四七　大友氏繼知行預ケ狀案　○入江文書　大分県史料一〇

豐後國三重郷下村内下畑地頭職事、爲日出庄半分東方大神遠江守知行分替、所預置也、任先例、可被領掌、仍執違如件、

貞治五年七月廿二日　（大友氏継カ）源

四八　寶光寺五輪塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字内田宝光寺

□正平□(廿)一丙午□月十五日□尅、□良禪門五十七、

○水輪ノミヲ存ス。

四九　法泉庵寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡大野郡三重町大字西泉、法泉庵

地蔵講衆宝篋印塔ヲ建ツ

五輪塔ヲ造立ス

(基礎部)「地藏講結衆帳次第不同、

大願主僧□(良)智　玄廣　玄寶　玄曇

玄勝　玄正　明秀(本)(感)　覺慈　玄禪

（格狹閒）

玄智　淨願　玄輕　圓智　政宗

道秀　道照　覺□(心)　□(地)慶　實次

智圓　□(盛)家　家光　蓮阿　家近」

「(牛)中熊彦四郎、又三郎圓(道)、覺秀、□□(彌藤次)良

後藤四郎、藤四郎、孫三郎、三良五良、

（格狹閒）

結緣者人數

玄意　玄法　覺妙　智妙　道一　妙阿　法一

道阿　智秀

」

「良欽　曉玄　妙源　玄貞　玄□　妙道

覺道　蓮光　妙覺　玄明　長意　正忍

玄得　玄種　玄禪　玄信　玄聞

（格狹閒）

西願　西佛　妙心

」

「右功德聚之素意□(者)、爲憑六道能化之□□(誓約)

救六趣□(感)酬之苦境□□(界)面〻之直信人〻各

各之仰崇若尒者品此嚴(嚴)切□者

（格狹閒）

每日晨朝之「(地藏種子)カ」(カ)(々)風迹払有之云雲無佛

者□(心)之悟□□(亀鳥)之本□□、

正本廿五年庚戌卯月廿四日大工玄正鍛冶妙心

」

五〇　西岸寺寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字久田、久原西岸寺

願主等宝篋印塔ヲ建ツ

（基礎四面刻）
大願主
□□　淨覺　了覺（尊）　善覺
（格狹閒）
禪妙　□□　□□　□円
覺念　□安　□三郎　孫三郎」
□円　□□　□□（僧）源覺
妙意　阿栗
（格狹閒）

結緣者
結緣者　妙全　久□（曾）〔久□太〕　百太
尼良阿　末守　惟妙　德□」
（處）□（曾）女　得女（□）　□妙　爲守
（久曽□）
尼妙忍
」
（格狹閒）

三重郷

大工玄正

〔□〕正　大工玄正　〔左衛門四郎〕右講□

旹建徳元年庚戌十月十日施主各敬白、」

○大分県指定有形文化財。〔　〕内ハ多田隈豊秋『九州の石塔下』ニ拠ル。

宇目・長峯ニ打入リ忠節ヲ致スヲ賞ス

逆修ノタメ宝塔ヲ造立ス

五一　今川義範感状寫

○薩藩舊記二八
南北朝遺文九州編五〇二六号

打入宇目（三重郷）・長峯、被致忠節之條、尤以神妙也、彌可被抽忠功之状、如件、

応安六年卯月四日　　治部少輔（今川義範）判

土持左近将監（榮勝）殿

五二　松尾才田寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡大字松尾、広瀬字才田

〔以此□福田□照□〕

□逆修

法界〔□佛□〕速成菩提道、

應安六年癸丑卯月二十二日金剛□□仲

○〔　〕内ハ『大分県金石年表』。

宝塔ヲ建ツ

五三　内山蓮城寺寶塔銘

○大分の石造美術　大野郡三重町大字内山蓮城寺

僧幸泉（基礎部）　覺道　清右馬　妙性　龜□（鶴女）

彦二郎（三）　又三郎（文）　又四郎　彦次郎　清□（次郎）

佳阿彌陀佛（住）　弥五郎　妙心　道妙

（格狹間）

宗妙　左藤三郎　兵衛五郎

次郎三郎　弥次郎（孫）　愛增女

文中二年乙卯十一月十八日各〻敬白

五郎次郎　道明（秀）　弥三□（郎）

念阿弥陀佛（全）　又七　藤次郎

（格狹間）

藤三郎　淨円　妙円

次郎　左近□（五）郎

○大分県指定有形文化財。〔　〕内ハ『大分県金石年表』。多田隈豊秋『九州の石塔下』等、相当ノ異同アリ。

五四　内山淨運寺寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字内山淨運寺

別時衆宝篋印塔ヲ建立ス

「文中三年乙卯十一月日
大願主眞阿　沙弥玄用
沙弥道慶　菅原在信
源六
□□五郎
左近允
（格狹間）　彦三郎
文五郎
□□
長三郎
宗吉　彦五郎
左近二郎　□四郎
彦八□」

結縁者

「結縁者　尼竿阿

大工爲宗

中阿

（格狹閒）　法智

右志者、爲別時衆現世

安穩後生善處也、　」

「仍所修如件、

（格狹閒）　」

五五　内山淨運寺五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字内山浄運寺

五輪塔ヲ造立ス

「（水輪）岩天授二丙辰□月

廿三日未時畢、

沙彌源秀

六十一（二）」

○「　」内ハ『大分県金石年表』。四方ニ梵字（バ、バー、バン、バク）ヲ刻ス。

大工十阿五輪塔ヲ造ル

五六　久田五輪塔銘　○大分の石造美術　大野郡三重町大字久田字中尾

（地輪）「康暦三辛酉年二月廿日

大工十阿」

○大分県指定有形文化財。諸書欠字行数等ニ異説アリ。

五七　賀來社御行幸儀式次第　○柞原八幡宮文書　大分県史料九

（包紙ウハ書）「北朝嘉慶二年戊辰三月

賀來社御行幸式次第」

（端裏書）「嘉慶二年

賀來社　御行幸儀式次第要段」

八幡　賀來社御行幸儀式次第要段

五月會　神輿（マヽ）三基　御机帳六本　神馬十疋

差葉六本　御鉾十二本　益鉾一本

次陣道　盆取　次長御崎十二人　龍頭　鈴幡

次在廳　次社家神官供僧供奉

濱御殿一宇三閒四面七尺間　阿南笠和役カヤフキ

馬場埒諸郷役　國衙沙汰　國廳一宇六閒佐賀郷役

宮廳一宇六閒賀來庄幷生石村役

舞樂　競馬十番　十烈　前弓　刑躰

步流鏑馬七番　田殖（マヽ）已上國衙沙汰　流鏑馬六基

六月御秡御行幸同之、

八月十四日御幸行儀式

御供備進祝　馬長　村　田樂　舞樂

蝶鳥　十烈　東舞　相撲　旗鉾三本二本國東一本佐賀

御前松明國東郷役　大宮司屋形前松明同之、

同十五日　佛供養　標山國分寺役、奉安置阿彌陀像、

講師同國分僧（寺脱カ）役請僧社僧役菩薩舞

駒形　駒犬　舞樂　蝶鳥　東舞

十烈　師子國衙役　相撲十番國衙沙汰郷ゝ役

大行道次第　菩薩　國分僧　蝶鳥　社僧

在廳　樂人　舞人　師子

国衙沙汰諸郷役

国東郷　佐賀郷

国衙沙汰郷ゝ役

駒形　駒犬　村　田樂

仁王經講讃一百座講讀師　講僧社僧役

嘉慶貳年戊辰三月　日

五八　川邊寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字川辺

逆修講衆宝塔ヲ造立ス

敬白、

逆修講之人數

彦六　藤九郎

(殀)□三郎　八郎二郎

(孫)八郎大郎□(二郎)

八郎六郎　彦二郎

新五郎

八郎三郎

妙悟三郎二郎

明德二年癸酉十月廿二日

大願主各々敬白、

妙光　玄法
妙林源氏女増一女

○〔　〕ハ『大分県金石年表』。県指定有形文化財。金剛界四仏種子（梵字ウーン、タラーク、キリーク、アク）ヲ刻ス。

五九　家次奉書（折紙）

○奥嶽文書
大分県史料一三

（戸次直世）
（花押）

今度智尾地之事、致忠節之由、被聞召畢、隨而三重郷之内をもて三貫分、可有御計之由、所御沙汰候也、彌可致奉公之忠節之状、如件、

應永八
七月十一日　　奉家次

奥嶽兵衛四郎入道（マヽ）

六〇　有智山蓮城寺鐘銘寫

○有田文書
大分県史料一三

○首欠カ
因作銘、其銘□（日カ）有智寺、稱蓮城、設在簨簴、其功已城（成カ）、洪鐘相備、妙音妙聲、□（マヽ）上ノ相繫、

智尾地征伐ヲ賞シ三重郷内三貫分ヲ給ス

有智山蓮城寺ノ鐘ヲ作ル

麻生伊賀守

聵（グワイ）聲（カ）眠驚、蒲申形質畏幸鯨、若虚空盡求去堅鑌（ケン）、應永廿三季歳次丙申四月八日見阿彌　願主

沙彌玄秀、住持比丘義先繹懷岳謹銘（ミシヒ）焉、

○以下二享禄二年己丑ノ新鋳鐘銘アルモ、本文省略。一一一号参照。

六一　源戸次直世寄進状

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

敬白、

奉寄進、

豊後國崇廟（マヽ）由須原八幡大菩薩御寄進状一通事、

彼田地者三重郷門田内萩田一町二段八十了（マヽ）〻〻、

右趣者、爲天長地久御願圓滿也、殊大檀那諧源朝臣治部丞輔（マヽ）直世、現當二世悉地、別者擧弓箭文武二道於譽、鎭同始嫡子高載、弟男各奉尋此神御本地、當時爲當家源弓箭、舊父護國神明恃哉、依之我等（マヽ）朝更暢信力、融盛志彌（マヽ）持百年數算、子孫各加壽命、而勝一門繁昌他家様者、仍寄進趣如件、

應永廿七歳次庚子八月廿二日

治部（戸次）丞源直世（花押）

三重郷内ノ地ヲ寄進ス

門田内萩田

六二　中尾神目寺跡寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字久田、中尾神目寺跡

宝篋印塔ヲ造立ス

應永三十年三月廿四日諸大功德衆、善香・明意・是益・友彭・惠澗・乾祐・壽懌・良貞・良深・妙榮・妙秀・玄秀・聞泉・丫義・城祐・道忠・正永・昌見・道清・□□・隨覺・道圓・道泉・妙松・妙□・行仙・妙參・妙圓・豊幸・□□・妙□・□□・智祐・豊妙・妙杏・崇金・□三・善妙、

○基礎ノミヲ存ス。『大分の石造美術』ハ、「神明寺跡」トセリ。

六三　惟賀書狀寫

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

賀来社神講免田ハ段銭課役免除宇目ニ出張

（裏打紙端裏書）「神講免田十一町七段段錢課役ノ事　無用扣」

享德三甲戌六月七日

當社神講免田拾壹町七段事、任先例、段錢課役等可被閣之由、御奉書出候、目出候、我等宇目（三重郷）へ罷越候之閒、各申談、御意之儘一筆を不進候、但兩三人被指置候、定連〻可被申候哉、恐惶謹言、

享德三甲戌　六月七日　　惟賀（花押影）

由原宮司御報

層塔ヲ造立ス

逆修ノタメ宝篋印塔一基ヲ造立ス

逆修ノタメ宝篋印塔一基ヲ安置ス

六四　川邊石造層塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字川辺、船橋

慶林・妙□・道□・妙□・道□、
于□(時)文明元年己丑十月念六日、

○宝篋印塔基礎部（在銘）ノ上ニ宝塔々身・層塔（五重）ヲ重ネ、最上部ニ地輪ヲ欠ク一石五輪塔ヲ載ス。所謂「後家合セ」ノ層塔ナリ。人名ハ基礎部ニ横ニ列記ス。

六五　新藏院寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字市場、新蔵院

謹逆修現在功德主道滿善男壽、塔一碁(マヽ)、法性佛阿旀陀佛、草木國土悉皆成佛、現世安穩後生善處、
爲道受樂亦得聞法、文明九年丁酉仲春吉日大施主等謹言、

六六　新藏院寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字市場、新蔵院

謹逆修現在功德主妙祐善女壽、塔一碁(マヽ)安置也、寶性佛阿旀陀佛、草木國土悉皆成佛、現世安穩後生善處、以□(道)受樂□(亦)得聞法、文明九年丁酉仲春吉日大施主等敬白、

上村
ミやまその
かうかさこ

三重郷十貫分ヲ
打渡ス

六七　沓懸隼人助給地坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

拾貫分坪付事、
一所四段　上村ミやまその
一所八段　上村かうかさこ
一所参段小　上村四郎ひやうへ作　にし方なかその
以上

文明十七年乙巳十一月十五日

林新左衛門尉
繁　長（花押）

沓懸隼人助殿

六八　林繁長打渡状

○上津八幡社文書
大分県史料一三

於三重郷拾貫分之事、坪付有別帋、任　御判之旨、打渡申候、恐々謹言、

（文明十七年カ）十一月十五日

（林新左衛門尉）繁　長（花押）

小深田出雲守殿

六九　大友政親知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

三重郷内拾貫分坪付在別紙之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

九月廿七日　　政親（大友）（花押）

沓縣隼人佐殿

「（奥切封）（墨引）」

○政親花押ハ延徳二年以降ノモノナリ。前々号トノ関連検討ヲ要ス。

七〇　白谷寺屋敷寶篋印塔銘

○大分県三重町誌総集編
大野郡三重町大字大白谷、白谷寺屋敷

奉造立供養
寶篋院（マヽ）塔一基、
勝山高公禪定門
幷大乘妙典一字
一石全部、此以功德
願證菩提、速到

三重郷内十貫分ヲ預ク

藤原家通勝山高公禅定門ノタメ造立ス

一字一石

祖父道點者也、
信心施主藤原
朝臣衛藤家通　孝子
皆延德〻歲壬子二月吉日
敬白、

衛藤家通

七一　宇對瀨智福寺寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字浅瀬、宇対瀬智福寺

寶篋印塔一基ヲ造立ス

右奉[造]立石塔者、就山心成居士浮圖、延德第四壬子十一月吉辰日、

○基礎ノミヲ存ス。

慶庵梁公六地藏石幢一宇ヲ彫刻ス

七二　的場六地藏幢銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字宮野字的場、了因寺原

奉彫刻六地藏石塔一宇、
逆脩全功德主慶庵梁公沙彌
于時明應二天癸丑三月十日謹誌、

七三　有田六地藏幢銘

○大分県三重町誌総集編
大野郡三重町大字宮野、宮尾字有田

逆修主□□眷信□□
于時明應二年癸丑閏卯月十五日、

逆修ノタメ造立ス

六地蔵幢ヲ造立ス

○『三重町誌』ハ石幢トセリ。七二号モ同ジ。七二号ハモト字的場ニアリシヲ、昭和五十二年了因寺原ニ移セリト。両者同一形式ニシテ、所在地モ近ク、紀年モ一カ月ノ差ナリ。同一石工ノ作ナラン。

七四　圓福寺跡六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字上田原円福寺跡

（八面形龕）
「　妙鏡　妙□」
「　□□　」
「□□道□永壽　」
「道本妙金　」
「道□　」
「　妙福　」
「道清　宗金　」

「吃明應三天甲三月十二日」

○剝落部分多シ。「大分県金石年表」ニモ収録ス。

壱　大友材親義右知行預ケ状寫

○田北憲明文書
大分県史料一三

（直入郡朽網郷）
田北村之内城後分、三重郷之内拾八貫參百分坪付別紙在之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

八月六日　　（大友義右）材親　判

（紫胤）
田北將監殿

田北村・三重郷等ノ地ヲ預ク

弐　大友親治（カ）知行預ケ状寫

○衛藤国芳文書
大野郡三重町大字中津留

（大友親治カ）
（花押影）

於奥畑名坪付別紙拾貫分、預置候、可被知行也、

明應五九月廿日

（カ）
衛藤八十郎殿

奥畑名十貫分ヲ預ク

○書止メヲ欠キ、日下署判ナク、宛名モ不明瞭。疑ハシキ所多キモ、參考ノタメ掲グ。

七七　白泉寺寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡清川村大字中津留白泉寺

逆修ノタメ宝篋印塔ヲ造立ス

預修心叟宗祐信□壽□□（以下欠損）提、明應五天丙辰年十月吉日、

○基礎ノミヲ存ス。

宝篋印塔一基ヲ建立ス

七八　白谷寺屋敷寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字大白谷、白谷寺屋敷

奉建立多寶塔一基、
歸源寶聚居士施主敬白
于吃明應五天丙辰小春（十月）吉日、

○基礎部ノミヲ存ス。「大分県金石年表」ニモ収録ス。

三重郷内八貫分ヲ預ク

七九　大友親治知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

三重郷之内捌貫分之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

十二月十九日　（大友）親治（花押）

三重郷代所トシテ井田郷ヲ打渡ス

八〇　齋藤繁利等四名連署打渡状

（奥封切）「（墨引）」

○沓掛文書
大分県史料一三

井田郷八貫分之事、爲三重郷代所、任　御判御奉書之旨、打渡申候、坪付別紙在之、不可有御知行相違之儀候、恐々謹言、

（異筆）「明應七年戊午」
七月廿五日

森迫兵庫助
繁　度（花押）
奈須民部丞
助　賀（花押）
平林丹後守
賴　貞（花押）
齋藤美作守
繁　利（花押）

沓掛隼人佐殿

○連署者四名ハ、井田・三重両郷ノ政所カ、乃至ハ検使ナラン。

八一　某給地預ケ状（紙折）

○麻生文書
大分県史料一三

（花押）

三重郷

三重郷下村南方之内、柿迫井上両所田畠屋敷之事、爲給恩所預置也、御公事課役等、任先例、可致沙汰之状、如件、

十二月十二日　（マヽ）淺生又三郎殿

三重郷下村南方両所田畠屋敷ヲ預ク

公二　某給地宛行状（折紙）

○麻生文書　大分県史料一三

（花押）

三重郷下村南方之内、大屋々敷田畠等之事、爲給恩宛行處也、御公事課役等、任先例、可有其沙汰之状、如件、

十二月十二日　（マヽ）淺生孫次郎殿

三重郷下村南方大屋々敷田畠ヲ預ク

公三　回春庵寶篋印塔銘

○大分県金石年表　大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵

諦叟本誠禪定門、文龜辛酉（元年）七月廿三（マヽ）

宝篋印塔ヲ造立ス

宝篋印塔ヲ造立ス

佐賀郷　　笠和郷役　　荏隈郷役

一御侍國司屋六閒　佐賀郷同疊子、
一御棧敷三閒荏隈郷　同疊子、
一荒薦百五拾枚　笠和郷役、
一地布三拾四端、此内一端御輿疊緣用、
一荒薦百五拾枚　荏隈郷役、
一荒薦百五拾枚　荏隈郷役、
途三百疋大工給之、
一御還宮御還宮之時、御輿新造調候、雖然寛正四年癸未八月廿二日御還宮之時者、古御輿ヲ御請、用

略
○中

此ノ舊記ヲ以御還宮申之、

八五　賀來社遷宮等次第記

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○台石ノミヲ存ス

椿英壽公禪定尼、文龜辛酉（元年）小春（十月）吉日誌、

八四　宇對瀬智福寺寶篋印塔銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字浅瀬、宇対瀬智福寺

下郡役
警固流鏑馬
三重郷　佐賀郷
阿南郷　大佐井
直入郷　国東郷

井田郷　野津院
毛井村

在国司方
在庁
税所方
目代方

三重郷

一御厩三閒　下郡役、
一警固流鏑馬之次第、
一番　三重郷、二番佐賀郷、
三番　阿南郷、四番大佐井、
五番　直入郡(マヽ)、六番國東郡(マヽ)、
一　埒之事
一佐賀郷、一大佐井、
一井田郷、一野津院、
一遣(毛)井村、
一永享(享)拾貳年庚申十一月八日、
一御遷宮之時國方御供米註文、
合壹石貳斗五舛者半分
一參斗　在國司方、
一參斗　在廳次郎四郎、
一參斗　稅所方、
一參斗　目代方、

宮師坊納置、御次殿撿校所ニ下行、出納・陣僧・鍵取、若有来之儀者、宮師出納之也、

文龜元年辛酉十二月十三日　　願記㠀

社奉行
實相寺珪室等玉（花押）
宮師房　增　榮（花押）

八六　慈雲庵六地藏幢銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字秋葉、羽飛慈雲庵

奉建立越三界井、今世後世能引導、
逆修全功德（德）主妙昌信女　建立本願內山住昌壽（壽）□（位）、
皆永正元年甲子十月廿（七）日願主敬白、

○〔　〕内ハ「大分県金石年表」ニヨリ傍注ス。金剛界四仏ノ種子（梵字ウーン、タラーク、キリーク、アク）ヲ刻ス。

八七　回春庵寶篋印塔銘

○白井昭一調記録
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵

棄舘月山淨心禪定門、

死去ニソキ宝篋印塔ヲ造立ス

施主敬白
永正三年丙寅十一月四日

本願寺実如方便法身尊像ヲ下付ス

三重郷下田市庭

逆修ノタメ六地蔵幢ヲ造立ス

逆修全根功徳主道金信男
妙慶信女

現世安穏（穏）
（ナシ）□□

八八　正龍寺方便法身尊像裏書

○大分県史中世二
大野郡三重町正竜寺蔵

大谷本願寺釋實如
永正四年丁卯二月廿八日
興正寺門徒豊後國
方便法身尊像
南郡三重郷下田
市庭
願主釋了明

八九　神山家六地藏幢銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字小坂、下小坂神山家

永正四年(三)丁卯四月十六日

敬白、

○幢身ニ刻ス。〔　〕内ハ『大分県金石年表』トノ校異。

八〇　松谷六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字内山、松谷

逆修ノタメ六地藏幢ヲ造立ス

□□□泉妙永追忌然當□□□

奉建立越三界菩薩、右意趣逆修七分功德主□□□淨本星位現世安穩後生善處、

能尼導乃至□□□一味、永正五年戊辰十一月廿八日敬白、

逆修ノタメ六地藏并ニ二王ヲ建立ス

八一　下赤嶺地藏堂六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字赤嶺、下赤嶺地藏堂

大日本國豊後刕三重郷上村赤峯名

居住三寶弟子ホ各々

欽奉建立、六道能化地藏菩薩幷

二王等、　右意趣者、

三重郷

是諸衆生　聞是法已
現世安穩　後生善處
爲逆修各々謹言、
大願主徳岩融富知藏禪師
大工小坂中苑六郎三郎
皆永正龍集(十年)癸酉十一月十四日逆修各々敬白、

大願主徳岩融富
知藏禪師
大工

板碑ヲ造立ス

預修ノタメ六地
藏幢ヲ造立ス
藤原家通

九二　神田進宅地内板碑銘

○大分県金石年表
大野郡三重町大字浅瀬、浅水神田進宅地内

□(マヽ)貞永正十关酉天十一月吉日、

九三　白泉寺六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字中津留白泉寺

〻預修　主□□□男
□□□□女
皆永正拾貳天乙亥(十一月)黃鐘　主藤原朝臣家通等敬白、

○金剛界四仏ノ種子ヲ刻ス。

九四　三田井大神長武書状　〇奥嶽文書　増補訂正編年大友史料一四

「（墨引）」（端裏切封）

未細〻不申通候、然者親にて候者、甲斐大和守依調法、一味候、外聞實儀無曲候、雖然、當家之事者、代〻豊刕一味申談候閒、其旨存、我等か事馳分、當國を憑存候、仍其方之事、於嶽口（奥嶽）御座候事候閒、自然不審之者、罷通候する事、賴存候、殊先年親にて候者、少給地一所遣候哉、其後違變候由承候、其趣定而年行（ママ）共可申候、猶〻其方之時宜、被副御心候由、可爲祝著候、恐〻謹言、

（年未詳）十二月廿五日　　長武（三田井・大神）（花押）

工藤彈正忠殿

同主殿助殿

進之候、

九五　三田井大神長武老臣連署書状　〇奥嶽文書　増補訂正編年大友史料一四

「（墨引）」（端裏切封）

當家就慮外之儀、於此表相ひかへ候、早〻進狀可申承候處、諸篇取亂候て、無其儀候、然者右武（大神）、甲斐大和守以調法一味候、誠無曲候、雖然、代〻當家之事者、豊州被得御指南候、其辻を被存、

大友ヲ憑ム

嶽口通行ノ不審者ヲ檢分セシム

慮外ノ儀ニツキ此表ニ控ユ

長武番ノタメ佐伯方ヨリ宇目衆ヲ遣ス

給地ヲ進ズ

日向高知尾荘三田井郷原村二貫文ヲ預クルヲ約ス

(神大)長武馳分當國を憑被存候、案中御公私共ニ、御合力之儀、無餘儀承候、御賴敷候、當時於爰元、長武爲番、佐伯方より宇目衆被指遣候、御同前ニ參會候、爲御存候、將又先年少給地、右武より御方へ被進候處、佐藤周防守依違亂、近年御覺悟なく候、仍此砌彼給地之事、可進候由、長武被申上候閒、以書狀申入候、爰元、靜謐不可有程候條、御知行可然候、猶〻其方之事者、憑存候、自然聊爾之仁等、罷通候する事、御才覺可入候、右武之事者(カ)、大和守依同心、定而於上之村難被答候、長武之事者、當國一味候閒、彌〻其口之事、諸篇可申談候、憑存候、恐〻謹言、

(年未詳)十二月廿五日　　武　恆（花押）

工藤主殿助殿　　武　久（花押）

同　彈正　忠殿　　武　蔭（花押）

御宿所

九六　三田井大神長武證狀

○奥嶽文書
増補訂正編年大友史料一四

於前〻雖約束申候、其後聊爾之仁等候閒、遲〻無其儀候、然者此節、就闕所可進候、於三田井(高知尾荘)之鄕原之村、二貫之在所進之置候、爰許、就靜謐者、御知行肝要候、仍證狀如件、

永正十二年乙亥十二月廿六日

工藤主殿助殿　　(三田井)大神朝臣長武（花押）

（折返奥ウハ書）
「長武」

六地蔵幢ヲ造立ス

逆修ノタメ直寿妙竜夫妻六地蔵幢ヲ建立ス

九七　鷲谷六地蔵幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字鷲谷、上鷲谷

□□新□□□
□清屋道□□□
□淨□□□信女
□生安榮也、
永正十四丁丑天
十月十日
願主笑祿　敬白、

九八　内山蓮城寺六地蔵幢銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字内山蓮城寺

願(旦)主直壽(道)妙龍夫婦、現世安穩後生善處故也、
爲逆修奉建立越三界菩薩、
永正十六天己卯三月桃花日汲流立之畢、

○〔　〕ハ『大分県金石年表』ニヨリ傍注ス。

無縫塔ヲ造立ス

遠行セシ性月玄喜ノタメ宝篋印塔ヲ造立ス

九九　赤嶺地藏堂無縫塔銘

○大分の石造美術
大野郡三重町大字赤嶺、下赤嶺地蔵堂

皆永正十七年庚辰

前西來勢巖融和尚大禪師、
壬六月念三日沙門欽白

○塔身ノミヲ存ス。

100　赤嶺地藏堂寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字赤嶺、下赤嶺地蔵堂

「欽奉」
□□□

捐舘「性月玄喜」

相當□□□

今日當□□
（世）（同）
□□閒□□

「永正十七天」

一〇一　下赤嶺板碑銘　○白井昭一調査記録　大野郡三重町大字赤嶺、下赤嶺

（妙）（念）
□□信女

卍（梵字バク）（釈迦）　逆修　旹大永二年三□

清善□

一〇二　中尾大樂寺跡六地藏幢銘　○大分の石造美術　大野郡三重町大字久田字中尾

逆修ノタメ板碑ヲ造立ス

六大薩埵ヲ造立ス

（竿部）
「□善功□心聖順古士、爲後生善所、
六大薩埵造立、
大永八天戊子二月吉日　」

筑後国所領ノ替

一〇三　大友義鑒知行預ケ状　○大友家文書録　大分県史料三二

（三重郷）
宇目村之内拾五貫分坪付在別紙之事、筑後國□□町分爲打替、預置候、可有知行候、恐々謹□、

トシテ宇目村五貫分ヲ預ク

宇目村五貫分ヲ預ク

宇目村ノ内十五貫分ヲ預ク

(十)(享禄元年)□一月廿三日

齋藤五郎兵衛尉殿

(大友)(鑒ノ誤カ)義鑑在判

一〇四　大友義鑒知行預ケ状

○大友家文書録
大分県史料三四

(三重郷)宇目村之内五貫分坪付別帋□之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(享禄元年)十一月廿三日

吉岡左衛門尉殿

(大友)義鑒判

一〇五　大友義鑒知行預ケ状

○一万田文書
大分県史料九

(三重郷)宇目村之内拾五貫分坪付別紙有之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

(異筆)「享祿元年戊子十二月二日ニ被下候」

十一月廿三日

(大友)義鑒(花押)

一万田與十郎殿

宇目村ノ内十五貫分ヲ一万田与十郎ニ打渡サシム

宇目村内五貫分ヲ吉岡中務丞ニ打渡サシム

一〇六　大友氏加判衆連署奉書

〇一万田文書
大分県史料九

(宇目村)
當村之内拾五貫分事、被宛行一万田與十郎訖、任　御判之旨、可被打渡之由、依仰執達如件、

享祿元年「(異筆)戊子」十二月三日

(田口親忠)伊賀守（花押）
(田北親員)大和守（花押）
(津久見常清)備中守（花押）
(臼杵長景)民部少輔（花押）
(入田親誉)丹後守（花押）

宇目村政所殿

一〇七　大友氏加判衆連署奉書

〇野津（吉岡）氏文書
史料紹介『北条系図・大友系図』

(宇目村)
當村之内五貫分之事、令充行吉岡中務丞訖、任　御判之旨、可令打渡之由、依仰執達如件、

享祿元年十二月三日

(田口親忠)伊賀守（花押）
(田北親員)大和守（花押）
(津久見常清)備中守（花押）

（臼杵長景）民部少輔（花押）
（入田親廉）丹後守（花押）

宇目村政所殿

一〇八　大友義鑒知行預ケ状

○丹生文書
大分県史料一〇

三重郷内五貫分ヲ預ク

（包紙ウハ書）「丹生治部丞殿　　義鑒」

三重郷之内五貫分（坪付在別紙）之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（享禄元年カ）十二月十三日　　（大友）義鑒（花押）

丹生治部丞殿

宇目村十五貫分ヲ斎藤某ニ打渡ス

一〇九　安房守某打渡状

○大友家文書録
大分県史料三二

□（三重郷）宇目村十五貫分事、進渡候、有坪付別□（紙、仍カ）如件、

享禄二年二月六日　　安房守□

齋藤五郎兵衛尉殿

宇目村内十五貫分ノ坪付ヲ注ス

へんさし分

寺家分

（三重郷）
宇目村内拾五貫分　（酒利）さかりの内

一所貳段三百廿步屋敷有　して

一所貳段　屋敷有　畠中

一所壹段　屋敷有　をしも

一所七段　へんさし分

一所大　光蓮寺　寺家分

以上壹町三段半廿步　此内廿步餘

此外屋敷有、

享祿二年己丑三月一日　貞（花押）

利　久（花押）

一万田與十郎　まいる

〇貞・利久両人ハ検使ナラン。

三重郷

二一　有智山蓮城寺新鑄鐘銘寫

○有田文書
大分県史料一三

△上大日本國豊後州三重郷　新鑄
門田村有智山蓮城禪寺。鉅鐘幷序、夫原鐘者、或金或銅或石也、吾佛戒律院鐘者銅也、繇(ヨッテ)茲溥(博カ)募衆
緣捐貲、命工以銅鑄之、竊以遵(マヽ)敬戒律者也、
所華善利　上祝延(筵カ)　皇基、下福資群類、聞〻底直到不聞〻〻、　專祈仰〻
本尊醫王廣大慈力、十二神將彌垂護持、
「應(異筆)永廿三ヨリ享祿三年己丑マデ百十四年歟、」
○五七号文書参照。

二二　回春庵墓地寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

歸眞源翁淨本禪門
享祿四天辛卯二月十一日

銅ヲ以テ鐘ヲ新ニ鑄造ス

故源翁淨本ノタメ宝篋印塔ヲ造立ス

一一三　中津留押川板碑銘

○大分県金石年表八
大野郡三重町大字中津留字押川

淨谷
享祿五白壬辰

寿位ヲ願イ六地
蔵幢ヲ造立ス

一一四　中尾大日堂六地藏幢銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字久田、中尾大日堂

[奉]願沙門祐椿・僧淨周・玄秀・道泉・壽蓮・永繁・道
順・善長・道本・道圓・鏡富・道泉・道珎・妙壽・淨威・善永・
道□・道□・道祐・道□・禪□・祐貴・妙善・□□・道意・心
月・正秀・道細・常秀・淨音・□□・□□・□□・□□・妙□・
道悅・□□・道□・□□・□□・□□・靈榮・盛金・淨鼎・道幸・淨
心・妙□・妙林・道音・道貞・祐清・妙心・授椿・妙光・道中・
□□・各々壽位、□時佛師榮□、大工□□□筆者
□□僧、
寔天文貳稔关巳參春上旬吉日

三　重　郷

死去セシ正応居士ノタメ石塔一基ヲ造立ス

多田良鑑種ノ霊ヲ供養ス

天文三年筑後国ニテ忠功

一二五　回春庵墓地寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

（基礎部）
「□奉彫刻
石塔一基、
爲捐舘[惣]□[正]應居士也、
天文三年甲午四月廿六日
孝子敬白」

一二六　上田原馬場六地藏幢銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字上田原字馬場

奉刻彫六尊王、
捐舘節傳源忠禪定門位、
右灵儀號多田良朝臣右典厩鑒種、生年廿四歳、
于時天文三歳甲午潤正月十六日、於筑後國
生葉郡遂忠功畢、彼亡命哀憐情（細カ）素戀
以燃萬灯相□三七ヶ満散建立彼尊容

伸供養之次、令讀誦大乘妙典經全部、
充出離生死出資粮者也、

天文五白丙申三月衆□敬白、

伊東平次郎

同　戸□神衞門

同名孫七久種

熊野本宮増秀不動護摩供ヲ修シ大乘妙典一千余部ヲ読誦ス

月桂宗清追善ノタメ法華経一千部ヲ読誦ス

二七　井迫石生笠塔婆銘

○大分県三重町誌総集編
大野郡三重町大字井迫字石生

（梵字カーンマーン）奉修不動護摩供並八千枚一座、

天文九季庚子二月二日敬白、

（梵字ウーン）

（梵字バクマンアン）奉讀誦大乘妙典一千餘部、

紀ゞ無漏郡熊野山本宮之住呂權少僧都

増秀

（梵字タラーク）

爲現世安穩、後生善處、頓證菩提也、

「（梵子キリーク）□法華妙典一千部者、捐館月桂宗清禪定門追薦□也、

心月妙薫禪尼」

○「大分県金石年表」ニニモ収録サル。

一八　大友義鑑一字状

○深田文書
大分県史料一二

一字之事承候、鑑忠進之候、恐々謹言、
二月十三日　　義（大友）鑑（花押）
深田織部助殿
「（奥切封）（墨引）」

一字ヲ与ヘ鑑忠ト名乗ラシム

（新包紙ウハ書）「大友家之御墨付」

一九　大友義鑒書状

○深田文書
大分県史料一二

漆之實用所候之條、至三重郷・同宇目村幷宇田枝（緒方荘）、殊白谷申付候、爲両人奉行、堅固可調給候、聊不可有緩之儀候、恐々謹言、
九月十五日　　義（大友）鑑（花押）
深田織部助殿
古庄五郎左衛門尉殿

漆ノ実ヲ三重郷宇目宇田枝白谷ニ徴ス

三重郷下畑村内
五貫文ヲ預ク

道椿禅門ノタメ
方碑ヲ建ツ

三重郷等ノ地ヲ
預ク

一一〇　入田親誠知行預ケ状

○佐藤金夫文書
大分県史料一三

（端裏切封）
「（墨引）」

三重郷於下畑村之内、五貫分之事坪付有別紙、預置候、可有知行候、恐々謹言、

九月廿四日　　（入田）親誠（花押）

佐藤左衛門尉殿

一一一　秋葉地蔵院方碑銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字秋葉字羽飛地蔵院

道椿禅門也、
皆天文十六年丁未二月五日

一一二　大友義鎮知行預ケ状

○岡部忠右衛門文書
萩藩閥閲録二

三重郷之内宇對瀬七貫分、井田郷之内尾窪七貫分、肩白三貫分、直入郷之内古殿四貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

三重郷等ノ地ヲ打渡サシム

三重郷両政所
井田郷政所
直入郷政所

三　重　郷　　（大友）義鎮判

（天文十九年）十二月十三日

岡部大藏（鎮種）少輔殿

「岡部大藏少輔殿　　義　鎮」

一三三　大友氏加判衆連署奉書

○岡部忠右衛門文書
萩藩閥閲録二

三重郷之内宇對瀬七貫分、井田郷長峯名之内尾窪・肩白分、直入郷之内古殿四貫分事、被充行岡部大藏（鎮種）少輔訖、任御判之旨、嚴重可被打渡之由、依仰執達如件、

天文十九年十二月十三日

（吉岡長増）越前守　判
（臼杵鑑続）安房守　判
（小原鑑元）遠江守　判
（田北鑑生）大和守　判
（雄城治景）若狭守　判

三重郷兩政所殿
井田郷政所殿
直入郷政所殿

（吉岡）越前守長増」

（直入郡）井田郷政所殿
三重郷兩政所殿

一三四　内田高野墓地六地藏幢銘

○大分県金石年表五
大野郡三重町大字内田字高野墓地

華屋妙春信女
于㘴天文廿四年乙卯霜月十四日大神女敬白、

華屋妙春ノタメ六地蔵幢ヲ造立ス

一三五　八幡大菩薩御縁起繪卷下奥書寫

○奈多八幡宮蔵
杵築市大字奈多

右、彼御縁起者、丹後國一宮寶藏ニ籠而有之、不思議之依御縁、難去申出寫畢、輕〻敷不可有披見、奥書有之、深密〻〻、

咸經說云、黑豆ト芥子　神通物也、然皇后黑豆十五石放海者、甲鎧着成武者、責夷國也、是神變不思議也、其謂難有祕事也、

應永廿八年正月寫之、
永祿三年己未十月寫之、

三重郷

丹後国一宮宝蔵ニ籠メタルヲ写ス

三重郷歓喜庵

本願　巧忠在判　生年七十歳
筆者　存益在判
絵筆　存麟在判

鳳室妙麟ノタメ石塔一基ヲ建立ス

□月道円禅定門ノタメ宝塔ヲ建ツ

一二六　回春庵墓地寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

〆奉彫刻、
石塔一基、
爲鳳室妙麟大姉、
永祿四年辛酉三月十八日
孝子木敬白、

一二七　宇目木浦内寶塔銘

○大分県金石年表八
南海部郡宇目町大字木浦内字奥江

歸眞□月道圓禪定門矢野藤吉
皆永祿五戊正月□

一三八　大友義鎮知行預ケ状寫

○柳川藩政史料（中世文書）
伝習館高校蔵

戸次伯耆守殿　　義　鎮

（三重郷）宇目村之内五拾貫分坪付在別紙之事、肥後國伊倉之内小原遠江（鑑元）入道跡小嶋九町、濱分六町、北分六町之事、以代所承候之條、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

六月廿三日　　義（大友）鎮（花押影）

戸次伯（鑑連）耆守殿

肥後国内ノ所領代所トシテ宇目村五十貫分ヲ預ク

所領ノ万雑点役ヲ免ジ検断不入トス

井田・三重・直入郷役所ニ申理ルベシ

一三九　大友義鎮書状

○岡部忠右衛門文書
萩藩閥閲録二

不退勘忍辛勞之條、其方所之領地万雑點役之事、爲加恩免許候、然者、可爲檢斷不入之條、毎事可止催促之段、井田・三重・直入鄉至役所、可被申理候、恐々謹言、

六月廿八日　　義（大友）鎮　判

岡部大藏少輔殿

三重郷賀井本鍛冶ニ炭地鉄ヲ徴納セシム

一三〇　大友氏加判衆連署奉書（紙折）

○佐藤玉蔵文書
大分県史料一三

（箱ウハ書）「大友家老中ヨリ下知状一
稲葉郡奉行中ヨリ證文一」

三重郷之内、賀井本鍛冶江、細工之儀、節々可被仰付候條、郷内鍛冶衆江、炭・地鐵之事、於公役之砌者、用所次第、賀井本鍛冶江可所勲候段、被　仰出候、被得其意堅可被申付候、恐々謹言、

（永禄六年カ）壬十二月十日　（吉岡）宗　歡（花押）
（臼杵）鑑　速（花押）
（吉弘）鑑　理（花押）
（戸次）鑑　連（花押）
（志賀）道　珠（花押）

臼杵左京亮殿
森迫兵部少輔殿

（以下折返）「志賀安房入道
戸次伯耆守
吉弘右近太夫
臼杵越中守

前住座元禅師ノ逆修ノタメ造立ス

豪金和尚ノタメ造立ス

一三一　中尾神目寺跡笠塔婆銘

○大分県三重町誌総集編
大野郡三重町大字久田、中尾字神目寺跡

欽奉逆修石塔一基之叓、
當寺前住現存班(斑)甫座元禪師、
依此功域□(口)(作カ)法增長、殊者
現世安穩後生善處、
皆永祿七白甲子三月吉日
猶以吉祥如意之砌、
清源(斑)敬白、

○「大分県金石年表二」ハ方碑トセリ。〔　〕内ハ同書。

一三二　中尾神目寺跡方碑銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字久田、中尾字神目寺跡

欽奉造立石塔一基之叓、□法豪金和尚覺靈、
皆永祿八年乙丑二月彼岸敬白、

一三三　法泉庵寶篋印塔銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字西泉、法泉庵

（基礎部）
「妙珎禪定尼
永祿八年乙丑九月三日」

妙珍禅定尼ノタメ造立ス

一三四　宇目皿内熊野神社棟札銘

○宇目町史
南海部郡宇目町大字木浦内字皿内

（表）
「三寶證明
欽奉再興社壇一宇事
右旨趣者、天長地久御願圓滿、殊信心護持願主癸亥男依病氣」諸願成就之者也、然者彌息災延命子孫繁昌二如意皆令滿足故、
永祿九丙寅天春三月吉日
神主矢野和泉守吉久　敬白、」

（裏）
「叶
扶桑國西海路九州豊後刕大野郡三重郷宇目村内佐羅内」三所大權現宮於御寶殿社樓就破壞致興隆之處也、
皆永祿九丙寅春暮春吉日
諸天洞鑑

皿内大権現ヲ造営ス
政所志賀親度
弁指佐保直房
願主祝子藤五郎
合力佐保対馬入道・当所氏子
鍛冶職佐保弾正忠
神主矢野吉久

御政所志賀親度御時　敬
当役阿南伊賀守惟直
時弁才子佐保肥前守直房
本願々主祝子藤五郎
此時祝言矢野和泉守吉久
合力中岳佐保對馬入道幷當所氏子各
鍛冶職佐保彈正忠
細工ヲトマリ新左衞門尉　白」

覚岩文知ノ一周忌ニ当リ造立ス

海禽大和尚逆修ノタメ弟子等造立ス

一三五　小坂自源寺跡寶篋印塔銘

○大分県金石年表七　大野郡三重町大字小坂、上小坂自源寺跡

欽奉建立石塔一宇、相當捐舘覺岩
文知居士一周忌之辰頽今月今日以
伸供養、伏願此□妙文功德佛果生者
□(也)、
于時永祿九天丙刁今日敬白、

一三六　下赤嶺明照院跡寶篋印塔銘

○大分県金石年表二　大野郡三重町大字赤嶺、下赤嶺明照院跡

奉建立塔婆一基之事、右感趣者、逆修善根七
分全功德主、現世安穩後生善處、大阿闍梨法印
權大僧都海禽大和尙、如我昔所願□今者已滿
足、化一切衆生、皆令入佛道、
永祿十年丁卯三月廿一日弟子衆各々敬白、

一三七　回春庵墓地寶篋印塔銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

高峰善秀庵主ノ一周忌ニ石塔ヲ造立ス

欽奉建立石塔一基之事、
相當高峰善秀庵主小[祥]
忌之辰、以伸供養、伏願此依
善[根]、[速]到無位眞實之竟
堺、乃至以平等利益者也、
□□□無漏月音□
于[時]永祿十天丁(十月)卯小春廿六孝子敬白、

一三八　赤嶺權現堂供養碑銘

○大分県金石年表三
大野郡三重町大字赤嶺権現堂

三重郷上村

「□□大日(本脱)國豊後刕大野三重郷上村内居住三寶之弟子各々等一千部成就砌也、
千(于)時永祿十一天戊辰二月十五日釋子各々敬白、」
「瑞香天甫正倫首頭正仙全隆光□禪牧瑞庵正仲淨香」
「前總持州翁宗益大和尙妙意宗繁永弥督□香林龍□正□寶□善悅」

大野郡井田・三重地方ノ伝道

百六十人受洗ス

殿布教ニ好意ヲ示ス

一三九　一五六九年一〇月一一日（永祿十二年九月二日）パードレ・ベルショール・デ・フイゲレイドの豊後書翰

○イエズス会の通信
大分県史料一五

降誕祭の後、井田（大重郡）と三重地方の諸町村の異教徒等が多年同地方に往復した四人のキリスト教徒に教えられて、說教の聽講をのぞんだのでイルマン・ギリエルメと受洗候補者への說教に巧みた一教徒を派遣した。彼等は十ケ月閒同地方に滯在し、百六十人が洗禮を受けた。イルマンの巡視とその收穫によつて多數の人々に希望の火がもえた。同地方の報が、此地方を守護し裁判を行う王妃の義兄弟に聞こえ、パードレのもとに使を遣して自己の領民がデウスの教を聽く事を喜び、教徒となつた者が若干あつたことは大いに喜ばしい事で、デウスの教が眞實であることを悟つたので諸人も歸依するよう援助を與えようと申し出で、このためこの地方への說教師の派遣を請うた。この大身は部下や他の大身たちに能くデウスの事を語り、多くの理由を擧げて諸人の歸依をすゝめている。

パードレは使者の言を聞いて後、使を派して此の殿を訪問せしめたところ、大いに歡待し親切な言をのべて、自分が先ず歸依すべきであるが、直ちに歸依できない事情があるから、まず自分がキリスト教徒となることを望む證據として、同地に直ちに會堂を建てるための場所と木材その他の助力を與えるであろうと說いた。

同地のキリスト教徒は殿が我等の主デウスの教に大いに好意ありと聞いて一層熱心をまし、異教（ママ）徒は更に感謝した。よつてパードレは同會堂を訪問し、我等の主デウスの賜つたこの好機を利用することに決し、井田領内の一地に至り、前述の最古の教徒四人中の一人であるイナショ（Inacio）の家に宿泊し、家族から大いに歡迎された。教徒等は直ちに參集して感謝し、その報は廣く傳わつた。

井田ノイナシヨ

殿はパードレが同所にあると聞き、使者と書狀をもつて双方挨拶を交換した。彼は他の大身と共に數ケ所の城を守るため領外に居たが、直ちに居宅のある町に使を遣して、諸人皆說教を聞く準備をし、聽かない者はないように命令し、受洗は各自の自由の旨を傳えた。かくて一軒の家を說教所に宛て、大部分は五、六日閒說教を聞いた。その後一ケ月半の閒パードレは各所からの說教依賴をうけ、十分に說教の練習をした者四人を常にこの任にあてた。右の結果、國王の從臣である貴族二人、その家族と一般人と共に受洗し、井田の教會はすでに二百の教徒がいた。

受洗者二百人ニ及ブ

150　中尾方碑銘

○大日本史料一〇ノ五
大野郡三重町大字久田、中尾

神目寺檀那等逆修ノタメ方碑ヲ建ツ

大日本國豐後刕大野郡三重鄉上村神目寺檀那深田各々□□□□欽逆修、奉漸々讀誦大乘妙典一千部、本願斑甫叟誌焉、大衆各敬白、汝林座元・天浦座元・叔龍西堂・珎甫・宗重・隨玉座元・文屋

藏主・壽慶書記・□□藏主・如□座元・賤屋監寺・進花座元・倫□座元・□屋座元、

○『大分県三重町誌』ハ植松笠塔婆ト命名ス。「大分県金石年表」ニニモ収録セリ。

一四一　大友宗麟義鎮感状（切紙）

○深田文書
大分県史料一二

（包紙ウハ書）
「深田掃部助殿　　宗　□」

（端裏切封）
「（墨引）」

前廿三於佐賀表合戦之到、被疵之由、粉骨之次第感入候、彌馳走肝要候、必追面一段可賀之候之趣、猶臼杵越中守（鑑速）可申候、恐々謹言、

（元亀元年カ）
卯月廿八日　　宗　麟（大友義鎮）（花押）

深田掃部助殿

一四二　大友宗麟義鎮知行預ケ状

○衛藤国芳文書
大野郡三重町大字中津留

於豊筑閒拾町分（坪付在別紙）之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

三　重　郷　　豊筑間十町分ヲ預ク

佐賀表ノ粉骨ヲ賞ス

三　重　郷

（元亀二年カ）三月二一日　　（大友義鎮）宗　麟（花押）

○切封ノ跡ヲ存ス。宛所ノ部分ヲ欠ク。

一四三　中津留觀音堂寶篋印塔銘

○大分県金石年表八
大野郡三重町大字中津留字石町観音堂

（基礎部）
「宗花庵主圓穹長翁
天正三年乙亥十月吉日孝子敬白、」

宗花庵主ノタメ孝子等造立ス

一四四　上田原寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字上田原字立野

奉建立石塔一基、
□惟覺□□
受正覺□普
爲月山壽□大姉
坐金蓮□也、
如何代云□
于時天正四□丙廿
子六月
八日

塔一基ヲ建ツ

就留守番、其許在庄、御辛勞之儀候、宗天(佐伯)事、來九日、必定、宇目(三重郷)表迄罷出候、然者、其方番衆之事者、先々可被差返候、津留新右衛門・安藤采女兩人事、可有勤番候、爲存知、以書狀申候、可被得其意候、恐々謹言、

(天正六年カ)三月二日　　宗天(佐伯惟教)（花押）

薬師寺主水助殿進之候、

「(礼紙包紙ウハ書)　（墨引）　佐伯　宗天」

薬師寺主水助殿進之候、

留守番ノ辛労ヲ謝シ番衆ヲ返スヲ告グ
宇目マデ出張
津留・安藤両人ニ勤番セシム

老師豪意ノ譲ニ任セ円寿寺々領並ニ学頭職坊領等ヲ安堵ス

一四六　源大友義統安堵狀

○大友家文書録
大分県史料三三

當坊(円寿寺)〻領幷學頭職、植田莊秋岡名之內三町、直入鄉之內圓福寺八百分、宇目(三重郷)村之內眞光寺三貫分、肥後國飽田郡之內天福寺貳町五段分之事、老師豪意法師任譲之旨、領掌不可有相違之狀、如件、

天正六年三月五日　　源義統(大友)在判

實相坊豪照

義統米良四郎右衛門尉ニ近ク出陣スベキヲ報ジ忠節ヲ致サシム

一四七　大友義統書狀案　○伊東文書　日向古文書集成

度々如申候、諸勢越山遲滯之儀、爰許油斷之樣、雖可被存候、大軍依相催、少押移候、然者今月廿八日宇目村(三重郷)迄寄陣、來月二日吉日可爲乘陣之段、聢合議定候之條、日限其外行等之事、旁爲可申、大津留民部少輔差遣候、兼日數度如盡口能候、各一致申談、別而馳走此節候、於樣躰者、委細口上申候之條、閣筆候、恐々謹言、

(天正六年カ)三月廿八日　　(大友)義　統

米良四郎右衛門尉殿

永寿禅門靈位ノタメ石塔ヲ建ツ

一四八　回春庵墓地寶篋印塔銘　○白井昭一調査記録　大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

(基礎部)「□造立石塔一基□

爲永壽禪門靈位、

天正六天戊刁霜月十一日」

一五九　回春庵墓地寶篋印塔銘

○白井昭一調査記録
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

森迫兵部少輔平朝臣（鎮富）

欽奉彫造石塔一基、
爲□（竹）翁常林禪定門、

森迫鎮富

戰死セル竹翁常林禪定門ノタメ石塔ヲ建立ス

「欽奉調造石塔一□（基カ）、
右意趣者、
爲歸眞香秀禪門
速成□□樂、
乃至□梵天、
于時天正七己卯二月日敬立、」

故香秀禪門ノタメ石塔ヲ建ツ

（基礎部）

悟□其理透千聖門、
乃至三界平等利益、
畢竟如何卽心成佛、
天正七己卯十二月念□日
施主敬白、

戰死三代

戰死三代也、

○一四八号参照。

玉岩常全禅門ノタメ孝子石塔ヲ建ツ

一五一　宮尾世繼原墓地寶篋印塔銘

○大分県金石年表二　大野郡三重町大字宮野、宮尾字世継原墓地

爲玉岩常全禪門　欽奉彫刻石塔一基、以□供養、伏以□此勳功心月□圓光照十方界覺□香□無□□立也、孝子敬白、

旹天正八庚辰三月吉日

（基礎部）
「高山清陽
天正八年庚辰十一月吉日」

一三三　大友義統判物

〇一万田文書
増補訂正編年大友史料二四

（三重郷）
宇目村之内、其方領地十五貫分、諸點役之事永々令免許、殊可爲檢斷不入候、併於屋作城誘等者、直可申付之條、可遂其節事肝要候、爲存知候、恐々謹言、

（天正八・九年頃）
二月廿九日　　（大友）義　統（花押）

一万田市進殿

宇目村領地ノ諸点役ヲ免除シ検断不入トス屋作城誘等ハ申付ク

一三四　森迫六地藏幢銘

〇大分県金石年表二
大野郡三重町大字井迫字森迫

鎭西豊後刕大野郡三重郷下□（村）□□内居住三寶戒弟子等□
有□信女三ケ月之閒、□□□朔到盡日□嚴茶屋道場

森迫鎮富日州戦死三回忌ニ女子石幢ヲ建ツ

廣開甘露門施河沙功德、其□欽奉建立地藏薩埵尊容、請
十方聖衆[以伸][供]養、右意者、平朝臣森迫兵部少輔鎭富公
於日刕戰死、法名諡捐舘竹翁[常]林禪定門神□(儀カ)、冀依此善根
功力思趣雲晴輝燿本地風光慳心氷解飽□法性智水猛火變而
成清凉寶池、□□□□常□國土頓脫三界迷網、速登菩提
彼岸者也、仍伏乞　畢竟如何代云、
三寶證明　諸天洞鑒　摩訶般若波羅密
旹　天正[九]辛巳曆仲秋念九日孝女敬白、

○銘文ノ排列ハ、写真ニヨル。一五〇号参照。

一五五　市場多田隆邸内五輪塔銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字市場、多田隆邸内

[逆]修全功德主先妣妙清禪尼
（ヨ）

逆修ノタメ五輪塔ヲ建ツ

法名竹翁常林禪定門

心翁良宗禅定門ノタメ石塔ヲ建ツ

欽奉造建塔婆一尊、爲歸眞心翁良宗禪定門覺靈

于時天正九年辛己(巳)十一月十日施主敬白、

一五七　大友府蘭義鎭書狀(切紙)

〇大友松野文書
大分県史料二五

口武者専一

追而申候、日田へ道雪(立花)被差置之由候、弓箭方者鄉旁覺第一にて候閒、あハれ〳〵、秋月高良山へ一行仕候へし、何さま日田より差合、悉討果、弓箭之明隙候するなとゝ、堺目へ聞へわたり候やうニ、口武者専一存候、無申迄候へ共、かやうなる才覺、道雪并坂本道列なとへハ、折〻密通可(カ)然存候、尙〻從日州此閒時衆罷歸之由候、彼(マヽ)申表も從方〻到來同前ニ候、定而住持可被申候、旁御油斷有閒敷候、

土持氏薩州罷越ハ必定

急度以飛脚申候、夜前保戸又從餘方も如到來者、土持事、薩州へ罷越候儀必定にて候、就夫、海陸通路等相留候之條、爰元賣船之者、荷物以下少〻、日州へ捨置やう下候て、俄罷歸之由候、薩州衆者悉陣立之催、海陸共不穩便之由候、子細者從秋月、龍造寺使を付置申分者、豐州衆皆〻歸陣候、高良山へハ小人數にて在陳之條、以一行弓箭之根切を可仕との申事ニ付而、出勢之由候、

薩州衆ハ陣立ノ催高良山

肥後ハ味方

肥前寺井辺ニ着津

宇目村佐伯浦々

志賀道輝宇目村ニ出張切寄等ヲ検分ス

道輝夫婦ニテ出張越年ノコト

斉藤道礫ヲ臼杵ニ返スベシ

日田ニ差遣

臼杵其外東目差捨ノ覚悟ナリヤ

一刻モ早ク差帰スベシ

愚老存候ハ、今度宗運(甲斐)如入魂者、肥州之儀も、多分當方へ心を寄之由申候、彼儀何と候ても露顯候する閒、薩衆肥後表へハ難取出候、又海上之行にて候ハヽ、肥前表(寺井)てらいあたりニ可爲著津候、それは昨日今日隆信(竜造寺)討果候之閒、薩广衆も氣をゆるしかたく候、兼々如申候、秋月手合としてハ、宇目村(三重郷)・佐伯、又者浦々の行なくてハ仕閒敷候、於于今者、破口眼前迄にて候、〳〵、

一至宇目村前日道輝(志賀)罷越、切寄所柄等被見合、軈而歸庄候、是者自然之爲を存申合候へ共、火急之到來候之條、油斷候てハ以外之儀ニ候、乍辛勞道輝事、不日被差遣於宇目、越年候やうニ、能々御入魂可然候、如存知道輝事者、女房衆同心ならてハ、在村も成閒敷候之條、此度者夫婦同前被罷越候て能候する哉、道輝奥之儀をは、從大簾中頻被相留候樣聞及候、それも可依事候、國家爲にて候閒、義統(大友)以分別被申理肝要ニ候、道輝へハ、從此方も可令入魂かと存候、

一齊藤道礫事、新五郎同前ニ臼杵留守ニ聢被差置肝要之通、數度申談、被得其意之由候つる處、結局日田へ被差遣候歟、兼日之約諾も、更不令首尾候之閒、笑止千萬候、如今者、臼杵其外東目之事者、可被差捨覺悟候哉、臼杵へ子共罷居候之事者、日薩之者淵底令存知候之條、不慮之行をも心懸候するかと存候、彼條付而者、愚老後慮之段、始中終雖申懸候、差向儀計ニ被入性候、是も尤にてハ候へ共、前後之得失無思惟候事、無是非存計候、愚老折々申越、於于今者、可爲合點候、相構而々々御油斷候て、此表覺外ニ成行候者、其表之行曾而成立申ましく候、大綱之時節かと存候、右ニ申候道礫事、一刻も早々可被差歸候、日田へ道雪出郡之由候之條、旁以被差急專

こそ可被申付候之處　紙面ニ入ル事ニ候

柴田礼農ヲ差帰スベシ
油断セバ悪事程近シ

てハ、笑止迄にて候、次柴田禮農事、其元へ無餘儀用所等候者、不及申候、少々之儀候者、急度被差歸候へかし、一人なり共、足腰立たる仁にて候閒、申事ニ候、旁油斷候てハ、惡事ほとちか く候する哉と存候、義統(大友)としても前後之才覺難成段、令挍量、かようニ申事も心痛存候へハ、爰元の儀從遠方者挍量難有之候、他國よりハ吾國と申候之閒、因茲輕重之思案も可入候哉、毎事賢察之前候、猶重々可申候、恐々謹言、

十二月廿四日(天正十三年)　府蘭(大友義鎮)（花押）

(奥ウハ書)「義統まいる　申給へ　府蘭」

志賀親守(道輝)ヲ守ル
宇目ノ朝日岳城

一五六　一五八五年八月一八日(天正十三年七月廿三日)臼杵よりの書翰

〇一五八五年日本年報追加
大分県史料一五

〇首略

約二ケ月前豊後で起つた一事は異教徒にとつては恥辱であり、又キリスト教徒は甚だ笑止の事としたが、次いで人々が驚嘆すべき事が起つた。卽ち世子はドン・パウロ(志賀親次)の祖父をウメ(同親守)という豊後と日向との境にある城においた。此の人は前に述べたように我等が豊後においてもつている異教徒の中でも最も大きな敵の一人であつた。此老人は頑健であつたが實際難攻不落であつた城の位置につ

島津軍来攻ノ風聞ヲ聞キ恐レテ逃ゲ帰ル

志賀親次自ラ兵ヲ集メテ城ニ行キ戦備ヲ整ヘ之ヲ守備ス

いて信頼する事ができず、山の頂上にあるせまい道を腕の力で斷ち、敵が來てもこれを復舊するためには長く逗留しなければ通過することができないようにした。或日老人が少しも懸念していない時、薩摩の王の兄弟が大軍を率いて其城を攻め、進んで豊後に入ろうとする由を聞いた。彼は非常に驚き部下と協議することなく忽ち逃げ出し、婦女小兒も彼のあとを逐つた。そして追跡する人はなかつたが五レグワの閒は留まることなく、同所に到つてもなお安全だとは信じなかつた。これは同所に住んでいた貧窮な異教徒が、その窮乏を救うことのできるようデウスがお許し下さつたもののようであつた。此のしらせが豊後に傳わり、世子が國の入口の防壁として据えおいた老人の臆病さが知られ不信用を增すことになつた。この事が老人の孫のドン・パウロの耳に達したので、數日前世子が彼に対し不正な憤りを行つたという理由があるにも拘らず、デウスに仕え、キリスト教會の幸福をはかるべき事と己の血が高貴であることを思い、できるだけ急いで部下の兵三四千を集めて祖父が捨てた城に行つた。同所について老人が斷ち切つた道を再び埋めさせ、薩摩の兵のため橋と公道とを造り自由に同所に來て彼と戰おうと言つた。彼は今日まで部下と共にその城に留まつているが、彼の名譽は大いに加わり、世子も彼を賞讃してやまず、ドン・パウロはまだ年少であるから、このような急場に右のような思慮を期待することはできなかつたと言つた。わがパードレ・イルマン等は時々同所に出かけて彼を見舞い、彼は彼等と語ることを大いに喜んでいる。薩摩の兵はこの事を聞いたが、聞かない風をし、或は同所に攻入る決心であつたであろうが、それを實行する決心のないような風であつた。

一五九　大友府蘭義鎮書狀

〇大友松野文書
大分県史料二五

猶〻前日以葛西九郎右衛門尉申候之續、何も被得其意之由承候、珍重候、猶重疊自是可申之閒、先〻省略候、將又至道雪（立花）・宗歷（杓網）・紹運（高橋）遙〻無音之條、岩屋左馬入道差遣候、夜前罷歸候、北野陳所へ罷越候之閒、彼表立柄能〻承候、各辛勞粉骨雖不新候、彌無比類存計候、其表へ著陳候者、早速進人、御辛勞之段雖可令申候、至宇目表風聞之儀候て、爰元方〻心仕申候之條、此閒者使等可進やう無之候て、押移候之處、其堺樣躰彼是濃〻示給候、祝著候、

一今度宇目堺響ニ付候ても、高知尾表之儀かな目にて候之閒、彌入魂不可有御油斷候、殊甲斐長門入道第一之儀候、近日使被差遣之由、尤可然存候、

一今度花山落去付而、薩州家朦氣之由案中候、就夫も前後之行難計候、御舟表今程者無事候哉、其以後者到來無之候、次薩州使之儀、於于今者、難罷上存候、近日者海陸通路礒相切候、替事候者自是可申候、

一親家（田原）定而可爲著陳候、既道雪（立花）・紹運（高橋）其外之衆、前日以一動、北野へ在陳之由候之條、每事一致以衆談、堅固之行不及申候、必吉左右待存候、

一長宗我部へ萬壽寺壽庵可被差遣之由、尤可然存候、早〻被差渡肝要候、然者音物之事、只今承

宇目表ノ風聞

高知尾表ハ要所ナル故弥入魂スベシ

花山落去

海陸通路杜絶

田原親家著陣立花道雪等北野ニ在陣

長宗我部ヘノ音物

候、三種一段之儀候、皆〻ハ餘過分ニ候する哉、此内一色も可然候、不可過分別候、猶自是可申之條、期後喜候、恐〻謹言、

（天正十三年）
壬八月朔日　　府蘭（大友義鎮）（花押）

義統まいる御返
申給へ、

宇目境用心ノ書状ニ答ヘ柴田葛西両人ニ連絡セシヲ報ズ

宇目境無事

一六〇　大友府蘭義鎮書状

○大友家文書録
増補訂正編年大友史料二七

前廿七至日田郡、親家（田原）着陣之由、尤肝要候、度々如申候、此節親家、一稜取覺候様、被入性候ハてハ、不可有曲候、家中以一味同心、可抽粉骨之由、銘々染筆候、至親家者、數度申遣候之條、不及口能候、遠方在陣、雖辛勞候、別而馳走此時候、聊不可有油斷候、將又土持（日向）表、風聞付而對禮農（柴田）、宗筌（葛西）一通之趣、令披見候、心懸之段、乍案中感悦候、宇目堺（三重郷）、當時者無事候、猶從兩人、可申候、恐々謹言、

（天正十三年）
壬八月三日　　府蘭在判（大友義鎮）

竹田津志摩守（鎮満）殿

書状ニ答ヘ諸方ノ情勢ヲ報ジ戦備ヲ整ヘシム

両志賀・戸次宗傑

志賀親善宇目堺ニ滞留

密通ノ一人

嶋津中務大輔土持ヘ着ス

鹿児島ヘ罷越ス

（付箋）「大分郡東稙田村

豊後一ノ宮西寒田多神社所藏

大友宗麟書狀宗麟公ヨリ息義統ヘ遣はし候もの、」

猶〻□□□（郷カ）用作毎日薙取之由候、敵方之痛不可過之候、度〻如申候、其表之儀、行之淺深、前後之心仕肝要之砌候、毎事不可有御油斷候矣、

從阿蘇惟光并甲斐刑部太輔（マヽ）・同兵庫頭所之書狀、被差遣候、銘〻令披見候、此方へも從彼衆書音同前候、殊宗越一通之趣、旁以阿蘇家・御舟・隈庄表之儀、氣仕令相聞之候、彼條兼日申舊候之閒、今以不及仰天候、然者阿蘇御舟加勢之儀、兩志賀・戸次宗傑、彼堺爲差搦雖被殘置候、今度宇目村風聞付而、親善（志賀）滯留之由其聞候哉、從此方不申遣内、歸宅之條なとやうにも被加下知肝要候、前日宇目堺之儀、風說一篇かと存候之處、又先度密通之一人、此一兩日以前罷越候、去月十九日嶋津中務太輔土持へ令着陳、同廿一二者あつさ口、佐伯者三口之通道を切者二三人差遣見せ候て、此度者不及行、同廿七日先〻佐土原迄罷歸、今月八日嶋中同山見之衆召烈、鹿兒嶋へ罷越、此表海陸之儀、義久（島津）以談合一行可仕之由、濃〻令入魂候、從彼表至爰元、かほと被添心候する事、更不存寄子細候之條、種〻尋捜候之處、先年高城表之時、至田北鎭周始中終申通候つる儀、粗露顯候て、于今疑

心無止事ニ付而、爲其首尾如此申越之由候閒、先〻請付申候、從餘方も辻合事共候、とかく佐伯を物よく〳〵見懸たると聞之候之條、行之淺深者難計候、當月中者何如ニ候する哉、末ニ入候者可爲必定候歟、彼者申候ハ、土持以一分是非一鮮可仕と、嶋中へも望たると申候、これハたとひ其分に候共、不可有差儀候、嶋中又〻堺目迄罷越候て、相催候者時宜難計候、その時者、津久見(臼杵莊)之儀者無人數候之閒、登城一篇たるへし、又阿蘇目へ、加勢之儀も覺はかりにてこそ候へ、兩志賀にてふか〳〵とハ難成存候、宗傑(戸次)事者、玄珊(同)在陣候之閒、栂牟禮へ城番一篇之樣ニ申候、又明目にも、宇目・佐伯へ敵取出候者、親善(志賀)懸付候ハてハ難成候之條、前後之儀、以思惟御才覺可然存候、將又其表之儀親家(田原)郡衆申談、馳走之由候、珍重候、吉左右猶重疊可申承候、恐〻謹言、

（天正十三年）壬八月十三日　　府蘭（大友義鎮）（花押）

（奥ウハ書）「義統まいる　御返　申給へ」

一六三　上井覺兼日記

○島津家所藏本
大日本古記録

（天正十四年八月）一、廿二日、○中略　此日、伊地知勘解左衞門尉(由脱カ)(重元)殿にて、上意候、先白御内義を以如蒙仰候、日州口へ御進發可有被　思食候、然者梅口(宇目町)朝日岳、又豐後内端へ、針を被伏度被　思召候、川田(義明)方へ、御新念之事被仰付候、(上井覺兼)拙者談合申候て、然〻之仁申付、彼針を伏させ候て可目出由也、此口より

宇目口朝日岳及ビ内端ニ針ヲ伏スベシ

津久見ハ無人數

栂牟礼ヘ城番

も、針一可被仰付由也、即申上候、朝日嶽ハ堺目寄〻にて候間、輒針伏させ可申候、内端にと候ハヽ、一向難成存候、併中書公(島津家久)又ハ吉總州(吉利忠澄)、近〻可被参候間、談合可申由申上候也、川田殿へ、驍而談合申候、御祈念被成次第、日取共候て、拙者へ針點合可有之由也、

○中略

一、朔日(九月)○中略、肥後八代ニテ島津歲久・家(阿蘇口)此口者南郡(大野・直入両郷)通、日向口(宇目)ハ梅・三會(三重)邊まて山を越候ハヽ、京勢(羽柴勢)之與力候共、御心遣有閒敷候、各存分ハ如此之由、皆同ニ申上候也、○下略

一、十日(十月)、○中略入田(義実)方より書狀到來候、○中略入田書狀披見候、豊へ千斛(仙石)權兵衛來候へ共、頃豊前表時枝(宇佐郡)ニ、○中略陣替必定候、義統(大友)を始、豊衆皆〻彼方へ罷立候、南郡ニハ朽網(鑑康)、一萬田計(鑑実)居留候、然者、宇目口之事、皆〻留守にて候、能仕合にて候閒、先〻二三千にて成共、早〻亂入候て可目出由也、○下略

島津家久軍梓越ヨリ宇目村ニ侵入
柴田紹安叛ク
朝日嶽ヲ土持親信守ル
宇目・三重マデ山ヲ越ヘバ京勢与力スラトモ気遣イ無用
意見一致
入田義実ノ書狀到来
仙石・義統軍宇佐郡時枝ニ陣替
宇目口ハ全ク留守ナリ

一六三　大友家文書錄

○東京大学史料編纂所影写本
大分県史料三三

(天正十四年十月)及伊集院忠棟等
○島津家久。自日向越梓山、入〻大野郡、至〻郷、義統、〻地〻豊後向宇目。柴田紹安叛。帥手兵出朝日嶽城、屬家久、紹安屬〻〻〻

家久三重郷松尾山ニ陣ス

島津家久軍宇目ヨリ三重ニ侵入ス

南郡ヲ焼キ討チス

婦人少女等ノ人質ヲ拉致ス

之先鋒、至此、家久進、至三重郷、陣松尾山、

一六四　豊後國の破滅が始まつた次第

○フロイス『日本史』8
第六七章

中務（家久）は、日向から三千の兵と、薩摩から五百名、および叛亂軍を率いて、すでに豊後領の宇目に入り、嫡子の數名の家臣に屬する小さな三つの城を無抵抗裡に占領した。それからさらに進擊し、幾人かの身分ある人たちと、老臼杵殿がいる別の城の所在地である三重に向かつた。これらの者はただちに降伏して豊後の敵に廻つた。中務はそこに留まることとし、（家臣に）ごくわずかの兵を伴わせ、叛亂者たちに道案内をさせて（前方へ）送りこんだ。

○中略

薩摩軍は、萬事が思惑どおりに運ぶのを見て、通過する南郡の地、その他のところを燒き拂い、打ち壞し蹂躙し始めた。彼らが通過した後には、何一つ滿足なものは殘つておらず、少しでも逆らう者は殺害された。またそれに劣らず嘆かわしく、いなむしろ最大に嘆かわしく思われたことは、（薩摩勢）が實におびただしい數の人質、とりわけ婦人、少女たちを拉致するのが目擊されたことである。これらの人質に對して、彼らは異常なばかりの殘虐行爲を（あえて）した。彼ら（被害者）のうちには、大勢のキリシタンも混じつていた。

○下略

書状ニ答ヘ薩軍三重郷ニ侵入セシヲ報ズ

一六五　大友義統書状（紙折）

○問注所文書
東京大学史料編纂所蔵写真

對齋藤紀伊（道囘）入道細書之趣、令披見候、如承候、薩摩惡黨國中へ令亂入、所々忩劇不及是非、雖然千石秀久・長曾我部元親・同信親申談之條、不可有氣仕候、殊至三重郷敵指籠候之聞、於彼堺可成行衆評半候、可得勝利事指掌候、可御心安候、隨而其表當時、無異儀之由候、肝要候、於珍（マヽ）儀者、預『注進（以下折返）可得其意候、猶道礫可申候、恐々謹言、

（天正十四年）十一月八日　　義統（大友）（花押）

（折返奥ウハ書）「乙十一號問注所刑部少輔殿」（張紙）

一六六　朽網家滅亡記

○清水文書
増補訂正編年大友史料二七

一朽網參河守鎭則公之先祖を精尋に、大織冠鎌足卿ニ十二代、武藏、下總兩國之大將鎭守府之將軍古庄武藏守藤原秀郷ニ六代之末孫西院次官親能（中原）、源賴朝公天下之武將に成玉ふ、親能近習に召仕ける、賴朝公御寵愛之上腹親能妻女に玉はり、彼上腹懷妊なり、御種子者賴朝公、挺（誕）生まし〳〵、其名を一法師と御名乘、賴朝公の近習に被召仕けり、御生他に勝、御年貳拾壹にて豐後・豐前兩國を玉はり、檢柄使（マヽ）從五位上源能直と御名乘、豐後府内上ノ原に屋形を建、屋形とぞ申け

大友能直ノ後見中原親能嫡子秀重朽網山ニ屋形ヲ定ム

朽網鎮則志賀鎮隆等大友氏ニ謀叛三重郷麻生紹和ヲ博労ニ仕立テ島津ニ通ズ

朽網・志賀・直入・大野ノ武士内応

る、軍用ニは高崎に城塁を構へ、九ケ國の探題大守となり玉ふ、鎌倉より御供の侍には、後見西院次官親能嫡子秀重、其外數多の侍供奉し、御下向まし〳〵、九州二嶋の侍門前に市をなし、御威勢由々敷御座ます、秀重ハ養父方之御兄弟七人之家老隨一、豊後にて玖珠、日田貳郡、朽網其外領地を宛行れ、朽網山上に屋形を建、軍用ニは黒岳之麓山之城に城を構まし〳〵けり、大友之家相續二十代義鎭入道宗麟公御嫡義統公御代になり、宗麟公田原近江守入道紹忍を御隱居家老に召くし、臼杵丹嶋（生脱）へ御引取、心儘に御座ます。南蠻國より法師渡り、切支丹之邪宗を田原紹忍に進め、宗麟公も歸依し玉ひ、佛神を捨玉ひ、世は逆になりにけり、田原紹忍佞人惡逆を以、普代相傳之武士は御前あしく申成、我氣に入者は筋なき者をも取上げ、我儘のありさまを普代の侍代を恨、其頃島津方大友方にも隨身せず、大閤天下ニも出勤せず、折節朽網鎭則（鎭隆）、志賀重隆、清水大學之助を先とし、直入、大野侍、御政道を疎、謀叛之企、三重之郷阿澤紹和（麻生）を馬工勞（博労）ニ拵、嶋津方ニ密に內通之使者を立にける、薩摩元より所望にて、天正十四年也（天正十六戊子年極月ニ、嶋津式部太輔、新納武藏守、伊集院山城守、三人之大將にて、豊後に攻入散々討したかへ、朽網ニ而年をこへ、明れば早々豊後を討したかへける、義統公大勢を以薩摩勢に向玉へ共、究竟一之朽網、志賀、直入、大野之武士、心替り寄（ヨリ）騎せす、折柄大閤之御上使仙石權兵衛（秀久）、長曾我部土佐守（元親）も、戸次川原にて討死、一戰に及はせ玉へ共、討負け豊前龍王に引、秀吉公ニ御注進被成、太閤御立腹ましく、中國、九州勢にて薩摩御退治御出陣、軍略極候處、嶋津人質を出降參し、軍にハ及ざりけり、朽網鎭則、志賀重隆、謀叛之逆心不遁、白丹南ケ城山之城に討手向責落、惡逆之侍身の置所

朽網鎮則ハ筑後浦部ニテ討死

鎮則ノ御台所落行ク

男子ヲ産ム

自害ス

なく、旁々落行、重隆は小國ニ而討れ給ふ、朽網鎮則ハ筑後、浦部のとこうにて討死し玉ふ、清水大學之助は郎等甚五郎亦左衛門、貳拾五人志和之瀬まて落けるに、折柄川水高、渡不成討死す、鎧長刀、高良山に納め、今にあり、謀叛之侍旁々ニ而討れけり、

一朽網鎮則之御臺所田北紹鐵(鑑重)之息女也。御嫁入山ノ上の屋形に被成し時、家老清水縫助宅に而支度を改め、式部刑部卿を召列、上臈數多御供にて御婚姻の御祝儀も、今ハ引かへて祖母、乳母、工藤義介、山中采女を御供にて落玉ふ社あはれ也。阿曾野峠大崩ニ行玉ふ、俄に御産の氣そ見へ給ふ、御供の人々介抱し、若君御産被成けり、いかの初聲なき玉ふ、祖母、乳母申やう、流石名ある武士の子か、胎内にても物わ知、かゝるうきめにあい、落人と成る事も、若君世にたて申爲そかし、御聲とゝめ玉へと申せは、泣聲はなかりけり、夫より口小野と申所まて漸々いたわり落玉ふ、柴の庵を構へ、産後をいたわり奉る、大友方討手に向ふ由、朽網の者共告來り、阿曾野(直入郡)にも勢を廻し、跡も先も敵の中、落へき方もなけれは、兩人之郎等御臺所に申様、跡先敵の中、生捕られてハ骸の恥、御自害ましませとそ申ける、御臺所の仰には、兎にも角にもはからへと、西に向て、南無西方彌陀如來、老少不定とは申ながら、産の忌もあかん若者を、ころさん事の淺ましさよと、泣玉へハ、四人の人々、聲をあけてそ泣ける、時刻移り敵近付候也、御最期と申、御臺所、若君かいしやくし、四人一所に御供し、三津川を渡らんと、一所にこそ死けるは、惡逆のむくい憐れとそ聞へける、

○真偽未詳ノ所多キモ、參考ノタメ掲グ。

一六七　大友宗滴義鎮書状

○山田文書
日向古文書集成

（端裏切封）「（墨引）」

佐伯惟定以同心、今度其堺亂忩以来、折々軍勞之段、去年知感心候、殊去十六、宇目村動之刻、分捕高名之次第、無比類存候、彌惟定被任申旨、可被勤馳走事肝要候、必取鎮□（至カ）義統可遂披露候、猶重々可申候、恐々謹言、

（天正十五年カ）二月廿一日　　宗滴（大友義鎮）（花押）

山田土佐守（宇昌）入道殿

○『日向古文書集成』ハ本文書ヲ（天正七年カ）ト推定セリ。但シ、大友宗麟ガ「宗滴」ノ署名ヲ用フルハ天正十四～五年ナリ。尚内容的ニモ、本文書ハ宇目村朝日嶽城ヲ占領セシ土持親信追落シニ関スルモノト考ヘラレ、天正十五年ガ妥当ナラン。『宮崎県史料』史料編中世Ⅰニヨリ、「（墨引）」ヲ加フ。

一六八　大友宗滴義鎮書状（折紙）

○久保文書
大分県史料一三

今度方角無實所ニ付而、其方事、白谷湯城（三重郷カ）へ差籠、一旦雖敵案候、志賀親善任申旨、被顯心底之由候、順路之覺悟感入候、京都御人數、豊前表江打續著陳付而、諸口御行可爲近ゝ之由候條、親善任

白谷湯城ニ籠ルモ敵案ニ入ル

志賀親善敵背ニ任セ馳走スベシ

裁判、此節別而馳走肝要候、必〔公儀之取合、不可有疎意候、恐々謹言、
（天正十五年カ）
三月一日　　宗滴（大友義鎮）（花押）

戸次近江守殿

佐伯惟定朝日嶽城ヲ奪回ス

佐伯惟定等宇目村朝日嶽城ヲ攻メ土持親信ヲ追落ス

一六九　大友家文書錄

○東京大学史料編纂所影写本
増補訂正編年大友史料二七

（天正十五年三月頃）
佐伯惟定、帥師攻土持親信朝日嶽城、親信乗夜逃去、惟定復其城、
〔（別記録）（天正十五年）
□□（三月カ）中旬、佐伯惟、自ラ佐伯惟澄（久左衛門尉）・統安（小右衛門尉）・高畑氏（伊豆守）・山田□（匡）徳（土佐入道）等ヲ率シテ、土持親信カ朝日（宇目村）嶽城ヲ攻ム、親信已下ノ城兵、悉逃去ル、惟定、則其ヲ焼テ歸ル、〕

朝日岳城ニ籠ル土持親信ヲ攻落セシ忠節ヲ賞ス

一七〇　大友宗麟義鎮感状案

○佐伯文書
増補訂正編年大友史料二七

今度土持親信、相籠朝日（宇目村）岳城刻、被出自身馬、令落城、御心懸之段、感悦不淺候、度々之軍功、切々之忠節、不可勝計候、猶田北宮内少輔（統員）方江申遣候、恐々謹言、
（天正十五年）
三月十三日　　宗麟（大友義鎮）

佐伯太郎殿（惟定）

一七　大友家文書錄

○東京大学史料編纂所影写本
大分県史料三三

（天正十五年三月）夜
○十五日　。大雨、薩軍逃、□□□□□□（豊）後兵、與京軍、逐撃之、殺千餘人、而我□□□□□□□□
□去府内、歸國者、或次三重郷（大野郡）松尾山□□□□□□□□到日向、
○十七日、島津家久引兵、至□□□□□□□朝日嶽、設伏兵放所々撃之、泥谷左□□□□□□□後
藤主水正等、戰死者若干、家久幸□□□□□之櫃中、有碾茶壺、惟定（佐伯）得之爲珍、是初大樹□（義）輝所賜
義鎭也、義鎭與之家臣臼杵紹册、家久到府□（内）□（之）時、亂妨、而得此碾茶壺、而到于此後年惟定寄食藤□（堂）和泉守孝虎時、贈
此碾茶壺於孝虎、孝虎進獻之
大猶公、號佐伯肩衝是也、

○『増補訂正編年大友史料』二七所収ト対校セリ。

薩軍退却ス
三重郷松尾山

佐伯惟定朝日嶽城ニテ家久所持ノ碾茶壺ヲ得将軍義輝ノ義鎭ニ下賜セルモノ惟定ノチ藤堂高虎ニ献ジ更ニ徳川家光ニ献ズ佐伯肩衝

一三　大友義統書狀

○大友家文書録
増補訂正編年大友史料二七

薩軍内通ノ麻生紹和ノ預置ク白絲ヲ請取ル

麻生（大野郡三重郷士）紹和事、今度相構逆心付而、跡職令闕所候、然者其方へ、紹和預置候白絲壹丸之儀、至石田治（三成）部少輔方申理、此方へ請取候、自然、於向後紹和一類申儀在之者、急度國本へ、可申越候、彌曲事之段、可申付候、爲其此一通、遣置候、恐々謹言、

（天正十五年）卯月廿七日　　（大友）義統在判

一七三　足立盛定書狀（切紙）

○清原宣雄所藏文書
大分県史料二五

豊州
三重郷　　足立上野守
　　足立總五郎
　　盛實
　　盛定」

「（包紙ウハ書）

福嶋御鹽燒大夫殿
　参御返事

（端裏切封）
「（墨引）」

切紙之躰御同前恐入候、追而被申候御拂・帶一筋・千扇一本、被懸御意候、慥到來仕候、誠ニ難謝存、將亦萬端、御使者奉頼候御儘、不能一二候、御懇書之趣、令拜見候、仍不存寄候處、種々遠路爲送給候、誠ニ忝存斗候、隨而自是茂乍乏少、白布二令進覽候、左道之至爲恐候、於彌（マヽ）々御祈念奉憑候閒、無他候、萬吉、恐々謹言、

六月十六日　　盛（足立）定（花押）

福嶋御鹽燒大夫殿
　参御貴報

書狀及ビ御秡帶等ヲ謝シ白布ヲ贈ル

豊州三重郷

一七四　佐藤家次書状（切紙）　○清原宣雄所蔵文書　大分県史料二五

「（包紙ウハ書）　三重はた

大神宮福嶋御鹽焼大夫御報

「（端裏切封）（墨引）」

佐藤兵部丞
和泉守　家次」

御状之躰恐入候、自是白布一佐藤和泉守こうぬの一、同兵部丞

御札之旨、謹而令拝見候、仍御秡大麻并扇子・帯makura拝領候、自然參宮之砌、萬端奉憑候外、無餘事候、恐惶謹言、

八月七日　（佐藤）家次（花押）

大神宮福嶋御鹽焼大夫
御報

三重はた

書状並ビニ大麻扇子等ヲ謝ス

一七五　回春庵墓地寶篋印塔銘　○大分県金石年表二　大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

奉彫刻石塔一宇妻也、

爲圓寂椿齢妙壽大姉覺靈、

天正十六戊子十月日孝子、

故椿齢妙寿ノタメ石塔ヲ建ツ

故大竜宗京ノタメ石碑ヲ建ツ

志賀道輝ノ代参

一七六　回春庵墓地墓碑銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字井迫字森迫回春庵墓地

爲圓寂大龍宗京庵主覺㐂也、
天正十六年戊[子]十一月二日立孝子、

一七七　天正十六年參宮帳寫

○後藤作四郎文書
大分県史料二五

（表紙ウハ書）
「天正十六年　參宮帳」

（中扉ウハ書）
「
天正十六年
豊後國惣國
肥後國惣國　御參宮帳
豊前宇佐郡
日向土持庄
○上
略
天正十七年十二月廿七日ヨリ正月一日まてたいりう有也、
、豊後南郡志賀伊勢入道御代官參りニ、」

三重郷

三重郷

（三重）みゑの庄矢野掃部助殿御參宮候、
伊勢入道殿と申ハ道輝（志賀）之御事候也、

○中略

天正十九年五月八日
、豊後大野郡三重郷宇目村しゆ一人

妙音寺之慶壽

○下略

（殿語）「右大正十六年參宮帳
豊後國大分郡乙津村後藤作四郎藏本、明治二十年十一月編修久米邦武文書採訪ノ時、大分縣廳ニ托シテ之ヲ謄寫ス、」

一七　豊後國檢地目錄案

○西寒多神社文書
大分県史料二五

豊後國御檢地目錄

一分米高三萬九千八百五十六石壹斗壹舛　國東郡
一分米高貳萬九千貳百七十八石八斗壹舛　速見郡
一分米高貳萬七千百三十六石七斗　海部郡
一分米高三萬三千八百五石貳舛　大野郡

三重莊矢野掃部助

三重郷宇目村衆

妙音寺慶寿

大友吉統豊後国検地目録ヲ献ズ

大野郡三三八〇
五石二升

一分米高貳萬四千十四石八斗九舛　直入郡
一分米高壱萬九千九百廿八石八斗五舛　玖珠郡
一分米高貳萬貳千四百廿五石五斗四舛　日田郡
一分米高三萬八千三百四十石八斗九舛　大分郡

以上

右合廿三萬四千七百九十貳石壹斗
此外鹽高千三百廿八石壹斗貳舛
右米鹽之都合廿三萬六千廿石貳斗貳舛

右内三千九百四石六斗九舛、荒地在之、

天正十九年辛卯八月吉日　羽柴豊後侍従　吉統
（長盛）
増田右衛門尉殿

一七九　大友吉統條々事書

○大友文書
大分県史料二六

○天正二十年二月十一日。「大野荘史料」三七一号ニ収ム。本文省略。

一六〇　中玉田羽田野家供養塔銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大字玉田、中玉田羽田野家

故道椿禅定門ノタメ供養塔ヲ建ツ

爲畈眞道椿禪定門也、
天正廿年壬辰八月卅日

一六一　豊臣秀吉朱印状（折紙）

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

秀吉竹・板木ノ預リヲ秀成ニ命ズ

去年山口玄蕃頭（正弘）爲奉行、伐置候竹之事、并宇目（三重郷）ニ在之板木、請取置可申候、猶山口玄蕃頭可申候也、
（文禄三年）二月八日　（豊臣秀吉）（朱印）

中川小兵衛尉（秀成）とのへ

一六二　長束正家書状（折紙）

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

太田一吉ニ秀成知行所内ノ百姓ニ種作食ノ借付ヲ命ズ

以上
中小兵（中川秀成）豊後へ被遣に付て、大野郡之内、御知行被　仰付候、然共百姓種作食ニさこく可被借付旨、
先度両三人折帋遣し候、被任其旨、貴所御手前被納置候分、彼百姓并小兵衛殿ゟ御理之分、御借付

尤候、御近所ニ御座候間、小兵衛殿儀、別而御入魂頼存候、其段於(樂)聚樂申談候つる、御初入之事候
間、涯分御有付尤候、恐々謹言、

(文禄三年)
二月十九日　　(長束)長大藏
　　正　家（花押）

(太田一吉)
太小源五殿
御宿所

下村森迫名内回春庵前住正周八面碑ヲ立ツ

一八三　大辻山上八面碑銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大辻山上

「大日本國豊後刕大野郡三重鄉下村森迫名內回春庵前任文叔座元正周立焉、太閤秀吉御代時　金上
皇　文祿五丙申八月十八日天長地久現世安穩後生善處、同心表椿妙學居士、作者內山行乘」
「椿齡妙壽大姉」
「大龍宗京庵主」
「法月座元忍禪師」
「利天和尙貞禪師」
「權大僧都增重尊灵」
「輕雲座元重禪師」
「□翁座元隣禪師」

「自替廿蔗二三孫送衣下法恩塔頭何面目是箇鐵崑崙」

一八四　大辻山上方碑（二基）銘

○大分県金石年表二
大野郡三重町大辻山上

「（第一基）
成等正覺廣度衆生」

「七世父母六親眷屬文叔座元正周立焉、妙花・妙鳥・妙風・妙月・妙雨・妙夕・妙霜・妙雪、文祿五年丙申八月十八日、」

「（第二基板碑型）
南方無垢世界爲鶴峯妙松大姉壽位、座妙法蓮花臺」

「萬象森羅之自性梵房寄跡佛乘緣耶愉陀羅變成女心地回春大裡蓮」

「文祿五年丙申八月十八日修善正天文叔座元正周立之、」

「西方廣目天王」

「北方多聞天王」

「東方持國天王」

七世父母六親眷屬ノタメ文叔座元正周造立ス

鶴峯妙松ノ寿位ノタメ

文叔座元正周

一八五　大友氏段錢・准田錢催促奉書書札禮

○當家筆法之抄條々
増補訂正編年大友史料三一

○「大野荘史料」三七五号ニ収ム。本文省略。

一八六　豊後國大野郡三重郷御検地帳

（廿四冊）寫（本文省略）

○渡辺澄夫蔵本
大分市大石町四ノ三

（表紙）

慶長貳年　市村与拾貳ケ村之内

豊後國大野郡三重郷御検地帳　上ノ村　市　村

大田飛驒守帳寫

○慶長二年「飛驒帳」写計廿四冊。次ノ五群ノ写帳ニ仕立ツ。各冊ノ村位・村名ヲ掲ゲ本文省略。

地域別	村位	村名	冊数
	上ノ村	市　村	一
	中ノ村	玉田村	一
	上ノ村	内田村	一
	上ノ村	松尾村	一
(一) 市村与拾貳ケ村之内 ○計九冊。十一村アリ。一村分不足、欠巻ナラン。	下ノ村	小坂村	一
	上ノ村	下赤嶺村	一
	上ノ村	上赤嶺村	
	下ノ村	川邊村	一
	中ノ村	久原村	一
	上ノ村	百枝村	一
	上ノ村	西原村	
(二) 内山村与七ケ村之内	下ノ村	内山村（松平共二）	一

○計三冊。松平ヲ一村トシテモ六村トナリ一村不足。欠巻ナリ。

下ノ村	羽飛村	
中ノ村	肝煎村	一
下ノ村	恩塚村	
下ノ村	久知良村	一

(三) 宮尾村与拾七ケ村之内

○計五冊。村数十一村。六ケ村分欠巻ナリ。

上ノ村	淺水村	
下ノ村	宮尾村	一
上ノ村	深野村	
下ノ村	又井村	
中ノ村	宇對瀬村	一
上ノ村	森迫村	
下ノ村	德嶺村	一
中ノ村	田原村	
上ノ村	寶泉庵村	一
中ノ村	芦刈村	
上ノ村	菅生村	一

(四) 山中与四ケ村之内

○計二冊。村数三。山中村ヲ欠ク。

中ノ村	小津留村	
中ノ村	田町村	一
中ノ村	向野村	一

(五) 下畑与拾五ケ村之内

○計五冊。村数十五ケ村ナルモ、下畑村見エズ。

下ノ村	大内河内村	
同	折立村	
同	津留村	
同	奥畑村	一
同	白岩村	
中ノ村	竹ノ脇村	
下ノ村	石ノ上村	一
中ノ村	細枝村 白岩村共ニ	
下ノ村	出羽村	一
中ノ村	田中村	
下ノ村	山ノ口村	
中ノ村	入北村	一

下ノ村	木原村	
下ノ村	谷ケ平村	一
上ノ村	小原村	

○本帳ハ臼杵藩領文禄・慶長検地帳写七十六冊ノ内ナリ。大分県指定有形文化財。

一八七　中川秀成恩賞宛行状（折紙）

○深田文書
大分県史料一二

（包紙ウハ書）
「御感状」

以上

今度於臼杵表、（城主太田一吉）首討捕、手柄之至候、向後尚以可忠節事、不可有緩、宇目内田代村百貳拾石遣之條、可全領地者也、仍状如件、

（慶長五年）霜月十一日　　修理大夫（中川秀成）武（花押）〔ナシ〕

深田和三郎（忠親）殿

臼杵城攻メノ忠節ヲ賞シ宇目村内百二十石ヲ宛行フ

○〔　〕内ハ『増補訂正編年大友史料』二九所収文書トノ校異。

一八八　中川秀成知行方目録

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

○慶長六年四月十六日。「大野荘史料」三七六号ニ収ム。本文省略。宇目郷（四千百四拾石六斗弐合）ガ中川氏領トナル。

一八九　重岡キリシタン墓碑銘

○大分の石造美術　南海部郡宇目町大字重岡

キリシタンるいさ死ス

元和五年
るいさ
正月廿二日

○大分県指定史跡。

付録

一　宇目梓山覺書（一冊子）

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

梓山ヨリ諸々方向道法ヲ録ス

梓山之覺書

一梓山東西へ長し、國見峠より豊後杉日向杉ハ午ノ方也、豊後杉日向杉ハ梓より八戸へおり候尾筋ニ有、

一豊後杉日向杉ノ間、貳拾四間程也、

一豊後杉ゟ梓ノ峠迄拾三町程也、同所三足ノ馬場ハ大杉ゟ六七町國見ノ方也、

一梓ノ坂ノあかり口ノ峠ゟ國見峠かく石迄五町程、かく石ゟわりこ谷迄拾町計、

一わりこ谷ゟ長谷のあかり立くろ土峠まて拾七町程也、長谷にミそ川有、すいが谷へなかれ出る也、

一黒土峠ゟ城之越ノ三辻迄拾壹町計、

一城ノ越ゟ井ノ川がたをノ壹里杭迄八町程、

一梓ゟ日向ノ内八戸村ハ巳午ノ方、梓ゟノ下着ノ在所也、此道壹里半計、

一梓ゟ日向之内下赤村午未ノ方也、此道壹里計、
一梓ゟ日向之内志いや村未ノ方也、此道壹里餘計、
一梓ゟ日向之内上赤村甲（ママ）ノ方也、此道貳里計、
一梓ゟ宇目之内桑原嶽甲酉（ママ）ノ方也、桑原村ハ酉ノ方也、此道三里計、
一梓ゟ宇目ノ内藤河内村酉ノ方也、此道五里計、藤河内嶽ハ甲酉（ママ）ノ方也、
一梓ゟ宇め之内木浦も西山も戌ノ方也、梓ゟ木浦迄道五里也、かち道ハ四里也、
一梓ゟ宇め之内屋なせ村ハ戌之方也、此道四里半計、屋なせノとや山ハ酉ノ方也、
一梓ゟ宇目ノ内田代村ハ戌亥ノ方也、此道三里計、
一梓ゟ宇目ノ内藏小野村ハ亥ノ方也、梓ゟ宇目へ之下着ノ在所也、此道三里計、
一梓ゟ宇目ノ内田野村ハ子丑ノ方也、梓ゟさかり村へ行下着之在所也、此道貳里半計、
一梓ゟ宇目之内すいか谷ハ戌ノ方、梓峠ゟすいか谷之古屋敷迄貳拾七八町計、上赤村ゟくすの木峠を越シすいか谷を通り長谷へ出る道有、
一梓ゟ宇目之内きり畠村之鳥屋山戌亥ノ方也、此道壹里半計也、
一梓ゟ宇目之内城ノ越しの古城ハ子ノ方也、梓ゟ田野村藏小野村へ下申候三辻也、
一梓ゟ宇目之内駒なき峠亥ノ方也、宇目之内中津留村ゟ藏小野村へ越ス峠也、峠ニきふねと云城山あり、山のいたたきせばし、薩摩もの打入三年已前ニ岡ノ城ゟはり番を置候所也、此道三里、
一梓ゟ宇目之内ふくが嶽ハ卯ノ方也、此間貳里半計、梓ゟ道なし在所なし、

一梓ゟ宇目之内惣太郎村寅ノ方此間貳里計、是も梓ゟ道なし、

一梓ゟ宇目之内屋が嶺ハ寅ノ方也、此山ハ東ハ日向領也、西ハ豊後ノ内御領分也、此間三里計、是も梓ゟ道なし、

一梓ゟ宇目之内大原村ハ丑ノ方也、屋か嶺をこす道ノ下着也、此間四里半計、

一梓ゟ宇目之内内田村ノ朝日嶽と云城山丑ノ方也、薩摩もの打入之年掛申由也、山ノ頭せばし、

一梓ゟ宇目ノ内千束村ノとび山ノ古城ハ子ノ方也、薩摩もの打入已前ゟはり番を置候由也、此道四里計、

豊後へノ脇道

梓山近邊日向ゟ豊後へ越スわき(脇)道、

一日向之上赤村ゟ宇目ノ内桑原越ニ道有、荷馬ノ通る道也、此道ゟ木浦へも田原村へも出る也、木浦ゟ桑原迄貳里計、桑原ゟ梓山之大杉迄貳里半計、

一同上赤村ゟ梓山之内長谷へ出る道有、舟わたりノ川有、長谷ゟ上赤村迄道壹里半斗、荷馬ノ通る道なり、上赤村ゟ此方御領分楠峠へ出、すいが谷を通り長谷へ出る也、

一同くづわ村ゟ此方御領分惣太郎村へ出る道有、但かち(徒)道也、

一同屋か内ゟ屋が嶺越ニ道有、宇目ノ内大原村へ出る道也、荷馬ノ通る道也、此屋が嶺ハ有馬殿領分とこの方御領分と嶺分ニ堺也、森市三郎(毛利高直)殿領分も少山ノ尾筋ニてさかふ也、宇目ノ内大原村ゟ日向之内屋か内村迄三里計、此屋か内ゟあかた(県)へ出る道筋竹のくし越本道也、又川内通りくづわ村へ出てせ口村に而竹のくし越と出合申也、荷馬も通る道也、日向ノ八戸村貳里行て野嶺と云村

にてこの屋が内通りノ道梓こしノ本道ニ出合也、

一日向と佐伯と境ノ山ノ出さき海はた迄續也、此でさき梓ゟ卯辰ノ方之由也、日向ゟ佐伯へ越ス道三筋有之由也、此道筋、

一日向ノ加ち地村ゟさいきノ内赤木村仁田原村へ出るかち道也、

一日向ノ内三河内村ゟさいきノ内かたゝ村へ出るかち道也、

一日向ノ内宮ノ浦ゟさいきノ内まるいちび浦へ出る道有、寸馬ハ通る道也、

右日向ゟ豊後へ越ス道筋共梓越ニ增たる道ハ無之由也、

岡城ヨリ梓山マデノ一里杭

一岡ノ御城ゟ梓山ハ辰巳ノ方也、梓山ゟハ御城戌亥ノ方也、岡ノ御城ゟあづさ山ノ豊後杉迄拾四里也、此壹里杭立所、

壹里　草深野村
三里　川宇田村ノ内ゑざりがせと
五里　松が平
七里　留返しノ坂下奥畠ノ方也、小野市村内棒か畠
九里　
拾一里　重岡村
拾三里　わりこ谷
貳里　諸方ノ下自在村
四里　こしろの村
六里　奥畠村
八里　宇目ノ内こうだうの村
拾里　さかり村
拾二里　梅木山之内井之川がたを
拾四里　梓山豊後杉

一梓ゟあがた有馬(直純)殿居城ハ巳午ノ方也、豊後杉ゟあかたノ城迄七里也、あかたゟさゝ野迄七里也、此さゝ野村ハ有馬殿と秋月(種春)殿との堺也、耳川ゟ壹里餘あかたノ方也、右梓ノ大杉ゟあがたノばくろう町まで七里ノ壹里杭立所、

大杉ゟ壹里　八戸ノ内小河原大杉ゟ下着也、
二里　八戸ノ内めながせ
三里　ゆふぶ村
四里　長井之内中角村
五里　すさ村
六里　むしか村
七里　あがたノばくろう町

一梓ゟさいき(佐伯)の森市三郎殿居城ハ丑寅ノ方也、此道拾壹里、

一梓ゟうすき(臼杵)稲葉(一通)殿居城ハ子丑ノ方也、此道拾三里、

一梓ゟ府内竹中(重義)殿居城ハ亥ノ方也、此道拾七里、

(包紙)「宇目
梓山之覺書　壹册
(朱書)「三拾五」」

二　深田姓家系世譜

○深田家文書
鹿児島市深田浩見蔵

(表紙)「深田姓家系世譜

深田　本國豐後

家紋

薩摩守平忠度有男、名那智丸、壽永之亂、避難遠逃西海、潛行豐後國海邊郡佐伯浦、海人憐其公子、深匿其家、後數年緒方三郎惟榮歸自上州沼田、新賜佐伯庄來邑、於此其後惟榮知那智丸、潛匿此浦、尊養爲客、裂邑封海邊郡佐伯庄深田邑、因是那智丸首服稱深田太郎春時、自爾以來世食其邑、爲佐伯家老臣、

薩摩守平度長男

深田太郎春時十二代

深田彈正忠

○○平忠基

室

前名彌八郎

深田安藝守

忠清

室

系圖一作安房忠靖

明應年中家系相續佐伯家老臣

年月不知筑後國星野征伐之時戰死、

前名新八郎
深田伯耆守
忠實
室
年月不知
大永七丁亥年九月忠死于豊府千手堂、

忠統　深田彌太郎
忠豊　深田彈右衛門
大永七丁亥年冬、依大友義鑑命、父忠實家系相續、年月不知又大友義鎭命、兼續深田新三郎忠貞家、亦兼續森嶽周防守家、

□　□
深田舍人助
治貞
佐伯家沒落後、始仕大友家、賜別知住三重鄕、

□　前名新助
□　深田三郎左衛門

前名八郎兵衛
深田織部佐
鑑忠
年月不知家系相續、
大永七丁亥年佐伯惟治沒落後、始奉仕大友義鑑、賜三重鄕宇目村、賜御一字號鑑忠、任織部佐、

深田掃部助
忠利
室
年月不知、家系相續、格祿如父、

忠貞 ― 室

勤仕大友義鑑、

實深田伯耆守忠實次男
深田彈右衛門

忠豐 ― 室　志賀秀右衛門□□女　寛永三亥年正月十九日卒、
江月院桂林妙昌大姉

永正十一甲戌年生、
年月不知伯耆守忠實家系相續仕大友義鎮、
年月不知大友義統時、依命兼續深田新三郎忠貞家、
年月不知義統時、又依命兼繼森嶽周防守家領酒利村、
文祿三甲午年奉仕、
秀成公宇目惣支配、
在勤年數不詳、馬飼料貳拾石其他如故、
年月不知隱居同時、更名宗圓、
慶長十三戊申年九月廿八日卒、享年九十五、
法號　明鏡院覺山宗圓居士

實志賀志摩守次男

忠親 ― 室　駒彈正　一女寛永元丑年九月二十四日卒、
智光院秋月妙林大姉

□□　深田次郎右衛門
年月不知離緣
實深田伯耆守親族
深田新三郎

○以下略

年月不知家督宇目惣支配
慶長五庚子年十一月十一日依軍功賜御感状、祿百二十石
在勤年數不詳、
寛永十癸酉年十一月八日卒、八十六歳、

○末尾ハ昭和ノ峯夫（渡辺要蔵五男）ニ至ル。奥書ニ「世譜代々調製ヲ加ヘ、整備ノ上、本世譜ヲ以テ巻一トナス。昭和二十六年四月二十日」ト見ユ。尚深田姓ノ祖ヲ平忠度ノ男那智丸トスルハ、裏付資料ナシ。

三　渡部氏系書艸案

○渡辺良司文書
南海部郡宇目町大字重岡

（表紙）「渡部氏系書艸案」

渡邊氏　本國攝津
家紋丸釼酸漿　萩（カ）角向地紙

渡邊綱末孫
出羽允重貞二十一代
渡邊大學源重都
重都弟
渡邊市助重直

渡邊大學重顯（シケアキ）
重頭トモアリ、
大學後影助ト改アリ、
二男者新助□□
五月上旬　江下り　居
天文十七戊申年從攝孟　豐後宇目鄕重岡、

天正十七己丑年ヨリ天正十九辛卯年マテ三十五年

天正十ヨリ文禄二マテ十二年

墓ニ年月ハ不知也、

墓ニ年月ハ不知也、

天正十七己丑年三月大友家ノ麾下屬シ、宇目郷下爪谷三ケ村の地頭成ル、重岡ニ居、宇目郷ニ地頭七人有、依て宇目七人衆ト云、渡邊・狛・市川・飛驒・平井・平山・佐保、此七家ナリ、渡邊其一ナリ、

一文祿二癸巳年大友家沒落後モ、其儘宇目居る、

一同三甲午年二月、

修理大夫秀成公御入國後大學由緒御尋有之、

宇目郷中之義賴　思召之旨、蒙　御意、郷中割元役被　仰付、爲御合力米五石を年々被下置、

一慶長五年庚子九月臼杵表御出陣之砌、大學幷悴甲斐二男新助百烈出陣仕、御供仕ル、

一年月不知、大學義酒造株壹軒永代御免被下置、

一年月不知、大學入道して圓周ト改、

一卒年不詳、大學七拾五歳ニテ卒、墓所重岡ノ內宮園ニ有、五輪ノ塔ナリ、

渡邊甲斐重綿（ヤス）　安トモアリ、

宇目郷割元役相勤、御合力米五石を年々被下置、

上川尻ハ郷中之眞中成故二男　新（カ）助連、上川尻ニ移リ、割元被勤、

卒年不知、七拾歳ニして卒、墓所上川尻ニアリ、

室安藤兵部女

一　女子　深田安藝嫡子彈右衞門妻○下略

二　女子　安藤久右衞門妻

久右衞門ハ梅木ノ地頭ナリ、○下略

三　渡邊半半重人

宇目郷割元役相勤、御合力米五石宛、年々被下置、卒年不詳、四拾七歳ニテ卒、

室渡邊孫助女

四　新助　父甲斐ト一所上川尻ニ居、

五　勘右衞門　鹽見園地頭飛驒内記養子、

○以下略

○下略

○頭注ハ原本ノマヽ。

四　大野郡三重町・南海部郡宇目町大字・小字一覧表

大野郡三重町

〇三重町固定資産コード番号表ニ拠ル。
大字ノコード番号ヲ付記ス。

大字	小字
01 菅生	（三重の原）大屋原、大屋、迫田、柳井瀬、尾清水、佐土、原ノ口、正吾、萩原、中原、助迫、椎ノ生、井迫、向田、五反田、大屋田、溝下、下半、大田、惣田、徳尾、菅生、木ノ崎、
02 井迫	（森迫）大辻、石生、一木原、ウソ平、真猿、山ノ下、回春、六反田、西ノ平、森迫、間所、長畑、前田、穴井、（又井）榎園、前平、井ノ迫、向尾、大つケ、潰入、麻浜、塚田、岩ノ下、唐木、北園、溝川、落水、中ノ迫、下リ山、堤ノ本、一ツ木、役場、
03 浅瀬	（宇対瀬）ガタ、江内戸、瀬口、乙黒、立岩、沖、津留、畑添、岩屋迫、日向志、尾崎、西浦、引地、伊立、大谷、丸蔵、内川野、小野、大山田、山田、笹原、（浅水）上久保、石室、井上原、植木、飛松、垣迫、野間、松木、沖ノ田、千田平、川澄、向田、迫田、
04 宮野	（深野）細長、芝原、簾、前原、平戸、京塚、高添、横畑、多々良、上ノ原、迫田、辰石、白木、切場、余所萩、（宮尾）有田、岩ノ下、的場、鍛冶屋平、岩崎、峰元、並木下、並木、浦田、

宮野	長迫、世継原、敷手、六反、宮尾原、田渕、中園、沓瀬、大ノ田、塚ノ原、来徳、丸山、小坂田、大原、横枕、周ノ田、中ノ原、脇清水、下津留、長田、瀬口、鶴牧、
05 川辺	上下田、梶、年神、泉、世原、ウソ、雨ケ瀬、谷合、迫、岩戸原、尾迫、中村、中原、西原、下原、灰園、
06 百枝	（百枝）岩ノ上、中原、シタタ、西ケ迫、梶原、石代、中梶、穴井、地大原、起シ畑、柿木平、長清津留、陳箱、ドウメキ、長迫、（大原）大原山、カラメ、（牟礼）宮田、松山、郡後、牟礼、群下、鍵の下、大平、鍵、宮山、牟礼越、楠田原、白田、松藪、大原、大原山、役場、
07 上田原	樋掛、原久保、立野、土柳、原、馬場、桑本、下津留、野中、辻、谷、井立、牟礼嶽、
08 西泉	（西原）園、田中、神ノ木、板屋、和田、（法泉庵）中原、折立、石田、
09 向野	川内、芝尾、舟木、竹下、火ノ本、姥口、稲ノ本、瀬畑、大谷、相ケ迫、梅ケ谷、角石、外田、平、仁瀬、六箱、浄土寺、中津留、下町、斗代、久保津留、下ノ脇、戸ノ上、神園、片平、大明神、田ノ内、中嶋、辻、羽山、一ノ谷、堺尾、馬角石、奥畑、河木谷、柿ノ木久保、山口、白畑、平原、大内川野、内川野、山ノ神、
10 市場	高市、高太郎、沖ノ田、弥源蔵、桑原田、広石、泉原、平吹、堀口、長沢、市後、竜泉坊、市原、桜馬場、（市場一区ノ一六区ノ行政区ニ分ツ）

11 秋葉

（肝煎二区）　中原、長沢、中原向、（肝煎一区）　平ノ前、妙竜、上津出、川細工、木ノ下、寺後、門田、　宮ノ元、　杉ノ元、（鬼塚）　年ノ神、鬼塚前、　ヌシ、鬼塚、　鳥越、　持寺、　宮ノ迫、　根細、（羽飛）　経塚、　貫崎、　多良志、　大石、　立野、　塚田、　大坪、　梶籠、　八丸、　森木、　上羽飛、　平野、風呂本、　目細、　刈又、　石蔵林、　尾谷、　イボシ谷、　大畑、　赤迫、　桜河内、　兎林、　河内、　日向シ、

12 内山

（内山）　天ケ迫、　下リ山、　鳥居木、　弐反田、　円徳、　新道、　北谷、　別当、　高城、　ヒロマチ、　桑津留、下ウツツ、　長畑、　上ウツツ、　カルイダシ、　上線道、　ガタ、　下線道、　桜将、　入道、　妙見、　産ノ上、庵ノ園、　中村、　西谷、　垣ノ内、　タタラ、　太田、　大川内、　戸ノ内、　ホリキリ、　水ノ戸、　大谷、蔵ノ内、（松谷）　ヒジリフチ、　カガミ石、　仏ノ手、　イヤノ元、　ウツツ、　マツバ、　ホリ田ノ迫、西ノ畑、　柿ノ木、　山中川内、　大畑、　中尾バネ、　スノ谷、　峠ノ下、　峠、　下峠、　ハキ、　タヲノ下、谷川、　小平、　駄原、　ハカドウ、　ナカトヤ、　ミナミバタ、　タカイワ、　フルヤシキ、　オク、　コフジ、カケウラ、　ユフジ、　ウシロバタ、　マエダ、　神ノ木、　タヲノ上、　地蔵ノ元、　八又、　コウムリ岩、ヒジカネ、　バショウ平、　トウノ尾、　田ノ下、　大石谷平、　辺辻、　清水迫、　立平、　イノカシラ、　大窪、タフノ木、　ツルノシリ、　白岩、　大田平、　大田窪、　山ノ田、　長迫、　鬼塔、（山中）　藤原ゴシ、板ケ平、　岩ノ元、　トノ川内、　吉原、　ザレ、　神ノ内、　井ノ尻、　万タイ、　川内奥、　西ケ迫、　山ノ口、尾平、　後谷、　フジカコエ、　稲干場、　辻の前、　柳原、　神ノ木、　広戸、　尾片前、　田城、　折付、　中迫、丸岩、　瀬間平、　岩原、　長尾、　辻ノ下、　小中尾、　ワサダ、　奥河内、　平富、　立平、　中茶屋、

13 内田

（久知良）　岩崎、　塔ノ迫、　鍛冶屋平、　平ノ下、　久成、　久知良、　長羽根、　吹上、　中島、　下中田、

内田	重政、山王、宝心、長熊、黒丸、原、原ノ下、山ノ田、東山、北山、高瀬、平野、平野奥、宇河内、梅川内、木戸山、中原、高野、岡入、（前内田）六反、扇田、（内田）上川原、下川原、原田、大サギ、黒枝、下ノ田、船戸、島田、河津留、横田、西平、六多田、地蔵原、六箱、浦谷、津留田、大林、吉井山、赤迫、井手瀬、米山、勘ノ迫、七曲、萱場、駄良原、
14 赤嶺	（下赤嶺）渕脇、郡田、郡田脇、久成、下タ田、久保田、綿田、圃分、天神田、志手前、八所、垣内、道ノ上、梶原下、角神、（三重の原）大原、（下赤嶺）杉崎、萩通路、千蔵坊、辻ノ平、宮畑、深田、上川原、御手水、年神、大宮田、今市、（上赤二区）大久保、茶屋久保、北久保、城ケ平、穴井前、松久保、榎平、西方下、塚田、下田、大光寺、
15 芦刈	屋応路、糸丸、津留前、台ノ下、無田ノ上、役場、大園、神ノ木、鷲原、大伝寺、金田、大間、スシノ下、原ノ田、竹ノ下、辻ノ浦、重田、
16 小坂	石場、西畑、尾畑、松場、湯船、立目、麻生原、大久保、シヤ、シノバ、若山、茅場、潰平、楠牟礼、下楠牟礼、尾ノ上、焼田、中ノ原、中道通、天ノ川、山神、石生、下ノ前、恵良田、小広瀬、嶽ノ下、北、大塚、大小坂、氷田越、赤嶺原、二トダイ、権現堂、谷川原、川原、柳井瀬、植木、銭坪平、
17 松尾	（広瀬）向広瀬、広瀬、古坊、才田、（高屋）竹ノ上、間ザイ、ワク立、田ノ平、松ノ木、平原、灰立、中原、（松尾）城山、大門瀬、山口、元松尾、内ケ畑、木ノ丸、辻、楠ノ木、塚田、馬場、

松尾	和下、中島、岩下、内平、風呂上、コヤソノ、
鷲谷 18	田渕、泉、向田、下園、角ノ平、山門、鴨ケ畑、和下、芝尾、潰ノ内、角良、中尾、稗畑、大平、若山、日平、沓掛、轟、椎ノ木、坂本、芳奥、並石、大並石、
西畑 19	（入北）左迫、池ノ奥、橋ノ元、桐原、エラ、西ノ道、小松下、イン田畑、平畑、狐迫、地蔵原、向ノ原、下原、平ノ川、塚畑ケ、湯船、道畝町、（西畑）榎木田、向田、上原田、山平、上川原、上小リ戸、竹ケ迫、上小川原、山田、堀田、栗迫、西平、
山部 20	（片内）神ノ谷、神山首、ヒラ天神、神ノ谷、空ノトウ、下ノ久保、長迫、塚田、ヒラノソノ、塚畑、長迫、上ノ山、中畑、迫ノ前、中畑、稲干場、中畑、チシヤノ木、稲干場、堀田、チシヤノキ、木浦畑、石原迫、山梅、チシヤノキ、カゲノ下、木浦畑、カゲノ下、立戸、樋イ口、立戸、カゲノ下、立戸、樋イ口、立戸、柿ケ原、切干シ、井ノ本、坂口、ヒモノクチ、井田ケ迫、ヒモノクチ、竹藪、井田ケ迫、竹藪、ヒモノクチ、榎ノ木平、竹藪、樋ノ木平、後口久保、榎木本、岩ノ下、後窪、井田ケ迫、樋イ口、井田ケ迫、樋イ口、井田ケ迫、樋イ口、坂ノ迫、平天神、井田ケ迫、灰クビ、 ○同一小字多キモ、コード番号ハ異ル。
玉田 21	（下玉田）西方、扇平、尾登、玉田前、中園、尾迫、釘森、堤下、岡田、下市原、久部、水田向、（中玉田）寺島、上市原、壱反畑、松ノ木、向田、才北下、水田、中ノ原、才北、井ノ平、沖ノ田、恵良前、前田、高薄、西ノ久保、大迫、入来、恵良奥、菰口、向玉田、

久田 22

（山方）上谷、福手坊、産ケ津留、蔵ケ崎、角間、前久保、寺畑、大戸口、平原、内ケ城、向山、ナメシガタ、柳田、中尾、四ツ割、堀ノ下、産ケ谷、ダラ原、谷口、神ケ辻、藤田、コモグチ、（山田）大師元、山田前、津留前、高札元、田平久保、下中尾、栗浪、津留後、表合、後田多、田ブチ、池田、（中尾）黒岩、植松、神目寺、石代、鍛冶元、中川、沼、小又、名入、山田、大楽寺、小平、妙見蔵、四ツ迫、小迫、（久原）堂尾、丸山、山後、東平、井上、松迫、樋口、釜立尾、堂下、黒土原、田尾、西平、上高小野、大久保、長瀬、米山、後久保、尾入崎、荒平、八石、坪井、谷川、引地、下長崎、辻谷、下深小野、藤瀬、脇ケ谷、川井苅、間在谷、黒山、長崎、大田、中畑、丸山前、鍬迫、迫段、尾迫、迫、中居、津留、次原、台、台後、清水、浦久保、原久保、尾迫、鉢久保、柳瀬、樋谷、尾首、綿打、嶽後、芳迫、黒市、駄原、大尾、

小田 23

（小津留）一本椚、下谷、桑ノ迫、上谷、堤谷、登尾、山ノ神、カシヤ道、向ハケ、シヨウケ迫、トヤタ、板ケ平、大田、カハラ田、本城、越中平、伴代尻、辻、向畑、トヤノハナ、大平、柚本谷、ウトイチ、川内下、河内浦、中ノ迫、舟ケ迫、瀬戸内、市ノ原、本小津留、津留ノ上、津留ノ下、竹、大谷頭、（田町）大ノ谷、年ノ神、タイラ、中ノ浦、浦久保、下津留、ヲモテ、下ノ田、上ノ田、野々首、白石、ソエタ、トヤ、神ノ下、奥畑、ヨタテ、柿ケ畑、柿津留、甲斐倉、福土、栗木津留、樋口、大田前、立石、増氏、瀬ノ口、イガイガ、

本城 24

（高寺）梅ノ木、竹ノ脇、西谷、大園、河原、千帖津留、竹内津留、相馬、田中、津留、山口、原、椎木山、宇土ノ口、相馬河内、河内、大河内、大迫、（深田）中山、上スノ谷、竹ノ久保、

本城	ヘキゴ、長久保、スイ谷、ムクノ木迫、ハシリクダリ、ウソ久保、大園津留、渡瀬元、向原、中嶋、上ノ久保、池田、古深田、上迫、柚木原、座頭替、十門、安養寺向、安養寺、尾入、門田、深田、深田前、原、
25 大白谷	（久部）石場、久部、谷川、引地、河原内、梅津、前平、長部庵、柱木、柚河内、椢（ママ）ノ木、下園、大内、谷迫、八坂、竹ノ下、コチジ、竹迫、田平、中戸下、ウツウ、尾園、西、下ツル、山中、ヒロセ、石ノ上、下長迫、カケ、新立、竹コジ（ママ）、真竹平、月ノ木、奥ケ迫、梅ケ迫、稲積、（白谷）中山堺、藤ケ谷、ツエヌケ、古森、船木尻、エボシ谷、タタミ畑、立石、長畑、木落平、久保尻、堂尻、ハン口、黒嶽、楠平、大石久保、水ケ迫、柚木平、古道、木和田、長ケ迫、ハキ、鶴ケ岩、大藪、大石ケ迫、椿ケ迫、桑河内、ヒロセ、ユスノ木、塚ノ上、立道、大津留、小谷、小津留、宮ノ津留、天神ノ上、宮ノ前、原、中津留、尾畑、船板、ウソ、桑河内、傾山、彦惣、城山、松平、大久保、ヒセ、ヲモソノ、西ノ川、津留、松尾、灰岩ケ迫、前長内、大長内、桃木久保、
26 中津留	宮ノ尾、中、鹿毛、尾平、山下、黒瀬、轟木、中津留、打越、鷹取場、稲積、梅津、石町、迫ノ木、妙見、申子、若宮前、道ノ内、本谷、若宮前、中ノ谷、新屋、押川、盛迫、中尾、戸ノ上、津留、轟河内、市ノ瀬、福河内、太田、野平、申場見、熊ケ谷、広野、吉原、大藪
27 伏野	（中津無礼）菅ノ谷、堀元、雨面、北平、堤迫、堤峠、梨ノ木久保、平野、竹ノ畑、山中、萩迫、花立、横イ場、タカス、井手前、小津留、カキド、北津留、スリ岩、山神、ニタ尾、下津留、

伏野

水ケ平下、水ケ平、深入、小田平、ハチノ久保、辻、浦、日平、石ケ迫、（大無礼）福原、坂本、下ノ迫、焼屋敷、尾ノ迫、尾ノ奥、新ブ一、谷の山、松ケ平、屋敷、長迫、古川平、桑津平、（大無礼）猿迫、堀井、萩合、鬼石、荒戸、大牟礼小津留、風呂本、芝原、本大牟礼、延命、堺ノ尾、（内平）萩ヲ迫、植木迫、柳迫、雨藤、茸木、マミカケ、風見畑、ナル元、中尾、田ノ平、才内、才畑、荒平、

奥畑 28

（代）樋ノ口、長迫、田ノ迫、小迫、橋ノ本、板屋、竹、津、土屋田、川平、奥畑久保、金ノ迫、船木、空曽、大木ノ本、神ノ内、板屋尾、南ケ嶽、スタノ木、井ノ子平、越田尾、赤迫、山下平、落水、弥三野地、藤ケ越、上藤ケ越、小立岩、由ノ迫、猿ヒダイ、奥柳平、柳平、荒谷、矢田久保、和平屋敷、小迫、赤岩、大崩、代尾、代、引地、下毛駄原、与立、畦原、津留迫、大寺庵、（奥畑）堺ノ尾、佐土久保、入込畑、カイデ、登尾、後口河、山出、辻、谷頭、高平屋、ハナ田、上ノ久保、広町、駄原、尾流、轟河内、ケカチ、堀小屋下、銭フウ、小迫野地、柚河内、山ノ道、頭名、脇田、福原、福原前、風呂ノ元、尾先、大藪、大田久保、山中轟、土屋、尾谷、竹脇、惣見、向上、松ケ迫、高飛石、界久保、塔ノ元、茶屋元、楠ノ元、下後谷、後谷、三畝町、平畑ケ、高野、茶木畑、真茅、平、平ノ奥、竹ノ元、松ケ迫、ハンノ元、谷平、日向瀬、板井細、荒立、北平、山ノ下、ハチク山、尾畑、松ノ元、巣ノ谷、次坂、葛迫、下平、黒田、井ノ頭、黒松平、蜂ノ巣、蜂ノ巣尻、真竹ノ元、榎ソノ、庵、松原、由ノ奥、立道、田ノ平、天神山、十畑ケ、北ノ畑、井ノ尻、小石元、本田、原、カケ浦、谷、中ノ迫、道面、田尾園、宮ノ下、沢水ケ平、（板屋）八ノ久保、木戸下、西、中井間、市道、金ノ尾、野中、近角、四楽田、石休、高木、

花立、本小木浦、四郎田畑、ヲモノ木、弥三、桑津留、赤市、大平、谷ノ内、横平、井平畑、

奥畑

高岩、ウ子久保、空、轟、柳久保、緒方園、戸ノ下、原ノ木、原ノ水、深田、田原、三石、竹平、タキシタ、仁ノ尾、梅木平、中畑、次原、押ケ、前押ケ、渡リ上リ、庚申塔、金神岩、山中、雲渕、井場、（佃カ）迫、田尾、シヨウノ小屋、今通、米納戸、原内松、床ノ内、熊ケ谷、広原、

南海部郡宇目町

○古来大野郡三重郷ニ属スルモ、明治二十二年市制町村制施行ニヨリ小野市村ト重岡村ノ二村トナリ、昭和二十五年南海部郡ニ編入、同三十年二村合併シテ宇目村トナリ、三十六年ニ宇目町トナリ今日ニ至ル。

大平

平野、カイモト、清水ケ元、小田代、上仲江、井手原、新貝、伏部野、タルサワ、伏部野河内、大坪、久保内、下ツル、クワノキ、向谷、菅、原元、石原、太田、押ケ谷、長内、宗田、越、仲山、奥谷、小野ツル、タカノス、上、通山、ヒヤケ、梶ケ野、井取越、梨ノ木、大原、小田、岡田、芝原、狸穴、落畑、仁田ノ原、ヤビツ、小池、立花、

小野市

下ノ谷、坂口、杉ノ内、集り、集り口、大風ノ木、吐、竹ノ迫、大沖、ヒイジ畑、ヤヨ石、籾畑、外園、香地、御堂ノ瀬戸、御堂、中園、小野ノシモ、天神山、向石場、八片川内、古畑、落畑、小井手ノ平、御蔵の元、平野、ビハダ、日ノ内、二又、寺ノ迫、横瀬、日平、轟川内、トギ石、中ノ内、中尾ノ迫、台、一ノ内、山川、エンタ畑、黒土、赤迫、楠久保、カンネ迫、大荒内、小荒内、土取、上ノ園、柚ノ木迫、（上津小野）中ノ原、普請河内、普請河内奥、普請河内カゲ、

小野市

ツブテ、柿迫、ドヲゲン、岩屋、タカノス、迫ノ田、広見、ウスギ、広見カゲ、桑ツル、中村、七カルイ、井手ノ元、トビヲ、トビヲ奥、山居川内、モロジ畑、モロジ畑奥、相ノ津留、ハキカゲ、長内、ハキ、原ノ下、アイノツルカゲ、竹畑、サンマ山、ゼブチ、萩ノ津留、西、養徳庵、（釘戸）、堤内、題ケ迫、本久保、米ケ津留、平瀬、野中、双子嶽、迫ノ奥、宮園、新徳寺、田ノ頭、井手ノ津留、新田、長迫、土屋田、中山、榎峠、（小峠）、葛根迫、山ノ内、芳ノ迫、清水目、切寒、小畑、楢ノ木、スノ内、井ノ上、長福寺、大倉、上大倉、板ケ迫、小松ケ野、中津留、木切畑、市野瀬、喜太郎、瀬戸、塚田、小田、椿原、榎畑、稲荷山、柚ケ野、五郎田、久保見、中洗、向洗、上洗、柏山、一ツ戸、夏畑、赤松戸ノ上、楠津留、小雪白、上桑ノ木田、弥惣、大石川内、ヒモノ木、黒井河内、原、柏原向、小豆穴、柏原、渕ケ平、井手ノ平、平、黒原、下桑ノ木田、後畑、古屋園、山ノ田、笠木、塩田、赤木、七迫、野ノ中、菰ノ元、（越野）（上台）

河内

山ノ神、南、井尻、下河内、スゲ田、上河内、松河内、ヨコイハ、ナギノ、ヌメリ石、山ノ口、黒岩、奥河内、桑ノ木畑、野ノ中、井手ノ上、苺津留、宮ノ元、ソノ田、東曲木、京城、木落、桃ノ木、桐ノ木、上ソノ、ハセノコエ、（神田）

木浦内

井ノ坪、大久保、奥江、射場ノ本、東平、堀口ハキ、下津留、小原、神原、角ケ渕、岩ケ屋谷、後山、真ノ内、ユタンカ迫、大瀬原、大瀬原上、イボシツル、御泊、中ノ迫、払鳥屋、ハタ、ホドノツル、太田、キヌヲリ、ハタゴ、悪所内、村向上、銅山、上ノ平、皿内、小津留、日平、新藤治郎、柄長松、真入道、東床、申津尾木、新百姓、神事、モチガセ、赤樫、マカヤハル、

木浦内

釜峠、本道上、笹田尾、峯、落水、椿原、原、トヤハル、柿ノ木、サコノ越、茸ケ迫、大刈野、桧尾、鋸切、夏木、並松、奥ケ迫、竹野、上向フ、藤河内、皿久保、堀切、

木浦鉱山

園山、大平、天神原、大切、瓜谷、竹田町、長門町、岩屋地、上町、釜峠、柴屋、

塩見園

辻ケ畑、下原、川又、千束田、下タケ、ダイズケ迫、狸河内、仲島、和田、下津留、仲津留、仲ノ地、今城、タクミソノ、小内田、長トロ、ヲキノ内、山瀬、大久保の内、長迫、長崩、城下、三反田、津留前、竹ノ上、ヨコタ、高谷口、山下、立田、宇戸木、野仲、沖野田、ヲンタ、新賀意、灰木、仲畑、肥畑、楠木畑、代、坂元、松原、代野田、カシヤ、上原、河ノツル、八舛蒔、折戸、長内、園、井ノ口、太田、松三、大三、大丸、今立、坂水、（塩見）（八匹原）（日平）（影平）（見明）（花木）（上爪）

重岡

仲江、市園、重岡、宮園、吉祥寺、泉園、室屋津留、市園、代ノ田、椎ノ木、大畑、貝首、ヲキナコシ、宮野、神原、ナメシト、桐ノ木、小野、下原、後畑、長畑、鹿取、芋野瀬、小長谷、戸ノ上、新道、蔵小野、長谷、村奥、拾六谷、アラヒラ、清谷、大内原、ハナグリ岩、向小野、八千川、尻堤、大河内、田野山、登力、上ノツル、敷倉、田野、天神田、兎畑、笠作、大又、松原、鹿乗、コソノ、黒岩迫、小迫、畝原、舛ケ谷、田野河内、赤松、村山、宗太郎、赤木谷、エゴノ、切込、割子谷、水ケ谷、仮野、広カリ野、水無、板戸、イチゴヤブ、（三本）

千束

市ノ瀬、今宮越、折戸、中尾、登尾、向前田、中平、ヨセフタ、小畑、下柿木、ウツギ、上柿木、

千束

蕨野、落合、弓久、通山、田仲、上田仲、後畑、清水ケ元、ナギノ、ナガエ、瀬ノ口、桐ノ木ケ頭、大石川内、引地、井手ノ平、米ノ山、餅河内、草木河内、草木、門ノ下、柿ノ木津留、迫田、坂瀬、山ノ口、清ノ木、下清ノ木、前田、伏野、市ノ口、千束、産ケ迫、カミナリ、鎌ケ畑、土屋原、豊藤、下津留、渕ノ上、（酒利）（柿木）（岩崎）（上千束）（河尻）（小峠）

南田原

堀切、椎ノ木、蕨平、堂ノ脇、池ノ尻、中尾、木高野、倉ノ田尾、影ノ平、寺家、赤木、ソラ、平原、西、小習、折戸、カラスタケ、中土、十文、上中土、餅山、竹道、下簀山、アセリ、轟、椎ノ木津留、谷門、上桑ノ木、鷹ノ巣、大田、楠木、松ノ本、井内谷、原野、（石ノ元）（辻坂）（中渡）（山ノ口）（金付田）大田、上大田、神之内、近道、柳ノ元、小藤、高越、相ノ元、小川、下谷川、甲斐垣、上谷川、目久、長久保、松山、籾木原、タブノ木、池ノ洗、切畑、下切畑、西板戸、堂間、後山、真弓、樫原、赤水上、赤水、桑ノ原、井田渕、櫟峠、横手、菅谷、柳瀬、ソラケ谷、小辺迫、筬河内、右ノ平、柴屋、蓑形、小日平、柴屋鹿倉、横畑、栗ノ塔、長渕、オクボ、下津留、ハゼカウ内、次郎丸、田ノ尻、一畝町、エナイダ、中嶽、イチラク、桃囲、草木藪、除ケ、草木蔵鹿倉、フクロカクラ、藤ケ谷、堂ケ谷、下葛葉、鳥越、岩井川内、上葛葉、馬ノシバ、柏、丸石影、横ホウキ、（中渡）

野津院史料

一　豊後國風土記

○荒木田久老校訂本
寧楽遺文下

○大野郡関係部分ヲ、「大野荘史料」一号ニ収ム。本文省略。

二　大政官符

○類聚三代格
新訂増補国史大系二五

○天長三年十二月三日。「大野荘史料」二号ニ収ム。本文省略。

三　延喜式

○兵部省式豊後国駅馬・伝馬史料ヲ「三重郷史料」三号ニ収ム。

四　倭名類聚抄

大野郡
田口　大野　緒方　三重
野津院

○野津院ハ大野郡四郷中ニ所見ナシ。次号「宇佐宮仮殿地判指圖」ニハ、野津院ガ仮殿造営役ヲ勤仕スル役所二箇所アリ。コレ野津院ノ初見ニシテ、同院ノ三重郷ヨリ分離独立ハ、十世紀中頃以後、平安末期マデノ期間トナル。

五　宇佐宮假殿地判指圖

○宇佐八幡宮蔵
宇佐神宮史史料編四

○文治年中。国指定重要文化財。大野郡関係部分ヲ「大野荘史料」五号ニ抄出。本文省略。二箇所ニ「野津院」ノ役所見ユ。但シ内一所ハ「野津郷」ト記サル。

六　水地九重塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字王子、水地区

（初層軸部）
「起立文永三年大歳丁卯卯月八日僧定仙敬白、」

○国指定重要文化財。

七　備後尾吉田文明藏一石五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字八里合、備後尾区

（火輪）
「右爲寂蓮（尼）□
（梵字ラン）

寂蓮尼ノタメ五輪塔ヲ造立ス

僧定仙九重塔ヲ起立ス

野津院ニ仮殿造営一国平均役ヲ課ス

五月廿四日」

○国指定重要文化財。

八　豊後國大田文案

○平林本
鎌倉遺文一五七〇〇号

○弘安捌年玖月　日。大野郡関係部分ヲ「大野荘史料」四五号ニ抄出。本文省略。「国領野津院六拾町　地頭野津五郎頼(宗)(末字有傳)法師(法名阿一)」トアリ。

国領野津院　地頭野津頼宗（法名阿一）

国領野津院　地頭職野津頼宗（法名阿一）

九　豊後國圖田帳案

○内閣文庫本
鎌倉遺文一五七〇一号

○弘安八年九月晦日。大野郡関係部分ヲ「大野荘史料」四六号ニ抄出。本文省略。当院ニ関シテハ、「国領野津院六拾丁　地頭職野津五郎頼宗(法名阿一)」ト見ユ。

宝塔一基ヲ造立ス

10　細枝阿彌陀堂寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字東谷、細枝区

(基礎部)
「奉造立寶塔一基

野津院

正應第五壬辰二月廿五（マヽ）
大檀那□院主快源
小知識沙門　□意
大願主金剛佛子□□敬白」

大願主金剛仏子某
孝子等板碑ヲ造立ス

二　宮原三浦某藏板碑銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大宮原、中山区

「（梵字アーンク）（胎藏界大日）」元徳二庚午六月廿日孝子ホ敬白

三　城ノ平公園三連板碑銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字宮原、寺小路城ノ平公園区

「（梵字キリーク）（弥陀）」
「（梵字バン）（大日）　元弘三年十月廿九日」
「（梵字バク）（釈迦）」

菊池武重以下討伐ノタメ一色頼行ニ属シ軍忠ヲ励マシム

一三　一色道猷（範氏）軍勢催促状案

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

菊池肥後守武重以下凶徒蜂起之間、右馬助（一色頼行）入道發向早、早屬彼手、可抽軍忠也、仍執達如件、

建武四年三月五日　　沙彌（一色道猷・範氏）（花押影）

大友野津大炊助（親久）太郎殿

苅北教貞跡地頭職並植田荘領家職内田地五町ヲ宛行フ

一四　一色道猷（範氏）書下案

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

豊後國苅北彦次郎教貞跡地頭職、幷（マヽ）植田庄領家職内田地伍町事、爲勳功之賞、所充行也、早任先例、可致沙汰、仍執達如件、

建武四年三月廿日　　沙彌（一色道猷・範氏）（花押影）

大友野津大炊助太郎殿

一五　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○建武四年十月七日。「大野荘史料」一二六号ニ収ム。本文省略。「建武式目」追加ノ第一条及ビ足利尊氏ノ大

友氏泰宛御教書案ナリ。『中世法制史料集』第二巻（室町幕府法）参照。

一六　野津親久代惟親軍忠状

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

南都警固忠節ニヨリ一見状ヲ賜ハランコトヲ請フ

大友一族野津大炊助太郎親久代惟親謹言上、

欲早依南都警固忠節、預御一見状、備向後龜鏡事、

右、就今年正月六日御教書、自同十二日發向于南都、致警固之畏中也、於親久軍忠之段者、惣領大友注進之上、相副其支證於申状、所進置京都也、然早任畏初參勤之旨、預御一見状、爲備龜鏡、言上如件、

建武五年正月　日

某証判ヲ加フ

「承了（花押）」

一七　備後尾寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字八里合、備後尾区

康永元九五日

○基礎・塔身ノミヲ存ス。

藤原（野津）貞久ヲ兵庫助ニ任ズ

乙見某以下宝塔ヲ建立ス

一八　後光嚴天皇口宣案

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

（端裏書）
「口宣案」
上卿別當
貞治三年二月二日　宣旨
左兵衛尉藤原（野津）貞久
宜任兵庫助、
藏人右中辨藤原嗣房奉

一九　備後尾寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字八里合、備後尾区

應安七年甲寅十月廿三日
乙見左衛門太郎　沙彌加野三郎太郎入道　□□　道高　□（妙）圓　道珎　道林　道□（定）　玄□　玄爲
玄勝　□（妙）□　□善　□□　道教　道忍　□□　志野彌四郎入道　沙彌□（加）野右衛門三郎　田中六
郎三郎入道　同住人十郎太郎　上城崎後藤太郎　備後尾孫三郎入道　備後尾彦五郎　阿縁下城
崎衛門四郎　多良岐六郎太郎入道　名塚彌三郎入道　同住人彦三郎入道

○人名ハ『大分県金石年表』ニヨリ補フ。

二〇　生野原町石（三基）銘

○大分の石造美術　大野郡野津町大字都原、生野原区

「（第一基）（梵字ウーン）　我法熊□」
「（梵字タラーク）　十町」
「（梵字キリーク）　老病死」
「（梵字バク）　永徳二壬戌三月廿一日」
○方錐形柱状碑ノ四面ニ刻ス。

「（第二基）（梵字バ）　十一町　永徳二年壬戌十月　妙道」
○四面ニ梵字（バ、バー、バン、バク）アリ。

「（第三基）（梵字カ）　十二町　永徳□」
○梵字（カ、バイ、バウ、キリーク）ヲ四面ニ刻ス。

町石ヲ造立ス

別時結衆角塔婆ヲ造立ス

二一　岩瀬極楽寺跡角塔婆銘

○大分の石造美術　大野郡野津町大字王子、岩瀬区

「（正面）永徳二壬戌
（梵字アク）

「（背面）　十月廿七日」

願主

（梵字タラーク）　別時結衆□（敬）白

□□　」

○四面ニ金剛四仏ノ種子アリ。

三　賀來社御行幸儀式次第

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○嘉慶二年戊辰三月　日。全文ハ「三重郷史料」五七号ニ収ム。本文省略。五月会等ニ「諸郷役國衙沙汰」アリ。

国衙沙汰ノ諸郷役アリ

三三　芝尾阿彌陀三尊種子自然石碑銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字老松、芝尾区山中

「（梵字サ（譲音））」

「（梵字キリーク（弥陀））」　康應二年□□

「（梵字サク（勢至））」

弥陀三尊種子ヲ刻ス

信心大施主講ヲ結ビ板碑ヲ建ツ

逆修ノタメ宝篋印塔ヲ造立ス

二四　風瀬板碑銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字西畑、風瀬区徳瀬

□(願)
法界　伏以、夫修心大施主
衆生　悉致精誠、結彼講、
平等　善根所修如件、
利益　明徳三年五月
也、　十六日阿□(母)敬、
白

「(梵字ア(大日カ)　キリーク(弥陀))」

二五　黒土地蔵堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字落合、黒土区地蔵堂

逆修塔
應永二丁二丑十月廿一日

味方ニ参ルヲ賀シ路次ノ安全ヲ約ス　王子城衆ヘノ状ヲ認メ遣ス

豊後南郡ニ進発シ奔走セルヲ賞シ弥忠節ヲ竭サシム

二六　大内持世書状（切紙）

○田北一六文書
大分県史料二五

上使臨首座より被仰子細候、目出候、此閉念願満足候、歓悦過御察候、於向後者、彌不可有等閑候、随而就路次事、（野津院）王子城衆方への状認進之候、可得其意之由、自是も申付候、御出之時、愚状可被遣候、猶〻路次事者、不可有相違候、早〻以面可申承候、恐〻謹言、

（永享八年）
三月九日　　（大内）持世（花押）

田北治部少輔殿

○「大友家文書録」ニモ収録セラル。

二七　室町将軍義教家御教書

○志賀文書
熊本県史料中世二

令進發豊後國南郡、致奔走旨、大内修理大夫（持世）注進到來、尤以神妙、向後彌可被抽忠節由、所被仰下也、仍執達如件、

永享九年八月七日　　（細川持之）右京大夫（花押）

志賀民部（親賀）大夫殿

二八　名塚寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字八里合、名塚区名古野

良慶等宝塔ヲ造立ス

（基礎部）
「文安六年□（己）巳四月廿六日」
「良慶信男　□（實）金信男
道猷信男　」

二九　大友政親知行預ケ状

○若林文書
大分県史料三五

佐賀郷内ノ地ノ代所トシテ野津院内ノ地ヲ預ク

佐賀郷内一尺屋殘（カ）分拾肆貫・臼杵庄内爲拾伍貫分代所、野津院内拾伍貫預置候、可有知行候、恐々謹言、

卯月廿九日　　政（大友）親（花押）

若林上總介殿

（奥切封）
「（墨引）」

野津院役人ニ対シ緩怠アルベカラザル由ヲ伝ヘシム

二〇　大友政親書状寫

○若林文書
大分県史料三五

それより、野津のやく人の所ニ御越候て、當給人のくわんかす（マヽ）つほつけ給候する、こいにて御入給候、ゐん中において、ゆるかせの儀、あるへからさるよし、申さるへく候、恐々謹言、

三月五日　　（大友）政　親　御判

（奥捻封ウハ書）「（墨引）若林殿　　政　親」

（付箋）「此御書　一尺屋若林忠左衛門方へ見へ不申候、
忠左衛門方へ見へ不申候、
正徳二年壬辰八月廿九日　」

野津院ノ内二十貫分ヲ打渡サシム

二一　大友氏加判衆連署奉書

○広田文書
大分県史料一三

野津院之内、貳拾貫分坪付別紙在之事、任　御判之旨、可被打渡廣田六郎之由、被仰出候、恐々謹言、

（端裏切封）「（黒引）」

（文明十一・二年頃）十二月八日　　（本庄）繁　榮（花押）

（上野）利　貞（花押）

両政所

野津院内弐拾貫分ヲ預ク

辻間先給代所トシテ野津院二十貫分ヲ預ク

両政所殿

（竈門）繁　貞（花押）
（久保）親　千（花押）

三一　大友政親知行預ケ状

○小野文書
福岡県伝習館高校蔵

（折封ウハ書）
「（異筆）「十四代（安幸）」
小野十郎とのへ

政　親」

野津院内貳拾貫分坪付在別紙事、預置候、可被知行（マヽ）、謹言、

三月廿日

（大友）政　親（花押）

小野十郎とのへ

三二　大友政親知行預ケ状

○大友家文書録
大分県史料三一

（大野郡）野津院之内貳拾貫分坪付別紙有之事、（速見郡）辻閒先給爲代所預申候、知行不可有相違候、恐々謹言、

文明十六年甲辰
三月廿四日

（大友）政　親在判

（親忠）木付上總介殿

野津院等ノ知行ヲ預ク

三四　大友政親知行預ケ状

○大友家文書録
大分県史料三一

楊井大膳亮跡赤松壹町五反、幷野津院内先知行分貳拾貫分之事、預申候、可有知行候、恐々謹言、

文明十八年丙午
九月廿六日　　政（大友）親　在判

木付上總介（親忠）殿

○『大日本史料』七ノ一九ニモ収録セラル。

三五　野津院西神野村神領坪付

○広田文書
大分県史料一三

西神野ノ神領坪付ヲ注ス

西神野御神領

一所田本ハ大、今ハ一反くるみたの前、同所本ハ浮免、六十歩今ハ一反、
祭禮　□（正月）一日
一所田本ハ六十歩、今ハ二反半卅歩、畠五反宮元屋敷、
正月十五日祭禮
一所田本ハ一反、今ハ三反、同所本ハ小、今ハ三百歩、（たき前ニ浮免）
三月三日祭禮
一所田本ハ無、今ハ大、畠六反、　山之口門
五月廿五日祭禮
一所田本ハ無、今ハ三反小、畠四反、　白谷　門
六月十五日祭禮
一所田本ハ大、今ハ六反、畠半、　入水　門

祭禮　一所田本ハ大、今ハ六反、畠二反、　内艮　門
七月七日　一所田本ハ無、今ハ三百歩、畠三反小、　立花　門
祭禮　一所田本ハ無、今ハ一反六十歩、畠一反半、尻江門
九月九日祭禮　一所田本ハ大、今ハ一反半、　西大作之前　浮免
十月廿日祭禮　一所田（本）一ハ一反、今ハ四反小、　しまのせ　浮免
嶋瀬

延徳二壬戌歳十一月一日　西神野邑
神（主花押カ）

三六　大友氏加判衆連署奉書（竪紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「野津院政所殿」

院内闕所狹候之由、雖言上、（候脱カ）爲御志、被成下　御判於佐土原兵庫助也、可然之樣、以取合可被打渡由、依仰執達如件、

明應六年三月十一日　兵部少輔親綱

（寒田親景カ）兵部少輔（花押）
（大津留繁綱カ）常陸介（花押）
（永富繁直カ）上總介（花押）
（小佐井堅永カ）大和守（花押）

（包紙ウハ書）
院内御判ノ地ヲ佐土原兵庫助ニ打渡サシム

野津院内十一貫五百分坪付ヲ注ス

佐田古城攻ノ辛労ヲ賞ス

三七　野津院内佐土原兵庫助給所打渡坪付（紙竪）

○佐土原文書　大分県史料一三

野津院内拾壹貫五百分坪付事、

一所田壹町四段半此内田壹段半畠壹段半すハ免　居屋敷

同畠四町三段

以上

明應六年七月十一日

佐土原兵庫助殿

善大炊助（カ）直衡（花押）

首藤右衛門尉守世（花押）

三八　大友親治感状

○佐土原文書　大分県史料一三

「（墨引）」（端裏切封）

去十六、佐田古城（宇佐郡カ）攻之時、辛勞感悦候、彌〻憑入候、必以面可賀申候、恐〻謹言、

十一月十八日（明応七年カ）

親治（大友）（花押）

佐土原兵庫助殿

三九　大友親治感状（紙切）

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「波津久忠兵衛尉殿　親治」

（端裏切封）「（墨引）」

今度馬岳城（豊前京都郡）攻之刻、一段粉骨、殊被被疵候由承候、感悦候、以面可賀申候、恐々謹言、

十一月廿三日（文亀元年）　親治（大友）（花押）

波津久忠兵衛尉殿

四〇　賀來社遷宮等次第記

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

馬岳城攻ノ軍労ヲ賞ス

野津院賀来社祭礼流鏑馬ニ国衙役ヲ勤仕ス

○文亀元年辛酉十二月十三日。「三重郷史料」八五号ニ抄文ヲ掲グ。本文省略。賀来社（由原宮）ノ流鏑馬ノ埒役勤仕ニ付、佐賀郷・大佐井郷・井田郷・毛井村ト共ニ「野津院」ノ名称アリ。スベテ国衙領ナリ。

野津院内十五貫分ヲ預ク

孫七戦死ノ忠ニヨリ諸点役ヲ免ズ

四一　大友親治知行預ケ状

○佐土原文書
大分県史料一三

野津院之内拾五貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

十二月十五日　　親治（大友）（花押）

佐土原兵庫助殿

四二　大友親治書状

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

「（端裏切封）（墨引）」

伯父孫三郎弟孫七、致忠節討死之條、一段可成其感候處、當時無闕所候、先以當知諸點役分、不可催促之由、申付役人候、可被得其意候、恐々謹言、

三月二日　　親治（大友）（花押）

吉岡龜壽丸殿

野津院内ノ地ヲ預ク

大内義興トノ合戦ノ軍忠ヲ賞シ所領ヲ預ク

四三　大友親治知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

野津院内椎原跡参貫分、井田郷内造営給捌貫分之事、預置候、有限社役、造営等之事、不可有聊爾之儀候、恐々謹言、

五月八日　　（大友）親　治（花押）

沓懸駿河守とのへ

（奥切封）「（墨引）」

四四　大友親治知行預ケ状

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「波津久忠兵尉殿」

（端裏切封）「（墨引）」

今度大内權介義興執合之時節、於所々、碎手被疵候、粉骨無比類候、爲忠賞、野津院内居屋敷分梶顔參段大・赤坂下三段大・馬場畠地八段・嶽澤壹段分之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（文亀二年頃カ）六月九日　　（大友）親　治（花押）

波津久忠兵衛尉殿

四五　大友義長受領状

○波津久文書
大分県史料三

上野守ノ受領名ヲ与フ

（包紙ウハ書）
「羽津久忠兵衛尉殿
上野（守脱カ）望之由承候、可存知候、恐々謹言、
九月十三日　義　長」
羽津久忠兵衛尉殿　義（大友）長（花押）
（奥切封）
「（墨引）」

四六　大友義長感状

○波津久文書
大分県史料一三

新河口矢戦ノ軍功ヲ賞ス

（包紙ウハ書）
「波津久上野守殿　義　長」
（端裏切封）
「（墨引）」

尚々弓を奔走之事、万事ニ彌憑申候、

去十三於新河口矢軍由、（マヽ）註進到來候、殊被疵候通承候、高名無比類候、取静一段可賀申候、彌武略次第憑申候、恐々謹言、

野津院

野津院

十月十五日　　（大友）義長（花押）

波津久上野守殿

四七　大友義長書状

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「義長」

（端裏切封）「（墨引）」

波津久上野守江三通」

瘡養生ノ見舞ヲ贈ル

其後瘡之養性いかゝ候哉、無心元候、先〻歸陣之由候、各雖意見候、于今在陣、一段之志頼敷存候、仍（爲）養性太（鯛カ）一・かうやく・同鮭進之候、堅固ニ可有療治候、猶〻煩敷候者、此方までも被越候て、可有養性候、毎〻於動さきかけを被致候條、度〻の弓矢ニ、最前モ被被疵候之由申居候、必以面賀事可申候、恐〻謹言、

十月廿二日　　（大友）義　長（花押）

波津久上野守殿

（包紙ウハ書）「波津久上野守殿」

四八　大友義長感状（切紙）

○波津久文書
大分県史料一三

義　長」

筑後高名岳在陣ノ労ヲ賞ス

至筑後高名岳、従最前在陣候、令悦喜候、辛労之趣、必以面可賀申候、恐々謹言、

十一月七日　　義長（大友）（花押）

波津久上野守殿

比丘慶甲板碑ヲ造立ス

四九　名塚薬師堂板碑銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字八里合、名塚区名古野

時宮童子　建立比丘慶甲敬白、

親宗泉　母妙悦　大工道林

松童女　皆永正二天乙丑九月吉日

六地蔵幢ヲ造立ス

五〇　宮原六地蔵幢銘

○大分県金石年表
大野郡野津町大字宮原、迫区

□春□男、永正三年丙刁七月七日施主敬白、

○竿部（幢身）ノミヲ存ス。

五一　大友氏加判衆連署奉書（折紙）

○宮師文書
大分県史料九

尙々來三日宮師出頭之通、被仰出候、不可有遅々候、

就野津院下役人退出之儀、政所方被申題目候、然者社家證跡等、宮師急度可有持参由、被仰出候、

爲御心得候、恐々謹言、

卯月卅日

（坂折）秀　家（花押）

（大神）親　照（花押）

實相寺

（折返シ奥ウハ書）

「大神左衛門大夫

坂折新左衛門尉　」

○連署者大神親照ノ大友親敦ヨリ成敗サレシハ、大永二年（一五二二）ナリ。

宮師出頭ヲ命ゼラル

野津院下役人退出ノ事ニ就キ社家ノ証跡持参ヲ宮師ニ命ズ

五二　大友氏加判衆連署奉書

○沓掛文書
大分県史料一三

（端裏切封）

「（墨引）」

於院内椎原左京亮跡三貫分之事、可被打渡省懸駿河守之由、被仰出候、可被得其意候、恐々謹言、

椎原左京亮跡ヲ

沓懸駿河守ニ打渡サシム

（基礎部）五月十日　（秀家）家（花押）

野津院政所殿　（本庄）右述（花押）　（朽網）親満（花押）

逆修ノタメ宝篋印塔ヲ建ツ

田原荘及ビ野津院内ノ地ヲ預ク

野津院政所

五三　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡野津町大字東谷、細枝区

（基礎部）「權少僧都增範

永正（五）□年戊辰八月十五日逆修敬白、」

五四　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡野津町大字東谷、細枝区

（基礎部）「永正六天己巳九月吉日」

五五　大友親安義鑑知行預ケ状

○田原滝蔵文書　大分県史料一〇

（田カ）□原庄内小野・石丸除之而、（国東郡）窪田□　□段・西光寺貳反・神領貳反□（分カ）、野津院之内五貫分之事、

野津院

野津院

□(預カ)置候、可有知行候、恐々謹言、

正月廿九日　　(大友義鑑)親安（花押）

吉弘五郎左衛門尉殿

「(奥切封)（墨引）」

五五　大友親敦義鑑感状　　○佐土原文書　大分県史料一三

瀬田尾攻口ニ於ケル軍忠ヲ賞ス

去月廿七、於瀬田尾攻口被摧手、自身・同小者、被疵之由候、忠儀感悦候、彌軍忠肝要候、必追而可賀申候、恐々謹言、

七月六日　　(大友義鑑)親敦（花押）

佐土原右京亮殿

「(奥切封)（墨引）」

五六　佐土原親忠・戸上親貞連署契状（紙竪）　　○佐土原文書　大分県史料一三

「(端書ウハ書)役所」

戸上二郎左衛門尉」

せう人(ママ)爲戸上五郎兵衛　家續（花押）

野津院内ノ割返シノ地ニ対シ等閑ナキヲ約ス

野津院下村之内、佐土原居屋敷すわ免之畠、戸上二郎左衛門（親貞）居屋敷之内、水なしかわら畠よつわう（ママ）かへ之事、なわを以わり候て、永代申合かゑし、宮畠にハ、わりのこし少御さ候、若人閒ならい候て、とうかん之儀候共、我人くわい（改）へん（変）あるま敷候、爲後日一筆両方へ仕おき候、恐惶謹言、

大永六年丙戌三月十一日

戸上二郎左衛門尉　親貞（花押）
親忠（花押）
佐土原右京進

五八　大友義鑒感状（紙切）

○佐土原文書
大分県史料一三

安芸国久村要害ニ於ケル軍忠ヲ賞ス

（包紙ウハ書）「佐土原右京亮殿」

義鑒」

（端裏切封）「（墨引）」

於安藝國久村要害、去晦日手仕之刻、被疵之由候、忠儀無比類候、必追而可賀申候、恐々謹言、

（大永六年）八月廿五日

義（大友）鑒（花押）

佐土原右京亮殿

○大永六年（一五二六）七月五日、大友義鑒、大内義興ニ援軍ヲ送リ、尼子経久ノ属城安芸国府中城ヲ陥レ、是日同国草津ニ於テ合戦スルコトニ係ル。

五九　佐土原親忠百姓中園納物次第注文

○佐土原文書
大分県史料一三

（端書ウハ書）「佐土原満足殿　　右京進
　　親　忠」

百姓中園ヨリノ納物ヲ注ス

　　進上

百性中そのより（園）納物次第、

一正月中親子むら内しおたい・さけ・ひきてもの（引出物）百文・せかいニおろすおう二そく、
一五月五日いも二束、
一六月なつはつ之こむきのこ三舛、
一七月ほん木三かるい、
一八月一日小莚四まい・明月いも三舛・まめ一わ、
一十一月十五日こめ二斗七舛・大豆六斗四舛、加用月ことに五ふん一、五日つゝ、又辨指ふん加用
十四文月十三文月、
一十二月柴木三駄三かるい・木三かるい、

大永六年丙戌十一月十二日　　親忠（佐土原カ）（花押）

又上尾九郎兵衛殿（下用カ）けよう候て、大豆七舛、

80　佐土原親忠濟物次第注文（竪紙）

（端裏ウハ書）
「佐土原満足殿　進之候、
　　なし物仕候所、
一八郎方三所ニ三百五十・薦六枚ニて候へとも、我ら一代ハふちを致候、後日ハほんそうさせ取へし、
一六郎方百文・小薦一枚・かや薦一枚、
一ゑもん三郎五十枚・かや薦二枚、
一八郎五郎百文・かや薦二枚、
一助太郎百文・小薦二まい、
一助六百文・かや薦二まい、
一彌太郎百文・薦一まい、
一太郎三郎五十文、
一八郎二郎二百五十文・薦一まい、
一八郎三郎百文、
　大永六年丙戌十一月十二日　　右京進
　　親　忠」
　　（佐土原カ）
　　親　忠（花押）

百姓ヨリノ済物公事ヲ注ス

野津院

芸州在陣ノ軍労

六一　大友義鑒感状

○佐土原文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「佐渡原右京亮殿」

芸州ニ於ケル軍労ヲ賞ス

到藝劭長々在陣、軍勢之至候、必追而可賀申候、恐々謹言、

（端裏切封）
「（墨引）」

義　鑒」

藝劭之事、所々勝利之次第、各粉骨故候、併軍勢存候、彌堅固之儀簡要候、必追而可賀申候、恐々謹言、

（端裏切封）
「（墨引）」

三月廿七日　（大友）義　鑒（花押影）

佐渡原右京亮殿

六二　大友義鑒感状

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「波津久彌三郎殿」

（端裏切封）
「（墨引）」

義　鑒」

（大永七年）七月十日　義鑒（花押）

波津久彌三郎殿

佐伯惟治退治ノ際ノ被官人負傷ノ忠儀ヲ賞ス

六三　大友義鑒感状寫

○清田文書
大分県史料三五

就今度佐伯惟治退治、彼被官虜置候者共、成敗之事申候處、於野津院被官二人被疵之由、忠儀感悦候、必以面可賀申（マヽ）、恐々謹言、

（大永七年）十一月廿七日　義（大友）鑒（花押影）

清田九郎（鑑秀）右衛門尉殿

宇目村内五貫分ヲ預ク

六四　大友義鑒知行預ケ状

○大友家文書録
大分県史料三四

（三重郷）宇目村之内五貫分坪付別帋□之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

十一月廿三日　義（大友）鑒　判

吉岡左衛門尉殿

○本書ノ吉岡氏ガ大友野津（改姓吉岡）氏ナルカ未詳。シバラク掲ゲテ後考ヲ俟ツ。以下同ジ。

六五　大友氏加判衆連署奉書

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

（宇目村）當村之内五貫分之事、令充行吉岡中務丞訖、任　御判之旨、可令打渡之由、依仰執達如件、

享祿元年十二月三日

（田口親忠）伊賀守（花押）
（田北親員）大和守（花押）
（津久見常清）備中守（花押）
（臼杵長景）民部少輔（花押）
（入田親廉）丹後守（花押）

宇目村政所殿

宇目村内五貫分ヲ吉岡中務丞ニ打渡サシム

宇目村政所

六六　大友義鑑一跡安堵状（紙切）

○佐土原文書
大分県史料一三

「（包紙ウハ書）佐渡原満足殿　（端裏切封）（墨引）」

親父右京亮親忠一跡之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

（天文元年カ）十一月十日　（大友）義鑑（花押）

佐渡原満足殿

父親忠一跡ヲ子息佐土原満足ニ安堵ス

豊前国発向ノ軍労ヲ賞ス

六七　大友義鑒感状（切紙）　○佐土原文書　大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

就今度豊前國發向之儀、自最前以出陣、所〻手仕軍勞感悦候、彌可被勵忠儀事肝要候、必追而可賀申候、恐〻謹言、

（天文二年カ）十一月十日　　（大友）義　鑒（花押）

佐土原滿足殿

豊前国出陣ノ軍労ヲ賞ス

六八　大友義鑒感状（切紙）　○波津久文書　大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

就今度豊前國發向之儀、最前以出陣、所〻手仕軍勞感悦候、彌可被勵忠貞事肝要候、何樣追而、一段可賀申候、恐〻謹言、

（天文元年カ）十二月二日　　（大友）義　鑒（花押）

波津久彌三郎殿

○天文元年（一五三二）十一月十四日、大友義鑒ノ兵、大内義隆ノ部将佐田朝景等ノ籠ル豊前妙見嶽ヲ攻ム。

大友軍利アラズ、朝景等ニ敗ルヽ事ニ係ル。

六九　大友義鑒官途書出

○波津久文書
大分県史料一三

忠兵衛尉ノ官途ヲ与フ

「（包紙ウハ書）
波津久彌三郎殿」

補任忠兵衛尉候、恐々謹言、

十二月十三日　　義　鑒」

波久津彌三郎殿

「（奥切封）
（墨引）」

七〇　大友義鑒知行預ケ状

○大友家文書録
大分県史料三四

野津院七貫分ヲ預ク

野津院之内七貫分坪付在別紙之事、預置候、可有知行□（候）、恐々謹言、

十二月十三日　　義（大友）　鑒（花押）

吉岡彌五郎殿

遷宮ヲ旧例ニ仕ヘ取沙汰スルヲ賞ス

鹿越城ニ於ケル馳走ヲ賞ス

七一　大友義鑒書狀

○広田文書
大分県史料一三

當社遷宮之儀、任舊例之旨、取沙汰之目錄加披見候、種々馳走辛勞之段、乍案中感心候、倍祈念肝要候、恐々謹言、

十二月廿一日　　義鑒（大友）（花押）

廣田左京亮殿

「天文七年戊戌十月廿日」（異筆）

○天文七年頃、「義鑑」ノ諱字ヲ用ヒ、「義鑒」ヲ用ヒズ。署名正シトスレバ、異筆ノ「天文七年」ハ疑ハシ。

七二　大友義鑒感狀

○波津久文書
大分県史料一三

「（墨引）」（端裏切封）

至今度鹿越城（速見郡山香郷）、牢人現形之刻、以清田兵庫頭同陣、不日馳走之條、彼惡黨等卽時敗北、先以肝要候、何樣追而賀可申候、恐々謹言、

卯月二日（天文二年カ）　　義鑒（大友）（花押）

波津久彌三郎殿

三　大友義鑑感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

至今度鹿越城牟人現形之刻、以清田兵庫頭同陣、不日馳走之條、彼悪黨等卽時敗北、先以肝要候、何様追而賀可申候、恐々謹言、

（天文二年カ）卯月二日　　（大友）義　鑑（花押）

佐土原満足殿

鹿越城牟人現形ノ刻ノ軍功ヲ賞ス

四　大友義鑑感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

寒中軍勞感悦候、各申談、彌忠貞憑入候、必追而一段可賀申候、恐々謹言、

（天文二年カ）十二月十四日　　（大友）義　鑑（花押）

佐土原六郎□（殿）

寒中ノ軍労ヲ賞ス

寒中軍労ヲ賞ス

筑後国ニ於ケル長ク在陣ノ忠ヲ賞ス

七五　大友義鑑感状

○波津久文書
大分県史料一三

「（墨引）」（端裏切封）

寒中軍勞、令感心候、各申談、彌忠貞憑入候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

（天文二年カ）十二月十四日　　義鑑（花押）（大友）

波津久忠兵衛尉殿

七六　大友義鑑感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

「（墨引）」（端裏切封）

去年以來、於筑後國、長々名代在陳（マヽ）、所々手仕之刻、碎手忠儀感悦候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天文三年）壬正月廿一日　　義鑑（花押）（大友）

佐土原六郎殿

○大友義鑑ノ部将星野親忠、大内義隆ノ部将桑原興国等ト、筑後国生葉郡ニ於テ戦ヒ、利アラズ。

七七　大友義鑑感状

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「波津久忠兵衛尉殿　義　鑑」

（端裏切封）
「（墨引）」

去年已來於筑後國、長〻以在陳（マヽ）所〻軍勞、就中去十六生葉郡合戰之砌、別而被碎手、忠儀無比類候、必追而一段可賀之候、恐〻謹言、

（天文三年）
壬正月廿八日　（大友）義　鑑（花押）

波津久忠兵衛尉殿

去年以来ノ筑後国在陣ノ労ヲ賞ス

○壬正月十六日、筑後生葉郡星野親忠、桑原興国等ニ攻メラレ敗ル。

七八　大友義鑑知行預ケ状

○成簣堂文庫蔵田村文書
武家文書の研究と目録（上）

（包紙ウハ書）
「田村三河入道殿　義　鑑」

（端裏切封）
「（墨引）」

野津院之内三拾貫分坪付在別紙之事、預進之候、可有御知行候、恐〻謹言、

卯月十二日　（大友）義　鑑（花押）

野津院三十貫ノ知行ヲ預ク

七九　大友義鑑感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

於今度肥後國隈部表、名代長〻在陣、軍勞感悦候、必追而、一段可賀申候、恐〻謹言、

（天文三年）五月十一日　　（大友）義　鑑（花押）

佐土原六郎殿

肥後国隈部表ニ於ケル長日在陣ヲ賞ス

八〇　清田鑑綱安堵状

○沓掛文書
大分県史料一三

（端裏切封）「（墨引）」

沓懸駿河守方（野津院）院内給地三貫分之事、其方御次男至乙鬼殿、相續之通承候、得其意候、巨細以面申候、不能一二候、恐〻謹言、

（年未詳）卯月十三日　　（清田）鑑　綱（花押）

沓懸左京亮殿

沓懸駿河守給地三貫分ヲ次男乙鬼ニ安堵ス

六一　大友義鑑一跡安堵状

○沓掛文書
大分県史料一三

親父駿河守盛秀一跡事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

五月九日　　義鑑（大友）（花押）

沓懸乙鬼殿

親父盛秀一跡ヲ安堵ス

六二　大友義鑑感状（切紙）

○波津久文書
大分県史料一三

就今度肥後發向、長々在陣、炎天時分、一入辛労察存候、殊於木山（益城郡）城攻口被疵之由、旁以忠貞無比類候、彌馳走憑存候、必追而、一段可賀申候、恐々謹言、

（端裏切封）「（墨引）」

（天文三年）六月十一日　　義鑑（大友）（花押）

波津久忠兵衛尉殿

肥後国在陣木山城攻ノ功労ヲ賞ス

○大友義鑑、菊池義宗ヲ肥後木山城ニ攻ムルコトニ係ル。

神野宮還宮ニツキ点役ヲ免ズ

八三　清田鑑綱書状

○広田文書
大分県史料一三

野津院神野宮御還宮之儀付而、諸點役等御宥免之由、被仰出候、得其意候、雖然從忰(マヽ)役存知之事者、可爲前之儘候、可被得其意候、恐々謹言、

(天文七年カ)八月廿九日　　(清田)鑑綱（花押）

神野宮
大宮司殿

居屋敷三分ノ二ミもりノ田二升まき分ヲ永代売渡ス

八四　沓縣貞與田地賣渡状

○沓掛文書
大分県史料一三

(端裏ウハ書)「ちう所」

沓懸平右衛門尉」

追而申候、せんそのちう所相そへ候て、渡申候、返々彼三分二之事、親にて候者拘之分にて候、

依有用々、うり渡申候居屋敷三分二之事、同ミもりの田二舛まき、けんさへもん扶持仕候所、たんふをのこさす、永々代一貫五百文、うり渡申候事實也、於自今以後茂、いらん申者有閒敷候、如何なるけんもんかうけ(権門高家)・神しや(社)・佛神御領罷居候共、此状先として、御作可有候、其時一もんたう(問答)申ましく候、仍爲後日状、如件、

野津院

野津院

天文十二年九月廿六日　　（沓懸）貞　與（花押）

沓懸美作守殿參

筆者　同三郎左衛門尉殿

同平右衛門尉

野津院神領ニ対シ平均段銭ヲ免ズルコトヲ告グ

八五　雄城治景書狀

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（端裏書）「大友（マヽ）治景御書　年號不知」

追而靏五弁肴、被懸御意候、御丁寧之至難謝候、

國中平均御段錢之事、被　仰出候、就夫野津院御神領之事、從前ゝ諸點役等、御免許之示給候、（入田）親廉申合披露之儀、不可有無沙汰候、尚重疊可申承候、恐ゝ謹言、

（天文十六年カ）九月廿九日　　（雄城）治　景（花押）

由原
宮師御坊　御報

八六　大友家條々書札禮

○大友義一文書
増補訂正編年大友史料三〇

條ゝ　天文十八正十六

一賀來社造營之事、

一京都御一札之事、
一國中道作之事、
以上
此條數、從御前以申次被仰出候、諸老以列座奉書被認候、方角之事、最所(初)
賀來社總地頭殿　稙田庄惣追補使(マヽ)殿　笠和鄕政所殿　高田庄政所殿　野津院政所殿
此五ケ所也、御文體者、道作ニ付而トノ、老中ノ口筆也、

野津院政所

八七　野津院とめ田名三貫分坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

野津院とめ田名之内、椎原河内三貫分つほつけ之事、
一所にたゝ三段、
一所くりの木越、山野あり、同まちほりあり、
一所ふちかの山野あり、同まちほりあり、同せうう(は)ち、まちほりあり、
天文十八年つちのとのとり三月廿一日
柳井河内守
助家（花押）
專道仁右衛門尉爲正（花押）

野津院とめ田名椎原河内ノ坪付ヲ注ス

八八　野津院とめ田名三段坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

野津院とめ田名之内、椎原河内三段つほ付之事、
一所にたゝ三段、
一所くりの木こへ、まちほり、四舛まきほと見へ候、
一所せはうち、五舛まきほと見へ候、
一所ふちかの大はたけのしり、一斗四舛まきほと見え候、
一山野之事、くりの木こへ、大おたて一つにつゝき候、
（天文十八年）つちのとのとりとし三月廿三日

野津院とめ田名椎原河内ノ坪付ヲ注ス

八九　寺小路城ケ平公園無縫塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字宮原、寺小路区城ケ平公園

天文十九庚戌
年二月十二日

九〇　大友義鎮判物　○成簣堂文庫蔵田村文書　武家文書の研究と目録（上）

（包紙ウハ書）
「田村三河入道殿　　義　鎮」
（礼紙端裏）
「（墨引）」

野津院之内其方御給地之事、万雑諸點役、可爲免許候、武藏鄕二町分事、同前候、爲御存知候、恐々謹言、

（天文廿一年頃）
九月十七日　　義（大友）　鎮（花押）

田村三河入道殿

○『大友文書録』ニモ収ム。

野津院内給地ノ諸点役ヲ免ズ

九一　大友義鎮判物　○成簣堂文庫蔵田村文書　武家文書の研究と目録（上）

（包紙ウハ書）
「田村三郎殿　　義　鎮」
（礼紙端裏）
「（墨引）」

於野津院、進置候卅貫分、万雑諸點役免許、檢斷不入之由、以前以一通申候、其辻永々不可有別儀候、此旨至院役、能々可被仰聞事、肝要候、恐々謹言、

野津院内給地ニ対スル点役免許検断不入ヲ安堵ス

野津院

（天文廿一年頃）十二月十二日

田村三郎殿

（大友）義鎮（花押）

九二　大友義鎮受領状

○沓掛文書　大分県史料一三

伊賀守ノ受領名ヲ与フ

伊賀守所望之由、可存知候、恐々謹言、

（端裏切封）「（墨引）」

七月二日

沓懸大蔵丞殿

（大友）義鎮（花押）

九三　大友義鎮感状（紙切）

○波津久文書　大分県史料一三

野津院衆ノ同陳辛労ヲ賞セシム

今度野津院衆之事、不謂無足不涯、令同陳（マヽ）、別而辛労之由候、乍案中感悦候、銘々以状雖可申候、方々調儀最中之候、従鑑述（清田）相心得可被申候、必取静、何様一段可賀之候、為御存知候、恐々謹言、

（弘治三年）七月十六日

義鎮

（包紙ウハ書）「清田治部少輔殿」

（端裏切封）「（墨引）」

九四　大友義鎮官途状　○波津久文書　大分県史料一三

惣左衛門尉ノ官途ヲ与フ

（包紙ウハ書）「波津久彌三郎殿」

「（端裏切封）（墨引）」

惣左衛門尉所望之由、可存知候、恐々謹言、

正月十六日　　義鎮」

波津久彌三郎殿

九五　大友義鎮判物　○若林文書　大分県史料三五

野津院内給地ノ万雑諸点役ヲ免許ス

（包紙ウハ書）「若林鹽菊殿」

「（端裏切封）（墨引）」

野津院其方給地之事、万雑諸點役等可免許候、可得其意候、恐々謹言、

八月廿三日　　義鎮（大友）（花押）

若林鹽菊殿

九六　細枝阿彌陀堂寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字東谷、細枝区

祕密傳燈權大僧都增慶小□(德)位
永祿七年甲子九月十日立之、

九七　福良木千光寺跡無縫塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字福良木、笠良木区千光寺跡

(竿部)「永祿七甲子年
(梵字アク)　十月二十一日
止稱盛觀居士　」

九八　大友宗麟義鎭感狀(切紙)

○佐土原文書
大分県史料一三

(包紙ウハ書)「佐土原彦十郎殿　宗　麟」
(端裏切封)「(墨引)」

増慶ノ死ヲ弔フ
盛観入寂ス

宝満攻口ニ於ケ

去月十於寶滿攻口、被疵粉骨之次第、感悦候、彌可被勵軍忠事、肝要候、必追而一段、可賀之候、

恐々謹言、

（貼紙）「永祿十年」
八月四日　　（大友義鎮）宗　麟（花押）

佐土原彦十郎殿

○高橋鑑種、毛利元就ニ通ジ、筑前岩屋・宝満両城ニ拠リ、大友宗麟ニ反スルニヨリ、戸次鑑連等ヲシテ此ヲ討タシム。

九九　大友宗麟義鎮感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「佐土原彦十郎殿　　宗　麟」

（端裏切封）「（墨引）」

去月三、（筑前夜須郡）於休松、秋月衆懸合防戦之刻、別而砕手、粉骨之次第感悦候、彌馳走可令悦喜候、必追而、一段可賀之候、恐々謹言、

（貼紙）「永祿十年」
十月十一日　　（大友義鎮）宗　麟（花押）

佐土原彦十郎殿

筑前休松ニ於ケル秋月衆トノ戦ノ粉骨ヲ賞ス

100　大友宗麟義鎮跡目安堵状

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「波津久彌三郎殿　宗　麟」

（端裏切封）
「（墨引）」

於今度（筑前夜須郡）休松、父主殿助戦死、忠儀之次第、無比類候、仍跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

（永禄十年）
十一月十三日　（大友）宗　麟（花押）

波津久彌三郎殿

父主殿助戦死ノ忠ヲ賞シ跡目ヲ波津久弥三郎ニ安堵ス

101　福良木千光寺跡無縫塔銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字福良木、笠良木区千光寺跡

（八角竿部）
「永祿十一年」
「二月二十一日」

長尾切岸ニ於ケル軍忠ヲ賞ス

一〇二　大友宗麟義鎮感状

○利光文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「板井民部少輔殿　　宗　麟」

去五月十八長尾於切岸、被砕手候故、被疵之由、粉骨之次第感入候、彌可勵馳走事肝要候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（永禄十二年）
七月十三日　　（大友義鎮）宗　麟（花押）

板井民部少輔殿

警固船馳走ノ辛労ヲ賞シ野津院領地ノ万雑諸点役ヲ免ジ検断不入トス

一〇三　大友宗麟義鎮判物

○若林文書
大分県史料三五

（包紙ウハ書）
「若林中務少輔殿　　宗　麟」

毎々警固船馳走、辛勞感悦候、然者野津院領地之事、万雑諸點役免許之段申候閒、彌以檢斷不入、船誘等不可有緩之儀候、恐々謹言、

（永禄十二年カ）
八月十一日　　（大友義鎮）宗　麟（花押）

若林中務（鎭興）少輔殿

父種増跡目ヲ安堵ス

豊筑間ニ三十町ヲ預ク

豊筑間ニ二十五町分ヲ預ク

一〇四　大友宗麟義鎮跡目安堵状（竪紙）　○利光文書　大分県史料一三

父民部少輔種増跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

十二月廿八日　　宗麟（大友義鎮）（花押）

板井宮松殿

一〇五　大友宗麟義鎮知行預ケ状　○野津（吉岡）氏文書　史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

於豊筑閒三拾町坪付在別紙之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（端裏切封）「（墨引）」

（元亀元年カ）十二月十三日　　宗麟（大友義鎮）（花押）

吉岡中務少輔殿

一〇六　大友宗麟義鎮知行預ケ状　○大友家文書録　大分県史料三四

於豊筑閒、拾五町分別□（坪付在）（紙）之事、預置候、可有知□（行候）、恐々謹言、

（元亀二年カ）三月二日　　（大友義鎮）宗麟（花押）

吉岡三郎（統直）殿

豊筑間ニ十五町分ヲ預ク

一〇七　大友宗麟義鎮知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

於豊筑閒、五町分坪付在別紙之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（元亀二年カ）三月二日　　（大友義鎮）宗麟（花押）

沓懸善太郎殿

豊筑間ニ十町分ヲ預ク

一〇八　大友宗麟義鎮知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

於豊筑閒、拾町分坪付在別紙之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（元亀二年カ）三月二日　　（大友義鎮）宗麟（花押）

沓懸伊賀守殿

○沓懸氏ノ所領ハ井田郷・野津院・三重郷ニアリ。何レヲ本領トスルカ未詳。今シバラク此ニ収ム。

一〇九　大友宗麟義鎮知行預ケ状（紙竪）　○利光文書　大分県史料一三

於豊筑閒、拾町分（坪付在別紙）之支、預置□（候、可）有知行候、恐々謹言、

（元亀二年カ）三月六日　　宗麟（大友義鎮）（花押）

板井□丞殿

板井某ニ豊筑間十町分ヲ預ク

某等六地蔵幢ヲ造立ス

一一〇　細枝阿彌陀堂六地藏幢銘　○大分の石造美術　大野郡野津町大字東谷、細枝区

（竿部）「元龜三年壬申卯月五日本願□□（下）坊　大僧都□清」

一一一　大友宗麟義鎮官途状　○波津久文書　大分県史料一三

右近允望之由、可存知候、恐々謹言、

卯月六日　　宗麟（大友義鎮）（花押）

（包紙ウハ書）「波津久彌三郎殿　（端裏切封）「（墨引）」」

右近允ノ官途ヲ与フ

一二三　奈多鑑基書状

○広田文書
大分県史料一三

西神野神領事、御代々御免許被仰出之段、數通之御書、銘々令拝見候、仍數代之證文任明白旨、爲社職茂無相違候、既檢斷不入之上者、彌造營等無緩、於神前御祈禱肝要候、恐々謹言、

十一月三日　　（奈多）鑑基（花押）

廣田筑後守殿

西神野神領ノ代代免除ノ由ヲ認メ神前祈祷ヲ行ハシム

一二三　都原六地藏幢銘

○大分の石造美術
大野郡野津町大字都原、生野原区

「（幢身）天正二年閏十一月吉日」

六地藏幢ヲ建立ス

一二四　大友義統跡目安堵状

○沓掛文書
大分県史料一三

「（端裏切封）（墨引）」

祖父越後入道紹貞跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

祖父越後入道紹

野津院

貞跡ヲ沓懸長鬼ニ安堵ス

沓懸越後入道方跡続目ニ就キ判形ヲ成サルヽヲ報ズ

父刑部丞跡目ヲ安堵ス

二月十二日　　（大友）義統（花押）

沓懸長鬼殿

一二五　宗印書状（紙切）

○沓掛文書
大分県史料一三

沓懸越後入（紹貞）道跡江續目之儀、御申之趣、以貴札之旨、令披露候之條、則被成　御判形候、珍重候、
我等事乍恐御殿者之條、如此之用等、何時も被仰付候者、聊不可有疎略候、恐々謹言、

（端裏切封）「（墨引）」

二月廿日　　宗　印（花押）

（戸次カ）鎮連

貴返人々
申給へ

一二六　大友義統跡目安堵状

○大友家文書録
大分県史料三四

父刑部丞跡目之事、□（任）相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

九月十六日　　（大友）義　統（花押）

吉岡三郎（統直）殿

伯父鑑忠跡野津院内ノ地ヲ安堵ス

一七　大友義統跡目安堵状

○大友家文書録
大分県史料三四

伯父左馬助鑑忠跡野津院河登之内、板井畑五貫分之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

九月十六日　　義統（大友）（花押）

吉岡七郎殿

土持要害落去ノ刻ノ軍功ヲ賞ス

一八　大友義統感状（切紙）

○波津久文書
大分県史料一三

「（包紙ウハ書）波津久右近允殿」

「（端裏切封）（墨引）」

土持要害落去之刻、自身分捕之由、粉骨之儀候、彌馳走簡要（マヽ）候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

卯月十五日（天正六年）　　義統（大友）（花押）

波津久右近允殿

一一九　大友義統感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「佐土原兵部丞殿　　義統」

（端裏切封）
「（墨引）」

今度土持要害落去之刻、自身分捕之由、粉骨之儀候、彌馳走専一候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天正六年）
卯月十五日　　（大友）義統（花押）

佐土原兵部丞殿

土持要害落去ノ刻ノ軍功ヲ賞ス

一二〇　大友義統土持要害合戦頸并手負注文一見状

○佐土原文書
大分県史料一三

（大友義統）
（花押）

天正六年卯月十日土持要害奈尾落去之刻、清田新五右衛門尉鎮忠手之衆、或ハ分捕、或ハ被疵并戦死著到、銘々加披見畢ヌ、

甲斐八郎三郎　頸一
清田内右衛門尉　討之、
大姫掃部助　同一
佐戸原兵部丞　討之、

大友義統一見ス

天正六年土持要害松尾落去ノ刻ノ頸并戦死注文ヲ披見ス

頸注文

戰死
手負

同一　戸上監物丞　討之、
同一　津久見進允　討之、
同一　御久里監物丞　討之、
同一　龜山宮內丞　討之、
同一　生野藤七郎　討之、
同一　加嶋彌次郎　討之、
同一　滿永喜右衞門　討之、
同一　首藤左馬助　討之、
同一　山村九郎兵衞　討之、
同一　進　民部丞　討之、
同一　首藤源內丞　討之、
同一　清藤滿介　討之、
森田勘解由允　戰死
今村二郎三郎　手負
長野仁助　同　背
首藤左京助　同　背
首藤主殿助　同　背

三輪左京亮
野嶋下總守

以上

一三　清田鑑忠書状

○沓掛文書
大分県史料一三

猶〻令申候、八朔せちれい、無沙汰有閒敷候、
態令啓候、仍其方御領地、山屋敷、我等山屋敷にかへ申候、然者我等山少せまく候之閒、たのも閒
莚一枚せちれいとして、うお一こん・木一か、新左衛門渡申候、以後迄此分無沙汰有閒敷候、何様
以面上、可申述候、恐〻謹言、

（年未詳）十一月廿九日　　（清田カ）鑑忠（花押）

沓懸越後守御宿所

山屋敷ノ交換

一三　清田鎭忠感状（紙竪）

○佐土原文書
大分県史料一三

今度於日州（マヽ）陳、御親父兵部丞方戰死、無比類次第候、彼爲忠儀、御領地分諸點役可令免許候、必追
而檢斷不入之　御書申請、可遣之候、不可有緩候、恐〻謹言、

（天正六年）十二月廿四日　　（清田）鎭忠（花押）

佐土原六郎殿　御宿所

日州陣ニ於ケル親父兵部丞戰死ノ忠ヲ賞ス檢斷不入

一三三　大友義統安堵狀寫

○堀文書
臼杵史談七五

野津院多良木ノ地ヲ安堵シ臼杵荘長国寺ヲ預ク

野津院之内多良木三貫五百分之事、親父上總入（鑑榮）道松音任讓之旨、領掌不可有相違候、殊臼杵庄之内長國寺之事預置候、有知行、彌臼杵民部少輔（鎭良）以同心、可被勵馳走事、專一候、恐々謹言、

（天正七年）六月廿日　　（大友）義　統（花押影）

一三四　大友義統判物

○佐土原文書
大分県史料一三

野津院内領地ノ諸点役ヲ免ジ検断不入トス

（包紙ウハ書）「佐土原傳允殿　　義　統」

近年於所々在陣、辛勞寔感入候、然者、其方名字之地、野津院之内、佐吉原拾壹貫五百分之事、万雜諸點役、可爲檢斷不入之免許候、被得其意、彌可勵馳走事、簡要候、恐々謹言、

（天正八・九年頃）正月廿二日　　（大友）義　統（花押）

佐土原傳允殿

一三五　大友義統書状

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（裏打紙端裏書）「義統御判物」

野津院之内　由原神領武時給、其外燈油料所拘分之事、縫訴訟之人雖有之、不可有別儀、然上者、彌被勵懇祈、殊在陣方之儀、別而馳走簡要候、恐々謹言、

二月十五日　　（大友）義　統（花押）

由原
宮師御坊

野津院内ノ神領ヲ安堵シ戦勝ヲ祈ラシム

一三六　大友義統感状（切紙）

○佐土原文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「佐土原傳介殿　　義　統」

（天正六年）先年至日州高城矢入之刻、父兵部少輔戰死、忠儀無比類候、於彼忠賞者、必以時分可賀之候、先以當知行分之事、令免許之段、以別紙申候、爲存知候、恐々謹言、

六月廿一日　　（大友）義　統（花押）

佐土原傳介殿

日州高城ニ於ケル父兵部丞ノ戦死ノ忠ヲ賞シ当知行ヲ安堵ス

一三七　大友義統書狀包紙　○野津（吉岡）氏文書　史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

（包紙ウハ書）「吉岡龜壽殿　（大友）義　統」

一三八　大友義統跡目安堵狀（切紙）　○利光文書　大分県史料一三

父民部少輔種實跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

六月卅日　（大友）義　統（花押）

板井彌壽殿

父種実跡目ヲ安堵ス

一三九　大友義統判物　○波津久文書　大分県史料一三

（包紙ウハ書）「波津久右近允殿　義　統」

（端裏切封）「（墨引）」

父主殿助事、（永禄十年）（筑前夜須郡）先年於安見松戰死、忠儀無比類候、其方事茂、至所々在陣、辛勞感悦候、必於國中、一所可申與候、先以當知行野津院之内、十三貫五百分之事、万雑諸點役令免許候、殊可爲撿斷不入

父主殿助ノ戦死ト右近允ノ軍労ヲ賞シ当知行野津院ノ内十三貫

五百分ノ諸点役ヲ免ズ

竜王・野津院ノ余領余米ヲ安堵シ祈念ヲ致サシム

候、恐々謹言、

九月五日　　（大友）義統（花押）

波津久右近允殿

○一〇〇号文書参照。

一三〇　大友義統安堵状

○柞原八幡宮文書　大分県史料九

（端裏切封ウハ書）「（墨引）」

豊前龍王之内七町、野津院之内三貫分、餘領餘米等、任例被爲所持者、不可有別儀候、彌被抽祈念候儀、簡要候、恐々謹言、

九月十二日　　（大友）義統（花押）

由原宮師御坊

（青）「六番廿三ノ内」

○宛所「由原宮師御房」脱カ。

野津院笠良木ヲ鹿蔵トシテ下置ク
法式未断ニ付向後緩ナカラシム

野津ノレジデンシヤ

一三一　大友義統書状

○成簣堂文庫蔵田村文書
武家文書の研究と目録（上）

（墨引）

「（礼紙端裏書）

田村作進殿　　義　統」

其方領内野津院笠良木之事、多年爲鹿藏下置候處、今度在陣中、法式未斷之由、不及是非候、向後無緩可被申付事、簡要候、猶小原市進可申候、恐々謹言、

十一月十五日　　（大友）義　統（花押）

田村作進殿

一三二　一五八一（天正九）年日本年表

○イエズス会の通信
大分県史料一五

臼杵のノビシヤドに付いて

○首尾略

野津のレジデンシヤは臼杵のカザに附屬しているが、本年は同所にパードレ一人及びイルマン一人がいた。勞役者が欠乏したので、右のパードレが年末に他の地方に派遣されたので、同レジデンシヤ及び其周圍に在る町々の六千人を超えた教徒は、このカザの管轄の下に歸し、此所から巡廻し

て本年は二千五百人の教徒を獲得した。彼等は多數の町々に分れて異教徒の閒に居住している爲め、屢々巡訪した。勞役者が欠乏している爲キリスト教徒の數を增加させない方がよいが、彼等は信仰堅く心の動くことはないと思われる。當レジデンシヤにはパードレ三人おく必要あり、キリスト教徒を巡訪する爲にせめて臼杵のカザにパードレ二人を增す必要がある。此教會で收穫があり、當國に歸依の傾向が盛んになつたことは、確かにデウスに感謝すべき所である。デウスの聖教を奉ずる希望は一般にあり、諸方から說教師を求めて來る。本年教徒となった者の中には、多數の武士と高名の人が多いが、此のような人達は教會の光榮となり、又其命令の下に在る人達は、主君に隨つて降伏するから、此事は甚だ重大である。

野津ノレアンノ奇蹟

○中略

第二の事件は、野津に一人の惡魔に憑かれた者があつて、キリスト教徒及び、異教徒が多數其の周圍にいた時、レアンと稱する野津の善い教徒（彼に付いては是まで數回通信した）が來て、其の頸に聖匣を懸け、惡魔を祓つて直に去ることを命じた。惡魔は婦人を激しく動かせ、又種々の事を言わせ、聖遺物が彼を苦しむることを訴えた。惡魔の語つたを好機會としてレアンは種々質問したが、其の一は異教徒等は何處に行き、どのような苦痛を受けるかということであつた。

惡魔は答えて、彼等は地獄に行き、其の呵責は甚しく、又多種であるが、主なものは火と寒さとであると言い、火の責の甚しさを說く閒に、婦人は焚火のように赤くなり、全身に發汗し、湯氣を立て、破裂するかと思われた。次に寒さの責はどのようなものか示そうとし、忽然齒が鳴り全身顫

え、氷の中に入つたように冷却した。又デウスの力と聖遺物に對する恐怖及び善い教徒が獲得すべき大きな幸福に付いて多く語つた後、婦人の体から去り之を自由にした。同婦人は其の所にいた多數の異教徒及び後に此の事を聞いた人達と共に、我が聖教に歸依し、之に依つて彼の地方に於てはデウスの教えが大いに信用を增した。

他の惡魔に憑かれた者も亦解改され、熱病に罹つた者は例の通り聖堂に行き快癒して家に歸つた。一人の異教徒は熱病を治する爲巡禮となつて一の寺院に行つたが、巡歷を終つて家に歸つた時、熱病が元のままであつたのみか、惡魔に憑かれて自殺しようとし、僕等が漸く之を妨げた。此の人は一人の教徒に勸められ、若しデウスを信仰したらば治癒するであろうと考え洗禮を受けた處、惡魔並に病から自由になつた。

府内のコレジヨ及び由布のレジデンシヤに付いて

○中略

コレジヨは又野津に在る他のキリスト教徒の町村を管轄しているが、野津は豊後の國境に在る重要な地方で、由布より七レグワ、府内より十五レグワである。此の地方全体に五千の教徒があり、其の中本年教徒となつた者は約二千五百で、高貴な人又頭立つた人が多數である爲、歸依の門戸は大いに開け、說教師さえあれば其の數は非常に增加するであろう。今ビジタドールが都より歸られたので、日本人イルマンが當地に來た爲、多く收穫を得ることを我等の主に於て期待している。

由布野津附近ニ五千人ノ教徒アリ

野津ノレジデンシヤ

人口一万五千人中教徒三千人ニ及ブ

清田殿ノ領地

一三三　一五八一(天正九)年日本年報附錄

○イエズス会の通信
大分県史料一五

――一五八一年九月十五日付、パードレ・フランシスコ・カブラルのイエズス会総長宛書翰――

臼杵より四レグワの所に野津のレジデンシヤがあつて、パードレ一人、日本人イルマン一人及び日本の青年二人がいる。此の青年は未だ會員に加わつていないが、入會を許されることを希望して聖堂で働いている。之を同宿という。當レジデンシヤの周圍三レグワの所に約一万五千人居住し、其の中三千人は既にキリスト教徒となつて居り、立派な廣い聖堂が一つある。此の聖堂は貴族の教徒が他の人達の助力を受けて建築したもので、これによつて異教徒等も教徒なることを希望し、カテキズモを教えられる時を待つているが、多數の村に分れて住んでいる爲、イルマンから皆一時に說教を聽くことが出來ない。此の地は一年前洗禮を受けた國王の婿の清田殿の領地であるが、彼は遠い處にいて、充分に教育を受けることが出來なかつた爲、二(マヽ)と三箇月前までは稍冷淡になつていた處、パードレが當カザから、並に府内のコレジョからしばしば說教に行つたので、再び熱心になり、夫人と共に其の臣下を悉く教徒とする決心をなし、既に多數が歸依した。兩人共既に二回も告白をおこない、夫人は予に對して、既に教徒となりデウスの事が判り始めたが、世界の眞の造主を知らず、盲目であつた時代を悲しむと言つた。彼等は今聖堂を建て、パードレ一人此の所に居住することをしきりに求めているが、今は辛抱せねばならぬ。但し臼杵のカザ並に之よりも一層近い府

内のコレジョより度々巡視するよう努力する筈である。野津のレジデンシヤに於ては五百人教徒となつたが、當地より五、六レグワの所にいる清田殿の臣下は皆教徒とならんことを望み、カテキズモを授ける人を待つている。此のレジデンシヤのパードレ及びイルマンは、キリシタンの教化と異教徒の歸依に大いに努力している。

一三四　一五八二(天正十)年日本年報

○イエズス会の通信
大分県史料一五

――一五八二年一〇月三一日付口ノ津よりパードレ・ルイス・フロイスのイエズス会総長宛書翰――

野津ノ駐在所

○上下略

予は土曜日毎に當臼杵より三レグワはなれた野津の駐在所に行つて、彼地の教徒等の爲に彌撒を行い、日本人イルマン一人が彼に同行して說教をしている。彼地の教徒はデウスの御惠と又牧師(レアン)リヤンの努力に依つて大いに增加し、洗禮を受ける者絶えず、去る日曜日には三百餘人が洗禮を受け、昨日は予が百二十人に洗禮を授けた。此のようにして降誕祭日より昨日既ち五月九日までに洗禮を受けた者は七百人である。若し說教師があれば、野津には說教を依賴し之を聽こうと欲する村が多數あるが、之に應ずることが出來ない。

リヤンノ努力

野津院

一三五　一五八三(天正十一)年日本年報

○イエズス会の通信
大分県史料一五

――一五八四年一月二日パードレ・ルイス・フロイスのイエズス会総長宛書翰――

リヤンラ五六千人ノ教徒ヲ育成ス

○上下略

臼杵より三レグワの所に野津の地方がある。我等の主は同處においてキリスト教徒となつて六年たつたリヤン(レアン)と其妻マリヤを選んで、五六千人の教徒の爲に用い給うた。彼等については前々の書翰に記し、其の聖き熱心さと教徒たちを教える方法とを述べたが、教徒たちは益々增加し、彼らは全く彼に賴つている。彼は主デウスの教を廣める方法と、教徒たちを教え導き、聖堂を建築し十字架を建てる事より外は考えず、又殆んど他の事を語る事なく、たえず此熱心をつづけ自己の事は忘れるようである。彼は今前の立派な聖堂の代りに大きな聖堂を建築することに從事している。前の聖堂は大きな努力と多額の經費を以て建てたものであるが、彼の家及び財產と共に燒け、彼は聖堂の裝飾を取り出すため己の家を救うことができなかつた。昨年の末、一人のパードレが途中で善良な老人リヤンに會い何處に行くかと尋ねた處、彼は買受けることとした少しの材木の代金がないので、頸にかけていた金の聖寶器を破壞し、これを賣つて材木の代金に充てようとしていると答えた。彼に關することは餘り長くなるのでここに記さぬこととする。

勘介統直ト名乗ラシム

一字ヲ与ヘ統定ト名乗ラシム

一三六　大友義統名字状　○大友家文書録　大分県史料三四

任勘介統直候、可得其意候、恐々謹言、
（天正十二年頃）
三月十日　義統（花押）
吉岡三郎（統直）殿

一三七　大友義統一字状　○大友家文書録　大分県史料三四

一字之事、統定遣之候、恐々謹言、
（天正十三年）
壬八月廿六日　義統（大友）朱印
吉岡覺進（統定）殿

一三八　大友義統名字状　○波津久文書　大分県史料一三

（包紙ウハ書）
「波津久彌三郎殿　（端裏切封）「（墨引）」　義統」

名字ヲ与フ

名字之事、以別紙認遣候、恐々謹言、
（天正十四年）
正月十九日　　（大友）義　統（花押）
波津久彌三郎殿

統直ト名乗ラシム

一三九　大友義統名字書出

○波津久文書
大分県史料一三

加冠名字事
源統直
天正十四年正月十九日

一四〇　述世・述昌連署書状

○波津久文書
大分県史料一三

（端裏切封ウハ書）
「波津久彌三郎殿
（墨引）」

猶々至両人、一折ツヽ、被懸（カ）御意候、喜入候、已上、

被官人妻子ノ事ニ就キ父子ノ辛労ニ免ジテ妻子

御領地題目出來候、就夫御被官妻子之事、御侘言之條、申聞候之處、御親父已來別而御辛勞之條、親子共ニ可進之由候之間、尤珍重候、然者彼妻子渡進之候、乍勿論、連々之御覺悟專一候、必以面

ヲ渡ス

上可申承之條、令省略候、恐々謹言、

二月卅日　　述昌（花押）

述世（花押）

波津久彌三郎殿

御宿所

野津院士柴田紹安叛ス

薩軍王子山岩瀬両城ヲ攻ム

四一　大友家文書錄

○東京大学史料編纂所影写本
大分県史料三三

（天正十四年十月頃）

○野津院在大野郡士、及柴田紹安叛、分兵據王子山・岩瀬兩壘、家久薩摩隊長白濱周防守、尾相伊勢守等攻王子山壘、廣田大膳亮・彈正忠・內右衞門尉・新介・喜右衞門尉・臼杵內記・掃部助・又兵衞尉・堀民部丞・隼人允・井上左馬助・兵介・吉良宗伯・傳右衞門尉・岩屋道景皆野津院地士等、逆擊卻之、既而廣田等、去王子山壘、屯屋戸、又白濱等攻岩瀬壘、中村左京進・與右衞門尉・善四郎・柴田大藏丞・利光宗玄・久土地刑部丞・縫殿助・奈須右馬助・土屋主稅助・竹中飛彈守（マヽ）・荒瀬隼人允・三栗氏皆野津院地士等、請降、白濱等、入其壘、又其後廣田等、擊薩兵於留村、殺其隊長鎌田筑後守、又戰於吉岡原、殺鬼塚刑部少輔・伊知地丹後守、又攻拔岩瀬壘、斬獲許多、

野津ノキリシタン柴田シモン妻子等捕ヘラル

殺害セラル

一四三　フロイス日本史　〇豊後篇第八巻第六七章

豊後国の破滅が始まつた次第

〇上下略

（薩摩勢）は、臼杵から三里距たり、ほとんど（住民の）すべてがキリシタンである野津に到達すると、その地の重立ったキリシタンの一人で、富裕であり豊かな収入のある柴田（シバタ）シモンと稱する人に降伏を迫った。彼は屋敷に接して教會を有していたが、降伏を拒否した。彼は立派な兵士だったので、その名は敵方にも知られていたらしく、敵は宇目に至るとただちに彼のことを訊ねた。そして（柴田シモン）の（家臣である）幾人かの農夫を道案内者とし、それらの農夫が、（シモン）が妻および家族を匿っていた場所を發見した。彼らは一大家族を構成しており、ある深山の奥深くに隠れていた。彼らはその場で捕えられたが、ことごとくキリシタンであつた。シモンの妻マリアは、その地方でもっとも尊敬され德操に秀でた女性の一人であった。

（柴田シモン）は、息子や孫や婦女子が敵の手に捕えられるのを見ると、（彼らが）屈辱されないようにと敵に降伏した。だが薩摩の兵士たちはシモンを信用していなかったので、彼を殺してしまった。

（敵は）それから井田（イダ）の地に赴き、そこで異教徒イザベルの一姉妹を捕えた。

リアン鍋田城ニ籠ル

野津の善良な老人リアンは、敵軍がその地に到着するに先立って、[illegible]

に、鍋田（ナベタ）というある城塞（フォルテ）に妻子とともに籠居した。敵軍が來て、二度にわたって彼らと交戦した。その後、敵は彼に對して百五十名の女たちを人質とし、また子供たちをも渡すように要求し、それが不服ならば全員を殺戮すると傳えた。リアンは答えて言った。「この城塞（フォルタレーザ）には（我ら）が從わねばならぬ（というような）城主がいる（わけでは）ない。付近の者や友人仲閒が（集まって）いるだけだ。たとえ全員（討）死しようとも、妻子を渡すことは斷じていたさぬ」と。この言葉を聞いて、敵は遠ざかって行った。彼らの數は約七百名で、行く先に、より重要な任務があったから（去って行ったの）である。

その後、リアンは野津の人々を集め、「もし（汝ら）助かりたいと思うなら、あの城塞（フォルタレーザ）で家族ともども皆が打って一丸となって強くなるのが一番の得策だ」と語った。このようにして、三、四千名近い人たちがそこに集結した。

リアンはその（城塞）に、中央に聖（なるキリスト）像を付した大きな十字架を建立した。そしてそこで一同は祈りを捧げたが、彼はその人々の閒に一人として異教徒が混入することを許しはしなかった。その後、五十名（の異教徒）が入って來たが、彼ら全員は、機會があり次第キリシタンになることをリアンに誓った。

リアンは過ぐる年、司祭たちのために、居室や倉庫（グドン）を備えた木造建築の美しい教會を建て終えていた。その教會は、それに劣らず廣く、また立派であった以前の教會の代りとして造られたもので

あった。以前の教會は、一夜、すべて燒かれてしまい、（リアン）とその妻は、祭壇の裝飾物と幾枚かの祭服をそこから搬出するのがやっとのことであった。このたびはまたしても、デウスの御前における彼の功德を增すために、彼の（屋敷の）眞正面を流れる川の對岸に寺院を有する佛僧たちは、（既述の）新しい教會と、彼の新しい屋敷、および家臣たちの家屋、なおそのうえに、鍋田の城塞に運んで行けなかった彼の家財の大半を燒いてしまった。

その後、（城塞内の）人たちの間には、いくらか弱氣が感じられるようになり、生き延びるためには薩摩軍に投降したほうがよいと考える者が現われ出したので、リアンは妻およびごくわずかの家來を從え、少なからぬ危險を冒して臼杵の城に赴き、國主フランシスコが亡くなる場所で死にたいと言って、國主と合流した。（リアン）の妻は、道中の費用として幾ばくかの銀子（クルザード）を懷に入れていたが、敵に沒收される危險に遭い、その後、非常な不自由を味わうこととなった。

リアン妻子等ヲ連レ臼杵丹生島城ニ合流ス

敵陣切崩ノ覺悟

一四三　大友義統書狀（紙切）

○波津久文書
大分県史料一三

（包紙ウハ書）「（朱書）「波津久右近允殿」」

波津久右近允殿

（端裏切封）「（墨引）」

義　統」

今度其方心懸之趣、對清田宗列一通、加披見候、千石秀久・長宗我部信親申談、急度敵陣可切

ヲ貫シ忠節ヲ致サシム

崩覺悟候之條、其刻一忠儀肝要候、必取鎭一稜可賀之候、恐々謹言、

（天正十四年カ）十一月六日　（大友）義　統（花押）

波津久右近允殿

薩摩ノ悪党現形ノ際ノ懇忠ヲ賞ス

一四四　大友義統感状（切紙）

○沓掛文書
大分県史料一三

今度薩广之惡黨現形候處、南郡之者共、構未練候處、統常以順儀之覺悟出府、懇忠之次第、無比類候、殊其方同心之由、忠儀感入候、何樣一稜可賀之候、恐々謹言、

（天正十四年カ）十一月廿五日　（大友）義　統（花押）

沓懸孫太郎殿

山賊夜討以下ノ退治ヲ命ズ

一四五　大友義統書状（切紙）

○臼杵文書
大分県史料一三

去年以來於所々、山賊夜討已下、無盡期之通其聞候、不及是非候、一稜被加下知之條、野津院之事、夜白無油斷、以其心懸狼藉人堅固討果、妻子等迄、同罪ニ可被行事、肝要候、爲存知候、恐々謹言、

（天正十五年カ）正月十三日　（大友）義　統（花押）

野津院

臼杵右京亮(鎮生)殿

一四六　大友義統感状

○大友家文書録
大分県史料三四

今度薩广之悪黨、國中へ亂入候之處、吉岡彌三郎以同心、至丹生嶋(臼杵荘)、遂籠城、每事馳走之由感入候、必追而可賀之候、恐々謹言、

正月廿八日(天正十五年)　義(大友)　統判

吉岡覺進(統定)殿

一四七　若林鎭興給所坪付(紙折)

○若林文書
大分県史料三五

「若林中務入道とのへ」(新包紙ウハ書)
(大友義統)(花押)

坪付
高田庄之内
一所拾七貫分
森左近跡

野津院之内
一所拾貫分

吉岡弥三郎同心ヲ以テ丹生嶋城ニ籠城セル忠ヲ賞ス

若林鎭興ニ対スル給地ノ坪付ヲ注ス

高田荘

野津院

木付左馬助 先給
野津院之内
一所拾貫分
堀民部丞 先給
已上、
天正十五年八月十三日
若林中務(鎮興)入道殿
(折返奥ウハ書)「若林中務入道殿」

一四八　若林鎮興給所坪付(折紙)

○若林文書
大分県史料三五

(大友義統)(花押)

坪付
野津院下村上平野
一所五貫分
中村左京跡
已上、
天正十五年八月十三日
若林中務(鎮興)入道殿

若林鎮興ノ野津院内給地ノ坪付ヲ注ス

若林鎮興給地ノ坪付ヲ注ス

野津院

佐賀郷

野津院

（折返奥ウハ書）「若林中務入道殿」

一四九　若林鎮興給所坪付（折紙）

○若林文書　大分県史料三五

（大友義統）（花押）

坪付

野津院下村上平野

一所五貫分　中村左京跡

佐賀郷之内

一所三貫　安藤掃部跡

已上、

天正十五年九月十一日　若林中務（鎮興）入道殿

（折返奥ウハ書）「若林中務入道殿」

一五〇　若林鎮興野津院給所坪付

○若林文書
大分県史料三五

（新包紙ウハ書）
「
若林中務入道殿　　賀嶋織部佐
　　稗田内記允」

野津院木付左馬助先給貳拾貫分□　□割分拾貫分坪付之事、

篠枝七貫分之内半分三貫五百分

一所田地壹斗六舛蒔　おなふ
一〻田地六舛蒔　秋田
一〻田地五舛蒔　柿木田
一〻田地貳斗二舛蒔　鬼法師か迫
一〻田地六舛蒔　同所
一〻田地壹斗蒔　同所
一〻田地壹斗六舛蒔　同所

野津院

一〻田地壹斗六舛蒔　あらけ
一〻田地七舛蒔　小河内
一〻田地四舛蒔　小谷
一〻田地壹舛蒔　戸ノ下
一〻田地貳舛蒔　戸ノ上
一〻田地三舛蒔　すミかま
一〻田地壹斗蒔　新かひ
一〻田地四舛蒔　たかひやけ
一〻田地三舛蒔　杉その

畠地分

一所畠地一段　前はたけ
一〻畠地四舛蒔　同所北ノ下
一〻畠地四舛蒔　同所
一〻畠地貳舛蒔　同所
ふこたんうらにとをす
一〻下ノ屋敷　篠枝門
一〻屋敷　徳ノ尾上ノ屋敷
一〻野畠一段　うしろその

一〻畠地一段　いはのくほ
一〻畠地三舛蒔　こへかと
一〻畠地壹舛蒔　すきその
一〻畠地貳舛蒔　なかはたけ
一〻畠地三舛蒔　にし畠
一〻野畠半一段ヲ二ニワル　ひかし畠
浮免　中ノ原之内
一〻野畠一段　くほ
一〻野畠一段下ノキレ　ゑひらかさこ
一〻野畠半　上ノキレ　同所
中之原
山野半分堺一方ハ畠ノドイ
一方ハツイチ三ノスミ　東ノ方
鍛冶屋三貫分之内半分壹貫五百分
一所田地壹斗貳舛蒔　井のさこ
しり
一〻田地六舛蒔一段ヲ二ツニワル　おき原田
一〻田地六舛蒔町ほり　田尻
畠地分
一所畠地半分ひかしの方道わけ　鍛冶屋津留
一〻野畠四舛蒔　井のさこ

一〻畠地五舛蒔田ふち　同所
一〻畠地八舛蒔うへのたん　同所
一〻畠地八舛蒔尾の上　同所
下ノ方
一〻野畠一枚堺ハ秡、　鳥居畠
一方ハほんれい花
一〻野畠六舛蒔　井のさこの辻
大山野半分ひかしの方
日南六貫分之内半分三貫文
一所田地貳斗壹舛蒔　みたれはし
一〻田地壹舛五合蒔　同所かミのきれ
一〻田地貳舛蒔　同前かミのきれ
一〻田地四舛蒔　野そひかミのきれ
一〻田地四舛蒔上ノ方　竹遍の下
一〻田地九舛蒔寺の方　興善寺ノ前
一〻田地四舛蒔　同所
一〻田地六舛蒔なふての下はかり　ひ井かけのさこ
一〻田地四舛五合蒔町ほり　八くまの下
一〻田地三舛蒔用作之上　同所

一〻田地壹斗二舛蒔
一〻田地六舛蒔（カ）（荒不）年々あれふ
一〻田地八舛蒔用作
双方井手料
一〻田地貳舛五合蒔
畠地分
一所畠地七舛蒔
一〻畠地五舛蒔
一〻畠地八舛蒔茶木畠相加之、
一〻畠地一段（マヽ）
一〻畠地六斗蒔
一〻畠地壹斗蒔
一〻野畠貳舛蒔
一〻野畠三舛蒔
一〻畠地三舛蒔
一〻一屋敷
一〻畠地六舛蒔
一〻野畠二枚

同所
八くまの下
興善寺ノ前三段之内
八くまの下
同所
城のひら
おふちかさこ
まへ畠
屋敷分
むかいひら
にしのひら
屋敷分
大くほ
同所
寺の上

一〻畠地八舛蒔
一〻畠地壹斗二舛蒔
くほ畠半分
一〻一屋敷
そのゝやしき
一〻野畠くほ分
さかいひかし秡
たうせうくほ半分
一〻屋敷中ノさかいほう藏
西ハツイチノスミ
原のやしき半分
一〻畠地半分
屋敷分
寺上之原之堺南ハついちのすミ
北ハひなた屋敷のすミの櫻也、
日南之原大堺東西之大道を限て北之方此内也、
下はらい三貫分之内壹貫五百分
すなた
一所田地六舛蒔
弁指分
いわのもと
一所田地三舛蒔
同人
こへ
一〻田地三舛蒔吉野おもて
同人
こまた
一〻田地壹斗蒔
用作
かち田
一〻田地壹斗蒔
用作
柿田ノさこ
一〻田地三舛蒔
弁指分
上のせまち
一〻田地壹斗蒔
柿田
なか
一〻田地八舛蒔
溝辺

野津院

一〻田地壹斗五舛蒔　水口　なりあい
一〻田地三舛五合蒔　びしや門

畠地分
一所畠地（まへくほ）貳斗八舛蒔　弁指分
一〻畠地半分（うしろくほ）八舛蒔　同人
一〻屋敷山野ハ谷分半分此内也、　名子分
一〻畠地半分六舛蒔　柿田屋敷
一〻山野半分　柿田

大堺者、惣見いミの谷たわら石
田ふちハ、竹のうしろ岩藤か谷三ツ石
松尾のひらの栗木なり、大山野半分（人遣有り、）

已上、

天正拾五年丁亥拾月十日

薤田内記允
鎭　眞
賀嶋織部佐
鎭　恵（花押）

若林中務（鎭興）入道殿

臼杵荘・野津院
佐賀郷・高田庄
大分郡・井田郷
朽網郷

〔五一〕 若林氏所領覚写

〇若林文書
大分県史料一三

豊後之内
一臼杵庄之内二ケ所　一野津院之内六(五カ)ケ所
一佐賀郷之内三ケ所　一高田庄之内三ケ所
一大分郡之内一ケ所　一井田郷之内一ケ所
一朽網郷之内一ケ所
合十六ケ所、内十五ケ所御書出有之、壹ケ所ハ手前書付計、
豊前之内八ケ所御書出紛失、役人中書付有之、
一京都郡之内二ケ所　一築城郡之内六ケ所
築後之内　御書出有之、所付紛失、
一竹野郡之内　一ケ所
築前之内　御書出有之、所付紛失、
一野閇口　一ケ所　一博多之内
肥後之内、書出有之、所付紛失、
一不知(マヽ)所一ケ所十町ト斗有、別紙所付紛失、

野津院

一五二　大友義統判物

○大友家文書録
大分県史料三三

□奉公辛勞之條、野津院旧□（領万雑諸点役カ）□ヽ令免許、可爲檢斷不□（入）□、彌不可有相違候、
次八□　□町（沙）汰肝要候、恐ヽ謹□、

□日

□部入道殿

（大友）義　統在判

野津院旧領点役ヲ免ジ検断不入トス

一五三　大友吉統書狀

○五条文書
史料纂集・熊本県史料中世四

（包紙ウハ書）「五條殿」

（端裏切封）「（墨引）」

吉　統」

以坂本備中（直烈）入道、度々如申候、近年弓箭之砌、逆意之輩、南郡近邊之人等、不謂遠近一途ニ加下知、散鬱憤候、就中津江信濃（親信）守、折々惡逆之企令顯然候條、可加誅伐候閒、別而可被勵貞心、粉骨事賴存之段、申出候處、種々以口能承候、既爲國家靜謐、逆徒之族平均申付候處、鎭定（五條）達歎訴之儀、更雖不能信用候、從前々鎭定御懇忠、無比類之條、對鎭定・統康父子、信濃守親子事、可助置一命候、然者家中之惡人、好敵方ニ僕能（俣カ）登守親子兄弟、其外同心之者共、不漏一人討果、親信顯順

南郡衆逆意
津江親信ヲ誅伐ス
五条鎮定歎訴ス

敵方ヲ打果シ順

路胸内ヲ顕サバ鎮定入魂ニ任セ等閑ナシ

路胸内、自今以後鎮定任入魂、忠貞覚悟於無別儀ハ、爲吉統表裏不可有等閑隔心候、被得其意、急度可被相調事、可爲祝着候、萬一未斷時者、兼々申旨不可有變化候、委細猶道(烈)列可申候、恐々謹言、

(天正十六年カ)
六月十三日　　吉統(大友)（花押）

五條(鎮定)殿

山中城ヲ陥レ箱根ニ陣取リ小田原城ヲ攻略セントスルヲ告グ

一五四　豊臣秀吉朱印状

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

急与染筆候、中納言(豊臣秀次)山中城(箱根)へ、今日廿九取懸、卽午刻乘崩、城主事者不及申、首千余討捕之、其外追討不知其數候、然者明日朔日、箱根山峠へ爲陣取、至于小田原表、可手遣候條、落去不可有程候、猶吉左右、追々可申聞候也、

(天正十八年)
三月廿九日　　(豊臣秀吉)（朱印）

(包紙表書後補)
「豊氏秀吉公御朱印」

一五五　野津院内廣田内右衛門尉領坪付

○広田文書
大分県史料一三

大野群(マヽ)内　廣田内右衛門尉領

野津院内
一田地參町貳反十陸(歩)卜

大野郡内広田氏ノ所領坪付ヲ注ス

野津院

野津院

右同
一畠地拾参町五反八歩

右田畠、合拾陸町七反廿四卜

右外下ミ畠壹反壹畝貳卜

（天正十八年）
九月廿八日

門司勘解由允
親家（裏黒印）
（田原）

（異筆）
「有御判者裏ニ」

一五六　沓懸左馬助領坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

沓懸左馬助領地
ノ坪付ヲ注ス

（端裏書）
「沓懸左馬助」

大野郡内　沓懸左馬助領

野津院内
一田地壹畝廿歩
井田郷之内
一田地貳反貳畝

右外　荒田壹丁
下ミ畠三反貳畝

天正十八年
九月廿八日

門司勘解由允
親家（裏黒印）

野津院・井田郷内領地ノ納米ヲ請取ル

一五七　生善寺永存等連署納米請取状（竪紙）　○沓掛文書　大分県史料一三

野津院・井田郷ノ内、田地貳反三畝廿歩
納米　四舛八合七勺定
右之前、請所所申實也、
天正十八年十一月卅日

岡部佐渡守
鎭　種（花押）
臼杵舎人佐
統　高（花押）
生善寺
永　存（花押）

沓懸左馬助殿まいる

一五八　大友吉統條々事書　○大友文書　大分県史料二六

○天正二十年二月十一日。「大野荘史料」三七一号ニ収ム。本文省略。

一五九　豐後國諸侍着到帳寫

○武内本・中島本
大分県地方史一〇八

豐後國諸侍着到次第
不同

○久我殿以下三百五十一名・玖珠郡衆八十五名・国東郡衆三十八名・日田郡衆百十名・由布院衆二十九名・戸次庄衆六十六名・高田庄衆十四名・山香郷衆六名交名中略。

緒方庄衆

堀次郎
稙田太郎左衛門尉
田尻安藝守
波多野宮内丞
鶴原五郎太郎
衛藤雅樂助
堀式部丞
五郡松千代

久保治部少輔
賀藤助左衛門尉
波多野上總助
鶴原孫十郎
衛藤源次郎
平井彌太郎
三代與一」
疋田伊勢熊

阿南九郎
賀藤讃岐守
長野三郎
原尻藤三郎」

井田郷衆

小野孫十郎
沓懸勘解由允

宇田枝衆

首藤次郎太良
進士左京亮
進士平三郎
衛藤三右衛門尉
衛藤勘右衛門

古庄龜藏
久保九郎
藤井佐右衛門尉」

沓懸左馬亮
沓懸源内允」

渡邊太郎
高山丹波守
小深田志摩守
進士市進
首藤善三郎」

波津久新助　龜山玄番允
御久里源允　波津久主殿助
佐土原兵部允　廣田大膳入道
戸上五郎兵衛尉　生野九郎
廣田源五郎　龜山龜松
御久里監物允　戸上六郎　」
龜山右近允　龜山孫三郎
戸上左京亮　」

直入郷衆
丹生庄衆
臼杵庄衆
津久見衆　」

右大友松野氏所藏之秘本也、
應大村源内勝安之需、謄寫之、

野津院

財津太郎右衛門永倫　」

右着到人數

三百五十一人
八十五人　玖珠郡衆
三十八人　國東郡衆
百十二人　日田郡衆
二十九人　由布院衆
六十六人　戸次庄衆
十四人　高田庄衆
六人　山香郷衆
二十三人　緒方庄衆
四人　井田郷衆
十人　宇田枝衆
十七人　野津院衆

都合七百五十五人　」

右者日田郡藤山村庄屋財津忠左衛門
於熊本書寫、予又寫之、
明和元甲申初冬吉日
佐藤新七閲眞　」

一六〇　由原山宮主坊拘分供田注文

〇柞原八幡宮文書
大分県史料九

（端裏書）
「文祿三年正月九日」

豊後國一宮八幡由原山

宮主坊拘分

〇中略

是者正月廿八日武府大神事田
一田畠六町野つのいんニ有、號貳拾貫分也、
右米八石九斗三升、大ツ八斗五升、銀五匁八分出申候、桝六入
是ハ定燈明田也、
一田畠壹町五反井田之郷ニ有、號五貫分也、
右米六斗、銀子廿四匁、社役ニ出申候、桝六入
此内正御供田、八まん御たん生會神事田也、
一田畠七町かくの庄内ニあり、
右之内壹町貳反、荏隈郷ニ有、加くの庄内、
文祿三年正月九日

【六】豊後國大野郡野津院御檢地帳寫

○渡辺澄夫藏本
大分県史料一九

豊後國大野郡野津院御檢地帳

文錄（マヽ）貳年　市村与四拾ケ村之内

上ノ村 市　村
中ノ村 寺小路村
下ノ村 日當村
下ノ村 赤迫村

山口玄番（マヽ）帳寫

野津市村

中田（しやかたう）　貳畝貳拾歩　三斗貳升　大　藏
池田中田　九畝七歩半　壹石壹斗壹升　孫三郎
同中田　貳反九畝廿貳歩半　三石五斗七升　權　助
同上田　三反五畝十六歩半　四石九斗七升七合　同　人

下田　壹畝貳歩半　池田口　貳畝廿四歩半　三斗九升四合四勺　孫五郎
上田　壹反貳畝八歩　同　拾八歩　六升　五郎右衛門
同下田　壹畝　（マヽ）○以下同　貳畝廿九歩　壹斗　彌次右衛門
下田　貳畝　七畝六歩　七斗貳升　和　泉
屋敷　四畝六歩半　三畝貳拾五歩　三斗八升三合三勺　勘四郎
屋敷　四畝拾八歩　五畝拾八歩　四斗六升　大　藏
屋敷　五畝四歩　五畝六歩　五斗壹升三合三勺　喜三郎
屋敷　壹畝貳拾歩　五畝拾歩　五斗貳升　善次郎
屋敷　貳畝四歩　貳斗壹升三合三勺　滿右衛門

屋敷　三畝拾四歩　三斗四升六合七勺　六　良」
屋敷　四畝貳拾四歩　四斗八升　又　市
中畠（しやかたう）　三反貳拾歩半　貳石七斗八升　三　郎
同中畠　四畝六歩　三斗七升八合　善三郎
上畠同　五畝五歩　五斗六升八合三勺　和　泉
上畠（内はた）　五畝　五斗五升　同　人
上畠同　四畝廿三歩　五斗貳升四合四勺　六　郎」
上畠（内はた）　三畝拾歩　三斗六升六合三勺　六右衛門
上畠（いけた口）　壹反壹畝廿七歩　壹石三斗九合　又　市
上畠同（中カ）　壹反三畝廿八歩　壹石三斗九升三合三勺　五郎右衛門
上畠同　七畝拾八歩　八斗三升六合　權　助
上畠同　三畝九歩　三斗六升三合　同　人
上畠同　壹反三畝　壹石四斗三升　五郎右衛門」
上畠（いけた口）　九畝五歩　壹石八合三勺　土　佐
上畠同　壹反五畝　壹石六斗五升　滿五郎
上畠同　七畝七歩　七斗九升五合七勺　清七郎
上畠同　七畝五歩　七斗八升八合四勺　孫五郎
中畠同　四畝貳拾歩　四斗貳升　外　記

中畠同　貳畝半　壹斗八升壹合五勺　同　人」
中畠（いけた口）　三畝貳拾貳歩　三斗三升五合九勺　清七郎
下畠同　拾八歩　四升貳合　彌次右衛門
上畠（内はた）　五畝六歩　五斗七升貳合　孫五郎
上畠同　四畝拾六歩　四斗九升八合七勺　清七郎
上畠同　壹反貳拾三歩　壹石壹斗八升四合三勺　五郎右衛門
上畠同　壹反貳畝廿貳歩半　壹石四斗貳合五勺　清七郎」
上畠（池田口）　貳畝四歩　貳斗三升四合七勺　彌次右衛門
上畠同　貳畝拾貳歩　貳斗六升四合　外　記
中畠同　五畝拾五歩　四斗九升五合　權　助
中畠同　三畝貳拾歩　三斗三升　善次郎

合三拾九石九斗六升壹合

内

」

田方拾三石六斗貳升八合
畠方貳拾六石三斗三合　屋敷共ニ　」

寺小路村

柿か瀬下田　壹反五畝拾四歩　壹石三斗九升貳合　四郎右衛門

下田	壹畝五歩	壹斗五合	與三左衛門
山下 下田	四畝貳拾歩	四斗貳升	けんすけ
同 下田	貳拾六歩	七升八合	外　記
同 下田	四畝貳拾歩	四斗貳升	同　人」
山下 下田	壹畝貳拾六歩	壹斗六升八合	彌　介
同 下田	拾四歩	四升貳合	藤十郎
同 下田	五畝貳拾歩	五斗壹升	彌　助
同 下田	四歩半	壹升三合五勺	內藏丞
いけた口 上田	壹反九畝六歩	貳石四斗九升六合	次郎左衛門
同 上田	貳畝四歩	貳斗七升七合三勺	土　佐」
いけた口 下田	貳拾歩	六升	次郎左衛門
同 上田	壹反五畝拾歩	壹石九斗九升三合	三右衛門
同 上田	貳畝貳拾歩	三斗四升六合七勺	土　佐
同 上田	三畝	三斗九升	同　人
同 下田	貳畝六歩	壹斗九升八合	けんすけ
同 上田	五畝貳拾六歩	七斗六升貳合六勺	藤十郎」
いけた口 中田	貳畝拾壹歩半	貳斗六升貳合貳勺	德　龜
同 中田	五畝拾八歩	六斗貳升六合	藏　助

下田	八畝貳拾四歩	七斗九升貳合	同　人
しの迫 下田	壹畝六歩	壹斗八合	土　佐
同 上田	壹反三畝拾歩	壹石七斗三升三合三勺	同　人
同 下田	壹反八畝	壹石六斗貳升	同　人」
あかせと 下田	壹畝	九升	善　助
同 下田	四畝六歩	三斗七升八合	同　人
同 下田	貳畝	壹斗八升	彌七郎
同 下田	四畝貳拾四歩	四斗三升貳合	勘四郎
同 下田	三畝	貳斗七升	新　六
同 下田	六畝貳拾五歩	六斗壹升五合	勘四郎」
あかせと 下田	七畝拾四歩	六斗七升貳合	三右衛門
同 下田	九畝拾八歩	八斗六升四合	六　郎
同 中田	壹反壹畝四歩	壹石貳斗貳升四合七勺	藤十郎
同 上田	壹反壹畝六歩	壹石四斗五升六合	彌　介
同 中田	四畝六歩	四斗六升貳合	けんすけ
同 上田	九畝拾八歩	壹石貳斗四升八合	彌　助」
ハさた 上田	三畝貳拾貳歩	四斗八升五合三勺	けんすけ
同 上田	貳畝拾五歩	三斗貳升五合	同　人

同 下田 四畝貳拾五歩 四斗三升五合 彌 助
同 あかせと 下田 壹反四畝五歩 壹石貳斗七升五合 甚 九郎
同 中田 貳反壹畝八歩 貳石三斗三升九合四勺 七右衛門
六かう 下田 六畝貳歩 五斗四升六合 同 人」
六かう 中田 貳反貳畝五歩 貳石四斗三升八合三勺 大 藏
同 中田 壹反貳拾九歩 壹石貳斗六合四勺 けんすけ
同 中田 貳畝拾貳歩 貳斗六升四合 同 人
いて口 中田 三反貳拾歩 三石三斗七升三合三勺 新左衛門
六かう 下田 貳反六畝貳拾歩 貳石四斗 善次郎
五反た 上田 壹反貳畝拾壹歩 壹石六斗七合七勺 和 泉」
〇以（マヽ）下同 上田 壹反七畝拾八歩 貳石貳斗八升八合 同 人
五反田 中田 貳反 貳石貳斗 喜兵へ
同 中田 貳畝拾貳歩 貳斗六升四合 同 人
同 中田 壹畝拾四歩 壹斗六升壹合三勺 同 人
同 中田 貳畝貳拾壹歩 貳斗九升七合 新右衛門
同 中田 貳反四畝廿四歩 貳石七斗貳升八合 與三左衛門」
六がう 中田 貳反八畝拾五歩 三石壹斗三升五合 與三左衛門
同 上田 **貳反六畝拾貳歩 三石四斗三升貳合** 喜 助

同 中田 貳反三畝六歩 貳石五斗五升貳合 同 人
同 中田 四畝六歩 四斗六升貳合 妙樂寺
同 中田 壹反六畝九歩半 壹石七斗九升五合 李 介
六がう 中田 五畝拾八歩 六斗壹升六合 善兵衛」
同 中田 八畝拾貳歩 七斗五升六合 內藏丞
ひら石 中田 壹反五畝 壹石六斗五升 土 佐
同 下田 壹反貳拾歩 九斗六升 同 人
同 下田 壹反壹畝拾貳歩 壹石貳升六合 同 人
大くほ 下田 壹反五畝拾貳歩 壹石三斗八升六合 馬 丞」
大くほ 中田 四畝六歩 四斗六升貳合 藤兵衛
同 中田 貳畝拾四歩 貳斗七升壹合四勺 新右衛門
同 下田 三畝貳拾七歩 三斗五升壹合 同 人
同 中田 壹反四畝 壹石五斗四升 藤兵衛
岩下 中田 三畝八歩 三斗五升九合三勺 源 內
同 中田 貳反八畝貳拾八歩 三石壹斗四升六合 李 介」
岩下 中田 四畝六歩 四斗六升貳合 主 殿
大ノ田 下田 **壹反九畝貳拾歩 壹石七斗七升** 馬 介

中田	六畝拾歩	六斗九升六合七勺	妙楽寺	蔵
同中田	壹反貳畝	壹石三斗貳升	同　人	彌　助
同中田	貳畝九歩	貳斗五升三合	與　七	三　藏
同中田	壹反六畝貳拾歩	壹石八斗三升三合三勺	與三左衛門」	與三右衛門」
小くぬき下田	壹畝貳拾六歩	壹斗六升八合	八　郎	吉右衛門
同中田	貳反壹畝八歩	貳石三斗三升九合四勺	同　人	與三左衛門
同中田	貳反八畝六歩	三石壹斗貳合	喜兵衛	七右衛門
同中田	貳反七畝拾五歩	三石貳升五合	同　人	吉右衛門
小路中畠	壹反九畝拾五歩	壹石五斗六升	藏　助	同　人」
内はた上畠	四畝貳拾四歩	四斗八升	同　人」	與三左衛門」
内はた上畠	六畝貳拾八歩	六斗九升三合三勺	藏　介	吉右衛門
山下中畠	貳畝貳拾歩	貳斗壹升三合三勺	與三左衛門	四郎右衛門
同上畠	壹反壹畝八歩	壹石壹斗貳升七勺	與三左衛門	同　人
かわら中畠	三畝	貳斗四升	同　人	同　人
下畠	壹畝貳歩	六升四合	同　人	與三左衛門
小路下畠	壹畝拾歩	八升	同　人」	同　人」
小路上畠	九畝拾八歩	九斗六升	與三右衛門	與三左衛門
同上畠	三畝拾歩	三斗三升三合三勺	四郎右衛門	傳　九　郎
同上畠	三畝拾四歩	三斗四升六合七勺	彌　助	
同上畠	三畝四歩半	三斗壹升五合	三　藏	
同上畠	四畝	四斗	與三右衛門」	
同上畠	貳畝貳拾歩	貳斗六升六合七勺	吉右衛門	
内はた上畠	三畝六歩	三斗貳升	與三左衛門	
同上畠	貳畝貳拾四歩	貳斗八升	七右衛門	
同上畠	壹畝九歩	壹斗三升	吉右衛門	
同上畠	貳畝貳拾壹歩	貳斗七升	同　人	
同上畠	三畝貳拾貳歩	三斗七升三合三勺	與三左衛門」	
内はた上畠	四畝八歩	四斗貳升六合七勺	吉右衛門	
同上畠	三畝	三斗	四郎右衛門	
同上畠	六畝拾五歩半	六斗五升壹合七勺	同　人	
同上畠	三畝拾歩	三斗三升三合三勺	同　人	
同上畠	貳拾四歩	八升	與三左衛門	
同上畠	五畝貳拾四歩	五斗八升	同　人」	
内はた上畠	壹畝貳拾歩	壹斗六升六合七勺	與三左衛門	
同上畠	八畝	八斗	傳　九　郎	

同上畠	九畝拾歩	九斗三升三合三勺	善次郎
同中畠（たつちう）	壹反貳拾歩	八斗五升三合三勺	同人
同上畠	壹反五畝拾八歩	壹石五斗六升	權助
同下畠	壹畝拾歩	八升	與太郎」
下畠（きつねさこ）	五畝拾五歩	三斗三升	菊松
同下畠	六畝	三斗六升	藏助
同下畠	壹畝貳拾三歩	壹斗六合	菊松
同下畠	貳拾四歩	四升八合	吉右衛門
下畠（いちがくほ）	壹反三畝拾歩	八斗	三藏
同下畠	貳拾四歩	四升八合	吉右衛門」
下畠（いちがくぼ）	四畝	貳斗四升	三ノ丞
同下畠	貳拾歩	四升	同人
同下畠	四歩	八合	菊松
山下中畠	四畝	三斗貳升	外記
花はたけ中畠	五畝拾八歩	四斗四升八合	けんすけ
同上畠	三畝拾八歩	三斗六升	善次郎」
小路上畠	五畝拾九歩	五斗六升三合三勺	善次郎
同中畠	五畝四歩	四斗壹升七勺	けんすけ

山下中畠	貳畝三歩	壹斗六升八合	外記
内はた上畠	三畝五歩	三斗壹升六合七勺	彌助
小路中畠	貳畝拾貳歩	壹斗九升貳合	助十良
同中畠	壹畝三歩	八升八合	彌助」
小路中畠	壹反四畝拾歩	壹石壹斗四升六合七勺	監介
同中畠	九畝拾九歩	七斗七升七勺	彌助
同下畠	貳畝四歩	壹斗貳升八合	同人
同下畠	壹反三畝廿六歩	八斗三升貳合	與三左衛門
同下畠	壹畝	六升	彌助
同下畠	三畝拾歩	貳斗	外記」
小路中畠	四畝拾六歩	三斗六升貳合七勺	彌介
同下畠	三畝	壹斗八升	外記
同下畠	三畝九歩	壹斗九升八合	監介
同中畠	六畝貳拾八歩	五斗五升四合七勺	藏（カ）藏
同中畠	六畝九歩	五斗四合	同人
同下畠	貳拾壹歩	四升貳合	彌次右衛門」
小路下畠	貳拾四歩	四升八合	助十郎
同上畠	六畝	六斗	同人

下畠	壹畝貳歩半	六升五合	龜　龜	
同上畠	壹反貳拾四歩	壹石八升	孫五郎	
同下畠	壹畝拾八歩	九升六合	與十郎	
同下畠	拾八歩	三升六合	外　記」	
内はた上畠	壹反貳畝八歩	壹石貳斗貳升六合七勺	監　助	
同上畠	三畝六歩	三斗貳升	外　記	
同上畠	八畝三歩	八斗壹升	監　助	
同下畠	八歩	壹升六合	龜　龜	
同上畠	壹反	壹石	對　馬	
同中畠	三畝八歩	貳斗六升壹合四勺	藏　藏」	
城平下畠	貳畝五歩	壹斗三升	七右衞門	
同下畠	九畝拾歩	五斗六升	三右衞門	
いけたくち中畠	拾歩	貳升六合七勺	又次郎	
同下畠	貳畝貳拾四歩	壹斗六升八合	監　助	
同下畠	壹畝	六升	同　人	
同下畠	六歩	壹升貳合	又次郎」	
しのさこ中畠	壹反貳拾三歩	八斗六升壹合三勺	土　佐	
同中畠	六畝拾歩	五斗六合六勺	又次郎	

同中畠	壹畝貳歩	八升五合三勺	同　人	
同下畠	六畝	三斗六升	滿右衞門	
同下畠	壹畝貳拾六歩	壹斗壹升貳合	三右衞門	
同中畠	壹反八畝廿七歩	壹石五斗壹升壹合	甚　九郎」	
しのさこ中畠	八畝	六斗四升	次郎左衞門	
同下畠	五畝拾八歩	三斗三升六合	同　人	
同下畠	貳拾八歩	五升六合	助十郎	
同下畠	六歩	壹升貳合	龜　龜	
同下畠	六畝貳拾四歩	四斗八合	源十郎	
同（中ノ誤カ）下畠	壹反七畝拾歩	壹石四斗	七右衞門」	
しのさこ中畠	八畝	六斗四升	藏　藏	
同中畠	壹畝貳拾六歩	壹斗四升九合三勺	同　人	
同下畠	八畝貳拾歩	五斗貳升	藤十郎	
同下畠	壹反六畝拾四歩	九斗八升八合	監　助	
同中畠	壹反三畝拾八歩半	壹石八升九合三勺	土　佐	
同中畠	壹反五畝	壹石貳斗	同　人」	
しのさこ中畠	壹反三畝拾歩	壹石六升六合六勺	土　佐	
同中畠	八畝貳拾四歩	七斗四合	監　助	

下畠（しのさこ）	拾六歩	三升貳合	龜	龜
同中畠	壹反貳拾貳歩	八斗六升壹合三勺	六郎	六郎
同下畠	四畝拾六歩	貳斗七升貳合	土佐	土佐
同下畠（きやうつか）	壹反六畝廿六歩	壹石貳升貳合	六郎」	六郎」
同下畠	五畝拾五歩	三斗三升	土佐	土佐
同下畠	壹反壹畝六歩	六斗七升貳合	與三左衛門	與三左衛門
大くほ下畠	三畝拾八歩	貳斗壹升六合	馬充（ママ）	馬充（ママ）
同下畠	壹畝六歩	七升貳合	同人	同人
同中畠	貳反六畝拾貳歩	貳石壹斗壹升貳合	同人	同人
同中畠	壹畝	八升	同人」	同人」
中畠（とくりん）	壹段三畝	壹石四升	杢助	杢助
同下畠	八歩	壹升六合	外記	外記
小路中畠	壹畝五歩	九升三合三勺	同人	同人
内はた上畠	三畝貳拾貳歩	三斗七升三合三勺	彌助	彌助
同上畠	壹畝拾歩	壹斗三升三合三勺	藤左衛門	藤左衛門
同上畠	貳畝貳拾八歩	貳斗九升三合三勺	甚九郎」	甚九郎」
内はた上畠	五畝貳拾歩	五斗六升六合六勺	藤十郎	藤十郎
あかせと下田	三畝八歩	貳斗九升四合	内記兵衛	内記兵衛

同下田	四畝貳拾歩	四斗貳升	同人	同人
同下田	壹反五畝六歩	壹石三斗六升八合	道加	道加
同下田	貳拾四歩	七升貳合	甚九郎	甚九郎
六かう下田	四畝貳拾歩	四斗貳升	藤次郎」	藤次郎」
六かう下田	壹反三畝六歩	壹石壹斗八升八合	志多	志多
大くほ下田	貳畝拾貳歩	貳斗壹升六合	主無	主無
同下田	八畝	七斗貳升	久助	久助
同下畠	五畝拾歩	三斗貳升	尚明寺	尚明寺
同下畠	貳畝四歩	壹斗貳升八合	六郎	六郎
同下畠	四畝貳拾歩	貳斗八升	三助」	三助」
屋敷	三畝	三斗	藏介	藏介
屋敷	四畝貳拾四歩	四斗八升	四郎右衛門	四郎右衛門
屋敷	貳畝拾貳歩半	貳斗四升壹合七勺	三ノ丞	三ノ丞
屋敷	貳畝拾七歩	貳斗五升六合六勺	吉右衛門	吉右衛門
屋敷	三畝拾歩	三斗三升三合三勺	與三左衛門	與三左衛門
屋敷	三畝六歩	三斗貳升	彌助」	彌助」
屋敷	三畝三歩	三斗壹升	藤左衛門	藤左衛門
屋敷	壹畝貳拾六歩	壹斗八升六合六勺	善三郎	善三郎

屋敷	壹畝六歩	壹斗貳升	外記		
屋敷	六畝貳歩	六斗七合六勺（マヽ）	監助		
合百四拾六石壹斗四升					
内		」			
田方九拾石貳斗三升九合					
畠方五拾五石九斗五勺	屋鋪共ニ				
日當村					
中田（ほり田）	三畝六歩	三斗貳升			
上田（おこまつ）	貳畝四歩	貳斗五升六合	次郎左衛門		
上田（同）	五畝六歩	六斗貳升四合	同人」		
上田（くゝろさうつ）	四畝貳拾五歩	五斗	同人		
上田（同）	貳畝貳拾五歩	三斗四升	監助		
上田（同）	貳畝拾八歩	三斗壹升貳合	監助		
上田（同）	貳畝拾六歩	三斗四合	市ノ丞		
上田（同）	壹畝貳拾四歩	貳斗壹斗六合	四郎右衛門」		
上田（そのた）	八畝三歩	九斗七升貳合	三ノ丞		
上田（同）	拾歩	四升	四郎右衛門		

野津院

上田（同）	四畝拾五歩	五斗四升	與三左衛門		
上田（同）	三畝貳拾貳歩	四斗四升八合	次郎左衛門		
上田（同）	壹反拾歩	壹石貳斗四升	同人		
上田（同）	六畝拾八歩	七斗九升貳合	吉右衛門」		
上田（そのた）	四畝拾歩	五斗貳升	三ノ丞		
下田（同）	拾六歩	四升三合	勘七		
上田（同）	四畝拾八歩	五斗五升貳合	吉右衛門		
中田（同）	八畝拾貳歩	八斗四升	四郎右衛門		
上田（同）	貳段六畝廿歩	三石貳斗	與三左衛門		
上田（なべた田）	壹反六畝拾五歩	壹石九斗八升	與左衛門」		
上田（なへた田）	三畝貳歩	三斗六升八合	與三左衛門		
上田（同）	七畝拾五歩	九斗	彌七郎		
下田（同）	三畝拾八歩	貳斗八升八合	同人		
下田（不定）	三畝九歩	貳斗六升四合	又右衛門		
下田（同）	貳畝貳拾七歩	貳斗三升貳合	下右衛門		
下田（同）	五畝貳拾六歩	四斗三升八合	同人」		
上田（なへた田）	貳畝拾歩	貳斗八升	吉右衛門		
中田（同）	壹反四歩	壹石壹升四合	與左衛門		

下田（ほり田）	七畝	五斗六升	次郎右衛門
中田（同）	八畝拾歩	八斗三升四合	同　人
下田（同）	壹反壹畝	八斗八升	同　人
中田（同）	壹畝貳拾六歩	壹斗八升七合	同　人」
上田（みたれはし）	壹反九畝拾九歩	貳石三斗五升貳合	市ノ丞
上田（同）	三畝拾五歩	四斗貳升	同　人
上田（同）	四畝貳拾四歩	五斗七升六合	彌七郎
下田（同）	四畝拾五歩	三斗六升	同　人
下田（同）	貳畝拾貳歩	壹斗九升貳合	三ノ丞
上田（同）	貳反四畝五歩	貳石九斗	三右衛門」
中田（みたれはし）	五畝貳拾六歩	五斗八升七合	次郎左衛門
中田（同）	壹反貳拾五歩	壹石八升四合	同　人
下田（同）	七畝六歩	五斗七升六合	善　助
下田（同）	貳拾四歩	六升四合	内藏助
中田（同）	壹反壹畝拾歩	壹石壹斗三升四合	同　人
中田（同）	壹畝拾歩	壹斗四升	市ノ丞」
上田（みたれはし）	五畝貳拾五歩	七斗	藏　介
上田（同）	六畝	七斗貳升	市ノ丞

上畠（てくち）	三畝貳拾七歩	三斗壹升貳合	三右衛門
上畠（同）	五畝拾歩	四斗貳升七合	次郎左衛門
上畠（同）	五畝六歩	四斗壹升六合	三右衛門
上畠（同）	壹畝拾五歩	壹斗貳升	次郎左衛門」
上畠（まへくほ）	六畝貳拾三歩	五斗四升貳合	善　介
下畠（同）	拾六歩	貳升貳合	同　人
上畠（同）	五畝七歩	四斗壹升九合	同　人
上畠（同）	九畝六歩	七斗三升六合	新次郎
上畠（同）	九畝貳拾四歩	七斗八升四合	次郎左衛門
上畠（同）	三畝	貳斗四升	善　助」
上畠（まへくほ）	壹反壹畝貳拾壹歩	九斗三升六合	市ノ丞
下畠（同）	八畝（歩ノ誤か）	壹升壹合	次郎左衛門
下畠（同）	拾貳歩	壹升六合	市ノ丞
上畠（同）	貳反貳畝	壹石七斗六升	同　人
上畠（同）	壹反	八斗	三右衛門
中畠（同）	三畝八歩	壹斗九升六合	新　六」
下畠（むかへひら）	壹畝貳歩	四升四合	新　六
下畠（同）	七畝拾四歩	三斗	同　人

上畠　貳反壹畝拾四歩　壹石七斗壹升九合　次郎左衛門

下畠（むかへひら）　壹畝六歩　四升八合　新　六

中畠（同）　四畝拾歩　貳斗六升　同　人

上畠（くほ）　壹反貳拾歩　八斗五升三合　三右衛門」

下畠（むかへひら）　四畝六歩　壹斗六升八合　孫左衛門

上畠（同）　四畝拾歩　三斗四升七合　次郎左衛門

下畠（同くほ）　三畝四歩　壹斗貳升六合　同　人

上畠（むかへひら）　九畝拾八歩　七斗六升八合　同　人

中畠（同）　三畝拾歩　貳斗　三右衛門

中畠（同）　九畝拾歩　五斗六升　次郎左衛門」

下畠（むかへひら）　五畝拾八歩（歩ノ誤カ）八畝　貳斗貳升四合　き　い

下畠（同）　壹升壹合　次郎左衛門

下畠（同）　貳拾歩　貳升七合　同　人

上畠（同）　六畝拾貳歩　五斗壹升貳合　同　人

上畠（同）　壹反拾貳歩　八斗三升貳合　同　人

下畠（同）　貳畝貳拾四歩　壹斗壹升貳合　勘三郎」

中畠（平）　六畝貳拾歩　四斗　四郎右衛門

下畠（同）　四畝拾貳歩　壹斗七升六合　藏　助

上畠（同）　壹畝拾歩　壹斗六合　與三左衛門

下畠（くほ）　五畝貳歩　貳斗三合　彌　介

上畠（きと）　貳反四畝　壹石九斗貳升　四郎右衛門」

上畠（井ノ上）　四畝七歩　三斗三升九合　與三左衛門

下畠（同）　貳畝貳拾貳歩　壹斗壹升　善兵衛

上畠（津る）　壹反貳拾八歩　八斗七升四合　新次郎

上畠（同）　壹反貳拾歩　八斗五升三合　三ノ丞

上畠（同）　四畝貳拾四歩　三斗八升四合　四郎右衛門

上畠（同）　六畝四歩　四斗九升壹合　吉右衛門」

上畠（津る）　四畝八歩　三斗四升壹合　吉右衛門

下畠（同）　五畝拾歩　貳斗壹升四合　與右衛門

中畠（同）　貳拾六歩　五升貳合　彌七郎

下畠（同）　拾歩　壹升四合　同　人

上畠（同）　四畝貳拾四歩　三斗八升四合　三　允

下畠（同）　三畝拾貳歩　壹斗三升六合　次郎左衛門」

上畠（津留）　八畝五歩　六斗五升三合　與三左衛門

上畠（同）　四畝壹歩　三斗貳升三合　市ノ丞

同畠	四畝拾五歩	貳斗七升	同　人
同上畠	壹反五畝拾五歩	壹石貳斗四升	新次郎
同下畠	拾八歩	貳升四合	彌七郎
同上畠	三畝貳拾九歩	三斗壹升四合	三　充（ママ）
津留中畠	九畝拾歩	五斗六升	吉右衛門
同上畠	貳反六畝四歩	貳石九升壹合	與三左衛門
同上畠	六畝	四斗八升	藏　介
同下畠	壹畝貳拾貳歩	七升	次郎左衛門
同下畠	貳畝三歩	八升四合	七　良
同上畠	壹反七畝拾八歩	壹石四斗八合	十　良」
つる中畠	貳反拾貳歩	壹石貳斗貳升四合	善　助
つる下畠	壹反拾貳歩	四斗壹升六合	次郎左衛門
同下畠	壹反壹畝六歩	四斗四升八合	同　人
同下畠	六畝拾貳歩	貳斗五升六合	監　介
同上畠	貳反四畝	壹石九斗貳升	藏　介
同下畠	貳反九畝拾歩	壹石壹斗七升貳合	次郎左衛門」
津留下畠	壹反三畝九歩	五斗三升貳合	藏　介
同中畠	九畝拾六歩	五斗七升貳合	與三左衛門

同下畠	四畝拾貳歩	壹斗七升六合	同　人
同中畠	貳反三畝拾歩	壹石四斗	同　人
同中畠	九畝五歩	五斗五升	彌次右衛門
同上畠	九畝貳拾七歩	七斗九升貳合	吉右衛門」
津留上畠	九畝五歩	七斗三升三合	與三左衛門
同上畠	九畝五歩	七斗三升三合	三　充
同下畠	四畝六歩	壹斗六升八合	與三左衛門
同上畠	六畝八歩	五斗壹合	同　人
同下畠	壹反壹畝拾歩	四斗五升四合	次郎右衛門
同上畠	壹反貳畝拾八歩	九斗貳升八合	新次郎」
津留下畠	八畝貳拾壹歩	三升四升八合	六右衛門
同下畠	三畝壹歩	壹斗貳升貳合	與右衛門
同上畠	貳畝六歩	壹斗七升六合	藤十郎
同下畠	壹畝拾貳歩	五升四合	三右衛門
同下畠	壹畝	四升	新次郎
中畠	貳畝拾六歩	壹斗五升六合	同　人」
津る下畠	三畝	壹斗貳升	三　允
平下畠	貳畝貳拾歩	壹斗七合	四郎右衛門

同下畠	壹畝六歩	四升八合	藤十郎	上畠（くらきう）	九畝三歩
同下畠	拾八歩	貳升四合	同　人	同中畠	三畝貳拾貳歩
西平中畠	貳畝貳拾壹歩	壹斗六升貳合	彌七郎	同上畠	七畝貳拾四歩
同下畠	三畝六歩	壹斗貳升八合	同　人」	同上畠	八畝七歩
津る中畠	貳畝	壹斗貳升	孫左衛門	上畠（くらきう）	七畝
同下畠	八歩	壹升壹合	同　人	同上畠	壹反三畝九歩
同上畠	貳拾歩	五升四合	孫十郎	同上畠	四畝四歩
同上畠	五畝拾五歩	四斗四升	市ノ丞	上畠（ミたれはし）中畠	四畝拾三歩
同上畠	拾七歩	四升六合	同　人	上畠（きとくち）上畠（うちはた）	拾七歩
後たい上畠	六畝貳拾貳歩	五斗三升九合	同　人」	上畠	壹畝貳歩
後たい上畠	七畝拾貳歩	五斗九升貳合	次郎左衛門	屋敷	貳畝貳拾四歩
同上畠	五畝貳歩	四斗八合	市ノ丞	屋敷	壹畝貳拾歩
同上畠	九畝三歩	七斗貳升八合	新次郎	屋敷	貳拾四歩
同上畠	壹畝貳拾歩	壹斗三升四合	彌七郎	屋敷	貳拾歩
同上畠	拾六歩	四升三合	神九郎	屋敷	拾四歩
同中畠	壹畝	六升	新次郎」	屋敷	壹畝貳拾歩
同下畠（ふちやう）	拾歩	壹升四合	藤五郎	屋敷	貳拾八歩
同下畠	拾貳歩	壹升六合	同　人	屋敷	貳拾歩

七斗貳升八合	與二左衛門	
貳斗貳升四合	同　人	
六斗貳升四合	彌七郎	
六斗五升八合	四郎右衛門」	
五斗六升	三　允	
壹石六升四合	三右衛門	
三升三升	吉右衛門	
貳斗六升六合	善　介	
四升五合	市ノ丞	
八升八合	同　人」	
貳斗八升	次郎左衛門	
壹斗四升	彌七郎	
八升	孫左衛門	
六升七合	神九郎	
四升七合	新次郎	
壹升六升七合	市ノ丞	
九升四合	三右衛門	
六升七合	彌八郎	

合八拾四石八斗六合

内

田方三拾貳石七斗三升三合

畠方五拾貳石七升三合　屋鋪共ニ、」

赤迫村

やしき屋敷	壹反貳畝貳拾四歩	壹石貳斗八升
同上畠	四畝貳拾四歩	四斗八升
同上畠	壹畝拾八歩	壹斗六升
やしき上畠	壹畝貳拾六歩	壹斗八升七合
やしき上畠	四畝貳拾歩	四斗六升七合
のきし中畠	七畝	四斗貳升
のきし中畠	三畝拾貳歩	貳斗四合
のきし中畠	壹畝貳拾歩	壹斗
のきし下畠	壹畝拾八歩	六斗四合
のきし下畠	四畝拾五歩	壹斗八升
同のきし下畠	拾歩	壹升三合
のきし下畠	貳畝拾八歩	壹斗四合

彌左衛門	のきし下畠	壹畝拾五歩
三　助	のきし下畠	貳畝拾貳歩
九郎兵衛」	のきし下畠	八歩
明　家	小迫下畠	三畝六歩
九郎兵衛	同下畠	壹反壹畝
同　人	同下畠	八畝
六ノ丞	同下畠	貳畝四歩
失　人	小迫下畠	貳拾四歩
同　人」	同下畠	壹畝六歩
失　人	同下田	壹畝拾四歩
同　人	丸尾下畠	壹畝拾五歩
同　人	まる尾下畠	貳畝貳拾歩
同　人	同下田	壹反四畝拾貳歩
失　人	小迫下畠	六畝
同　人	同下畠	壹畝貳拾六歩
同　人	同中畠	貳反四畝貳拾八歩

同　人	六升	
同　人	九升六合	
同　人」	壹升壹合	
同　人	（マヽ）壹斗貳升九合	
同　人	貳斗五升六合	
同　人	四斗四升	
同　人	六斗四升	
同　人	六升四合	
同　人」	壹石貳斗八升	
失　人	三升貳合	
源兵衛	四升八合	
同　人	壹斗壹升七合	
同　人	六升	
同　人	壹斗七合	
又七郎」	壹石壹斗五升貳合	
又七郎	貳斗四升	
同　人	七升五合	
九郎兵衛	壹石四斗九升六合	

中畠	貳反八畝	壹石六斗八升	彌左衛門	上畠	貳畝	貳斗	明家				
同下畠	壹畝拾歩	五升三合	同　人	丸尾下畠	壹畝拾四歩	五升九合	失　人				
同下田	六畝拾貳歩	五斗壹升貳合	同　人」	下畠（マヽ）（かしち）	壹畝拾貳歩	五升六合	三右衛門」				
中田（こさこ）	貳反壹畝拾歩	貳石壹斗三升三合	彌左衛門	下畠（マヽ）（かしち）	壹反貳畝拾四歩	九斗九升七合	失　人				
同中田	貳反八畝拾五歩	貳石八斗五升	同　人	下田	貳畝拾歩	壹斗八升七合	同　人				
同下田	壹反三畝拾歩	壹石六升七合	同　人	同下ヽ田	五畝	三斗五升	同　人				
同中畠	三畝八歩	貳斗壹升六合	失　人	同下ヽ畠	壹畝	四升	同　人				
下田（かしち）	九畝拾歩	七斗四升七合	同　人	同下ヽ畠	拾六歩	貳升壹合	三右衛門				
同下畠	壹畝六歩	四升八合	同　人」	同下田（マヽ）（かしち）	四畝	三斗貳升	失　人」				
同下田	三畝拾歩	貳斗六升七合	又七郎	下田	九畝拾歩	七斗四升七合	又七郎				
同下畠	壹反壹畝六歩	四斗四升八合	同　人	同下畠	貳畝拾五歩	壹斗	失　人				
同下畠	八畝七歩	三斗貳升九合	源兵衛	同下畠	壹畝拾貳歩	五升六合	新二郎				
同下畠	貳畝	八升	又七郎	上畠（やしき）	四畝貳拾歩	壹斗八升七合	明　家				
同下畠	壹畝拾八歩	六升四合	失　人	下畠（なかその）	九畝	三斗六升	失　人				
同下畠	壹反壹畝六歩	四斗四升八合	源兵衛」	同下畠	六畝拾六歩	貳斗七升	又七郎」				
丸尾下ヽ畠	貳畝	八升	失　人	赤迫中畠	三反貳畝貳拾六歩	壹石九斗七升貳合	失　人				
下ヽ畠（かうち）	拾歩	壹升三合	同　人	同中畠	壹反八畝四歩	壹石八升八合	大　藏				
同下ヽ畠	壹畝拾歩	五升三合	又七郎	同中畠	四畝貳拾四歩	貳斗八升八合	又七郎				

同畠	壹畝	四升	六郎	
上畠（やしき）	三畝貳拾貳歩	三斗七升三合	又七郎	
同上畠	七畝拾四歩	七斗四升七合	明家」	
下畠（やしき（上ノ誤））	拾五歩	五升	失人	
上畠（竹ノはる）	七畝六歩	五斗七升六合	同人	
同上畠	八畝三歩	六斗四升八合	新三郎	
同下畠	貳畝拾歩	九升三合	失人	
同下畠	四畝八歩	壹斗七升壹合	同人	
同下畠（たけのはる）	四畝貳拾歩	壹斗八升七合	六郎」	
下畠	貳拾歩	貳升七合	失人	
同下畠	三畝拾歩	壹斗三升三合	同人	
同下畠	貳拾八歩	三升七合	同人	
同下畠	三畝六歩	壹斗貳升八合（マヽ）四斗	同人	
尾崎中畠	五畝		同人	
同中畠	貳反五畝拾歩	壹石五斗貳升	三介」	
尾崎下畠	六畝貳拾歩	貳斗六升七合	失人	
同中畠	壹反壹畝八歩	六斗七升六合	三介	
同中畠	壹反五畝	九斗	同人	

同中畠	壹反五畝拾五歩	九斗三升	六郎	
尾しき上畠	壹反壹畝貳拾貳歩	壹石壹斗七升三合	明家	
同上畠（やしき）	七畝	七斗	同人」	
同下畠	貳畝拾貳歩	九升六合	失人	
同下畠	拾貳歩	壹升六合	同人	
同下畠	貳拾四歩	三升貳合	同人	
同下畠	六畝貳拾四歩	貳斗七升貳合	同人	
同中畠	壹町壹畝拾歩	六石八升	同人	
同上畠	壹反五畝	壹石貳斗	同人」	
上畠（あきやしき）	壹反	壹石	道三	
上畠（そた）	四畝貳拾四歩	三斗八升四合	三右衛門	
上畠（あきやしき）	貳畝拾貳歩	貳斗四升	明家	
上田（おけ川）	五畝拾歩	六斗四升	杢助	
同上田	九畝貳拾四歩	壹石壹斗七升六合	甚四郎	
同上田	貳反貳畝拾貳歩	貳石六斗八升八合	三介」	
上田（おけ川）	三反拾歩	三石六斗四升	失人	
同上畠	七畝六歩	五斗七升六合	六郎	
同上田	貳拾八歩	壹斗壹升貳合	三介	

上田	四畝貳拾歩	三斗七升三合		
同上田	貳畝貳拾歩	三斗貳升	同　人	
同上畠	壹反貳畝	九斗□（貳ヲ擦消）升	六　郎」	
おけ川上田	壹反貳畝貳拾歩	壹石五斗貳升	六　郎	
同上田	五畝拾歩	六斗四升	三右衛門	
同上田	八畝貳拾四歩	壹石五升六合	失　人	
同上田	壹反四畝拾貳歩	壹石七斗貳升八合	三右衛門	
同上田	壹反貳畝	壹石四斗四升	同　人	
同上田	壹反貳畝	壹石四斗四升	同　人」	
井ノ本上畠	壹反九畝	壹石五斗貳升	彌九郎	
あきやしき上畠	貳畝貳拾歩	貳斗六升七合	明　家	
同上田	五反	六石	失　人	
同下畠	拾四歩	壹升九合	同　人	
同下畠	拾歩	壹升三合	同　人	
同中畠	壹反五畝	九斗	同　人」	
おこさこ下畠	貳反壹畝貳拾歩	八斗六升七合	失　人	
同（上ノ誤カ）下畠	壹畝貳拾貳歩	壹斗七升三合	同　人	
大ちノ下下畠	壹反七畝拾歩	六斗九升三合	同　人	

中田	貳反	貳石	同	人
同中田	貳反六畝	貳石六斗	九郎兵衛	
同中畠	六畝	三斗六升	失　人」	
大地ノ下中畠	貳畝拾貳歩	壹斗四升四合	失　人	
同中畠（い脱カ）さゝそのた	壹畝	六升	同　人	
上田	貳反三畝	貳石七斗六升	彌四郎	
岩ノ下中田	貳反壹畝貳拾歩	貳石壹斗六升七合	内藏助	
かけノ木中田（カ）くほ畠	貳反六畝	貳石六斗	監　物	
上畠（カ）くほ畠	壹反三畝貳拾八歩	壹石壹斗壹升五合	勘　允」	
屋敷	貳反壹畝拾歩	貳石壹斗三升三合	勘　丞	
口し茶上畠	五畝貳拾六歩	四斗七升	吉右衛門	
河の口迫下畠	壹反貳拾歩	八斗五升三合	市　丞	
篭わた下田	三反三畝	貳石六斗四升	市　助	
にし原平下畠	壹反貳畝貳拾四歩	五斗壹升貳合	源左衛門	
同下畠	貳反三畝拾歩	九斗三升三合	市　助」	
岩ノ下中田	壹反壹畝六歩	壹石壹斗貳升	三　介	
ミだれはし中畠	四畝拾歩	貳斗六升	市　丞	
同中畠	壹町壹反三畝拾三歩	六石八斗六合	丈　藏	

尾迫中田	貳反六畝四歩	壹石六斗壹升三合（貳ノ誤カ）	喜三郎
河の口迫下田	八畝	六斗四升	右馬助
□□□畠（あ□カ）下田	壹畝貳拾六歩	七升五合	□　介」
同下畠	壹反壹畝拾歩	九斗七合	□（善）□（助カ）
同下田	壹反四畝四歩	三升貳合	右馬助
同下田	壹反四歩	壹石壹斗三升壹合	三　允
同下田	壹畝貳歩	八斗壹升壹合	土　佐
柳田みたれはし中田	壹町八反三畝拾歩	八升六合	市　介
柳田中畠	貳畝拾歩	拾八石三斗三升三合	源左衛門」
同中畠	五畝貳拾六歩	壹斗四升	市　郎
尾迫上田	九畝拾歩	三斗五升貳合	同　人
同下田	貳反四畝	壹石壹斗壹升九合	松　龜
柳田（畠カ）下田	五畝貳拾六歩	壹石九斗貳升	市右衛門
□□□田（柳カ）	三反壹畝貳拾六歩	貳斗三升五合	孫七郎
中田（カ）同下田	壹反七畝拾歩	貳石五斗三升八合	□（同か）人」
壹反七畝八歩		壹石三斗八升壹合	同　人

くすの木（カ）下田	四畝貳拾四歩	三斗五升貳合	泰　龜
柳田下田	三反壹畝貳拾貳歩	貳石五斗三升八合	宮　内
丸尾下田	壹畝	八升	泰　龜
下田	八畝貳拾四歩	七斗四合	新左衛門」
合百四拾四石貳斗五升四合			
内			
田方九拾石三斗七升九合			
畠方五拾三石八斗七升五合		屋敷共ニ	
田畠屋敷共ニ			
惣合四百拾五石壹斗六升壹合			四ケ村分

○終リノ方蠹蝕アリ。

一六二　大友能乗書状

○大友家文書録
大分県史料三四

田原右兵衛尉ニ同心シ関東ニ下ルヲ謝ス

其方事、近年田原與兵衛尉同心之由候、然處今度親盛(田原)息右兵衛尉事、關東へ可罷下候由(カ)承候、其方事茂同心内意深重候段、能〻聞届候、奇特之心掛別而感入候、併當時之躰ニ候閒、此節之儀、先〻無了簡候、右兵衛へ隨分無相違、可副心事、此方へ懇忠可爲同前候、以來失念有閒敷候、必以時分、可顯其志候、猶小田原(マヽ)可申候、恐〻謹言、

(文禄四年頃)六月十三日　　能(大友)　乗(花押)

吉岡次兵衛尉殿

見舞ノタメ上洛セルヲ嘉賞ス

一六三　大友能乗書状(紙折)

○佐土原文書
大分県史料一三

爲見舞上洛、奇特之心懸感入候、於何方茂、仰方次第、可堪忍事肝要候、必以時分可賀之候、恐〻謹言、

八月廿三日　　能(大友)　乗(花押)

(折返奥ウハ書)「佐渡原兵部丞殿」

○佐土原兵部丞ハ、天正六年（一五七八）日向ニ於テ戦死セリ（一二二号）。能乗ヲ大友義統ノ長子義乗トス

レバ、年代合ハズ。「佐渡原兵部丞殿」ノ宛書ノ誤リ、乃至兵部丞ノ襲名ニヨルカ。検討ヲ要ス。

一六四　大友中庵吉統一字状

〇臼杵文書
大分県史料一三

（端裏ウハ書）「臼杵理右衛門尉殿」

一字之事、統久遣之候、恐々謹言、

三月三日

（大友吉統）中庵（花押）

一字ヲ与ヘ統久ト名乗ラシム

一六五　豊後國大野郡野津院御検地帳（十八冊）寫（本文省略）

○渡辺澄夫蔵本
大分市大石町四ノ三

（表紙）

慶長貳年　市村与四拾ケ村之内　中ノ村 八熊村　下ノ村 才原村　中ノ村 竹邊村　下ノ村 持丸村　上ノ村 田中村

豊後國大野郡野津院御検地帳

大田飛驒守帳寫

○慶長二年ノ野津院「飛驒帳写」十八冊。市村等四村ハ一六一号文禄検地帳参照。コノ文禄帳ヲ除キ、他ヲ三群ニ分チ、十八冊仕立トセリ。次ニ各群各冊ノ村位・村名ヲ表示シ、本文ヲ省略ス。表中巻頭ノ一冊ハ、右ノ文禄帳（一六一号）ナリ。

地域別	村名（村位）	冊数
○下ハ文禄二年帳（一六一号）	○市村（上）・寺小路村（中）・日当村（下）・赤迫村（下）四村ハ文禄検地帳。一六一号参照。	一
	八熊村（中）・才原村（下）・竹邊村（中）・持丸村（下）・田中村（下）	一
	名塚村（中）・田良原村（下）・熊迫（カ）村（下）・迫村（上）・中山村（下）	一
	松尾村（下）・塚田村（下）・大内村（上）・岩瀬村（上）・水地村（中）・溜水村（上）	一
㈠市村与四拾ケ村之内（計八冊）	藏園村（中）・備後尾村（下）・福清田村（上）・田良木村（上）・笠良木村（上）	一
	壇柏村（下）・城崎村（下）・田平村（下）・小屋川村（上）	一
	若山村（下）・柴尾村（中）・花原村（下）・桐木村（下）・持田村（中）	一

生野原村(下)・小切畑村(下)・菅無田村(中)・池ノ原村(下)・筒井村(中)・寺田村(下)		一
御領園村(中)・桑畑村(下)・長小野村(下)・福原村(下)・平野村(下)・安政村(下)・松原村(下)・寒田村(中)・細口村(下)・久原村(中)		一
鍋田村(上)・萩原村(下)・黒坂村(中)		一
牧原村(下)・田良木村(下)・黍野村(下)		一
生野村(下)・木所村(下)・利野村(下)・内河野村(下)・尾無禮村(下)		一
山奥村(中)・高松村(中)・赤嶺村(下)・戸上村(中)・長谷村(中)		一
篠枝村(下)・下藤村(上)・廣原村(下)		一

(二)冨田与三拾七ケ村之内(計八冊)

○村数三十六ケ村、冨田村欠カ。

一木村(上)・吉岡村(中)・河平村(下)・長小野村(下)・天手村(下)		一
椎原村(下)		一
落合村(下)・黒土村(下)・蕨野村(下)・野口村(下)・竹下村(下)・借リ屋村(下)・板屋村(下)・里屋敷村(下)		一
寒水原村(下)・今俵村(下)・田代村(下)・泊リ村(下)・内平村(下)・遠久原村(下)・柿河原村(下)・西河野村(下)		一
中野村(下)・岩屋村(下)・豊倉村(下)・白岩村(下)		一

(三)川登与弐拾ケ村之内(三冊)

○二十カ村ナルモ川登村見ヘズ。

○本書ハ臼杵藩領文禄・慶長検地帳写七十六冊ノ内ナリ。大分県指定有形文化財。

付　録

一　大友野津氏略系

○野津（吉岡）氏文書
史料紹介野津本『北条系図・大友系図』

大將以後號古庄入道
能成
豐前々司五位尉
能直
檢非違使
大炊助
親秀
法名寂秀出雲路

野津五郎入道阿一
賴宗
太郎入道々一
親直
孫太郎
廣能

孫二郎
時直
孫三郎
賴鄕
孫四郎
五　郎
丹後房
順勝房

○關係部分ノミヲ抄出ス。時直（孫二郎）以下ハ、廣能（孫太郎）ノ弟ナラン。

二　大野郡野津町大字・小字一覧表

○「野津町字表綴」ニヨル。

大字	小字
野津市	北町、南町、上木原、亀甲、中仮屋、宮田、津留、中津留、木原、ツブサ平、原、下久保、前平、関、大谷、中田、久保、白山、ヨセ田、間戸、岩上、古瀬、津留下、立畑、ホカソノ、垣外、二又ゼ、
原	瀬戸河内、山ノ口、中法音寺、地蔵迫、口ノ切、岡倉、コテ田、中門、門口、上ノ原、流、林久保、前田、草崎、大西、平田、米山、田代、上殿、小西畑、山仲、寺屋敷、道免、下ノ田、高畑、日向崎、神ノ畑、場々、中園、平下、竹惣、上ノ原、屋根ケ谷、サイク園、広津留、上久保田、不定、仁田畑、仲田、宮田、三又田、堀田、右手、古田、竹迫、
宮原	峰ノ上、田平、中尾、御手洗、西平、前久保、谷屋敷、真竹久保、後久保、芳原、成谷、扇子原、岡田、溝部、迫ノ原、迫ノ久保、宮田、梶給、井尻、郷内、原、篠迫上、篠迫、大内ケ迫、茶エン畑、赤瀬戸、宮ノ谷、山ノ田、平石、石田、五五田、下六川、大久保、市場久保、原口、城ケ平、立中、小路、垣ケ瀬、向平、上ノ久保、原屋敷、竹原、小津留、乙丸、神ノ平、佐土畑、後野付、道下、ウキメン、

都原

鉄山、北の谷、立花、橋ケ谷、大川内、釜ケ瀬、都原、原、立田、坂立、上坪、宮ノ下、塔ノ元、久保、下久保、尾首、中ソノ、合ノ迫、日焼、松尾、大川内、城ノ下、柳川内、前田、井ノ久保、要貝京、中鳧、天神原、後谷、ウバヤ畑、東西平、寺、坂水、上切、隣、河内、山下、竹原、桶川、馬入、久保、西平、姉迫、下原、久保田、芝尾、下丸尾、

鼻操石、城ケ平、下陣、上引田、上坪、上百田、原口、小野平、吐合、嶋ノ元、広戸、平屋敷、柳川、野川、大迫、坂水、通り山、角折、柱松、東迫、北ノ久保、表平、仲ノ畑、門田、グミノ木、塔ノ元、中ノ原、岩神、高野平、下り松、山ノ田、堂ケ迫、津留、持田、タカヲ、伯父山、前原、中田、ムカイ、カムレ、桑原、

老松

長谷、高平、田迫、津留、竹上、大久保、間戸谷、間戸平、下平、内原、下原、上原、原、堂久保、平、板井尾、津留平、タヲ、前畑、西平、太田、堀田、段原、笹谷、ヲムレ、中居、長田、桐木畑、穴畑、松原、丸尾、居坪、黍尻、柳迫、井ノ元、爪平、立平、高畑、仏尾、原ノ内、井迫、中津留、

八里合

高取久保、鳥越、中峠、姥ケ迫、制札場、長田、尾崎、仏田、蟻ケ迫、横井場、越木戸、屋敷、津留、上ノ原、堀田、アセリ、戸ノ上、戸ノ下、砂田、木ノ下、宮田、潰尾台、高取平、芝尾上、垣ノ内、牧口、岩ノ下、末石、松崎、落合、辰岩、ベトソウ、抜平、大河内、鬼田、石場、トドロ、井ノ迫、平原、畑ケ平、本城、後田、坂口、寺地、竹添、外園、上園、丸尾、上日焼、中日焼、狐塚、大久保西ノ分、堂山、

福良木

亀甲

北ケ迫、上熊迫、吐合、上郎又、小又、松ノ木、大原、佐土原、日焼、馬の神、三反田、峯田、宮田、牛屋、大内田、甲ノ田、久保、新貝、亀甲、原口、原ノ下、前、才原田、上ノ原、ヒウガシ代、カシ上、入道原、名原、シマ、ヲサキ、ハナノ木、大清水、大久保、

王子

五郎丸、竹ノ内、門前、辻、神ノ迫、原、カシケ迫、黒牛、ソノ田、山ノ下、迫ノ頭、高尾、太田、百町、畑、坂口、長畑、王子メン、駄床、王子、舟木、苦木、椿口、ユスガ内、奥山、左巣谷、猪頭、竹迫、右巣谷、芋の原、山口、猿子、アンノ木、兎デン、野中、山ノ神、柳井田、山ノ口、三反田、杉平、岡、中馬場、一町田、フロケ迫、柿田、前田、平下、堤、内ケ畑、山道、梅ケ谷、立岩、長羽山、砂田、大又、姫ケ谷、平石、出淵、上ケ畑、潰ケ平、油田、平原、穴田、長迫、峠、

山頭

上津留、栗迫、頭山、田中、大原、中山田、峯田、森平、上原、前久保、宮崎、鳥越、飛川、持丸、惣田、トギシ、天上、雨乞、高松、久留三、代田、山脇、関、ヒンドウ、上ノ平、楠、新貝、津留、台、油田、

西神野

白岩口、阿部ケ谷、高鼻、タコン畑、山手、赤道、峠ケ谷、峠ケ谷口、木割藪下、大松道下、山ノ口、水ケ谷、山ノ口ツル、中尾、川崎、南平、カマケ奥、新宮、追加津留、小野、迫、高畑、ゴーシギ、尻江、登尾、西畑、仁田久保、庚申、市尾、三尾、大津エ、松原、小田、市場、本川内、陣、長尾、畑ノ戸、白木原、横野、ウキ石、

垣河内

関屋、徳田、小坂、通山、上川原、沖ノ津留、白水、割後場、大田、茶屋場、基ケ谷、ニタヲ、宇船、万地、シイ子ン、長藪、福原、山手内、ヒタキバ、キワダ、鷲ノ石、板井畑、岡ノ前、四部一、山ノ神、丸石、津留田、足打、本垣河内、

泊

由原津留、由原津留奥、梅木、前津留、西平、川久保、神ノ元、湯ノ迫、小林、長久保、石畑、中畑、台、火焼、夫婦木、大狭平、谷久保、小狭平、大岩、ウド田、本川内、上ノ平、八ノ久保、ソラ、沖ノツル、ワキ、豊前ケツル、野代、向田、久保、久保田、芳木、南平、白山、竹ノ下、カケヒラ、迫、猪迫、入水、論田、古川、

清水原

平原、平原ツル、久保山、川原、広瀬、梶ケ迫、椋木、柿木迫、栗林、洞ノ口、蔵前、イノヒテ、迫口、ドフ子キ、椚原、清水、久保田、弓ケ谷奥、弓ケ谷、石場、石場奥、船ケ谷、百川原、西ノツル、黒岩迫、川田、池田、中ノ迫、タカケ峯、立畑、奥ノ迫、前田、糀ケ迫、大久保、前津留、池畑、ビシヤ川、坊ケ太郎、

岩屋

上ケ田、高谷、森畑、中ノ、迫、神ノ迫、田ノ平、ナル山、古戸、ゴウジ、トギ石、立岩平、田ナリ、陳屋、ネシキ、赤潰、戸屋、柳ケ谷、西畑、フロノ元、柳木津留、光石、熊川内、柿ノ木津留、七ツ井、中田、元越、宮原、若山、大広、井ノ上、久保田、小爪、神ノ元、柱ケ谷、フドコロ、権現谷、山浦、山裏、長谷、上津留、上園、一反田、

白岩

寺ケ迫、加久良、越地、カヅラヒキ、大畑、白木畑、向田、下津留、戸屋平、古田、下ノ平、前田、前田原、ヘラノ木、神ノ内、内畑、白岩、子バ田、柿ノ浦、中津留、神田、中ノ台、荒内、上原、向田、シンナシ、谷水、西畑、中台、西畑、須久保、福原、

落谷

雀迫、下大谷、上大谷、北津留上、北津留、椎ノ木谷、下原、六瀬、池田、池田山、後小野、後谷、峠、牛ケ越、小野、沖ノ津留、久保尻、二又瀬、灰原、中嶋、田ノ平、西畑、遠久原、高鼻、山ノ口、辰ケ平、井手ノ谷、ウソ越、立平、岩崎、橋ノ本、間戸、前田、水ノ落口、伯父ケ迫、北ケ又、堤ケ迫、大又、大原、藤原、尾久保、乙見、中原、京塚、石田、田ノ迫、新道、上ツル、ツル、戸下、戸上、梅木谷、下ツル、迫、轟、松ケ谷、平ノ上、後ツル、中ツル、礫石、堤ケ奥、風平、井ノ迫、白石、元越、峠岩、合シ割、姥岩、山ノ迫、弓ケ谷、丸岡、大久保、高尾、吉河内、

前河内

宮田、フジナミ、津モリ、高松田、仲ソノ田、草場、尾山、カトリ、ダイ、ヲカヘリ、下カヘリ、ダラギ、柳久保、登尾、原口、後久保、タノ平、本村、コゾノ、長田、向久保、下ノ田、上ツル、前ツル、西口、迫久保、栗ケ迫後久保、井ノ平、久保上、岩下、栗迫上、辻原、坂元、ツエダ、大毛、ムクゴ、七ツエ、ウブケ迫、木ノ下、川良田、長畑ケ、スノ谷、トウゲ谷、フジゲノ、ササ原、大畑ケ、大畑ケ尻、前谷、フナキ、松ボウ、

吉田

黒土田、山ノ内、瀬口、川原田、井ノ久保、仲尾野、釘小野ツル、シンカイ、釘小野、入道谷、

吉田

仲田、乙見谷、吉ケ迫、水場、大谷又合、大谷、八升マキ、神ノ前、釘小野原、亀木、広見、畦田、ウサギ田、仲ノ迫、藤ブシ田、大久保、佐土原、柚ノ木、寒久保、後久保、西ノ下、卯ノ平、梅ノ木、大久保下、八ノ久保上、大久保山、八ノ久保中、八ノ久保下、瀬口平、宮山、ヲドリ場、平畑、地蔵久保、口ノ田、シモヤシキ、溝添、アコヅケ、ドウゴ森、引地久保、井川久保、井川平、吉田、中田、井尾良、山下、荒毛、小河内、井ノ上、三栗平、三栗下、三栗谷、岩下、仮屋、梅ケ谷、宮田、芝尾、向平、土穴迫、竹ノ久保、クヌギ元、久保山、長畑ケ、影ノ木、三栗尾久保、岩田谷、五郎治郎、立目、高風木、辻ノ迫、

秋山

広戸、屋所、コンクボ、竹ノ後、入小野、仁田、迫、上屋敷、上、平、段原、鏡田、芝尾津留、原ノ後、東平、伊ノ本、野中平、吉ノ迫、和田、大芝尾、松川、堤ケ谷、西ケ谷、上山、西平、津留畑、清水平、場々畑、ムロケ谷、久保、コツブカ、向田、前田、ウソノ原、ミコケ谷、田川内、上田ノ川内、大津深、シリナシゴ、若山、

西畑

館、中谷、後平、花水、竹平、北平、神平、折戸、受川、上道、赤迫、西平、長尾、ヲムレ、ヤタ、上迫、柚ノ木、トビノス、西迫、大内久保、クラヲ、赤迫、一ヲ、山口、ツルツカ、小迫、カヤベ、前田、平木、大谷、平石、深田、表、田原、山王、平原、馬立、神迫、鍔山、外原、周戸、千ノ谷、野中、中畑、崎山、荻野、宮下、平川、前田、井戸ノ上、田尻、弐拾歩、山神、オチガタ、中津留、尾清水、榎原、後久保、サイエン、堂脇、麻生、桐原、長迫、小野久保、八所、後久保、先山、谷、中原、三田原、下刈、小野、ドウ京、ヲドリバ、高尾、田平、神下、前田、

桑迫、毛小屋、鍔山、屋庭、竹ノ谷、前平、古園、原田、花香、堤上、尾崎、川内、上川内、徳尾、後向、天徳、山田、租正平、小迫、後井上、中原、尾崎、川原田、竹脇平、中津留、前田、入城、田中原、峠谷、田中田、中ノ津留、

東谷

前ケ迫、段原、下津留、神ノ迫、立平、中ノ迫、松ケ尾、ベトウ、段原、目白、ヘリ山、川久保、折戸、古名川、立川内、中田、中嶋、後山、川原田、向田、中ノ田、大迫、柳ケ谷、西平、川内登、原田、茶久保、中畑、丸岡、道ケ谷、井ノ迫、道末、中村、脇平、古川、市六、平川、坂元、戸ノ元、口の丸、堀田迫、火の口、カタギ山、赤迫、小辺迫、後畑、石ノ本、田中、神ノ田、後田、岩下、小丸、平原、物咄、土ケ迫、平太畑、中迫、中嶋、籾川内、中尾、下丸山、板床、山ノ田、住床、出羽谷、登尾、連角、日浦、タヲ、松ケ迫、中畑、フク土、向平、中間、神ノ元、長迫、竹ケ迫、ウト、影ノ木、刈田、大岩ケ迫、長畑ケ、下出羽、丸畑ケ、鐙ノ口、桑ケ畑、桑ケ谷、峠ノ下、山中、津川、西畑、大平、尾原、迫ノ口、向ノ田、福原、高野、山ノ迫、荻処、谷ノ子、中ゾノ、前田、石ケ迫、引明、神割、後ケ谷、久保田、清水ノ元、野中、長迫、柳田、長羽山、新地、水ケ谷、板ケ迫、垣河内、

西寒田

佐土畑、原口、前田、石代、世代、前畑、明治ケ原、大原、鍋田、カキ内、中津留、八反切、城山、宮田、上津留、中ギシ、

柚ノ木

通リ山、女夫岩、大谷、谷、上ノ原、黒坂、谷ノ口、寺屋敷、歩地、平河、後平、

千塚	中尾、中尾迫、影ノ木、藤原、本村、大原、桑津留、榎木迫、天神山、烏岳、安政、大迫、野地、桑畑、カニ迫、山ノ田、大久保、神ノ内、長小野、ハカノ元、久保、小亀、井ノ元、塔ノ本、若山、石谷、越ノ尾、小太郎、下谷、関ノ本、迫谷、福原、新山、垣ノ内、
藤小野	利野、ダイ、津留、梅木元、キビシリ、堀戸、井上、ナガヲサ、後谷、西平、子ゴロ、西谷、神迫、於無礼、前平、駄廻、内河野、南平、ツヅラ迫、大ソノ、奥田、平田、畑谷、ウサギタ、登尾、大赤井、弓谷、休場、渡リ、三丸、イノ久保、トメキ、ニレキ、山ノ下、下平、シシノト、下津留、下屋敷、下生野、八反切、中生野、山清水、堀田、上生野、シイジラ、マツバ、ナガハ山、アラヒラ、
烏岳	田良木奥、大渡リ、駄原、大原、三升牧、堀田、山下、長迫、小田、福土、栗ケ谷、神ノ山、梅木、一ノ尾、河内、烏岳、小岳、尾首、堺畑、生野平、中原、中波津久、上波津久、黒瀬、門前津留、耳ノ根、波津久、上谷川、白丸、下治郎、下村、横通、台、茅場、広畑、大道上、高畑、

○「野津町字表綴」ニハ、大字ノ下ニ地区名（出典中ニハ「区」ト標記ス）アリテ、数個ノ小字ヲ含ム編成ナリ。本表中ニハ、地区名（区）ハ省略セリ。

井田郷史料

一　豊後國風土記

○荒木田久老校訂本
寧楽遺文下

○「大野荘史料」一号ニ大野郡条ヲ抄出。本文省略。「烽一所」ハ三重郷佩楯山ニアリシトモ云フ。

二　太政官符

○類聚三代格
新訂増補国史大系二五

○天長三年十一月三日。「大野荘史料」二号ニ収ム。本文省略。

三　倭名類聚抄

大野郡

田口　大野　緒方　三重

○田口郷ハノチ井田郷ト改称ス。

田口郷

井田郷

田口郷ハ井田郷トナリ一国平均役ヲ勤仕ス

井田郷八十町五反地頭相模三郎入道殿女子

四　宇佐宮假殿地判指圖

○宇佐八幡宮蔵
宇佐神宮史史料篇四

○文治年間。「大野荘史料」五号ニ大野・直入両郡関係ヲ抄出。本文省略。田口郷ハ井田郷ト名称ヲ替ヘ、仮殿造営ノ一国平均役ヲ勤仕セリ。

五　豊後國圖田帳案斷簡

○到津文書
大分県史料一

○建久八年カ。「大野荘史料」一〇号ニ収ム。本文省略。

六　豊後國大田文案

○平林本
鎌倉遺文一五七〇〇号

○弘安捌年玖月　日。「大野荘史料」四五号ニ大野条郡ヲ抄出。本文省略。当郷ハ「井田郷捌拾町五段　地頭相模三郎入道殿女子」トアリ。

七　豊後國圖田帳案

○内閣文庫本
鎌倉遺文一五七〇一号

○弘安八年九月晦日。「大野荘史料」四六号ニ、大野郡条ヲ抄出。本文省略。国領野津院ノ次ニ「井田郷八拾

丁五段　地頭職相模三郎入道殿女子」トアリ。井田郷ハ国領ト推定サル。

八　久原八幡社角塔婆銘　○犬飼町誌　大野郡犬飼町大字久原

永仁伍年丁酉十月十日

○三面ニ梵字ヲ刻ス。

九　後醍醐天皇綸旨　○島津家文書一　大日本古文書

薩摩國市來院名主職・豊後國井田郷地頭職菊王丸跡、爲勳功賞、可被知行者、
天氣如此、悉之、以狀、

建武元年二月二十一日　　左衛門權佐（花押）（岡崎範國）

島津上總入道（貞久・道鑑）館

薩摩市來院名主職豊後井田郷地頭職ヲ勲功賞トシテ賜フ

井田郷地頭職（菊王丸跡）ヲ賜フ

一〇　後醍醐天皇綸旨寫　○薩藩逸史　南北朝遺文九州編六号

豊後國井田郷地頭職菊王丸跡、爲勳功之賞、可被知行者、

井田郷

天氣如此、悉之、以状、

建武元年二月二十一日　　左衛門權佐（花押影）（岡崎範國）

島津上總入道（貞久・道鑑）館

○前号文書ノ抜書ニ非ザルカ。独立文書トスルニヤヽ疑アルモ、シバラク掲グ。

二　足利尊氏御判御教書案及寺社國衙領幷領家職事書案

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○建武四年十月七日。「大野荘史料」一二六号ニ収ム。本文省略。

三　室町將軍尊氏家御教書寫

○薩藩旧記伊地知文書
大日本史料六ノ六

井田郷御施行案

豊後國井田郷事、被預置了（于）島津上總入道（貞久）道鑒之處、戸次豊前太郎賴時、號有一色入道（範氏）預狀、致押領狼藉云々、頗難遁其咎歟、早停止彼妨、可致沙汰付了（于カ）道鑒之狀、依仰執達如件、

曆應元年十二月廿七日　　武藏守（高師直）在判

大友式部丞（氏泰）殿

戸次賴時ノ押領ヲ停メ井田郷ヲ島津道鑒ニ渡付セシム

一三　沙彌正全大友泰能（カ）請文寫

○薩藩旧記伊地知文書
大日本史料六ノ六

守護代請文大友殿
豊後國井田郷事、御教書謹而承候歟（訖カ）、任被仰下旨、擬沙汰付島津上總入道道鑒候之處、戸次豊前太郎（頼時）代不被用之由、守護代宗能（藤原）副寂本狀、捧請文候、仍進上之、子細載之（于カ）狀候歟、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

曆應二年五月四日　　沙彌正全（大友泰能カ）請文

○『南北朝遺文』ハ正全ヲ大友泰能ニ比定ス。

井田郷ヲ島津道鑒ニ渡付シ難キヲ上申ス

一四　平尾社寶塔銘

○大分の石造美術
大野郡千歳村大字新殿平尾社

宝塔ヲ造立シ如法経二部ヲ納ム

「（塔身）平尾社
奉納如法經二部、
并□（第四）要品、
右志者、奉爲天長地久、
御願圓滿、兼郷内安穩、
諸人快樂、結緣諸衆、

井田郷

井田郷

□(助)成合力、尊卑現當
二世、悉地成就圓滿、
乃至法界平ホ利益、
仍起立如件、
曆應三年庚辰九月十五日
法橋圓□(与)
沙彌□(添)延
大工絆(乗)□(亀)(五)
大勸進僧□□(昇)

○〔〕内ハ多田隈豊秋『九州の石塔下』ニヨリ傍注ス。

一五　安富貞副書狀寫

○薩藩旧記伊地知文書
南北朝遺文九州編一六〇九号

安富民部太夫狀
豊後國井田郷地領職事、一色入道(範氏・道猷)被宛行軍勢否、彼注進狀可寫預、恐々謹言、
時曆應三年十二月五日　　貞(安富)　副判
治部兵衛太夫(宗栄)入道殿

一色範氏ヨリ井田郷ヲ軍勢ニ給セシヤ否ヤヲ問フ

一六　宗榮書狀寫

○薩藩旧記伊地知文書
南北朝遺文九州編一六四二号

治部兵衛太夫入道狀
豐後國井田郷地頭職事、不見一色少輔太郎入道々猷(範氏)配分狀候、戸次豐前太郎賴時者、佐伯庄領家職幷日向國伊東藤内左衛門尉跡地頭職被預候者也、被載彼配分狀候畢、恐々謹言、

時曆應四年卯月廿二日　　宗　榮在判

安富民部(貞副)太夫殿

御返事

井田郷ハ一色範氏ノ配分狀ニ見エズ

戸次頼時鎮西合戦恩賞ノ地ト称ス

一七　室町將軍尊氏家御教書寫

○薩藩旧記伊地知文書
大日本史料六ノ六

御施行案奉行安富民部大夫
豐後國井田郷地頭職事、依被預置島津上總入道(貞久)々鑒、可沙汰付之由被仰之處、戸次豐前太郎賴時、爲鎭西合戰之賞、宛給之由依支申、不及打渡云々、如一色少輔太郎入道道猷恩賞支配之狀者、賴時分者、爲各別地之旨所見也、早先度(任脱カ)被仰下之旨、可致沙汰之道鑒(于)代之狀、依仰執達如件、

曆應四年潤四月二日　　武藏守(高師直)在判

大友式部丞(氏泰)殿

○『南北朝遺文』九州編一六四六号ハ「可被沙汰付。道鑑代之狀」トセリ。

守護代藤原宗頼ヲ遣ス
戸次頼時ノ代官妙性避退カズ

一八　豊後守護代沙彌正全（大友泰能（カ））請文寫

○薩藩旧記伊地知文書
大日本史料六ノ六

守護代請文大友殿
豊後國井田郷地頭職事、去年閏四月二日御教書謹承候畢、早任被仰下之旨、以守護代宗頼（藤原）、欲沙汰付島津上總入道々鑒（貞久）候之處、戸次豊前太郎頼時代官妙性、捧請文不避退云々、仍宗頼幷妙性請文貳通、謹進覧之、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

曆應五年二月六日　　沙彌正全（大友泰能カ）　請文

○『南北朝遺文』ハ宗頼ヲ「宇都宮」ト注ス。

一九　高畑穴見墓地寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字高津原字高畑穴見墓地

康永二年癸未五月廿日　福藏（マヽ）討

○基礎部ノミ現存。

二〇　新殿大乘寺五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡千歳村大字新殿小字ナラギノ大乘寺

奉爲逆修建之、

二世悉地成就圓滿、
乃至法界平ホ
利益、仍起立如件、
貞和三年丁亥十月九日
門弟ホ　敬白

二　黑松阿蘇社寶塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字黒松阿蘇社

石塔一基ヲ造立ス

（墨書）奉造立石塔一基　□□圭□　敬白、
貞和四年二月九日建立、

三　石五道板碑銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字高添小字石五道

諸菩薩阿彌陀　孝子敬白、
貞和五己丑年二月十二日

井田郷

井田郷ニ対スル戸次頼時以下濫妨人ヲ退ケ道鑒代ニ渡付セシム

井田郷下地ヲ島津道鑒代ニ打渡ス

井田郷柴北名半分地頭代官職ヲ

二三　宇都宮蓮智奉書案

○島津家文書一
大日本古文書

嶋津上總入道々鑒（貞久）代資光（酒匂）申、豊後國井田郷地頭職事、申狀如此、早退戸次丹後守（頼時）以下濫妨人等、嚴蜜（密）沙汰付道鑒代、可被執進請取狀、使節更不可緩怠之狀、依仰執達如件、

觀應三年七月廿七日　　沙彌（宇都宮蓮智）在判

大友孫三郎（氏時）殿

二四　豊後守護代沙彌正全大友泰能（カ）請文案

○島津家文書一
大日本古文書

島津上總入道々鑒（貞久）代資光（酒匂）申、豊後國井田郷地頭職事、任去七月廿七日御奉書之旨、沙汰付下地於道鑒代候畢、仍渡狀如件、

觀應三年九月十六日　　沙彌正全（大友泰能カ）請文　裏判

二五　島津道鑒貞久知行宛行狀寫

○薩藩旧記伊地知文書
大日本史料六ノ一八

豊後國井田郷内柴北名半分地頭代官職伊地知彈正忠季隨跡事、所宛行也、有限年貢濟物以下、任先例、可致

其沙汰之状、如件、

文和二年六月六日　　（島津貞久）道鑒（花押影）

伊地知（季氏）彦七殿

二六　虎御前寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字高津原字山田、虎御前

文和三年甲午七月日　吉春　敬白、

○背面ニモ同年号ヲ刻ス。

二七　塔ノ宮五輪塔銘

○大分県金石年表一
大野郡犬飼町長谷地区塔ノ宮

文和三年□月日

二八　平大友行宗書狀寫

○阿蘇家文書下
大日本古文書

豊後國三重（大野郡）郷事、若令相違候者、以井田郷爲彼代、可有御知行候、恐々謹言、

二月十二日　　行宗（平・大友）花押

井田郷

三重郷相違セバ代所トシテ井田郷ヲ知行セシム

惠良筑後(惟澄)守殿

上包　謹上　惠良筑後守殿　兵部大輔行宗

二九　長壽庵後山五輪塔(二基)銘

○大分県金石年表一
大野郡犬飼町大字長畑、小切畑長寿庵後山

浄覚逆修ノタメ五輪塔ヲ造立ス
尼覚証逆修ノタメ造立ス

(第一基)「正平十一年丙申二月十五日、沙彌淨覺存生時、造立之、」
(第二基)「正平十一年丙申二月十五日、尼覺證存生時、造立之、」

三〇　足利義詮安堵下文

○島津家文書一
大日本古文書

(義詮)(花押)

義詮道鑒ヲシテ所領ヲ安堵セシム

下　嶋津前上總介貞久法師法名道鑒

可令早領知薩摩國守護職、薩摩郡地頭職、山門院(出水郡)、市來院(日置郡)地頭職、麑嶋郡、同永吉、十二嶋地頭職、宮里郷(鹿児島郡)參分壹地頭職、讃岐國櫛無保(那珂郡)上村下村、同公文名、光成名、信濃國太田庄(永内郡)內南郷、豐前國副田庄(田河郡)副田三郎次郎、種信跡、下總國相馬郡內苻河村、押手村、下黑崎村、發戸村、甲斐御房村、同郡內古志木村、河內國西嶋村、日向國高知尾(臼杵郡)庄、以上本領、

以上本領

豐後国井田郷

薩摩國河邊郡市來院名主職、豐後國井田郷、大隅國守護職、同國本庄內多禰嶋、深河院、岩河村、財部院、筒羽野村、

同國寄郡内下大隅郡鹿屋院、串良院、小河院、西俣村、大新恩等事、

右所々、任關東代々下文幷外題安堵、及建武元年綸旨、同三年三月十七日、觀應二年八月十五日御下文等、領掌不可有相違之状、如件、

延文元年八月六日

熊野神社ノ石鳥居ヲ奉造ス

三　柴北熊野神社石鳥居銘

○大分の石造美術
大野郡犬飼町大字柴北

「（右）

殊當郷安（寧）□別當（名）（領）□願主現當悉地（者）諸結緣衆（住）

奉天長地久所願圓滿

宿願（所）成就乃至法界有情平等利益如件、敬白、」

「（左）正平十貳年丁酉十一月十五日　藤原家吉　高原吉安　十郎太郎
願主善阿　藤原行直　沙彌道妙　大工沙彌玄正」

○銘文ハ四角形大面取ノ二本ノ柱ニアリ。但シ鳥居ハ折レ本殿軒下ニ積ムトイフ。「」内ハ「大分県金石年表」一ト、ノ校異。『大日本史料』六編二十一巻ニモ収録ス。

三　新殿大乘寺五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡千歳村大字新殿小字ナラギノ

玄惠

井田郷

延文五年八月廿三日

井田郷地頭職ニ対スル恵良惟澄ノ違乱ヲ停メ島津貞鑒代ニ渡付セシム

三三　室町將軍義詮家御教書案

○島津家文書一
大日本古文書

嶋津□(上総)□(貞久)入道々鑒代賴兼申、豐後國井田郷(大野郡)地□(頭)職事、訴狀如此、□(阿)蘇(惠良惟澄)筑後守濫妨云々、早止彼違亂、任御下文之旨、沙汰付道鑒代、可被執進請取、不可有緩怠之狀、依仰執達如件、

延文五年十一月一日　　相模守(細川清氏)　御判

大友刑部大輔(氏時)殿

井田郷得分物十二貫文ヲ南郷靈社ニ寄進ス

三四　宇治阿蘇惟村寄進狀寫

○阿蘇家文書下
大日本古文書

奉寄進
豐後國井田郷得分物內拾貳貫文事、
南郷　御靈

右、爲法花經十二部・仁五經十二座・光明眞言一千二百返御布施、永代所奉寄進也、早守此旨、彌可被致御祈禱之精誠狀、如件、

延文六年卯月五日　　宇治惟村(阿蘇)　花押

玄一禅門逆修ノタメ板碑ヲ造立ス

日田出羽次郎・同庶子等跡井田郷等ヲ去渡ス

三五　尾ノ平治康庵板碑銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字大迫小字尾ノ平治康庵

右意趣者、爲玄一禪門
現世安穩、後生善處、
法界衆生平等利益也、
康安元年辛丑七月十八日敬白、

○上部欠損

三六　大友氏時書状

○阿蘇家文書上
大日本古文書

豊後國日田郡日田出羽次郎（永敬）・同庶子等今度降參筑後宮跡、同國井田・大佐井兩郷事、去申候、御領掌候、可令致軍忠給候、其子細可注進京都候、恐々謹言、

（北朝康安二年カ）
二月十五日　　氏時（大友）（花押）

阿蘇東殿（惟村）

井田郷

三七　島津道鑑貞久譲状案

○島津家文書一
南北朝遺文九州篇四四六七号

譲與　(島津)師久分

薩摩國守護職

同國薩摩郡地頭職

同國山門院(出水郡)　但、於三ヶ村幷脇本村者、松浦女房一期之後可知行、同青木原村者、大輔局一期之後可知行、

讃岐國櫛無保(那珂郡)上下村

同公文名幷光成名

同田所名

薩摩國河邊郡

同拾貳嶋此外五嶋

同國和泉庄(出水郡)名主職

同國串木野(薩摩郡)村

同國宮里(薩摩郡)郷(ママ)參壹地頭職

豊後國井田(大野郡)郷

豊前國副田(田河郡)庄

筑前國今田村薩摩役所

河内國西嶋村地頭職

信濃國大田庄(水内郡)内大藏郷地頭職

同國石村(水内郡)南郷地頭職

下總國相馬郡内

下黒崎村　符河村　押手村

發戸村　甲斐御房　古志木村

右、相副代々御下文以下證文、所譲與也、於譲漏地者、惣領師久可知行之状、如件、

貞治貳年卯月十日

(島津貞久)道鑑

○薩藩旧記二七
南北朝遺文九州篇四四七〇号

所領注文事、

薩摩國守護職　筑前國今田村薩摩役所

同國鹿兒島郡地頭職　同永吉村　女子一期分

同國薩摩郡地頭職

同國山門院（出水郡）

同國河邊郡　同十八嶋

同國市來院（日置郡）

大隅國守護職幷守護領

薩摩國指宿郡大隅守護領

肥前國倉上庄（養父郡）同守護領

筑前國今津村（志摩郡）同守護領

大隅國本庄內

多禰嶋（熊毛郡）

井田郷

財部院（噌唹郡）

深河院（桑原郡）

筒羽野村

同國寄郡內

下大隅郡（肝属郡）

鹿屋院

串良院（肝属郡）

横河院（桑原郡）

大禰寢院（大隅郡）女子一期分

百引村（肝属郡）

曾小河村（肝属郡）

小原別符（大隅郡）

姶良西俣村女子一期分

豐前國內

副田庄（田河郡）

皆木村（筑前国下座郡）女子一期分

土師庄（筑前国穂波郡）

豐後國內
（大野郡）井田郷

讃岐國內
（那珂郡）櫛無保上下　同公文名　女子一期分　同光成名

河內國內
西嶋村

信濃國內
（水内郡）太田庄內石村南郷

下總國相馬郡內
下黑崎村　同發戸村　同上黑崎村　符河村
押手村　同甲斐御房村　同古志木村

日向國內
（臼杵郡）高知尾庄

「御譜中ニ朱書」
「貞治二年四月上旬」

宝篋印塔ヲ造立ス

大願主正法

三九　福生寺寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡千歳村大字前田字原田小字福生寺

「玄直(一)(宣)　「玄肪(二)　「玄眞(三)　「教念(四)　「教本(五)」

玄惟　祖阿　玄弘　玄幸　「加治(六)一親

圓阿(何)」　玄妙」　玄貞」　西蓮」　□□　」

「正平十八年癸(七)卯十一月廿八日

大工玄聖」

「住持(八)澄全

澄賢」

○基礎部ノ格狹間ノ框(一)～(八)ノ八個所ニ横ニ刻ス。〔　〕内ハ『千歳村誌』史料篇、名称モ同村誌ニヨル。

四〇　原田板碑銘

○大分県金石年表四　大野郡千歳村大字前田字原田

右志迎□(法)□衆生平□□大願主正法□

正平廿一□□月□

四一　大聖寺開山塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字柴北大聖寺

開山塔　貞治五年丙（マヽ）午季　不肯正受禪師　二月初八鳥

○干子ノ配置ヨリ見テ、江戸時代ノ後刻トイフ。

開山不肯正受禪師

井田郷永峯名内五貫文ノ田地ヲ由原宮ニ寄進ス

四二　藤原吉弘氏輔寄進状

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（端裏書）「貞治六年正月廿日　井田郷燈油田寄進状」

奉寄進

豊後國賀來庄由原　八幡宮、

同圓井田郷永峯名内五貫文下地田畠等坪付在別紙事、

右、爲燈油料所、所奉寄附也、須被專天下泰平國土安全家門繁榮、殊心中所願皆令滿足之祈禱、仍寄進之狀如件、

貞治六年正月廿日

（吉弘一曼）藤原氏輔（花押）

正善逆修ノタメ宝塔ヲ造立ス

四三　黒松新飼寶塔銘　○犬飼町誌　大野郡犬飼町大字黒松字新飼

貞治六年丁未十月日

佛子正善　爲逆修也、

島津伊久豊後井田郷等ノ所領ヲ安堵セシメラレンコトヲ愁訴ス

四四　金倉寺寶篋印塔銘　○犬飼町誌　大野郡犬飼町大字黒松字三ノ嶽

建徳三年壬子三月

本領ノ替トシテ宮方ノ闕所地ヲ望ム

四五　島津伊久代本田泰光重申狀　○藤野文書　日向国荘園史料一

嶋津上總介伊久代本田圖書允泰光重謹言上、

欲早被經御沙汰、豊後國井田郷・豊前國副田庄・日向國高知尾庄閑事、

右巨細言上先畢、仍彼所者等者、伊久於普代相傳所領無相違之處、于今御沙汰遅引之條、愁訴無極者也、所詮九州御退治之閒、彼所領等事、可被閣御沙汰者、御靜謐中閒、先薩摩國闕所本宮方之仁等跡（注文在別紙）進止之、爲彼替令拜領、彌欲抽忠節、次讃岐國櫛無保・信濃國太田郷内南郷・同國大藏

郷・下總國相馬郡内府川・甲斐・御房・發戸・黒崎以下所々知行分事、可預御吹擧京都之由、先度令言上畢、然早此等條々、急速爲被經御沙汰、粗言上如件、

應安七年六月日

望申闕所事、

一、鮫島掃部助跡、阿多郡半分百五十町、

一、上益山、同下益山、兩村三十町、

一、穎娃郡名主職、

一、二階堂隱岐守跡、阿多郡半分百五十町、

井田郷・副田庄者、御方之輩當知行之間、世上靜謐之閒、爲(衍カ)井田郷・高知尾庄・副田村爲彼替欲宛賜之、

宮方ノ闕所地

井田郷等ハ御方ノ輩知行

井田郷ヲ嶋津伊久ニ交付セシム

四六　今川了俊(貞世)奉書案

○島津家文書一
大日本古文書

嶋津上總介伊久申、豐後國井田郷事、爲本領之閒、先度被仰之處、不事行云々、太不可然、所詮不日沙汰付下地於伊久代、可被執進請取之狀、依仰執達如件、

永和四年八月廿八日　　(今川了俊・貞世)沙彌在判

大友式部(親世)丞殿

渡無瀬寶篋印塔銘

○大分の石造美術
大野郡犬飼町大字田原字渡無瀬

「目（基礎部）播（風）塔」
□（正）□（円）
性光
正劫
正本
道秀
□（浄）空
光乘
道佛
□（法）円
円入
智秀
合成（念・戒）

井田郷

乘（円）
成（戒）□（即）（朝）
道空
正蓮
空妙
智□（空）
正善
賢正
妙□（空）
□（心）空

「康暦二年二月十三日
敬白、」

○「　」内ハ『犬飼町誌』トノ校異。横一列ニ刻ス。

四八　石井釋迦堂寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字田原字石井釈迦堂

太郎　弘行　□五郎　彦六　然（マヽ）　孫□（カ）郎　孫十郎
又四郎　西蓮　四郎三郎　信□　彌四郎　五郎四郎　孫次郎
三郎次郎　太郎三郎
爲□乃至法界平等利益、　康暦第三二月拾六□□□

宝篋印塔ヲ造立ス

吉弘氏輔ノ戦死セルヲ葬ル

肥後姪隈陣ニ於テ死去ス

四九　渡無瀬五輪塔銘

○大分の石造美術
大野郡犬飼町大字田原字渡無瀬

「（火輪）仲芳一曇（吉弘氏輔）大禪定門神儀」
「（地輪）永德二年壬戌十月初七日亥尅逝去
前丹州太守吉弘一曇（氏輔）禪定門靈塔也、
春秋三十七歲肥後州於于、姪隈陣辞世」

○大分県指定史跡。

宝篋印塔ヲ造立ス

五〇　新殿大乗寺寶篋印塔銘

○大分の石造美術　大野郡千歳村大字新殿

「至徳二年乙丑十一月廿九日
　省久　妙賢
　（格狭間）
　妙道
　玄清　妙円　」
「　妙久　妙宗
　妙省　妙生
　（格狭間）
　連智　妙用
　行永　」

五一　井田郷由原御燈油料所坪付注文案

○柞原八幡宮文書　大分県史料九

（端裏書）「賀來社燈油料所文書同坪付」

井田郷

井田郷由原灯油料所坪付ヲ注ス永峯名

井田郷

（大野郡）井田郷由原御燈料所坪付、

永峯名内

一所　弘戸分内

門田三百歩　分米五斗　代六百廿五文

門麥小荒

六畠四段大内　反大不大豆四斗二升　代二百八十四文

濟物分

綿三枚　代百廿文　桑代五百文　菓子薪代七十文

油甘葛代十六文　垸飯廿五文

御代官分

取物色〻分米一斗六升二合代二百九文

六畠莚付八升　代五十四文　卯月目百文

夏物五十文　藍代百文　夫用途百廿文

兵士用途八十五文　口綿代六十文　秋物百文

地頭雑掌　夏十四文　秋廿四文　方違廿四文

本帳　貳貫七百五十文

定得貳貫五百八十文

一所　阿原分

門田小　分米二斗　代二百五十文

麥畠四段六十歩内反不分麥一石二斗六升七合

代八百四十五文

六畠七段内四反不大豆四斗二升　代二百六十九文

濟物分

綿一枚　代四十文　油甘葛代十文菓子薪代百四十文

葛紙袋代廿文

御代官分

取物色〻分米六升七合　代八十四文

麥莚付一斗一升七合　代七十九文

六畠莚付六升　代四十二文　卯月目百五十文

夏物百文　秋物百五十文　藍代百文

絹織賃五十文　夫用途二百文　兵士用途百卅三文

口綿代廿文　繕綿代十四文　地頭雜掌夏廿四文秋卅四文

方違五十文　定得貳貫八百四文

本帳分　參貫五百五十文

井田郷

右、任本文書之旨、所令注進如件、

應永十年八月　日

椎原入道良昌政所之時帳也、

椎原良昌政所

井田郷灯油田五貫分ヲ旧ノ如ク宮師幸栄ニ仰付ク

三三　大友氏加判衆等連署奉書

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

賀來御社井田郷内燈油田五貫分事、故一曇（吉弘氏輔）令寄附、雖被申付由原宮師源幸、故了曇（吉弘直輔）令改替、宮迫坊申付云ゝ、雖然、燈油爲闕怠之閒、宮師幸榮令出帶一曇寄進狀、歎申際、如元所被仰付也、然者雖爲下地不作、無燈油退轉、可令勤仕之由、被仰付畢、若又有無沙汰者、何時可被召放之由候、仍執達如件、

應永十五年六月十五日

小田原殿　光秀（花押）
古庄丹波殿　良忠（花押）
波津久殿　善直（花押）
永冨殿　正勝（花押）
生石殿　定勝（花押）

由原宮師御房

宝篋印塔ヲ造立ス

井田郷内利根次郎跡五貫分ヲ預ク

三三　戸成寶篋印塔（二基カ）銘　○千殿村誌　大野郡千歳村大字長峰字戸成

「建白功徳　應永二十年霜月十二日」

「良昌禪定門堅牢藏　應永二十年霜月十四日」

三四　大友持直知行預ケ状　○若林文書　大分県史料三五

（包紙ウハ書）「井田之御判若林源六殿」

井田郷内利根次郎跡拾五貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

持　直」

九月廿六日　　持（大友）直（花押）

若林源六との

（奥切封）「（墨引）」

三五　大友著世知行預ケ状　○麻生照美文書　大分県史料一三

（包紙ウハ書）「大友式部大夫氏繼　二男刑部太輔著世」

井田郷

井田郷内原田名二十貫分ヲ預ク

井田郷大在郷等ヲ知行セシム

書出也ニ着世（親棟トモ云、）」

豊後國井田郷内、原田名貳拾貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（年未詳）三月廿六日　　（大友）著　世（花押）

（麻生）朝宇長門守殿

○原田名ハ、現大野郡千歳村大字前田、原田区ノ地カ。発給者著世ヲ「包紙ウハ書」ノ如ク親棟トスレバ、氏継ノ子ニ非ズ、親世ノ次子ニシテ、持直ノ弟ナリ（「大友田原系図」）。

五六　源大友親綱知行預ケ状寫

○阿蘇家文書下
大日本古文書

於豊後國之内

一所井田郷　一所大在郷

一所家中名（直入郷）之事、任先例可有御知行之状、如件、

永享五年五月廿五日　　（大友）源親綱　花押

（惟郷）阿蘇殿

豊後国井田郷内二十貫分ヲ打渡ス
原田名
漆生名

大神道永藤原祥妙逆修ノタメ六地蔵幢ヲ造立ス

五七　一萬田惟久・長峯直郷連署打渡状（折紙）

○麻生照美文書
大分県史料一三

豊後國井田郷内、貳拾貫分事、任御判之旨、歴宇（麻生）二郎四郎殿之代官方へ、打渡申候了、
原田名内
一所　岡屋敷九貫二百六十九文
漆生名内
一所　門田十貫七百四十一文

嘉吉二年
卯月九日

直（長峯）郷（花押）
惟久（一万田）（花押）

歴宇（麻生）越後守殿

「歴宇（麻生）越後守殿」（折返奥ウハ書）

長峯孫二郎
一万田民部大夫　」

五八　九品寺跡六地藏幢銘

○大分県金石年表五
大野郡犬飼町大字栗ケ畑九品寺跡

一生之前現瑞呈祥、抜苦與樂百年之後、七分全得八苦脫却、預修功德主、大神氏實次法名道永、藤原氏信女法名祥妙、

井田郷

文安二年乙丑三月廿七日　敬白、

○『犬飼町誌』ト校合。

五九　大聖寺寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字柴北大聖寺

享徳二年癸酉霜月十五日

六〇　維明・維綱連署打渡状

○大友家文書録
大分県史料三一

井田郷内上柴地（北カ）事、任御判旨、打渡申候、可有御知行候、恐々謹言、

（大野郡）
（長禄二年）二月三日

維　綱在判
維　明在判

平井駿河守（親真）殿

六一　大聖寺寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字柴北大聖寺

大聖寺殿　長祿三己卯天　（大友親綱）耀山光君大居士　二月初六日

井田郷上柴北ノ地ヲ打渡ス

大友親綱卒去ス

○江戸時代ノ後刻トイフ。「大友氏系図」（『続群書類従』）及ビ「志賀文書」ハ、大友義鑑忌日ヲ長禄二年二月六日トシ、『寛政重修諸家譜』所収「大友系図」ハ長禄三年二月六日トス。何レヲ正シトスルカ今後ノ検討ニ俟ツ。

六三　長敬寺六地藏幢銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字大迫小字長敬寺

□□□□□□禪座（カ）　長祿四年庚辰三月十一日

六三　大友道清親繁知行預ケ狀

○大友家文書録
大分県史料三一

井田の內、ひろせ（広瀬）のとうゑもんせんちきやう（先知行）十五くわん、同ふるさほ（古庄カ）のとうゑもんせんちきやう（貫）七くわんふん、以上二十二くわんふんの事、あつけおき候、ちきやうあるへく候、恐々謹言、

五月八日（年未詳）　道清（大友親繁）在判

あつの（厚）六郎殿

六四　大友道清親繁書狀

○大友家文書録
大分県史料三一

しよりやう（所領）お、人にとらせ、あしくもよくも、所もその身ふうん、そうたんにてこそ候へ、こなた（かううん）

井田郷内二十二貫分ヲ預ク

所領取替ノ申出ニ答フ

井田郷

のひまある物にて候、それかきりにて候、むつかしくうけ給候、よて、しは(柴山)山の内闕三字あと二十くわん事、しよりやうにとりかへへきよしうけ給候、のそみのまゝ申つけ候に、あいゝにこそとらせへく候、もとちきやうも、人のもちにてこそ、すきたる所にて候へ、以後ハせんあくにつき候て、うけ給候まゝ、このふミ見へましく候、よくゝすいりやうあるへく候、恐ゝ謹言、端書もとの廿くわんもあなたへおかれへく候、

(年未詳)七月廿四日　　(大友道清・親繁カ)たう在判

(厚)あつの六郎殿

○〔　〕ハ、『増補訂正編年大友史料』一一ニヨリ注ス。

六五　惟秀・照種連署打渡状

○大友家文書録
大分県史料三一

(大野郡)井田郷柴山名之内参拾貫分事、任御判之旨、(打)折渡申候、可有御知行候、恐ゝ謹言、

(年未詳)八月廿九日　　照種在判

惟秀在判

厚六郎殿

○連署両名ハ、井田郷ノ両政所ナラン。柴山名ト国領海部郡柴山村トノ立地関係ハ未詳。

井田郷柴山名三十貫分ヲ打渡ス

柴山ノ内二十貫分

逆修ノタメ宝篋印塔ヲ造立ス

昌珍禅尼逆修ノタメ五輪塔ヲ造立ス

由原宮灯油免ヲ宮師増栄ニ還附ス

六六　堂山寶篋印塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字大寒字戸上、堂山

逆修　大善根主信女之壽、
于旹　文明二庚寅　仲春廿八日　施主　敬白、

六七　長壽庵五輪塔銘

○大分県金石年表二
大野郡犬飼町大字長畑、小切畑長寿庵

預修功德主昌珍禪尼壽位塔、
文明十二年庚子二月十二日製之、

六八　大友氏加判衆連署書状

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

（裏打紙端裏書）
「大友」

（朱）「長享元年」
元亀年
〻〻〻
」

當郷之内　由原御燈油免之事、宮師增榮御坊還附候、可被得其意候、恐〻謹言、

（朱）「長享元」
九月十日

（永富上総介）
繁直（花押）

井田郷

井田郷両役人

井田郷両役人中　（寒田兵部少輔）親景（花押）　繁次（花押）　（小佐井大和守）堅永（花押）

（奥切封）「（墨引）」

井田郷両役人

六九　尾ノ平寶塔銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字大迫小字尾ノ平

記室禅師ノタメ宝塔ヲ建ツ

曇華瑞公記室禪師　延徳二年庚戌七月十二日

逆修ノタメ板碑ヲ建ツ

七〇　五郎丸板碑銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字石田字五郎丸

逆修　久遠却（劫ノ誤カ）前多寶佛、風吹不入□□不濕、是元來無縫塔也、
明應貳季癸丑十月吉日　敬白、

本願比丘某再採色ヲナス

七一　上畑地藏堂木造地藏菩薩像銘

○大分県金石年表
大野郡犬飼町長谷地区上畑地蔵堂

（墨書）「再採色本願比丘智□敬白、明應五天柔兆執□□□日□衛門□書」

井田郷八貫分ヲ三重郷代所トシテ打渡ス

三　齋藤繁利等四名連署打渡状

○沓掛文書
大分県史料一三

(大野荘)井田郷八貫分之事、爲三重郷代所、任　御判・御奉書之旨、打渡申候、坪付別紙在之、不可有御知行相違之儀候、恐々謹言、

(異筆)「明應七年戊午」
七月廿五日

沓懸隼人佐殿

森迫兵庫助
繁房（花押）
奈須民部丞
助賀（花押）
平林丹後守
頼貞（花押）
齋藤美作守
繁利（花押）

○連署者四名ハ、井田・三重郷ノ政所カ、乃至検使ナラン。

野津院・井田郷内ノ地ヲ預ケ社役ヲ勤仕セシム

四　大友親治知行預ケ状

○沓掛文書
大分県史料一三

野津院内椎原跡參貫分、井田郷内造營給捌貫分之事、預置候、有限(由原社役)社役造營等之事、不可有聊爾之儀候、恐々謹言、

五月八日

(大友)親　治（花押）

沓掛駿河守とのへ

一四　大友親治知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

井田之内五十七貫、大佐井民部少輔跡相添、預進之候、不可有知行相違候、恐々謹言、

（明応七年）
壬十月十八日　　（大友）親　治（花押）

志賀新（親毎）藏人入道殿

井田ノ内五十七貫分ヲ預ク

一五　大友親□書状写

○阿蘇家文書下
大日本古文書

度々御懇ニ預御状候、雖無指事候、當可申候へ共、御隙難計候て、乍存候、今程心安罷居候、一向依御了簡如此候、目出候、兼又、か様之題目、自是申度心中候へ共、今時分者、中〳〵比興之至候閉、斟酌之至候處ニ、御知行分一筆事、御物語之由、使者申候、此時者、不入斟酌候閉、前々在所の事、別紙ニ進之候、就中、此番一所ニ參候上者、末代まて志るしにて候閉、豊後國井田郷の事、除万壽寺領預進之候、可有御知行候、彼寺家之事者、京都より住持を被下在所之事候閉、寺領之事者、我々はからいニあらす候、不可過御察候哉、將又、加様ニ乍申、此堺へ御用段之子細候ハヽ、遠玖珠邊寄々の事候へ共、承可申談候、御心を置ましく候、とても大少申事候程ニ、無内外承候ハヽ、我々も可爲同前候、巨細之趣、使者可申候、恐々謹言、

井田郷ハ万寿寺領ヲ除キ預ク
万寿寺ハ京ヨリ住持ヲ下シ寺領ハ我等ノ計ヒニ非ズ

七月廿三日　　親□（未成）（ヨメカ）

阿蘇殿

○差出人ヲ大友氏トスルハ、『大日本古文書』ニヨル。

六六　榮成打渡状

○沓掛文書
大分県史料一三

井田郷長峯名之内
一所五郎丸屋敷之内坪付之事、
　田數六段百六十歩
合貫數八貫分
　定納壹貫七百十六文
右、打渡申所如件、
（異筆）「明應九年庚申」十月廿三日
　沓懸美作守殿

榮　成（花押）

七七　賀來社遷宮等次第記

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

此ノ舊記ヲ以御還宮　申之、

井田郷

井田郷長峯名ノ内一所ヲ沓懸美作守ニ打渡ス

旧記ニ従イ遷宮ヲ行フ

八幡大菩薩豊後州賀來庄由原村御影向之事、天長七年庚戌七月初七日也、

○中略

一假殿文龜元年辛酉十一月廿八日子刻還宮、自寛正四年到文龜元年、三拾九年也、自天長七年庚戌七月七日到今茲文龜元年、六百七拾貳歳矣、

○中略

一御遷宮御還宮之時、御輿新造調候、雖然寛正四年癸未八月廿二日御還宮之時者、古御輿ヲ御請、用途三百疋大工給之、

一荒薦百五拾枚　荏隈郷役、

一地布三拾四端、此内御輿疊縁用、

一荒薦百五拾枚　笠和郷役、

一御棧敷三開荏隈郷　同疊子、

一御侍國司屋六閒　佐賀郷同疊子、

一御厩三閒　下郡役、

一警固流鏑馬之次第、

一番　三重郷、二番佐賀郷、

三番　阿南郷、四番大佐井、

五番　直入郡（ママ）、六番國東郡（ママ）、

荏隈郷役

笠和郷役

荏隈郷

佐賀郷

下郡役

三重郷　佐賀郷

阿南郷　大佐井

直入郷　国東郷

佐賀郷　大佐井
井田郷　野津院
毛井村

国方御供米注文

在国司方
在庁
税所方
目代方

一　埒之事

一佐賀郷、一大佐井、
一井田郷、一野津院、
一遣(毛)井村、
一永亨(享)拾貳年庚申十一月八日、
一御遷宮之時國方御供米註文、
　合壹石貳斗五舛者半分、分
一參斗　在國司方、
一參斗　在廳次郎四郎、
一參斗　稅所方、
一參斗　目代方、

宮師宥修在判

宮師坊納置、御炊殿撿校所ニ下行、出納・陣道・鎰取、若有米之餘者、宮師出納給之也、
文龜元年辛酉十二月十三日　　愿記旃

社奉行
實相寺
珪室等玉（花押）
宮師房
增　榮（花押）

井田郷

六　井田郷長峯名五郎丸隠田注文案

○沓掛文書
大分県史料一三

（井田郷）五郎丸おん田（隠）申候さい所之事、

一所大ミ田貳斗貳舛蒔
一所小ミ田壹斗五舛蒔
一所なかしやうの畠貳ケ所、大豆壹斗四舛蒔
　又せんたう二たん分
一所大迫かしらニ田五舛まき有、
一所よこ畠大豆三舛蒔
一所へんさし屋敷之内、八郎三郎ミやつる罷居候屋敷共ニ、
　是ハ我らミ出候、共ニ沓懸美作殿渡申候、

文龜貳年ミつのへいん卯月十九日

工藤かけゆさへもん尉
長峯名（專）せんたう（当）
三郎太郎
同三郎さへもん
新藤名本
太郎二郎

五郎丸隠田ノ在所ヲ注ス

せんたう

へんさし屋敷

長峯名専当

新藤名

七九　平尾社石鳥居銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字新殿

「奉再建（島木裏）
平尾大明神鳥居冠一宇
右旨趣者、天長地久所願（御カ）圓滿、殊者
願　主　武運長久皆令滿足、
永正六巳（己脱カ）年十一月吉日
願　主　平朝臣森迫盛久　敬白
大宮司　宮成　公繼
大工　五郎　二郎
新□□　」（左柱表）

「奉再三四五興建華表　一基　氏子中
最初造立觀應二辛卯年二月
再興建永正六己巳年十一月
三興建寛文十二壬子年十一月

井田郷

四興建享保八癸卯年四月
五興建文化七庚午年三月
觀應二年ヨリ文化七迄四百六十年ニ成、

宮主　宮成宇吉公忠
庄家　柴山　嘉□（兵衛）
大木村庄家　廣瀬　伊兵衛
長峰村同　上尾三左衛門
田口村同
漆生村同
大迫村同　足立長右衛門
船木村
石井村　半藏」

「奉三興建華表　一基（右柱裏）
匿本靈跡　同塵施慈　神功浩々　靈德懇々
華表刻石　建興得時　萬民和樂　祭祠取（カ）關
子孫繁茂　子葉孫枝　千秋萬歳　瞻之仰之
伏惟

豊之後州大野郡井田郷新殿村平尾大明神宮華表之
創建者、昔日不知之、立于何代敬(歟カ)□中□永正年
中再興之、其年代刻而在上棟、今不及記之矣、伏
□之從來悉倒折之、但棟宇一□尓夫□四(マヽ)十百十
年、于時當村蒼民敬念(カ)力再三興建之矣、伏願天長
地久國家安寧、次□信心福壽延長矣、
于時寛文十二壬子十一月如意吉辰

宮司　宮成基□
同　嘉□
大工　吉□
同　□□」

○右柱表ニ「享保八癸卯歳四月吉祥日」四興建ノ際ノ村役人、石工ノ刻銘アルモ省略ス。

20　沓懸之武井田郷長峯名五郎丸知行分坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

「（端裏ウハ書）沓懸清兵衛尉殿　　之　武（カ）奉」

（井田郷）五郎丸三分一之知行分坪付之事、

一所五段田之内一段大、五斗蒔坪者（カ）中ニきれ
　上ニさかいあり、しもものわりむけ共ニ、

一所かり屋もと一段貳斗蒔五舛（マヽ）

一所おりたち　一段一斗五舛蒔、ゑらの前五舛蒔
　是ニあいそへ候、

一所うめの木田一段一斗六舛蒔

一所大迫一段貳斗蒔下之きれ、同助二郎作、
　半之きれふるしやう之下
　よこせまち共ニ、

一所大之（ミカ）田貳斗三舛蒔

一所前田　五舛蒔

一所前田之尻、ふるしやうの下、八舛蒔、八郎三郎作分

五郎丸名三分一知行分ノ坪付ヲ注ス

一所大迫、同井之尻八舛蒔、是ハ八郎三郎作之内也、
　　此さいなうニ小畠あり、
　畠之事
一所へんさし分、神之木下同道より下神之木下も畠あり、
一所ふるしやうの下くほ、同ふるしやう共ニ、
一所屋敷之事へんさし屋敷、同八郎三郎殿
　宮つるか居候屋敷共ニ被居候屋敷共ニ、
一所ろくはくハときその原ニあり、是ハ三ニわり候、
一所畠かり屋のわき、たうの下あり、ろくはく、
永正八年辛未三月吉日　　沓懸美作守　之武（花押）

へんさし分

親父之武ノ跡ヲ沓懸清兵衛尉ニ安堵ス

八一　大友義長一跡安堵状

〇沓掛文書
大分県史料一三

親父之武一跡之事、任相續之旨、預掌不可有相違候、恐々謹言、
五月七日　　（大友）義長（花押）
沓懸清兵衛尉とのへ
（奥切封）「（墨引）」

給地八貫分ノ諸点役ヲ免ズ

彦左衛門尉ノ官途ヲ認ム

羽田野某及ビ犬

八二　秀家書状　○沓掛文書　大分県史料一三

御給地八貫分諸點役之事、指置申候、可被得其意候、恐々謹言、

八月二日　秀家（花押）

沓懸清兵衛尉殿

八三　大友義長官途状　○沓掛文書　大分県史料一三

彦左衛門尉所望之由、承候、可存知候、恐々謹言、

六月十六日　義長（大友）（花押）

沓懸彌七郎殿

（奥切封）「（墨引）」

八四　大友親敦義鑑書状　○三代文書　大分県史料一〇

就埴田右馬助用所、暇事申候、爲替羽多野宮内丞急度可出府之由、可被申候、同犬飼衆前ゟ依祭

飼衆ニ出府ヲ命ゼシム

禮、暇事申候閒、隙明候者、早〻可來之由、申候處、遲〻閒曲事候、然者可被申付候、恐〻謹言、

十一月四日　　親敦（大友義鑑）（花押）

木上大炊助殿

○親敦ノ諱字ヲ用フルハ、永正十五年九月～大永三年十二月頃ナリ。

八五　石五道六地藏幢銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字大迫、石五道權現

建立六道□大菩薩、皆大永六年丙戌二月念四日□□

六地藏幢ヲ建立ス

八六　井田郷田原名坪付

○五条文書
史料纂集・熊本県史料中世四

井田郷田原名之內坪付之事、

田原名坪付ヲ注ス

一所　舞田屋敷拾貫分　田數五段小、畠地山畠有、本納貳貫百文、夫足五日、

舞田屋敷

一所　谷口屋敷八貫五百九十分　田數三段六十歩、畠地山畠有之、本納三貫、夫足五日、

谷口屋敷

一所　栗木屋敷九貫四百分　田數四段六十歩、畠地山畠有之、本納貳貫百文、夫足五日、

栗木屋敷

中薗之内

一所　中薗之内、田數一段小、畠地山畠有、貳貫七十七文分
本納四百五十文分、夫足年中十日、

天文三年甲午九月六日　　長峯玉鶴丸
（良続）
五條殿

八七　山内庵供養碑銘

○大分県金石年表二
大野郡犬飼町大字山内、山内庵

當寺□書記孝子、
天文第七戊戌年八月二日

八八　下津尾熊野神社石鳥居銘

○大分県金石年表五
大野郡犬飼町大字下津尾

熊野社石鳥居ヲ造立ス

當社鳥居□□□□下津尾□□□□□□彦左衛門
尉發大願力、□奉立□□□、右之檀主攸希、丹悃□
功□通知意大士之故也、
天文戊戌（七年）霜月吉日　敬白、

○『犬飼町誌』ニモ収録ス。

井田郷

妙承逆修ノタメ板碑ヲ建ツ
道貞逆修

井田郷三十貫分ヲ預ク

八九　高添板碑（二基）銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字高添、アタゴ

「逆修七分全徳妙泉　天文八年己亥十月」
「逆修　道貞　旹天文八年己亥　敬白、」

九〇　大友義鑑知行預ケ状

○五条文書
史料纂集・熊本県史料中世四

（包紙折封ウハ書写）
「五條殿　　義　鑑」

今度別而忠貞深重之覺悟、令感心候、仍當國（豊後国）大野郡井田郷之内三拾貫分坪付在別紙之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

五月十九日　　義（大友）　鑑（花押）

五條殿（鑑量）

九一　大友義鑑知行預ケ状

○五条文書
史料纂集・熊本県史料中世四

（包紙）
「五條殿　　義　鑑」

井田郷給地代所トシテ肥後国中二十町分ヲ預ク

井田郷等代所トシテ直入郷葎原名ノ地ヲ預ク

盛秋禅定門ノタメ宝塔ヲ建ツ

「（墨引）」（切封）

井田郷之内給地爲代所、於肥後國中貳拾町分坪付在別紙、事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十月十六日　　義鑑（大友）（花押）

五條（鑑量）殿

九二　大友義鑑知行預ケ状

○志賀文書
熊本県史料中世二

井田郷之内四拾貳貫分、小川名之内八貫分爲代所、直入郡（直入郷）葎原名之内、志賀宮内太輔跡五拾貫分之事、預進之候、可有知行候、恐々謹言、

十二月十三日　　義鑑（大友）（花押）

志賀民部太輔殿

九三　井ノ元寶塔銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字石田字井ノ元

前賀□□月盛秋禪定門　天文十一壬寅九月十四日

○塔身ノミヲ存ス。

九四　神戸市菊池氏邸六地藏幢銘

○大分県金石年表六(マヽ)
神戸市神戸区北野町菊地吉蔵邸内

原夫南閻浮提東扶桑國西海路豊後州井田郷漆生名之内、本願施主爲逆修指取吉日良辰、課石大工建立六地藏菩薩、今朝伸安座□眼供養、伏冝依六地藏菩薩誓願、現世安全、增福長命、後生善所、九品蓮臺、生座上者也、施主薦野仁兵衛尉吉次、
天文十二年癸卯二月吉日、願主敬白、大工松本主殿助、

井田郷漆生名ノ内ニ本願施主六地藏幢ヲ造立ス
施主薦野吉次
大工松本主殿助

九五　沓懸貞與居屋敷等賣渡状

○沓掛文書
大分県史料一三

(端裏ウハ書)「ちう所」

沓懸平右衛門尉」

追而申候、せんそのちう所相そへ候て、渡申候、返〻彼三分二之事、親にて候者、拘之分にて候、

依有用〻、うり渡申候居屋敷三分二之事、同〻もりの田二舛まき、けんさへもん扶持仕候所、たんふをのこさす、永〻代一貫五百文、うり渡申候事實也、於自今以後茂、いらん申者有閒敷候、如何なるけんもんかうけ(権門高家)・神しや(社)・佛神御領罷居候共、此状先として、御作可有候、其時一もんたう(問答)申ましく候、仍爲後日状、如件、

居屋敷三分ノ二ミもりの田二升まき分ヲ永代売渡ス

天文十二年九月廿六日　　貞　與（花押）

沓懸美作守殿參
筆者　同平右衛門尉
同三郎左衛門尉殿

九六　衞藤實通畠地去状

○沓掛文書
大分県史料一三

（編裏ウハ書）
「沓懸孫二郎殿　まいる　　衞藤外記助」

中薗屋敷之内はなか六畠之事、
御同名平右衛門尉殿被申候まゝ、沓懸孫二郎殿へ進置候事實也、納所事四百文・やとい月ニ二日・八朔期例小莚二枚・五月まんか二日定、仍爲祝儀れう足一貫三百給候、慥請取まいらせ候、石波六畠事、孫二郎殿へ渡申候、自然至御公事、御相違之儀とも御座候ハヽ、爲此證文先、分別可申候、爲後日狀如件、

天文十二季乙巳二月十五日　　（衞藤）實　通（花押）

○中薗屋敷ノ井田郷・野津院ノ帰属未詳。シバラク此ニ掲グ。

中薗屋敷ノ内石波六畠ヲ沓懸孫二郎ニ進ズやとい月二日

井田郷

九七　聖寶庵墓碑銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字山内聖宝庵

當村　□□　老□
天文十七戊申年八月二日
○自然石ニ刻ス。

九八　高津原六地藏幢銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字高津原、庵

恭惟預須(修カ)冥福七分全功德主明妙滿優、同發大願輪、謹雕造六躰地藏之尊像、結善緣專修、庶幾所現當二世安樂之地、而予當寺造立此一基之寶塔者也、

天文十有八年己酉三月吉祥日

前最上比丘花巖叟正因銘誨(悔)、

「安政元申(後刻)寅年仲冬及而地靈碎寶塔故、善男女發願、予令寫前父而新立石似伸供養者也、

安政二年乙卯仲春惠日山主卜翁誌、」

明妙滿優逆修ノタメ六地藏幢ヲ造立ス

安政元年再興ス

井田郷内給地代所トシテ肥後国内ノ地ヲ預ク

三重・井田・直入郷ノ地ヲ預ク

九九　大友義鎮知行預ケ状

○五条文書
史料纂集・熊本県史料中世四

（包紙ウハ書）
「五條殿　　義　鎮」

（切封）
「（墨引）」

爲當國井田郷之内給地代所、於肥後國中貳拾町坪付在別紙、・同國之内三拾町分坪付在別紙、之事、爲加恩預進之候、可有知行候、恐々謹言、

（天文十九年カ）
三月廿五日　　（大友）義　鎮（花押）

（鑑量）
五條殿

100　大友義鎮知行預ケ状

○岡部忠右衛門文書
萩藩閥閲録二

三重郷之内宇對瀬七貫分、井田郷之内尾窪七貫分、肩白三貫分、直入郷之内古殿四貫分事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

（天文十九年）
十二月十三日　　（大友）義　鎮判

（鎮種）
岡部大藏少輔殿

「岡部大藏少輔殿　　義　鎮」

井田郷

101　大友氏加判衆連署奉書

○岡部忠右衛門文書
萩藩閥閲録二

三重郷之内宇對瀬七貫分、井田郷長峯名之内尾窪・肩白分、直入郷之内古殿四貫分事、被充行岡部大藏少輔(鎭種)詑、任御判之旨、嚴重可被打渡之由、依仰執達如件、

天文十九年十二月十三日

越前守(吉岡長増)　判
安房守(臼杵鑑續カ)　判
遠江守(小原鑑元)　判
大和守(田北鑑生)　判
若狭守(雄城治景)　判

三重郷兩政所殿
井田郷政所殿
直入郷政所殿

「直入郷政所殿
井田郷政所殿
三重郷兩政所殿　越前守長増」

○当時ノ大友氏加判衆ノ安房守ニハ、志賀親守・臼杵鑑續ノ両人アリ。但シ翌天文廿年六月ニハ志賀親守ハ「前安房守」トアレバ、本文書ノソレハ臼杵鑑續ナランカ。

三郷内ノ地ヲ打渡サシム

三重郷両政所
井田郷政所
直入郷政所

板碑一基ヲ造立ス

伝室集永記室禅師ノタメ墓碑ヲ建ツ

賀春妙慶

一〇三　大木板碑銘

○大分県金石年表二　大野郡千歳村大字下山字大木

南無阿彌陀佛、奉造石塔一□□□□□

旹天文廿□

一〇三　長壽庵後山墓地墓碑（二基）銘

○大分県金石年表五　大野郡犬飼町大字長畑、小切畑

（一基）「傳室集永記室禪師
天文廿四年乙卯八月日」

（別一基）「賀春妙慶
天文廿二年乙卯」

一〇四　一五五五年九月二〇日（弘治元年九月五日）

イルマン・ドワルテ・ダ・シルバの書翰

○イエズス会の通信　大分県史料一五

○上略

井田郷

井田ノ教徒　アントニオ祈リニヨッテ二人ヲ改宗セシム

このように書き記している時、（井田）イダというキリスト教徒が數人居住する町から婦人が一人この夫と共に當地にやってきた。彼女は夫と共に教徒になろうと希望して來たのであるが、パードレが當地に居ないので引返した。ところがアントニオというキリスト教徒（この人については前に述べた）が、この二人のため一同祈りをしたいといい、多數の教徒が大聲でパーテル・ノステルを唱えはじめた。この祈りをはじめると、この婦人はふるえること甚しく、男の人三人かかってもこれを抑えることができず、又烈しく齒ぎしりをし、齒が折れるのではないかと心配したほどであつた。その後、兩小指を一緒に縛って眠っていたが、アントニオは十字を切り、聖水を注ぎ、われわれはパーテル・ノステル及びアベ・マリアを唱えた。しばらく眠っていたのち目を覺まし、立去ることができないといつた。彼女にゼズス・マリアと言わしめてみたが、丁度敵の聲のような怒聲で唱える有樣であつた。その後再びその指を縛りつけ、一同で祈禱をしたが、婦人は手の痛みを感じ、今まで縛られていたのを忘れたかのようであり、すぐ縛りを解いて欲しいといい、人閒の聲を出し、ゼズス・マリアの名を極めて熱心に唱え、自分を造ってくれたものを崇拜したいといい、又十字架の上のキリストの像の前で自分は大罪人であるといつた。そののち自分に對し、七年閒の閒自分は心の中に大きな重荷を感じたが、今は大變愉快であるといつた。自分は彼女にゼズス・マリアの名を唱えるように教えたが、翌朝夫と共に洗禮の水をうけるため大變喜んでやってきた。彼女はこのような苦しみを經驗したのち、昔とは別人のような人閒となつたので自分は大變滿足した。

○下略

□山道春ノタメ造立ス

阿弥陀尊像ヲ造立ス

六地蔵幢一基ヲ造立ス

一〇五　上ノ久保六地藏幢銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字船田字上ノ久保

爲□山道春禪定門　弘治三年丁巳二月廿七日

一〇六　千草塲笠塔婆銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字新殿、千草場

謹奉造立阿彌陀尊像　當菴二世中興□華東泉長老
于時永祿三白庚申二月吉□

一〇七　高添六地藏幢銘

○坂口雅邦『九州六地藏考』
大野郡千歳村大字長峰字高添

欽奉造立六地藏大菩薩、
毎日晨朝入諸定、
入□地獄令離苦、
無佛世界度衆生、
今世後世能引(導)道、

七分善功德主妙西信女、
万里一條鐵爲道明禪門、
于(予)時永祿ㄨ季辛酉中春吉日
彌三郎敬白、

笠塔婆一基ヲ造立ス

井田郷柴北名ノ内寄住僧六地蔵幢ヲ造立ス

一〇八　下平井笠塔婆銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字下山字漆生、下平井庵ノ平

永□□有(カ)佛一木之□文者、當庵中興□□□分空(カ)□祖師、
七分全功德主江月妙浦信女、皆永祿四歳辛酉三月十二(カ)日孝子敬白、

一〇九　下墓原愛宕六地藏幢銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字柴北、下区

密海面豐後州井田郷柴北名內　寄住三寶弟子今月今日伏惟松岩宇漆　居士十三回忌　諱日之辰爲菩提善處六地藏一品建立之處、偈曰安膽佛(カ)　尊顔以多給(カ)　瓏四面勢隘撐天抱地脩處前躰者來眞佛陀併有大功德主有左右、逢原旨趣故修花茜(カ)授勞大姉無縫塔之內、安座六躰地藏而以堅供養□銘　左右
逢原邪　靈佛性古來今彌柱　室礎寶塔　萬而金　于時永祿四年辛酉三月廿八日
大願功德主謹立之、

○意味不明ノ所多シ。誤読ノ所アルカ。

二〇　岡笠塔婆銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字新殿字岡

奉造立石佛一本之支者、爲□□歸元寶月融玉居士、七分全功悳主蓮池妙菊(カ)大姉□、
于時永祿四年辛酉十月吉日施主敬白、

宝月融玉ノタメ笠塔婆ヲ造立ス

二一　治康庵角塔婆銘

○千歳村誌
大野郡千歳村大字長峰字大迫小字尾ノ平

欽奉造立石佛一尊事、前泉福侶(マヽ)室和尚照禪師、
于據　永祿十年九月吉日

石仏一尊ヲ造立ス

二二　舞田六地藏幢銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字田原字舞田、勝山仁山堂跡

夆(マヽ)月道高禪門
久菴妙寂禪尼　壽位、
元龜三歳壬申十月初四日施主敬白、

道高・妙寂ノタメ六地藏幢ヲ造立ス

一一三　佐土原六地藏幢銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字大寒字佐土原

六地藏像、爲花雲信男也、天正四年

花雲ノタメ六地藏幢ヲ造立ス

一一四　一萬田(カ)鎭實知行預ケ狀(紙竪)

○伊東東馬文書
大分県史料一三

井田兩名之內

一所貳貫二百分　日尾
一所貳貫分　灰迫
一所三貫分　屋那平
一所三貫分　上下　小屋四郎
以上

井田兩名內十貫分ヲ預ク
日尾
灰迫
屋那平

右十貫分之事、預遣し候、可有知行之狀、如件、

六月十五日　　鎭實（花押）（一万田カ）

伊藤右馬助殿

○発給者「鎭實」ハ一万田氏カ。

加恩ノタメ万雑点役ヲ免ズ
井田・三重・直入郷役所ニ申理ルベシ

一二五　大友義鎮判物　○岡部忠右衛門文書　萩藩閥閲録二

不退堪忍辛勞之條、其方所之領地萬雜點役之事、爲加恩免許候、然者可爲檢斷不入之條、毎事可止催促之段、井田・三重・直入郷至役所、可被申理候、恐々謹言、

六月廿八日　　義(大友)鎮判

岡部大藏少輔殿

井田郷内ノ地ヲ預ク

一二六　大友義統知行預ケ状　○岡部忠右衛門文書　萩藩閥閲録二

連々奉公辛勞之條、爲其感、井田郷之内常福寺拾貫分、同六堂寺五貫分之事、預置候、可有知行候、恐々謹言、

七月九日　　義(大友)統判

岡部左京(鎮種)亮殿

「岡部左京亮殿　　義統」

二一七　大友家文書錄

○東京大学史料編纂所影写本
大分県史料三三

島津家久柴田紹安ヲ井田・天面山ニ居ラシム

土持親信ヲシテ朝日岳城ヲ守ラシム

(天正十四年十月頃)
島津家久、及伊集院忠棟等、自日向越梓山、入大野郡、至宇目郷、柴田紹安叛義統、帥手兵、出朝(宇目村)日嶽城、屬家久、家久使紹安附兵、居井田・尼顏(天面山)壘、於其子柴田左京亮所據星河塞、亦入兵守之、取朝日嶽城、使土持次郎九郎親信守之、親信故土持親成子也、親成爲宗滴被誅之時、親信逃、依義久、及義久徇日向使親信復舊領、今也爲家久之先鋒至此、家久進、至三重鄉陣松尾山、

薩摩悪党現形ノ際ノ戸次統常同心ノ懇忠ヲ賞ス

二一八　大友義統感状寫

○沓掛利三郎文書
大分県史料一三

今度薩摩之惡黨現形之處、南郡之者共構未練候處、統常(戸次)以順儀之覺悟出府、懇忠之次第、無比類候、殊其方同心之由、忠儀感入候、何樣一稜可賀之候、恐々謹言、

(天正十四年)十一月廿五日

義統(大友)　御判

沓懸孫太郎殿

井田郷栗ケ畑ノ領主

キリシタン、ペトロ、ジョアン

妻子家人ヲ拉致サル

豊後國の破滅が始まった次第

○上略

かの南郡地方の栗ケ畑（井田郷カ）という地に、キリシタンの領主である一人の貴人がいた。彼は府内で嫡子（大友義統）に奉仕していた。敵がやって來て、彼の妻、息子の嫁、下女たち、家財、その他、同家にあるすべての物を持ち去った。彼とともに戰場にいた他の家來たちは、妻たちが捕えられたと聞くと、（主君）を置いて全員が敵側に走った。（領主）は、自分に從うものとては自分の乘馬と隨伴して來た一少年以外にないと見ると、府内の學院に赴き、そこでデウスの愛によって食物が施されている。

ペトロという（教名の）この人物には、二十二、三歳のジョアンと稱せられる若い息子がいる。彼は、（かの場所に）居合わせ、敵が自分の母や妻や家人を連行するのを目撃して深い苦惱に堪えられず、山伏（ヤマブシ）と稱せられる、兵士から成るある宗派の一人の僧侶（ボンゾ）を襲撃できるかどうかと密かに家々の閒から様子を窺った。その男は四百名の指揮者（カピタン）で、（ジョアンの家人）を捕えた張本人であった。デウスの御計らいとジョアンの幸運もあって、彼は望みどおりこの薩摩の指揮官が一人しかいなかったところを襲撃できた。彼に襲いかかると、〔人々が語るところによれば〕（ジョアン）は左手で（相手）の首（ガニネテ）を摑み、右手で抜き身の短刀を胸に突きつけて言った。「貴公が拙者の母君と

か妻や家人をいとも不正に拉致したのを目撃した後は、氣も狂わんばかりであった。されば、さっそく彼らを放免し自由にされよ。さもなくばかならず貴公を殺し、拙者もここで貴公とともに死ぬ覺悟である。（なぜならば）四百名の兵士の中から逃れ得ぬことくらい、よく存じている」と。

かの指揮官はいとも冷靜かつ沈着な口調で、誰を呼ぶこともなく、かつ音を立てもしないで言った。「今日の敗者は明日の勝者、これが戰の習いというものだ。されば、せっかく手に入れた獲物を手放すことはよろしくない。何はともあれすべては時が解決するであろう」と。

だがその僧侶は、かの若者に執拗に迫られてどうにもならぬ習目に陷ったので、部下を呼び、（彼の）母、妻、および下女たちを釋放するようにと言いつけた。ジョアンは、彼女たちが十分離れた場所まで安全に移されるまでは安全を期して、（かの）僧侶を放免しようとはしなかった。（だが彼が）このように節度を辨えた取扱をしたために、（敵）はその若者をもなんら危害を加えることなく放免した。

このジョアンの父の兄弟にパウロという教名の伯叔父がいた。身分の高い人で裕福であり、大家族を有していた。薩摩の兵士たちが豊後の（諸街）道を荒しながら進撃してくると、親族や友人や隣人たちは、彼の保護を求めて同家に集合した。彼は、ある嶮山に屋敷を有しており、その背後は何びとも突破し難い深山となっていた。

彼と結婚していたのはマグダレナという有德の女性で、受洗してまだ日は淺いが立派なキリシタ

ジョアンノ父ノ兄弟パウロ

妻マグダレナ

敵は彼の（家の）戸口まで來ると、後で誰かが當家に害を加えることなきよう、當家が薩摩軍に屬しているという書文（かきぶみ）を與えたいから（戸口を開いてほしい）と言った。だがそれは、彼を欺くための虚構であった。

敵としては、パウロが喜び穩やかに書付けを受け取りに出てくるものと考えていた。しかるに彼は抜刀してたちどころに二、三名を殺すと、ふたたび奥に引き下がり、急ぎ戸を閉めてしまった。そして山に通じる別の出口から、妻と二人だけで逃亡した。彼女が歩行するには二つの大きい障害があった。その一つは、彼女が肥滿体で（身體が）重かったことであり、他は山がいとも深く（道に）不案内なことであったが、兩名は非常に苦勞してそれを突破することができた。

マグダレナは家を出た時、特に自分が愛情を注いでいるものしか携えなかったが、それは二つの肖像であり、一つはキリストの、他は聖母（マリア）のそれであった。折から嚴寒で、彼らは、（より）よく歩けるように衣服を少なくし、（途次）脱ぎ捨てて行く（有様であったのに）、それら聖像だけは決して身體から離しはしなかった。彼らは荊棘（いばら）で（身體を）傷つけられて血に染まり、二日二晩山中を歩き通し、かくて疲れ果て精根盡きて清田（清田鎮忠）の城にたどり着いた。そこでは國主フランシスコの娘ジュスタが彼らを手厚くもてなした。その地のキリシタンは皆、マグダレナならびにその夫パウロの信仰と德操に少なからぬ感銘を受けた。

○下略

パウロ敵ヲ殺シ妻ト脱出ス

清田鎮忠ノ城ニ逃ル

二二〇　原五輪塔銘

○犬飼町誌
大野郡犬飼町大字田原字原

（墨書）□奉□□□□伏云、依此□□□□□□□□　天正十四年□

二二一　若林氏所領覚寫

○若林文書
大分県史料三五

○年未詳。天正十五年頃カ。「野津院史料」一五一号ニ収ム。本文省略。当郷ニ関シテハ「一井田郷之内一ケ所」ノ記述アリ。

二二二　沓懸左馬助領坪付

○沓掛文書
大分県史料一三

（端裏書）「沓懸左馬助」

大野郡内　沓懸左馬助領
野津院内
一田地壹畝廿歩
井田郷之内
一田地貳反貳畝

右外　荒田壹丁
下ミ畠三反貳畝

若林氏所領一カ所

沓懸氏所領ヲ注ス
野津院
井田郷

九月廿八日　　門司勘解由允

親　家（裏黒印）

一三三　生善寺永存等連署納米請取状（紙堅）

○沓掛文書
大分県史料一三

野津院・井田郷ノ内、田地貳反三畝廿歩
納米　四舛八合七勺定
右之前、請取所申實也、
天正十八年十一月卅日

岡部佐渡守
鎭　種（花押）
臼杵舎人佐
統　高（花押）
生善寺
永　存（花押）

沓懸左馬助殿まいる

野津・井田両郷内田地ノ納米ヲ請取ル

一三四　大友吉統條々事書

○大友文書
大分県史料二六

○天正二十年二月十一日。全文ヲ「大野荘史料」三七一号ニ収ム。本文省略。

井田郷

一三五　豊後國諸侍着到帳寫

○武本本、中島本
大分県地方史一〇八

○天正二十年カ。大野郡関係ヲ「野津院史料」一五九号ニ抄出ス。コヽニハ当郷関係ノミヲ掲ゲ、他ハ省略ス。

豊後國諸侍着到　次同不第

○上略

井田郷衆

小野孫十郎　　沓懸左馬亮

沓懸勘解由允　　沓懸源内允」

○中略

右着到人數

三百五十一人

八十五人　玖珠郡衆

三十八人　國東郡衆

百十二人　日田郡衆

二十九人　由布院衆

六十六人　戸次庄衆

十四人　高田庄衆

六人　山香郷衆

二十三人　緒方庄衆

四人　井田郷衆

十人　宇田枝衆

十七人　野津院衆

都合七百五十五人　」

○下略

秀吉豊後ヲ藏入トナス
祐兵ニ命ジ領内ニ令シテ逃散百姓ヲ拘置クコト勿ラシム

一三六　豊臣秀吉朱印状

○日向伊東文書
日向古文書集成

豊後國事、今度御藏入被仰付候、然處に百姓遁走之由被聞食候、沙汰之限曲事ニ候、急度可還住之旨申付、送候而可返候、實々不立歸に付候而者、其百姓之事者不及申、拘置候在所共に可被加御成敗候、此旨令領中堅可申觸候、不可油斷候、猶山口玄蕃頭(宗永)可申候也、

(文禄二年カ)六月廿日　　御朱印

日向國(祐兵)
伊東民部大輔留守居中

一三七　由原山宮主坊拘分供田注文

○柞原八幡宮文書
大分県史料九

○文禄三年正月九日。全文ヲ「野津院史料」一六〇号ニ収ム。本文省略。定灯明田壱町五反ガ井田郷内ニアリ。

一三八　中川秀成知行方目錄

○中川家文書
神戸大学文学部日本史研究室蔵

○慶長六年四月十六日。「大野荘史料」三七六号ニ収ム。本文省略。大野郡井(田)た村（参千貳百貳拾五石五斗九升三合）アリ。

一三九　福生寺庚申塔銘

○大分県金石年表四
大野郡千歳村大字前田字原ノ田小字福生寺

以欽奉建立石佛一躰之事、庚申一座拜待成就旨趣者、大日本國鎭西豐後國大野郡井田郷原田名内信心檀那辛酉相藤原朝臣廣瀨九郎兵衛尉家繼身、宮□□武運長久子孫繁榮、而過去罪消滅現世得無比樂、當來爲得佛果願也、梵天帝釋四大天王五大明王三世諸佛、御納受奉祈處也、一□散請十方聖主及時□□□伸供養者也、乃至法界利益爲也、

于時慶長八天癸卯霜月八日願主敬白、

石仏一体ヲ造立ス
井田郷原田名広瀬家継

付録

一　大野郡犬飼町・千歳村大字・小字一覧表

犬飼町

○『大分百科事典』ニ拠ル。

地区	大字	小字
（犬飼地区）	犬飼、	神宿前、神宿、大坪、高縄、折立、神ノ久保、先ノ原、原ノ下、此モウセ、下ノ原、原、下タ谷、西ノ久保、招田、天神ノ木、山ノ口、大又、中ノ迫、井立、内河、カラヲ、灰迫、堂面、北平、屋敷、大迫山、平山、太田、松ノ木平、西ノ平、板床、長久保、田次郎、黒井、カゲ浦、長者屋敷、上サノ平、井ノツル、鹿場、井ノ久保、門田平、神ノ山、カウサ、迫、中畑、ヲモウシ、田ノ平、向ノ平、神ノ田、堂ケ迫、屋根ケ迫、ヲンボウ、伏部野、稲積、小長谷、笹原、大辻、野首、谷、小椎、岩下、塔ノ元、田ノ河内、鐙、北ノ園、船戸、荒瀬、灰倉、西ノ園、平原、井ノ平、松田、持ケ迫、辻、原口、中道、柳平、堀川、園田、岩上、藤ケ田尾、登尾、西ノ田、上園、河島、越戸、下タ津留、犬飼山、上ワ町、牛カ平、鮎ケ瀬、木ノ元、道添、太田平、千把原、横平、下太田、
下津尾	田原	小福手、瀬口、立野、原、外園、舞田原、釜形、舞田、山下、平野、島、津留、古川口、桑津留、

田原

平原、鳥穴、椚尾、灰原、高尾、柿ノ木、田ノ平、後田、辻、表、牛灰、渡無瀬、天ノ尾、奥、高棚、立山、石井、西ノ原、上川、太郎丸、鹿道原、

大寒（戸上地区）

吉ケ谷、石倉、前久保、入小野、戸ノ口津留、前平、出口、田久保、大谷、カニ田、マイソウ、中ノ原、割岩、佐土原、大久保、和佐田、宮田、堤下、山神、下原、鉢ノ久保、大園、下村、寺浦、吐合津留、前田、上津留、馬場、松山、丸山、上り口、イワノ平、市ノ久保、宗円、川崎原、道免、川崎、尾津留、戸ノ上口、戸上、西、鶴ノ瀬、梅山、迫久保、川崎、白水、大畑、長迫、通山、茶屋ノ平、友ケ崎、鼓石、市六谷、舟木、

久原

向原、釣戸、灰原、狐迫、仲竹、平原、仏戸、太田、尾久保、歳神、津留、下ノ山、的場、上原、佐土畠、綿打、出塚、犬ノ谷、ナバキ谷、屋永、白水、屋永原、ツカガ坂、桑久保、

西寒田

ナラ原、丈ノ川、浦木、神尾、松原前、井ノ上、井ノ元、楠木迫、塚田前、桑代、上後田、下後田、山田、米田、シカ殿、大原、中嶋、前平、井ノ平、徳尾、釣戸、

柚ノ木

田ノ内、桐ノ木、吉田、向清水、表下、下ツル、神山、上津留、奥保、柳原、尾清水、長谷、狸穴、タサキ、初保尾、平野尾、小太郎、吉ケ谷、大平、大川内、シル谷、平原、井迫、前ケ迫、大ノ谷、勇ノ尾、石田、石代平、長迫、通山、中田、大ノ原、上原、原、長ケ迫、桑迫、上ツル、ツフセ、戸ノ下、柚ノ木、柚ノ木谷、ドウシリ、

（長谷地区）

栗ケ畑

年ノ神、柳瀬、前弓売ノ一、前弓売ノ二、中弓売ノ一、中弓売ノ二、奥弓売、奥エゲ、前エゲ、栃ノ木、原口、竹ノ下、丸田、横手、下上原、上ノ原、前田ノ一、前田ノ二、竹太郎ノ一、花香、東泉、折立、河内、八歩、炎、ナタ原、山田、釘野、中島、栗ノ木、亀ノ甲、アゼツ、小野、地蔵元、松平、松平迫、シルナシ、向次郎、シルシ、神ノ元、原、八石、小谷迫、山口、高田、上高田、土津尾、キワタ、長田、上崩、小松、上小松、椿、中尾平、ツル、仁田、前柚木、中柚木、上柚木、峠、谷、田野尾、松塚、ユヅリハ、

黒松

古川、岩屋、灰ノ木、持太郎、中寸、太田、天神鶴、弓折、上村、鍋ノ頭、田ノ平、天ケ瀬、灰久保、折付、大徳庵、駄回、向田、長迫、小野、露無、宮ノ脇、宮ノ尾、馬場、恵良、奥畑、新飼、山、大園、鶴、衣掛、川鳥、猿渡、大平、桑ツル、長畑、笹木畑、荒平、大迫、西平、原、台ノ後、井田、焼畑、平畑、崩ノ平、仲尾、大平、尾久保、土穴、福手、堀下、赤伏木、穴尾、郷屋、仲畑、堂、久保、三ノ嶽、尾羽根、崩久保、柿内、小又、畑ノ迫、小岩、オサシロ、樋ケ田尾、赤松、

高津原

徳尾、瀬口、今宮、下原、藤ノ木、高津原、蔵座、西平、尾立、畑ケ川、徳房、日掛、舞田、小柳、鈴ケ谷、金手、大松原、山ノ神、クルイノ、山ノ田、高畑、西谷、類正寺、向田、表、ウワノヲテ、大又、下山田、二ノ谷、山田、玉来、池田、平畑、奥畑、平原、笹原、宇津尾木、福土、陣屋、山ノ畑、宅左衛門、大川内、大崩、狸穴、

柴北	久崎、柳平、才礼、樋窪、堤下、迫ノ田、名本、川原、北ヅル、下モ平、ウソノヲ、樋ノ口、市、寺田、山内、四手、大谷、桑ヅル、折戸、原浦、井野田尾、柳ノ元、向山、亀ノ尾、野中、南奥山、恩地、北奥山、深田、上ミ平、ツル、
長畑	大久保、竹迫、神下、原、迫、中原、岡田、新飼、北平、下原、前田、雨ケ瀬、牛頭、丸山、城山、山中、成瀬、上原、
山内	北ノ迫、炎、石原、後畑、神ノ迫、川地、上ノ原、尾久保、志田原、神ノ前、京塚、長畑、内ノ久保、新飼、石塚、代、灰迫、向畑、山内、花香、落合、堂ケ上、新田、鶴留、河原、成瀬、牛ケ谷、津ケ無礼、

千歳村

○『千歳村誌』ニ拠ル。本村デハ大字・字（括弧内）・小字ノ三段階ニ土地台帳ヲ編成セリ。

大字	（字）	小字
前田	（田原園）	才ケ平、石取、高尾、寺ケ谷、小原、宇戸、太田、小迫、四郎園、真萱前、岡田、尾久保、石原、松場、原ノ田、太下、米沢水、真萱、代の田、柿木田、中尾、風呂前、竹ノ久保、大久保、八山、踊場、池の華、尾崎、徳尾、仁田尾、平次久保、宇ノ谷、大中尾、宮尾、日向谷、田代、

前田

（倉波）内河野、宮尾、脇ノ田、徳林、津留、中原、町堀、田平、田平浦、田尾、野間、荻の中、尾羽根、小車、下津留、上津留、山下、甲斐氏、妙戸木、河内、迫、太郎田、烏帽子形、黒山、其の木、

（原田）板屋、妙光寺、岩崎、六郎、長田、岩下、田尾下、上倉波、福生寺、中の切、森屋、下原、宇ノ木、入津原、原、西迫、宮ノ元、詰ノ原、明用、丸の田、詰、岡ノ原、瀬戸、入津、

下山

（漆生）下原、上原、桑畑、抱子、松迫、門、津留、梅木、山久保、大園、尾久保、上門手、桑原、灰迫、迫、太田、飛瀬元、高野無礼、井ノ口、仮屋元、

（大木）柏迫、鳥越、大木、飛迫、山久保、小原、大田、仏久保、清田、平川、堤、清戸、宮田、下津留、扇田、上津留、

高畑

（高畑）二本松、向原、宮地、徳屋、松山、大迫、大坪、田崎、小畑、井ノ元、音名、仕手、平川、叶丸、筒ノ上、仕手上、高畑前、高畑、北迫、猫平、松迫、柏迫、中山頭、乗越、

柴山

（柴山）田代、津留、原ノ元、丸小野、妙覚寺、荒平、不定、鹿取、下津留、岩下、馬場、瀬口、杉ノ本、田中、田ノ口、鹿合田、辻、笹野、原ノ下、藤原、山口、原口、立平、尾羽根、宮田、上平、草木原、掛水、峯、前原、中原、小沢水、二本松、尾久保、北尾久保、清首、

（日向久保）日向久保、沓掛、柳平上、柳平、

船田

（田口）井ノ原、登立、横脇、牧の辻、辻、丸屋、仲村、仲尾、

船田	（舟木）北平、ビンゴ、奥畑、立野、長小野原、原、山下、カキド、ヒラエ、ヒラ、赤岩、池久保、長迫、米山、千草場、ツル、真米、松原、平井河内、辻下、上ノ久保、尾迫、ツクミ、浦、
新殿	（新殿）岡、岡ノ上、宮田、ナラギノ、井ノ上、ノゾキ、ツル、川久保、 （横尾）馬場、深田、壱丁田、横尾、上原、南原、下原、鳥居原、平、
石田	（石田）入小野、明神、井ノ元、吉原、古峰、楠、五郎丸、下石田、中石田、上石田、荻迫、平井河内、奥園、久保山、西平、下山、石河内、代、宮田、鳥越、荒小、仲畑、ユス子、臼石、小北、
長峰	（長峰）野尻、沖田、ハシノモト、木ノ本、井ノ平、戸成、大坪、神原、仲ノ原、長畑、上原、下原、 （大迫）仏久、長敬寺、城山、大迫前、川添、岩上、桑迫、徳原、土木園、尾ノ平、深瀬、川平、尾久保田、 （高添）八石畑、石五道、西平、道迫、出口、平石、高添上、尾久保浦、下山、倉園、高添原、ナラ原、ワラビ久保、長迫、下ノ原、

○千歳村ノ西部ハ、一部大野荘ニ属スルカト考ヘラルヽモ、ソノ厳密ナル境界ハ今後ノ検討ニ俟チ、コヽニハ一応井田郷ノ部ニ掲グ。

補遺

大野荘史料

一　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘

○伊藤酉美調査記録
大野郡朝地町大字池田字井ノ上矢野家旧墓地

逆修ノタメ五輪塔ヲ建ツ

逆修功徳主妙貞
應永廿〔卅〕一年八月廿五日

○モト兆楽廃寺跡墓地ニアリシモノヲ、昭和初年矢野氏ガ現地ニ移建セシモノト云フ。兆楽寺ハ大字市萬田字古市ニアリシ古寺ニシテ、安永年間（一七七〇年代）マデ存続セルモ、以後廃寺トナリ衰退セリト。当寺跡墓地ノ五輪塔四基（一・二・六・一一号）ハ、一萬田氏関係ノモノデアリ、同氏墓地ト思ハレル。尚〔　〕内ハ「波多野一郎調査記録」ニヨリ注ス。

二　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘

○伊藤酉美調査記録
大野郡朝地町大字池田字井ノ上矢野家旧墓地

逆修ノタメ五輪塔ヲ建ツ

逆修功徳主道礼
應永廿九年七月十七日

六地蔵幢ヲ建ツ

三　市萬田戸崎地藏堂六地藏幢銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字市萬田字戸崎

（墨書）
「□□□□□
道心禪門　妙心禪尼
道香禪門　妙貞禪尼
善金禪門　妙忍禪尼
□□□□　□□□□
文安五季□
□□□□□□」

四　神角寺寶篋印塔銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字鳥田字神角寺北ノ坊北西

（合摩断片）
「□（丁カ）辛卯（文明三年カ）十一月廿一日
□弘賢
□子永眞　」

○様式及ビ干支ニヨリ文明三年（一四七一）ト推定セリ。干支ヲ「丁卯」トセバ文安四年（一四四七）トナ

五　瀬口工藤半宅裏板碑銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字池田字瀬口工藤半宅裏

□岩延憑童(竜ノ誤カ)集庚戌霜月念(二年)□(下欠損)

六　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘

○伊藤酉美調査記録
大野郡朝地町大字池田字井ノ上矢野家旧墓地

喜山紹悦(一萬田長泰)大禪定門
岩永正元年申子七月四日

喜山紹悦ノタメ五輪塔ヲ建ツ

○大友義一蔵「大友一萬田家系譜」ニヨレバ、

常泰（治部少輔）
- 長泰　次郎、法名喜山紹悦、永正元甲子年七月四日、十七歳歿、
- 親泰　六郎、左京大夫、兄長景ノ跡目相續、

トアリ、喜山紹悦ハ一萬田長泰ナリ、

七　志賀迫姫塚石碑銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字志賀字志賀迫

「萬徳女子永正九年□(壬)申三月廿四日□

万徳女子

補遺大野荘

□永正十年□(癸)酉二月一日□□□

□□佛像立也、」

○塔型不詳。

八　志賀城跡五輪塔銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字志賀字前田志賀城址

(地輪)「經

□□主□□□子孫繁□

天文十五稔施主□□」

九　中江寶篋印塔銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字上尾塚字中江

(台座)「□□□□

天文十九庚戌七月十日」

一〇　志賀雲城寺寶篋印塔銘

○朝地町史
大野郡朝地町大字志賀字前田雲城寺

（塔身）
「□主信□□□子孫□
□經天文廿三年□施主□　」

観山宗音ノタメ
宝篋印塔ヲ建ツ

一一　市萬田元兆樂寺跡墓地五輪塔銘

○波多野一郎調査記録
大野郡朝地町大字池田字井ノ上矢野家旧墓地

奉造立（ナシ）石塔一基、
捐（ナシ）館観山宗音（カ）大禪定門
天文廿四年九月廿（ナシ）五日
敬白（没）、

○「　」内ハ「伊藤酉美調査記録」ニヨリ傍注ス。

一二　大友義統感状

○大友家文書録
大分県史料三三

去八、佐野（宇佐郡）切寄打崩之刻、自身別而依被碎手、家中之人等被疵着到、銘々加披見、以袖判申候、向

宇佐郡佐野切寄
打崩シノ手負着

到ニ袖判ヲ加ヘ忠貞ヲ賞ス

下毛郡万田切寄宇佐郡佐野切寄ノ粉骨ヲ賞ス

父鎮秀及ビ被官

後弥被申進、可預馳走支肝要候、必至統賢（一万田）一稜可賀申候、恐々謹言、

（天正十一年）十月十一日　義統（大友）在判

一萬田民部少輔（統賢）殿

三　大友義統感状

○大友家文書録　大分県史料三三

去月廿四、下毛郡之内、閒（万）田切寄打崩之刻、分捕高各（名）、殊前八、宇佐郡佐野切寄挫之砌、被疵粉骨之次第、旁以忠儀無比類候、必追而一段可賀之候、恐々謹言、

（天正十一年）十月十一日　義統（大友）在判

一万田市進殿

三重郷史料

一　大友義統跡目安堵状

○森迫文書　大分市新川西四ノ三森迫哲也蔵

於此度日州高城表、父大膳亮（鎮秀）幷被官三人戦死、忠儀無比類候、於忠賞者、必追而可賀之候、仍鎮秀

三人ノ戦死ノ忠ヲ賞シ跡目ヲ安堵ス

跡目之事、任相續之旨、領掌不可有相違候、恐々謹言、

（天正六年）十二月十一日　　（大友）義統（花押）

森迫龜王殿

○森迫氏ハ三重郷森迫名ヲ領セシ国人衆ナリ。

野津院史料

一　長小野磨崖不動明王像銘

○野津町誌編纂だより七　大野郡野津町大字秋山長小野区字コツブカ

□如件、

元弘三年（癸）□酉十二月十五日

願主　藤原久親

解説

一　所在と環境

第七巻には、豊後八郡のうち大野・直入両郡を充て、大野郡を(上)、直入郡を(下)とする計画であったが、史料の偏在により、大野郡の一部緒方荘は(下)に回さざるをえなかった。

この地域は豊後の南部を占め、戦国期にはこの両郡を「豊後南郡」(大野荘三五八号　野津院一四五号)と称した。九州の屋根に当る山嶽地域で、西北部は阿蘇国立公園に属する久住山(一七八六・九㍍)・三俣山(一七四四㍍)・大船山(一七八七㍍)等のくじゅう連山が連って肥後国及び豊後玖珠郡と境する。北は大分郡、北東から東部は海部郡に接し、南部は祖母山(一七五七㍍)を主峯とする祖母傾国定公園の山嶽地帯の峯をもって日向国の臼杵郡と境する。西は肥後国阿蘇郡と接し、すべて阿蘇火山の外輪山の裾野によって形成される草原地帯である。「大野」の地名もここから起り(大野荘一号)、この山嶽地帯に発する大小河川は当国最大の河川大野川となって北流し、竹田・緒方・三重・戸次等の谷底平野を形成して別府湾に注ぐ。

天長三年(八二六)の太政官符に、「豊後国大野・直入両郡、出騎獵之児、於兵為要」と述べているのは(二号)、この地域の特性を最もよく表現して妙を得ている。平安末期から抬頭する豊後武士団の代表的なものには、日田郡の大

蔵(のち日田氏と改称)氏、玖珠郡の豊後清原氏、国東・速見両郡の紀氏等[1]があり、これらに対し大野・直入・大分・海部四郡にかけて豊後大神(おおが)氏が君臨していた。地域的に見ても豊後大神氏の勢力圏は豊後国の半ばを占めており、その発祥地がこの大野・直入両郡であったことは、右の「太政官符」の記述と符合して興味が深い。この地域は、豊後における武士発生史上の関東・東国に匹敵する特性を備えていたといいうるのではなかろうか。源平合戦時代の緒方惟栄等の活躍が注目されるわけである。[2]

注

(1) 国東郡に紀氏が郡司として勢力を有していたことは周知のところであるが、その紀氏が速見郡の郡司職を帯していたことは、「志賀文書」建仁元年六月廿四日「日向守藤原朝臣請取状」に示されており(『熊本県史料』中世二所収)、「志手氏系図」(志手文書、『大分県史料』十一)によっても裏付けられる。

(2) 渡辺澄夫『源平の雄緒方惟栄』山口書店、一九九〇年三月。

二　律令体制から荘園公領制へ

律令制下では、大野郡は田口・大野・緒方・三重の四郷(大野荘四号)に分れていた。直入郡も四郷であるが(豊後国風土記)、「倭名類聚抄」は松納・三宅・直入の三郷のみを記し、松納も誤写であり、詳細は下巻に譲ることにする。

大野郡四郷は、弘安八年(一二八五)の「豊後国図田帳案」になると、三重郷・野津院・井田郷の二郷一院の国領と、大野・緒方の二荘となっている(大野荘四五号・四六号)。井田郷は田口郷の改称されたもの。三重郷から野津院が分化して共に国領として存続し、大野郷・緒方郷の両郷はそのまま荘園化し、大野荘・緒方荘に転化した。

以下本巻(上)では、収載した大野郡の荘公のみについて成立過程を略述する。

㈠三聖寺領大野荘　大野郷の荘園化したものであることは上記の通りで、現在の大野町・朝地町両町一帯に立地した。領家は京都の三聖寺という寺院である。同寺領化の時期は明瞭でないが、「三聖寺領文書惣目録」によると(一〇九号)、建久九年(一一九八)に大野荘の名が記されているのが初見である。これによると、その成立は同年ないしそれ以前であることがわかる。

当荘の成立について、研究の先鞭をつけたのは中野幡能氏である。氏によると、平安末期大分・大野・海部郡等に繁栄していた豊後大神一族は宇佐宮神官の大神氏庶流で、宇佐氏と大宮司職を競望して敗れ、十一世紀初め頃宮外に進出し、大野郡領として土着した大神惟基の後裔である。彼等は大野郡大野郷・緒方郷・三重郷・大分郡阿南郷・稙田郷等の郷司職を獲得して在地領主化し、八幡信仰と高千穂・姥嶽(祖母嶽)信仰とを融合した。彼等は律令制の衰退とともに、これらの諸郷を荘園化したが、大野郷は大野惟基の子基平から盛基・家基の三代の間に荘園化し、大野荘が成立したらしい。同荘内の志賀村に若宮八幡、上村に深山八幡、中村に上津八幡、下村に浅草八幡と、各村に八幡神が鎮座するのは、このためである、と。(1)

豊後大神氏を宇佐大神氏の後とする説については、最近有力な反対説が現れた。(2)大野郡領と考えられる大神惟基を、豊後介大神良臣の後裔とすると、良臣は「三輪高宮家系」では大神特牛(ことい)の後で、宇佐大神氏の祖比義(特牛の弟)の系とは明らかに異なる。(3)なお大野荘が京都三聖寺領となった理由についても、考察が残されている。

この三聖寺との関係を考察したのが、飯田久雄氏である。(4)氏によると、三聖寺は京都東福寺の北門の内にあり、建長年中(一二四九～五六)十地上人覚空禅師が開いた臨済宗寺院である。しかし『山城名勝志』には「元ト天台宗」

とあり、建長以前から天台宗寺院として存在したらしい。その三聖寺に、緒方惟栄・臼杵惟隆らの没落により深刻な打撃を受けた大野氏らの豊後大神一族が、知行国主藤原頼輔を通して大野荘を寄進したものと思われる。頼輔の叔父には山門に入って座主となった仁源・行玄両大僧正が居り、その兄弟にも教仁・明源らの山僧がいる。[5] これらの一門山僧の手を通して、山門末寺の三聖寺に寄進された。その時期は緒方惟栄が上州に配流された文治二年（一一八六）から、大野泰基の没落の建久七年（一一九六）までの間ではなかろうか、というのである。

知行国主を介しての寄進とすれば、藤原頼輔は文治二年（一一八六）四月五日に死去しており、子頼経は頼朝の奏請で文治元年十二月二十七日には解官が宣下され、翌年正月七日には安房国に配流されている。[6] とすれば、文治二年から建久七年までの間に特定する条件が失われることになる。

知行国主の媒介が正しいとすれば、頼輔が豊後国守となった永暦元年（一一六〇）を上限としうるが、尚つきつめれば、頼輔父子と緒方惟栄の連携の成る養和元年（一一八一）ごろから文治元年（一一八五）までの間の方が、より可能性があるのではなかろうか。頼輔の弥勒寺領浦部十五カ所横妨に見る反宇佐的動向からすれば、[7] 宇佐宮寺を避けて故意に天台寺院に寄進する条件は、当時十分に整っていたと考えられるからである。

注

（1） 中野幡能「大友氏入国以前の大野荘と大神氏」（『大分県地方史』三八―四〇合併号、昭和四十年十二月）。同氏著『八幡信仰史の研究』（吉川弘文館・昭和四十二年二月）にも詳論。

（2） 松岡実「豊後大神氏の出自について―中野幡能氏『宇佐大神氏進出説』批判―」（『大分県地方史』七九、昭和五十年十月）。

（3） 「三輪高宮家系」によると、次の如くなる。

名床―身狭―特牛―逆―忍人―磐弓―（五代略）―全雄
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　良臣―庶幾　寛平年中補大野郡領、号入田大夫・又塩田大夫、是豊後大神朝臣之祖也、
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　宇佐宮禰宜
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　宇佐神宮禰宜
　　　　　　比義―波知―竹葉古―路麿―諸上―調足

（4）『尊卑分脈』第一篇（『新訂増補国史大系』五八）二一九～二六頁。
（5）同右頼輔条。
（6）『吾妻鏡』文治元年十二月三十日・同二年正月七日条。
（7）「益永家記録」文治二年四月十三日「後白河院庁下文案」（『鎌倉遺文』八五号）。

(二)国領三重郷　弘安八年（一二八五）の「豊後国大田文案」には、

国領
三重郷百捌拾町
　地頭　新(田カ)　陸奥守殿

の如く「國領」と明記されている（一四号）。「図田帳案」にはこれを欠くが（一五号）、領家の記載がなく、次述の如き国衙役勤仕の事実からすれば、筆写の際の脱落であろう。

由原宮は国司奉斎の神社であり、その祭礼・遷宮等は国衙が免田を寄せて施行するのを例とした(1)。しかしのち宝殿造替には賀来荘が宛てられ(2)、天福元年（一二三三）には国領阿南郷と平丸名が六箇年一度の大神宝・国司初拝神宝料所として与えられ、阿南郷は阿南荘となった(3)。但しこれらの料所では経費は不足し、其の他祭礼・諸法会等もすべて国衙が沙汰した。その課役を負担するのが国領（国衙領・公領）であり、これを「国衙沙汰郷々役」とよんでいる（二一号）。平安末期に「荘園公領制」が固定すると、結局「国衙沙汰郷々」もその枠が自ら決定することになる。

この一宮に対する「国衙郷々役」勤仕の伝統は、鎌倉期に固定化し、南北朝期から室町期を通して戦国期まで継続するのである(八五号)。

さて以上の一宮由原宮に対する「国衙郷々役」勤仕の原則を逆にすれば、「国衙郷々役」勤仕の郷々は、即ち国衙領であるという公式が成り立つことになる。そこで「賀来社年中行事次第」をみると(二一号)、五月の五月会の舗設は、賀来荘等の同宮領の分担勤仕は当然として、「諸郷役国衙沙汰」が基本となっている。その中でも三重郷は「在庁神官饗膳」を勤める外、

流鏑馬六騎　一番三重郷　二番佐賀郷　三番阿南庄
　四番大佐井小佐井　五番直入郷　六番国東郷

の通り、流鏑馬六騎の第一番を奉仕する慣例となっている。右のうち、阿南荘のみが荘園であるが、同荘は天福元年(一二三三)に大神宝料所として宛てられたもので(既述)、それまでは国衙領であり、おそらく国衙領時代の伝統を継承したものであろう。まして同荘が由原宮領となったものである以上、同宮役勤仕は当然のこととされたはずである。この阿南荘以外はすべて国衙領で、原則として国衙領が「国衙郷々役」を勤仕したことを示している。こうした慣例は文亀元年(一五〇一)の記録にも見えるのである(八五号)。建武元年(一三三四)三月、豊後国司左大弁三位家(菅原在登)が、国宣を発して前年の後醍醐天皇の綸旨を施行し、内山蓮城寺處英の奏請する同寺免田を安堵しているのも(二四号)、当郷の国衙領たることを裏付ける。三重郷が中世を通して国衙領であったことは、疑う余地がない。

三重郷の国衙領としての定型化は、「荘園公領制」成立の平安末期と思われる。三重郷から分離する野津院も国衙領で、同院がすでに文治年間(一一八五～九〇)の「宇佐宮仮殿地判指図」に見え(大野荘五号)、一国平均役を勤仕して

いる事実がこれを裏づける（後述）。

三重郷が国衙領として存続するのは、同郷に三重駅・小野駅の二駅が置かれた事実からも推測される通り（三号）、この地域が交通の要衝であり、大野郡衙の所在地の可能性が考えられる[4]。おそらくそうしたことが、国衙領として国衙支配下に存置される所以であろう。

平安末期に野津院が分離独立したが、室町時代末期には、南部の宇目村が大名領国内の行政単位として独立する。この日向境の広大な山間盆地は、小野駅設置以来日向通いの交通の要衝であるだけに、戦国期に入るに従い政治的・軍事的意義がますます重大となった。大友氏の家臣団配置にも、特別な配慮がなされており（一五七～八・一六〇号）、こうしたことが独立の要因であろう。明治初年小野市村・重岡村の二村となり、明治二十二年（一八八九）一月南海部郡に編入され、宇目村からのち宇目町となって今日に至っている。

注

（1）「柞原八幡宮文書」一～三〇号（『大分県史料』九）参照。

（2）同上正応二年三月日「大宮司経妙申状案」。

（3）同上三二・三三号文書。

（4）一般的に郡名を採る郷が郡衙の所在地である場合が多いが、その事実から推測すれば、大野郷がこれに比定されるが、はじめ郡衙は大野郷に在り、のち三重郷に移されたことも考えうる。

㈢国領野津院　弘安八年（一二八五）の「豊後国大田文案」及び「図田帳案」ともに「国領」と見える。もともと三重郷管内で、それから独立したものであることは、前項で述べた。

野津院の独立事情やその時期等は未詳であるが、この地が「院」を称する点から見ると、広大な山嶽地帯を有す

る三重郷東部に、「村邑遙阻絶隔」を理由として租及び庸調物を納める院倉が置かれていたことが原因ではあるまいか。[1] それが十一世紀中頃以後、別名として開発され、国司に対する直納の地として本郷三重郷と並立する行政単位となったものと推定される。既述の通り、文治年間の「宇佐宮仮殿地判指図」に(大野荘五号)、独立の行政単位として当院が一国平均役を勤仕している以上、その独立が鎌倉時代初頭以前であることは疑う余地がない。

野津院の国衙領としての機能を示す史料が、「柞原八幡宮文書」に比較的乏しいのは、「国衙郷々役」として一括記載されているからであろう。但し、文亀元年(一五〇一)の「還宮等次第記」には、同宮警固流鏑馬に野津院が、

一　埒之事

一佐賀郷　一大佐井

一井田郷　一野津院

一遣(毛)井村

の如く、他の四国衙領とともに埒役を奉仕している(三重郷八五号)。国衙領の伝統は、なお生き続けていたものと思われる。

注

(1)『類聚三代格』正倉官舎妻、延暦十四年九月十七日太政官符(『新訂増補国史大系』二十五所収)に見える院倉が置かれていたのではないか、と推測する。

㈣国領井田郷　「倭名抄」田口郷の改称したものであることは既述。文治年中の「宇佐宮仮殿地判指図」に、仮殿造宮の一国平均役を勤仕しているのが郷名の初見である。弘安の「大田文案」「図田帳案」ともに、国領野津院

の次行に「井田郷八拾町五段」を記すが、両帳ともに「国領」の字を冠していない。しかし帳の記載形式や、(1)郷名を称して荘名を用いない事、領家の記載のない点等からみて、「国領」と解して誤りないものと考える。

これを裏付ける史料が「賀来社年中行事次第」等に見えないのは、「国衙沙汰郷々役」として一括記載されたこと、野津院の場合と同一事情が原因であろう。しかも既述文亀元年（一五〇一）の「遷宮次第記」に、井田郷が他の国衙領と共に流鏑馬埒役を勤仕している事実が、国衙領の有力な傍証となることも野津院と規を一にする。当郷の国領化の条件・背景等については、豊後国衙領の分布が海上及び河川交通と密接な関連を有するらしいことを想起すれば、(2)あるいは大野川下流域の河川交通と関連するかと推測するが、尚今後の裏付けが必要である。

江戸時代には岡藩主中川久清は、参勤交替路の大野川船着場を井田村の犬飼に定め、(3)往路は岡から陸路を取ってここで上船し、河口の三佐(4)まで下って内海船に乗り替えた。帰路はその逆をたどる。そのため犬飼には藩の蔵所や犬飼役所・御茶屋等が設けられ、町人が徐々に集住して商家・倉庫等が立ち並び、かつての河岸の竹林は変じて賑かな町となった。(5)この犬飼の船付が出来る以前は、やや上流の田原村鶴ノ瀬（大字田原字津留）にあった事実からすれば、大野川下流の河川交通の歴史の古さが想像されるであろう。

注

（1）「大田文案」「図田帳案」ともに、各郡末に「国領」を一括して記載している。大野郡の場合に限って、緒方荘を郡末に記しているが、これは例外中の例外である。

（2）渡辺澄夫「豊後国衙領と大友氏」（『増訂豊後大友氏の研究』所収、第一法規出版株式会社、昭和五十七年十一月）。

（3）「中川秀成知行方目録」（一二八号）では井田村参千弐百弐拾五石余は岡領である。

（4）岡藩の船付は最初は府内の沖ノ浜にあったが、慶長元年（一五九六）の地震で沖ノ浜が海没したため、同年十一月萩原今

津留村に替地を与えられた。しかし松平忠直（一伯）流謫のため召上げられ、元和九年（一六二三）廃止となる。代って乙津村が替地とされたが、府内藩竹中氏領であったため再転して三佐海原に決定された（『犬飼町誌』六二頁、犬飼町誌刊行会、昭和五十三年三月）。

（5）犬飼町が出来たのは、明暦二年（一六五六）という（『犬飼町誌』六一～四頁）。

三　地頭領主制の展開

㈠大野荘と地頭大友一族　大野荘三百町は志賀村（七十三町）・上村（五十一町）・中村（七十六町）・下村（百町）の四村に分れていた（四五・四六号）。領家三聖寺は本寺から寺僧を預所として派遣して支配していたらしいが（六五・七二号）、鎌倉時代末期には預所代も見えるので（六九号）、正員が常に下向していたかは疑問である。預所の下には、公文・田所・散仕等が置かれ（二一・六九・七五号）、雑掌・定使等の訴訟・連絡機関も定められていた（二一・七四・七七号）。

以上領家側支配系列の荘官に対し、荘官と関東御家人の身分を共有する地頭がいる。大友一族入部以前は、豊後大神一族の大野泰基が荘官として補任されていたらしいが、彼は義経与同者として鎌倉勢に滅ぼされた（八・九号）。その没官領を賜わったのが中原親能で[1]、彼はその地頭職を関東下文とともに養子大友能直に譲り、能直は貞応二年（一二二三）妻深妙に譲与した（一五号）。中原親能の鎮西奉行職は建久六年（一一九五）ごろから建永元（一二〇六）ごろまでと考えられるので[2]、大野泰基の討伐はこの間ということになる。

さて深妙は十七年間知行の後、延応二年（一二四〇）これを七人の子女に分譲した（一九～二一号、次表参照）。大野荘四カ村の

うち志賀村は次男詫磨能秀と八郎志賀能郷に半分宛、上村は一萬田景直と女子美濃局に半分宛、中村は女子犬御前と三男帯刀時直の後家（保多田名）、下村は九郎入道明真（能基）に譲った。「均分之状」とあるが、志賀村と上村は完

大野荘四村地頭職の相伝関係　〇（　）内は「豊後国大田文案」（四五号）

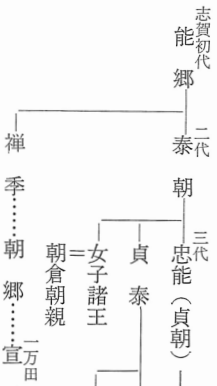
	地頭職			
大野荘四村	延応二年（一二四〇）	（面積）	弘安八年（一二八五）「豊後国図田帳」	
志賀村 半分（北）	詫磨能秀	丁三六、五、反歩	詫磨能秀・時秀・資秀・泰長配分、	
志賀村 半分（南）	志賀能郷	三三、一、一二〇 三、三、	志賀泰朝嫡子貞朝 近地禅季	
上村 半分	一萬田景直	二五、五、	一萬田景直跡同孫鶴丸	
上村 半分	女子美濃局	二五、五	横尾尼跡御所女房按察御局	
中村 保多田名	女子犬御前 帯刀時直後家	七六、	戸次（太）三郎重頼	
下村	九郎入道明真（能基）	六九、九、一二〇、 二二、一、三〇〇、 五、六、 三、二、一、	大野基直跡同女子（改藤原） 大野基直女子（藤原氏） 同氏女（妹）善広衡妻（今死去）子息鶴丸 輔阿闍梨良慶	

全な折半であるが、他二村は必ずしもそうでなく、志賀村と上村も面積が異なっており、すべてが必ずしも「均分」になっていないのはどうしたことか、疑問である。ただ下村を明真房一人に与えたのは、同村内に能直の墓堂、泊寺に妻深妙の逆修墓があり、明真房を泊寺に入れて僧とし、二親の現当二世の菩提を弔わせた事情によるらしい(一九・三一号)。なお大友惣領親秀には大友氏の出身地相模国大友郷地頭郷司職を与え、大野荘に対しても関東公事支配権を行使する惣領制に則っていることが注目される。

以上譲得諸子分の相伝関係についてみると、女子分については、まだ一期分規定は成立していないらしい。男子分では、志賀・詫磨・一万田氏は後まで相伝されるが、所領内容や相伝関係の判明するのは志賀氏分のみであり、以下志賀村南方を中心として略述する。

志賀能郷の譲得した志賀村南方は大方名・泉名・近地名・朝倉名の四名と用作田二町五段及び上家分在家田畠等から成り、総田数三十町五段で、他に薗畠七町八段があった(二一号)。能郷(母深妙が代行)は弘長二年(一二六二)太郎泰朝を惣領として所領を譲り、翌年庶子禅季には近地名と筑紫尾寺(付田畠)を分譲した(三八・三一号)。ただし関東御公事大番役は惣領泰朝の配分に従うことはもちろん、禅季一期の後は惣領の子を弟子又は養子として譲り、別人に譲ることを禁じている(二七号)。分割相続による家領分散を防止する「惣領制」であるが、禅季は異国防禦の重事は守護大友氏の直接指揮下に入り、惣領泰朝に従うことを拒否して相論となった(三九・四〇号)。なお又禅季は戸次太郎の子を養子とする「他人和与」を企て、惣領泰朝と裁判沙汰となったが(四〇号)、朝郷(泰朝の子か)が跡を嗣いでいるのをみると、当然ながら泰朝の勝訴になったらしい。ところが朝郷がまた一万田宣顕の子又鶴丸(宣元)を嗣としたため、貞朝(泰朝の子忠能)と相論となったが、貞朝は惣領権を認めさせて和与している(七九号)。この様に近地名は「他人和与」

志賀氏所領相伝系図



により一万田氏に移り、宣元の次の重利の時に直入郡白丹名の南山城に移転し、「南志賀氏」となって惣領家から自立した（惣領家を「北志賀氏」という）。

志賀惣領家は二代泰朝が子貞朝（のち忠能と改称）を惣領として所領を譲り、庶子貞泰・女子諸王にも分譲したが、貞泰はこれを嫡子熊毗畔丸に譲与して探題の安堵を請うた（八三〜九一・一〇〇〜二号）。これに対して貞朝は貞泰所領には地領職の号がなく、各別の安堵を申請する（別旗を立てる）権利がないと反論して相論となった（号九〇）。女子諸王と朝倉朝親との寄合知行を条件として譲与された朝倉名も、両者が離婚して朝親が知行していたため、貞朝が訴えて辛うじて取り戻した（六二・七二号）。

家領の分散を防止するための惣領制も、庶家の独立によって危機に瀕し、しかも領家との検注相論に端を発して正応五年（一二九二年）下地中分を命じられ（号五一）、志賀惣領家の経済的困窮は倍加した（号五七）。

志賀氏が分割相続を中止して、嫡子単独相続にふみ切ったのは、四代頼房が貞和四年（一三四八）嫡子一法師丸（氏房）に譲与した時からで、すべての所領は嫡子に譲り、「自余男子女子」は一法師丸が相計らい扶持すべしと命

じている（一五九号）。

志賀氏の居館は当初は大字上尾塚字瀬子付近にあったらしいが、正和の分直中分によって東方地頭分の志賀城に移転したことは確かである。しかしこの地は周囲の山稜から俯看される小丘で、要害の条件を欠き、南北朝期の菊池氏の進攻を阻止し得ず、志賀氏は一万田氏の鳥屋城に籠って防戦せざるをえない実情であった（一七五号）。志賀村における志賀氏の在地領主制は鎌倉～南北朝期を通じて、不利な地理的条件の上に、分割相続制と下地中分等が重って、破綻に瀕していたのである。

応安二年（一三六九）志賀氏房は大友惣領家から、守護領である直入郡直入郷の代官職と検断職の両職を預けられ、間もなく同郷騎群城に入り、のち岡城に館を移したらしい（一三七号）。南北争乱の軍忠によって所領は拡大しつつあったが、これから志賀氏の発展は目ざましく、戦国期大友宗麟の時代には豊後第二の大領主となり(3)、加判衆として権勢を誇るようになった。天正十四・五年（一五八六～七）の島津軍侵入の際には、両志賀氏をはじめ「南郡衆」は多く敵軍に内応したが、志賀惣領親善は岡城を死守するのみならず、出撃して各所に薩軍を悩まし、秀吉から激賞された（三六〇・三六三～四・三七四号）。南志賀氏は戦後大友吉統に滅ぼされるが、志賀親善はのち安芸福島正則に仕え、その滅亡により備前の小早川秀詮麾下に入り、子孫が肥後細川氏に仕えて幕末に至った（三七七～八・三七九号）。

注

（1）貞応二年の「能直譲状案」（一五号）に、大野荘と大友郷地頭職を「親父掃部頭入道譲状」等を副えて妻深妙に譲っている。もともと中原親能の所領であったことが判る。

（2）渡辺「豊後大友氏の下向土着と嫡子単独相続制の問題」（『大分県地方史』二五、昭和三十六年十月）に詳論。

（3）「一五八二年日本年報」「一五八三年日本年報」（『大分県史料』一五、二二七・二三一頁）。

(二)三重郷の地頭と在地領主　当郷の地頭は「弘安図田帳案」に見える「新田陸奥守」が初見で(一四・一五号)、それ以前のことは全く所見がない。この新田陸奥守を新田基氏に比定する旧説は誤りで、秋田泰盛であることは別に論証した通りであるが(1)、有力関東御家人が当郷の地頭職に補任されていた事実は否定すべくもない。「図田帳」によって豊後国衙領を通観した場合、有力関東御家人及び守護大友氏に地頭職が集中している事実についても別に論じたが、筆者はその源流を源頼朝の関東御分国に遡及して考察すべきではないかと考えた(2)。当郷地頭が幕初から秋田氏の所帯であったかどうかは知る由もないが、「図田帳案」の秋田泰盛のそれは、義経与同の国人衆を討伐して関東御家人に恩給した地頭職の跡職であろうと推定する。

鎌倉時代における当郷の在地領主は、この地頭職の他は、ほとんど所見がない。史料の欠如が原因か、それとも別に原因があるのであろうか。当郷史料を通覧する時、百九十四項中の八十二項は金石文で、全体の二十四パーセント強という異状な金石文(供養碑等)の集中的存在が注目を引く。あるいは義経与同者の徹底的掃討や次述の霜月騒動等と関連があるのではないかとも考えてみたが、これは憶測の範囲を出ない様である。

さて右の秋田泰盛は弘安八年(一二八五)十一月の霜月騒動で族滅せられ、当郷地頭職は当然没官せられたはずである。しかし没官領を与えられた給主は未詳である。元徳元年(一三二九)前執権北条基時(沙弥信忍)が、当郷内山蓮城寺を禅心上人に寄進しているのをみると(二〇号)、彼が当郷地頭職を帯していたとも考えうる。南北朝期、大友氏時の守護領中に当郷が見えるのは(大野荘一七六号)、北条氏の欠所領が大友氏に恩給されたものであろうか。

室町時代後半期に入って、ようやく当土の在地領主奥嶽・浅(麻)生・深田・森迫・衛藤・沓懸氏(本領は井田郷か)等の名が史料上に現われる。森迫氏は下村森迫名を本領とする在地領主で(一八三号)、三重郷両政所の一方らしい(八〇号)。

天正六年（一五七八）の日向出兵に、森迫鑑富が戦死した（補遺一号・一五〇・一五四）。彼を含めて「戦死三代也」とあるのをみると（一五〇号）、大友氏の家臣として相当の活躍をしたことが推測されるが、回春庵墓地と大辻山上に墓標を残すのみで、研究は今後に残されている。浅生氏とあるのは、天正十四・五年（一五八六～七）に薩軍に内応した麻生紹和と同族であろうか。

南部の宇目村が軍事的見地から戦国期に行政単位として独立することはすでに述べたが、同村には深田氏・渡辺氏等の山紳が居り、大友氏の国境の守りを分担した（補遺二・三号）。当郷にも政所が置かれていたが（一〇六～七号）、恐らく両氏の中から任命されていたであろう。対島津戦で当村の戦略上の重要性から、大友氏は岡城の志賀道輝（親守）を朝日岳城に派したが逃げ帰り、孫親善が馳せ付けて守備するという衝撃的事件が起った（一五七～八号）。島津軍の侵入・退却の常道として、数度の戦闘を経験したのも、日向道の要路としての地域性の必然であった。

注

（1）渡辺「国領大野郡三重郷地頭「新田陸奥守殿」について―「豊後国図田帳考証」の考証―（『増訂豊後大友氏の研究』所収、第一法規出版株式会社、昭和五十七年十二月）。

（2）渡辺「豊後国海部郡毛井社地頭職について」（『大分県地方史』一四二号、平成三年六月）。

(三)野津院と野津氏一族　「大友系図」によると(1)、次の通り、

頼宗號野津五郎、法名阿一、始親直、母小河左衛門督女、庶子吉岡、波津久、戸上、椎原、荒瀬、久土知、岩屋、佐土原、笠良木、御久里、長小野、小河内、次第不同、

大友二代親秀の五子に頼宗が居り、野津五郎と称した、とある。「弘安図田帳案」にも、当院六十町は「地頭職野津五郎頼宗法名阿一」と見え、野津氏初代頼宗がなお当院地頭職を帯していたことを知りうる。これまで野津氏の初代

頼宗以後の系譜や事蹟は全く不明であったが、数年前発表された「野津本大友系図」と付帯の「吉岡（野津）文書」によって[2]、僅かながらも判明するに至ったことは幸である。

この「系図」によると、初代頼宗以下の系譜は次の通りである。

（大友）親秀――頼宗（野津五郎入道阿一）――頼直（太郎入道々一）――廣能（孫太郎）
- 時直（孫二郎）
- 頼郷
- 孫五郎
- 丹後房
- 順勝房

二代が頼直で入道道一、三代が廣能で通称孫太郎という。こうした家系の示されたのは、これがはじめである。時直は孫二郎とあるので、孫太郎廣能の弟で、なお五人の弟がいたことになる。「系図」に記されたのは以上三代までであるが、付属の「吉岡文書」によると、建武四年（一三三七）に大炊助太郎親久なる者が、探題一色範氏の軍勢催促を受けて菊池武重以下の南軍と戦い（一三号）、稙田荘領家職内田地を恩給され（一四号）、更に翌年には南都合戦以下に発向した軍忠状を出し、一見状を請うている（一六号）。貞治三年（一三六四）兵庫助に補任する口宣案を賜わった藤原貞冬は、その子ないし孫に当るであろう（一八号）。しかしこれ以後の野津氏の動向は、史料欠如のためしばらく中絶する。

野津氏はのち吉岡と改姓し、大友親治時代から宗麟時代にかけて、中には大友氏被官として従軍戦死をとげ

(四二)、また宗麟から元亀元年(一五七〇)頃、吉岡中務少輔が豊筑間に三十町の知行を預けられている(一〇六号)。その前後の、『大友家文書録』所収の豊筑間に十五町を預けられた吉岡三郎統直は、同族であろう(一〇七号)。

室町期から戦国期にかけて大友氏の被官として現われる在地領主に、吉岡・佐土原・波津久・戸上・広田・板井・御久里・柴田・久土地・荒瀬等の名が見える。吉岡氏が野津氏の一族であることは既述の通りであるが、既掲の「大友系図」には、波津久・戸上・椎原・荒瀬・久土知・岩屋・佐土原・笠良木・御久里等は野津氏の庶家と記されている。野津氏一族の土着発展したものと思われるが、中には姻族関係から野津氏の庶家と称せられるに至ったものもいるであろう。秀吉の朝鮮出兵に着到した「野津院衆」は十七名であるが(一〇号)、同姓を除けば木付・堀・波津久・亀山・御久里・佐土原・広田・戸上・生野の九氏となる。

同院内には、佐賀郷の若林氏(一四八・一五一号)、井田郷の沓懸氏も所領を預けられていた(四五・八一・八五号)。江戸時代には、当院は臼杵稲葉氏の所領となり、幕末に至った(一六一・一六五号)。

注

(1) 「大友田原系図」(『大分県史料』九所収「入江文書」)。

(2) 田中稔「史料紹介野津本『北条系図、大友系図』」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第五集、昭和六十年三月)。

㈣井田郷と北条氏　豊後国衙領地頭に関東御家人の多いことを指摘したが(1)、当郷もその典型的な例である。「弘安図田帳案」によると、「井田郷八拾丁五段　地頭職相模三郎入道殿女子」と記されている(六・七号)。これについて後藤碩田は、

按大系図、相模三郎殿ハ時輔なるべし。

と述べている。[2] 北条時輔は相模守北条時頼の長子、執権時宗(相模太郎)の兄であるが、文永元年(一二六四)六波羅探題(南方)として上洛、執権時宗と不和になり、同九年二月十五日殺された。享年二十五歳。[3]「相模三郎」と称せられたが、入道してはいなかったので、「相模三郎入道」と称せられず、彼には比定の条件が欠けることになる。

『吾妻鏡』等によると、「相模三郎入道」と称せられた人物は、北条時房の三子資時(輔時)以外にはない。[4] 彼は建長三年(一二五一)五月五日、五十三歳で卒した。[5] 法名真昭。その出家は承久二年(一二二〇)正月十四日で、二十二歳の時である。兄の次郎時村と共に俄に出家し、時人は「楚忽之儀」として之を怪しんだ、とある。[6] 系図不備のため彼に女子がいたか否かは確認しえないが、[7]「弘安図田帳案」の当郷地頭職はこの時資の跡職を嗣ぐ女子であろう。「大友系図」や「大友田原系図」等に、大友親秀の四女が「相模三郎入道室」とあるのは、この時資の妻と思われる。当国内に地頭職を有する北条一門に、守護大友氏が接近しようとした結果であろう。

建武元年(一三三四)二月、後醍醐天皇は勲功の賞として、薩摩市来院名主職とともに井田郷地頭職(菊王丸跡)を、島津道鑒(貞久)に恩給した(九〇号・一)。ここに菊王丸跡をあるのは、北条氏滅亡とともに井田郷地頭職を没官された時資の後裔ではなかろうか。井田郷がどうして島津氏の恩賞地とされたかは未詳であるが、北条一門の没官領である国衙領は、新政府にとっては直轄領としての性格を有したと思われ、そのため比較的自由に恩給の対象とされたのではあるまいか。同じく国衙領である大佐井郷が、天皇によって阿蘇大宮司(惟直)に恩給されていることも参考になろう。[8]

しかし島津氏の当知行が実現したかは疑問で、戸次頼時・恵良惟澄等の濫妨が続き、下地打渡しは困難であった(一六〜一八・三三・四六号)。のちには大佐井郷ともに阿蘇惟村に恩給されている(三六号)。

室町時代になると、次第に守護大名大友氏が知行し、朝宇（麻生か）・平井・厚・沓懸・五条・志賀・岡部・若林氏等の家臣に預けている。朝鮮出兵に着到した「井田郷衆」は四人であるが、内訳は小野氏一人、沓懸氏三人となっている（一二五号）。

同郷内柴北の大聖寺には、大友十三代親綱の墓標宝篋印塔がある（六一号）。親綱の諡号は「大聖寺殿前左京兆燿山光君公菴主」と称するが、同寺はすでに南北朝期より存在したので（四一号）、彼の草創ではなく、おそらく再興者であろう。親綱と当郷・当寺等との関係は未詳で、今後の課題として残される。

注

（1）渡辺「豊後国海部郡毛井社地頭職について」（『大分県地方史』一四二号）。
（2）「豊後国図田帳考証」（『大分県史料』三六）。
（3）『尊卑分脈』第四篇（『新訂増補国史大系』六〇下）。「北条九代記」（『続群書類従』二九上）。
（4）『吾妻鏡人名索引』一八二頁（吉川弘文館、昭和四十六年三月）。
（5）『吾妻鏡』建長三年五月五日条。
（6）同上、承久二年正月十四日条。
（7）「北条系図」（『続群書類従』六上）には、

時房―資時―真照（マヽ）
　　　　　―三郎、歌人、法名
　　　　　―時廣越前守、歌人、
　　　　　―時成

とある。「野津本『北条系図』では、資時の子は「時成相模三郎太郎」のみである。
（8）元弘三年十月三日「後醍醐天皇綸旨」（『大日本古文書』所収『阿蘇家文書』上）。

四参考文献

(一)郡市町村史誌等

(1)古沢丈平編　『大分県大野郡々史』　日豊時報社　大正十四年十月
(2)朝地町史編集委員会編　『朝地町史』　同会発行　昭和四十二年十二月
(3)大野町編　『大分県大野町史』　同町発行　昭和五十五年十二月
(4)土生よねさく著　『三重小史』　三重史談会発行　昭和四十一年四月
(5)三重町編　『三重町誌』沿革編　同町発行　昭和四十一年十一月
(6)三重町役場企画商工観光課編　『大分県三重町誌総集編』　同上観光課発行　昭和六十二年十一月
(7)宇目町誌編纂委員会編　『宇目町誌』　同町発行　平成三年十一月
(8)野津町編　『野津町誌』　同町発行　昭和四十年一月
(9)千歳村誌刊行会編　『千歳村誌』　同村長発行　昭和四十九年九月
(10)犬飼町誌刊行会編　『犬飼町誌』　同町長発行　昭和五十三年二月

(二)荘園・公領関係

(1)牧健二著　『日本封建制度成立史』第五章第三・四節　弘文堂書店　昭和十年十月
(2)渡辺澄夫編　『豊後国大野荘史料』(『九州荘園史料叢書』一、孔版)　竹内理三発行　昭和三十七年十月
(3)九州荘園綜合研究会編　『豊後国大野荘の研究』　大分県地方史研究会発行　昭和四十年十二月
(4)工藤敬一著　「「上家分」在家・田畠考」(『九州荘園の研究』第三章第二)　塙書房　昭和四十四年六月

(5)三代亀編　『緒方荘中世文書』（孔版）　同氏発向　昭和四十六年十一月
(6)渡辺澄夫編　『豊後国大野荘史料』（『荘園史料叢書』）　吉川弘文館発行　昭和五十四年九月

(三)神社・寺院誌

(1)伊東東写　『深山八幡宮文書』（東大史料編纂所影写本）　大正十五年十一月
(2)波多野政男編　『大野郡神社大鑑』　同人発行　昭和二年一月
(3)河野清実著　『郷社浅草八幡社御由緒』　同社発行　昭和四年八月
(4)高原三郎著　『大分の神々』　私家版　昭和四十九年二月
(5)原清節編　『普現寺略史』　普現寺発行　昭和十六年十月
(6)伊東東著　『内山観音雑考』（『三重町史資料』第二集）　三重郷土史談会発行　昭和三十四年三月
(7)南豊了仁寺史編纂委員会編　『南豊了仁寺史』　菊池英弘発行　昭和五十七年一月

(四)人物・系譜

(1)椎原親亮著　「椎原氏系写」　和本　昭和十八年春
(伊東東写)
(2)久多羅木儀一郎著　『一萬田由緒考』　上田保刊　昭和二十五年三月
(3)中野幡能　「大友氏入国以前の大野荘と大神氏」（『大分県地方史』三八～四〇合併）　大分県地方史研究会発行　昭和四十年十二月
(4)松岡　実　「豊後大神氏の出自について」（『大分県地方史』七九）　大分県地方史研究会発行　昭和五十年十月

(五)文化財・美術・金石文

(1)大分県教育庁文化課編　『大分県文化財一覧』　大分県教育委員会発行　平成二年三月
(2)大分県教育庁文化課編　『大分県の文化財』　大分県教育委員会発行　平成三年三月
(3)神角寺編　重要文化財『神角寺本堂修理工事報告書』　同寺発行　昭和三十八年十月

(4)三重町教育委員会編　『三重町の文化財』　同会発行　昭和五十六年十月
(5)野津町教育委員会編　『わが町の文化財』　同会発行　昭和五十四年三月
(6)望月友善著　『大分の石造美術』　木耳社発行　昭和五十年九月
(7)日名子太郎編　『大分県金石年表』　日名子泰蔵発行　昭和十五年七月
(8)大野町教育委員会編　『大野町金石年表』　同会発行　別府大学史学研究会発行　昭和四十二年一月
(9)白井昭一編　『大分県金石年表』（『史学論叢』二）

(六)その他

(1)大分大学教育学部編　『大野川　自然・社会・教育』　同学部発行　一九七七年三月

あとがき

「今年こそは刊行の後れを取り戻したいと」と、毎巻繰り返したことを、重ねて記さねばならない現実を告白しなければなりません。それは不可抗力というべき、印刷業界の大勢であります。御承知のような活字組版職人の払底・組版費の高騰等、活字印刷の危機の実態を聞くと、遅滞ながら出版の継続されていることをこそ、感謝すべきかも知れません。

しかし編者も八十の坂を越えてみますと、いささか焦燥を感ぜずには居られないのも事実です。第七巻（下）＝直入郡はすでに入稿済み、残るは第八巻（玖珠・日田両郡）のみですが、（上）＝玖珠郡はほぼ脱稿、（下）＝日田郡と補遺は鋭意編集中です。以上三冊で完結することになり、ようやくゴールも近づいた感じです。

せいぜい息切れしない様に自重し、完結まで頑張る決意に変りはありません。購読者諸賢の御寛宥と御支援を、引き続きお願いする次第であります。

平成四年六月二十四日

編　者

別府大学史料叢書第一期

豊後国荘園公領史料集成

渡辺澄夫編

◇一　（国埼郡一）田染荘・田原別符
◇二　（国埼郡二）来縄郷・小野荘・草地荘・都甲荘・真玉荘・臼野荘・香々地荘
◇三　（国埼郡三）国東郷・竹田津荘・伊美荘・岐部荘・姫島・武蔵郷
◇四上（国埼郡四）安岐郷・（速見郡一）八坂荘・山香郷
◇四下（速見郡二）日出荘・大神藤原荘・朝見郷・石垣荘・竈門荘・由布院
◇五上（大分郡一）荏隈郷・勝津留・笠和郷・賀来荘・阿南荘
◇五下（大分郡二）稙田荘・津守荘・判田郷・戸次荘・丹生津留畠地・高田荘
（海部郡一）毛井村・大佐井郷・小佐井郷
◇六　（海部郡二）佐賀郷・丹生荘・臼杵荘・佐伯荘・柴山村
◇七上（大野郡一）大野荘・三重郷・野津院・井田郷
◆七下（大野郡二）緒方荘（直入郡一）直入郷・入田荘・朽網郷　―以下続刊―
◆八上（玖珠郡一）玖珠荘・山田郷・古後郷・帆足郷・飯田郷
◆八下（日田郡一）日田荘・宇佐宮領常見名田五ケ所・大肥荘・津江山、補遺

別府大学附属図書館発行
〒八七四―〇一　大分県別府市北石垣八二
電話〇九七七―六七―〇一〇一（代）　内線二三二
ＦＡＸ〇九七七―六七―〇二一〇
現金書留か銀行振込にてお申し込みください。
Ａ５判　上製　函入　各巻六五〇ページ前後　（付）原色図版・大字小字表・地形図
頒価　第一巻一万二千円、二巻以下各一万八千円（税込　送料当方負担）

編者略歴

明治四十五年大分県に生まれる。昭和十四年広島文理科大学史学科卒業。大分大学助教授、教授を経て、現在別府大学非常勤講師、文学博士。

現住所―870 大分市大石町四―三

主要編著書　大分県史料（共編）、大分県の歴史、増訂畿内庄園の基礎構造、大和国若槻庄史料一～四（共編）、豊後国大野荘史料、増訂豊後大友氏の研究、豊後国田染荘田原別符史料、豊後国来縄郡・小野荘・草地荘・都甲荘・真玉荘・臼野荘・香々地荘史料、豊後国国東郷・竹田津荘・伊美荘・岐部荘・姫島・武蔵郷史料、豊後国安岐郷・八坂（上下・新）荘・山香郷史料、豊後国日出荘・大神・藤原荘・朝見郷・石垣荘（同別符）・竈門荘・由布院史料、豊後国荏隈郷・勝津留・笠和郷・賀来荘・阿南荘史料、豊後国次荘・津守荘（同勾保）・戸積田荘・丹生津留畠地・高田荘・史料、毛井村・大佐井郷・小佐井郷史料、豊後国佐賀郷・丹生荘・臼杵荘・佐伯荘・柴山村史料、

『別府大学史料叢書第一期』

豊後国
荘園公領史料集成七（上）

豊後国大野荘・三重郷・野津院・井田郷史料

平成四年八月三十一日発行

編者　渡辺澄夫

発行所　別府大学附属図書館
別府市北石垣八二番地
郵便番号　八七四―〇一
電話〇九七七―（六七）―〇一〇一（代表）

発行者　附属図書館長
倉田紘文

印刷　佐伯印刷株式会社
大分市古国府十一組
電話〇九七五―（四三）―一二一一